

北区
十条台遺跡群Ⅲ

—十条地区沿道一体整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査—



2023・3

東京都埋蔵文化財センター

北区
十条台遺跡群Ⅲ

—十条地区沿道一体整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査—



2023・3

東京都埋蔵文化財センター

十条台遺跡群の調査

遺跡の概要

十条台遺跡群（北区 No.19 遺跡）は、武藏野台地東縁辺部を占める本郷台地北側にある、十条台の崖線付近に立地しています。その範囲は、崖線に沿いに南北約 1.8km、東西約 0.7km と広大で、十条台古墳群、亀山遺跡、宿遺跡、南橋遺跡など旧石器時代から近世に至る著名な遺跡が含まれています。今回の調査は十条地区沿道一体整備事業に伴うもので、都市計画道路補助 83 号線（北区中十条一丁目から中十条三丁目）沿いの調査を行いました。東京都埋蔵文化財センターでは、平成 24 年度から現在に至るまで、継続して発掘調査を実施しており、これまでに『十条台遺跡群Ⅰ』、『十条台遺跡群Ⅱ』として発掘調査の成果を報告してきました。

本報告書で掲載するのは、事業区間南側のⅠ期区間未報告分と令和 2 年度までに調査が終了した北側のⅡ期区間の一部、そして両区間の間にあたる「十条富士塚地区」になります。縄文時代から近世以降に至るまで多くの遺構が発見・調査されました。ここでは調査によって発見された遺構・遺物について概略を記述します。

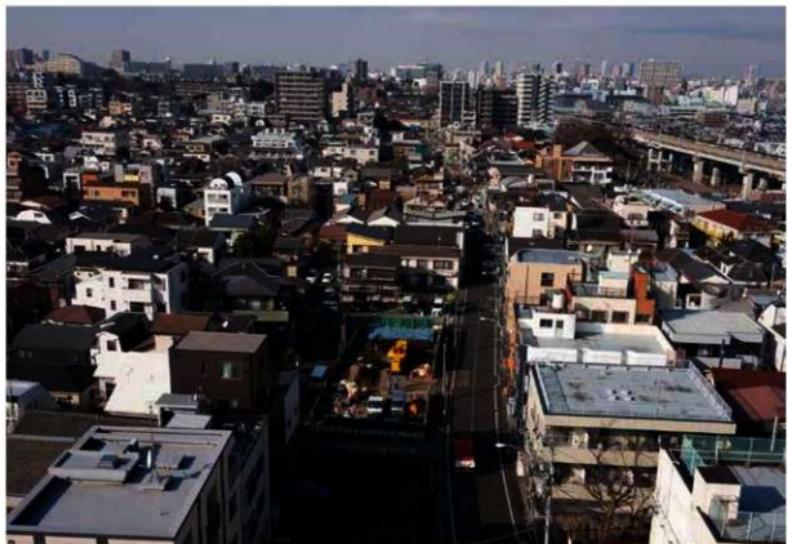


写真 1 十条富士塚地区上空からⅡ期区間を望む

調査の成果

縄文時代

R1-2 区から特徴的な形状の土坑（12号遺構）が検出されました（写真2）。幅の狭く細長い底面で、壁面が途中で開くように立ち上がる形状で、その断面形からTピットとよばれています。残念ながら遺物は出土していませんが、その特徴から十条台遺跡群の北側では検出例の少ない縄文時代の遺構と考えられます。

弥生時代中期後半

20-3～5・8区と20-10・11・14・15区では弥生時代中期後半頃の遺構が検出されました。十条台遺跡群の北側で同時期の遺構の検出例は無く、重要な成果の一つとなります。

25号遺構は20-3～5・8区で検出された溝跡で、長軸9.4m以上、幅2.2m、深さ0.67m、平面形は隅丸長方形、断面形はやや歪な逆台形を呈します。遺構の覆土からは弥生時代中期後半の土器が検出されました（写真5）。溝の西側では、底面に後から孔を開けて甑を作り直した甕が潰れた状態で見つかっています（写真3）。弥生時代中期後半のこの様な溝を伴う遺構として、方形周溝墓の一部である可能性が考えられますが、調査区内で同時期の遺構は検出されていません。また、南側に隣接する20-10・11・14・15区の14号遺構でも同時期の遺物が検出されています。遺構が見つかった二つの調査区はⅡ期区間中央西側に拡がると考えられる谷の低地部に位置しています。この谷低地



写真2 R1-2区 縄文時代の土坑（12号遺構）



写真3 20-3～5・8区 25号遺構遺物出土状況



写真4 20-3～5・8区 25号遺構完掘状況



写真5 20-3～5・8区 弥生時代中期後半の遺物群（25号遺構出土）

部分の調査は今後も進む予定であり、同時期の遺構の検出例増加に期待が持たれます。

弥生時代後期

II期区間内の各調査区と十条富士塚地区では弥生時代後期頃の竪穴住居跡が11軒、竪穴状遺構1基、溝5条、柱穴2基が検出されました。今回の調査により、II期区間内では、同時代の遺構が全体に広がっている様相を捉えることが出来ました。特に十条富士塚地区では、上部を十条富士塚に覆われていたため、遺構が良好な状況で遺されていました。7軒の竪穴住居跡が一部切り合いながらまとまって検出されており、十条台遺跡群の北側の弥生時代後期の集落跡として貴重な成果を得ることが出来ました。（写真6）。これらの住居に暮らしていた人々は、集落を移動する、或いは住居を造り替える際に、祭祀行為を行っていることが調査によって明らかになっています。十条富士塚地区で見つかった竪穴住居跡の5号遺構と6号遺構からは住居の入り口右隣で、赤色の砂粒の集中部が検出されました。「赤砂」と呼ばれるこの赤色砂粒の集中は、主に荒川水系を中心に広がる特徴的な祭祀行為の痕跡で、6号遺構では竪穴住居の周溝上にまで赤砂が広がっていることが確認されました。これは竪穴住居の使用停止後に赤砂を用いた祭祀行為が行われたことを示しており、赤砂を用いた祭祀についての貴重な成果を得ることが出来ました。また、I期区間とII期区間内のこれまでの調査成果では、赤砂を検出した住居は初の事例となりました。この他に、R1-2区の23号遺構では、台付甕の脚台部と甕部分を意図的に打ち欠いて分離し、甕を逆位に据えた跡が検出されました。このような土器を意図的に壊して住居内に配置する行為は同時代の住居跡でも散見され、先述の赤砂を用いた祭祀

とは異なる祭祀行為の確認例となります。

中世・近世

II期区間の都道西側の調査区6地点で中世の道路遺構が検出されました。これまでの調査の成果から、鎌倉街道中ツ道跡と推定されます。今回の調査で検出された総延長は約74mで、II期区間内では、概ね現在の都市計画道路補助83号線と並行しています。この道路遺構はロームを掘り込んだ溝中に、黒色土を充填し、堅固に付き固められた硬化面を構築し、路面としています（写真10）。この路面は後代に複数回改修が行われており、固く締まった硬化面が累積している様子が確認されました。また、溝の最下面では浅く掘り窪めた円形の穴が連続して並んでいる様子が確認できます（写真



写真6 十条富士塚地区 弥生時代後期の住居群完掘状況



写真7 R1-2区 弥生時代後期の住居（23号遺構）



写真8 R1-2区 23号遺構遺物出土状況

9)。この特徴的な構造はⅠ期・Ⅱ期区間で検出された道路遺構で共通し確認されています。

また、この道路遺構を一部壊しながら並行する溝が検出されています（写真9）。この溝は近世につくられた日光御成街道の側溝と推定されています。検出されたのは側溝のみで、日光御成街道の路面は現在の都道下に埋もれており、道路の規模は分かっていませんが、現在の都市計画道路補助83号線が中世の鎌倉街道を起源とし、現代に至るまで道として利用され続けていることが調査によって明らかになりました。

十条富士塚と旧塚

「十条富士塚」は現在も毎年富士山の開山に合わせて6月30日、7月1日「十条富士講」が催され、



写真9 R1-2区 中世の道路遺構完掘状況



写真10 R2-2区 中世の道路硬化面（黒色土部分）



写真11 20-10・11・14・15区 中世の道路遺構完掘状況

地域の人々から「お富士さん」と呼ばれ親しまれており、北区指定有形民俗文化財に登録されています。今回は事業に伴う影響範囲部分の調査を行いました。「十条富士塚」は古くからあった塚を改修して造られたと伝えられており、近くにある十条台古墳群との関連が指摘されていました。発掘調査によって、塚の盛土の堆積状況と盛土に含まれる遺物から、十条富士塚は「近代以降の盛土」、「近世の盛土」、「最初の塚築造時の盛土」の三段階に大別できることが分かりました。近代以降の盛土は十条富士塚の表面を覆っており、盛土中からはレンガや近現代の陶磁器・ガラス製品が出土しており、明治時代以降の改修時に盛られたものと考えられます。この盛土を除去すると黒褐色の土を主体とする塚が検出されました（写真12）。この黒褐色土中には近代の遺物が含まれず、19世紀前半以前の遺物のみが出土します。このため、この塚が近世期に改修をして造られた十条富士塚であり、また、旧来の塚を富士塚に改修した時期を推定する上で重要なデータを得ることが出来ました。旧来の塚の盛土はそれまでと異なる構造で造られており、黒褐色土を多く含む土と、ロームを多く含む土を不連続に積み重ね、一部締固めながら丁寧に土を盛り上げている様子が確認できます（写真13）。この盛土層中からは古墳時代の遺物は出土せず、弥生土器を中心し縄文土器、中世の板碑等が出土しました。また、古墳に伴う埋葬施設や周溝等が検出されなかったことも踏まえ、富士塚前身の旧塚が中世以降に築造されたものと考えられます。また、塚最下面では、塚の下全体で平にならされた黒色土の盛土整地層が検出されました（写真14）。この黒色土面上では馬の下顎骨の一部と馬歯が3カ所で見つかっています。放射性炭素¹⁴C年代測定の結果では13世紀後半から14世紀末頃の結果が出ており、中世期築造の年代観を補強する成果が得られました。

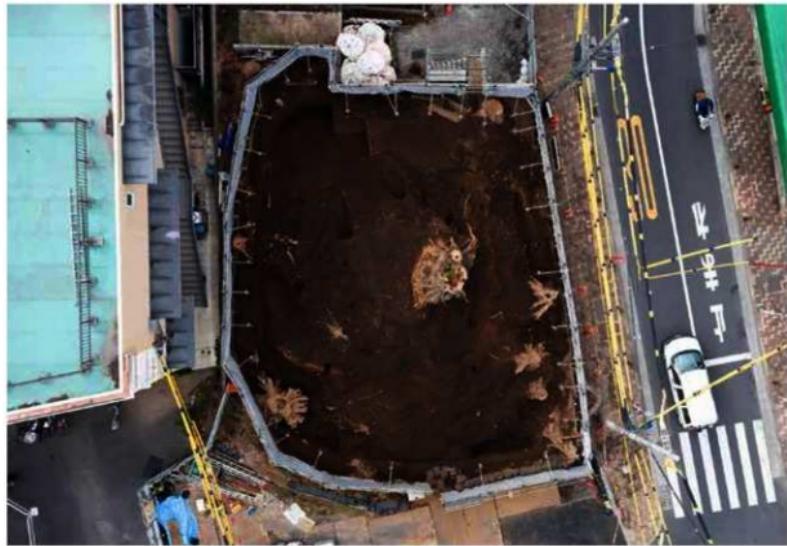


写真12 十条富士塚地区 近世の十条富士塚検出状況（空撮）



写真 13 十条富士塚地区 中世の塚盛土堆積状況



写真 14 十条富士塚地区 塚最下層の盛土整地層棊出状況



写真 15 十条富士塚地区 馬下頸骨出土状況



写真 16 十条富士塚地区 馬歯出土位置

Summary

The Jujodai Sites (Kita-ku, No.19) are a group of ruins occupying Jujodai, which is located at the east end of the Musashino Plateau. Among the sites are the Jujodai tumuli, Shuku site, and Kameyama site, together with ruins and relics from a wide span of time from the Jomon era to Modern times. The zone investigated in the present project is located to the north of the Jujodai sites and has been continuously excavated by the Tokyo Metropolitan Archaeological Center since fiscal 2012.

This survey accompanied the Tokyo Metropolitan Government's road development and renovation project on the Tokyo Auxiliary Route #83, with the investigation point in the range from 2-chome to 3-chome, Naka Jujo, Kita Ward, Tokyo. The area excavated as specified in this report is 4,273.96 square meters. The excavation took place from April 1, 2018, through February 18, 2022.

The investigation revealed ruins and relics dating back mainly to the era from the middle Yayoi period to the late Yayoi period, along with the Middle Ages and the Early Modern period.

First, the strata from the middle Yayoi period to the late Yayoi period revealed the ruins of 11 dwellings, two pit dwelling-type structures, and four grooves. Particularly notable was the Jujo Fujizuka district, which revealed seven pit dwellings, some of which overlapped with each other, demonstrating how people in those days might have lived there while repeatedly building those dwellings. Moreover, Zones 20, 3-5, and 8 revealed ruins and relics from the middle Yayoi period, which are rare among the Jujodai sites.

Next, the excavation findings from the Middle Ages to the Early Modern period revealed the ruins of parts of a road presumed to be of the Kamakura-Kaido Road Nakatsumichi, which was found in multiple investigation districts. In addition, the roadside ditches of the Nikko Onari-Kaido Road from the Early Modern period extended along the ruins of this road. From the survey findings obtained so far, we are beginning to see how they may have developed a road from the Early Modern period, following the example of the Kamakura-Kaido Road from the Middle Ages, and conducted further repairs and renovations, making the Tokyo municipal road look as it does today. Furthermore, Jujo Fujizuka, which had previously been considered to have been constructed by renovating a tumulus, has now been found to have been based on a mound built around the 14th century and to have been used as Fujizuka while being renovated on multiple occasions since the Early Modern period. This mound is adjacent to the ruins of the above-mentioned Kamakura-Kaido Road, and this is an important finding to be used in reproducing the scenery of the region along the Kaido road in the Jujo district in the time from the Middle Ages to the Early Modern period.

From the present investigation, we have obtained—from each era—some results of what the district to the north of the Jujodai sites, very few exhibits of which have been obtained, may have looked like

序　言

東京都北区十条台遺跡群は、東西約 0.7km、南北約 1.8km の広さを持つ広大な遺跡群で、十条台の崖線付近に立地しています。

今回の調査は、東京都都市整備局の委託を受け、十条地区沿道一体整備事業に伴う事前調査として、平成 24 年度から継続して実施しています。

平成 24 年度から平成 30 年度の I 期区間の発掘調査成果については、平成 29 年度と平成 30 年度にそれぞれ「十条台遺跡群 I」「十条台遺跡群 II」として調査報告書を刊行しています。本報告書では 平成 30 年度以降に調査を行った I 期区間と平成 30 年度から令和 2 年度に調査を行った II 期区間、十条富士塚地区の発掘調査報告にあたります。

今回の発掘調査を行った各調査区からは、縄文時代から近世にかけての遺構・遺物が調査されました。特に「十条富士塚地区」の調査では、十条富士塚が中世以降に造られた塚を基にして築造され、その後、複数回に亘る改修が行われながら、現在に至るまで受け継がれてきた様子が記録されました。

このような調査成果をまとめた本報告書が、多くの人々に活用され、地域の歴史を解明する資料となることを期待し、埋蔵文化財に対する都民の皆様の御关心と御理解を深めていただくことができれば幸いです。

本調査報告書の刊行にあたり、ご協力とご指導をいただきました東京都都市整備局、東京都教育委員会、東京都北区教育委員会に厚く御礼申し上げるとともに、ご教示いただきました研究者の皆様と、調査にご協力頂いた地域住民の皆様方に心より感謝いたします。

令和 5 年 3 月

公益財団法人 東京都スポーツ文化事業団
理事長 梶本 雅人

例　言

- 1 本書は、都市計画道路補助第 83 号線の整備事業（十条地区沿道一体整備事業）に伴う十条台遺跡群（北区Na 19 遺跡）の発掘調査報告Ⅲ（東京都埋蔵文化財センター調査報告第 373 集）である。
- 2 発掘調査事業は東京都都市整備局の委託を受け、公益財団法人東京都スポーツ文化事業団東京都埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 都市計画道路補助第 83 号線の整備事業（十条地区沿道一体整備事業）に伴う十条台遺跡群の埋蔵文化財発掘調査はⅠ期区間・Ⅱ期区間・十条富士塚地区に分けられている。今回の報告は平成 31 年度に調査を行ったⅠ期区間及び、平成 30 年度から令和 2 年度にかけて実施したⅡ期区間と十条富士塚地区の発掘調査報告である。平成 31 年度にⅠ期区間調査は完了し、Ⅱ期区間は現在も継続して実施しており、令和 3 年度以降のⅡ期区間調査については、別の報告として扱う。
- 4 十条台遺跡群の発掘調査は、過去に北区教育委員会や北区教育委員会の指導による調査組織によって実施されており、本報告では年次ごとに十条台遺跡群の〇次調査とはせず、十条地区沿道一体整備事業調査区として一括して、工区の南側から北側の調査区を報告する。
- 5 遺跡所在地：東京都北区中十条二丁目から三丁目地内
- 6 調査面積：4,016.96 m²
- 7 調査及び一次整理期間：平成 30 年度　平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日
令和元年度　平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日
令和 2 年度　令和 2 年 4 月 1 日から令和 3 年 3 月 31 日
令和 3 年度　令和 3 年 4 月 1 日から令和 4 年 3 月 31 日
整理・報告書作成期間：令和 2 年度　令和 2 年 6 月 1 日から 10 月 31 日
令和 3 年度　令和 3 年 4 月 1 日から 7 月 31 日
令和 3 年 9 月 16 日から令和 4 年 3 月 31 日
令和 4 年度　令和 4 年 4 月 1 日から令和 5 年 1 月 13 日
- 8 本事業における事業者との調整事業等は、東京都教育庁地域教育支援部管理課が担当・指導した。

統括課長代理	伊藤 敏行	(平成 30 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日)
課長代理	鈴木 徳子	(令和 2 年 4 月 1 日～令和 5 年 1 月 31 日)
担当学芸員	相原 正人	(平成 30 年 4 月 1 日～令和元年 9 月 30 日)
尾田 譲好	(令和元年 10 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日)	
野口 舞	(令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日)	
山田 和史	(令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日)	
石井香代子	(令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 1 月 31 日)	
- 9 調査担当
東京都埋蔵文化財センター十条分室
調査課課長　西澤 明（平成 30 年 4 月 1 日～令和 5 年 1 月 31 日）
主任調査研究員　武内 啓（平成 30 年 4 月 1 日～令和 5 年 1 月 31 日）

調査研究員 飯塚 武司（平成30年4月1日から平成31年3月31日）
調査研究員 烏崎 瑛美（平成30年4月1日から8月31日）
調査研究員 酒井光一（令和2年2月1日から3月31日）
調査研究員 加藤秀之（令和2年6月1日から令和3年10月31日）
調査協力 古久根建設株式会社 株式会社 Daisan

- 10 本報告書の執筆はII-1 地理的環境については加藤が担当し、他は武内が担当した。
- 11 本報告書の編集は、武内が行った。
- 12 出土遺物の分析に関して、下記の方と機間に協力を賜った。
- (1) 出土動物骨の¹⁴C年代分析:(株)パレオ・ラボ
(2) 出土動物遺体分析:帝京大学文化財研究所 植月 学
(公財)山梨文化財研究所 櫻庭隆史
- 13 本報告の概要については、令和元年度から令和4年度「東京都埋蔵文化財センター年報」において報告されているが、本書の刊行をもって正式報告とする。
- 14 出土遺物及び発掘調査・整理に関わる図面・写真等記録類は、北区教育委員会で保管している。
- 15 本文用例等
- ・土色及び土器類の表記には、農林水産省農林水産技術会議事務局他監修『新版 標準土色帖』を用い、土色・マンセルノーティション(マンセル表記法)で表した。
 - ・出土遺物の注記記号(遺跡略号)は、Jホ83 以下各調査区 遺物取り上げ番号とした。
 - ・各挿図の縮尺は図中に示した。図中の方位記号は真北を示す。
 - ・挿図中に表記した標高値は、東京湾平均海面(TP)に基づいた標高を示している。
- 16 発掘調査及び整理に関して、下記の方々と機間にご指導・ご協力を賜った。記して、深謝いたします(順不同・敬称略)。
- 石川日出志・牛山英昭・高坂勇佑・鈴木直人・田中葉子・谷川章雄・中島広顕・山口隆太郎
東京都都市整備局市街地整備部 防災都市づくり課・東京都都市整備局 第二市街地整備事務所 事業課・公益財團法人東京都都市づくり公社 沿道まちづくり事務所・東京都教育庁地域教育支援部管理課・東京都北区教育委員会事務局飛鳥山博物館事業係
- 17 遺物観察表に記載した土器類の計測部位などの略号は以下のとおりである。
- A:口径、b:底径、c:器高、d:残存高、e:頸部径、f:胴部最大径、g:その他
- 18 挿図凡例
- ・各挿図中に用いた主なスクリーントーンは以下のとおりで、他は各挿図に凡例を示した。
- | | | | | |
|------|-------|------|------|----|
| 遺構 | 炉跡 | 焼土範囲 | 柱痕 | 撹乱 |
| | | | | |
| 硬化範囲 | 炭化物範囲 | | ローム層 | |
| | | | | |
- 遺物 赤彩
- ・各挿図中で用いた主なドットは以下のとおりである。
- | | | | | | |
|------|------|--------|-----|------|-------|
| ○ 土器 | ★ 石器 | ► 金属製品 | □ 磨 | ▼ 馬齒 | ● 炭化物 |
|------|------|--------|-----|------|-------|

目 次

十条台遺跡群の調査

序言

例言・凡例

I 発掘調査の概要

1 調査に至る経緯	1
2 調査の方法	4
3 調査の経過	6
4 整理作業の経過	8

II 遺跡の位置と環境

地理的環境	9
-------	---

III 層序

IV 各調査区の遺構と遺物

1 2G 区	13
2 十条富士塚地区	15
3 5-3 区	28
4 5-4・16・34・38～40・82～88・106・107・110・112・113 区 (R2-2 区)	29
5 5-6・64～68、70・75・104・105 区 (R1-2 区)	32
6 21-2～4 区 (R2-3 区)	36
7 20-10・11・14・15 区	38
8 20-3～5・8 区	41
9 20-2・13 区	46
10 22-10～13、23-11 区 (R2-1 区)	49
11 24-32 区	51
12 30-9・10・17・20・33・34・53・55・56 区 (R2-4 区)	53
13 23-9、31-18 区	58
14 30-18・19 区	59
15 31-15・16・17 区	60
V 調査の成果と課題	274
引用・参考文献	280
VI 自然科学分析	
放射性炭素年代測定	283
十条富士塚地区出土のウマ遺体	287
写真図版	295
報告書抄録	405

卷頭図目次

写真1	十条富士塚地区上空からⅡ期区間を望む	i
写真2	R1-2区 繩文時代の土坑（12号遺構）	ii
写真3	20-3～5・8区 25号遺構遺物出土状況	ii
写真4	20-3～5・8区 25号遺構完掘状況	ii
写真5	20-3～5・8区 弥生時代中期後半の遺物群（25号遺構出土）	iii
写真6	十条富士塚地区 弥生時代後期の住居群完掘状況	iv
写真7	R1-2区 弥生時代後期の住居（23号遺構）	iv
写真8	R1-2区 23号遺構遺物出土状況	iv
写真9	R1-2区 中世の道路遺構完掘状況	v
写真10	R2-2区 中世の道路硬化面（黒色土部分）	v
写真11	20-10・11・14・15区 中世の道路遺構完掘状況	v
写真12	十条富士塚地区 近世の十条富士塚検出状況（空撮）	vi
写真13	十条富士塚地区 中世の塚盛土堆積状況	vii
写真14	十条富士塚地区 塚最下層の盛土整地層検出状況	vii
写真15	十条富士塚地区 馬下顎骨出土状況	vii
写真16	十条富士塚地区 馬歯出土位置	vii

挿図目次

第1図	遺跡の位置（1/8,000）	2
第2図	調査区区割図（1/2,500）	3
第3図	武藏野台地の地形区分	10
第4図	本郷台周辺の地形区分	11
第5図	明治時代初期の十条周辺	11
第6図	2G区 調査区位置（1/400）	61
第7図	2G区 遺構全体図（1/100）	62
第8図	2G区 基本層序（1/60・1/300）	63
第9図	2G区 近世・近世以降の遺構（1）（1/40）	64
第10図	2G区 近世の遺構（2）（1/40）出土遺物（1/3）	65
第11図	十条富士塚地区 調査区位置（1/40）	66
第12図	十条富士塚地区 遺構全体図（1/200）	67
第13図	十条富士塚保存範囲と立会調査範囲（1/150）	68
第14図	十条富士塚地区 弥生時代の遺構（1）（1/60）	69
第15図	十条富士塚地区 弥生時代の遺構（2）（1/60）	70
第16図	十条富士塚地区 弥生時代の遺構（3）（1/60）	71
第17図	十条富士塚地区 弥生時代の遺構（4）（1/30）	72
第18図	十条富士塚地区 弥生時代の遺構（5）（1/30）	73
第19図	十条富士塚地区 弥生時代の遺構（6）（1/60・1/40）	74
第20図	十条富士塚地区 弥生時代の遺構（7）（1/60）	75

第 21 図	十条富士塚地区	弥生時代の遺構（8）（1/60）	76
第 22 図	十条富士塚地区	弥生時代の遺構（9）（1/30・1/40）	77
第 23 図	十条富士塚地区	弥生時代の遺構（10）（1/60）	78
第 24 図	十条富士塚地区	弥生時代の遺構（11）（1/60）	79
第 25 図	十条富士塚地区	弥生時代の遺構（12）（1/30・1/60）	80
第 26 図	十条富士塚地区	弥生時代の遺構（13）（1/60）	81
第 27 図	十条富士塚地区	弥生時代の遺構（14）（1/60・1/30）	82
第 28 図	十条富士塚地区	弥生時代の遺構（15）（1/30・1/60）	83
第 29 図	十条富士塚地区	弥生時代の遺構（16）（1/60）	84
第 30 図	十条富士塚地区	古代～中世の遺構（1）（1/100）	85
第 31 図	十条富士塚地区	古代～中世の遺構（2）（1/100）	86
第 32 図	十条富士塚地区	古代～中世の遺構（3）（1/40）	87
第 33 図	十条富士塚地区	中世以降の遺構（1）（1/100）	88
第 34 図	十条富士塚地区	中世以降の遺構（2）（1/40）	89
第 35 図	十条富士塚地区	中世以降の遺構（3）（1/40）	90
第 36 図	十条富士塚地区	中世以降の遺構（4）（1/40）	91
第 37 図	十条富士塚地区	中世以降の遺構（5）（1/40）	92
第 38 図	十条富士塚地区	中世以降の遺構（6）（1/100）	96
第 39 図	十条富士塚地区	中世以降の遺構（7）（1/150）	97
第 40 図	十条富士塚地区	中世以降の遺構（8）（1/150）	98
第 41 図	十条富士塚地区	中世以降の遺構（9）（1/10）	99
第 42 図	十条富士塚地区	中世以降の遺構（10）（1/40）	100
第 43 図	十条富士塚地区	中世以降の遺構（11）（1/60）	101
第 44 図	十条富士塚地区	近世の遺構（1）（1/80・1/40）	103
第 45 図	十条富士塚地区	出土遺物（1）（1/3・1/4）	104
第 46 図	十条富士塚地区	出土遺物（2）（1/3・1/4）	105
第 47 図	十条富士塚地区	出土遺物（3）（1/3・1/4）	106
第 48 図	十条富士塚地区	出土遺物（4）（1/3・1/4）	107
第 49 図	十条富士塚地区	出土遺物（5）（1/3・1/4）	108
第 50 図	十条富士塚地区	出土遺物（6）（1/3）	109
第 51 図	十条富士塚地区	出土遺物（7）（1/3）	110
第 52 図	十条富士塚地区	出土遺物（8）（1/4）	111
第 53 図	十条富士塚地区	出土遺物（9）（1/3・1/4）	112
第 54 図	十条富士塚地区	出土遺物（10）（1/3・1/4）	113
第 55 図	十条富士塚地区	出土遺物（11）（1/3）	114
第 56 図	十条富士塚地区	出土遺物（12）（1/3・1/2）	115
第 57 図	十条富士塚地区	出土遺物（13）（1/3）	116
第 58 図	5-3 区	調査区位置（1/400）	117
第 59 図	5-3 区	遺構全体図（1/100）	118
第 60 図	5-3 区	基本層序（1/60・1/150）	119
第 61 図	5-3 区	中世・近世の遺構（1/60・1/40）・出土遺物（1/3）	120
第 62 図	R2-2 区	調査区位置（1/400）	121

第 63 図	R2-2 区	遺構全体図 (1/150)	122
第 64 図	R2-2 区	基本層序 (1) (1/60・1/300)	123
第 65 図	R2-2 区	基本層序 (2) (1/60・1/40)	124
第 66 図	R2-2 区	縄文時代以降・弥生時代・古代から中世の遺構 (1/40)	125
第 67 図	R2-2 区	中世から近世の遺構 (1) (1/40)	126
第 68 図	R2-2 区	中世から近世の遺構 (2) (1/40)	127
第 69 図	R2-2 区	中世から近世の遺構 (3) (1/40)	128
第 70 図	R2-2 区	中世から近世の遺構 (4) (1/40)	129
第 71 図	R2-2 区	中世から近世の遺構 (5) (1/40)	130
第 72 図	R2-2 区	近世の遺構 (1) (1/40)	131
第 73 図	R2-2 区	近世の遺構 (2) (1/40)	132
第 74 図	R2-2 区	近世の遺構 (3) (1/40)・出土遺物 (1/3・1/4)	133
第 75 図	R1-2 区	調査区位置 (1/400)	134
第 76 図	R1-2 区	遺構全体図 (1/200)	135
第 77 図	R1-2 区	基本層序 (1) (1/60)	136
第 78 図	R1-2 区	基本層序 (2) (1/60)	137
第 79 図	R1-2 区	縄文時代の遺構 (1/40)	140
第 80 図	R1-2 区	弥生時代の遺構 (1) (1/30・1/60)	141
第 81 図	R1-2 区	弥生時代の遺構 (2) (1/30)	142
第 82 図	R1-2 区	弥生時代の遺構 (3) (1/30・1/60)	143
第 83 図	R1-2 区	古墳時代以降の遺構 (1/40)	144
第 84 図	R1-2 区	中世から近世の遺構 (1) (1/40・1/80・1/150)	145
第 85 図	R1-2 区	中世から近世の遺構 (2) (1/40)	147
第 86 図	R1-2 区	近世の遺構 (1) (1/40)	149
第 87 図	R1-2 区	近世の遺構 (2) (1/40)	150
第 88 図	R1-2 区	近世の遺構 (3) (1/40)	151
第 89 図	R1-2 区	出土遺物 (1/3・1/4)	152
第 90 図	R2-3 区	調査区位置 (1/400)	153
第 91 図	R2-3 区	遺構全体図 (1/100)	154
第 92 図	R2-3 区	基本層序 (1/60・1/200)	155
第 93 図	R2-3 区	弥生時代の遺構 (1) (1/40)	156
第 94 図	R2-3 区	弥生時代の遺構 (2) (1/40)	157
第 95 図	R2-3 区	近世の遺構 (1/40)	158
第 96 図	R2-3 区	出土遺物 (1/3・1/4)	159
第 97 図	20-10・11・14・15 区	調査区位置 (1/400)	160
第 98 図	20-10・11・14・15 区	遺構全体図 (1/100)	161
第 99 図	20-10・11・14・15 区	基本層序 (1) (1/60・1/200)	162
第 100 図	20-10・11・14・15 区	基本層序 (2) (1/60)	163
第 101 図	20-10・11・14・15 区	弥生時代の遺構 (1/40)	164
第 102 図	20-10・11・14・15 区	中世の遺構 (1) (1/40)	165
第 103 図	20-10・11・14・15 区	中世の遺構 (2) (1/40・1/60)	166
第 104 図	20-10・11・14・15 区	中世の遺構 (3) (1/40)	167

第105図	20-10・11・14・15区	中世の遺構（4）（1/40・1/80）	168
第106図	20-10・11・14・15区	近世の遺構（1/40）	169
第107図	20-10・11・14・15区	出土遺物（1/3・1/4）	170
第108図	20-3～5・8区	調査区位置（1/400）	171
第109図	20-3～5・8区	遺構全体図（1/150）	172
第110図	20-3～5・8区	基本層序（1）（1/60・1/250）	173
第111図	20-3～5・8区	基本層序（2）（1/60）	174
第112図	20-3～5・8区	弥生時代の遺構（1）（1/60）	175
第113図	20-3～5・8区	弥生時代の遺構（2）（1/10・1/60）	176
第114図	20-3～5・8区	中世の遺構（1）（1/40・1/80）	177
第115図	20-3～5・8区	中世の遺構（2）（1/80）	178
第116図	20-3～5・8区	中世の遺構（3）（1/40）近世の遺構（1）（1/40）	179
第117図	20-3～5・8区	近世の遺構（2）（1/40）	180
第118図	20-3～5・8区	近世の遺構（3）（1/40）	181
第119図	20-3～5・8区	近世の遺構（4）（1/40）	182
第120図	20-3～5・8区	近世の遺構（5）（1/40）	183
第121図	20-3～5・8区	出土遺物（1）（1/2・1/3）	184
第122図	20-3～5・8区	出土遺物（2）（1/3・1/4）	185
第123図	20-3～5・8区	出土遺物（3）（1/3・1/4）	186
第124図	20-2・13区	調査区位置（1/400）	187
第125図	20-2・13区	遺構全体図（1/150）	188
第126図	20-2・13区	基本層序（1）（1/60・1/200）	189
第127図	20-2・13区	基本層序（2）（1/60）	190
第128図	20-2・13区	弥生時代の遺構（1）（1/40・1/60）	192
第129図	20-2・13区	弥生時代の遺構（2）（1/30・1/60）	193
第130図	20-2・13区	弥生時代の遺構（3）（1/60）	194
第131図	20-2・13区	弥生時代から古代の遺構（1/40・1/60）	195
第132図	20-2・13区	中世の遺構（1/40）	196
第133図	20-2・13区	近世の遺構（1）（1/40）	197
第134図	20-2・13区	近世の遺構（2）（1/40・1/60）	198
第135図	20-2・13区	近世の遺構（3）（1/40・1/60）	199
第136図	20-2・13区	近世の遺構（4）（1/40）	200
第137図	20-2・13区	近世の遺構（5）（1/40）	201
第138図	20-2・13区	出土遺物（1/2・1/3・1/4）	202
第139図	R2-1区	調査区位置（1/400）	203
第140図	R2-1区	遺構全体図（1/150）	204
第141図	R2-1区	基本層序（1/60・1/300）	205
第142図	R2-1区	近世の遺構（1）（1/40）	206
第143図	R2-1区	近世の遺構（2）（1/40）	207
第144図	R2-1区	出土遺物（1/3）	208
第145図	24-32区	調査区位置（1/400）	209
第146図	24-32区	遺構全体図（1/100）	210

第147図	24-32区	基本層序（1）（1/60・1/200）	211
第148図	24-32区	弥生時代の遺構（1）（1/60）	213
第149図	24-32区	弥生時代の遺構（2）（1/40・1/60）	214
第150図	24-32区	近世の遺構（1）（1/40）	215
第151図	24-32区	近世の遺構（2）（1/40・1/60）	216
第152図	24-32区	出土遺物（1/3・1/4）	218
第153図	R2-4区	調査区位置（1/400）	219
第154図	R2-4区	遺構全体図（1/200）	220
第155図	R2-4区	基本層序（1）（1/60・1/400）	221
第156図	R2-4区	基本層序（2）（1/40・1/60）	222
第157図	R2-4区	縄文時代・弥生時代の遺構（1）（1/40）	225
第158図	R2-4区	弥生時代の遺構（2）（1/40・1/60）	226
第159図	R2-4区	弥生時代の遺構（3）（1/40）	227
第160図	R2-4区	近世の遺構（1）（1/40）	228
第161図	R2-4区	近世の遺構（2）（1/40）	229
第162図	R2-4区	近世の遺構（3）（1/40・1/150）	230
第163図	R2-4区	近世の遺構（4）（1/40・1/150）	231
第164図	R2-4区	近世の遺構（5）（1/40・1/150）	232
第165図	R2-4区	近世の遺構（6）（1/40・1/80）	233
第166図	R2-4区	近世の遺構（7）（1/40・1/80）	234
第167図	R2-4区	近世の遺構（8）（1/40）	235
第168図	R2-4区	近世以降の遺構（1）（1/40）	236
第169図	R2-4区	出土遺物（1）（1/3）	239
第170図	R2-4区	出土遺物（2）（1/3・1/4）	240
第171図	23-9、31-18区	調査区位置（1/400）	241
第172図	23-9、31-18区	遺構全体図（1/100）	242
第173図	23-9、31-18区	基本層序（1/60・1/200）	243
第174図	23-9、31-18区	近世の遺構（1/40）・出土遺物（1/3）	244
第175図	30-18・19区	調査区位置（1/400）	245
第176図	30-18・19区	遺構全体図（1/100）	246
第177図	30-18・19区	基本層序（1/60・1/100）	247
第178図	30-18・19区	近世の遺構（1）（1/40・1/60）	248
第179図	30-18・19区	近世の遺構（2）（1/60）・出土遺物（1/2・1/3・1/4）	249
第180図	31-15・16・17区	調査区位置（1/400）	250
第181図	31-15・16・17区	遺構全体図（1/150）	251
第182図	31-15・16・17区	基本層序（1）（1/60・1/300）	252
第183図	31-15・16・17区	基本層序（2）（1/60）	253
第184図	31-15・16・17区	近世の遺構（1/60）・出土遺物（1）（1/3）	254
第185図	31-15・16・17区	出土遺物（2）（1/2・1/3・1/4）	255
第186図	II期区間	弥生時代の遺構分布（1/1,000・1/4,000）	275
第187図	II期区間	中世から近世の道路関連遺構（1/1,000・1/4,000）	277
第188図		再建工事前の十条富士塚の構造	281

表 目 次

第1表	発掘調査・整理作業工程表	5
第2表	遺構観察表（1）	256
	遺構観察表（2）	257
	遺構観察表（3）	258
	遺構観察表（4）	259
第3表	中世以前の遺物観察表（1）	260
	中世以前の遺物観察表（2）	261
	中世以前の遺物観察表（3）	262
	中世以前の遺物観察表（4）	263
	中世以前の遺物観察表（5）	264
	中世以前の遺物観察表（6）	265
	中世以前の遺物観察表（7）	266
	中世以前の遺物観察表（8）	267
	中世以前の遺物観察表（9）	268
	中世以前の遺物観察表（10）	269
	中世以前の遺物観察表（11）	270
第4表	近世の遺物観察表（1）	271
	近世の遺物観察表（2）	272
	近世の遺物観察表（2）	273

別 表 目 次

別表1	測定資料及び処理	283
別表2	コラーゲン抽出の結果一覧表	284
別表3	放射性炭素年代測定および 暦年較正の結果	284
別表4	同定結果	289

別 図 目 次

別図1	暦年較正結果	285
-----	--------	-----

写 真 目 次

写真1	近世の十条富士塚とその周辺	279
写真2	上十条村と下十条村の境界位置	279
写真3	昭和8年以前の十条富士塚	279
写真4	昭和37年頃の十条富士塚	279
写真5	工事前の十条富士塚	279
写真6	馬骨1・2写真	290
写真7	馬骨3写真	290

図 版 目 次

2G 区

- 図版 1 1. 調査区北側完掘全景 295
(南東から)

2. 調査区南東側完掘全景 (北西から)

- 図版 2 1. 調査区南西側完掘全景 296
(北西から)

2. 北壁土層断面 A (北側) (南から)

3. 南壁土層断面 E (南西側) (北から)

4. 西壁土層断面 F (南西側) (北東から)

5. 北壁土層断面 G (南西側) (南から)

- 図版 3 1. 3号遺構完掘 (南から) 297

2. 3号遺構完掘 (西から)

3. 3号遺構土層断面 A・A' (南から)

4. 3号遺構土層断面 B・B' (南から)

5. 3号遺構土層断面 C・C' (北から)

6. 1号遺構完掘 (西から)

7. 4号遺構土層断面 (東から)

8. 4号遺構完掘 (西から)

- 図版 4 1. 5号遺構土層断面 (北から) 298

2. 5号遺構完掘 (北から)

3. 6号遺構土層断面 (東から)

4. 6号遺構完掘 (東から)

5. 7号遺構土層断面 (北から)

6. 7号遺構完掘 (北から)

7. 8号遺構土層断面 (南から)

8. 8号遺構完掘 (東から)

十条富士塚地区

- 図版 5 1. 石碑移設前の富士塚 299
(樹木伐採後) (北東から)

2. 山頂部 近世盛土直上遺物出土状況 1
(東から)

3. 山頂部 近世盛土直上寛永通宝 (文銭)
出土状況 (東から)

4. 切株下 板碑出土状況 (東から)

5. 富士塚西側 近代盛土層中出土の鳥居部
材 (南東から)

- 図版 6 1. 山頂部盛土地盤土層断面 D 300
(南から)

2. 石碑裏込部土層断面 (北西から)

3. 近代盛土層断面 A 東側 (南から)

4. 近代盛土層断面 A 西側 (南から)

5. 近代盛土層断面 B 南側 (東から)

6. 近代盛土層断面 B 北側 (東から)

7. 近代階段跡検出 (北東から)

8. 近代階段跡土層断面 (北から)

- 図版 7 1. 近世以前の塚検出状況 301
(東から)

2. 中・近世盛土層断面 A 東側 (1) (南から)

3. 中・近世盛土層断面 A 東側 (2) (南から)

4. 中・近世盛土層断面 A 東側 (3) (南から)

5. 中・近世盛土層断面 A 東側 (4) (南から)

- 図版 8 1. 中・近世盛土層断面 A 西側 (1) 302
(南から)

2. 中・近世盛土層断面 A 西側 (2) (南から)

3. 中・近世盛土層断面 B 南側 (1) (東から)

4. 中・近世盛土層断面 B 南側 (2) (東から)

5. 中・近世盛土層断面 B 南側 (3) (東から)

6. 中・近世盛土層断面 B 南側 (4) (東から)

7. 中・近世盛土層断面 B 北側 (1) (東から)

8. 中・近世盛土層断面 B 北側 (2) (東から)

- 図版 9 1. 中・近世盛土層断面 B (3) 303
(東から) (写真結合合成)

2. Aトレンチ土層断面 (南から)

3. Bトレンチ土層断面 (南東から)

4. 土層断面 A 下部分 (南から)

5. 土層断面 A 下部分東側拡大 (南から)

6. 土層断面 Z・Z' 全体 (南東から)

7. 土層断面 Z・Z' 西側 (南から)

- 図版 10 1. 旧塚下部盛土整地層面 304
検出状況 (北東から)

2. 旧塚下部盛土整地層除去状況

(東から)

- 図版 11 1. 旧塚盛土層下部近世遺物 305
出土状況 (北東から)

2. 小動物巢穴完掘 (南から)

3. 盛土整地層直上馬齒 2 出土状況

(南西から)

4. 盛土整地層直上馬齒 1 出土状況 (東から)

5. 馬齒 I・2 出土層位状況（南東から）
 6. 馬齒 I・2 出土層位状況（南から）
 7. 盛土整地層直上馬齒 3 出土状況
 （南西から）
 8. 盛土整地層土製勾玉出土状況（東から）
- 図版 12 1. 調査区（中世以前）完掘全景 ··· 306
 （東から）
 2. 調査区南西側完掘全景（南西から）
- 図版 13 1. 都道側地点完掘全景（南から）··· 307
 2. 都道側地点完掘全景（北西から）
- 図版 14 1. 5号遺構完掘（南東から）··· 308
 2. 5号遺構土層断面 A-A'（東から）
 3. 5号遺構土層断面 B-B'（南から）
 4. 5号遺構 P 1 完掘（南から）
 5. 5号遺構 P 2 完掘（南から）
- 図版 15 1. 5号遺構 P 3 完掘（南から）··· 309
 2. 5号遺構 P 4 完掘（南から）
 3. 5号遺構炉完掘（南から）
 4. 5号遺構赤砂検出状況（西から）
 5. 5号遺構 P 5・P 6 完掘（南から）
 6. 5号遺構 P 8 土層断面（南から）
 7. 5号遺構 P 8 完掘（南から）
 8. 5号遺構 P 9 土層断面（南から）
 9. 5号遺構 P 9 完掘（南から）
 10. 5号遺構 P 10 土層断面（南から）
 11. 5号遺構 P 10 完掘（南から）
- 図版 16 1. 4号遺構完掘（東から）··· 310
 2. 4号遺構 P 1 完掘（東から）
 3. 4号遺構 P 2 完掘（東から）
 4. 4号遺構 P 3 完掘（東から）
 5. 4号遺構 P 4 完掘（東から）
- 図版 17 1. 4号遺構土層断面 A-A' ··· 311
 （南から）
 2. 4号遺構土層断面 B-B'（東から）
 3. 4号・5号・9号遺構完掘状況（南から）
 4. 4号・9号遺構土層断面 A-A'
 切り合い状況（南から）
 5. 9号遺構完掘（南から）
- 図版 18 1. 9号遺構土層断面 A-A' ··· 312
 （南から）
 2. 9号遺構炉完掘（南から）
 3. 9号遺構 P 1 完掘（南から）
- 図版 19 4. 9号遺構 P 2 完掘（南から）
 5. 9号遺構 P 3 完掘（北から）
 6. 9号遺構 P 6 完掘（北から）
 7. 9号遺構 P 4 完掘（南から）
 8. 9号遺構 P 5 完掘（南から）
- 図版 20 1. 6号遺構完掘（南から）··· 313
 2. 6号遺構土層断面 A-A'（東から）
 3. 6号遺構土層断面 B-B'（南から）
 4. 6号遺構 P 1 土層断面（南から）
 5. 6号遺構 P 1 完掘（南から）
- 図版 21 1. 6号遺構 P 2 完掘（南から）··· 314
 2. 6号遺構 P 3 完掘（東から）
 3. 6号遺構赤砂検出状況（南から）
 4. 6号遺構赤砂 1 拡大（南から）
 5. 6号遺構赤砂 1 遺物出土状況
 （南西から）
 6. 6号遺構赤砂 1 土層断面（南西から）
 7. 6号遺構赤砂 2 土層断面（南から）
 8. 6号遺構土製赤彩勾玉出土状況
 （北から）
- 図版 22 1. 7号遺構掘り方完掘 ··· 315
 （北西から）
 2. 7号遺構土層断面 A-A'（東から）
 3. 7号遺構土層断面 B-B' 東側
 （南東から）
 4. 7号遺構炉跡検出状況（南から）
 5. 7号遺構炉跡掘り方土層断面 E-E'
 （北東から）
- 図版 23 1. 7号遺構炉掘り方土層断面 ··· 316
 F-F'（南東から）
 2. 7号遺構 P 1 完掘（南東から）
 3. 7号遺構 P 2 完掘（北から）
 4. 7号遺構 P 3 完掘（南から）
 5. 8号遺構土層 A-A' 断面（南から）
 6. 8号遺構完掘（南東から）
 7. 14号遺構土層断面 A-A'（南から）
 8. 14号遺構完掘（南東から）
- 図版 24 1. 3号遺構硬化面検出状況 ··· 317
 （東から）
 2. 3号遺構東側完掘（東から）
 3. 3号遺構土層断面 A-A'
 （硬化面上まで）（東から）

	4. 3号遺構土層断面B - B' (東から)	(東から)
	5. 3号遺構土層断面C - C' (東から)	
	6. 10号遺構第1硬化面検出状況(南から)	
	7. 10号遺構第2硬化面検出状況(南から)	
図版 24	1. 10号遺構土層断面(南から) ··· 318	
	2. 10号遺構完掘(南から)	
	3. 2号遺構土層断面(北東から)	
	4. 2号遺構完掘(北東から)	図版 31
	5. 13号遺構土層断面(東から)	1. 10号遺構完掘(D地点) ··· 325
	6. 13号遺構完掘(東から)	(北から)
	7. 11号遺構完掘(南西から)	2. 10号遺構硬化面検出状況(D地点)
	8. 12号遺構完掘(西から)	(北から)
5-3区		3. 10号遺構土層断面(D地点)
		(北東から)
図版 25	1. 調査区北側全景(西から) ··· 319	4. 10号遺構土層断面(D地点)
	2. 調査区南側全景(北東から)	(南東から)
図版 26	1. 西壁土層断面A(北側) ··· 320	図版 32
	(東から)	1. 10号遺構硬化面検出状況1 ··· 326
	2. 北壁土層断面B(東側)(南から)	(F地点)(北から)
	3. 南壁土層断面E(東側)(北から)	2. 10号遺構硬化面検出状況2(F地点)
	4. 1号・2号土層断面A-A'(南から)	(北から)
	5. 1-①号遺構完掘(南から)	3. 10号遺構完掘(E地点)(北西から)
	6. 1-②号遺構完掘(北西から)	4. 10号遺構硬化面検出状況(E地点)
	7. 1-②号遺構土層断面(南から)	(北から)
	8. 1-②号遺構完掘(北東から)	5. 10号遺構完掘(D地点)(北から)
図版 27	1. 2号遺構完掘(西から) ··· 321	6. 10号遺構硬化面検出状況(D地点)
	2. 3号遺構土層断面(西から)	(北から)
	3. 3号遺構完掘(南から)	7. 10号遺構完掘(C地点)(北から)
R2-2区		8. 10号遺構硬化面検出状況(C地点)
		(北から)
図版 28	1. A地点全景(南東から) ··· 322	図版 33
	2. C地点全景(北東から)	1. 1号遺構完掘(東から) ··· 327
	3. G地点全景(南東から)	2. 1号遺構土層断面B-B'(東から)
	4. D地点全景(北から)	3. 1号遺構土層断面A-A'(西から)
	5. E地点全景(北から)	4. 2号・9号遺構完掘、10号遺構
図版 29	1. 試掘坑2 ローム層断面(西から) · 323	硬化面検出状況(A地点)(北から)
	2. 北壁土層断面B(南から)	5. 2号・9号、10号遺構完掘(A地点)
	3. 東壁土層断面C(北側)(西から)	(南から)
	4. 東壁土層断面C(中央部)(西から)	図版 34
	5. 東壁土層断面C(南側)(西から)	1. 2号・9号、10号遺構土層断面 · 328
	6. 東壁土層断面D(北側)(西から)	A-A'(A地点)(南から)
	7. 東壁土層断面D(南側)(西から)	2. 2号・9号遺構土層断面(A地点)
	8. 西壁土層断面F(北側)(東から)	(北から)
図版 30	1. 5号遺構完掘(F地点) ··· 324	3. 2号・9号遺構完掘(B地点)(北から)
		4. 2号・9号、10号遺構完掘(C地点)
		(北から)

	5. 2号・9号遺構土層断面D-D'	(B地点)(北から)		2. 23号遺構P2完掘(東から)
	6. 2号・9号遺構土層断面F-F'	(B地点)(北から)		3. 23号遺構P3完掘(東から)
図版35	1. 2号・9号遺構完掘	……… 329	図版42	4. 23号遺構遺物出土状況(西から)
	(D地点)(北東から)			5. 23号遺構掘り方完掘(南から)
	2. 2号・9号遺構土層断面H-H'	(D地点)(北から)		1. 32号遺構完掘(北東から) …… 336
	3. 2号・9号遺構完掘(G地点)(南から)			2. 23号遺構遺物(金属)出土状況 (南東から)
	4. 2号・9号・10号遺構土層断面 基本層断面E(G地点)(北から)			3. 1号遺構完掘(南から)
図版36	1. 3号遺構完掘(東から)	……… 330	図版43	4. 3号遺構土層断面A-A'(南から)
	2. 3号遺構土層断面(北から)			5. 3号遺構土層断面K-K'(南から)
	3. 4号遺構完掘(南東から)			1. 3号遺構最終硬化面(南から) …… 337
	4. 4号遺構土層断面(南から)			2. 3号遺構完掘(北から)
	5. 11号遺構完掘(東から)		図版44	1. 3号遺構完掘(南から) …… 338
	6. 12号遺構完掘(北から)			2. 3号遺構土層断面C-C'(東から)
	7. 13号遺構完掘(東から)			3. 3号遺構土層断面E-E'(東から)
	8. 13号遺構土層断面(北から)			4. 3号遺構土層断面P-P'付け足し (南から)
R1-2区				5. 3号遺構土層断面Q-Q'(東から)
図版37	1. 南側1回目全景(北から)	……… 331	図版45	1. 17号・18号遺構土層断面 (西から) …… 339
	2. 1号遺構完掘(南から)			2. 17号遺構完掘(東から)
図版38	1. 北側調査区全景(南から)	……… 332		3. 15号遺構完掘(西から)
	2. 南壁土層断面A-A'(北から)			4. 16号遺構完掘(西から)
	3. 西壁土層断面A-A'(南側)(東から)			5. 4号～11号遺構完掘集合(北から)
	4. 北壁土層断面C-C'(東側)(南から)		R2-3区	
	5. 西壁土層断面(北側)(東から)		図版46	1. 調査区南側全景(北から) …… 340
図版39	1. 北壁土層断面(南から)	……… 333		2. 調査区北側全景(北から)
	2. 東壁土層断面(西から)			3. 調査区中央部全景(南から)
	3. 西壁土層断面(東から)		図版47	1. 1号遺構(右)、2号遺構 (左)完掘(西から) …… 341
	4. 北壁土層断面(南から)			2. 1号遺構完掘(東から)
	5. 東壁土層断面(西から)			3. 1号遺構土層断面(西から)
	6. 12号遺構土層断面(北東から)			4. 1号遺構土層断面(東から)
	7. 12号遺構完掘(北東から)			5. 2号遺構確認状況(調査区南側) (西から)
	8. 12号遺構完掘(南西から)		図版48	1. 2号遺構完掘(調査区南側) (西から) …… 342
図版40	1. 23号遺構完掘(南から)	……… 334		2. 2号遺構完掘(調査区南側)(南から)
	2. 23号遺構土層断面A-A'(東から)			3. 2号遺構遺物出土状況(調査区南側) (西から)
	3. 23号遺構土層断面B-B'(南から)			4. 2号遺構土層断面B-B'(調査区南側) (西から)
	4. 23号遺構跡検出状況(南東から)			
	5. 23号遺構跡掘り方完掘(南から)			
図版41	1. 23号遺構P1土層断面	……… 335		
	E-E'(東から)			

- 図版 49 1. 2号遺構完掘(調査区中央部) ··· 343
(南から)
2. 2号遺構土層断面A - A'
(調査区中央部)(南東から)
- 図版 50 1. 10号遺構完掘(南から) ··· 344
2. 11号遺構完掘(北西から)
3. 12-14号遺構完掘(北から)
4. 2号・16号・17号遺構完掘(北から)
5. 16号遺構土層断面(北から)
6. 16号・17号遺構完掘(北東から)
- 図版 51 1. 3号遺構完掘(西から) ··· 345
2. 4号遺構完掘(東から)
3. 5号遺構(左)、6号遺構(右)完掘
(東から)
4. 5号遺構(左)、6号遺構(右)
土層断面(東から)
5. 7号遺構完掘(南から)
6. 7号遺構土層断面(南から)
7. 8号遺構(左)、9号遺構(右)遺構
完掘(西から)
8. 8号遺構(左)、9号遺構(右)土層
断面(西から)
- 20-10・11・14・15区
- 図版 52 1. 南側調査区完掘全景(東から) ··· 346
2. 南側北側調査区完掘(東から)
3. 北側調査区完掘(西から)
4. 北側調査区完掘(東から)
- 図版 53 1. 南側調査区 西壁土層断面A ··· 347
(東から)
2. 北側調査区 西壁土層断面B(東から)
3. 北側調査区 北壁土層断面C(南から)
4. 南側調査区 東壁土層断面D
(西から)
5. 南側調査区 北壁土層断面E 西側
(南から)
6. 14号遺構検出状況(南西から)
7. 14号遺構完掘(南から)
8. 14号遺構遺物出土状況(南西から)
- 図版 54 1. 4号遺構第1硬化面検出状況 ··· 348
(南から)
2. 4号遺構第2硬化面検出状況(南から)
3. 4号遺構第3硬化面検出状況(南から)
4. 4号遺構第4硬化面検出状況(南から)
5. 4号遺構完掘(南から)
6. 4号遺構土層断面C - C'(北から)
7. 3号遺構第1硬化面検出状況(北から)
8. 3号遺構第2硬化面検出状況(北から)
- 図版 55 1. 3号遺構第3硬化面検出状況 ··· 349
(北から)
2. 3号遺構第4硬化面検出状況(北から)
3. 3号遺構完掘(北から)
4. 3号遺構土層断面A - A'(北から)
5. 1号遺構土層断面(東から)
6. 1号遺構完掘(東から)
7. 2号遺構土層断面(東から)
8. 2号遺構完掘(南から)
- 図版 56 1. 5号・6号遺構土層断面 ··· 350
(南から)
2. 5号・6号遺構完掘(南から)
3. 7号遺構土層断面(南から)
4. 9号遺構土層断面(南から)
5. 8号遺構土層断面(南から)
6. 8号遺構完掘(南から)
7. 10号遺構土層断面(東から)
8. 10号遺構完掘(北から)
- 20-3~5・8区
- 図版 57 1. 調査区北側全景(南から) ··· 351
2. 調査区南側全景(北から)
- 図版 58 1. 調査区南側全景(東から) ··· 352
2. 西壁土層断面A(東から)
3. 北壁土層断面B(南から)
4. 南壁土層断面D 東側(西から)
5. 西壁土層断面E(北から)
- 図版 59 1. 25号遺構完掘(西から) ··· 353
2. 25号遺構土層断面B - B'(西から)
3. 25号遺構土層断面C - C'(西から)
4. 25号遺構遺物出土状況2(南から)
5. 25号遺構遺物出土状況1(西から)
- 図版 60 1. 12号遺構完掘(北から) ··· 354
2. 12号遺構完掘(南側)(北から)
3. 12号遺構土層断面A - A'(南から)
4. 12号遺構土層断面B - B'(南から)
5. 12号遺構第1硬化面(南から)
6. 12号遺構第2硬化面(南から)

7. 12号遺構第3硬化面(南から)	5. 35号遺構完掘南(東から)
8. 12号遺構第4硬化面(南から)	1. 35号遺構ベルト土層断面 ······ 361 (北から)
図版 61 1. 24号遺構完掘(北から) ······ 355	2. 35号遺構P1完掘(東から)
2. 24号遺構土層断面(北から)	3. 35号遺構P2完掘(東から)
3. 27号遺構土層断面(南東から)	4. 35号遺構P5完掘(東から)
4. 27号遺構完掘(南東から)	5. 35号遺構P6土層断面(東から)
5. 6号遺構完掘(西から)	6. 35号遺構P4完掘(東から)
6. 6号遺構土層断面B-B'(西から)	7. 35号遺構P7完掘(東から)
7. 5号遺構完掘(南から)	8. 35号遺構遺物出土状況(南から)
図版 62 1. 1号遺構土層断面(南から) ······ 356	図版 68 1. 25号遺構完掘(西から) ······ 362
2. 1号遺構完掘(南から)	2. 25号遺構完掘(東から)
3. 26号遺構土層断面(西から)	3. 25号遺構土層断面A-A'(東から)
4. 26号遺構完掘(西から)	4. 25号遺構土層断面B-B'(東から)
5. 28号遺構土層断面(南から)	5. 24号遺構硬化面(南西から)
6. 28号遺構完掘(南から)	6. 35号遺構完掘(北から)
7. 29号遺構土層断面(南から)	7. 32号遺構土層断面(東から)
8. 29号遺構完掘(南から)	8. 30号・32号遺構土層断面(北から)
図版 63 1. 7号遺構完掘(西から) ······ 357	図版 69 1. 2号遺構完掘(南から) ······ 363
2. 8号遺構完掘(西から)	2. 2号遺構完掘(南から)
3. 9号遺構完掘(西から)	3. 36号遺構土層断面(東から)
4. 10号遺構完掘(西から)	4. 36号遺構完掘(東から)
5. 14号遺構完掘(北から)	5. 5号遺構土層断面(東から)
6. 15号遺構完掘(北から)	6. 5号遺構完掘(東から)
7. 16号遺構完掘(北から)	7. 8号・9号遺構土層断面(東から)
8. 17号遺構完掘(北から)	8. 8号・9号遺構完掘(東から)
図版 64 1. 18号遺構土層断面(西から) ······ 358	図版 70 1. 43号遺構完掘(南から) ······ 364
2. 18号遺構完掘(西から)	2. 44号遺構完掘(南から)
3. 20号遺構土層断面(北から)	3. 45号遺構完掘(南から)
4. 20号遺構完掘(南から)	4. 58号遺構完掘(東から)
5. 21号遺構土層断面(北から)	5. 60号遺構完掘(北から)
6. 21号遺構完掘(北から)	6. 61号遺構完掘(東から)
7. 30号遺構土層断面(北から)	7. 62号遺構完掘(北から)
8. 30号遺構完掘(北から)	8. 63号遺構完掘(北から)
20-2・13区	9. 40号遺構完掘(西から)
図版 65 1. 北側調査区全景(東から) ······ 359	10. 50号遺構完掘(南から)
2. 北側調査区西側全景(東から)	11. 38号遺構完掘(西から)
3. 北側調査区東側全景(西から)	12. 59号遺構完掘(北から)
4. 南側調査区全景(東から)	13. 51号・52号遺構完掘(北から)
図版 66 1. 西壁土層断面A北側(東から) ······ 360	14. 53号遺構土層断面(北から)
2. 北壁土層断面B東側(南から)	15. 54号遺構土層断面(北から)
3. 北側調査区南壁土層断面D(北から)	16. 67号遺構土層断面(北から)
4. 南壁土層断面E中央部(北から)	

R2-1 区		
図版 71	1. 調査区北側全景（南東から） ··· 365 2. 調査区南側全景（北から）	図版 79 1. 22号遺構硬化面（鎌倉街道跡） ··· 373 検出状況（南から）
図版 72	1. 調査区中央部全景（北から） ··· 366 2. 西壁土層断面 A（北側）（南東から） 3. 北壁土層断面 B（北側）（南から） 4. 西壁土層断面 C（南側）（北東から） 5. 西壁土層断面 C（中央部）（東から）	2. 22号遺構硬化面（鎌倉街道跡） 土層断面 B - B'（南から） 3. 22号遺構（日光御成街道側溝） 土層断面 A - A'（南から） 4. 22号遺構（日光御成街道側溝）完掘 (北から)
図版 73	1. 1号遺構完掘（北から） ··· 367 2. 1号遺構土層断面 A - A'（南から） 3. 1号遺構土層断面 B - B'（南から） 4. 1号遺構土層断面 C - C'（南から） 5. 2号・3号・4号遺構完掘（北から）	R2-4 区
図版 74	1. 2号遺構土層断面（南から） ··· 368 2. 7号遺構完掘（北東から） 3. 5号遺構土層断面（南から） 4. 5号遺構完掘（南東から） 5. 6号遺構土層断面（南から） 6. 6号遺構完掘（南から） 7. 8号遺構土層断面（南から） 8. 8号遺構完掘（西から）	図版 80 1. 調査区北側全景（南から） ··· 374 2. 調査区南側全景（北から）
24-32 区		図版 81 1. 調査区北側 北西部全景 ··· 375 (北東から)
図版 75	1. 調査区西側全景（南から） ··· 369 2. 調査区北東側全景（東から）	2. 試掘坑2ローム層断面（南から） 3. 47号遺構完掘（西から） 4. 47号遺構土層断面（西から） 5. 48号遺構完掘（北から） 6. 48号遺構土層断面（北から） 7. 59号遺構完掘（東から） 8. 59号遺構土層断面（東から）
図版 76	1. 調査区東側全景（北から） ··· 370 2. 西壁土層断面 D（西側）（北東から） 3. 北壁土層断面 E（西側）（南から） 4. 北壁土層断面 F（北東側） (南東から) 5. 南壁土層断面 B（東側）（北から）	図版 82 1. 41号遺構完掘（北から） ··· 376 2. 41号遺構完掘（東から）
図版 77	1. 15号遺構検出状況（南から） ··· 371 2. 15号遺構検出状況（南から）	図版 83 1. 41号遺構土層断面（北西から） ··· 377 2. 41号遺構遺物出土状況（西から） 3. 41号遺構遺物出土状況（北東から） 4. 41号遺構周溝（東から） 5. 41号遺構 P 2 完掘（北東から） 6. 41号遺構 P 2 土層断面（北東から） 7. 41号遺構 P 3 土層断面（北から） 8. 41号遺構掘り方（東から）
図版 78	1. 15号遺構土層断面 A - A' ··· 372 (西側)（南から） 2. 15号遺構土層断面 A - A'（東側） (南から) 3. 15号遺構土層断面 B - B'（南から） 4. 15号遺構土層断面 C - C'（南から） 5. 15号遺構土層断面 D - D'（西から） 6. 15号遺構 P 1 完掘（東から） 7. 15号遺構 P 2 + 9号遺構完掘（南から） 8. 15号遺構 P 3 完掘（東から）	図版 84 1. 46号遺構完掘（南から） ··· 378 2. 46号遺構土層断面（南東から） 3. 46号遺構遺物出土状況（東から） 4. 46号遺構遺物出土状況（南から） 5. 46号遺構掘り方（南から）
		図版 85 1. 40号遺構完掘（西から） ··· 379 2. 40号遺構土層断面（西から） 3. 40号遺構遺物出土状況（西から） 4. 40号遺構遺物出土状況（南東から） 5. 40号遺構遺物出土状況（東から）
		図版 86 1. 26号（右）・27号（左） ··· 380 遺構完掘（南西から）

2. 26号(奥)・27号(手前)遺構土層断面 (北西から)	2. 調査区北側全景(南から)
3. 28号遺構完掘(北から)	図版 92 1. 南壁土層断面C(北から) ···· 386
4. 28号遺構土層断面(北から)	2. 西壁土層断面D(南側)(北東から)
5. 29号遺構完掘(東から)	3. 1号・2号土層断面A-A'(南から)
6. 29号遺構土層断面(東から)	4. 2号・3号土層断面C-C'(南から)
7. 38号遺構完掘(東から)	5. 4号土層断面D-D'(南から)
8. 38号遺構土層断面(東から)	6. 1号遺構完掘(北西から)
図版 87 1. 1号遺構完掘(調査区北側) ··· 381 (南から)	7. 3号遺構完掘(東から)
2. 1号遺構完掘(調査区北側)(北から)	8. 4号遺構完掘(北東から)
3. 1号遺構土層断面A-A' (調査区北側)(南から)	30-18-19区
4. 1号遺構土層断面C-C' (調査区北側)(南から)	図版 93 1. 調査区完掘全景(北から) ···· 387
5. 1号遺構硬化面検出状況(調査区北側) (南西から)	2. 東壁土層断面A(西から)
6. 1号遺構遺物出土状況(南から)	3. 南壁土層断面B(北から)
図版 88 1. 1号遺構完掘(調査区南側) ··· 382 (北から)	4. 1号遺構土層断面A-A'(東から)
2. 1号遺構完掘(調査区南側)(南から)	5. 1号遺構土層断面B-B'(南から)
3. 1号遺構完掘部分(調査区南側) (南から)	図版 94 1. 1号遺構完掘(北から) ···· 388
4. 1号遺構土層断面E-E' (調査区南側)(南から)	2. 2号遺構土層断面(南から)
5. 1号遺構土層断面F-F' (調査区南側)(南から)	3. 2号遺構完掘(西から)
図版 89 1. 37号遺構完掘(北東から) ···· 383	4. 3号遺構土層断面(西から)
2. 37号遺構完掘(東から)	5. 3号遺構完掘(西から)
3. 37号遺構土層断面A-A'(東から)	31-15-16-17区
4. 37号遺構土層断面B-B'(西から)	図版 95 1. 31-15・16区調査区北側全景 ··· 389 (南から)
図版 90 1. 53号遺構完掘(東から) ···· 384	2. 31-15・16区調査区南側全景(南から)
2. 53号遺構土層断面(南から)	図版 96 1. 31-17区全景(北から) ···· 390
3. 54号遺構完掘(東から)	2. 北壁土層断面A(南から)
4. 54号遺構土層断面(東から)	3. 東壁土層断面B(西から)
5. 22号遺構完掘(南から)	4. 西壁土層断面F北側(東から)
6. 22号遺構土層断面(南から)	5. 東壁土層断面D(西から)
7. 23号遺構完掘(西から)	図版 97 1. 西壁土層断面F南側(東から) ··· 391
8. 23号遺構土層断面(南から)	2. 南壁土層断面E(北から)
23-9、31-18区	3. 1号遺構土層断面(西から)
図版 91 1. 調査区南側全景 2号遺構完掘 · 385 (北から)	4. 1号遺構土層断面②(西から)
	5. 1号遺構完掘全景(北西から)
	十条富士塚地区
	図版 98 4号遺構 ······ 392
	9号遺構 3~14
	図版 99 5号遺構 15~25
	6号遺構 26~31
	図版 100 ······ 394

7号遺構	32～38	近世以降の盛土層	18
8号遺構	39	2・1区	
3号遺構	40～50	図版 109	403
図版 101	395	6号遺構	1
1号遺構 盛土整地層	51～58	24・32区	
1号遺構 盛土	59～72	5号遺構	1・3～6
図版 102	396	15号遺構	7
1号遺構 盛土	73～89	表土一括	8
図版 103	397	R2・4区	
1号遺構 盛土	90～110	1号遺構	1～3・10～13
図版 104	398	28号遺構	14
1号遺構 盛土	111～115	37号遺構	27
図版 105	399	40号遺構	30
1号遺構 盛土	135～146	41号遺構	31・32
1号遺構 近現代の盛土	147～149	46号遺構	33・34
5・3区		23・9・31・18区	
図版 106	400	近世以降の盛土層	3・4
1・①号遺構	3・4	30・18・19区	
R2・2区		1号遺構	1～3
4号遺構	1	図版 110	404
5号遺構	2・3	31・15・16・17区	
R1・2区		1号遺構	1・2・5
1号遺構	1・2・5		
3号遺構	6～8		
23号遺構	9～11		
30号遺構	12～15		
R2・3区			
図版 107	401		
2号遺構	1・2		
20・10・11・14・15区			
14号遺構	5・6		
近世以降の盛土層	9・10		
20・3・5・8区			
6号遺構	8・9・11		
12号遺構	13～16		
25号遺構	23～37		
図版 108	402		
23号遺構	38～42・44		
20・2・13区			
25号遺構	4～6		
35号遺構	7～10		
68号遺構	3		

I 発掘調査の概要

1 調査に至る経緯

補助第 83 号線は、北区滝野川二丁目から北区赤羽西三丁目に至る都市計画道路で、道路の幅員を 7 m から 20 m～30 m に拡幅整備する事業である。東京都は、このうち北区中十条一丁目から北区中十条三丁目までの延長 640 m を I 期区間として、国土交通省から平成 21 年 8 月 13 日に都市計画事業の認可を取得、北区中十条二丁目から北区中十条三丁目までの延長 410 m を II 期区間として、国土交通省から都市整備事業の認可を取得し、事業を進めている。

十条台遺跡群（北区 No.19 遺跡）は、十条台の崖線に沿い南北約 1.8 km、東西約 0.7 km の範囲に広がる。事業用地は、十条台遺跡群の遺跡範囲の中央から北側に延びる範囲に計画されている。

I 期区間については、東京都都市整備局第二市街地整備事務所（現、第二市街地整備事務所）から、平成 22 年 7 月 12 日付 22 二区換第 115 号として文化財保護法第 94 条に基づく通知が東京都教育委員会に提出された。東京都教育委員会からの通知文は平成 22 年 7 月 23 日付 22 教地管第 995 号として通知された。十条台遺跡群の構造密度の高さから本調査が必要とされ、東京都都市整備局・東京都教育庁・公益財團法人東京都スポーツ文化事業団の 3 者による協定書が平成 24 年 10 月 22 日付けで締結された。

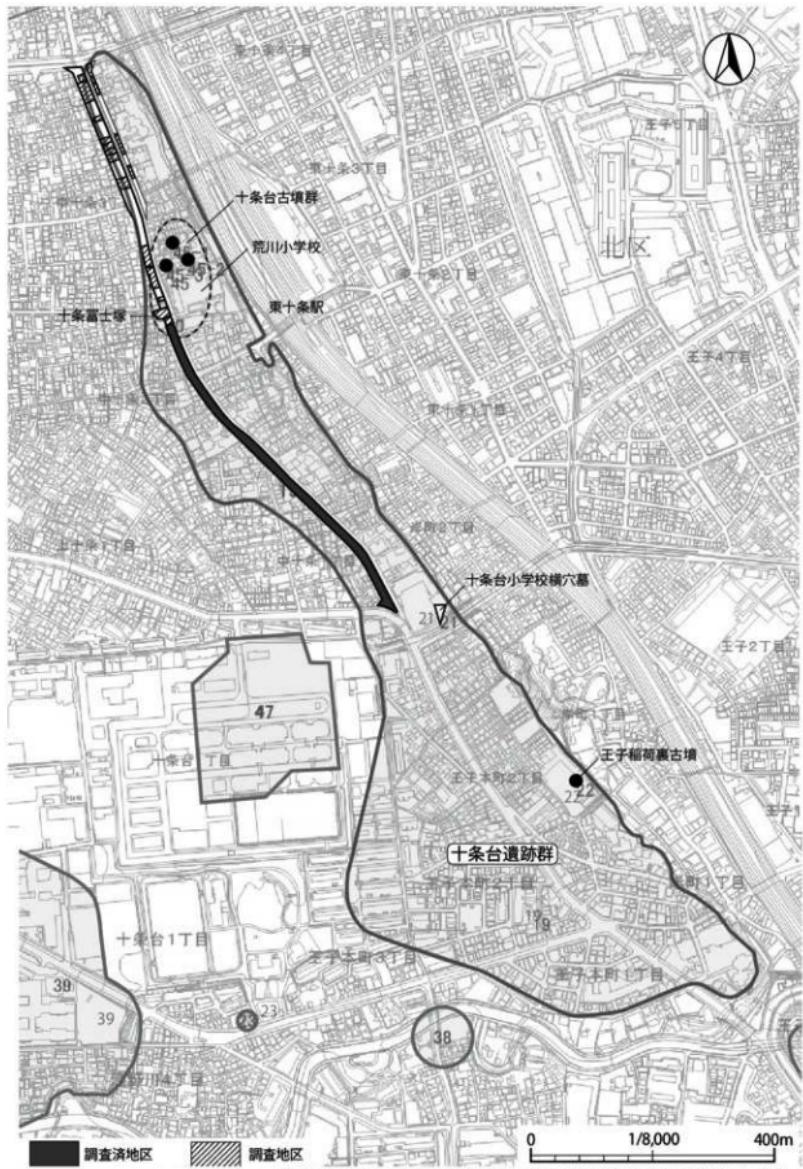
II 期区間については東京都第二市街地整備事務所から、平成 27 年 10 月 30 日付 27 二整事委第 234 号として文化財保護法第 94 条に基づく通知が東京都教育委員会に提出された。東京都教育委員会からの通知文は平成 27 年 11 月 12 日付 27 教地管第 2059 号として通知された。

十条富士塚地区については、東京都第二市街地整備事務所から、令和元年 11 月 15 日付 31 二整事第 363 号として文化財保護法第 94 条に基づく通知が東京都教育委員会に提出された。東京都教育委員会からの通知は令和元年 11 月 29 日付 31 教地管第 3020 号として通知された。十条富士塚地区には東京都北区指定有形民俗文化財の「十条富士塚」が築造されており、調査の実施と「十条富士塚」の保存範囲については北区教育委員会の指示の基、決定された。

I 期区間の発掘調査は、平成 24 年 11 月 1 日から開始され、令和 4 年 2 月 18 日に完了した。II 期の発掘調査は平成 30 年 4 月 1 日から開始され、現在も継続中である。

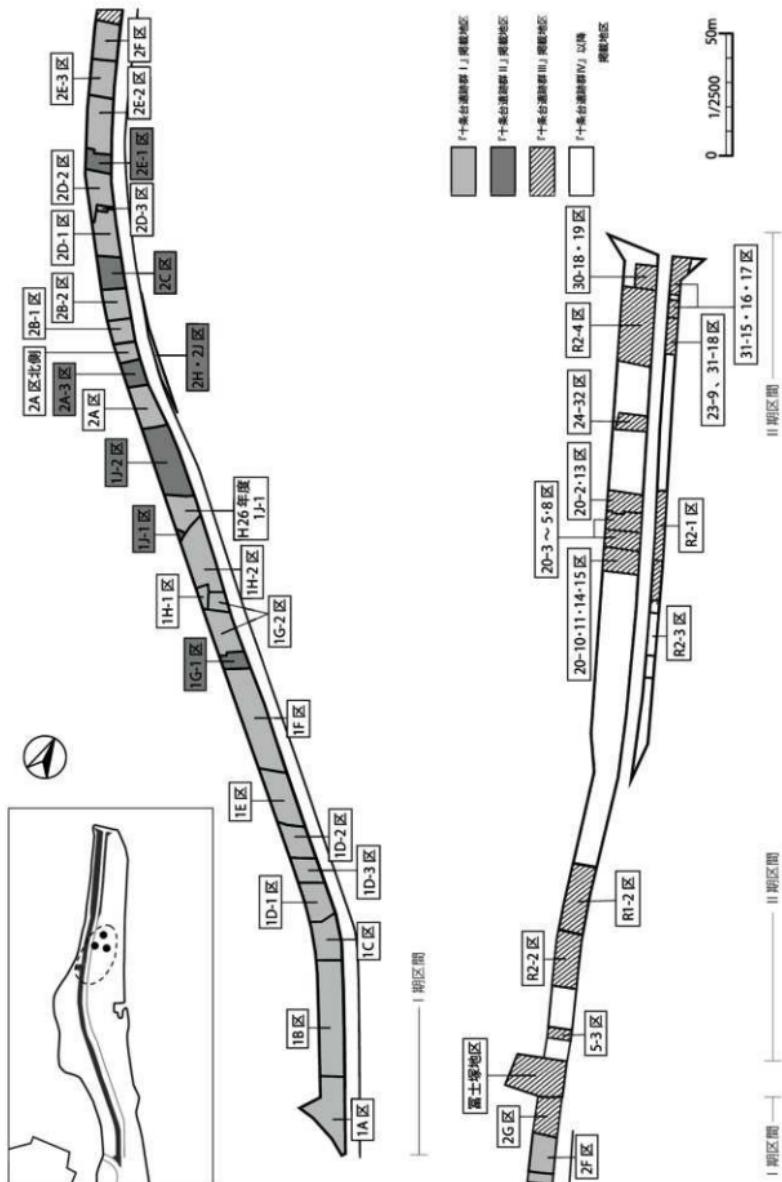
平成 24 年度から平成 28 年度までと、平成 29 年度から平成 30 年度までに実施した第 I 期の発掘調査については、既に『十条台遺跡群 I』『十条台遺跡群 II』としてそれぞれ 2018 年 3 月 31 日付け、2019 年 3 月 31 日付けで報告書を刊行している。今回は、平成 31 年度に実施した I 期区間の発掘調査と平成 30 年度以降に実施した II 期区間の発掘調査を合わせて報告する。

平成 30 年度の発掘調査の届出は平成 30 年 3 月 2 日付 29 号文事理文第 2692 号として北区教育委員会・東京都教育委員会へ提出し、平成 30 年 3 月 12 日付 29 教地管第 3834 号として東京都教育委員会より通知された。平成 30 年度の発掘調査は、I 期区間の残りの調査区と、新たに II 期区間の調査区を合わせて実施した。今回の報告は II 期区間の調査区のうち、平成 30 年 4 月 2 日から同年 5 月 16 日まで発掘調査を行った 30-18・19 区、平成 30 年 5 月 17 日から同年 7 月 31 日まで行つ



第1図 遺跡の位置 (1/8,000)

※基盤地図情報基本項目(国土地理院)を加工して作成。
※道路範囲は、東京都教育委員会「東京都道路地図情報
インターネット提供サービス」による。



第2図 調査区区割図 (1/2,500)

た 31-15・16・17 区、平成 30 年 8 月 1 日から同年 10 月 1 日まで行った 5-3 区、平成 30 年 11 月 1 日から平成 31 年 1 月 18 日まで行った 20-2・13 区、平成 31 年 1 月 16 日から同年 3 月 22 日まで行った 20-10・11・14・15 区の計 5 地点を掲載する。

平成 31 年度の発掘調査の届出は平成 31 年 2 月 28 日付 30 斯文事埋文第 2606 号として北区教育委員会・東京都教育委員会へ提出し、平成 31 年 3 月 8 日付 30 教地管理第 4180 号として東京都教育委員会より通知された。また、一部調査区の変更に伴い、第 1 回追加調査範囲として 20-4 区と 24-32 区について令和元年 10 月 3 日付 31 斯文事埋文第 2298 号として北区教育委員会・東京都教育委員会へ提出し、令和元年 10 月 30 日付 31 教地管理第 2519 号として東京都教育委員会より通知された。更に第 2 回追加調査範囲として 20-3・5・8 区について令和元年 11 月 5 日付 31 斯文事埋文第 2378 号として北区教育委員会・東京都教育委員会へ提出し、令和元年 11 月 29 日付 31 教地管理第 2912 号として東京都教育委員会より通知された。

令和 2 年度の発掘調査の届出は令和 2 年 3 月 2 日付 31 斯文事埋文第 2559 号として北区教育委員会・東京都教育委員会へ提出し、令和 2 年 3 月 17 日付 31 教地管理第 4364 号として東京都教育委員会より通知された。また、十条富士塚地区については令和 2 年 10 月 6 日付 02 斯文事埋文第 2313 号として北区教育委員会・東京都教育委員会へ提出し、令和 2 年 10 月 23 日付 2 教地管理第 2460 号として東京都教育委員会より通知された。

令和 3 年度の発掘調査の届出は令和 3 年 3 月 1 日付 2 斯文事埋文第 2538 号として北区教育委員会・東京都教育委員会へ提出し、令和 3 年 3 月 29 日付 2 教地管理第 4238 号として東京都教育委員会より通知された。令和 3 年度の発掘調査は令和 2 年度から継続した十条富士塚地区とⅡ期区間の調査区 3 地点で実施した。今回の報告では十条富士塚地区を掲載し、残りの調査地点については、『十条台遺跡群Ⅳ』以降に掲載する。

本報告書に掲載する調査区は以下の通りである。

平成 30 年度調査

30-18・19 区、31-15・16・17 区、5-3 区、20-10・11・14・15 区、20-2・13 区。

平成 31 年度調査

2G 区、5-6・64～68・70・75・104・105 区（以降 R1-2 区と略する）、20-3～5・8 区、24-32 区、23-9、31-18 区。

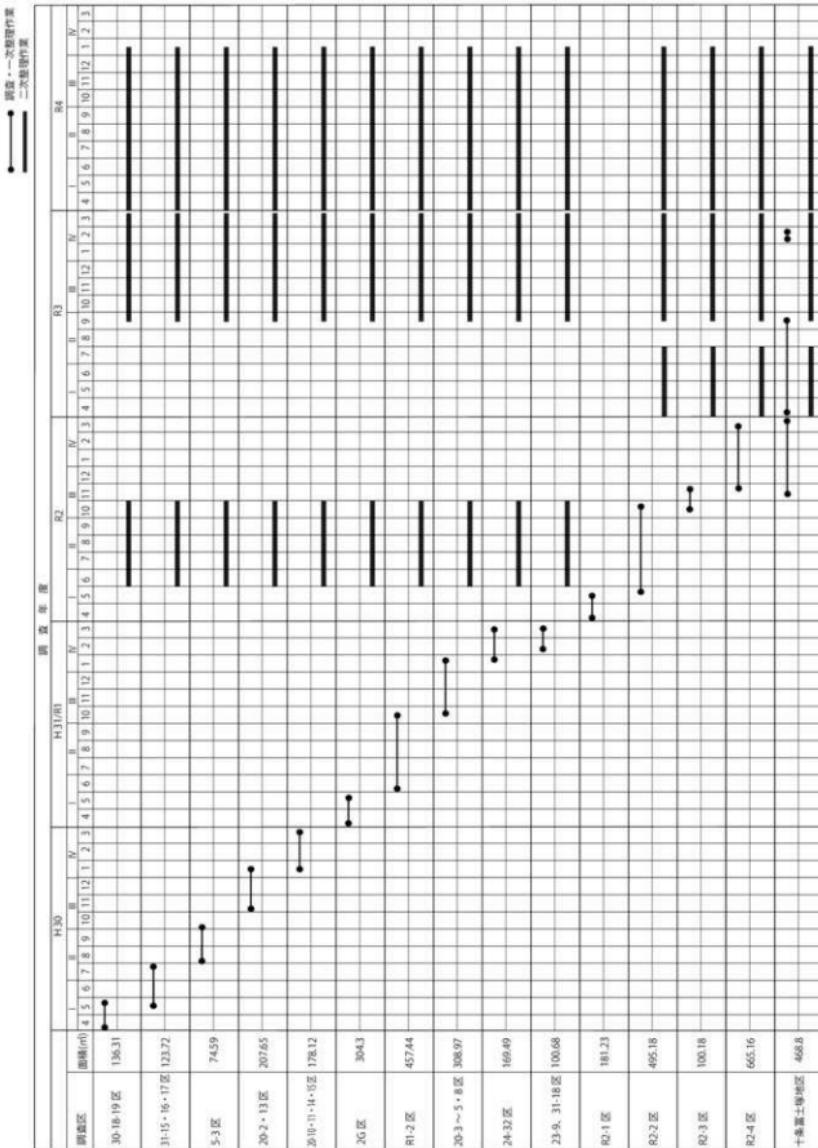
令和 2・3 年度

22-10、13・23-11 区（以降 R2-1 区と略する）、5-4・16・34・38～40・82～88・106・107・110・112・113 区（以降 R2-2 区と略する）、21-2～4 区（以降 R2-3 区と略する）、30-9・10・17・20・33・34・53・55・56 区（以降 R2-4 区と略する）、十条富士塚地区

2 調査の方法

十条台遺跡群は十条台の崖線沿いに立地しており、遺跡の範囲は地形に沿い、南北約 1.8km、東西約 4.6km を測る。今回の十条地区沿道一体整備事業（都道補助 83 号線）に伴う発掘調査は、都道 460 号線の西に沿う形で、調査の進行の状況もあり、遺跡全体を網羅したグリッドの設定は行わず、調査区毎に国土座標に合わせた 2 × 2 m のグリッドを設定し、表記はグリッド番号を設けず、各調査

第1表 発掘調査・整理作業工程表



区で検出された遺構に番号を付け、全体での遺構の通し番号とはしていない。このため調査区を跨る同一遺構についても、その調査区毎に別々の番号を付けている。

各調査区では、その都度調査区全体をガードフェンスで囲い、フェンス上部には防塵シートを設置し、周囲への粉塵の飛散防止のため工事用高圧洗浄機を用いた散水を適宜行なながら、調査を行った。調査着手にあたり、埋設管の位置を確認するための試掘を行い、すでに切断されている埋設管などは除去し、現在も使用されているものについては、現状を傷めないよう、各インフラ関係会社の指導のもと、破損することがないように慎重に調査を進めた。残土については、令和元年度 10 月までの調査については、第 I 期の 1 B 区を残土の仮置き場として発生土を仮置きし、以降は第 II 期の調査が終了した R1-2 区を仮置き場とした。これらの発生土は調査終了後に調査区に戻して現状復旧を行った。

3 調査の経過

本報告で掲載した調査区の調査の経過は下記のとおりである。

平成 30 年度調査（本報告書掲載調査区の調査面積 765.53m²）

30-18・19 区（調査面積 168.84m²：平成 30 年 4 月 2 日から同年 5 月 16 日）

II 期区間の北西端の環状七号線との交差点手前にあたり、地形的には南北に延びる十条台から北側へ下る緩斜面に立地する。調査区北側は調査開始前の建物の基礎により大きく破壊されていた。検出された遺構は近世の土坑 2 基・溝 1 条である。遺物は縄文土器、弥生土器、近世の陶磁器・土器、石製品、銭貨が出土した。

31-15・16・17 区（調査面積 123.72m²：平成 30 年 5 月 17 日から同年 7 月 31 日）

30-18・19 区の道路を挟んだ東側にあたる。地形は 30-18・19 区と同様、北側へ下る緩斜面上に立地する。検出された遺構は、近世の地下式坑の可能性のある土坑 1 基である。遺物は弥生土器、中世の板碑片、近世の陶磁器・土器・瓦、石製品、銭貨が出土した。

5-3 区（調査面積 74.59m²：平成 30 年 8 月 1 日から同年 10 月 1 日）

II 期区間の南端にあたり、十条富士塚とは道路を挟んだ北側に位置する。検出された遺構は、中世の道路遺構 1 条、近世の溝 1 条・柱穴 1 基、近世以降の溝 1 条である。遺物は弥生土器、近世の陶磁器・土器・土製品、金属製品が出土した。

20-2・13 区（調査面積 207.65m²：平成 30 年 11 月 1 日から平成 31 年 1 月 18 日）

II 期区間中央のやや北側に位置する。調査区全体が近代以降の削平の影響を強く受けているが、遺構の遺存状況は比較的良好であった。検出された遺構は弥生時代の竪穴住居跡 1 軒、弥生時代から古代の溝 1 条、中世の道路遺構 1 条・溝 1 条、近世の土坑 4 基・溝 2 条・柱穴 39 基である。遺物は縄文土器、弥生土器、近世の陶磁器・土器、瓦・銭貨が出土した。

20-10・11・14・15 区（調査面積 178.12m²：平成 31 年 1 月 16 日から同年 3 月 22 日）

II 期区間中央やや北側に位置する。検出された遺構は、弥生時代の竪穴状遺構 1 基、中世の道路遺構 1 条・溝 1 条、近世の土坑 3 基・溝 1 条・柱穴 4 基である。遺物は縄文土器、弥生土器、近世の陶磁器・土器・土製品・瓦が出土した。

平成 31 年度（令和元年度）調査（調査面積 1340.88m²）

2G 区（調査面積 304.30m²：平成 31 年 4 月 1 日から同年 5 月 20 日）

I 期区間の北端、十条富士塚の南側に位置する。調査は隣接する住宅の生活道路を確保し、調査区を 3 分割して実施した。調査区は近代以降の住宅、公園造成のため、全体的に攢乱を受けており、ハードローム層より上位の自然堆積層は失われていた。遺構は近世の溝 1 条・土坑 1 基・ピット 4 基、近世以降のピット 1 基が検出された。遺物は弥生土器、近世の陶磁器・土器・土製品、石製品が出土している。

R1-2 区

（調査面積 457.44m²：平成 31 年 6 月 3 日から同年 10 月 18 日）

調査地点は南東から北西に向かって下る斜面地となっており、北西部で近代以降の盛土下から自然堆積層が検出された。遺構は縄文時代の土坑 1 基、弥生時代の竪穴住居跡 1 軒、古墳時代以降の土坑 1 基、中世の道路遺構 1 条、近世の溝 2 条・土坑 3 基・柱穴 13 基、近世以降の耕作面 2 面が検出されている。遺物は縄文土器、弥生土器、中世の陶器、近世の陶磁器・土器・土製品・瓦、金属製品が出土した。

20-3～5・8 区（調査面積 308.97m²：令和元年 10 月 29 日から令和 2 年 1 月 20 日）

発掘調査で 20-4 区と 20-3・5・8 区を連続して行ったため、両調査区を纏めて 20-3～5・8 区とする。20-4 区は令和元年 10 月 29 日より着手し、同年 11 月 27 日に終了した。平成 30 年度に調査した 20-2・13 区の南側に隣接する地点である。北から南に向かって下る斜面地となっている。20-3・5・8 区は令和元年 12 月 9 日に着手し、令和 2 年 1 月 20 日に終了した。前述の 20-4 区と平成 30 年度に調査した 20-10・11・14・15 区の間にあたる。20-4 区から続く斜面地で、南西側で自然堆積層が検出された。遺構は両地区合わせて弥生時代中期の溝 1 条、中世の溝 1 条、近世の溝 2 条・土坑 5 基・柱穴 22 基・ピット 6 基が検出された。このうち、中世の溝は北側 20-2・13 区と南側 20-10・11・14・15 区で検出された遺構と同一遺構である。遺物は縄文土器・石器、弥生土器、須恵器、中世の陶器、近世の陶磁器・土器・土製品、石製品、金属製品等が出土した。

24-32 区（調査面積 169.49m²：令和 2 年 1 月 29 日から同年 3 月 16 日）

調査地点は II 期区間の北側に位置する。検出された遺構は弥生時代後期の竪穴住居跡 1 軒・ピット 1 基、近世の土坑 2 基・溝 1 条・ピット 3 基、近世以降の土坑 2 基・溝 1 条・ピット 7 基である。遺物は弥生土器、須恵器、中世の陶器、近世の陶磁器・土器・石製品が出土した。

23-9、31-18 区（調査面積 100.68m²：令和 2 年 2 月 5 日から同年 3 月 16 日）

II 期区間北東部に位置し、平成 30 年度に調査した 31-17 区の南側にあたる。検出された遺構は近世の溝 2 条・土坑 2 基である。遺物は近世の陶磁器・土器が出土した。

令和 2 年度調査（1910.55m²）

R2-1 区（調査面積 181.23m²：令和 2 年 4 月 1 日から同年 5 月 15 日）

II 期区間中央の都道東側に位置する。近代以降の造成・インフラ管敷設に伴う工事のため、全体的に攢乱を受けていたが、遺構は近世の溝 1 条・土坑 6 基・井戸 1 基が検出された。遺物は縄文土器、弥生土器、近世の陶磁器・土器・土製品・瓦、石製品が出土している。

R2-2 区

(調査面積 495.18m²：令和2年5月18日から同年11月19日)

生活道路の確保や建物基礎の解体作業のため7回に分けて行い、11月19日に終了した。検出された遺構は、縄文時代以降のピット2基、弥生時代の溝1条、古代から中世の土坑1基、中世の道路遺構1条、近世の溝3条・土坑3基・井戸1基である。弥生時代の溝の性格は不明である。中世の道路遺構は、「鎌倉街道中ツ道」に関連する遺構であり、柱穴状の掘り込み内に黒褐色・灰黃褐色土等を充填し堅固に敲き締めたもので、複数列形成されていた。近世以降の溝は、「日光街道御成道」の西側の側溝と、それに接続する溝である。遺物は、弥生土器、近世陶磁器・土器が出土した。

R2-3 区 (調査面積 100.18m²：令和2年10月12日から同年11月20日)

II期区間中央の都道東側に位置する。調査区は盛土により平坦であったが、調査の結果、北東から南西にかけて下る緩斜面地であることが分かった。検出された遺構は、弥生時代の溝2条、近世の土坑5基・ピット10基である。弥生時代の溝の性格は不明であるが、平面形から周溝の可能性がある。遺物は、弥生土器、近世の陶磁器・土器・土製品・瓦、金属製品等が出土した。

R2-4 区

(調査面積 665.16m²：令和2年11月24日から令和3年3月12日)

検出された遺構は、縄文時代の土坑2基・ピット2基、弥生時代の竪穴住居跡1軒・竪穴状遺構1基・溝1条・ピット1基、近世の土坑11基・溝2条・ピット20基、近世以降のピット24基である。弥生時代の遺構は調査区南側に分布しており、弥生時代の集落は調査区から南西側への広がりが推測される。近世の溝は、「日光街道御成道」の西側の側溝と、それに接続する溝である。遺物は縄文土器、弥生土器、近世の陶磁器・土器・土製品・瓦、金属製品、石製品が出土した。

十条富士塚地区 (調査面積 468.8m²：令和2年11月2日から令和3年3月26日)

検出された遺構は近世の富士塚1基で、近世以降の盛土造成の様子と近代以降の富士塚改変の様子を調査記録している。遺物は弥生土器、中世の陶器、近世の陶磁器・土器、銭貨、近代の陶磁器・ガラス製品が出土している。

令和3年度調査（本報告書掲載調査区の調査面積 468.8m²）

十条富士塚地区 (調査面積 468.8m²：令和3年4月1日から同年9月15日、令和4年2月3日から同年2月18日)

令和3年4月1日より着手し、9月15日に終了した。その後、当初は富士塚再整備工事に伴う影響が無いとされていた箇所で、掘削が行われることが判明し、2月3日から2月18日まで該当箇所の調査を行った。調査では中世以降に築造されたとみられる塚の盛土の構造が調査された他、塚下部では中世以前の遺構が良好な状態で検出された。遺構は弥生時代の竪穴住居跡7軒、古代～中世の溝1条、中世の道路遺構1条、中世以降の塚1基、近世の溝1条・井戸1基・柱穴2基が検出された。遺物は縄文時代の土器・石器、弥生時代の土器・土製品、古代の土師器、中世の陶器、近世の陶磁器・土器の他、動物遺存体が検出された。

4 整理作業の経過

二次整理作業は、令和2年6月1日から同年10月30日、令和3年4月1日から同年7月31日、

同年9月16日から令和4年3月25日、令和4年4月1日から令和5年1月13日まで断続的に行つた。遺構図版・遺構写真図版・遺構一覧表、遺物の写真撮影、遺物図版・遺物写真図版・遺物観察表を令和5年1月13日までに完成させ、これらと並行して原稿執筆、編集、校正を行つた。

各年度の調査区と整理作業の進捗については、第1表としてまとめた。

II 遺跡の位置と環境

地理的環境

十条台遺跡群は、荒川が南東流する東京低地を臨む武藏野台地北東縁の崖線上に立地する。遺跡の標高は22～23m、東側に広がる低地との比高差は約17mを測る。

武藏野台地は、北西部を入間川、北東部を荒川、南を多摩川、東を東京低地で画された東西約50km、南北約20kmの台地であり、青梅付近を扇頂部として古多摩川によって東側に形成された扇状地と下末吉海進期に形成された海岸段丘によって構成される。この台地は、青梅付近（標高約190m）から東方にむかって立川（約90m）、吉祥寺（約50m）、新宿（約40m）、上野や赤羽周辺の東縁部（約20m）と漸次低下する。等高線は、青梅付近を中心として東に向かって扇形の同心円状を描き、その平均傾斜は西部で約2.5%、東半部では2%以下となり、東部で著しく緩やかになっている。

武藏野台地を構成する段丘面については、従来から多摩面（T面）、下末吉面（S面）、武藏野面（M面）、立川面（Tc面）が知られているが（貝塚1979ほか）、特に武藏野面から上位の面については遠藤邦彦等による新たな地形区分が示されている（第3図）（遠藤ほか2019）。

高位面からみていくと、下末吉面より上位面として金子面（K面）が設定された。これまで下末吉面相当とされていた金子台や所沢台の段丘面のほか新座市堀之内付近の黒目川、和光市諏訪原付近の白子川の流域の一部の段丘面が相当する。

下末吉面（S面）は、台地東側の淀橋台・荏原台の段丘面のほか練馬区北部～和光市～板橋区徳丸付近や大山付近等の段丘面が相当する。

成増面（Ns面）は、板橋区赤塚付近の段丘面であり、武藏野面より高位面として設定された。M面とはS面によって隔てられていることから古多摩川による扇状地とは考えにくいとされる。

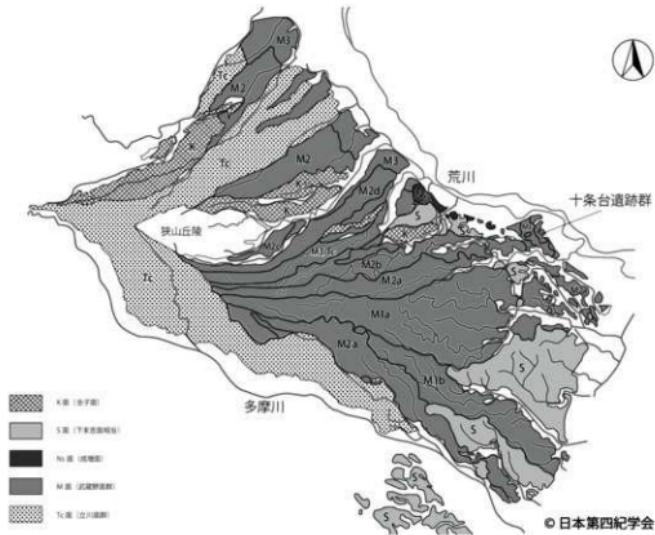
武藏野面（M面）は、武藏野台地中央部に広がる主要な段丘面である。海水準の段階的な低下により扇状地性の段丘面を形成する。これまでM1～3面として細分されてきているが（羽鳥2004ほか）、M1面は2面（M1a・M2b）、M2面は4面（M2a～M2d面）、M3面の7面に細分される。M1a面を小平面、M1b面を目黒面、M2a面を仙川面と石神井面、M2b面を深大寺面と田柄面、M2c面を黒目上位面、M2d面を黒目下位面、M3面を中台面と十条面としている。

立川面（Tc面）は、狭山丘陵の西端から北東側の不老川や砂川流域と、南東側の多摩川左岸の国分寺崖線南西側に広がる。多摩川左岸においては、3面に細分される（久保・小山2010）。

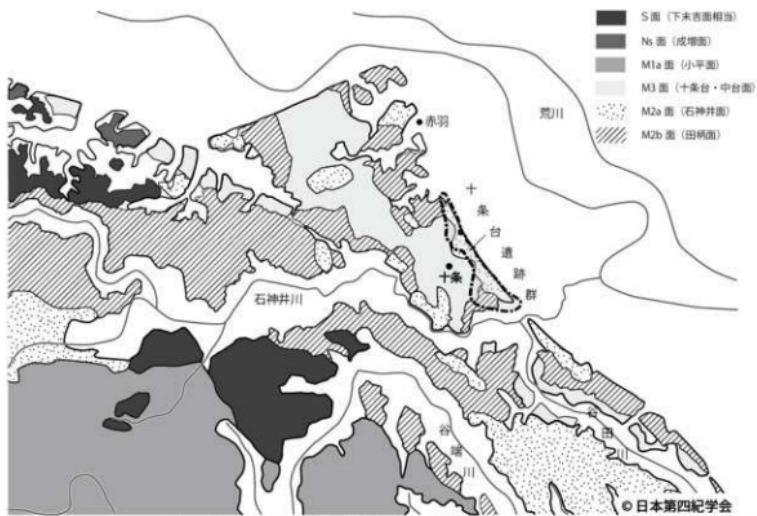
十条台遺跡群が立地する武藏野台地北東縁については、「ほぼ谷端川（小石川）の谷以東の台地、すなわち上野から赤羽に至る台地や本郷の台地は一括して本郷台と呼ぶ（この北部、石神井川以北の台地を赤羽台と呼ぶこともある）」（貝塚1979）とされるように、本郷台という一つの段丘面、M2

面として扱われてきた。平坦な地形とされてきた本郷台であるが、新たな地形区分では S・M 1・M 2a・M 2b・M 3 の 5 面に細分されている（遠藤ほか 2018、杉中ほか 2018）。S 面・M 1 面は本郷台の南端部の一部に残存するだけであるが、本郷台の北西から南東にかけて M 2a・M 2b 面の中を蛇行するように M 3 面が分布することが示され十条面とされた。赤羽～十条の石神井川以北は面として残るが、王子～根津の石神井川以南は谷田川に侵食され、その両岸に沿うように分布する化石谷である（第 4 図）。この蛇行する M 3 面（十条面）は、幅約 300 m と狭小であることから、荒川が流下したというより入間川規模の河川の流下が考えやすいとされる（杉中ほか 2018）。

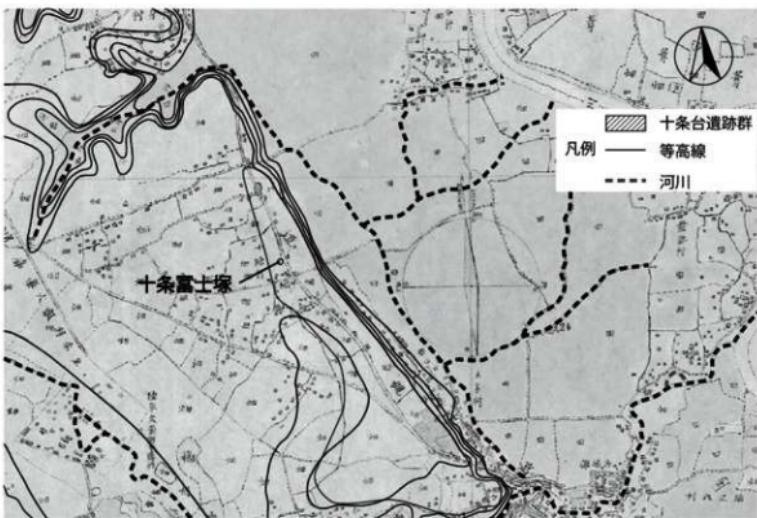
明治 13 年 5 月測量の参謀本部発行の 2 万分 1 迅速図「東京府武藏國北豊島郡王子村」での十条付近を見ると、東京低地（荒川）への崖線の等高線と稲付川の谷を示す等高線は明瞭であるが、M 3 面（十条面）については等高線には表れていない（第 5 図）。国土地理院が公開する電子国土 Web で東西に断面図を作成すると、東京低地から崖線を上がった西音寺付近で標高約 23 m、岩槻街道で約 22 m、埼京線の線路上で約 19.5 m と低下し、石神井川の谷方向に向かい再び標高が上昇する。また、崖線を上がった荒川小学校付近で約 23.5 m、岩槻街道・十条富士塚で約 22 m、十条駅の北側付近で約 19.5 m と最も低くなり、加賀中学校で約 23 m と石神井川の谷方向に向かい再び標高が上昇し、浅い谷地形が確認できる。のことから、十条台遺跡群の北半では約 3.5 m の比高差が M 2a・M 2b 面と M 3 面の比高差といえる。



第 3 図 武藏野台地の地形区分（遠藤邦彦ほか 2019 図 4 をトレース・一部加工して作成）



第4図 本郷台周辺の地形区分 (遠藤邦彦ほか 2019 図4をトレース・一部加工して作成)



第5図 明治時代初期の十条周辺 ('東京府武藏國北豊島郡王子村') を加工して作成。

所収:「明治前期測量 2万分の1 フランス式彩色地図—第一軍管地方二万分一迅速測圖原圖覆刻版一」
所蔵:国土地理院

III 層序

既報告の『十条台遺跡群Ⅰ・Ⅱ』と同様、各調査区の土層の堆積状態については、各地点の近代以降の土地利用の影響差が大きいため、それぞれの調査区で個別に触ることとする。本章では、Ⅱ期区間全体の概要を記す。

本報告書内で掲載した調査地点の多くは、近現代以降の土地造成により、ハードロームまで搅乱・削平を受けており、ハードローム上位の自然堆積層の検出例は乏しい。

例外として、Ⅱ期区間の中間部都道西側、本書掲載のR1-2区、20-10・11・14・15区、20-3・5～8区では、暗褐色土の自然堆積層がソフトローム層の上位で検出された。これらの調査区は地理的環境で触れた、東側の十条台の崖線から西側に開口するM3面の化石谷の谷頭の斜面地・低地部にある。谷の斜面地と低地部は、近世末～近代初頭に下記の2層土によって埋め立てられており、近現代以降の削平の影響が少なかったと考えられる。自然堆積の暗褐色土層の層厚は3地点の最も厚い箇所で0.3mを測る。層中から遺物は検出されていないが、縄文時代の自然堆積層と考えられる。

20-10・11・14・15区、20-3～5・8区、20-2・13区、23-9、31-18区では、近現代の盛土下で黒褐色土の盛土層が検出された。この層は近世の遺物を含み、近現代以降の遺物やガラス・レンガ片等を含まない。また、層の検出面では遺構は確認されず、層直下から近世の遺構が検出される。このため、この盛土は近世末から近代の初頭に盛土された層と考えられる。

また、谷地形の中央部に位置する調査区では先述の黒褐色土の盛土と、暗褐色の自然堆積層との間に、黒色土の堆積が一部で認められる。この黒色土は層中に焼土粒やローム粒を少量含んでおり、自然堆積土ではないが、面的に広がりをみせる。層上面では近世の遺構が検出されている。この黒色土の成因については検出例が少なく、人為的な盛土か、地形に起因する流れ込みによる二次堆積であるかは現在のところ不明であるが、今後の調査の進展により、明らかになることを期待したい。

Ⅱ期区間の堆積土の年代と色調を分類すると以下の通りである。但し、冒頭で挙げた通り、近代以降の土地利用や地形の影響で大きく変わるために、あくまで総評であり、全ての調査区でこれらの層序区分が適用できるものでは無い。

- 1層…近現代の盛土整地層 暗褐色土
- 2層…近世以降の盛土整地層 黑褐色土
- 3層…近世以前の盛土整地層あるいは二次堆積層 黑色土～黒褐色土
- 4層…縄文時代以降の自然堆積層 暗褐色土
- 5層…ソフトローム層
- 6層…ハードローム層

IV 各調査区の遺構と遺物

今回報告する遺構の時期別総数は以下のとおりである。

なお遺構覆土の堆積状況や周辺の遺構配置状況から柱穴（杭穴を含む）と認定し難い「小穴」遺構については「ピット」として分類・表記を行った。また、遺構の所属時期として、近世に構築された遺構で、近代までの存続が確認された場合もあり、全体の時期区分として近世に限定するのではなく近世以降として幅をもたせた。

時期別遺構総数

縄文時代：土坑3基、ピット4基

縄文時代以降：ピット2基

弥生時代：竪穴住居跡11軒、竪穴状遺構2基、溝5条、ピット2基

弥生時代から古代：溝1条

古墳時代以降：土坑1基

古代から中世：土坑1基、溝1条

中世：道路遺構6条、溝3条

中世から近世：塚1基

近世：土坑48基、溝20条、柱穴78基、ピット46基、井戸3基

近世以降：土坑2基、溝2条、ピット32基、耕作面2面

以下、調査区ごとに遺構と遺物を報告する。

1. 2G区（第6図、図版1～4）

I期区間の北端に位置し、平成28年度に調査した2F区（『十条台遺跡群I』掲載）と十条富士塚地区の間に位置する。調査区中央は店舗への生活道路を確保する必要があるため、幅3mの生活道路を設け、北側調査区と南側調査区に分けて調査を行った。生活道路部分は北側調査区と南側調査区の成果から、近代以降の搅乱と削平によって遺構が失われている可能性が高いと判断されたため、未掘削で調査を終えた。南側調査区は東西2分割して調査を行った。南側調査区は調査前に児童公園が所在し、中央部は遊具の基礎や砂場の堀り方によって、東壁と南壁付近は街路樹の根により大きく壊されている。また、北側と中央部は現代の整地上下で、近代の防空壕跡により深く掘削、搅乱されている。

1) 層序（第8図、図版2）

北側調査区（壁A・B）は現地表面下約0.5mで削平を受けたハードローム面を検出した。ローム検出面より上位の堆積土は近現代の盛土整地土で色調は灰褐色を呈する。ハードロームより上位の自然堆積土は検出されなかった。南側調査区（壁C・D・E・F・G）では、現地表面下0.3～0.7mで削平を受けたハードローム面を検出した。全体が北側調査区と同様に近現代の削平と搅乱を受けており、ハードロームより上位の堆積は全て近代以降の盛土整地土である。

2) 遺構（第7図、第2表（1））

遺構は近世の溝1条・土坑1基・ピット4基、近世以降のピット1基が検出された。

i 近世

3号遺構（第9図、図版3）

南側調査区の東壁沿いで検出された近世の溝である。北側から都道沿いに南北へ延び、南側は西に向かって屈曲する。屈曲部付近は攢乱と街路樹の根によって覆土と掘り方が乱されており、判然としないため、南北方向の溝と東西方向の溝は、別遺構の可能性がある。この場合、南北方向の溝は日光御成街道の西側側溝、東西方向の溝は近世の区画に伴う溝に比定し得る。調査区内での延長は南北方向が約7.8m、東西方向が約4.0mで、上端幅が0.9m以上、断面形は断面A-A'でV字形を呈する。覆土は黒褐色土を呈する2層に分離出来る。覆土中に近代以降の混入物を含まない。遺物は近世の磁器3点・陶器4点・土器1点が出土した。いずれも細片で、図示には及ばなかったが、18世紀後葉～幕末頃にかけての年代を示す。

4・5・6・7・号遺構（第10図、図版3・4）

南側調査区で検出されたピットである。遺構の規模や形状は図と観察表を参照されたい。いずれの遺構からも遺物は出土しなかったが、3号・8号遺構と同様の黒褐色を呈する覆土をもつたため、近世の遺構と判断した。4・5号遺構は覆土の最上層が灰褐色を呈するが、下部に黒褐色の覆土が堆積しており、最上層は近代盛土の沈み込み土と考えられる。それぞれの遺構検出箇所や平面や断面の形状に規則性が認められない。建物等を構成する可能性は低く、用途は不明である。

8号遺構（第10図、図版4）

南側調査区西壁際で検出された土坑である。西側は調査区外に延びるが、隅丸長方形を呈するものと思われる。調査範囲内の規模は長径1.32m、短径0.75m以上、深さ0.29mを測る。覆土は黒褐色土を主体とし、3層に分層できる。遺物は、弥生土器1点、近世の磁器15点、陶器17点、土器4点、石製品1点の総数38点が出土し、その内5点を図示した。出土した近世の遺物年代は18世紀後葉～19世紀中頃にかけての年代を示す。

ii 近世以降

1号遺構（第9図、図版3）

北側調査区で検出されたピットである。壁沿いで検出され、調査区外へ延びる。覆土の色調は灰褐色で、近代以降の盛土と同系統の色調であるが、壁面の断面観察では上位の近代盛土と検出面の層理面に極薄い砂粒の堆積があり、近代以降の盛土と遺構覆土とを分離できる。遺構覆土中からも近代を示す資料が検出されなかったことから近世以降として分類した。柱痕等は確認できず用途については不明である。遺物は近世の磁器1点・陶器2点・土器2点が出土した。いずれも細片で図示には及ばなかったが、遺物の年代は19世紀中頃の年代を示す。

3) 遺物（第10図、第4表（1））

調査区内から弥生土器2点、近世の磁器33点・陶器31点・土器8点・土製品3点、石製品1点の総数78点が出土した。この内8号遺構の出土遺物の5点を図示した。

8号遺構

1は瀬戸・美濃産の端反碗、2・3は肥前産の広東碗と半筒碗である。4は瀬戸・美濃産の陶器皿で高台内に墨書きが認められるが、判読できない。5は瀬戸・美濃産の擂鉢である。図示したものを受け、出土した遺物の年代は18世紀後葉～19世紀中頃の範囲に収まる。

2. 十条富士塚地区（第11図、図版5～24、98～105）

十条富士塚地区は北区指定有形民俗文化財の十条富士塚と、その前面の歩道部分を含む調査区である。調査区周辺の現在の地形は、北側から南側と、西側から東側に向かって緩やかに登る緩斜面地の頂上付近にある。北側に区道を挟んで5-3区が、南側に2G区が隣接する。調査は十条富士塚部分、塚東側の歩道部分、塚範囲外南西部分の3回に分けて行った。十条富士塚部分は北区教育委員会の指導に基づき、再整備工事によって受けける影響範囲内の掘削調査を実施した。工事の影響を受けない範囲については、図中で「富士塚保存範囲」として明示する。また、保存範囲内の上面レベルと工事による影響深度の比高差が1.5mを超える部分については、調査・工事中の保存部分崩落防止と安全管理の為、頂部から1.5mまで掘削後、幅1.5mの犬走りを設け、影響範囲までの掘削を実施した。犬走り部分については、再建工事の際に鋼矢板で崩落防止措置を行った後、立会調査を行うよう指示を受けた。この範囲を「立会調査範囲」として斜線で図中に範囲を明示する。加えて、十条富士塚の北側と西側を囲う擁壁際にについても、調査時の擁壁倒壊を防ぐため、再建工事時の「立会調査範囲」として図中に格子線で範囲を示した（第13図）。

1) 層序（第34図～37図、図版10）

十条富士塚範囲部分では、塚最下部の盛土整地層（第34～37図211～214層）下で削平されたソフトローム面を検出した。ソフトロームの検出標高は調査区内で22.8m前後を測り、厚さは約0.05m程が残されていた。塚東側の歩道部分では、近代以降の削平と攪乱を受けており、調査区東端の現地表面下0.55m（標高21.95m）で削平を受けたハードロームを検出した。塚範囲外南西部では、現代の建物基礎により大きく削平を受けており、標高21.79mで削平を受けたハードロームの広がりを検出した。

2) 遺構（第12図、第2表（1））

弥生時代の竪穴住居跡7軒、古代～中世の溝1条、中世の道路遺構1条、中世以降の塚1基、近世の溝1条・近世の柱穴2基・近世の井戸1基を検出した。以下、時代順に記述する。

i) 弥生時代後期

竪穴住居跡7軒が検出された。住居検出面は1号遺構最下層の盛土整地層の下で、検出面の標高はおおよそ22.8m前後である。住居同士の切り合いは4号遺構と9号遺構があるが、他には見られない。

4号遺構（第14・15図、図版16・17）

調査区中央付近で検出された竪穴住居跡である。検出標高は22.70m。西北西方向に主軸を持つ。東側で9号遺構を切り、中央部分を3号遺構に切られる。平面形は隅丸長方形で長径4.43m以上、

短径 3.90m、検出面から貼床上面までの深さは 0.48m を測る。堆積土は 27 層に分かれる。住居覆土は黒褐色土～暗褐色土が主体、貼床の 22・23 層はにぶい黄褐色土である。貼床の厚さは 0.1 ～ 0.2m である。周溝は幅 0.1 ～ 0.2m、深さ 0.05 ～ 0.1m で巡る。炉跡は検出されなかった。

柱穴は 4 基検出された。P 1 は長径 0.5m、短径 0.4m の長円形で、貼床上面からの深さ 0.6m を測る。P 2 は上面を 3 号遺構に壊されており、長径 0.35m、短径 0.3m、検出面からの深さ 0.45m を測る。P 3 は上面を 3 号遺構に壊されており、径約 0.4m、検出面からの深さ 0.4m を測る。P 4 は径 0.6m、短径 0.55m、貼床上面からからの深さ 0.62m を測る。P1・P2・P4 の土層断面では、径 0.15m 程の柱痕が認められ、主柱穴であると考えられる。

遺物の出土分布は覆土全体に散漫に広がっており、特に集中箇所は見られない。遺物は弥生土器が 69 点出土している。出土位置は住居覆土中から 51 点、床直上 5 点、貼床内出土 13 点で、器種は高环 3 点、壺 29 点、甕・台付甕 35 点、不明細片 2 点である。ほとんどが破片で、接合率も低く、図示出来たのは 2 点である。

5 号遺構（第 16・20 図、図版 14・15）

1 号遺構の下、北東部で検出された竪穴住居跡である。検出標高は 22.65m。北西方向に主軸を持つ。平面形は楕円形で長径 6.28m、短径 4.55m、検出面から貼床上面までの深さは 0.51m である。堆積土は 45 層に分かれる。住居覆土は黒色～黒褐色土が主体であるが、南東側から中央にかけて灰黄褐色～にぶい黄褐色を主体とする土が流れ込むように堆積する。44 層の貼床はハードロームを主体とし、非常に強く敲き締めている。貼床の厚さは 0.05 ～ 0.1m 未満と薄い。周溝は幅 0.1 ～ 0.2m、深さ 0.1m で巡る。

炉跡は中央からやや北側の位置で検出した。長径 1.13m、短径 0.88m、床面から火床面までの深さ 0.08m である。火床面から掘り方底面までの厚さは 0.14m である。

主柱穴を含むピットは 11 基検出された。P1 は長径 0.45m、短径 0.38m の不整円形で、貼床面からの深さ 0.78m を測る。東壁に接して柱痕（断面 C-C' 1・2・3 層）が検出された。P2 は長径 0.36m、短径 0.33m、深さ 0.6m を測る。中心で柱痕（断面 C-C' 6・7 層）が検出された。P3 は長径 0.43m、短径 0.38m、深さ 0.62m を測る。柱痕（断面 D-D' 1～3 層）は中心やや東で検出した。P4 は長径 0.45m、短径 0.4m、深さ 0.65m を測る。柱痕は中心（断面 D-D' 6・8・9 層）で検出した。P5 は長径 0.37m、短径 0.35m、深さ 0.13m を測る。黒褐色土を主体とする。P6 は長径 0.36m、短径 0.26m、深さ 0.35m を測る。中央に柱痕が検出された。P7 は長径 0.34m、短径 0.32m、深さ 0.2m を測る。住居上面から延びる植栽の根によって周囲の貼床が壊されている。P8～P12 は貼床上面で検出された径 0.2 ～ 0.25m、深さ 0.04 ～ 0.1m の浅い掘り込みで、覆土は縮まりの強い灰黄褐色土が充填される。炉を囲むように配されるが、用途は不明である。住居内で確認された柱穴とピットは配置と覆土の堆積から、P1～P4 が主柱穴、P5 が梯子穴、P7 が貯蔵穴と考えられる。P6 は P7 の西に接し、柱痕らしき覆土が認められるが用途については不明である。

住居南東隅部から赤色粒子を含む砂粒の集中部が検出された。長さ 1.3m、幅 0.6m の範囲で広がり、層厚 0.02 ～ 0.03m 程の堆積である。砂粒は 2mm 未満とやや粗く、周りの覆土と比べて赤色味が強いが、発色はやや鈍い。

遺物の分布は平面的には住居南西部に集中する。断面方向では貼床直上と覆土の上層に偏る傾向が

ある。接合関係では上位層と床直上部での接合は見られず、上層の遺物は住居の埋め戻し時の混入と考えられる。遺物の出土位置は住居覆土中から 190 点、炉から 17 点、P7 から 4 点で、器種は高环 29 点、壺 96 点、広口壺 8 点、甕 29 点、台付甕 29 点、不明細片 19 点、礫 1 点である。全て破片で、接合率、完形率ともに悪い。11 点を図示した。

6号遺構（第 21・23 図、図版 19・20）

1号遺構下、調査区北側で検出された竪穴住居跡である。検出標高は 22.72m。北側は調査範囲外へ、西側半分以上が富士塚保存範囲に延びる。北壁は立会調査を行ったが、鋼矢板打設の影響で失われていた。北側の一郎を近代の防空壕跡によって壊される。北西方向に主軸を持つ。平面形は隅丸長方形あるいは梢円形を呈すると考えられる。検出された規模は長径 4.96m、短径 2.01m、検出面からの貼床上面までの深さは 0.61m を測る。堆積土は 25 層に分かれる。20 層のにぶい黄褐色土が貼床である。貼床の厚さは最大 0.25m を測る。周溝は幅 0.15m、深さ 0.1 m で巡る。炉跡は検出されなかった。

柱穴とピットは 3 基検出された。P 1 は長径 0.6m、短径 0.5m、貼床上面からの深さ 0.77m を測る。柱痕にあたる 2 層は東側に傾き、柱を支える 4・5 層も歪んだ堆積になっている。柱穴の上端が北東に向かって 1 段広がっていることから、柱を北東側に引き倒して抜き取りを行った可能性がある。P 2 は住居南東部、弧状に盛られた土堤に画されて検出された。長径 0.4 m、短径 0.2m の長円形で、南側が一段深くなる。深さは一番低い箇所（断面 E-E' 4 層）下で、0.27m を測る。P 3 は富士塚保存範囲下に延びる形で検出された。長径 0.45 m、短径 0.35m を測り、検出面からの深さは 0.26m を測る。住居内で検出された柱穴・ピットの配置と覆土の堆積から、P 1 が主柱穴、P 2 が貯蔵穴、P 3 が梯子穴と考えられる。

住居の南東部で赤色粒子を含む砂粒の集中部が 2 カ所検出された。南側を赤砂 1、北側を赤砂 2 とする。赤砂 1 は発色が鮮やかで、砂粒は細かい。長さ 1.2m、幅 0.9m の広がりで、層厚 0.02m 程の堆積である。赤砂 2 は砂粒の粒径が大きく、長石粒などを含み、やや暗い発色である。長さ 0.8m、幅 0.3m の広がりで、層厚 0.03m 程の堆積である。赤砂の範囲が周溝の上に拡がっていることから、住居廃絶際に遺棄されたか、隅に盛られていたものが、崩れて広がったものと思われる。

遺物の出土状態は、住居南東部の床、及び赤砂周辺に集中している。全て破片で、接合後も完形のものは見られない。土製赤彩勾玉（第 47 図-31）は赤砂 2 のやや北側、周溝中から出土した（図版 20-8）。遺物の分布は平面では住居南東部に集中し、貼床上と覆土の上層に偏る傾向がある。接合関係では上層と床直上出土遺物の接合は無く、上層の遺物は住居の埋め戻し時の混入と考えられる。

7号遺構（第 24・26 図、図版 21・22）

1号遺構下、調査区南西部で検出された竪穴住居跡である。検出標高は 22.72m。北西方向に主軸を持つ。南側は調査範囲外に延び、南西隅部は樹木の根による攪乱で失われている。北側隅部は 3 号遺構によって上端を切られる。平面形は梢円形を呈すると考えられる。調査範囲内で検出された規模は長径 3.26m、短径 3.04m、検出面からの貼床上面までの深さは 0.45m を測る。堆積土は 18 層に分かれ、住居覆土は黒褐色土とにぶい黄褐色土が主体である。貼床は暗灰黄色土の 18 層で、厚さは 0.1m を測る。周溝は幅 0.15 ~ 0.2m、深さ 0.16m で巡る。

炉跡は中央で検出された。床面を掘り窪め、粘土を貼り付けた粘土床炉である。火床面は貼床面とほぼ同レベルで、南側に粘土を盛り上げた土堤状のマウンドが認められる。

主柱穴・ビットは3基検出された。P1は長径0.4m、短径0.37mの円形で、貼床上面からの深さ0.66mを測る。P2は長径0.47m、短径0.42m、深さ0.72mを測る。P3は径0.35m、短径0.33m、深さ0.6mを測る。P1(断面C-C'1・2層)とP3(断面H-H'1層)の覆土には柱痕が認められるが、P2には見られない。住居内の検出状況からいずれも主柱穴になると考えられる。

遺物の分布は竪穴覆土内に散漫に分布している状況で、特に集中箇所は見られない。遺物の年代は弥生時代後期頃のものが出土している。

8号遺構(第26図、図版22)

1号遺構下、調査区中央部で検出された竪穴住居跡である。南側を3号遺構に切られ、西側は立会調査範囲、北側は富士塚の保存範囲に延びる。立会調査時に西側端の検出が期待されたが、塚保護のための鋼矢板打設の影響で壊されており、西端の確認に至らなかった。検出された規模は長さ2.65m、幅0.51m、検出面から貼床上面までの深さは0.47mで、平面形は不明である。覆土断面A-A'の1～3は塚下の盛土整地層、4は3号遺構覆土で、8号遺構覆土は5～14層に分けられる。住居覆土5～13層で、黒褐色～暗褐色土を主体とする。貼床は黄褐色土の14層で、厚さは0.03～0.05mと薄い。東側壁際で幅0.17m、深さ0.08mの周溝が検出された。炉や柱穴は検出されなかった。

遺物の分布は竪穴覆土内に散漫に広がって出土した。調査が出来た部分が少なく、全容は不明であるが、出土遺物の年代から弥生時代後期の住居と考えられる。

9号遺構(第27～29図、図版17・18)

1号遺構下、調査区南東部で検出された竪穴住居跡である。検出標高は22.79m。北北西方向に主軸を持つ。北西を4号遺構に、北側を3号遺構に、東側を近代以降の攪乱に、南側を2号遺構に切られる。平面形は不明である。検出された規模は長径3.86m、短径3.72m、検出面から貼床上面までの深さは0.47mである。覆土は9層に分けられる。住居覆土は1～5層で、暗褐色～黒褐色土を主体とする。貼床は6層で、ロームブロックを多く含むに似た黄褐色土である。周溝は幅0.15m、深さ0.08～0.1mで巡ると思われる。

炉跡は中央や北側で検出された。長径0.97m、短径0.53m、貼床上面から火床面までの深さ0.03mを測る。炉の覆土は4層に分けられ、3層が火床面である。火床面から掘り方底面は0.05mを測る。

主柱穴を含むビットは6基検出された。P1は長径0.53m、短径0.48m、貼床上面からの深さ0.5mを測る。P2は長径0.55m、短径0.45m、深さ0.55mを測る。P3は3号遺構に切られて検出された。長径0.43m、短径0.35m、検出面からの深さは0.47mを測る。P4は長径0.38m、短径0.32m、深さ0.21mを測る。覆土は単層で、黒褐色土が主体である。P5は2号遺構に切られて検出された。長径0.47m、短径0.45m、検出面からの深さは0.22mを測る。P6は重複する4号遺構の掘り方底面で検出された。長径0.33m、短径0.26m、検出面からの深さは0.12mである。住居内から検出された柱穴・ビットの配置と覆土の堆積から、P1、P2、P3、P6が主柱穴、P4が梯子穴、P5が貯蔵穴に相当すると考えられる。

遺物の分布は、概ね床付近に偏るが、6の壺の様に覆土上層・中層・床面の出土遺物が接合する様子も見られる。

14号遺構(第29図、図版22)

1号遺構下、調査区西側の立会調査範囲で検出された竪穴住居跡である。西側を近代以降の攪乱に、

南側を3号遺構に切られており、北側の壁の一部を検出したにとどまった。軸方向と平面形は不明である。検出された規模は長径1.35m、短径1.32m、検出面から貼床上面までの深さは0.23mを測る。覆土は10層に分かれ、貼床はにぶい黄褐色土の9層で、厚さは0.08mである。周溝は幅0.08m、深さ0.06mで巡ると思われる。炉跡・柱穴は検出されなかった。遺物は出土しなかった。

ii 古代～中世

3号遺構（第30・31図、図版23）

1号遺構下で検出された東西方向に延びる溝である。調査区内で両端部が近代の攪乱によって壊される。断面形は逆台形を呈し、人為的な埋め戻し土による底面を持つ。底面中央には帯状の硬化面が延びる。調査範囲内の延長は17.38m、上端幅は2.68m、底面幅は1.15m、硬化面幅約0.45mを測る。覆土は大きく上下2つに分かれ。上層は溝覆土（断面A-A' 1～8層、断面B-B' 1～8層、断面C-C' 1～10層、断面D-D' 1～7層）で、下層は底面以下の堀り方埋め土である。上層の溝覆土は黒褐色土～暗褐色土主体で、堆積状況から一定方向からの埋め戻しを行った様子は見られない。また、最上層（A～D断面の1層）中に径1～3mmの黒色土粒が含まれる。この黒色土粒は本報告書に掲載した十条富士塚地区及び、Ⅱ期区間内の調査区では本遺構のみで確認された。下層は、粒径の大きいロームブロックを多く含むにぶい黄褐色土を主体とする。硬化面（断面A-A'：9層、断面B-B' 10層、断面C-C' 13層、断面D-D' 8層）は暗褐色土で、厚さ0.03～0.05mを測る。検出面から硬化面上面までの深さは0.33～0.38m、硬化面上面から堀り方底面までの深さは0.12～0.2mを測る。堀り方底面は凹凸が激しく、掘削後に土を充填し、底面を整えたと考えられる。

遺物は弥生土器を中心に、溝全体に亘って出土しており、遺構内の接合でも最長7.5m離れた位置の遺物が接合しているが、遺構に伴うものでは無い。1点のみ、8世紀末～9世紀前半の土師器环（第48図-50）が溝東側の覆土中位から出土している。

iii 中世

10号遺構（第32図、図版23・34）

調査区の東際で検出された道路遺構である。北側を攪乱に、南側は2号遺構に切られる。検出された南北の延長は1.9m、幅は1.56mで、深さ0.27mである。浅い溝状の覆土中で、帯状の硬化面が2面検出された。第1硬化面（断面A-A' 2層）は遺構検出面から0.04m下で検出され、幅0.45m、南北方向に延びる。第2硬化面（断面A-A' 5層）は0.17m下で検出された。幅0.5mで南北に延びる。2つの硬化面の間に比較的綺まりの弱い別の覆土（断面A-A' 3層）が堆積しており、道の構築後期間を置いて、整備し直したものと思われる。周辺の調査区の状況から、鎌倉街道中ツ道跡と考えられる。遺物は出土しなかった。

iv 中世以降

1号遺構（第33～43図・第188図、図版5～11）

調査区の大部分を占める塚である。再整備工事前の形状（第188図）は、東西約20.8m、南北約15.1m、頂上部分の標高は27.93mで現地表面からの比高差は約5.4mを測る（第188図）。東西にやや長い形状である。東側に、鳥居を潜り山頂まで直登で登る階段がある。この階段を本文では登山階段と記述する。他の富士塚で見られる蛇行した登山道は残っていない。山頂から南東側へ下る階段が設けられており、階段の素材は石材の他、カラミ煉瓦などが用いられている。この階段を本文中で

は下山階段と記述する。塚の東側に富士塚に係る石碑が据えられている。碑面は概ね東方向に面し、石碑の基部は倒壊を防ぐためコンクリートで固定され、周囲に溶岩が配されていた。塚頂部は大谷石とコンクリートを用いた擁壁によって一段高くなっている。山頂部の西側に御神体を納める祠、北側に御神木として祀られたスダジイの巨木が植えられていた。塚斜面部にはケヤキを始めとする高木が植栽されていた。調査前の段階では石碑や階段、鳥居等の石造物は移設され、富士塚に植えられた樹木も切り株を残して伐採まで終了しており、これらの作業は再整備工事に伴う準備作業として実施された。山頂部を囲う擁壁については、崩落を防ぐため残置され、調査と並行して解体を行った。

調査では富士塚及びその下部に遺ると考えられる旧時代の塚の盛土構造を記録するため、東西方向と南北方向にそれぞれ土層観察用のセクションベルトを設定し掘削を行った。セクションは東西方向をA、南北方向をBとした。

調査により、1号遺構は年代別に、①近代以降の十条富士塚盛土、②近世の十条富士塚盛土、③旧塚の盛土、の大きく3つの段階があることが分かった。以下、築造された順を遡る形で分けて記述する。また、セクションA-A'（図34・35）及びセクションB-B'（図36・37）では各盛土の年代別にトーンを分けて図示した。

1号遺構から出土した遺物については、攪乱部を除いて全てドット上げを実施した。第39図は全遺物の出土位置を平面・断面図に示したもの、第40図はこの内掲載資料の出土位置を示したものである。なお、1号遺構は盛土による塚であるため、遺物の断面図上の出土標高は、断面図の設定ラインから離れるに従って下がっていく。このため、本来の出土した盛土の層位と図上の出土遺物の位置に差が生じるため、第43図の年代別遺物出土位置図では、セクションA・Bの前後1m範囲内で出土した遺物に限り、帰属年代ごとに分類して出土標高を断面図に示した。

①近現代の十条富士塚盛土（1～41層）

近現代の十条富士塚を構築した際の盛土層にあたる。一部、階段や石囲いの構築時の裏込め土を含むが、ここでは総称して「盛土」と記述する。形状と規模は先述の通りである。山頂部の盛土掘削時、山頂の表土下0.7～0.8mで黒褐色土の広がり（42・43層）を検出した。この黒褐色土検出面の直上、近現代の盛土層との層理面で常滑産甕や寛永通寶錢を始めとする中近世の遺物（第53図111、第54図112・113、第56図142・144・145）が出土した（第40・41図、写真図版5-2・3）。黒褐色土検出面より上層の堆積土は、ガラス片や近代以降の陶磁器等を含む褐灰色～黒褐色を呈する覆土で、4・5層で観察されるロームと混合されたにぶい黄褐色の山砂を含む。この盛土は塚全体を覆っており、最も厚い山頂部で約0.7～0.9mを測る（3・5層）。斜面部では裾に下るにつれて薄くなり、A-A'東側（3・4・6～21層）では標高27.0mで垂直方向に0.9m、標高25.0mで0.45m、裾部の標高23.0mで0.35mを測る。西側（22～28層）では山頂部を囲う擁壁に切られているが、平均して0.5m近い堆積が確認された。B-B'北側（29～33層）では堆積が薄く、0.1～0.3m程の堆積が残る。南側（41層）は下山階段の掘り方覆土（34～40層）により大きく壊されていた。堆積状況は近世以前の塚の斜面に被せるように裾から順に土を盛り上げている様子が確認された。これら近代の盛土は先述の山砂の他、玉砂利やガラス、レンガ片などを含み、全体的に締まりと粘性に乏しく、乾燥すると容易に崩壊する。近現代の盛土から出土する遺物は、近現代の陶磁器、ガラス製品、硬貨

が主で、他に弥生土器をはじめ、中世の板碑片や近世の陶磁器・土器も少量出土する。また、遺棄された旧鳥居の部位（木鼻と思われる）なども出土した（写真図版5-5）。

②近世の十条富士塚盛土（42～49層）

山頂部の表層上面は近現代の十条富士塚盛土を除去した後に検出された、黒褐色土層面である。近現代の盛土除去中に、この黒褐色土層表面では近世以前の遺物を含む一方で、近現代の遺物やレンガ片、ガラス等を含まないことが確認されたため、近世の十条富士塚の最終面と想定し、記録を行った。図38に示す等高線図がその形状である。検出範囲内で、A-A'上で16.8m、B-B'上で12.4m、標高27.1mを測る。等高線で確認すると塚の北側は他に比べ著しく切り立っており、覆土断面でも近世以降の盛土は失われている。近世以降のある段階で、塚の北側を削る改修が行われたものと思われる。また、東側については等高線の間隔が密な箇所とテラス状に拡がる箇所が見られる。これは近代以降、十条富士塚の石碑を据えるため切土整地を行ったことによるものと考えられる。南東側は下山段階の掘り方により擾乱を受けており、近世期の盛土は失われている。最も遺存状況が良い南西側は等高線の間隔も概ね均等で、第38図のエレベーション図E-E'でも他と比べ一定の勾配による斜面であることが分かる。

盛土は黒褐色土主体で10mm未満のローム粒を含む土層である。近現代の盛土に比べてやや締まりが強いが粘性に欠け、乾燥すると脆く崩れやすい。断面による観察では、山頂部で厚さ0.4～0.5m程を測る。断面A-A'東側は近代以降の改変で一部失われているが、標高27.0mで垂直方向に0.55m、標高26.0mで0.22m、標高24.0mで0.35mを測る。断面A-A'西側は保存範囲に掛かり、計測できなかったが、最も厚いところで約1.3mの厚さがある。断面B-B'は南側も北側も近代以降の削平や擾乱によって失われている。北側は上層の近代の盛土層を含め堆積が薄く、近代以降の改修が複数回行われ、近世の盛土を含む削平が行われたと考えられる。南側は近代以降に増設された下山段階構築時の擾乱を受けている。盛土の堆積状況は近代の盛土と同様に、前身となる塚の表面に被せるように土を盛り上げて表面を整えていたようである。また、山頂から西側は盛土によって、塚の山頂平坦部が拡大していたことが分かった。東側盛土の厚さは西側に比べると薄く、近代の十条富士塚改修の影響を受けていると思われる。一方、近世の十条富士塚の斜面角度は東西共に30°前後と大きな違いは無く、本来の形状を保っている可能性も考えられる。

この盛土層からは18世紀第3四半期～19世紀前半にかけての陶磁器・土器が主体となって出土した。この他に弥生土器をはじめ、近世以前の遺物も含まれる（図53-111～図56-146）。一方で、近現代の遺物は含まれておらず、先述した黒褐色土層面が近世の十条富士塚の最終面とみなすことが示唆される。

③旧塚の盛土（50～210層）

②の近世の盛土下で検出された塚の盛土である。山頂の42層以下は断面を観察しつつ、安全に配慮し、高さ1～1.5mごとに土層を記録しながら掘削を行った。覆土は①、②段階に比べ締まりと粘性に富む。色調は黒褐色土～黒色土を主体とし、部分的にロームを多く含む層が間に加わり、不連続な互層での堆積である。ロームを多く含む層は第34～37図に斜線トーンで明示した。このロームを多く含む層は盛土下層に近づくにつれて検出される頻度、層の厚さともに増加し、含まれるロームの粒径も粗く大きくなる。また、黒褐色土の覆土中には焼土粒子や炭化物、住居の貼床由来と考えら

れる硬化ブロックを含む層も認められる。塚構築の際、土を搔き集めた範囲に集落が展開していた可能性が高い。

また、185 層や 195 層中からは灰黄褐色を呈し、鉄分の凝集粒を含む径 100mm を超える硬化ブロックが検出された。この硬化ブロックは周辺の調査区で検出される、鎌倉街道中ツ道跡と推定される道路遺構の硬化面と酷似しており、旧塚築造時には既に鎌倉街道が構築済みであったと考えられる。ただし、周辺の鎌倉街道は調査によって、複数回にわたって造り直しが行われたことが確認されており、旧塚が鎌倉街道の廃絶後に築造されたとは断定できない。

旧塚の盛土層は部分的に、上部からの転圧により縮め固められた痕跡が認められる。土層断面の観察によって層上面の転圧が確認された層は下記のとおりで、断面 A-A'、断面 B-B' の各セクション図には該当する層の上面ラインを太くして示した。

転圧による縮め固めが確認された層

65、66、75、76、95、98、99、100、105、111、121、127、143、146、150、151、159、163、171、174、176、178、180、185、186、190、195、199、202、203、204、206、208 層

これらの縮め固めは、版築技法の様に連続して層全体が強く縮まり、累重するものではなく、転圧によって硬化するのは層の上面数cm に及ぶ程度である。また、転圧の範囲も層上面全体で行われているわけではなく、各層の端部に近づくに従って縮まりが弱くなる。このため平面上で転圧面を検出しても、その範囲が塚全体を覆うような面を形成しない。これは転圧による縮め固め行為が、積み上げた盛土が崩れて流出しないようにするための一時的な転圧作業によるものと考えられる。また、例外もあるが、これらの縮め固めの痕跡は、ロームを比較的多く含む層の上面で確認できる箇所が多い。盛土した土質によって施工方法を分けていたものと思われる。

旧塚の盛土堆積状況を断面で観察すると、断面 A-A' では標高 25.0m までは東西方向は概ね水平方向に盛土が堆積するが、より標高が高くなると東側から西側へ下るような堆積状況を示す。断面 B-B' でも標高 25.0m までは水平方向に堆積するが、標高が高くなると北側から南側へ下るような堆積状況を示す。このような堆積状況を示す理由としては、先述の通り後代に塚の東側と北側斜面が削られたことによる、見かけ上の堆積の偏りによるものとも考えられるが、旧塚の築造時に、まず塚の範囲全体を一定の高さまで積み上げた後、北東方向から盛土を始め、南西方向に向けて範囲を拡張しながら盛土を積み上げたことによる築造過程を示すもの、もしくはその両方によるものとも考えられる。

旧塚盛土層から出土した遺物は年代別出土遺物分布図の通り、攪乱等の影響部分を除き、近世以降の遺物を含まない。出土する遺物の大半は弥生時代後期の土器で、他に縄文土器・石器・須恵器、中世の板碑片が見られる（第 49 図-59～第 53 図-110）。出土した遺物はいずれも破片で、盛土中に散在しており、旧塚築造時に採取された土中に含まれていた遺物であると考えられる。

塚下部の盛土整地土（211～214 層）

標高 23.0m で黒色土層（211～214 層）を検出した。この黒色土は、調査範囲内の塚下部全域で検出されている。検出面の標高は調査区内の各所で標高 23.0 ± 0.05 m を測り、ほぼ平坦である。上位の旧塚盛土と比べ、含有物が少なく均質であるが、層中に径 1mm 程度のローム粒子や焼土粒子、炭化物を極少量含む。縮まり、粘性は良好である。層厚は約 0.2～0.27m を測り、層下面では削平を受けたソフトロームを検出した。この黒色土層の特徴として以下の点が挙げられる。

- (1) 層中にソフトローム上位の自然堆積土を含まない。
- (2) 層上位の旧塚盛土と、層下面で検出されるソフトロームとの連続性が認められず、明瞭に区分できる。
- (3) 弥生時代の遺物が 805 点出土しており、同層内での出土遺物同士の接合例は認められるが、直上の旧塚盛土や、層下で検出される弥生時代の遺構出土遺物との接合例が認められない。
- (4) 十条富士塚地区内の塚盛土範囲内でのみ検出される。

(1)～(4)の点から、この黒色土層は旧塚築造前に、塚築造範囲を切土し、周辺からの客土によって盛土・整地を行った跡と考えられる。黒色土層下は削平されたソフトロームで、下部からは弥生時代後期の住居群や古代以降の構築とみられる溝が検出された。

塚下部の盛土整地層からの出土遺物は上述の通り弥生土器と土製品 805 点が出土した(第 49 図 51～58)。出土した弥生土器はいずれも破片で接合後の完形率は低い。

以上、1 号遺構の塚盛土について各段階ごとに記した。旧塚の盛土に含まれる遺物や盛土の構造、盛土整地層下から検出される遺構群の推定年代から、十条富士塚の前身となる旧塚は、中世以降に築造されたものと考えられる。

1 号遺構の調査では各時代の塚に付随する施設や祭祀跡の可能性がある馬骨が検出された。以下個別に記述する。

近代の登山階段跡(第 42 図、図版 6)

断面 A-A' 東側の 13・15・17 層の下面、近世の盛土との層理面で、締め固められた階段状の痕跡が検出された(写真図版 6-7・8)。硬化面表面に石材成形の為の壓痕がネガとして確認されたことから、この硬化面は石段を据えるために斜面を整えた地業痕と考えられる。この階段状の硬化面の覆土はレンガ片やガラス片を含んでおり、近代以降に造られたことが分かる。工事前の十条富士塚登山階段と硬化面の間には縋まりの弱い近代の盛土が堆積しており、現代の登山階段に伴う造成とは考えられない。十条富士塚の登山路がいつ頃から直登する階段であったかの記録は残されていないが、近代以降、近世の十条富士塚に新たに整備を実施する際に、階段による登山路を設けたと考えられる。

盛土整地層直上出土の馬骨(第 40・41 図、図版 11)

旧塚下部の盛土整地層(211 層)検出面直上でウマの頭骨の一部が検出された。馬骨 1 は塚中央やや東寄りで検出した。馬骨 2 は馬骨 1 から西へ 2.5m 離れた場所で検出した。馬骨 3 は塚範囲内の南西部で検出した。馬骨 1 と 2 は直上に盛られたローム主体の盛土の影響の為か、骨部分は全て溶出しておらず、歯のみが並んで検出された。馬骨 3 は歯と骨の一部が残存しており、下顎骨の一部であることが確認できた。これらの骨検出時に周辺を精査したが、掘り込み等は検出されなかった。馬骨 1～3 はいずれも歯冠が横方向に向いており、上顎骨あるいは下顎骨を横向きに寝かせて配置されたものと考えられる。これらの馬骨に関しては、出土位置が塚最下部の盛土整地土層の直上であること。溶出の可能性もあるが、周辺で骨片等が検出されないため、頭部のみが配置されたと考えられるところから、調査時には、塚築造に係る地鎮などの祭祀行為を想定した。

検出された馬骨を基に放射性炭素 ¹⁴C 年代測定分析と生物学的分析を実施した。詳細な成果は VI 章

の分析結果を参照されたい。年代測定分析の結果、馬骨1は13世紀末～14世紀末、馬骨2は13世紀後半～14世紀後半、馬骨3は13世紀後半～14世紀後半の暦年代が示された。また、生物学的分析では、馬骨1と2は同一個体の下顎骨が分離したもので、今回検出された馬骨は2個体分の下顎骨であることが示された。また、歯の出土状況から、馬骨1・2については安置されてから一定期間露出していた期間があることが示唆されており、塚下の盛土整地層構築後から、旧塚の盛土構築の作業を開始するまでに時間差があることが想定される。

v 近世

2号遺構（第44図、図版24）

調査区南東部で検出された近世の溝で、西南西から東北東方向に延びる。近代の十条富士塚盛土層を除去した面で検出された。東側を攢乱に切られ、西側は調査区外に延びる。旧塚の盛土層と9号遺構を切る。検出された延長は8.72m、幅0.8m、深さ0.9mを測る。覆土は7層に分けられる。1～5層は褐灰色～黒褐色を呈し、近代以降の富士塚改修に伴う盛土である。6・7層は黒褐色土を主体とし、近世後期の遺物を含む。西側で近世段階の富士塚の脇を通るが、塚の周囲を巡らずに、そのまま東に延びるため、塚に関連する溝ではなく、近世の土地区画に伴う溝と考えられる。上面に近現代の富士塚の盛土が堆積しているため、近代以降の富士塚の改修で、東側に塚の範囲が広がる際に埋め戻されたと考えられる。近世以前の遺物は出土しなかった。

11号・12号遺構（第44図、図版24）

調査区北東部、塚東側の歩道部分で検出された近世の柱穴である。11号遺構は長径0.32m、短径0.3m、深さ0.46mを測る。覆土は黒褐色土が主体で柱痕（2層）を持つ。12号遺構は長径0.29m、短径0.27m、深さ0.32mを測る。両遺構とともに塚の範囲外で検出されたが、周辺は近現代の攢乱によつて大幅に削平を受けており、他に対応する柱穴は検出されなかった。用途については不明である。遺物は出土しなかった。

13号遺構（第44図、図版24）

調査区南西部、1号遺構の範囲外で検出された、近世の井戸跡である。長径1.03m、短径0.96mの不整円形で、検出面から0.74mまで掘削を行ったが、底面は検出できなかった。覆土は黒褐色土主体で3層に分けられる。1層は上面の攢乱土の沈み込みである。壁面に奥行0.18m程の足掛け穴が2対検出された。井戸枠・遺物は検出されなかった。本遺構が検出されたことにより、近世の十条富士塚範囲の南西側が、13号遺構の位置まで及んでいないことが分かる。

3) 遺物（第44図～57図、第3表（1）～（6）、第4表（1）、図版98～105）

調査区からは縄文土器46点・石器4点、弥生土器3525点・土製品3点、古代の土師器1点・須恵器5点、中世の陶器46点・板碑片2点、近世の磁器147点・陶器199点・土器157点・土製品16点・瓦122点・石製品17点・錢貨10点、近代の磁器30点・陶器6点・土器4点、不明製品43点、総数4383点が出土した。以下、遺構ごとに取り上げる。

i 弥生時代

4号遺構（第45図、第3表（1）、図版98）

1は壺胴部で胴部が強く張り出す。胴中央部に最大径を持つ壺と考えられる。床直上付近で出土し

た破片の接合遺物で、後期後半頃のものと考えられる。2は台付甕の脚部で、裾部が外側へ広がる形状である。住居の南東側、覆土の中位から出土した。年代は後期である。

5号遺構（第46図、第3表（1）・（2）、図版99）

15は炉から出土、17、19、20、21、23、25は床直上付近での出土で接合遺物を含む。16、18、22、24は覆土上層からの出土である。15は高环の口縁部破片で、炉覆土からの出土である。後期後半頃に比定される。16は壺の肩部破片で、S字状結節文によって区画された縄文帯を持ち、年代は後期後半頃。17は高环脚部で、坏部分を打ち欠き、折損部の表面を整えて支脚に転用している。床直上での出土で後期前半頃のものである。18は壺口縁で、覆土上層から出土した。後期後半頃ものである。19は複合口縁壺で、床直上付近の接合遺物である。肩部の輪積み部分で打ち欠かれている。口縁部から頸部にかけて内外面は被熱しており、口縁内面にはススが付着する。逆位に据えて器台として転用していたと考えられる。20は壺底部で床直上付近出土の接合遺物である。時代は後期であるが詳細不明。21は広口壺の口縁破片で床直上付近出土の接合遺物。後期のやや古い段階のものとみられる。全面赤彩。22は小型の壺底部である。被熱により外面の大部分が剥離している。外面は底部から真っ直ぐに立ち上がった後、外側へ膨らむように立ち上がる形状である。後期後半頃のものである。23～25は台付甕の脚部である。23は床直上付近の出土で、裾部にかけて広がる形状である。24は覆土中位からの出土。甕と脚の接合部に補強帶を貼り付けている。25は床直上出土、脚部の外面にナデ調整が施されるナデ甕である。後期のやや古い段階のものである。

6号遺構（第47図、第3表（2）、図版99）

弥生土器146点、土製品1点が出土した。出土位置は住居覆土中から91点、P2から16点、赤砂1の範囲から38点で、器種は高环8点、壺26点、甕78点、台付甕18点、土製勾玉1点、不明細片14点である。土製勾玉以外は全て破片で、完形率は低い。6点を図示した。26は壺の口縁部破片で覆土上層と床直上付近の接合遺物である。27は壺胴部で貯蔵穴出土である。胴中央に最大径を持つ形状と考えられる。28～30は台付甕である。28は甕部の胴部上半で、口縁径は27.4cmで、大型の台付甕である。28・29はともに赤砂1からの出土である。30は脚台部で、貯蔵穴からの出土である。31は土製の勾玉で、赤彩が施される。6号住居を壊す防空壕の脇、周溝中から出土した。遺物の時期は全て後期後半頃のものである。

7号遺構（第47図、第3表（2）、図版100）

弥生土器50点が出土した。全て覆土中からの出土である。器種は高环1点、壺22点、広口壺1点、甕22点、台付甕4点である。接合・完形率共に悪い。7点を図示した。32・33は壺口縁の破片である。32は複合口縁壺破片で覆土中位からの出土。33は北側床付近からの出土。34は壺底部で、東側床付近からの出土。底面に木葉痕が遺る。35は広口壺の口縁で、覆土中位からの出土した。36・37は台付甕で、36はナデ甕の脚台部で、35の近くから出土した。後期のやや古い段階のもの。37は口縁部で、住居南東側の覆土上層出土破片と3号遺構出土破片が遺構間接合した。38はミニチュアの壺である。貼床内から出土した。胴下部に最大径を持つ形状である。

8号遺構（第47図、第3表（2）、図版100）

弥生土器13点が出土した。出土位置は全て住居覆土中からで、器種は高环1点、壺5点、甕7点である。全て破片で、完形率は低く、図化出来たのは1点のみである。39は壺胴部で、床のやや上

から出土した。胴部下半に最大径を持つもので、後期後半頃のものと考えられる。

9号遺構（第45図、第3表（1）、図版98）

弥生土器107点が出土した。出土位置は住居覆土中から106点で、その内、床付近から54点、P2から1点である。器種は高環5点、壺33点、甕63点、台付甕4点、不明細片2点である。完形率は低い。12点を図示した。3は広口壺の口縁部破片でP2から出土した。4は複合口縁壺の口縁部破片である。後期のやや古い段階のものと考えられる。5・10は広口壺で5には口縁外面と口唇部を繩文で施文する。6は複合口縁壺で、口縁部に2本1単位の棒状浮文を貼付け、間に円形朱文を施す。7の壺は胴部に沈線による鋸歯文を線刻する。8・9は壺底部、11・13・14は台付甕である。

ii 古代～中世

3号遺構（第48図、第3表（3）、図版100）

繩文土器3点、弥生土器413点、土製品1点、古代の土師器坏1点が出土した。内、11点を図示した。40・41は弥生時代の高環で、40は接合部に凸帯状に粘土組を貼付ける。42・43は壺口縁である。43は壺口縁部から頸部にかけてやや窄まる形状である。内外面にナデ調整を施すが、ヘラミガキや赤彩の痕跡は見られない。44は壺底部。外面ヘラミガキ、内面ナデ調整が施される。45は台付甕の胴部上半で、口縁部に対して胴部が強く広がる形状である。内面は胴部ナデ調整後、口縁部に横方向のハケ調整を施す。46は台付甕の接合部で、外面は粗い縱方向のハケ調整を施す。47は広口壺で、内外面にナデ調整が施される。ヘラミガキや赤彩の痕跡は見られない。48はミニチュアの壺で、外外面にナデ調整後、赤彩を施す。49は土製勾玉で、頭部を欠損する。前面に丁寧なミガキが施される。50は土師器坏で全面に右回転のヘラ削りが行われる。底面も右回転のヘラ削りの痕が残る。製作年代は8世紀末から9世紀前半頃のものである。

iii 中世以降

1号遺構（第49～57図、第3表（4）～（6）、図版101～105）

繩文土器43点、石器4点、弥生土器2476点、須恵器3点、中世の陶器46点、板碑片2点、近世の磁器76点、陶器203点、土器73点、土製品3点、瓦12点、石製品6点、錢貨8点、馬齒4点の、総数3062点が出土した。内、153点を図示した。

51～58は塚最下部の盛土整地層の出土遺物で、全て弥生土器である。51は壺の破片である。外面にS字状結節文による区画を行い、上段にL R繩文を施文、下段はヘラミガキ後、赤彩を施す。52は台付甕破片で、口唇部に横方向のハケ調整後、刻みを施し、外面にハケ調整を施す。53～55は壺で、口縁部貼付け後ナデ調整し、内面と頸部以下はヘラミガキ後、赤彩を施す。54は壺の口縁で、口縁貼付け後、口唇部と口縁外面に網目状燃糸文を施文し、棒状浮文を貼付け、浮文と口縁下部に刻みを施す。55は壺の底部で、外面ヘラミガキ後、赤彩する。56・57は台付甕の脚台部で、56は脚台部の内外にナデ調整を施すナデ甕である。57は接合部をナデツケ後、縱方向のハケ調整を施す。58は土製勾玉で、前面に丁寧なミガキが施される。孔径は2.0mmである。これらの遺物は弥生時代後期後半頃の年代を示す。

59以降は塚盛土出土の遺物である。59～72は繩文土器である。59～62は深鉢形土器の破片で同一個体。波状口縁を有し、波頂部下には三角形の区画文が施され、この区画文下には無文帶をはさみ、帯状の装飾帯が加えられているものである。安行2式。63は平縁の精製深鉢形土器の口縁部破片。

口唇部はやや肥厚し、隆帶上には RL の単節縄文が施されている。安行 1 式。64～70 は、組線文系粗製土器の破片で同一個体。口縁部はやや外反し、胴部のくびれは弱い。安行 1 式。71 は深鉢把手の貼付け部である。接着面に貼付けやすくするための爪形の刻みが確認できる。72 は注口土器の把手である。加曾利 B 1 式。73 はチャート製の石鏃。74～76 は打製石斧である。

77～107 は弥生土器である。77～88 は壺の口縁部の破片である。77～79 は口縁部貼付け後、口唇に縄文を施し、口縁外面に數本単位の棒状浮文を貼付ける。各個体の施文方法については遺物観察表を参照されたい。80 は口縁部に L R・R L 羽状縄文施文後、円形朱文を施す。81 は口唇部に R L 縄文を施し、口縁内面に R L・L R 羽状縄文を巡らせ、赤彩を施す。82 は口縁貼付け後、口唇部に L R 縄文を施し、口縁上端に刻みを施す。84 は口縁外面の貼付け部が欠損している。口縁内面を S 字状結節文で区画し、LR 縄文を施文後、径 7mm の円形浮文を貼り付ける。85 は口唇部に L R 縄文を施し、口縁に R L 縄文を施文後、円形朱文を施す。外面にヘラミガキ後、赤彩を施す。86～88 は壺肩部破片で、86・87 は外面を S 字状結節文による区画と LR 縄文による装飾が施される。88 は沈線による鋸歯文が施される。89 は壺口縁、90～93 は壺頸部から肩部にあたる。90 は沈線による区画後、頸部ヘラミガキで赤彩。肩部は LR・RL の羽状縄文施文後沈線下に円形浮文を貼り付ける。91 は頸部を S 字状結節文で区画し、LR・RL 縄文を施文後、円形浮文を貼付け、円形浮文を赤彩する。92 は精緻な胎土を持つ。94～99 は壺底部で、94 は胴下半に最大径を持つ大型の壺である。95・96 は外面に赤彩を施す小型の壺、95・96 は底面に木葉痕が残る。100 は広口壺の口縁で、口縁部に貼付け時の指頭による押圧痕が残る。101～106 は台付壺で、101～103 は口縁部、104～106 は脚部である。101 は口縁部、102 は胴部上半に最大径を持つ。103 は前面にナデ調整を施すナデ裏である。104 は裾部からの立ち上がり 105 は脚台部が 104 に比べて広く開く形状である。106 は小型の台付裏脚台部である。

108～110 は常滑産の表裏胸部破片である。外面に平行叩き目、108 は内面に同心円状の當て具痕が認められる。109 は破断面 2 辺に研磨痕が認められ、転用砥として使用されている。111～113 は中世末～近世の常滑壺である近世の十条富士塚山頂部（5 層と 42・43 層の層理面）でまとまって出土した（第 41 図）。同一個体と思われる壺の破片が塚裾部の近世の表土層（47 層）から複数出土しており、山頂で破却されたものが周辺へ流れ込んだと考えられる。114・115 は中世の板碑である。114 は表面に「キリーク」「念佛 / 棋（構カ）正（取カ）」「十」の文字が彫られる。115 は表面に「～年丙午 / ～門」の文字が彫られる。共に石材は緑泥片岩である。塚の築造年代が 13 世紀後半～14 世紀末以降であるとするならば、115 の「丙午」年代は 1366 年以前の年代にあたる。

116～139・142～146 は近世以降の遺物である。多くが近世の富士塚表土（42 層～49 層）出土のものである。1 点のみ 128 が旧塚の盛土中から出土したが、塚築造後に掘られた小動物の巣穴と思われる横穴中からの出土であり（写真図版 11-1・2）、旧塚盛土の年代を確定できるものでは無い。本文では個々の紹介に留め、詳細は遺物観察表を参照されたい。116～121 は近世の磁器製品で、116・117 が肥前産の丸碗、118 が瀬戸・美濃産の端反碗である。119 が肥前産の見込み蛇の目釉剥ぎ皿、120 が肥前産仏飯器の脚部、121 が肥前産の髪油壺である。122～134 は近世の陶器製品である。122 は肥前産端反碗、123・124 が信楽系のせんじ碗、125 が瀬戸・美濃産の鉄釉掛け分け茶碗、126 が信楽系半球碗、127 が瀬戸・美濃産の呉須絵碗、128 が瀬戸・美濃産の灰釉皿、

129 が信楽系変形皿、130 が肥前産蛇の目釉剥ぎ皿、131 が瀬戸・美濃産菊花皿、132 が肥前産三島手鉢、133 が瀬戸・美濃産の五合入り灰釉高田徳利、134 が堺・明石産擂鉢である。135～137 は江戸在地系の土器で、135 がカワラケ、136 が土師質焰硝、137 が瓦質の内耳付焰硝である。138 と 139 は砥石で石材は凝灰質砂岩である。140・141 は宋錢で 140 が真書体の「景祐元寶」、141 が真書体の「元祐通寶」である。142～146 は寛永通寶錢で、142・143 が古寛永、144～146 が新寛永の「文錢」に分類できる。これらの近世の遺物のほとんどは 18 世紀第 3 四半期～19 世紀前半にかけて生産・流通が広まるものである。江戸府内で富士講が盛んになる時期が 18 世紀後半頃とされるが、旧塚から十条富士塚へ改修する時期を示す資料となりうる。

147～153 は近現代の富士塚盛土層（1 層～41 層）から出土した遺物である。147 は产地不明の擂鉢片で、擂目が 6 本 1 単位、一部欠損するが円形に再加工されている。頂上のスタジイの根の周辺で出土した。148・149 は江戸在地系土器の火鉢と線香立て、150・151 は瀬戸・美濃産の銅板転写碗、152 は瀬戸・美濃産コバルト染付皿、153 は瀬戸・美濃産銅板転写の段重である。近現代の遺物は明治前半～大正以降、一部戦後までを含む。近代以降も十条富士塚は数回にわたって改修を行っているが、その際に混入した遺物の一部と考えられる。

3. 5-3 区（第 58 図、図版 25～27・106）

II 期区間の南端、十条富士塚地区北側に位置する。調査区を南北 2 回に分けて調査を行った。

1) 層序（第 60 図、図版 26）

近代以降の耕作や建物基礎に伴う擾乱を受けており、現地表面下 0.4m で削平を受けたハードロームの広がりを検出した。より上位の自然堆積層は検出されていない。1 層は近代の陶磁器を含む盛土である。2 層以下は近世以前の遺構覆土で、3～8 層は 1-①号遺構の覆土、9～12 層は 1-②号遺構の覆土である。

2) 遺構（第 59 図、第 2 表（1）、図版 25～27）

中世の鎌倉街道跡と思われる道路遺構 1 条、近世の溝 1 条・柱穴 1 基、近世以降の溝 1 条が検出された。

i 中世

1-②号遺構（第 61 図、図版 26）

東側を 1-①号遺構、南側を 2 号遺構によって切られる。1-①号溝の西側上端で、黒褐色土の敲き締められた硬化面（2～5 層）が検出された。硬化面は幅 0.3～0.4m 幅で帯状に南北へ延びる。硬化面下の堀り方底面では、ハードロームに幅 0.5m 程の溝が掘られている。溝底面では径 0.4m、深さ 0.05m 程の浅い掘り込みが 4 基整列して検出された。掘り込み内には上層の硬化面よりも強く敲き締められた覆土で充填されていた。周辺の調査区の遺構検出状況から、中世の鎌倉街道中ツ道跡と推定される。

ii 近世

1-①号遺構（第 61 図、図版 26）

調査区東側で検出された近世の溝である。現在の都道と並行して南北に延びており、調査区南側で

2号遺構に切られる。溝の東側上端は都道下に延びており、確認できなかった。調査範囲内では延長3.97m、幅1.43m以上、深さ0.59mを測る。下端幅は0.22mを測る。覆土は黒褐色土を主体とし、ロームブロックを少量含む。遺物は18世紀末19世紀前半の遺物が出土している。周辺の調査区の遺構の検出状況から、日光御成街道の西側側溝と推定される。

3号遺構（第61図、図版27）

2号遺構底面で検出された。長径0.42m、短径0.39m円形で深さ0.49mを測る。断面は逆凸字形である。単独での検出であるが、溝の土留め柵支柱穴や杭痕のようなものが想定される。

Ⅲ近世以降

2号遺構（第61図、図版27）

調査区南際を東西方向に延びる溝である。溝の端部は、西側は調査区外へ延び、東側は調査区南東隅で1-②号を切り、1-①号遺構に直交する。南側は調査区外へ延びる。調査区内での延長は東西9.6m、幅1.2m以上、検出面からの深さ0.41mである。1-①号遺構との新旧関係は、断面で2号遺構が切ることが確認できる。覆土はほぼ单一で、近代のレンガ・ガラス片を含む。日光御成街道に接合する区画溝と考えられ、構築時期は近世以前に遡ると考えられる。近代以降に埋め戻されたものと考えられる。

3) 遺物（第61図、第4表（1）、図版106）

調査区内で弥生土器4点、近世の磁器14点・陶器13点・土器12点・土製品1点・金属製品2点の総数46点が出土した。

1-②号遺構

弥生土器細片3点、近世の磁器12点・陶器9点・土器4点・土製品1点・金属製品2点の総数31点が出土した。その内5点を図示した。1・2は肥前産磁器碗である。3は江戸在地系の施釉灯明皿、4は江戸在地系瓦質植木鉢で、焼成前に内側から穿孔を行っている。5は銅合金製の鉤針で、端部に1.5mmの組通し孔を設ける。これらの遺物の製作年代は18世紀中葉から19世紀にかけてのもので、年代幅が広い。遺構の性格から近世末から近代にかけて、日光御成街道の側溝を埋め立てる際に混入したものと考えられる。

4. R 2-2区（第62図～74図、図版28～36・106）

II期区間の南側に位置する。北側にR1-2区が隣接する。隣接する住宅の生活道路の確保とインフラ管切り回しのため、7地点（A～G）に分けて調査を行った。

1) 層序（第64図・65図、図版29）

調査区中央部以北（壁A・B・C）は近現代の削平と擾乱を受け、現地表面下0.25～0.55mでハードローム面を検出した。調査区西側のTP1付近では、削平されたソフトロームが確認された。1層は近代以降の盛土で、2層以下は各遺構の覆土である。調査区南側（壁D・E・F）は近現代の削平と耕作痕を含む擾乱を受け、現地表面下0.25～0.30mでハードローム面を検出した。より上位の自然堆積層は検出されていない。また、調査区中央や北側で検出されたハードローム面以下の堆積を確認した（TP1・TP2）。TP1では表土下のソフトローム検出面の標高21.00mから1.2m下まで掘削を行った。

断面観察の結果、検出面のⅢ・Ⅳ・Ⅴ層は削平や植栽等の影響により乱されていた。下位のⅥ層検出標高は 20.80m で、Ⅶ、Ⅸ、X a 層はそれぞれ 20.72m、20.52m、20.31m である。TP2 は TP1 の 3.2m 東側のハードローム検出面から 1.2m 挖削した。断面観察の結果、ハードローム検出面はⅥ層中で、標高 20.82m。下位のⅦ・Ⅸ・X a 層検出標高はそれぞれ 20.76m、20.64m、20.46m である。TP 1・2 のローム堆積状況から、調査区は東から西へ下る斜面地であることが分かった。

2) 遺構（第 63 図、第 2 表（1））

縄文時代以降のピット 2 基、弥生時代の溝 1 条、古代以降の土坑 1 基、中世の道路遺構 1 条、近世の溝 3 条・土坑 3 基・井戸 1 基を検出した。

i 縄文時代以降

7・8 号遺構（第 66 図、図版 30）

調査区南側、F 地点で検出された。縄文時代以降のピットである。7 号遺構は近代の耕作痕と近世の井戸に切られている。褐色土主体の覆土で深さ 0.21m を測る。8 号遺構は上面を近代の耕作痕に切られて検出された。長径 0.22m、短径 0.19m の楕円形で、深さ 0.48m を測る。暗褐色～黒褐色土の覆土で充填される。両遺構とも遺物は出土せず、用途についても不明である。

ii 弥生時代

5 号遺構（第 66 図、図版 30）

調査区南西隅部、F～G 地点に跨って検出された。西南西方向へ延びる弥生時代の溝である。調査範囲内での延長は 3.8m 上端幅 0.86m 深さ 0.31m を測る。断面形は逆台形で、北壁は南壁より開いて真っ直ぐに立ち上がる。東端は攪乱によって乱されているが、段が一段設けている。覆土の色調は暗褐色～褐色で、締まり、粘性に富む。覆土中位から弥生土器が 4 点出土しており、内 2 点を図示した。周辺で同時代の遺構は検出されておらず、用途については不明である。

iii 古代から中世

6 号遺構（第 66 図、図版 30）

調査区南西侧、F 地点で検出された土坑である。北側と上面を現代のインフラ管によって壊されている。長径 1.71m、短径 0.86m、深さ 0.64m を測る。南東隅部は壁がオーバーハングしながら立ち上がる。覆土は 9 層に分けられ、1～4 層が黒色～暗褐色土、5～9 層はロームを多く含む黄褐色～明黄色土である。壁の立ち上がりから、5～9 層は遺構の天井崩落土の可能性がある。遺物は出土しなかった。周辺の弥生時代や近世の遺構の覆土の特徴が見られない為、古代から中世と認定した。

iv 中世

10 号遺構（第 67 図～71 図、図版 31・32）

調査区東側、A、B、C、D、E、G 地点で検出された中世の道路遺構である。調査区内を南北方向に継貫する硬化面を伴う。東側を 2・9 号遺構に切られ、削平や攪乱によって断続的に失われているが各箇所で検出される痕跡から概ねの規模を推定した。調査範囲での規模は南北 26.8m、最大幅 2.18m、検出面からの深さ 0.28m を測る。A 地点（第 67 図）では溝状の浅い掘り込み内に充填された、黒色土の硬化した覆土（断面 A-A' 13 層）として検出された。北側を防空壕の入り口に壊される。B・C 地点（第 68 図）ではほぼ失われているが、中央部分で径 0.15m 程、深さ 0.1m の浅い円形の掘り込

み中に、灰褐色の硬化面の一部（断面 F-F' 8 層）が検出された。D 地点（第 69 図）では連続する径 0.3 ~ 0.4m、深さ 0.05 ~ 0.2m の掘り込み中に充填された硬化した覆土（断面 J-J'）と、2 号遺構の壁面に貼りつくように暗褐色と黒褐色土の硬化面（断面 K-K'）が検出された。E・G 地点（第 70 図）では、2・9 号と攪乱によって壊されているものの、最も良好に遺されていた。硬化面は 3 面が検出され、断面 P-P' では硬化面が重層的に堆積（断面 P-P' 11 層と 14 層）している様子が確認でき、道路が期間を置いて改修による造り替えを行っていることが推定できる。G 地点では堀り方底面の掘り込みの平面形が、長楕円あるいは不整長方形を呈しており、7 m 北の D 地点の掘り方に見られる堀り込みと形状が異なる。この造りの差異は検出面から道路の構築時の違いに関連するものと考えられるが、形状が異なる理由については不明である。周辺の地形では、この付近から北側に向けて下る緩斜面を呈しており、当時の地形に起因する可能性も考えられる。この道路遺構は周辺の調査区の状況から、鎌倉街道中ツ道跡と考えられる。遺物は硬化面覆土中から弥生土器の細片が 3 点と中世の陶器片 1 点が出土した。

v 近世

1 号遺構（第 72 図、図版 33）

調査区北側、A 地点で検出された近世の溝である。調査区の東西を横断し、2 号遺構に直交する。2 号遺構との切り合いは不明瞭で、3 号遺構を切る。中央を防空壕の開口部による攪乱を受ける。調査範囲内での延長は 8.95m、上端幅 1.43m、深さ 0.42m を測る。断面は歪な逆台形を呈し、底面・壁面は成形されていない。覆土は黒褐色～暗褐色主体で、近世の土器を含む。日光御成街道に接続する近世の区画溝と思われる。遺物は弥生土器の破片が 1 点と近世の土器片 4 点が出土した。近世の遺物の年代は 19 世紀中頃のものである。

2・9 号遺構（第 67 図～第 71 図、図版 33～35）

調査区東側で検出された。現在の都道と並行して南北に延びる溝である。並行する 10 号遺構を切り、攪乱で一部壊されるほか、D 地点では建物基礎によって完全に失われている。調査では D 地点より北を 2 号遺構、南を 9 号遺構として記録した。調査範囲内での延長は 26.8m、幅 1.44m、深さ 0.81m を測る。断面は上辺の広い逆台形を呈すると思われるが、東側が調査区外に延びており、詳細は不明である。覆土は暗褐色～黒褐色土が主体で近世後期の陶磁器の細片を含む。周辺の調査区の状況から、日光御成街道の西側側溝と考えられる。遺物は弥生土器の破片 1 点、近世の磁器片 5 点、陶器片 6 点が出土した。近世の遺物の年代は 19 世紀初頭～中頃のものである。

3 号遺構（第 73 図、図版 36）

調査区北西部、A、B 地点に跨って検出された溝あるいは土坑である。現代のインフラ管に伴う攪乱と 1 号遺構に壊されており、平面形は不明である。深さは確認面から 0.39m を測る。断面形は上端幅の広い逆台形を呈すると思われる。覆土は暗褐色～黒褐色土で周辺の近世期の遺構と同様のものである。遺物は出土していない。

4 号遺構（第 73 図、図版 36）

調査区南側、F 地点で検出された、近世の井戸である。上面を近代以降の耕作痕に壊される。長径 0.84m、短径 0.74m のやや歪な円形を呈する。素掘りで、枠板は検出されなかった。壁面には奥行 0.16m 程の足掛け穴が 2 対検出された。覆土は確認面より 1.07m まで掘削したが、底面は検出でき

なかった。遺物は近世の擂鉢片が1点出土している。

11号・12号・13号遺構（第73・74図、図版36）

調査区中央部、C地点で検出された近世の土坑である。11号遺構はC地点西際で検出された。遺構の西側は調査区外へ延びる。調査範囲内では長径0.64m、短径0.53m、深さ0.60mを測る。覆土は3層に分けられる。1層は上部の擾乱の影響を受ける。2層は黒色土で、中世～近世の遺構覆土に類似する。3層はロームブロック主体層で締まりが強く、遺構底面を整えるための埋め土と思われる。遺物は出土しなかった。

12号遺構はC地点東側で検出された。上面と東側を擾乱によって壊される。平面形は検出面で長径1.21m、短径0.80mの隅丸方形を呈するが、確認面から約0.3m下で径0.8m弱の円形に変わる。また、底面から0.6m上、平面径の転換点で壁面がオーバーハングして立ち上がる。覆土はロームを多く含む黒褐色土が底面に堆積する。形状から甕を抜き取った後の近世の便所跡などが用途として考えられる。遺物は出土しなかった。

13号遺構は調査区東側、2号遺構底面で検出された。長径0.98m、短径0.61m、深さ0.75mを測り、隅丸方形を呈する。覆土は3層に分けられ、11号に似た覆土である。用途については不明である。遺物は縄文土器の破片が1点出土した。

3) 遺物（第74図、第3表(7)、第4表(1)、図版106）

調査区から弥生土器10点、近世の磁器6点・陶器7点・土器10点の総数33点が出土した。その内3点を図示した。

4号遺構

1は4号遺構から出土した。近世の瀬戸・美濃産の擂鉢片で、口縁外帯下部が外側へ張り出す形状である。17世紀中頃のものである。

5号遺構

5号遺構から弥生土器4点が出土した。全て1層からの出土で、床面から0.15～0.2m上で出土している。器種は甕あるいは台付甕である。いずれも破片で、接合はしなかった。その内、2点を図示した。2は甕あるいは台付甕の胴部破片である。3は甕底部で、外面が底部から一旦窄まった後、上方へ広がる形状である。内面にススの付着が認められる。

5. R1-2区（第75図～89図、図版37～45・106）

II期区間南側、R2-2区の北側に隣接する。調査区周辺の現地表面は南東から北西に向かって緩やかに下る斜面地で、調査区の南東端と北西端の現地表面での高低差は0.6m程を測る。調査区を北側・中央・南側の3回に分け、南側から調査を行った。

1) 層序（第77図・第78図、図版38・39）

調査区北側（壁A）1～5層は近代以降の盛土整地層、6・7層は近世以降の畑耕作土、8～12層は3号遺構覆土である。13層は現地表面下0.8mで検出された暗褐色土層で、縄文時代以降の自然堆積層と考えられる。14層はソフトローム層である。上面に擾乱を受けていないソフトローム層検出面の標高は中央が19.7m、西端が19.25mで、測定点の距離は4.85mである。ソフトローム層

の層厚は 0.1 ~ 0.15m 程である。調査区東壁北側（壁 B）は 1 ~ 4 層が近代以降の盛土整地層、5 ~ 9 層が 1 号遺構覆土、10 ~ 19 層が 3 号遺構覆土である。各遺構の掘り方底面ではハードロームが検出された。調査区南側（壁 C）では現地表面下 0.15m ~ 0.4m で削平を受けたハードローム面を検出した。1 ~ 3 層は 1 号遺構覆土、4 層は 3 号遺構の硬化面、5 ~ 6 は近代の盛土整地土である。西壁南側（壁 D）では、南側が現地表面下 0.6m、北側が現地表面下 0.77m で削平を受けたハードローム面を検出した。1 ~ 18・20 層は近代以降の建物基礎や柱穴、盛土層である。19 層は 6 号遺構覆土、21 層は近世の盛土層と考えられる。中央部西壁（壁 E）では南側が現地表面下 0.77m、中央では現地表面下 0.8m で削平を受けたローム面を検出した。1 層は近代以降の盛土層、2 層は近世以降の耕作土、3 層は近世の盛土層、4 ~ 7 層は 18 号遺構覆土、8 層は近代以降のピット覆土である。北側の 2 層以下、現地表面下 0.68m で検出された 9 層は暗褐色を呈し、縄文時代以降の自然堆積層と考えられる。北側西壁（壁 F）では 1 ~ 3 層が近代の盛土整地層、4 ~ 5 層が近世以降の耕作土、6 ~ 7 層が近世の柱穴覆土、9 ~ 16 層は 32 号遺構覆土、17 ~ 25 層が 23 号遺構覆土である。現地表面下 0.7m で暗褐色の自然堆積層（26 層）を検出した。また、26 層の下でソフトローム層を検出した。ソフトロームの検出面の標高は南側が 19.77m、北側が 19.22m で、測定点の距離は 8m である。ソフトロームの層厚は 0.1m 程で、その下でハードロームを検出した。

2) 遺構（第 76 図、第 2 表（1）、図版 37・38）

縄文時代の土坑 1 基、弥生時代の竪穴住居跡 1 軒、古墳時代以降の土坑 1 基、中世の道路遺構 1 条、近世の溝 2 条、土坑 3 基、柱穴 13 基、近世以降の耕作面 2 面を検出した。

i 縄文時代

12 号遺構（第 79 図、図版 39）

調査区南西隅部で検出された。縄文時代の土坑である。検出面の標高は 20.52m。東側上部を擾乱に壊される。規模は長軸径 2.22m、短軸上端径 0.94m 以上、短軸下端径 0.22m、検出面からの深さ 1.52m を測る。短軸の断面形は底面から 0.32m まで真っ直ぐ立ち上がり、上方に向けて開く形状で、所謂 T ピットに分類される。覆土は 8 層に分けられ、検出面から 0.4m までは黒色土～黒褐色土が主体（1 ~ 4 層）であるが、以深ではロームブロックを主体とする黄褐色土になる。底面で下部施設は検出されなかった。遺物は出土していない。

ii 弥生時代

23 号遺構（第 80 図～82 図、図版 40・41）

調査区北西の壁際で検出された竪穴住居跡である。西側 1/3 程が調査範囲外に延びる。検出面の標高は約 19.7m を測る。検出面で 24 号・30 号・32 号遺構の他、近代の擾乱によって切られる。南北方向に主軸を持つ。平面形は楕円形を呈すると考えられる。規模は長径 4.63m、短径は検出された範囲で 2.51m、検出面から貼床上面までの深さは 0.38m を測る。堆積土は 27 層に分かれる。住居覆土は黒褐色土～暗褐色土が主体である。堆積方向には一方向からの偏りなく堆積している。15・20・22・23・24・25 層が貼床面で、粒径 2 ~ 40mm 大のロームブロックを含む黒褐色土である。貼床面から掘り方底面までの深さは 0.07 ~ 0.25m を測る。北側程薄い。周溝は検出されなかった。

23 号遺構は南東から北西へ向かって下る斜面地に立地しており、住居の掘り方底面は、P 2 付近

ではハードロームであるが、炉付近を境に、北側はソフトローム、P 3 西側では縄文時代の自然堆積層をである。

炉跡は住居中央で検出された。北西を 32 号遺構、南を近代のビットによって壊される。規模は南北 0.36m、東西 0.4m である。炉の構造は床面を掘り進め、粘土を貼り付けた粘土床炉（火皿）である。火床面（1 層）は貼床上面とほぼ同一レベルで検出された。火床面から掘り方底面の深さは 0.18m である。

主柱穴を含むビットは 3 基検出された。P 1 は長径 0.36m、短径 0.27m、貼床上面からの深さ 0.19m を測る。P 2 は長径 0.43m、短径 0.4m、深さ 0.52m を測る。覆土中に径 0.15m の柱痕（5 層）が認められる。P 3 は長径 0.48m、短径 0.36m、深さ 0.56m を測る。覆土中に径 0.1m の柱痕（10 層）が認められる。住居の主軸方向から、P 2・P 3 が住居東側主柱穴、P 1 が梯子穴か貯蔵穴と考えられる。

遺物の分布は住居の南東側に多く出土し、9・11 の接合破片は全て貼床直上で検出された。11 の台付裏は脚部と腹部を意図的に分離し、腹部は P 2 の東脇に伏せて置かれていた。脚台部検出位置との距離は 0.5m を測る。住居の廃絶に係る祭祀の可能性がある。遺物の出土数は弥生土器が 52 点、礫 2 点の総数 54 点で、器種内訳は高环 14 点、壺 8 点、甌 12 点、台付甌 11 点、不明細片 7 点である。その内、床直上の接合資料 3 点を図示した。

iii 古墳時代以降

32 号遺構（第 83 図、図版 42）

調査区北西側の壁際で、23 号遺構を切って検出された。南西側は調査区外に延び、30 号に切られる。検出範囲の規模は長径 1.24m、短径 0.88m、検出面からの深さ 1.02m を測る。形状は長方形を呈すると思われる。覆土は黒褐色土主体で、4 层以下に焼けた粘土塊を多く含む。この焼土は 32 号が切る 23 号遺構の炉跡由来のものと考えられる。遺物は切り合う 23 号遺構の貼床面より上位のレベルで鉄製の板状鋤先が出土した。この鋤先については 32 号遺構に伴うものか、23 号遺構からのものか判断することが出来なかった。年代を特定する資料が少なく、弥生時代後期の 23 号遺構を切って構築されていることから、古墳時代以降に構築されたものとする。

iv 中世

3 号遺構（第 84 図・第 85 図、図版 42 ~ 44）

調査区東側を南北に縦貫する道路遺構である。東側を 1 号遺構、西側を重複するすべての遺構に切られる。調査区南側では調査区南端から北北東方向へ直線状に延び、北側（調査区北端から 10.0 m 付近）で北北東方向へ屈曲し、東壁（現在の都道下）へ延びる。検出面ではローム面に南北に延びる黒褐色土の覆土を持つ溝状の平面形を持つ遺構として検出された。調査範囲内で検出された延長は 32.5m、道路幅は 2.8m ~ 3.2m を測る。覆土中に複数の硬化面を持ち、掘り方ではロームを掘り込む複数条の深い溝として検出された。掘り方の溝底面では径 0.2 ~ 0.4m の楕円形で、深さ 0.05 ~ 0.2m の掘り込みが見られる。溝の幅は 0.3 ~ 0.7m で、調査区内で一部交錯する。溝の数は調査区南端では 4 条を数えるが、北端付近では 7 条確認できる。南側は現地表面から遺構検出面までが浅く、削平で失われたか、1 号遺構に埋された可能性が高い。覆土中の硬化面の幅は概ね 0.4 ~ 0.6m で、帯状に南北へ延びる。硬化面の覆土は灰黄褐色土、黒褐色土、にぶい黄褐色土に分類できる。概ね最上面の硬化面では灰黄褐色土を呈し、最下面の掘り込みの覆土はにぶい黄褐色土で、粒径 5 ~ 10mm 程

度の小礫を含む。周辺の調査区の状況から、鎌倉街道中ツ道に推定される道路遺構と考えられる。

遺物は縄文土器 3 点、弥生土器 8 点、須恵器 1 点、中世の陶器 2 点、中世の土器 7 点、縁泥片岩 1 点が出土した。内 3 点を図示した。

v 近世

1号遺構（第 84 図・第 85 図、図版 42～44）

調査区東壁沿いを南北に縦貫する溝で、西側で 3 号遺構を切りながら並行する。南側は調査区南側へ、北側は調査区北側で 3 号遺構に並行し、東北東へ屈曲して北東側へ延びる。溝の東側立ち上がり部分は調査区外の都道下へ延びる。検出された規模は延長 28.68m、幅 3.11m、検出面からの深さ 0.91m を測る。断面形は逆台形あるいは V 字形を呈すると思われるが、半分以上が都道下へ延びており詳細は不明である。覆土は断面 A-A' の 1～7 層、断面 B-B' の 1～9 層、断面 K-K' の 1～12 層、断面 P-P' の 6～12 層である。黒褐色土主体の覆土で構成される。覆土中に含まれる黒色土や黒褐色土の硬化ブロックは 3 号遺構の硬化面由来のものと考えられる。周辺の調査区の状況から、日光御成街道の西側側溝と推定される。遺物は縄文土器 1 点、弥生土器 8 点、中世の須恵器・陶器 4 点、近世の磁器 2 点・陶器 21 点・土器 5 点・土製品 1 点・瓦 2 点の総数 44 点が出土し、その内 5 点を図示した。

18 号遺構（第 86 図、図版 45）

調査区中央で検出された西側へ延びる溝である。東端で 3 号遺構、16 号遺構・17 号遺構を切り、西側は調査区外に延びる。13 号遺構に切られる。検出範囲内の東西延長は 7.24m、上端幅 1.8m、検出面からの深さ 0.53m を測る。覆土は黒褐色土主体で、2・3 層はロームブロックを多く含む。1 号遺構と直交し、当遺構の北側で耕作面が展開することから、近世の区画溝と考えられる。遺物は出土していない。

15 号・16 号・17 号遺構（第 86 図、図版 45）

調査区中央東側で検出された土坑である。15 号・16 号は 3 号遺構を切り、16 号・17 号は 18 号遺構に切られる。長径 1.15～1.5m、短径約 0.6m、確認面からの深さ約 0.2～0.3m の範囲に収まり、やや不定形ながら長方形～長円形を呈する土坑である。いわゆる「イモ穴」と呼ばれる農業関連遺構に類するものと考えられる。いずれの遺構からも遺物は出土しなかった。

4 号～11 号遺構（第 87 図・第 88 図、図版 45）

調査区南西側で検出された柱穴群である。4・5・6 号遺構と 9・10・11 号遺構が並行し、4・7・9 号遺構と 5・8・10 号遺構が直交する。4 号遺構中心から 6 号遺構中心と、9 号遺構中心から 11 号遺構中心の距離は約 4m を測る。4 号遺構中心から 9 号遺構中心と、5 号遺構中心から 10 号遺構中心間の距離は約 3.4m を測る。やや東西に長い 2 檻 × 2 檻の掘立柱建物が想定できるが、6 号遺構と 11 号遺構の間に柱穴は検出されず、詳細は不明である。また、各柱穴覆土の堆積に柱痕は認められなかった。いずれの遺構からも遺物は出土しなかった。

19 号・20 号・21 号・24 号・30 号遺構（第 86 図）

調査区北西側で検出された柱穴である。概ね一列に並んで検出されたが、直線状には並ばない。各遺構の詳細は遺構観察表を参照されたい。30 号遺構からは完形のカワラケ 4 枚がまとめて出土した。地鎮等の祭祀に係る可能性がある。

vi近世以降

13号・14号遺構

調査区中央で検出された近世以降の耕作面である。歓間溝として検出され、13号は南北方向に17条以上、14号は東西方向に12条以上が延びる。両遺構は重複しており、13号が14号を切る。13号遺構からは縄文土器1点が出土した。

3) 遺物（第89図、第3表(7)、第4表(1)、図版106）

調査区から縄文土器5点、弥生土器85点、中世の陶器5点、近世の磁器4点・陶器29点・土器19点・土製品1点・瓦3点、金属製品2点の総数153点が出土した。その内、16点を図示した。

1号遺構（第89図、図版106）

1・2は須恵器の甕破片で、内面に同心円状の当て具痕が、2は外面に平行叩き目が確認できる。1の破断面1辺に研磨痕があり、転用砥として使用されたものである。3は瀬戸・美濃産の陶器天目碗である。鉄軸が施される。中世末から近世初頭頃のものである。4は信楽系の土鍋である。5は江戸在地系の台付灯明受皿で、外面に透明釉が施される。1・2の甕など中世にさかのぼる遺物は隣接する3号遺構に由来するものと思われる。近世の遺物は18世紀末～19世紀中頃のものが中心である。

3号遺構（第89図、図版106）

6は弥生土器の高环脚部である。内外面にヘラミガキによる調整が施される。裾端部が外側に短く開く。7は須恵器甕の胴部破片で、外面に平行敲き目、内面に同心円状の当て具痕が確認できる。8は中世のカワラケである。ロクロ成形で底面に右回転糸切痕が残る。北関東系のものである。

23号遺構（第89図、図版106）

図示した資料はいずれも床直上から出土した遺物の接合資料である。9・10は高环の环部と脚部である。共に内外面に丁寧なヘラミガキが施され、厚さ4mm未満と薄く作られる。9の口唇部は鋭く調整される。9・10は接合しないが、同一個体と思われる。11は小型の台付甕で、口径11.3cm、器高15.0cmを測る。甕部と脚部の中心軸がズレており、甕部が傾く。胴部下半部付近の輪積み部分で意図的に打ち欠き、分離した状態で出土した。これらの遺物は弥生時代後期後半頃のものである。

30号遺構（第89図、図版106）

12・13・14・15は近世のカワラケである。ロクロ成形で、底面に左回転糸切痕が認められる。江戸在地系のカワラケと比べ、やや厚ぼったい作りで、胎土も砂粒を多く含む。4点とも30号遺構でまとまって出土しており、地鎮等の祭祀行為に伴う可能性がある。墨書等は認められない。

32号遺構（第89図、図版106）

16は鉄製の板状鋤先である。刃先の両端部がやや丸くなっている、使用による摩耗の可能性がある。木製の身を取り付ける折り返し部分に木質は違っていない。基端折り返し部の内径は10.5mmを測る。板状の鋤先については弥生時代後期から古墳時代中期前半にかけて使用され、U字形の鋤先より古いとされる。

6. R2-3区（第90図～第96図、図版46～51、図版107）

II期区間の中央、都道東側に位置する。隣接する建物の歩行者通路を確保するため、調査区を北側・

中央・南側の3地点に分けて調査を行った。

1) 層序（第92図）

調査区全体で削平と擾乱を受けており、擾乱下でハードロームを検出した。北側、東側、西側（壁A・B・E）の一部では褐色土のローム漸移層（1層）が検出された。この漸移層は調査区南西側（壁C）と調査区南側（壁D）では検出されない。この漸移層下面の検出レベルは北側で標高20.52m、東側で標高20.85m、西中央で標高20.44mを測り、地形が東から西に傾斜していることが分かる。その他の堆積土（壁A・B・E 2～20層と壁C・D 1～4層）は近代以降の盛土あるいは擾乱土である。

2) 遺構（第91図、第2表（2）、図版46～47）

弥生時代の溝2条、近世の土坑5基、ピット10基が検出された。

i 弥生時代

1号遺構（第93図、図版47）

調査区南側で検出された溝である。やや北側へ弧状に膨らみながら東西方向へ延びており、両端部は調査区外へ延びる。平面形から周溝の一部の可能性がある。検出された延長は3.38m、上端幅0.65mを測る。底面は不整形で検出面からの深さ約0.4～0.55mである。断面は逆台形で、弧の内側がやや開く形で立ち上がる。溝覆土は上下2層に大別でき、上層（断面A-A' 1～4層、断面B-B' 1～7層）は黒色～黒褐色土主体、下層（断面A-A' 5層、断面B-B' 8層）はロームブロック主体で、強く締まる。下層上面は比較的平坦に整えられており、溝掘削後の人為的な埋め戻しによる堀り方埋土で、下層上面が構築時の溝底面と考えられる。遺物は検出されなかった。

2号遺構（第93図・第94図、図版47～49）

調査区中央で検出された。南東方向から北西方向へ延びる溝で、両端部は調査区外に延びる。検出された延長は3.45m、上端幅2.15mを測る。底面は不整形で深さ0.5～0.8mである。断面形は歪な逆台形を呈する。溝底面は凹凸が激しく不整形で、土坑が連続して連なるような掘り方を持つ。覆土は1号遺構と同様に上下2層に大別でき、上層（断面A-A' 1～5・7～9層、断面B-B' 1～10・12層）は黒色～黒褐色土主体、下層（断面A-A' 6・10～12層、断面B-B' 11・13・14層）はロームブロック主体あるいは多量に含み、締まりが強い。1号遺構と同様に、下層は溝掘削後の人為的な埋め戻しによる埋め土で、下層上面が構築時の底面と考えられる。検出範囲に比べ、遺構の規模が大きいため、明瞭な湾曲が認められないが、規模の大きな周溝の一部の可能性も考えられる。遺物の出土状況は平面的には散在しており集中部は認められず、1点を除いて全て覆土上層からの出土である。遺物は弥生土器が11点と礫1点が出土している。器種は高杯1点、甕・台付甕7点、不明細片3点で、内2点を図示した。

ii 近世

10号・15号・16号（第95図、図版50）

調査区東壁際で検出された近世の土坑群である。10号遺構は15・16号遺構を切る隅丸長方形の土坑で、覆土は単層（壁A・B・E19層）で灰黄褐色土である。近世の陶器・土器、瓦が出土している。15号遺構と16号遺構は2号遺構を切るが、互いの切り合いは不明瞭である。16号は大部分が調査区西側に延びており、溝の可能性も考えられる。覆土は7層に分けられる。覆土は黒褐色土～暗褐

色土が主体で、遺物は近世の土器が出土した。

13号遺構（第95図、図版50）

調査区中央、2号遺構北側で検出された近世の土坑である。長径0.73m、短径0.47mの梢円形で、深さ0.07mを測る。堀り方断面はレンズ状を呈する。覆土は3層に分けられ、黒褐色土が主体。遺物は出土しなかった。

17号遺構（第95図、図版50）

調査区西壁際で検出された近世の土坑で、2号遺構を切る。調査区外に延びており、形状は不明である。覆土は暗褐色土を主体とする。遺物は出土しなかった。

3号・4号・5号・6号・7号・8号・9号・11号・12号・14号遺構（第95図、図版50・51）

調査区内で検出された近世のピットである。3号遺構を除き調査区中央部に集中する。どの遺構も近世期の遺構に特徴的な黒褐色～暗褐色を呈する覆土を持つ。いずれの遺構からも遺物は出土していない。4号遺構と12号遺構には柱痕と考えられる堆積が認められるが、他の遺構には見られない。配置に建物跡などの規格性は認められない。

3) 遺物（第96図、第3表（7）、図版107）

調査区からは弥生土器18点、近世の磁器7点・陶器45点・土器13点・土製品1点・瓦1点、金属製品1点、礫1点、不明製品3点の総数90点が出土した。いずれも細片で、図示出来たのは2号遺構の出土の2点のみである。

2号遺構

1は弥生土器の甕あるいは台付甕の胴部破片である。2は甕底部である。いずれも細片であり、詳細な年代は不明である。

7. 20-10・11・14・15区（第97図～第107図、図版52～56・107）

II期区間の中央、都道の西側に位置し、北側に20-3～5・8区が隣接する。調査区北側に幅1.5mの歩行者通路を設け、南北2回に分けて調査を行った。当初想定より遺構確認面が深く、犬走りを設けて掘削調査を行った。

1) 層序（第99図～第100図、図版53）

現地表面下、0.6～0.7mまでは近現代の盛土整地層で、レンガ片やガラス等を含む。1層は褐灰色の覆土で、近代の遺物を含む。2層は調査区中央や北側から南側にかけて検出される、黒褐色土の盛土層で、近世の遺物のみを含むが、層検出面で遺構は検出されなかった。2層は近世あるいは明治時代の早い段階に盛土した整地層と考えられる。3層は、1層あるいは2層下で部分的に確認される締まりの強い黒色土主体の層である。下層の5層由来と思われる暗褐色土ブロックを含む。5層は現地表面下1.2～1.3m下で検出された暗褐色土層で、5層下から検出された6層はにぶい黄褐色土層の自然堆積層である。5層は縄文時代の堆積層、6層はソフトローム層に相当する。5・6層中から遺物は出土しなかった。ハードローム検出面は調査区南西隅（壁A）で約1.7m、北側（壁C）中央で約1.35m、北東側で約1.3mである。検出面の比高差から、調査区は北東から南西に向かって下る斜面地上に位置することが分かった。

2) 遺構（第98図、第2表（2）、図版52）

弥生時代の竪穴状遺構1基、中世の道路遺構1条・溝1条、近世の土坑3基・溝1条・柱穴4基を検出した。遺構検出面はいずれも暗褐色土の自然堆積層検出面である。

i 弥生時代

14号遺構（第101図、図版53）

調査区北東隅部で検出された竪穴状遺構である。上面を中世の3号遺構、近世の7号遺構に切られ、中央・南西隅は攢乱に壊される。長径3.0m以上、短径2m以上で北側と西側は調査区外に延びる。平面形は長方形を呈すると思われる。断面形は底面中央がやや低く、壁は上方に向かって開いて立ち上がる。覆土は3層に分けられ、黒色～黒褐色土が主体で、下位の2・3層はロームブロックをやや多く含む。貼床のような硬化面や柱穴・周溝などは検出されなかった。

遺物は弥生時代の土器が11点出土した。いずれも出土層位は覆土の中位である。器種は高杯1点・壺4点・甕・台付甕5点・不明細片1点である。その内2点を図示した。1点は弥生時代中期後半頃と考えられる小型の壺の胴部上半（第107図-6）で、覆土中位から横倒しの状態で出土した。

ii 中世

3号遺構（第102図・103図、図版54・55）

調査区東側で検出された、中世の道路遺構である。南南東から北北西方向へ調査区を縦貫する。東側を近世の7号遺構に切られる。検出面では灰黄褐色土と黒褐色土の硬化面が帶状に遺構の上を延びている。断面ではこれらの硬化面が重層的に堆積しており、3面の硬化面が検出された。第1硬化面は灰黄褐色土でロームを少量含む。締まりは強いが、粘性は乏しくブロック状に崩れる。第2硬化面は黒色土主体である。部分的に第1硬化面との間に酸化鉄の凝集した層が確認された。強く締まり、ブロック状に崩れる。第3硬化面は黒褐色土主体である。これらの硬化面は連続的なつながりが平面的に確認できない箇所がある。一度形成された硬化面が経年によって失われた後、補修によつて新しく作り直されたものと思われる。これらの堆積土をすべて除去した掘り方底面では幅0.4～0.6mの溝が2条検出された。溝の堀り込みは浅く、0.05～0.1m程度である。溝底面では複数力所で底面に径0.4m、深さ0.05～0.1m程度の深い堀り込みが検出された。堀り込み内の覆土は非常に強く締まり、粒径5～10mm程度の小礫を少量含む。この最下面を第4硬化面とした。遺構の形状と覆土の特徴から、鎌倉街道中ツ道の道路跡と考えられる。遺物は弥生土器3点と中世の陶器の細片2点が出土したが、図示に及ばなかった。

4号遺構（第104図・105図、図版54）

調査区中央を3号遺構と並行して縦貫する溝である。北側に隣接する20-3～5・8区の12号遺構、さらに北の20-2・13区の32号遺構と同一遺構である。調査範囲での延長は約5.5m、上端幅2.11m、下端幅0.25～0.35mで、深さ0.94mを測る。断面形は逆台形の底面を一段深く掘り下げる形状である。覆土中、検出面下0.1m程度で強く締め固められた硬化面を検出した。この硬化面下にも複数の硬化面が確認できる。いずれも溝中央を0.4～0.7mの幅で帯状に延びている。

第1硬化面（断面B-B'5層、断面C-C'7層、断面D-D'2層）は黒褐色土主体の層で、層厚は0.05～0.1m程度、直下にややローム粒を多く含む層（第1硬化面下層）が確認できる。第2硬化面（断面

B-B' 9 層、断面 C-C' 12 層、断面 D-D' 8 層）は検出面から 0.4m 程度で検出された。第 1 硬化面と同様に黒褐色土を主体とする。層厚は 0.1m 程度を測る。第 3 硬化面（断面 A-A' 1 層、断面 B-B' 10 層、断面 C-C' 13 層、断面 D-D' 9 層）は、黒褐色土～灰黄褐色土で作られる。第 4 硬化面（断面 A-A' 3 層、断面 B-B' 11 層、断面 C-C' 15 層、断面 D-D' 11 層）は、黒褐色土主体で、粒径の大きなロームブロックを多く含む。第 4 硬化面は上層の硬化面と比べ色調や、ロームブロックを多く含むなどの相違があり、溝掘削後の堀り方の埋め土と考えられる。第 1 ～ 3 硬化面は同調査区の 3 号遺構等の道路遺構に類する色調を持つ。溝が埋没する過程で、道として使用されていた可能性も考えられる。溝として構築された段階での機能はについては不明であるが、同時代頃の遺構である道路遺構と関連がある可能性がある。

遺物は繩文土器 2 点、弥生土器 8 点、中世から近世初頭の陶器 6 点、礫 2 点、総数 18 点出土した。遺物の多くは第 1 硬化面下層覆土中の出土で、より深い場所での出土は見られない。覆土上面付近で近世前半の遺物を含み、遺構が完全に埋没した時期は近世まで下ると考えられる。

Ⅲ 近世

7 号遺構（第 106 図、図版 56）

調査区東際で検出された南北に延びる溝である。南北方向は調査区外に延び、東側は都道下に延びる。3 号・14 号遺構を切る。調査範囲内の延長は 4.25m、幅は 0.86m、深さは 0.28m を測る。覆土は 3 層に分けられ、1 ～ 2 層は基本層序の 2 層に類似する黒褐色土主体の覆土である。遺物は弥生土器 6 点、近世の陶器片 2 点が出土した。周辺の調査結果の状況から、日光御成街道の西側側溝と考えられる。

1 号・2 号・10 号遺構（第 106 図、図版 55・56）

調査区内で検出された近世の土坑である。1 号遺構は調査区南際で検出された。中世の 4 号遺構を切り、近代の攪乱に壊される。南側は調査区外へ延びる。深さ 0.38m を測る。壁は真っ直ぐ立ち上がり、平面形は方形を呈すると思われる。覆土は黒褐色土主体である。遺物は出土していない。2 号遺構は大部分が攪乱に壊され、平面形は不明である。覆土は黒褐色土主体である。近世の磁器 1 点・陶器 1 点・土器 1 点・瓦 2 点が出土した。出土遺物の年代は 18 世紀中頃～ 18 世紀末頃のものである。10 号遺構は調査区北際で検出された。一部近代の攪乱に壊される。北側は調査区外へ延びる。覆土は黒褐色土主体である。遺物は出土していない。

5 号・6 号・8 号遺構（第 106 図、図版 56）

調査区内で検出された近世の柱穴である。5 号・6 号は南側を攪乱に壊される。両遺構とも覆土は黒褐色土を主体とする。6 号は柱痕（2 層）が認められる。8 号遺構は、長径 0.33m、短径 0.26m の梢円形で、深さ 0.43m を測る。覆土は黒褐色土主体で、中央に柱痕が認められる。これらの検出された柱穴について、配置に建物跡などの規格性は認められなかった。いずれの遺構からも遺物は出土しなかった。

3) 遺物（第 107 図、第 3 表（7）、図版 107）

繩文土器 4 点、弥生土器 51 点、近世の磁器 32 点・陶器 84 点・土器 29 点・土製品 7 点・瓦 2 点の、総数 209 点が出土した。多くが細片で図示出来たのは 10 点である。

4号遺構（第107図）

1～3は4号遺構から出土した。1は瀬戸・美濃産の陶器天目碗で17世紀前半頃のものである。遺構確認面直下の覆土中から出土した。2は第1硬化面下層から出土した。瀬戸・美濃産の鉄軸皿である。陶器底面はクリ底で、高台内外周に鉄軸が施される。生産年代は16世紀後半から17世紀初頭頃である。3は常滑産の甕胴部破片である。2と同様、第1硬化面下層出土で4点が接合した。年代は中世に遡るが、破片の為、詳細は不明である。

7号遺構（第107図）

弥生土器6点、近世の陶器2点が出土した。4は瀬戸・美濃産の陶器皿で、17世紀後半～18世紀前半頃のものである。

14号遺構（第107図、図版107）

14号遺構からは弥生土器が14点出土し、内2点を図示した。5は甕の口縁部破片で、口唇部に不均等な間隔で刻みが入る。弥生時代中期後半頃のものと考えられる。6は小型壺の口縁～胴部である。口縁部は強く外反せず、端部に装飾は施されない。胴部も強く張らない形状と考えられる。年代は中期後半のものと考えられる。

7～10は近世以降の盛土整地層から出土した近世の陶磁器・土器である。出土層位は調査区基本層序の2層からのもので、時期は18世紀後葉～19世紀中頃までとやや幅がある。

8. 20-3～5・8区（第108図～123図、図版57～64・107・108）

II期区間中央、都道の西側に位置し、北側に20-2・13区、南側に20-10・11・14・15区が隣接する。調査区は北側20-4区と南側20-3・5・8区に分けて調査を行ったが、連続して調査を行えたため、まとめて掲載する。

1) 層序（第110図～111図、図版58）

調査区北側（壁B）は現地表面下、0.45mでソフトローム（6層）を検出した。また、部分的にソフトロームより上部で暗褐色を呈する縄文時代の自然堆積土（5層）が検出された。1～4層は近代以降の盛土整地土である。北西側（壁A）では、北側同様にソフトロームより上部の自然堆積層を検出した。検出高は北側で標高20.7m、南側で標高20.5mと南に向かって下る様子が認められた。調査区南東側（壁C）では現地表面下0.6mまで近代以降の盛土整地土（1～2層）が堆積している。3層は近世以降から近代初頭頃と推定される盛土で、4～6層は近世の遺構である24号遺構覆土である。調査区南側（壁D）ではインフラ管の掘り方と擾乱によって現地表面下0.9～1.5mまで壊されているが、12号遺構の西側では暗褐色土の自然堆積層とソフトローム層が検出された。調査区南西側（壁E）では、北側が現地表面下0.75m、南側が0.85mで暗褐色土の自然堆積層（4層）を検出した。ハードローム検出面の深さは壁E北側で20.0m、南側で19.85mである。これらの堆積状況から、調査区は北東から南西に向かって下る斜面地であったことが分かる。

2) 遺構（第109図、第2表（2）、図版57・58）

弥生時代中期の溝1条、中世の溝1条、近世の溝2条・土坑5基・柱穴19基・ピット9基が検出された。

i 弥生時代中期

25号遺構（第112図・113図、図版59）

調査区南側で検出された弥生時代の溝である。近現代の攪乱のほか、中央部を中世の12号遺構に、東側を近世の24号遺構、西側を近世の27号遺構に切られる。東端が近世以降の植栽痕に乱されているが、長径は東西方向に約9.4m、短径の上端幅2.25m、下端幅1.52m、深さ0.67mを測る。底面は不整形で凹凸がある。縦断面は中央部が最も深く、東西両端に向けて緩やかに立ち上がり、横断面は歪な逆台形で北側が南側より開いて立ち上がる。覆土は上層と下層に大別できる。上層（断面B-B' 1～4層、断面C-C' 1～9層）は概ね黒色～黒褐色を呈し、粒径1mm未満の赤色スコリアと1～2mmの黄色スコリアを少量含む。下層（断面B-B' 5～9層、断面C-C' 10～12層）は、上層に比べローム粒・ブロックを多く含み、色調も灰黄褐色～にぶい黄褐色を呈する。下層の層厚は0.05～0.1m未満である。下層は上層に比べ締まり、粘性共に強いが、人為的に縮め固めが行われたような痕跡は認められない。下層覆土については溝の底面を整える構築時の埋め土とも考えられるが、断面での堆積でも丁寧な整地のようにはみられず、詳細は不明である。

遺物の出土状況は平面では溝中央と西側に集中部がみられる。覆土上位から中位にかけての遺物が多く、覆土下層からの出土は少ない。遺物の接合関係では、比較的近距離同士の遺物が接合する。33は覆土上層の下部から出土した破片と、覆土上層出土破片との接合遺物である。覆土上層から遺構検出面までは短い期間内に埋没したと思われる。

遺物の出土数と時期は、弥生時代中期の土器が335点出土した。器種は高環2点・壺156点・甕・台付甕167点・鉢1点・不明細片8点・礫1点である。その内19点を図示した。

検出された規模の溝を作った弥生時代中期後半の遺構として、四隅切の方形周溝墓が挙げられるが、調査範囲内で同時代の遺構は検出されなかった。

ii 中世

12号遺構（第114図～116図、図版60）

調査区中央を南南東から北北西に縦貫する溝である。隣接する20-2・13区の32号遺構と、20-10・11・14・15区の4号遺構と同一の遺構である。調査範囲内の延長は16.52m、上端幅2.26m、深さ0.85mを測る。弥生時代の25号遺構を切り、他の重複する遺構全てに切られる。溝の断面は逆台形の底面を一段掘り下げる形状である。覆土は検出面で黒褐色土、あるいは黒色土で、検出面下0.15～0.2mで硬化面を検出した。覆土断面の観察では、溝の堆積土中に複数の硬化面が確認できる。この硬化面は溝の中央を約0.2～0.6m程の幅で帯状に延びる。第1硬化面（断面A-A' 5層、断面B-B' 3層）は灰褐色～黒褐色を呈し、厚さ0.05m程である。第2硬化面（断面A-A' 7層、断面B-B' 4層）は第1硬化面下で検出され、層厚0.1m程、灰黄褐色土を主体とする。第3硬化面（断面A-A' 11層、断面B-B' 9層）は灰黄褐色あるいは暗褐色土で層厚0.1mを測る。第4硬化面（断面A-A' 15層、断面B-B' 13層）は暗褐色を呈し、ロームブロックを多く含む。第5硬化面（断面A-A' 18層、断面B-B' 14層）はにぶい黄褐色土主体で、粒径の大きなロームブロックを多く含む。第5硬化面については、溝構築時の底面を整えるための人為的な埋め戻し土と考えられる。

硬化面の覆土の色調や面数は、各断面や隣接する調査区の同遺構と整合しない。これは硬化面を構

築する覆土の投入が、短い区間に分けて行われていたことによるものと思われる。同様な例では同じく中世の遺構で、各調査区で検出される鎌倉街道中ツ道の道路遺構硬化面が挙げられる。

遺物は 105 点が出土した。内訳は縄文土器 1 点、弥生土器が 88 点、中世の須恵器と、中世～近世初頭の陶器破片が 15 点、板碑の破片とみられる緑泥片岩の破片 1 点である。弥生土器は 12 号が切る 25 号遺構から流れ込んだものと考えられる。中世の遺物は第 1 硬化面および第 2 硬化面の覆土中から 10 点集中して出土しており、最も深い位置で出土したものは第 2 硬化面中で、第 3 硬化面以下からは弥生時代以前の遺物のみ含む。近世初頭の遺物は検出面直下の 1 層出土である。遺物の出土状況から、溝の構築年代は中世以前に遡り、埋没時期は近世初頭以降と考えられる。

Ⅲ 近世

24 号遺構（第 116 図、図版 61）

調査区東端を南北方向に延びる溝で、北側を 6 号遺構に切られ、南側は調査区外に、東側上端は都道下へ延びる。調査範囲内の延長は 9.15m、上端幅 1.31m、検出面から底面の深さ 0.26m を測る。断面形は逆台形を呈すると考えられる。覆土は黒褐色土主体で、ロームブロックの他、1・2 層では黒色土の硬化ブロックを含む。周辺の調査区での成果から、24 号遺構は近世の日光御成街道の西側側溝で、覆土に含まれる硬化ブロックは、鎌倉街道中ツ道の路盤に由来するものと思われる。遺物は中世の甕 1 点、近世の陶器碗・皿・瓶・土瓶・捕鉢等の破片 10 点が出土した。近世の陶器の製作年代は 18 世紀後半から 19 世紀前半頃のものである。

6 号遺構（第 118 図、図版 61）

調査区中央を西南西から東北東方向に横断する溝で、東西両端は調査区外に延びる。重複する遺構をすべて切る。調査範囲内の延長は 12.84m、上端幅は 1.88m、深さは 0.47m を測る。断面は浅いレンズ状を呈する。覆土は黒褐色～暗褐色土主体で、近世後期の遺物を含む。断面 A-A' の 3 層に含まれる黒褐色土の硬化ブロックは 12 号遺構の硬化面に由来するものと思われる。日光御成街道の側溝と考えられる 24 号と直交することから、近世の区画溝と考えられる。遺物は 171 点が出土した。内訳は縄文土器 2 点、弥生土器 16 点、中世の板碑片 1 点、近世の磁器 45 点・陶器 62 点・土器 38 点・土製品 2 点・石製品 1 点・金属製品 4 点である。近世の陶磁器・土器の年代は 18 世紀後半～19 世紀中頃のものが主体を占める。

1 号・3 号・4 号・5 号・26 号遺構（第 117 図・120 図、図版 62）

調査区内で検出された近世の土坑で、1 号・3～5 号遺構は調査区北側で検出された。1 号遺構は長径 1.35m 短径 0.61m、深さ 0.23m を測る。覆土は黒褐色土の単層で、18 世紀後葉～19 世紀前半の陶磁器・土器が 7 点出土した。3 号遺構の平面形は確認面では一辺約 0.95m の隅丸方形を呈するが、遺構確認面から 0.18m 下で径 0.5m の円形になる。断面は逆凸字形である。遺構の形状から桶あるいは甕を据えた遺構の掘り方で、抜き取り後に埋め戻されたと思われる。近世のピットである 2 号遺構を切る。遺物は近世の陶器片 1 点が出土した。4 号遺構は長径 0.99m、短径 0.85m の楕円形で、深さ 0.15m を測る。浅くレンズ状に掘り込んだ土坑で、覆土は黒褐色を呈する。19 世紀以降の土器 1 点が出土した。5 号遺構は調査区東際で検出された。東側は調査区外へ延びる。調査範囲内では長径 2.46m、短径 1.24m、深さ 0.55m を測る。上面を 6 号・13 号遺構に切られ、24 号遺構と

の切り合は不明瞭である。覆土は黒褐色土の単層である。遺物は弥生土器 9 点、近世の磁器 2 点・陶器 1 点・土器 4 点が出土し、内 1 点を図示した。出土した遺物群の年代は 18 世紀中頃～18 世紀末頃を示す。26 号遺構は調査区南側で検出された。近世の 24 号遺構を切る。長径 1.67m、短径 0.73m、深さ 0.36m を測る。覆土は単層で灰黄褐色を呈する。24 号遺構同様に、鎌倉街道中ツ道に由来するものと思われる硬化ブロックを少量含む。「イモ穴」と呼ばれる農業関連遺構に類するものと考えられる。遺物は出土しなかった。

7 号・8 号・9 号・10 号遺構（第 117 図、図版 63）

調査区北側、12 号遺構の東で検出された柱穴列である。いずれも 12 号の東側上端を切って造られる。径 0.3 ～ 0.45m、深さ 0.3 ～ 0.5m を測る。7 号の中心から 10 号の中心までの距離は 2.75m を測る。どの遺構も黒褐色土を主体とする近世の覆土で充填される。いずれの遺構からも遺物は出土しなかった。

13 号・14 号・15 号・16 号・17 号遺構（第 117 図・119 図、図版 63）

調査区北側 6 号遺構の底面で検出された柱穴列である。6 号遺構の中軸からやや南側を溝と並行して東西に延びる。径 0.3 ～ 0.45m、深さは 0.3 ～ 0.5m で、13 号の中心から 17 号中心までの距離は 7.35m を測る。6 号遺構は近世の区画溝と考えられることから、これらの柱穴は溝の土留め板柵の支柱穴列あるいは、溝構築前の区画柵列であると思われる。17 号遺構から 19 世紀以降の土器片 1 点が出土した。

2 号・11 号・18 号～23 号・27 号～37 号遺構（第 119 図・120 図、図版 64）

近世の柱穴及びビットである。いずれも覆土は黒褐色土を主体とする近世の覆土で充填される。11・20・21・23・27・28・29・30・33・36 号遺構は柱痕が認められる。柱痕は径 5cm ～ 15cm で、建物の柱としてはやや細く、杭あるいは柵の支柱などが想定されるが、並びに規格性が認められない。それぞれの形状や覆土については図中に示し、各遺構の規模については遺構観察表を参照されたい。遺物は 22 号遺構から弥生土器 1 点と 18 世紀後半の陶器皿片 4 点、30 号遺構から 18 世紀後葉の陶器皿片 1 点、34 号遺構から弥生土器 1 点と 18 世紀後葉～19 世紀の土器 2 点が出土している。

3) 遺物（第 121 図～123 図、第 3 表（7）～（9）、第 4 表（2）、図版 107・108）

調査区内からは縄文土器 4 点・石器 1 点、弥生土器 634 点、須恵器 3 点、中世の陶器 6 点、近世の磁器 128 点・陶器 157 点・土器 122 点・土製品 4 点・石製品 3 点、金属製品 12 点、礫 3 点の総数 1076 点が出土した。その内 44 点を図示した。以下、出土遺構ごとに取り上げる。

5 号・6 号遺構（第 121 図、図版 107）

1・2 は 5 号遺構出土遺物で、1 は肥前産磁器の染付丸碗である。2 は江戸在地系のカワラケである。3～12 は 6 号遺構出土遺物で、3 は肥前産磁器の丸碗、4 は瀬戸・美濃産陶器の半筒碗。5～7 は瀬戸・美濃産の陶器皿である。5 は内面に鉄絵で唐草文を施す。6 は見込みに環状の重ね焼痕が認められる。7 は内面見込み部分に蛇の目釉剥ぎを施す。8 は堺・明石産の擂鉢破片で、断面部 3 辺に研磨痕が認められ、転用砥である。9 は瀬戸・美濃産擂鉢で擂目は 7 本 1 単位。10 は備前産と思われる擂鉢で、無釉。擂目は 1 単位 8 本以上である。11 は板磚の破片で、緑泥片岩製で表面に区画線 1 条が認められる。裏面は剥落しており、加工痕は認められない。12 は寛永通寶の四文銭で裏面の波数は 11 である。

出土遺物群の年代観は 6 号遺構に記述のとおりである。

12 号遺構（第 121 図・122 図、図版 107）

13～16 は弥生土器の破片である。13 は壺胴部で、最大径は胴下半部に持つ形状と思われる。14・15 は甕の破片である。14 は底部で、外面にやや粗い縦方向のハケ調整が施される。15 は胴部上半の破片と思われる。厚手の作りで外面が被熱する。16 は台付甕口縁部である。甕部の下半部に最大径を持つ形状と考えられる。17～22 は古代～近世初頭の須恵器・陶器である。17 は瀬戸・美濃産の灰釉陶器皿で、見込み部分に環状の重ね焼き痕が認められる。18 は常滑産甕肩部の破片で、外面に自然釉が付着する。19 は常滑產と思われる甕胴部破片である。20・21 は須恵器の長頸瓶の口縁部破片である。接合しないが、同一個体と思われる。22 は須恵器の高台付环底部である。胎土に骨針は認められない。

25 号遺構（第 122 図・123 図、図版 107・108）

23～41 は 25 号遺構出土の弥生土器である。23～26 は壺の破片である。23 は外面に縦方向のハケ調整後、4 条 1 単位の櫛状工具による波状沈線を横方向に施す。24 は 3 本以上 1 単位の櫛状工具による波状沈線 2 段で区画し、区画内に 3 本 1 単位の横方向の沈線を 2 段加え、その間に刺突による列点を巡らせている。25 は口縁部破片で、頸部にかけて縦方向のハケ調整を施し、口縁外帯に RL 繩文を施文する。26 は頸部から肩部にかけての破片で、LR 繩文施文後、櫛状工具による平行沈線(4 条 1 単位)を反時計回りに巡らせ区画し、上段に沈線、下段に刺突による列点を巡らす。27～29 は甕の破片である。27 は口縁部破片で、口縁部に横方向のハケ調整後、口唇部に棒状工具で刻みを入れ、頸部以下は縦方向のハケ調整を施す。28 は口縁部に横方向のハケ調整後、指頭押捺によって波状口縁を作る。29 は胴部破片で、横方向のハケ調整後、櫛状工具による平行沈線(4 本 1 単位)を斜めに施す。30～34 は壺である。30 は外面ヘラミガキ後、赤彩を施す。胴部上半に最大径を持つ形状と考えられる。31・32 は小型の壺底部で、32 の表面は被熱により大部分が剥落している。33・34 は底面から内側に向かって立ち上がったあと、外側へ開く形状である。底面に木葉痕が残る。35～40 は甕である。35 は口縁部内外面と口唇部に横方向のハケ調整後、口唇部の外端に棒状工具による刻みを施す。36・37 は底部である。共に被熱の痕跡が見られ、37 は内面にはススが付着する。底面には木葉痕が残る。38 は口縁部の内外面に横方向のハケ調整後、指頭押捺によって波状口縁を作る。胴部外面は斜め方向のハケ調整を施し、同部内面は工具による横方向のナデ調整の痕跡が見られる。39 は口縁部の内外面に横方向のハケ調整後、指頭押捺による波状口縁を作る。胴部外面は被熱により表面が剥落しているが、横方向のハケ調整痕が認められる。胴部内面は横方向のハケ調整後、工具による横方向のナデ調整の痕跡が見られる。40 は 25 号遺構西側の覆土上位で出土した。外面の口縁部に縦方向のハケ調整後、口唇部に刻みを入れる。胴部は横方向、底部は縦方向のハケ調整を施す。底面中心からやや外れた箇所に両面からの穿孔が行われている。焼成後穿孔である。胴部外面上半に付着するススの位置(巻頭写真 5 参照)から、懸に転用されたと考えられる。41 は小型の台付甕の脚台部で、外面は外側にやや膨らんでから窄まる形状である。内面湾曲しながら立ち上がる。これらの遺物はやや前後はあるものの概ね弥生時代中期後半頃の特徴を持つ土器群である。

42、43 は表土から出土した。42 は繩文時代の打製石斧である。石材はホルンフェルスで、半分を欠損する。表面の半分は原礫面を残す。43 は肥前産磁器皿で、見込みに蛇の目釉剥ぎ、外面底部

は無釉である。44 は 25 号を壊す擾乱坑から出土した。弥生土器の壺底部である。外面は縦方向のハケ調整後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整が施される。底面に木葉痕を残す。

9. 20-2・13 区（第 124 図～138 図、図版 65～70・108）

II 期区間中央、都道西側に位置する。20-3・5・8 区の北側に隣接する。調査は南北 2 回に分けて調査を行った。

1) 層序（第 126 図・127 図、図版 66）

調査区全体が近代以降の削平と擾乱を受けている。調査区東側の一部で近世以降の盛土層が検出されるが、ハードローム以上の自然堆積層は失われている。調査区西側（壁 A）は、現地表面下 0.35m 下でハードロームを確認できるが、大半は 0.65m 近くまで削平を受ける。1～9 層が近代以降の擾乱や盛土層で、10～12・14・15 層は 35 号遺構、13 は 25 号遺構覆土である。北側（壁 B）は、1 層は 2 号遺構覆土、2・7～14 層は近世以降の盛土整地層、15～17 層は 24 号遺構覆土、19・20 は 35 号遺構の貼床である。南側（壁 E）は現地表面下 0.35m～0.6m で削平を受けたハードローム面を検出した。3 層の近世以降の盛土は東側の一部でのみ確認できる。南東側（壁 F）は擾乱を強く受け、近代以降の盛土のみ検出される。

2) 遺構（第 125 図、第 2 表（2）・（3）、図版 65）

弥生時代の竪穴住居跡 1 軒、弥生時代から古代の溝 1 条、中世の道路遺構 1 条・溝 1 条、近世の土坑 4 基・溝 2 条・柱穴 39 基が検出された。

i 弥生時代

35 号遺構（第 128 図～130 図、図版 66・67）

調査区北西隅部で検出された弥生時代の竪穴住居跡である。西北西方向に主軸を持つと考えられる。北西側は調査区外へ延びる。近代以降の削平・擾乱を受けており、北西側は表土を除去した段階で貼床面を検出した。南東側でわずかに覆土と壁が検出された。住居中央部は 25 号遺構によって切られる。調査範囲内の検出規模は、長径で 3.85m 以上、短軸で 3.9m を測り、貼床までの覆土は 0.06m である。平面形は楕円形を呈する。覆土（断面 A-A'、断面 B-B'）は 8 層に分けられる。1 層が住居覆土で、黒褐色土主体でローム粒と焼土を少量含む。2 層が貼床で、灰黄褐色土が主体でロームブロックを多く含む。3～11 層が掘り方覆土である。貼床面から掘り方底面までの深さは 0.21m である。柱穴、ピットは 6 基検出された。P1 は長径 0.61m、短径 0.42m で、深さ 0.34m を測る。P2 は長径 0.32m、短径 0.26m の不整円形で、深さ 0.21m を測る。P4 は径 0.22m の円形で、深さ 0.24m を測る。P5 は長径 0.41m、短径 0.31m の長円形で深さ 0.3m を測る。P6 は大部分が調査区外に延び、形状は不明。貼床面からの深さは 0.35m 以上である。P7 は長径 0.46m、短径 0.44m の円形で、深さ 0.17m を測る。検出位置から P1・P2・P5・P6 が主柱穴、P4 もしくは P7 が梯子穴に相当すると考えられるが、住居の規模に対し主柱穴の規模が小さく感じられる。炬跡、周溝は検出されなかった。

遺物の平面的な出土状況は南東側がやや多いが、これは南東側のみで竪穴覆土が残存していたためと考えられる。出土遺物は弥生時代後期の土器 89 点出土した。全て破片資料である。出土位置は、住居覆土中から 10 点、貼床直上から 16 点、貼床下の掘り方覆土から 51 点、P1 から 3 点、P2 か

ら 1 点、P 3 から 2 点、P 6 から 1 点、P 7 から 5 点が出土した。器種は高环 1 点、壺 36 点、甕・台付甕 26 点、不明細片 26 点である。その内、4 点を図示した。8、10 は床直上から出土した。9 は掘り方覆土中からの出土である。出土土器の年代は床直上出土の遺物を含め、弥生時代後期後半頃の年代を示す。

ii) 弥生時代から古代

25 号遺構（第 131 図、図版 68）

調査区北側で検出された。東西方向に延びる溝で、西側は弥生時代の 35 号遺構を切り、調査区外へ延びる。東側は中世の 32 号遺構に切られる。調査範囲内の延長は 9.9m、上端幅は最大 1.45m、深さ 0.38m を測る。断面形は逆台形の底面を一段深く掘り下げる形状であるが、大部分で上面を削平されており、詳細は不明である。覆土は黒褐色土を主体とする。覆土中に砂粒の堆積など、滯水していた痕跡は認められなかった。遺物は弥生時代後期の土器片 28 点が出土した。出土位置は以降全体に散漫に分布している。器種は高环 3 点・壺 11 点・甕・台付甕 13 点・不明細片 1 点である。その内 3 点を図示した。

iii) 中世

24 号遺構（第 132 図、図版 68）

調査区北東隅、2 号遺構底面で検出された黒褐色土の硬化面で、中世の道路遺構であると考えられる。硬化面の北側と東側は調査区外に延びる。検出範囲は長さ 2.22m、幅 0.61m、深さ 0.27m である。覆土は、検出面の 1・2 層が非常に強く締まり、硬化面を形成している。3～5 层は 1・2 層に比べやや締まりが弱く、敲き締められた痕跡は認められない。遺物は出土していない。周辺の調査区の状況から、鎌倉街道中ツ道の道路硬化面の可能性が高い。

32 号遺構（第 132 図、図版 68）

調査区北側から端を発し、南方向へ調査区外に延びる溝である。南に隣接する 20-3～5・8 区の 12 号遺構、20-10・11・14・15 区の 4 号遺構と同一遺構である。調査区設定の都合で断面 C-C' で南北に分けて調査を行った。調査範囲内の延長は 6.03m、上端幅は 1.65m、深さ 0.48m を測る。断面は逆台形の底面を一段深く掘り込む形状である。北側を近世の土坑と思われる掘り込みにより壊される（1～4 層）。覆土の 5・6・9 層が黒褐色土主体、下層の 7・8 層がロームブロックを多く含む灰黄褐色土主体である。5 層は固く締まり、硬化面を形成する。7・8 層は溝構築時の底面を整えるための人為的な埋め戻し土と考えられる。断面の堆積状況から、溝は南に向かって下っており、北側程強く削平を受けていることが分かる。遺物は出土しなかった。

iv) 近世

2 号・68 号遺構（第 133 図・134 図、図版 69）

調査区東際で検出された溝である。2 号遺構は北側と東側、68 号は南側と東側の調査区外にそれぞれ延びる。2 号遺構の調査範囲内の延長は 3.34m、幅 1.42m、深さ 0.36m を測る。68 号遺構は延長 2.89m、幅 1.12m、深さ 0.17m を測る。両遺構は間を搅乱で分断されているが、同一の遺構と考

えられる。遺物は両遺構から弥生土器 3 点・近世の磁器 17 点・陶器 14 点・土器 6 点・瓦 4 点、綠泥片岩片 1 点が出土した。近世の陶器・土器は 19 世紀前半以降のものを含む。

周辺の調査の状況から、この溝は日光御成街道の西側側溝と考えられる。両遺構とも覆土中に黒色あるいは黒褐色のブロックを含むが、これらは溝が壊した鎌倉街道中ツ道の道路硬化面に由来すると考えられる。

5 号・8 号・9 号・36 号遺構（第 133 図・136 図、図版 69）

近世の土坑である。5 号遺構は調査区中央で検出された。西側を擾乱で壊される。長径 0.7m、短径 0.54m、深さ 0.18 m を測る。覆土は単層で黒褐色土主体である。弥生土器の細片 1 点が出土した。詳細は不明。

8 号遺構は 2 号遺構と 9 号遺構に切られる。長径 0.61m、短径 0.55m、深さ 0.15m を測る。覆土は黒褐色土主体である。遺物は出土しなかった。

9 号遺構は 8 号遺構を切る。長径 1.78m、短径 0.67m、深さ 0.21m を測る。覆土は黒褐色土主体である。遺物は出土しなかった。

36 号遺構は調査区南西部で検出された。長径 1.06m、短径 0.51m で、深さ 0.19m を測る。弥生土器の甕・台付甕細片 1 点が出土した。

43 号～45 号・58 号・60 ～63 号遺構（柱穴列 A）

38 号・40 号・50 ～54 号・59 号遺構（柱穴列 B）（第 134 図・135 図、図版 70）

調査区南際で検出された 2 条の柱穴列である。柱穴列 A は径約 0.3 ～ 0.7m、深さ約 0.3 ～ 0.5m を測る柱穴が並ぶ。43 号遺構中心から 63 号遺構中心の距離は 7.45m を測る。柱穴列 B は径約 0.25 ～ 0.5m、深さ 0.35 ～ 0.6m を測る柱穴が並ぶ。40 号遺構の中心から 67 号遺構の中心までの距離は 9.25m を測る。二つの柱穴列は日光御成街道の西側側溝と考えられる 68 号溝に直交する。また、各柱穴の規模や覆土中に見られる柱痕が建物の柱としては小規模のため、用途としては近世の区画に伴う柵列が想定される。柱穴列 A・B の新旧関係については明らかではないが、一部の柱穴には掘り直しとみられる堀方形状を持つ物があり、何處かの造り直しが行われたと考えられる。

その他の柱穴群（第 133 図・136 図・137 図、図版 70）

近世の柱穴である。いずれも覆土は黒褐色土を主体とする近世の覆土で充填される。6・7・29・46・47・64 号は柱痕が認められる。柱痕は径 5 ～ 15cm で、建物の柱としてはやや細く、遺構の並びに規格性が認められないため、杭跡などが想定される。それぞれの形状や覆土については図中に示し、各遺構の規模については遺構観察表を参照されたい。

3) 遺物（第 138 図、第 3 表（9）、第 4 表（2）、図版 108）

調査区からは、縄文土器 1 点、弥生土器 127 点、近世の磁器 49 点・陶器 52 点・土器 28 点・瓦 5 点、銭貨 7 点の総数 268 点が出土した。その内 19 点を図示した。以下、遺構ごとに記述する。

2・68 号遺構（第 138 図、図版 108）

1 は近世の肥前産磁器碗。2 は堺・明石産の擂鉢である。3 は甕の胴部破片で、器壁の厚いつくりである。弥生時代後期後半頃のものと思われる。

25 号遺構（第 138 図、図版 108）

4～6は台付甕の接合部から脚部にかけての部位である。4は小型の台付甕で内面・外面共にナデ調整が施されるナデ甕である。5は内外面にハケ調整、6は外面ハケ調整で、内面にナデ調整が施される。弥生時代後期後半頃のものである。

35号遺構（第138図、図版108）

7は甕口縁の破片、8は壺、9・10は台付甕である。7は口唇部にナデ調整後、棒状工具による押圧を行う。8は壺底部で、外面へラミガキ、内面に斜め方向のハケ調整の痕跡が残る。9は台付甕の脚部で、外面に斜め方向のハケ調整、内面に横方向のナデ調整が施される。10は台付甕の甕胴部で胴部上半に最大径を持つ形状である。弥生時代後期後半頃の年代を示す。

52・55号遺構（第138図）

11～14は近世の寛永通寶錢で、11・13・14は古寛永錢、12は新寛永錢である。

15～18は近代の盛土整地層から出土した。15は肥前産磁器のくらわんか碗、16は肥前産陶器の三島手鉢、17は瀬戸・美濃産の灰釉高田徳利で五合容量のもの、18は江戸在地系土器の脚付燭台の脚部である。18世紀第3四半期の遺物が多く含まれる。

10. R2-1区（第139図～144図、図版71～74）

II期区間中央、20・2・13区の都道を挟んだ東側にある。調査区東側は近世期に創建されたと伝えられる西音寺に隣接する。調査は中央に西音寺参道に連なる生活道路を設け、北側と南側に分けて調査を行った。生活道路部分は南北調査区の状況から、削平・攪乱を受け壊されていると判断され、未掘削で調査を終了した。

1) 層序（第141図、図版72）

北側調査区では、現地表面下0.3～0.4mで削平されたハードローム面を検出した。検出面より上位の堆積は近現代以降の盛土整地土（壁A・B1層）で、ハードローム検出面より上位の自然堆積層は失われている。壁A・Bの2～8層は近世の1号遺構覆土である。南側は近代以降の攪乱によって大きく壊されている。南側調査区は調査区中央東側で、現地表面の路盤の碎石敷き直下、深さ0.05mで削平を受けたハードローム面を検出した。南側は建物基礎により現地表面下1.1mまで攪乱を受けている。西壁Cでは現地表面下0.5m前後で近世の遺構群の覆土を検出した。壁Cの1～4は近現代の盛土整地土、5～13は近世の遺構覆土である。

2) 遺構（第140図、第3表(2)、図版71・72）

近世の溝1条・土坑6基・井戸1基が検出された。検出された遺構は8号遺構を除き、すべて調査区西際で検出され、調査区外へ延びており、正確な規模や形状は不明のものが多い。

i 近世

1号遺構（第142図、図版73）

北側調査区の西壁際で検出された溝である。南北方向に土坑状の掘り込みが連続して連なり、溝状になっている。南側は攪乱に壊されており、北端と西側上端は調査区外へ延びる。検出された延長は南北5.73m、上端幅1.00mで、深さ0.42mを測る。覆土は上位が近世の遺物を含む黒褐色土が主体で、底面にロームを多く含むぶい黄褐色土の層が認められる。遺物は近世の磁器18点・陶器9点・

土器 1 点が出土した。これらの遺物の年代は 18 世紀後半～19 世紀前半頃のものである。日光御成街道東側の側溝の可能性も考えられるが、これまで都道東側での検出例はなく、現段階での詳細は不明である。

2・3・4・5・6・7 号遺構（第 142 図・143 図、図版 73・74）

南側調査区西壁際で検出された土坑群である。複数の土坑が切り合い、大半が西側の調査区外へ延びるため、形状は不明である。いずれも底面の掘り方は不整形である。

2 号遺構は 3・4 号遺構を切る。覆土は近世の遺物を含む黒褐色土と粒径の大きいロームブロックを多く含む灰黄褐色～にぶい黄褐色土が互層状に堆積しており、人為的に埋め戻しが行われたものと思われる。遺物は縄文土器 1 点、弥生土器 5 点、近世の磁器 24 点・陶器 46 点・土器 9 点・瓦 1 点・石製品 2 点の 88 点が出土した。その内 1 点を図示した。

4 号遺構は 2 号遺構の南側で、2 号遺構に切られて検出された。覆土は黒褐色土主体の単層でロームブロックを多く含む。遺物は出土しなかった。

5 号遺構は 3・6 号遺構を切る。覆土は黒褐色土主体で、ロームブロックを少量含む土と多く含む土の互層で埋め戻されている。遺物は弥生土器 2 点、近世の磁器 22 点・陶器 30 点・土器 8 点・土製品 1 点・瓦 1 点・石製品 1 点の 65 点が出土した。その内 1 点を図示した。

6 号遺構は 5 号遺構と 7 号遺構に切られる。覆土は 3 層に分けられ、ロームブロックを多く含む灰黄褐色～にぶい黄褐色土を呈する。遺物は近世の磁器 14 点・陶器 23 点・土器 2 点・石製品 1 点の 40 点が出土した。その内 1 点を図示した。

7 号遺構は土坑群の北側で検出された。6 号遺構を切る。覆土は単層で、ロームブロックを主体とするにぶい黄褐色土である。遺物は近世の磁器 9 点・陶器 6 点・瓦 2 点の 17 点が出土した。その内 1 点を図示した。

2～7 号遺構から出土した近世の遺物は 18 世紀後葉～幕末頃のものを含むが、破片のみで、接合率も悪い。覆土も黒褐色土とロームを多く含む土の互層による埋め戻しが行われている点も共通する。これらの土坑群は掘り方の形状から採土坑などが想定されるが、日光御成街道沿いという立地もあるため、道沿いに深い掘り込みを設けるとは考えにくく、詳細は不明である。

8 号遺構（第 143 図、図版 74）

南側調査区の北東隅、擾乱下で検出された。平面形は長径 0.89m、短径 0.73m のやや歪な円形である。素掘りで井戸枠は検出されていない。長径方向の壁面に奥行 0.14m 程の足掛け穴が認められる。覆土は検出面から 0.55m まで擾乱土が入り込んでいた。安全に配慮し、現地表面から 1.5m まで掘削を行ったが、底面は検出できず未完掘である。遺物は 19 世紀以降の土器片 2 点が出土した。

3) 遺物（第 144 図、第 4 表（2））

調査区からは、縄文土器 2 点、弥生土器 9 点、近世の磁器 98 点・陶器 125 点・土器 39 点・土製品 3 点・瓦 4 点・石製品 3 点の総数 283 点が出土した。破片資料が多く、接合率、完形率共に低い。遺構出土の 5 点を図示した。

1 は 1 号遺構から出土した近世の肥前産磁器瓶である。2 は 2 号遺構出土の瀬戸・美濃産陶器皿で見込み部分に鉄絵が施される。3 は 5 号遺構出土の瀬戸・美濃産擂鉢の底部である。底面の捕目は

同心円状で、鉄軸が施される。4は6号遺構出土の石製品で、石塔類の天辺の宝珠の破片と思われる。調査区東側に1470年開山とされる西音寺が所在し、これに由来するものと思われる。5は7号遺構出土の瀬戸・美濃産磁器の端反碗である。

11. 24-32区（第145図～152図、図版75～79）

II期区間北側に位置する。調査区東側の大部分は現代の建物基礎によって、現地表面下1.8m以上が失われている。調査は東西の2回に分けて調査を行った。

1) 層序（第147図、図版76）

調査区内の現地表面は標高22.0m前後を測る。調査区東側（壁A）では1～6層が近代以降の盛土整地土で、7～13層は19・20号、22号の遺構覆土である。調査区南西側（壁C）は現地表面下0.6m下で削平を受けたハードローム面を検出した。1～3層は近現代の盛土整地層、4層は近代以降の耕作土である。調査区西側（壁D）は現地表面下0.3～0.4mで削平を受けたハードロームを検出した。1～3層は近現代の盛土整地層、4～7層と9・10層は近代以降の柱穴や掘り込みに伴う覆土である。調査区北側（壁F）は現地表面下0.4～0.6mで削平を受けたハードロームを検出した。1～4層と6～16層は近現代の盛土整地層である。

2) 遺構（第146図、第2表（3）、図版75・76）

弥生時代後期の竪穴住居跡1軒・ピット1基、近世の土坑2基・溝1条・ピット3基、近世以降の土坑2基・溝1条・ピット7基が検出された。

i 弥生時代

15号遺構（第148図・149図、図版77・78）

本遺構は、後代の削平と擾乱の影響を強く受けしており、構築時の平面形をほぼ失っている。僅かに遺された覆土と掘り方から想定される形状と、出土遺物、柱穴と考えられる遺構の配置状況から、竪穴住居跡と認定したが、竪穴状遺構の可能性もある。

近現代の盛土層直下で検出された。北北西方向に軸を持つと考えられる。近代以降の擾乱と削平を強く受け、住居中央部と北側、南側は擾乱と4号、5号、6号、13号、18号遺構に壊されており、住居全体の貼床面を含む覆土は失われている。検出面での平面形は隅丸方形で、長径5m以上、短径4.7mを測る。掘り方覆土は全体的にロームブロックを多く含む、にぶい黄褐色土が主体で、締まり、粘性に富む。

住居内で検出された柱穴、ピットは3基で、炉跡、周溝は検出されなかった。P1は4号遺構底面で検出された。長径0.5m、短径0.35mの長円形で、15号遺構検出面からの深さは0.93mを測る。P2は径約0.37mの不整形で、検出面からの深さは0.31mを測る。P3は15号遺構南東隅部で検出された。径約0.38mの円形で、15号遺構検出面からの深さは0.75mを測る。住居の軸が上記のとおりであれば、P1とP3は東側主柱穴と考えられる。P2については主柱穴に比べて掘り方が浅く、用途については不明である。

遺物は全て床覆土内からの出土で、接合資料は無い。弥生土器の高坏1点・甕・台付甕10点・不明細片1点が出土し、その内1点を図示した。

9号遺構（第149図）

15号遺構のP2に切られる。長径0.39m、短径0.3mの長円形で、確認面からの深さは0.44mを測る。覆土は黒褐色土主体で、15号遺構のP1～P3に類似する。抜き替えられた柱穴の可能性が考えられる。弥生土器の壺破片1点が出土した。

ii 近世

4号・21号遺構（第150図・151図）

近世の土坑である。4号遺構は調査区北西で検出された。長径0.94m、短径0.48mの隅丸方形で、深さ0.51mを測る。覆土は黒褐色土主体である。5号遺構に切られる。遺物は出土していない。21号遺構は調査区東側、22号遺構と建物基礎の間で検出された。長径1.45m、短径0.73mの不整形な平面形で、深さ0.23mを測る。遺構の北西端を現代の建物基礎に壊される。覆土は黒褐色土と暗褐色土である。遺物は出土しなかった。

22号遺構（第151図、図版79）

調査区東際で検出された近世の溝である。都道に並行して調査区の南北を縦貫し、それぞれ調査区外へ延びる。溝の東側上端と下端は調査区外へ延びる。19号遺構に切られる。調査範囲内の延長は南北9.15m、上端幅1.35m、検出面からの深さは0.42mを測る。断面形状は逆台形あるいは幅広のV字形と思われる。覆土は黒褐色～黒色土で、底面にロームブロックを多く含むにぶい黄褐色土が僅かに認められる。周辺調査区の遺構の検出状況から近世の日光御成街道の西側側溝と考えられる。また、B-B'断面では溝の壁面に貼り付く形で黒色土の硬化面（B-B'断面5～7層）を検出した。5層は表面が固く締まり硬化する。周辺調査区の状況から中世の鎌倉街道中ツ道の道路硬化面の一部とみられるが、覆土下に掘り込み等は検出されなかった。遺物は弥生土器の壺破片1点と近世の土器片1点が出土した。

11号・13号・18号遺構（第151図）

近世の覆土を持つピットで、5号遺構に切られる。11号は5号遺構の底面で検出された。長径0.34m、短径0.27mの不整円形で、検出面からの深さは0.26mを測る。13号遺構は5号遺構の西壁で検出された。長径0.38m、短径0.23mで検出面からの深さは0.32mを測る。18号は5号遺構底面、東壁面に一部掛かる位置で検出された。長径0.61m、短径0.37mで検出面からの深さは0.37mを測る。いずれも覆土断面で柱痕等は認めらず、遺物は出土しなかった。

iii 近世以降

重複関係で近世の遺構を切り、検出面で近代の盛土整地土を含む遺構を近世以降の遺構として取り上げる。これらの遺構の廃絶時期については近代以降に下る可能性が高い。

6号・19号遺構（第150図・151図）

近世以降の土坑である。6号遺構は調査区西側で検出された。5号・15号遺構を切り、10号遺構に切られる。平面形は長径1.42m、短径1.21mの不整方形で、深さ0.47mを測る。覆土は黒褐色土が主体である（断面B-B'の2～5層）。遺物は出土していない。19号遺構は調査区東際で検出された。22号遺構を切り、上端の北東部がわずかに調査区外へ延びる。長径2.72m、短径0.91mの長方

形の土坑で深さ 0.48m を測る。覆土は単層で、黒褐色土を主体とし、ロームブロックをやや多く含む。遺物は弥生土器 1 点、19 世紀中頃の磁器 1 点、19 世紀以降の土器 1 点が出土した。

5 号遺構（第 150 図）

調査区西側を北へ向かって延びる溝である。北側は調査区外へ延びる。重複する遺構では 6 号遺構以外の遺構を切る。調査範囲内の延長は 7.22m、上端幅 1.03m、深さ 0.56m を測る。断面は不整形で底面は整えられていない。覆土（断面 A-A' 1 ~ 4 層、断面 B-B' 6 層、断面 C-C' 2 ~ 4 層）は、黒褐色土主体である。覆土中に水が溜留した痕跡は認められない。近世以降に掘削された区画溝と思われるが、詳細は不明である。遺物は弥生土器の高環 5 点・壺 1 点・甕及び台付甕 7 点・不明細片 7 点、須恵器環 1 点、近世の磁器 2 点・陶器 13 点・土器 6 点の総数 42 点が出土した。その内 5 点を図示した。

1 号・2 号・3 号・10 号・14 号・16 号・17 号遺構（第 151 図）

柱穴・ピットである。1 ~ 3 号遺構は、調査区北壁際で検出された。10 号遺構は長径 0.27m、短径 0.24m、深さ 0.42m を測る。6 号遺構東壁際に掘り込む遺構で、断面 B-B'（7 層）、にあたる。東側掘り方の一部が 6 号遺構の東壁に当る。14 号遺構は調査区中央で検出された。西側半分を攪乱によって壊される。覆土は黒褐色土主体である。16・17 号遺構は調査区西壁際で検出された。

3) 遺物（第 152 図、第 3 表（10）、第 4 表（2）、図版 109）

調査区内で、弥生土器 44 点、須恵器環 1 点、中世の陶器 2 点、近世の磁器 11 点・陶器 40 点・土器 19 点・石製品など総数 117 点が出土した。全て破片資料である。その内 8 点を図示した。

5 号遺構

1 ~ 6 は 5 号遺構出土の遺物である。1 は小型の台付甕の脚台部で、内外面にナデ調整が施されるナデ甕で、弥生時代後期頃の遺物である。2 は弥生土器の壺頸部破片で、弥生時代後期頃のと考えられる。3 は台付甕の胴部破片で、やや厚手の作りである。4 は須恵器の環である。回転台成形で右回転の糸切り痕が外底面に認められる。5・6 は近世の瓦質培焰と瓦質火鉢である。1 ~ 3 については 5 号遺構が切る 15 号遺構からの混入と思われるが、遺構間接合はしなかった。7 は 15 号遺構出土の弥生土器の甕底部で、15 号遺構の掘り方覆土中から出土した。弥生時代後期頃の遺物と思われるが、細片の為、詳細は不明である。8 は中世の擂鉢片で、表土中から出土した。産地は丹波産である。

12. R2-4 区（第 153 図～170 図、図版 80 ～90）

II 期区間北側・都道の西側に位置する。北側に区道を挟んで 30-18・19 区と隣接する。調査は北西側・北側・南側の 3 回に分けて調査を行った。

1) 層序（第 155 図～156 図、図版 81）

調査区全体が近現代の削平を受けている。調査区北壁（壁 A）では舗装下の碎石敷直下で削平を受けたハードローム面を検出した。調査区東側（壁 B）及び南側（壁 C・D）では、それぞれ調査区際に 1 号遺構と 37 号遺構が位置しており、近現代の盛土（壁 B 1、2 層、壁 C・D 1、2 層）下はそれぞれの遺構覆土である。調査区西側（壁 E）の南側は現地表面下 0.2 ~ 0.5m でハードローム面を検出した。西壁北側の攪乱下の一部では、暗褐色土の自然堆積層（2・3 層）の堆積が確認できたが、

面での検出には至らなかった。自然堆積層検出面の標高は最も高い箇所で 22.35m を測る。

自然堆積層が確認された周辺で、ソフトローム以下の堆積状況を確認した。TP2 ではソフトローム検出面から 1.7m 下までの堆積を記録した。ソフトロームの検出標高は 22.15 ~ 18m、標高 22.0m 付近にⅢ層とⅣ層の境界が確認できる。V 層は標高 21.70m 前後、VI 層は標高 21.40m 前後、VII 層は標高 21.15m 前後、IX 層は標高 20.95m 前後、X 層は標高 20.6m 付近で検出された。TP 1、TP 3、TP 4 でもほぼ同一標高にて各層を検出しており、ソフトローム以下の地形の傾斜は確認できない。

2) 遺構（第 154 図、第 2 表（4）、図版 80 ~ 81）

縄文時代の土坑 2 基・ピット 2 基、弥生時代の竪穴住居跡 1 軒・竪穴状遺構 1 基・溝 1 条・ピット 1 基、近世の土坑 11 基・溝 2 条・ピット 20 基、近世以降のピット 24 基が検出された。

i 縄文時代

調査区内で検出された暗褐色～褐色土を主体とする土坑とピットである。西壁 E で検出されたソフトローム上位の縄文時代の自然堆積土と類似する暗褐色～褐色土を覆土の主体とする。

47 号・49 号遺構（第 157 図、図版 81）

調査区東側でそれぞれ単独で検出された。形状から土坑と考えられる。47 号は径約 0.8m の歪な円形を呈し、確認面からの深さは 0.24m を測る。断面は浅いレンズ状で、覆土は暗褐色～褐色土を主体とする。東側を 1 号遺構に、西側を搅乱に切られる。49 号遺構は径約 0.45m の円形で、深さ 0.24m を測る。両遺構とも遺物は出土していない。

59 号、62 号遺構（第 157 図、図版 81）

調査区北西部で検出された 2 基のピットである。59 号は長径 0.44m、短径 0.3m の梢円形で、深さ 0.42m、62 号は径約 0.28m の円形で、深さ 0.32m を測る。両遺構とも覆土は褐色～暗褐色土が主体である。遺物は出土していない。

ii 弥生時代

41 号遺構（第 158 図、図版 82・83）

調査区南西隅部で検出された竪穴住居跡である。西方に主軸を持つと考えられる。西側は調査区外へ延びる。南側半分を近世の 37 号遺構に、東側の一部を近代以降の搅乱に壊される。調査範囲内での検出規模は、長径 4.03m、短径 1.74m、検出面から貼床までの深さは 0.3m を測る。平面形は隅丸方形あるいは梢円形を呈すると思われる。住居覆土は 1 ~ 13 層に分類出来る（断面 A-A'）。1・3・9 層が住居覆土である。覆土上面は削平を受けており、貼床面から 0.05m 残存している。暗褐色土主体でやや強く縮まる。2・4・5・8・10 層が貼床である。黄褐色～褐色土主体で、縮まりが強い。貼床面から掘り方底面まで堆積し、厚さ 0.05 ~ 0.1m 程を測る。11・12 層は周溝の覆土で、にぶい黄褐色～黄褐色土主体である。周溝は幅 0.2 m 前後で巡り、貼床面からの深さは 0.2m 程を測る。炉跡は検出されなかった。

住居内で検出された主柱穴・ピットは 3 基で、P1 は長径 0.57m、短径 0.49m の不整円形で、貼床面から底面までの深さ 0.65m を測る。P2 は長径 0.51m、短径 0.41m の長円形で貼床面から底面までの深さ 0.3m を測る。P3 は径 0.3m の円形で、貼床面から底面までの深さ 0.08m を測る。住居

の軸方向から、P 1 が主柱穴、P 3 は貯蔵穴と思われる。P 2 は配置として梯子穴が推定され、東側からの出入りも想定されるが、壁面に非常に近く、ほぼ周溝に接しているため、詳細は不明である。

遺物の出土状況は、平面では攪乱の影響が少ないので、覆土の遺る北東と北西に偏在しており、垂直方向では覆土・貼床内に散在し、集中部は認められない。遺物の出土総数は 17 点で、全て破片資料である。出土位置は住居覆土中から 8 点、貼床部分から 7 点、P 1 から 1 点、P 3 から 1 点である。器種は壺 6 点・甕 8 点・不明細片 2 点・礫 1 点である。その内、貼床内から出土した壺破片 1 点と、P 1 から出土した甕破片 1 点の 2 点を図示した。遺物の年代は細片が多いため、特定が困難であるが、図示出来た 2 点は弥生時代中期後半頃の年代を示す。

46 号遺構（第 159 図、図版 84）

調査区南側中央部で検出された竪穴状遺構である。北側を攪乱に切られ、南西と南東の一部を建物基礎に壊される。長径 2.25m 以上、短径 2.03m の隅丸方形を呈すると思われる。深さは確認面から 0.51m を測る。覆土は 20 層に分類できる。黒色～暗褐色土が主体で、全体的にローム粒を 10% 以上含み、締まり、粘性に富む。貼床や周溝は検出されなかった。

遺物は覆土内に散在し、集中部は認められない。弥生土器 17 点が出土した。全て甕・台付甕の破片資料である。その内 2 点を図示した。

40 号遺構（第 157 図、図版 85）

調査区南西部で検出された溝で、調査区内から西南西方向へ調査区外に延びる。東端は近代の攪乱に壊されており、末端の状況は不明である。調査範囲内の延長は 4.31m、上端幅 0.9m、下端幅 0.35m、深さ 0.49m を測る。断面はやや歪な逆台形を呈し、南壁が北壁よりも開いて立ち上がり、東側より西側へ向けて底面が深く掘削されていた。覆土は黒色～暗褐色を呈し、ローム粒をやや多く含み、締まり、粘性に富む。遺物は弥生土器 6 点が出土した。器種は壺 4 点・甕破片 2 点。年代は弥生時代後期頃である。その内 1 点を図示した。同時代の溝を伴う遺構として、方形周溝墓が考えられるが、調査範囲内では同時代と推定される溝跡は検出されなかった。

48 号遺構（第 159 図）

調査区中央の攪乱下で検出されたピットである。径 0.32m の円形を呈し、検出面からの深さは 0.51m を測る。単独での検出で、用途については不明である。遺物は出土していない。

Ⅲ 近世

1 号遺構（第 162 図～164 図、図版 87・88）

調査区東際で検出された溝である。都道と並行して南北を縱貫し、調査区外へ延びる。溝の東側上端も調査区外へ延びる。調査範囲内の延長は 27.64m、上端幅は 1.67m 以上、検出面からの深さ 0.97m を測る。断面形は逆台形を呈すると考えられる。遺構断面の堆積状況から、複数回にわたって、溝を造り直している様子がうかがえる。顕著な箇所として北側の A-A' 断面では一度溝を埋め戻し（9～13 層）、黒褐色土を突き固めて土手（7・8・9 層）を構築し、新たな溝（2～6 層）を掘り直した様子がうかがえる。このような溝の造り直しの様子は C-C' 断面（新溝：15・18 層、旧溝：23～28 層）、E-E' 断面（新溝：37・38 層、旧溝：34～36・39・40 層）、F-F' 断面（新溝：42・43・47 層、旧溝：44～46 層）、G-G' 断面（新溝：50～52・59 層あるいは 53～56 層、旧溝：57・

58・60層)でも認められるが、新旧の溝位置や覆土、断面形に共通性を見出すことが出来ない。溝の造り直しの範囲が、比較的短い距離間で行われていたことによるものと考えられる。

周辺の調査区の状況から、この溝は日光御成街道の西側側溝と考えられる。

遺物は繩文土器21点、弥生土器39点、近世の磁器107点・陶器116点・土器69点・土製品12点、石製品1点の総数365点が出土し、その内13点を図示した。近世の遺物は18世紀後半～幕末にかけての遺物を中心である。

37号遺構(第165図・166図、図版89)

調査区南際で検出された溝で、調査範囲内を東西に横断する。西側は41号を切り、調査区外へ延びる。東側は1号遺構と直交するが、切り合は不明瞭である。調査範囲内の延長は東西14.84m、幅1.57m以上、深さ0.55mを測る。覆土の断面観察により、3段階におよび溝が構築されていることが確認できた。

最も古い溝は断面A-A'の24・25・28・28～31層に見られる。断面B-B'では不明瞭だが、10・11・13・14層に相当するとと思われるが、断定は出来ない。断面は逆台形を呈し、下端幅0.25～0.3mを測る。中段階の溝は断面A-A'の23・26・27層、断面B-B'の4～9層が該当する。断面は逆台形を引き継ぐが、古段階の溝より下端の幅が広くなっている。断面C-C'の1～5層も断面形の下端幅から中段階の溝と思われる。最も新しい溝は断面A-A'の16～20層、断面B-B'の1～3・12・15層にあたる。中段階の溝の南側の壁面を切って掘り込まれる。覆土は暗褐色～黒褐色土が主体で、多くがロームブロックを10%以上と多く含み、これらの溝は前段階の溝を完全に埋め戻した状態から改めて掘り直しを行っていると思われる。近世の日光御成街道西側側溝と推定される1号遺構に直交することから、近世の区画溝と考えられる。遺物は弥生土器12点、近世の磁器40点・陶器85点・土器51点・土製品5点の総数193点が出土し、その内7点を図示した。37号遺構の検出範囲内で確認できる3段階に及ぶ作り替えに伴い、各溝の構築年代を遺物群のまとまりで推定できないか試みたものの、図示したもの以外では細片が多く、詳細な分類は行えなかった。

出土遺物の年代は18世紀4四半期～幕末頃のものが中心である。

26号・27号・28号・29号・31号・38号・39号・42号・44号・45号・60号遺構

(第160図・161図、図版86)

黒褐色土を主体とする近世の覆土を持つ土坑である。それぞれの形状や覆土については図中に示し、各遺構の規模については遺構観察表を参照されたい。これらの遺構は近世の覆土・遺物を含む土坑であるが、形状や検出箇所に規則性は認められない、調査区内では建物等の痕跡も見られないため、これら土坑と、近世期の土地利用のあり方については現状不明な点が多い。

以下、各遺構から出土した遺物の数量と年代観を記す。26号からは近世の陶器4点・土器1点が出土した。18世紀第3四半期のものが中心である。27号遺構からは弥生土器1点、近世の陶器4点・土器1点が出土した。破片のみであるが、19世紀初頭以降の資料を含む。28号遺構からは土坑中で最も多く遺物が出土した。内訳は弥生土器4点、近世の磁器17点・陶器12点・土器16点・土製品2点・瓦1点の52点で、その内7点を図示した。17世紀後半から18世紀後葉の遺物が中心である。38号遺構からは弥生土器1点、近世の磁器1点・陶器3点・土器1点が出土し、その内2点を図示した。遺物は18世紀後葉～19世紀第2四半期のものが中心である。39号からは近世の磁器6点・

陶器 5 点・土器 2 点が出土した。いずれも破片であるが、19 世紀中頃のものを含む。42 号からは近世の磁器 2 点が出土した。18 世紀後葉のものである。45 号からは弥生土器 1 点、近世の陶器 1 点が出土した。細片で年代の特定には至らない。31 号・44 号・60 号遺構では遺物は出土していない。

ビット（第 167 図・168 図、図版 90）

近世及び近世以降のビットが計 44 基検出された。検出箇所は調査区北西部に多く集中する傾向にある。いずれも不規則に点在し、掘立柱建物跡などの柱穴に該当する規格性は認められない。それぞれの形状や覆土については図中に示し、各遺構の規模については遺構観察表を参照されたい。

3) 遺物（169 図・170 図、第 3 表（10）、第 4 表（2）、図版 109）

調査区内から、縄文土器 24 点、弥生土器 120 点、近世の磁器 243 点・陶器 280 点・土器 227 点・土製品 23 点・瓦 7 点、金属製品 1 点、石製品 2 点の総数 927 点が出土した。その内 7 遺構から出土した 34 点を図示した。以下遺構ごとに記す。

1号遺構（第 169 図、図版 109）

1 は縄文時代後期に属する注口土器の口縁部破片。表面は摩耗している。堀之内 1 式。2、3 は弥生時代中期後半の壺肩部の破片である。縱方向のハケ調整後、櫛状工具による波状沈線（4 条 1 単位）を横方向に施す。同様の施文を持つ破片が 41 号遺構の P 1 から出土している。4～7 は近世の肥前産磁器である。8、9 は瀬戸・美濃産陶器、10～13 近世の江戸在地系土器である。これらの出土遺物は 18 世紀末～幕末頃のものが中心である。

28 号遺構（第 169 図、図版 109）

14 は弥生土器の高杯と考えられる脚台部で、外面全面にヘラミガキが施される。弥生時代後期のものと思われる。15・16 は肥前産磁器、17・18 肥前産の陶器高台部である。19 は瀬戸・美濃産の灰釉皿、20 は江戸在地系の内耳付瓦質焰烙である。これらの遺物は 17 世紀後半から 18 世紀後葉までの年代を示す。同調査区内の近世の遺構では比較的古い年代のまとまりをもつ資料群である。

37 号遺構（第 170 図、図版 109）

21・22 は肥前産磁器の半筒碗。23 は瀬戸・美濃産陶器皿で見込みに鉄絵で蘭竹文を描く。底面高台内に墨書きで「〇」が書かれる。24 は瀬戸・美濃産灰釉高田徳利で、容量が二合半のものである。25 信楽系の灯明受皿で鋲軸が施される。26・27 は江戸在地系土器の透明釉施釉灯明皿と丸底の土師質焰烙である。これらの遺物の多くは 18 世紀第 4 四半期から幕末頃までの年代を示すが、23 の様に一部 17 世紀代の遺物も含む。溝の造り替えに伴う構築年代の違いによるもの可能性もあるが、詳細は不明である。

38 号遺構（第 170 図）

28 は肥前産磁器碗。29 は瀬戸・美濃産鉄釉糸目土瓶の蓋である。遺物の年代は 18 世紀後葉～19 世紀第 2 四半期頃のものが中心である。

40 号遺構（第 170 図、図版 109）

30 は小型の壺の頸部である。口縁部は折り返さず、外側は口縁部までハケ調整が施される。弥生時代中期後半から後期のやや古い段階のものと考えられる。

41 号遺構（第 170 図、図版 109）

31は壺の肩部破片で、斜め方向のハケ調整後、櫛状工具による波状文(4条1単位)を横方向に施し、同工具で縱方向に平行沈線(4条1単位)が施される。弥生時代中期後半頃のものである。II期区間に出土の同様の資料に、20・3～5・8区25号遺構出土の壺破片(第122図-23)がある。32は壺口縁部の破片である。口縁内面に折り返し後、内外面に横方向のハケ調整を行い、指頭押捺により波状口縁をつくる。31と同様に、20・3～5・8区25号遺構出土の壺(第123図-39、40)がある。時代は弥生時代中期後半頃のものと考えられる。

46号遺構(第170図、図版109)

33・34は弥生土器の台付壺である。33は口縁部の破片。34は胴部から頸部で、内外面にナデ調整を施すナデ壺である。胴部は丸く張り、弥生後期のやや古い段階のものと考えられる。

13. 23-9、31-18区(第171図～174図、図版91・92)

II期区間北西側、現都道の西側に位置する。現地表面は南から北へ向けて緩やかに下る緩斜面地である。31・15・16・17区の南側に隣接する。北側と南側の2回に分けて調査を行った。

1) 層序(第173図、図版92)

調査区は全面的に近現代以降の削平・攪乱を受けている。特に調査区北側は現地表面下約0.6～1.5mの深さでハードロームを掘り込む攪乱を受けており、遺構は検出されなかった。南側では、現地表面下、約0.5mで厚さ5～10cmの黒褐色土層(壁D2層)を検出した。この層からは近世後期～幕末頃までの遺物を含み、近代以降の攪乱を受けていない。この面では遺構は検出されず、近世末～明治時代初頭の盛土層と思われる。この壁D2層下では削平を受けたハードロームを検出した。本調査区内で検出された遺構はすべてこの面で検出された。

2) 遺構(第173図、第2表(4)、図版91)

近世の溝2条、土坑2基を検出した。

1号遺構(第174図、図版92)

調査区南側東壁付近で検出された近世の溝である。南北方向に延び、両端部は調査区外へ延びる。調査範囲内の延長は2.79m、上端幅0.41mで、深さ0.11mを測る。底面は不整形で、断面形も不定形である。覆土は単層で黒褐色土主体、ロームブロックを少量含む。遺物は近世の磁器片が1点出土した。

2号遺構(第174図、図版92)

調査区南側で検出した近世の溝である。北側は近代以降の攪乱によって切られ、南側は調査区外へ延びている。調査範囲での延長は7.54m、上端幅0.65mで、深さは最も深い箇所で0.28mを測るが、概ね0.1m前後である。底面は不整形で、凹凸が激しい。重複する3号・4号遺構を切る。遺物は近世の磁器片が1点、陶器片が2点出土した。

3号・4号遺構(第174図、図版92)

調査区南側で検出された土坑である。共に2号遺構に切られる。平面形はどちらも不定形で、掘り方も複数のピットが重複するような形状である。遺物は両遺構とも出土していない。

3) 遺物 (第 174 図、第 4 表 (3)、図版 109)

近世の磁器 40 点・陶器 2 点・土器 6 点・総数 48 点出土した。遺構出土の遺物は 1 号遺構から磁器片 1 点、2 号遺構から磁器片 1 点、陶器片 2 点のみで、いずれも小片で図示には至らなかった。遺構検出面直上の近世以降の盛土層からは磁器 38 点、土器 6 点が出土した。その内 4 点を図示した。

1・2 は瀬戸・美濃産陶器皿である。1 は内面にのみ灰釉を掛け、見込みに鉄絵を施す。2 は菊花皿で緑釉と灰釉を施す。3 は江戸在地系のカワラケ、4 は土製品のミニチュアである。出土遺物の年代は 17 世紀中頃～幕末頃と年代幅が広い。図示出来なかった細片も含めると、年代の中心は 18 世紀末～19 世紀幕末頃となる。

14. 30-18・19 区 (第 175 図～179 図、図版 93・94)

Ⅱ期区間の北西端の環状七号線との交差点手前にあたり、地形的には南から北側へ下る緩斜面に立地する。調査区北側は建物の基礎により大きく壊されている。

1) 層序 (第 177 図、図版 93)

調査区は全面的に削平を受けており、現地表面から 0.2 ～ 0.5m 下で削平を受けたハードロームが面が検出された。ハードロームより上層の自然堆積層は検出されていない。

2) 遺構 (第 176 図、第 2 表 (4)、図版 93・94)

近世の土坑 2 基、溝 1 条が検出された。

i 近世

1 号遺構 (第 178 図、図版 93・94)

調査区南端中央で検出された大型の土坑で、調査区内で東西 4.56m 南北 3.27m を測り、南側は調査区外へ延びている。中央やや東寄りに深い掘り込みがあり、1m まで掘削したが底面は検出出来ず、未完掘である。深い掘り込み部は形状から井戸の可能性がある。遺物は弥生土器 8 点、近世の磁器 2 点・陶器 7 点・土器 1 点、銭貨 2 点の総数 20 点が出土し、その内 6 点を図示した。

2 号遺構 (第 179 図、図版 94)

調査区やや西側で検出された溝である。南端は近代以降の擾乱に壊され、北側は建物基礎に切られている。南北方向に延びる溝で、調査区範囲内で南北延長 2.2m、上端幅約 0.7m を測る。覆土は単層で、黒褐色土にロームブロックを 10% 程含む。断面では西壁が開いて立ち上がる形状である。遺物は検出されていない。

3 号遺構 (第 179 図、図版 94)

調査区中央で 1 号遺構を切る形で検出された土坑である。長径 1.22m、短径 0.61m、深さ 0.32m を測る。底面は平坦に成形されている。断面は北・南・西側はやや垂直に立ち上がるが、南側は緩やかに開いて立ち上がる。近世の銭貨 1 点が出土した。

3) 遺物 (第 179 図、第 3 表 (11)、第 4 表 (3)、図版 109)

調査区からは、縄文土器 1 点、弥生土器 27 点、近世の磁器 15 点・陶器 31 点・土器 25 点・石製品 2 点、銭貨 3 点、総数 104 点が出土した。その内 7 点を図示した。

1号遺構（第179図、図版109）

1は縄文時代後期に属する深鉢形土器の胴部破片。外面地文にRLの単節縄文を施し、沈線でモチーフを描く。堀之内1式。2は弥生土器の台付甕の接合部である。弥生時代後期頃のものと考えられる。3は弥生土器甕破片で、弥生時代後期後半のものと考えられる。4は近世の肥前産磁器の鉢で、焼継による補修が行われており、高台内に焼継印と思われる「十一」の文字が認められる。5は堺・明石産の擂鉢で、底面は平底ではなく高台を持つタイプである。6・7は錢貨（渡来銭）である。それぞれ「紹聖元寶」、「開元□寶」の銘が確認できる。出土遺物の年代は18世紀第4四半期頃のものが中心である。

15. 31・15・16・17区（第180図～185図、図版95～97・110）

30-18・19区の都道を挟んだ東側にある。地形は30-18・19区と同様、北側へ下る緩斜面上に立地する。調査区の北側と南側の間に5mの生活道路を設けて調査を行った。北側、南側の調査の結果、周辺は大きく削平、攪乱を受けており、生活道路部分も遺構検出の可能性が低いことから、未掘削で調査を終了とした。

1) 層序（第182～185図、図版96・97）

調査区全域で現地表面下0.1～1.3mまで近現代以降の削平と攪乱を受けており、表土下ではハードローム面を検出した。ハードロームより上位の自然堆積は検出されていない。

2) 遺構（第181図、第2表（4）、図版97）

調査区中央の東端で、近世の地下式坑とみられる土坑1基が検出された。

1号遺構（第181図、図版97）

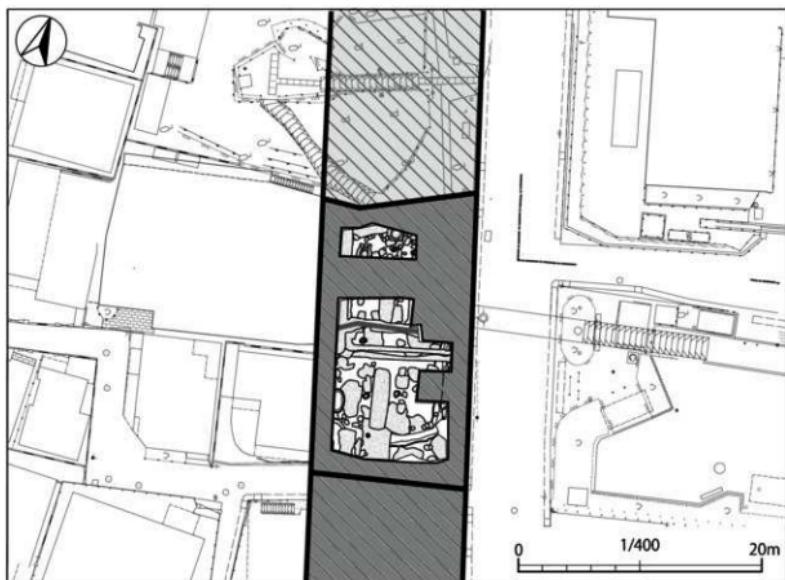
調査区中央の東壁際で検出された。調査区内で南北約3m、東西1.5mを測る。検出面から1.8mまで掘削したが、底面は検出できなかった。覆土は黒褐色土が主体で、最上部の1層は天井崩落土のハードローム主体である。覆土中からは弥生土器や中世の板碑の他、近世の陶磁器・土器が出土しており、近世以降に埋め戻されたものと思われる。遺物は弥生土器1点、中世の板碑片2点、近世の磁器1点・陶器4点・土器11点・瓦2点・石製品1点・錢貨1点の総数23点で、内7点を図示した。

3) 遺物（第184図・185図、第3表（11）、第4表（3）、図版110）

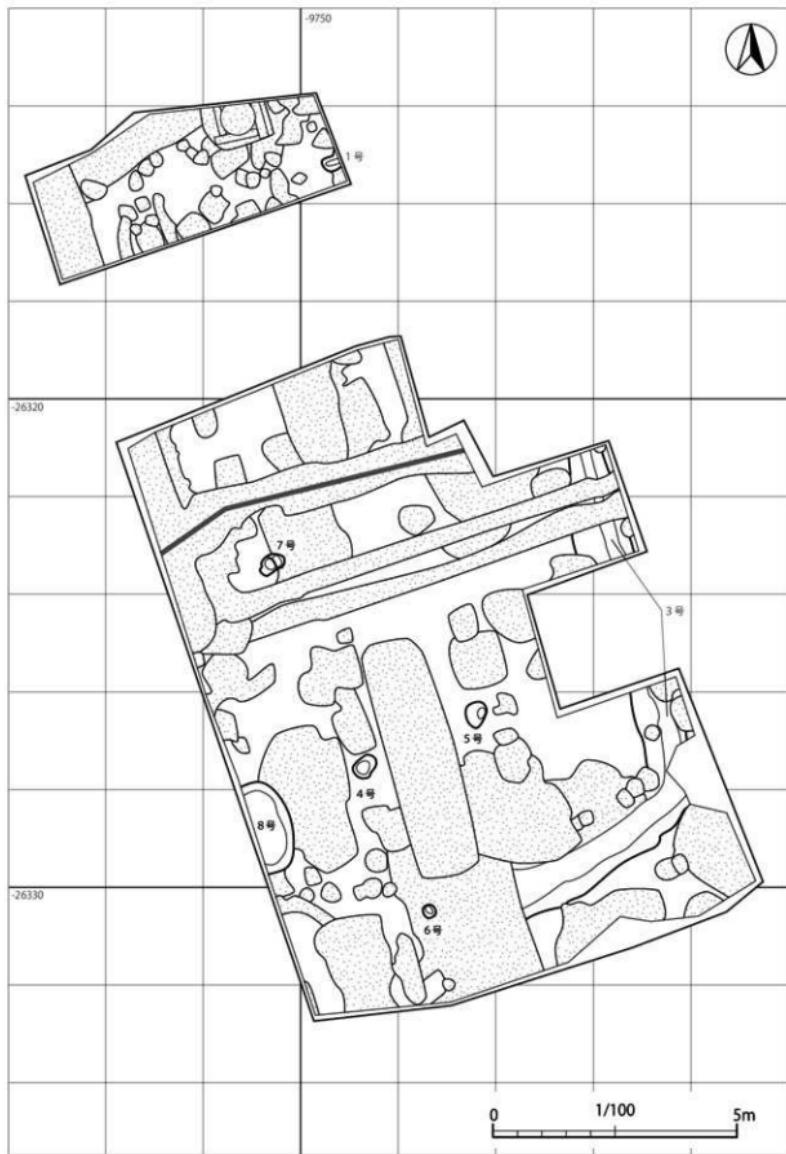
1号遺構

1・2は中世の板碑である。両資料とも緑泥片岩製で、破片資料である。1は表面に山形下部の二条線と主尊種子（キリーカ）の一部が認められる。裏面は石材調整時の皺痕が残る。2は中央に花瓶が配され、両隣に文字が刻まれていると思われるが、折損により判読出来ない。3は肥前産磁器碗、4は瀬戸・美濃産の陶器花瓶で、底面に「イ丁セ」、「武（あるいは式）文」の墨書が認められる。5は瓦質焰塔である。体部中程で内側に屈曲し、底面は平底、内壁に2カ所内耳が残存する。6は砂岩製の砥石、7は近世の寛永通寶銭（新寛永）である。遺物の年代は17世紀中頃以降のものが含まれる。

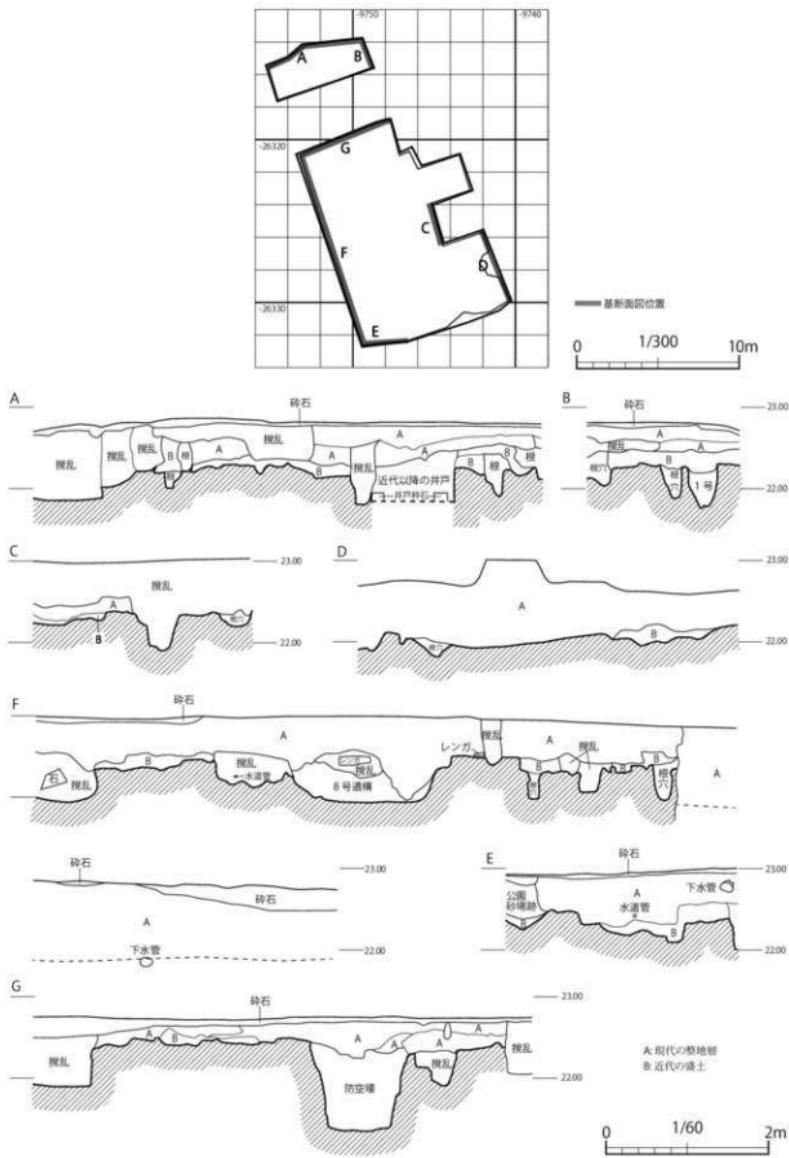
2G区



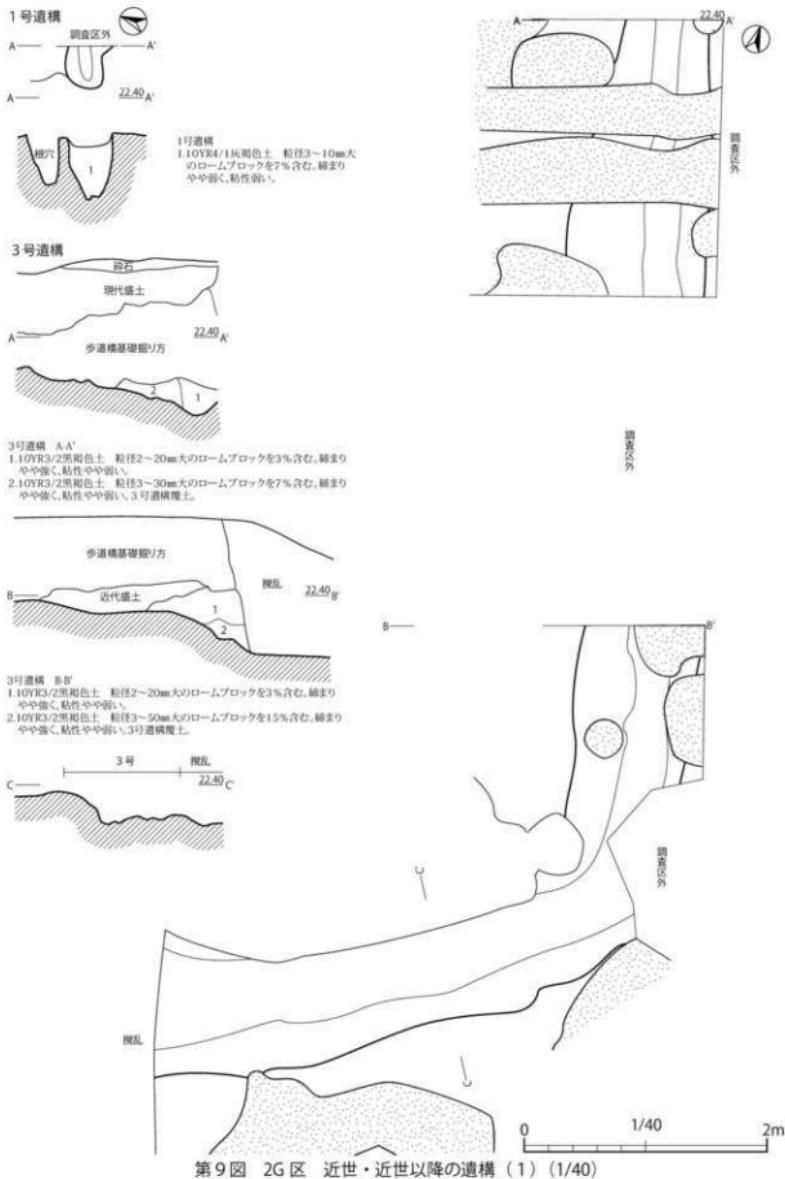
第6図 2G区 調査区位置 (1/400)

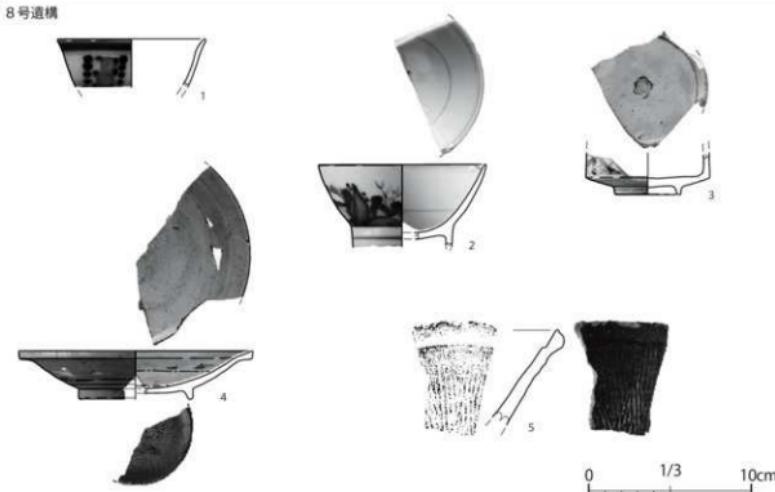
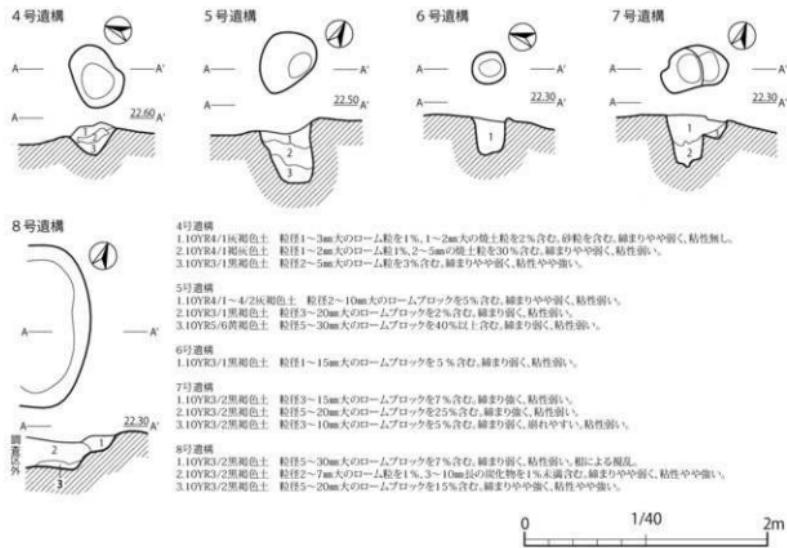


第7図 2G区 遺構全体図 (1/100)



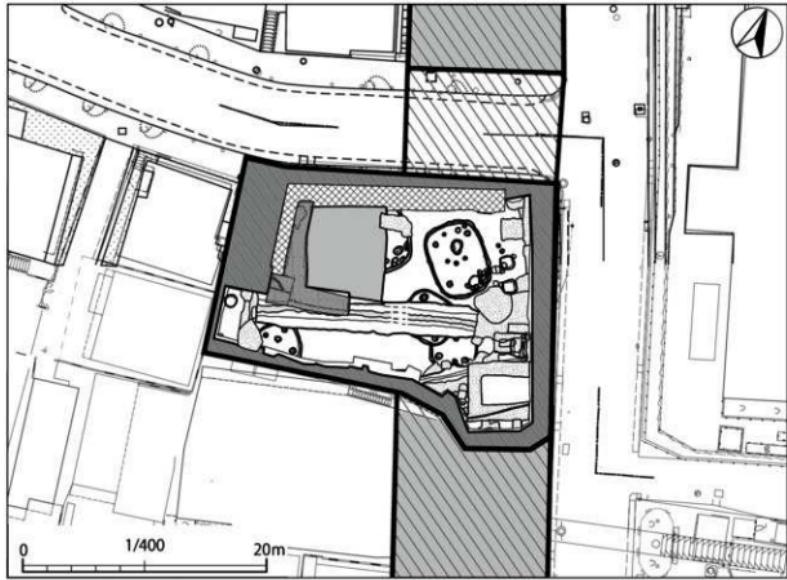
第8図 2G区 基本層序 (1/60・1/300)



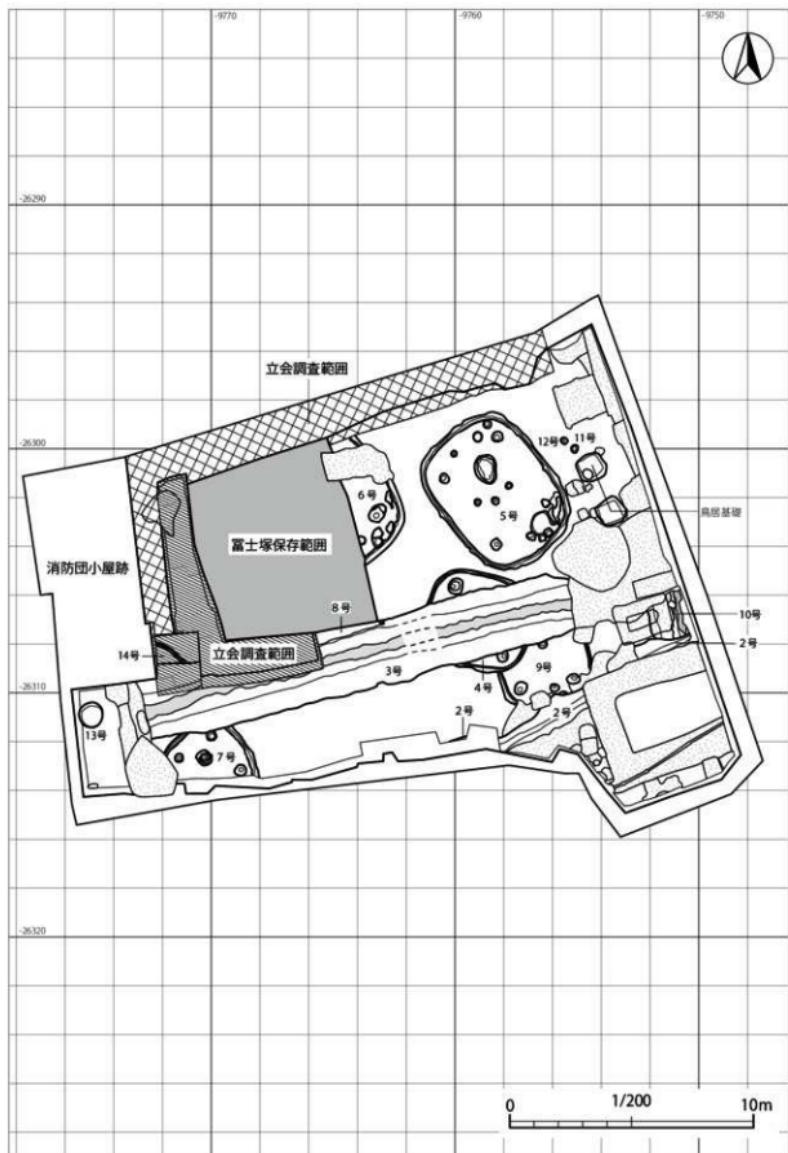


第10図 2G区 近世の遺構（2）（1/40）出土遺物（1/3）

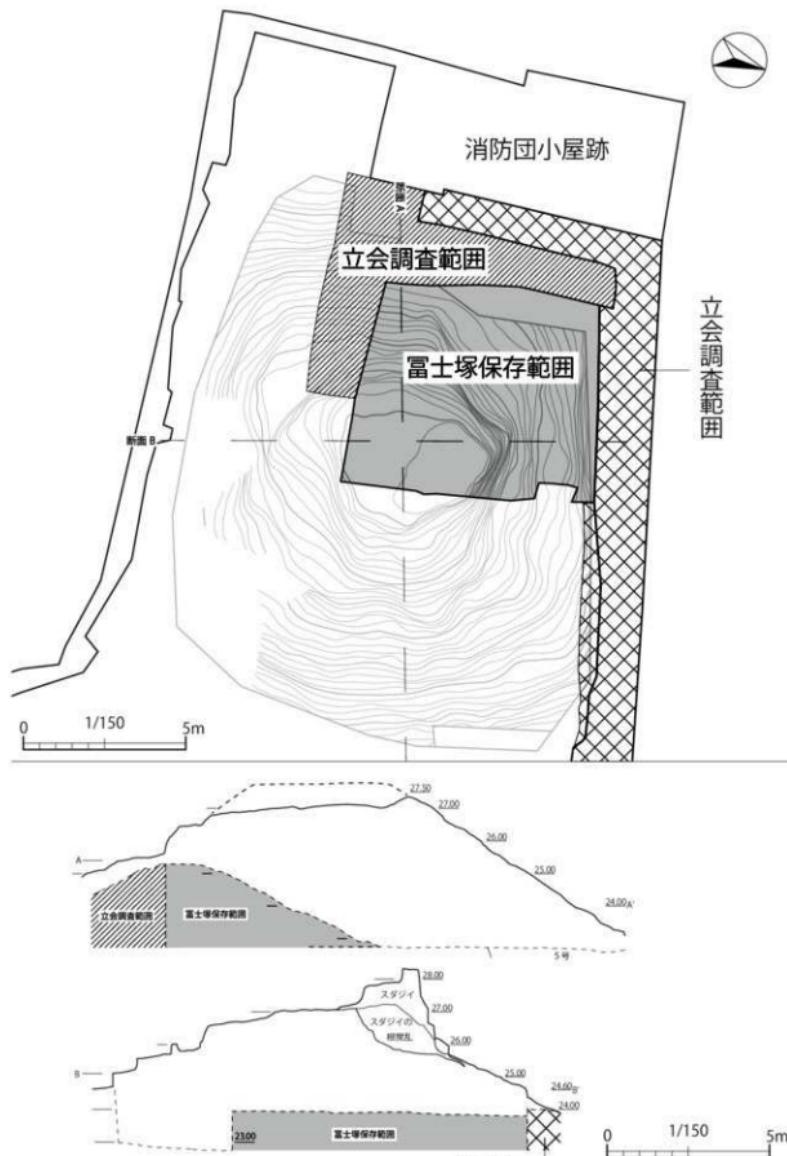
十条富士塚地区



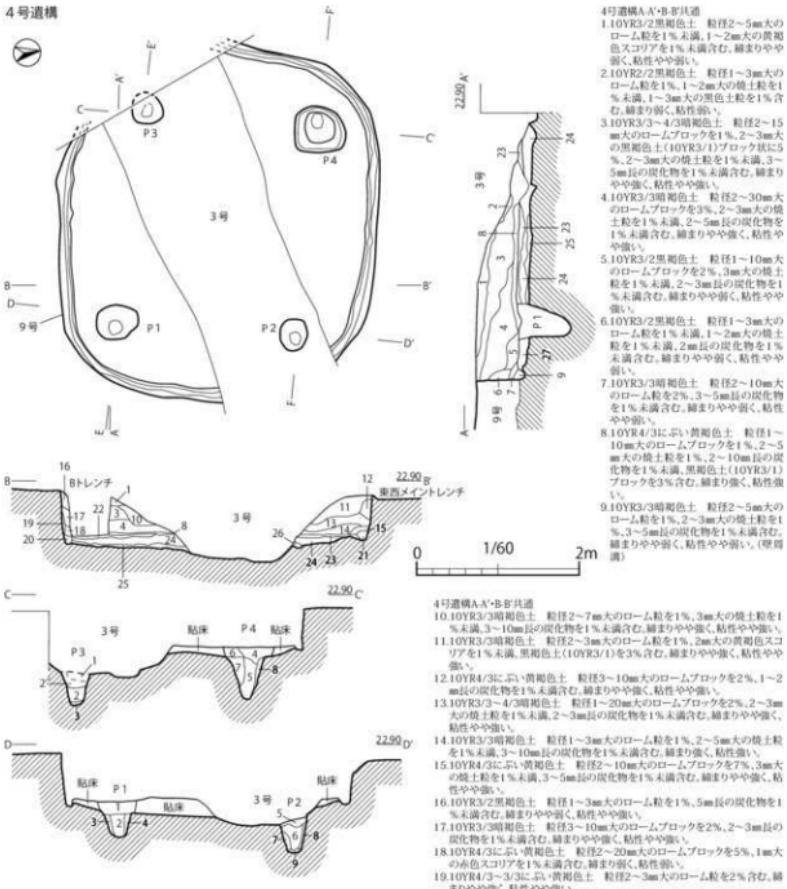
第 11 図 十条富士塚地区 調査区位置 (1/40)



第12図 十条富士塚地区 遺構全体図 (1/200)



第13図 十条富士塚保存範囲と立会調査範囲 (1/150)



4号道構P3P4 C.C.

1.10YR3/2黒褐色土 粒径1~15mmのロームブロックを7%、2mmの大粒の黄褐色スコリアを1%未満、3mmの褐化物を1%未満含む。締まりやくちに弱く、粘性や強い。
2.10YR3/2黒褐色土 粒径2~5mmの大粒のロームを2%、2mmの大粒の黄褐色スコリア1%未満、

3mm長の炭化物を1%未満含む。細まりやや弱く、粘性やや強い。2は3号D-D'14耐熱型、3.10YR4/3に似る。黄褐色土。粒径2~10mmの大のロームブロックを3%、2~5mmの大の黒色土(10YR2/1)を1%。3mm以上の粒砂を1%未満含む。強硬性有り、粘性度有り。

4.10YRA/4.2灰黒褐色土 種床2~5mmの大ローム粉を1%未溝、2mmの大燒土粉を1%未溝、2mmの大黄スコアリを1%未溝含む。細土りやや弱く、粘性やや強い。

5.10YR3/2-4/2黒褐色土 粒径2~5mmの大ロームを2%, 黄褐色スコリアを1%未満、3~7mmの大炭化物を1%未満含む。網まりやや弱く、粘性やや強い。
 6.10YR4/3にぶい黄褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを7%, 3~5mmの大焼土粒

を1%未満、2~3mm長の炭化物を1%未満含む。綿まり強く、粘性強い。
7.10YR3/2灰色土。粒径2~15mmの大ロームブロックを5%、3mm長の炭化物を1%未満含む。綿まりやや弱く、粘性やや弱い。

8.10YR3/2黒褐色土 粒径1~3mmのローム粒を2%、5mm長の炭化物を1%未満含む。練まり弱く、粘性弱い。

第14図 十条富士塚地区 弥

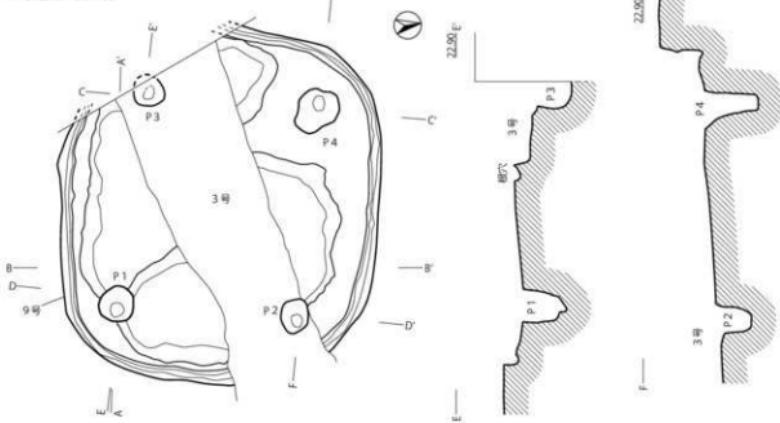
第六章 未来展望与建议

江戸時代の遺構（1）（1/60）

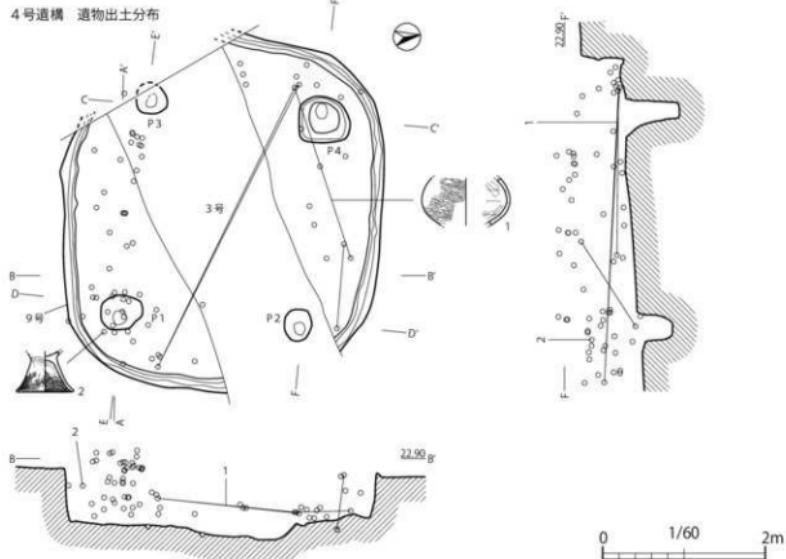
4号遺構P1-P2 D-D'

- 1.IORYR3/3に近い黄褐色土 粒径2~30mmの大ロームブロックを3%, 2~3mmの大の堆積物を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。
- 2.IORYR3/1黒褐色土 粒径3~15mmの大ロームブロックを2%含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。木の根により一部搅乱される。
- 3.IORYR3/2黒褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを5%含む。締まり弱く、粘性やや強い。木の根により一部擾乱される。
- 4.IORYR3/2黒褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを5%含む。締まり弱く、粘性やや強い。木の根により一部擾乱される。
- 5.IORYR3/2黒褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒を2%, 2mmの大の堆積物スコリアを1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。3号層上の染み込み。
- 6.IORYR4/2灰黒褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを1%, 3~5mmの大の堆積物を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。
- 7.IORYR4/2灰黒褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを2%, 2~3mmの大の土粒を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
- 8.IORYR4/2灰黒褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを3%含む。締まりやや弱く、粘性やや強く。
- 9.IORYR4/3Cに近い黄褐色土 粒径5~30mmの大ロームブロックを10%含む。締まり強く、粘性強く。

4号遺構 掘り方

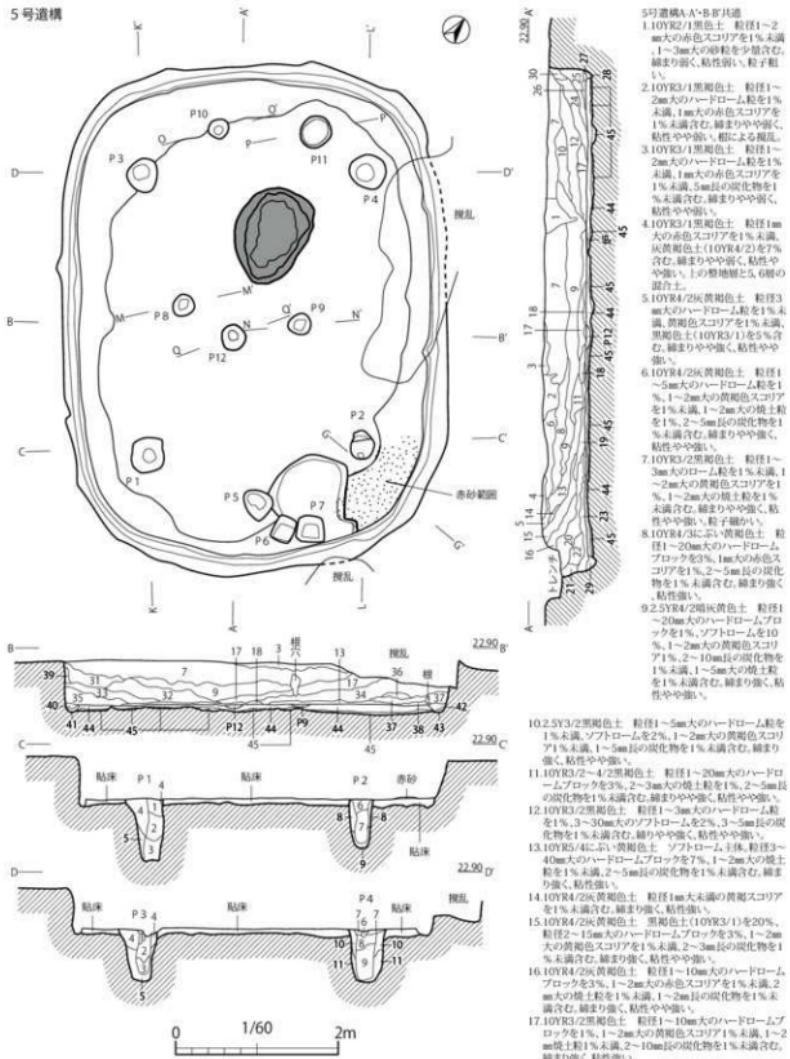


4号遺構 遺物出土分布



第15図 十条富士塚地区 弥生時代の遺構（2）(1/60)

5号遺構



第16図 十条富士塚地区 弥生時代の遺構（3）(1/60)

- 24.10YR3/1 黒褐色土 粒径1~5mmの大ハーフドーム粒を1%未満、1~2mmの大黄褐色スコリアを1%未満、1~3mmの大の焼成物を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。
- 25.10YR3/2 黑褐色土 粒径1~2mmの大の焼成物を1%未満、2~3mmの大の焼成物を1%未満含む。黒褐色土(10YR3/1)を3%含む。締まりやや強く、粘性強い。
- 26.10YR3/3 黑褐色土 粒径1~5mmの大ハーフドーム粒を1%未満、1~2mmの大の黄色スコリアを1%未満、1~2mmの大の焼成物を1%未満含む。締まり弱く、粘性強い。
- 27.2.5YR4/2 黑褐色土 粒径1~5mmの大ハーフドーム粒を5%、2~3mmの大の焼成物を1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 28.2.5YR4/3 黑褐色土 粒径1~5mmの大ハーフドーム粒を5%、2~3mmの大の焼成物を1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 29.10YB4/4 黄褐色土 ハーフドームプロック主体。黒褐色土(10YR3/2)を20%含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。
- 30.2.5YR3/2 黄褐色土 粒径1~3mmの大ハーフドーム粒を1%未満。黒褐色土(10YR3/3)を7%、1~2mmの大の黄色スコリアを1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。
- 31.10YB4/3 黄褐色土 黃褐色土 粒径1~7mmの大ハーフドーム粒を2%、1mm大未満の赤褐色スコリアを1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。
- 32.10YB4/3 黄褐色土 黄褐色土 粒径1~20mmの大ハーフドームプロックを7%、黒褐色土(10YR3/1)を3%、1~2mmの大の黄褐色スコリア1%未満、2~3mmの大の焼成物を1%未満含む。締まり強く、粘性やや強く。
- 33.10YR3/2 黑褐色土 粒径2~7mmの大ハーフドーム粒を2%、2~5mmの大の焼成物を1%未満含む。締まり強く、粘性やや弱い。
- 34.10YR3/2~3 黑褐色土 粒径1~15mmの大ハーフドームプロックを3%、1~2mmの大の黄褐色スコリアを1%未満、1~2mmの大の焼成物を1%未満含む。3~10mmの大の黒褐色土(10YR3/1)を20%含む。締まりやや弱く、粘性強い。
- 35.10YR4/4 黄褐色土 粒径1~2mmの大ハーフドーム粒を1%未満含む。1~2mmの大の焼成物を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 36.10YR4/2 黄褐色土 粒径1~20mmの大ハーフドームプロックを25%、黒褐色土(10YR3/1)を2%、1~2mmの大の黄褐色スコリア1%未満含む。締まり強く、粘性やや強い。根の影響。
- 37.10YR3/1 黑褐色土 粒径1~5mmの大ハーフドームプロックを2%、1mmの大の焼成物を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。根の影響。
- 38.2.5YR3/2 黄褐色土 粒径1~5mmの大ハーフドームプロックを2%、2~7mmの大の焼成物を1%未満含む。3~10mmの大の黄褐色スコリア1%未満含む。締まり強く、粘性強い。
- 39.10YR4/3 黄褐色土 粒径1~3mmの大ハーフドーム粒を2%、1mm大未満の赤褐色スコリアを1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 40.10YR4/3 黄褐色土 粒径1~15mmの大ハーフドームプロックを2%未満。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 41.10YR4/4 黄褐色土 粒径1~2mmの大のハーフドームプロックを2%未満。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 42.10YR4/6 黄褐色土 粒径2~30mmの大ハーフドームプロック主体。黒褐色土(10YR3/2)を10%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 43.10YR4/4 黄褐色土 粒径2~30mmの大ハーフドームプロックを10%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 44.10YR4/6 黄褐色土 粒径2~30mmの大のハーフドームプロック主体。黒褐色土(10YR3/1)の割れ。粘性。
- 45.10YR4/2 黄褐色土 ロームプロック主体。締まり非常に強く、粘性弱く。4.45倍と想に厚さ5mm前後の黒褐色土(10YR3/1)の割れ。粘性。

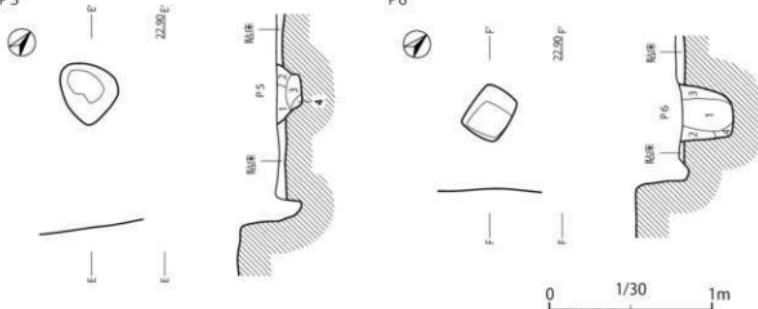
5号遺構P1-P2 C-C'

- 1.2.5YR3/2 黑褐色土 粒径2~10mmの大ロームプロックを3%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 2.10YR3/2 黑褐色土 粒径5~30mmの大ロームプロックを10%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 3.10YR4/3 黄褐色土 粒径5~20mmの大ロームプロックを20%含む。締まり弱く、粘性やや弱い。
- 4.10YR5/6 黄褐色土 ロームプロック主体。暗褐色土(2.5YR4/2)を5%含む。締まり非常に強く、粘性やや強い。
- 5.10YR4/4 黄褐色土 粒径2~5mmの大ロームプロックを2%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 6.2.5YR4/2 黄褐色土 粒径2~30mmの大ロームプロックを10%含む。締まり強く、粘性やや強い。
- 7.10YR3/2 黑褐色土 粒径2~10mmの大ロームプロックを3%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 8.10YR4/4 黄褐色土 粒径2~30mmの大ロームプロック主体。締まり強く、粘性やや弱い。
- 9.10YR4/4 黄褐色土 粒径5~40mm以上のロームプロック主体。締まり強く、粘性やや弱い。

5号遺構P3-P4 D-D'

- 1.10YR6/1 黑褐色土 ロームプロック主体。暗褐色土(10YR4/1)を10%、粒径1~2mmの大の赤色スコリアを1%未満含む。締まり非常に強く、粘性やや強い。根。
- 2.2.5YR3/1 黑褐色土 粒径1~5mmの大ロームプロックを5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 3.10YR4/3 黄褐色土 粒径5~20mmの大ロームプロックを20%含む。締まり弱く、粘性やや弱い。
- 4.10YR5/6 黄褐色土 ロームプロック主体。暗褐色土(2.5YR4/2)を5%含む。締まり非常に強く、粘性やや強い。
- 5.10YR4/4 黄褐色土 粒径2~50mm以上のロームプロック主体。締まり弱く、粘性やや強い。
- 6.10YR3/1~2/1 黑褐色土 粒径3~10mmの大ロームプロックを3%含む。締まり強く、粘性やや強い。
- 7.10YR4/2 黄褐色土 粒径2~40mm以上のロームプロックを25%含む。締まり非常に弱く、粘性やや弱い。貼床。
- 8.10YR6/6 黄褐色土 ロームプロック主体。締まりやや弱く、粘性やや弱い。貼たローム土を充填。
- 9.10YR5/4 黄褐色土 粒径2~30mmの大ロームプロック主体。締まり弱く、粘性やや弱い。
- 10.10YR5/4 黄褐色土 粒径5~40mmの大ロームプロック主体。締まり強く、粘性やや弱い。
- 11.10YR4/4 黄褐色土 粒径2~40mm以上のロームプロック主体。締まり強く、粘性やや弱い。

P5



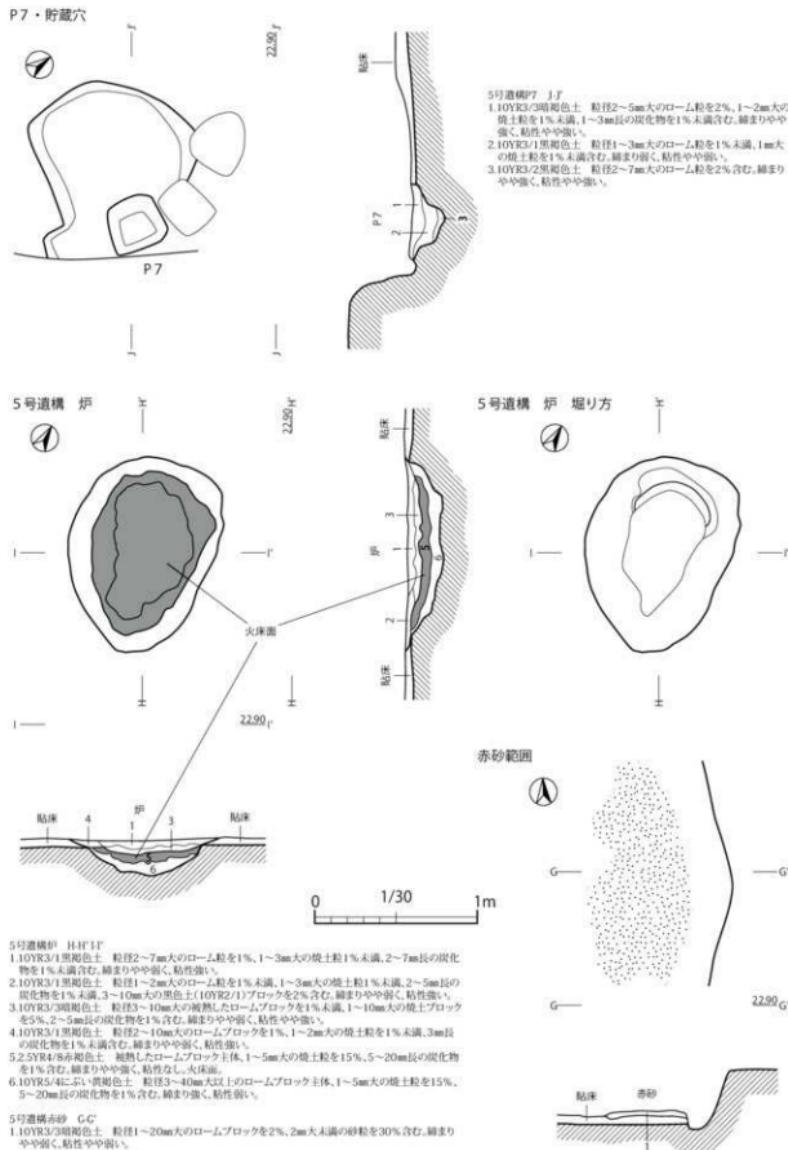
5号遺構P5 E-E'

- 1.2.5Y3/2 黑褐色土 粒径1~10mmの大ロームプロックを3%、2mmの大の焼成物を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。
- 2.2.5Y3/2 黑褐色土 粒径2~30mmの大ロームプロックを5%含む。締まり弱く、粘性やや弱い。
- 3.2.5Y4/2 黑褐色土 粒径2~15mmの大ロームプロックを7%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 4.2.5Y3/1 黑褐色土 粒径2~15mmの大ロームプロックを20%含む。締まり強く、粘性やや強い。

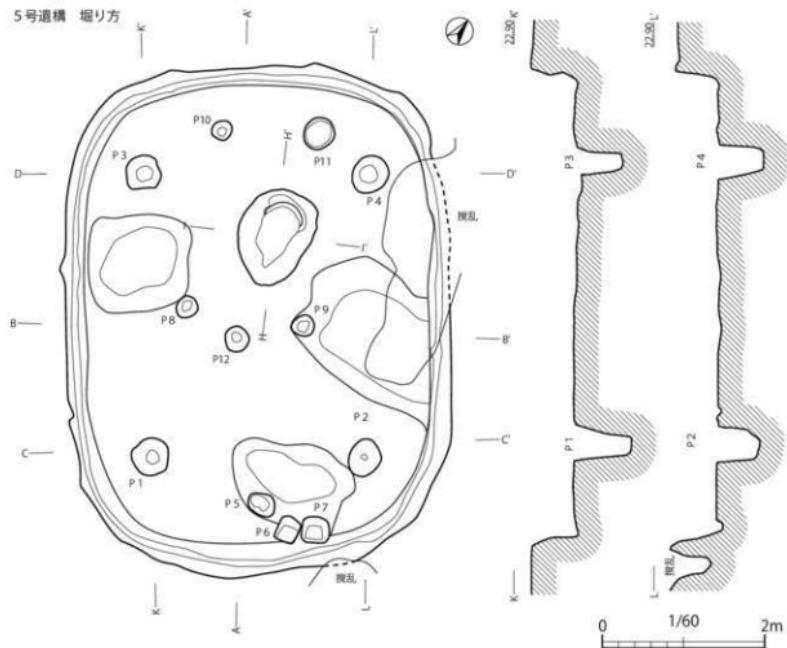
5号遺構P6 F-F'

- 1.10YR2/1 黑褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒を2%、2~3mmの大の焼成物を1%未満含む。締まり弱く、粘性弱い。
- 2.10YR3/1 黑褐色土 粒径2~30mmの大ロームプロックを7%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 3.10YR3/1 黑褐色土 粒径2~20mmの大ロームプロックを2%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 4.10YR3/1 黑褐色土 粒径2~10mmの大ロームプロックを3%含む。締まりやや強く、粘性やや強い。

第17図 十条富士塚地区 弥生時代の遺構（4）(1/30)



第18図 十条富士塚地区 弥生時代の遺構（5）(1/30)



P8	P9	P10	P11
M—	N—	O—	P—
M'—	N'—	O'—	P'—
22.90 M'	22.90 N'	22.90 O'	22.90 P'



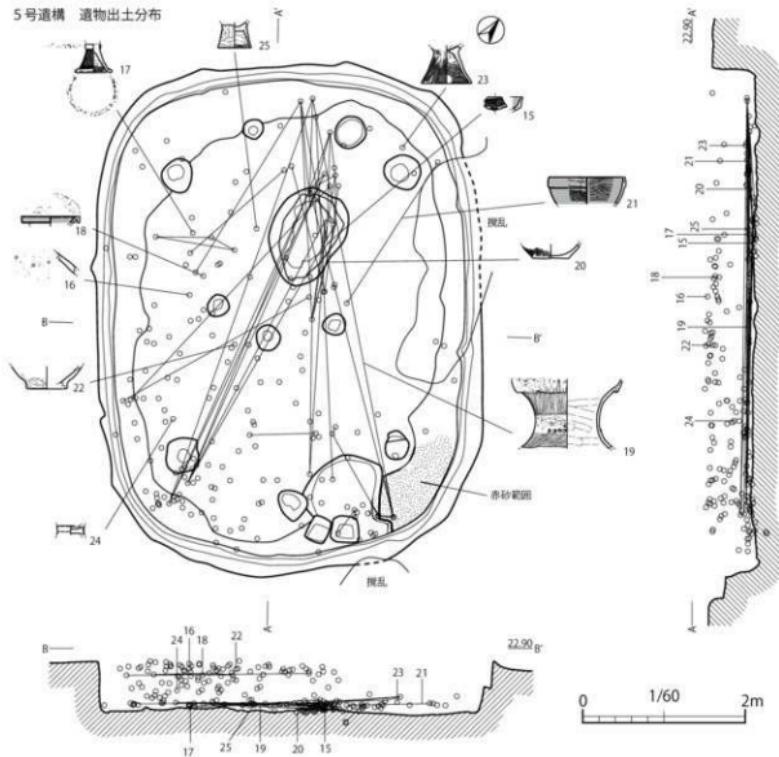
P12	Q—	Q'—
Q—	22.90 Q'	

5号遺構P8~12
11.0YRA/2K(黄褐色土、粒径2~5mmのローム粒を1%未満、1~3mmの埴土粒を1%未満、
2~10mm長の炭化物を1%未満含む。締まり強く、粘性やや強い)P8~12ではほぼ同様の土が充填。

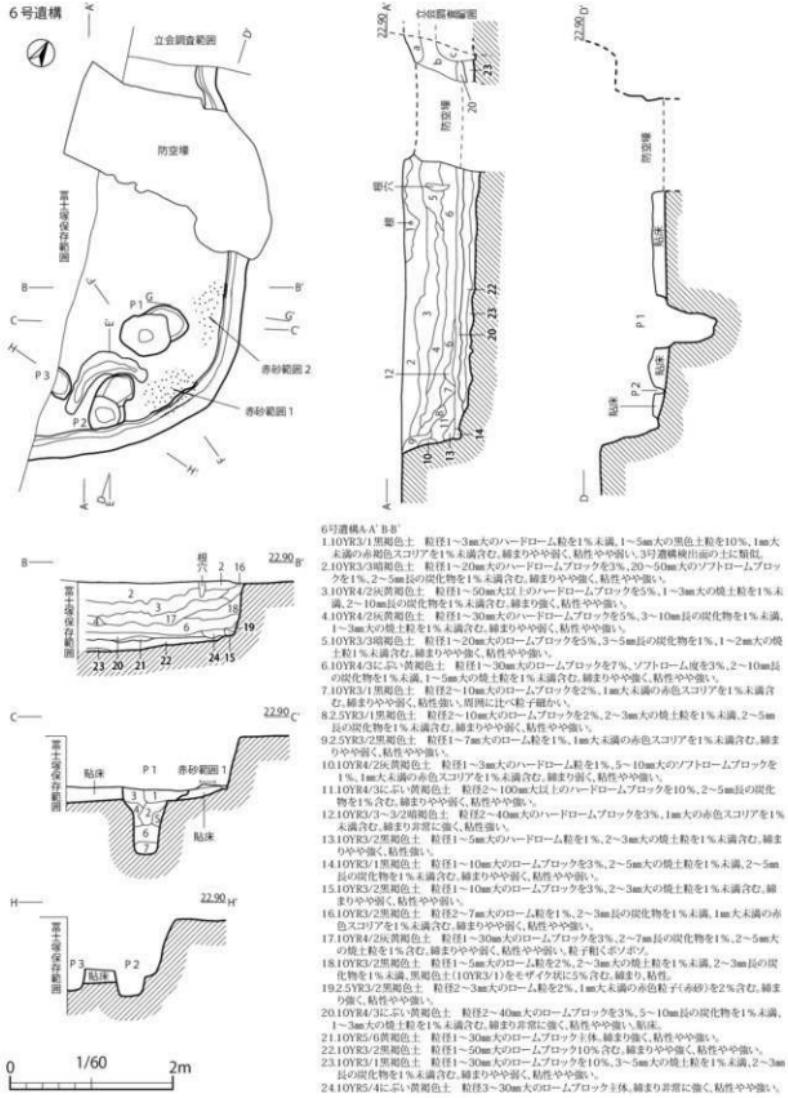


第19図 十条富士塚地区 弥生時代の遺構 (6) (1/60・1/40)

5号遺構 遺物出土分布



第20図 十条富士塚地区 弥生時代の遺構（7）(1/60)

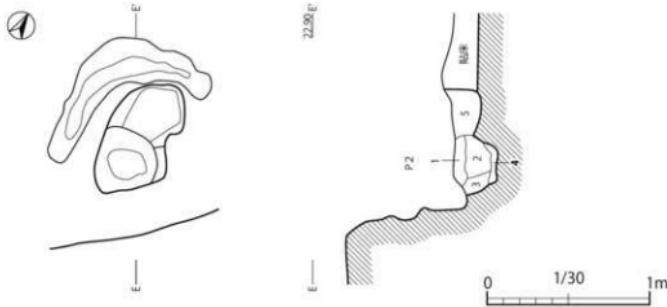


第21図 十条富士塚地区 弥生時代の遺構（8）（1/60）

6号遺構C-C'

1. 10YVR/2c 黄褐色。粒径 2~30mm のループ状。3~5mm の粒は丸く 1 番多く、3~10mm の粒は 1 倍多く、3~15mm の粒は 1 倍多く含まれる。縛り目や強く、粘性やや強い。
2. 10YVR/3c 黄褐色。粒径 3~20mm のロープ状を多く、3~10mm の粒の比率が 10% を超える。縛り目弱く、粘性弱い。
3. 10YVR/3 黄褐色。粒径 2~40mm のロープ状を多く、10% 前後の粒は 1 倍多く含まれる。縛り目強く、粘性弱い。
4. 10YVR/4 黑褐色。粒径 2~30mm のロープ状を多く、10% 前後の粒は 1 倍多く含まれる。縛り目強く、粘性やや強い。
5. 10YVR/5 黄褐色。粒径 2~30mm のロープ状を多く、10% 前後の粒は 1 倍多く含まれる。縛り目弱く、粘性やや強い。
6. 10YVR/6 黄褐色。粒径 2~30mm のロープ状を多く、10% 前後の粒は 1 倍多く含まれる。縛り目弱く、粘性やや強い。
7. 10YVR/7 黄褐色。粒径 2~30mm のロープ状を多く、20% 前後の粒は 1 倍多く含まれる。縛り目強く、粘性やや強い。
8. 10YVR/8 黄褐色。ローム状のロープ状を多く、黑色が 10% 前後の粒を含む。縛り目弱く、粘性やや強い。ロームを突き固めた土。

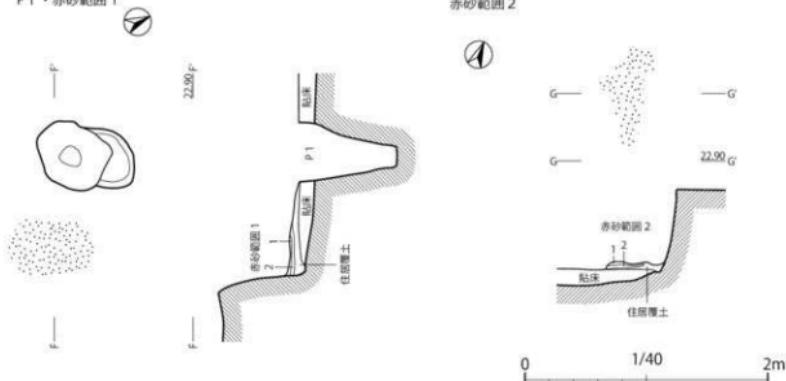
P2 貯藏穴



6月遺構E-E'

- 1.1)YOKO-1/1期赤土 肥径2~2.5m大的ロームブロック10%、1~2m大的赤土を1%未満含む。縛りやすく強、粘性やや強。
 1.2)YOKO-1/2期赤土 肥径1~2m大的赤土を1%未満含む。縛り弱く、柔軟性やや強。
 1.3)YOKO-1/3期赤土 肥径1~2.5m大的赤土を1%未満含む。縛り弱く、柔軟性やや強。
 1.4)YOKO-1/4期赤土 肥径1~2.5m大的赤土を1%未満含む。縛り弱く、柔軟性やや強。
 1.5)YOKO-1/5期赤土 肥径1~2.5m大的赤土を1%未満含む。縛り弱く、柔軟性やや強。
 1.6)YOKO-1/6期赤土 肥径1~2.5m大的赤土を1%未満含む。縛り弱く、柔軟性やや強。
 1.7)YOKO-1/7期赤土 肥径1~2.5m大的赤土を1%未満含む。縛り弱く、柔軟性やや強。
 1.8)YOKO-1/8期赤土 肥径1~2.5m大的赤土を1%未満含む。縛り弱く、柔軟性やや強。
 1.9)YOKO-1/9期赤土 肥径1~2.5m大的赤土を1%未満含む。縛り弱く、柔軟性やや強。
 1.10)YOKO-1/10期赤土 肥径1~2.5m大的赤土を1%未満含む。縛り弱く、柔軟性やや強。

P1 · 赤砂問題 1

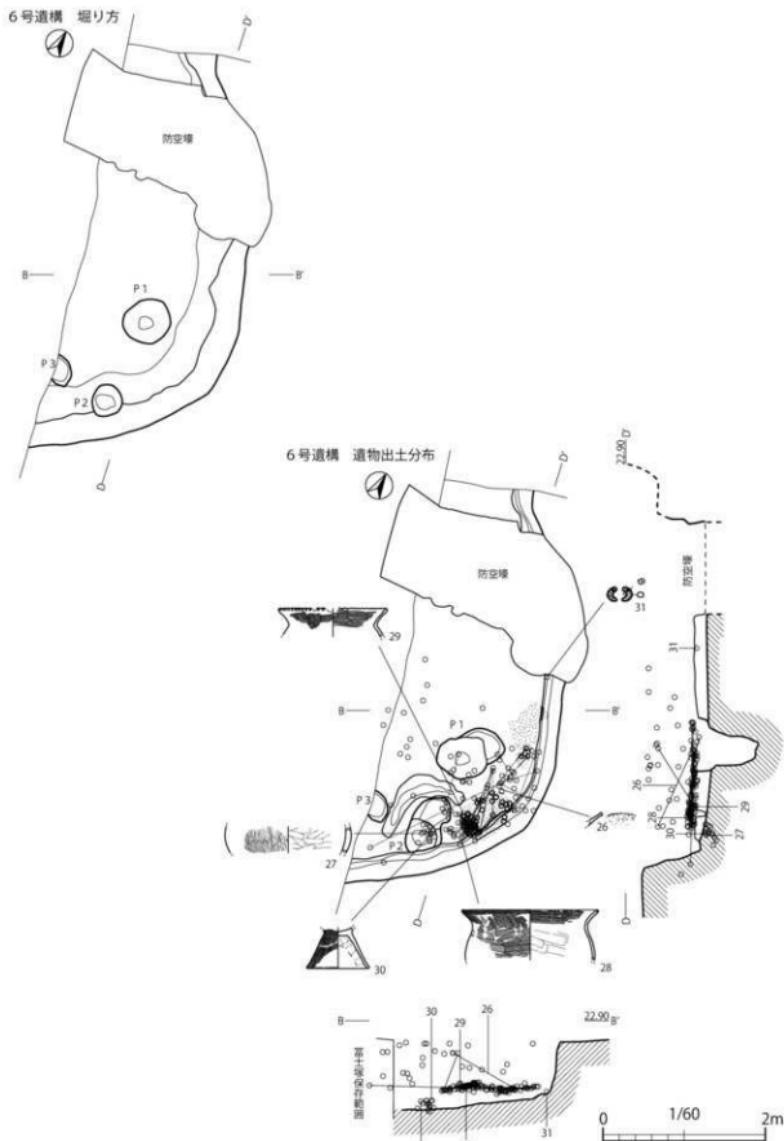


后记

- 6-5号窓J-F
1.75YR4/3暗色土 やや赤みの強い砂粒(1mm以下)主体、粒径2~10mmの大ローム粒を1%、2~5mm以下の炭化物を極微量含む。縮まり弱く、粘性なし、遺物多く出土。
2.10YR5/4~5/5に近い黄褐色土 ローム主体、1層の砂粒を10%含む。縮まりやや強く、粘性やや強い、遺物を含まない。

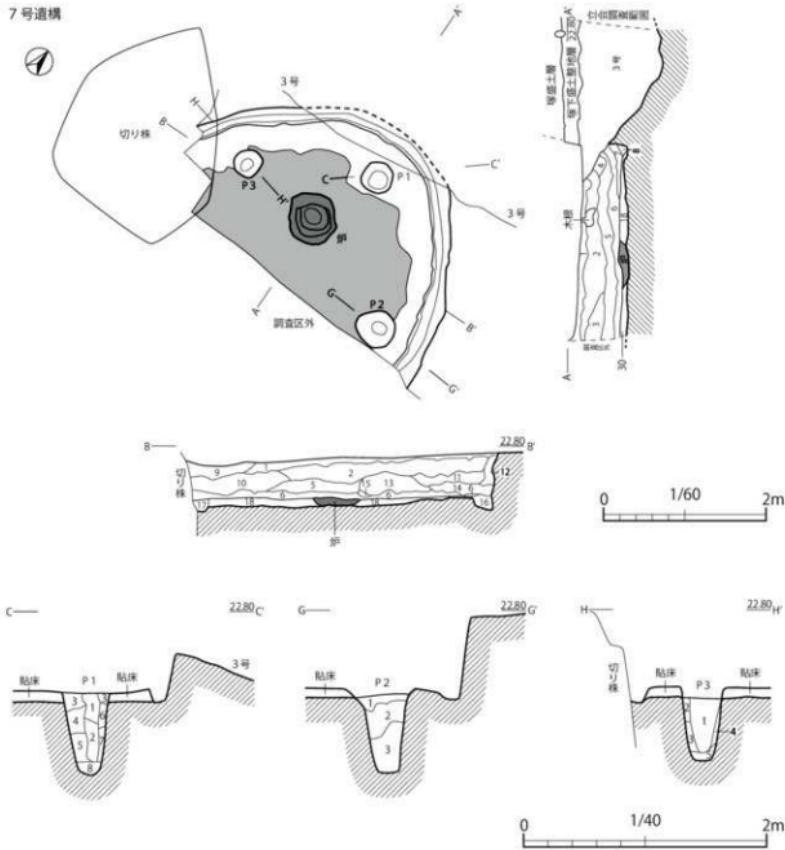
6月連続GGG

第22図 十条富士塚地区 弥生時代の遺構（9）（1/30・1/40）



第23図 十条富士塚地区 弥生時代の遺構 (10) (1/60)

7号遺構



7号遺構A-A'・B-B'

- 1.10YR3/2黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を1%未満、2mmの大ローム粒を1%未満、3~5mm長の炭化物を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 2.10YR3/2黒褐色土 粒径3~5mmの大ローム粒を1%、1~3mmの黄褐色スコリアを1%未満、2~3mm長の炭化物を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 3.10YR4/2(2)黄褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒を1%、2~3mmの大ローム粒と砂粒1%未満、3~5mm長の炭化物を1%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
- 4.10YR3/1黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を1%未満、2~3mm長の炭化物を1%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
- 5.10YR3/3(3)褐褐色土 粒径2~30mmの大ロームブロックを2%、1~5mmの大ローム粒を1%未満、2~3mm長の炭化物を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
- 6.10YR3/2黒褐色土 粒径3~10mmの大ロームブロックを1%、1~3mmの大ローム粒を1%未満、3~5mm長の炭化物を1%未満含む。締まり強く、粘性やや弱い。
- 7.10YR3/2(2)黄褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを1%、2~3mm長の炭化物を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 8.10YR4/2(2)黄褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを10%未満、3~5mm長の炭化物を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 9.10YR3/1黒褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を1%、1m大程度の赤色スコリアを1%未満、1~3mm長の炭化物を1%未満含む。締まり弱く、粘性やや弱く、相の剥離を受ける。
- 10.10YR3/2黒褐色土 粒径2~15mmの大ローム粒を1%、3~10mm長の炭化物を1%未満含む。1~2mmの大ロームスコリアを1%未満含む。締まり弱く、粘性やや弱い。
- 11.10YR3/3(3)褐褐色土 粒径2~7mmの大ローム粒を2%、5mm長の炭化物を1%未満、2~3mmの大ローム粒を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
- 12.10YR4/3(3)にぶ(2)黄褐色土 粒径2~15mmの大ロームブロックを3%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 13.10YR4/3(3)にぶ(2)黄褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを3%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 14.10YR3/3褐褐色土 粒径3~20mmの大ロームブロックを3%、2~3mmの大ローム粒を1%未満、3m長の炭化物を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
- 15.10YR3/2黒褐色土 粒径2~5mmの大ローム粒を1%含む。締まり弱く、粘性やや弱い。相の剥離。
- 16.10YR4/3にぶ(2)黄褐色土 粒径2~15mmの大ロームブロックを3%含む。3~10mm長の炭化物を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 17.10YR4/3(3)にぶ(2)黄褐色土 粒径2~15mmの大ロームブロックを7%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 18.2.10YR4/2(2)明灰黄色土 粒径2~40mm以上の大ロームブロックを3%、1~2mmの大赤色スコリアを1%未満、2~5mm長の炭化物を1%未満含む。締まり非常に強く、粘性やや弱い。粘灰土。

第24図 十条富塚地区 弥生時代の遺構 (11) (1/40・1/60)

7号遺構P1 C-C'

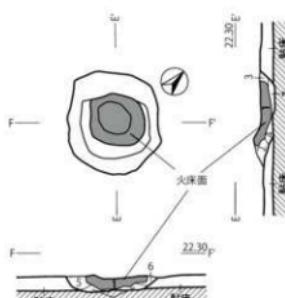
- 1.10YR3/1黒褐色土 粒径3~10mmの大ロームブロックを2%, 3~5mm長の炭化物を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。
- 2.10YR4/2~4/3c 黄褐色土 粒径2~15mmの大ロームブロックを20%含む。締まり弱く、粘性やや弱い。
- 3.10YR3/2黒褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒を1%, 5~20mmの大炭化物土(10YR3/3)ブロックを3%含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
- 4.10YR4/4~4/3褐色土 粒径5~30mm大以上の大ロームブロック主体、黒褐色土(10YR3/2)を5%含む。締まり強く、粘性やや強い。
- 5.10YR4/3c~5c 黄褐色土 粒径3~30mmの大ロームブロック主体、締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 6.10YR4/3c~4/4c 黃褐色土 粒径3~10mmの大ロームブロック主体、黒褐色土(10YR3/2)を5%含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。
- 7.10YR4/3c~5c 黄褐色土 粒径5~20mm大以上の大ロームブロック主体、黒褐色土(10YR3/1)を3%含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。
- 8.10YR3/2黒褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒を3%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満含む。締まり強く、粘性強い。

7号遺構P2 G-G'

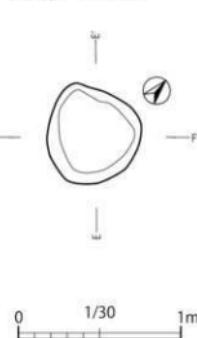
- 1.10YR3/2黒褐色土 粒径2~15mmの大ロームブロックを3%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 2.10YR4/4褐色土 粒径3~50mm大以上の大ロームブロック主体、締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 3.10YR4/3c~5c 黄褐色土 粒径2~15mmの大ロームブロック主体、黒褐色土(10YR3/1)を5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

- 4.10YR4/3c~5c 黄褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを5%, 黑褐色土(10YR3/1)を5%含む。締まり強く、粘性やや強い。
- 5.10YR5/6黒褐色土 粒径1~30mmの大ロームブロック主体、含む、黒褐色土(10YR3/1)を5%含む。締まり強く、粘性やや強い。

7号遺構 炉



7号遺構 炉 振り方

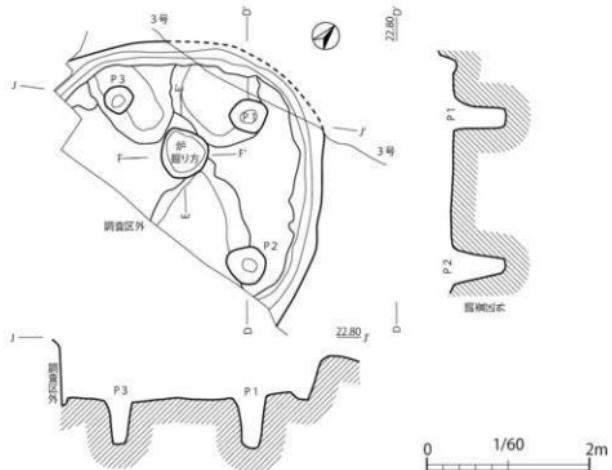


7号遺構炉 E-E'

- 1.2.10YR3/2 黑褐色土 粒径3~10mmの大ロームブロックを2%, 黄褐色土(2.3YR5/4c)の炭化物を3%, 黑褐色土(10YR3/3)を2%, 3~5mm長の炭化物を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

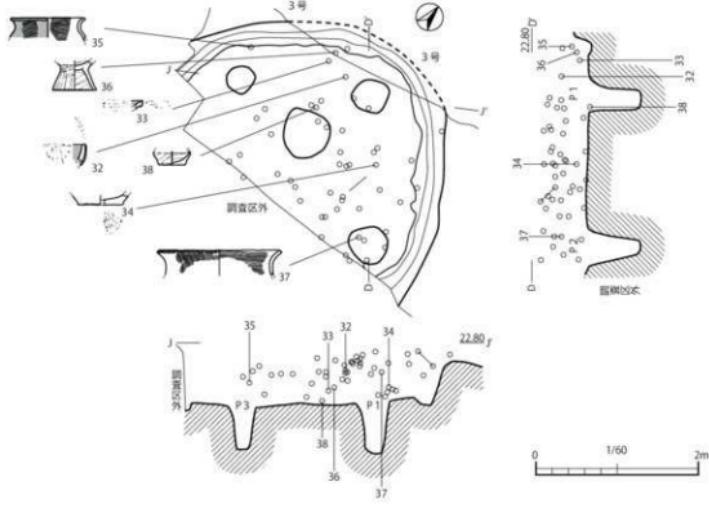
- 2.10YR3/3黒褐色土 粒径1~3mmの大灰白色土(10YR7/1)粘土2%, 10mmの大ロームブロックを1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
- 3.10YR3/2 黑褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
- 4.10YR3/3 黑褐色土 粒径2~15mmの大ロームブロックを3%, 1~3mmの大燒土粒を3%, 2mm長の炭化物を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
- 5.10YR3/2 黑褐色土 粒径2~5mmの大灰白色土を主とし、1mmの大燒土粒を1%, 2~3mm長の炭化物を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
- 6.10YR3/3 黑褐色土 粒径2~30mmの大灰白色土を2%, 1~3mmの大燒土粒を1%, 1~3mmの大燒土粒を1%, 3mm長の炭化物を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
- 7.10YR3/3/4 黑褐色土 粒径2~5mmの大ローム粒を1%, 1~3mmの焼土粒を1%, 2~5mm長の炭化物を1%未満含む。締まり強く、粘性やや強い。

7号遺構 振り方

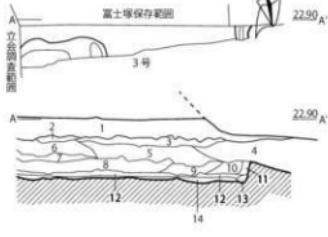


第25図 十条富士塚地区 弥生時代の遺構 (12) (1/30・1/60)

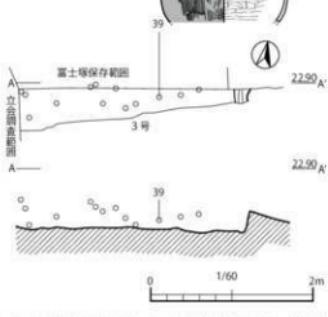
7号遺構 遺物出土分布



8号遺構



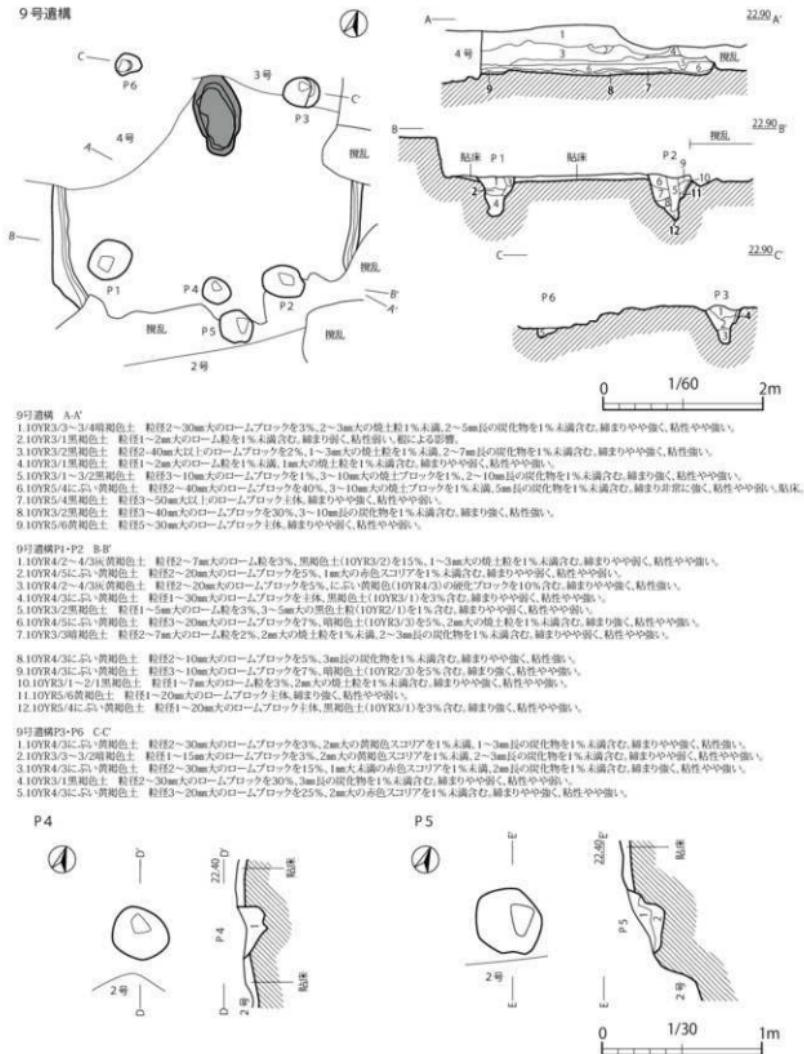
8号遺構 遺物出土分布



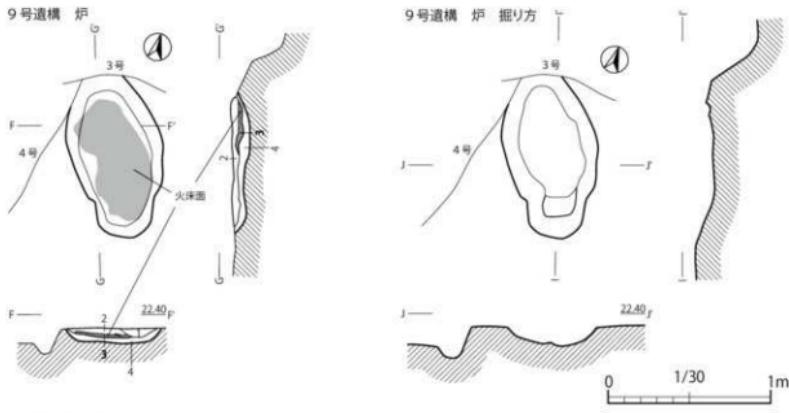
8号 A-A'

1. 10YR2/1 黒褐色土、富士塚下部地層
2. 10YR3/1 黒褐色土、粒径1~2mmの大ローム粘土を1%未満、1~3mmの大黄褐色スコリアを1%未満、1~2mmの大焼土粘土を1%未満、1~3mmの大黒色土粘土を3%含む。締まりや少く、粘性やや強く、堅性土下層。
3. 10YR3/1 黒褐色土、粒径1~2mmの大ローム粘土を1%未満、1~2mmの大黄褐色スコリアを1%未満、2~5mm長の炭化物を1%未満、1~3mmの大黒色土粘土を2%含む。締まりや少く、粘性やや強く。
4. 10YR2/1-3/1 黒褐色土、粒径1~2mmの大黄褐色スコリアを1%未満、1~3mmの大黒色土粘土を10%、3~10mm長の炭化物を1%未満含む。締りや少く、粘性やや強く。3号遺構覆土。
5. 10YR3/2 黑褐色土、粒径1~20mmの大ロームブロックを1%、5mm以上の燒土粘土を1%未満、3~5mm長の炭化物を1%未満、5~20mmの大黒色土ブロック(10YR2/1)を2%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
6. 10YR3/3 黄褐色土、粒径2~15mmの大ロームブロックを2%、1~3mmの大燒土粘土を1%未満、2~10mm長の炭化物を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや強く。
7. 10YR3/3 黄褐色土、粒径2~4mm大以下の大ロームブロックを3%、2~5mmの大燒土粘土を1%未満、ソフローム土を2%含む。締まりやや強く、粘性やや強く。
8. 10YR3/2-3/3 黄褐色土、粒径1~50mm以下の大ロームブロックを3%、2~5mmの大燒土粘土を1%未満、1~5mmの大黒色土スコリアを1%未満含む。締まり強く、粘性やや強く。
9. 10YR3/1 黑褐色土、粒径1~50mmの大ロームブロックを10%、1~5mmの大黒色土スコリアを1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや強く。
10. 10YR4/3C 黄褐色土、粒径1~10mmの大ロームブロックを1%、2~3mm長の炭化物を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや強く。
11. 10YR4/3B 黄褐色土、粒径1~3mmの大ローム粘土を2%、1mmの大黄褐色スコリアを1%含む。締まりやや強く、粘性やや強く。
12. 10YR4/2 黄褐色土、粒径2~30mmの大ロームブロックを2%、3~5mmの大燒土粘土を1%未満、2~10mm長の炭化物を1%未満含む。締まり強く、粘性やや強く。8号より締まり強く。
13. 10YR4/2-3 黄褐色土、粒径1~10mmの大ロームブロックを1%含む。締まりやや弱く、粘性やや強く。
14. 10YR5/6 黄褐色土、粒径10~40mm大以上のロームブロック主体。締まり非常に強く、粘性やや強く、粘性。

第26図 十条富士塚地区 弥生時代の遺構 (13) (1/60)



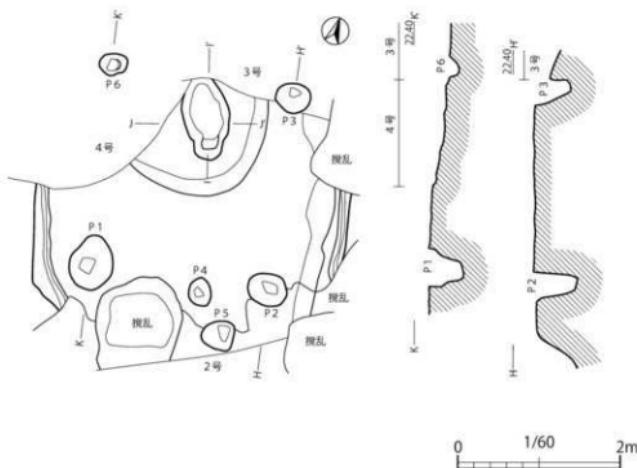
第27図 十条富士塚地区 弥生時代の遺構 (14) (1/60・1/30)



9号遺構即 FFC.G'

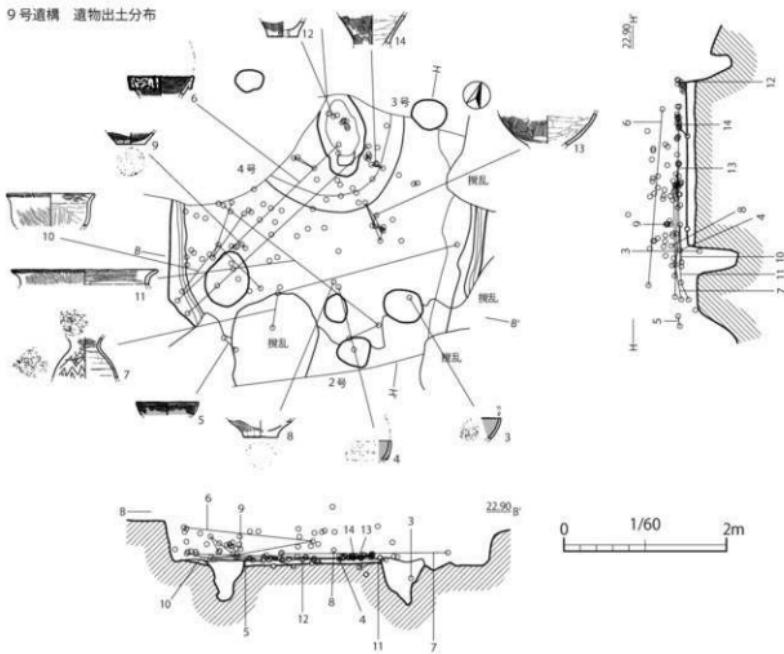
1.2.5YR3/2灰褐色土 粒径2~7mmの大ローム粘土を2%, 1~3mm長の炭化物を1%, 1~3mm大の焼土粘土を2%含む。締まり強く、粘性やや弱い。
 2.7.5YR4/2灰褐色土 粒径1~3mmの大ローム粘土を2%, 1~5mm大の焼土粘土を5%, 2~5mm長の炭化物を1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 3.7.5YR4/4褐色土 粒径2~10mm大の焼成したロームブロックを3%, 1~10mm大の焼土ブロックを15%, 2~5mm長の炭化物を2%含む。締まりやや弱く、粘性弱い。火床面。
 4.5YR4/4にぶい赤褐色土 燃土王体、2~15mm大のロームブロックを2%、5~10mm長の炭化物を含む。締まり強く、粘性弱い。

9号遺構 掘り方

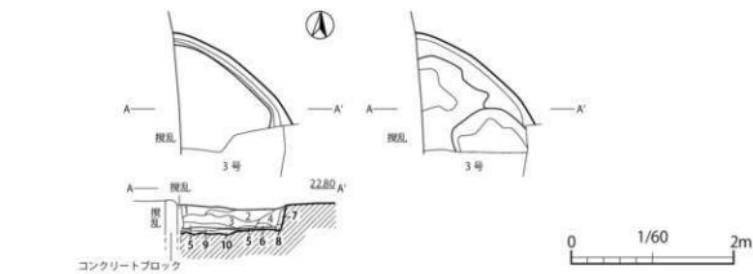


第28図 十条富士塚地区 弥生時代の遺構 (15) (1/30・1/60)

9号遺構 遺物出土分布



14号遺構

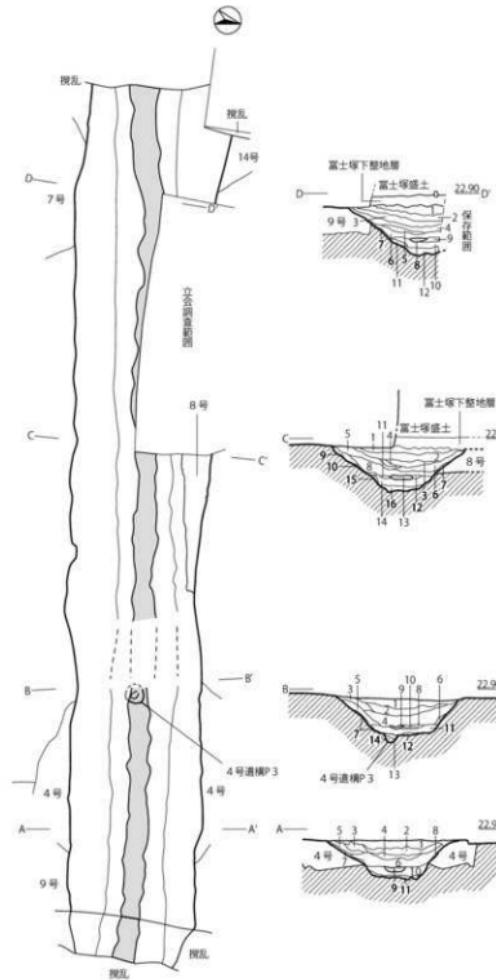


14号遺構

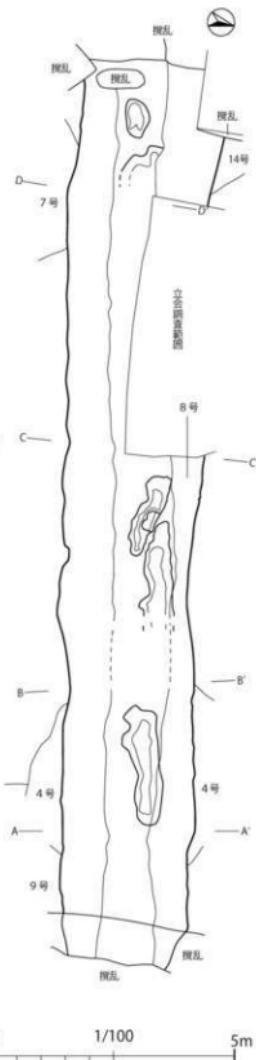
- 1.10YR3/1黒褐色土 粒径1mmの大ローム粒と1%未満、黒色土(10YR2/1)を1%含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
- 2.10YR3/2黒褐色土 粒径5~10mmの大ロームブロックを1%、1mm大未満の赤色スコリア1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
- 3.10YR3/1黒褐色土 粒径3~10mmの大ロームブロックを1%、黒色土(10YR2/1)を5%、1mm大未満の赤色スコリア1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
- 4.10YR3/2黒褐色土 粒径5~30mmの大ロームブロックを5%、黒色土(10YR2/1)を5%、1mm大未満の赤色スコリア1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
- 5.10YR4/2赤黃褐色土 粒径2~3mmの大ローム粒を1%未満、2~3mm長の粒化物を1%未満含む。締まり強く、粘性弱い。
- 6.10YR4/3にいぶ赤褐色土 粒径3~20mmの大ロームブロックを10%、1mmの赤色スコリア1%未満含む。締まり強く、粘性強い。
- 7.10YR4/4褐色土 粒径1~2mmの大色スコリアを1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
- 8.10YR4/4褐色土 粒径5~50mmの大ロームブロックを5%、10~50mmの黒色土(10YR2/1)を5%、1mm大未満の赤色スコリア1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
- 9.10YR4/3~4/2にいぶ赤褐色土 粒径2~30mmの大ロームブロックを10%、1mm大未満の赤色スコリアを1%未満含む。締まり非常に強く、粘性やや強い、堅化度高。
- 10.10YR4/3にいぶ黄褐色土 粒径2~50mmの大ローム粒を40%以上、1mm大未満の赤色スコリア1%未満含む。締まり強く、粘性やや強い。

第29図 十条富士塚地区 弥生時代の遺構 (16) (1/60)

3号遗稿

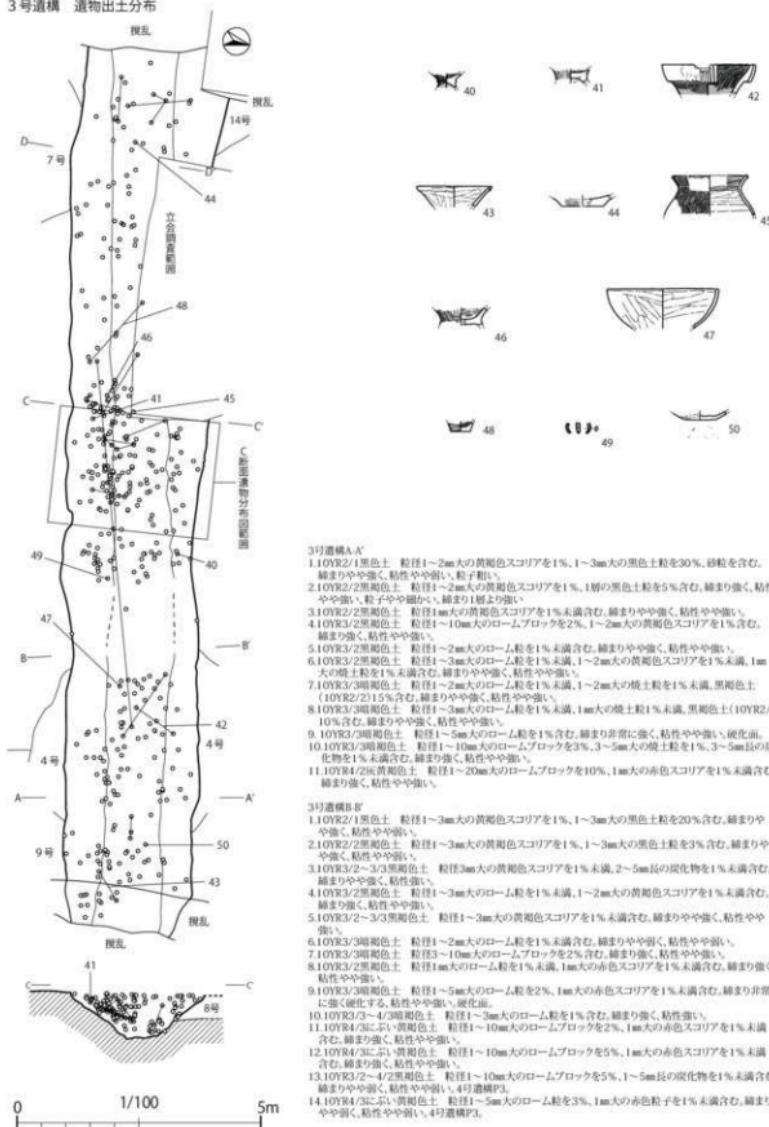


3号遺構 掘り方



第30図 十条富士塚地区 古代～中世の遺構（1）（1/100）

3号遺構 遺物出土分布



第31図 十条富士塚地区 古代～中世の遺構（2）(1/100)

39CC

1. IOPV2/1黒毛鹿：粒径1~2mmの黄褐色スコア1%未満含む。1~3mmの大黒色土動物を25%、3~5mm長の現物を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

2. IOPV2/2黒毛鹿：粒径1~3mmの大黒色ローム粒を1%未満含む。1~2mmの黄褐色スコア1%未満含む。3~5mmの大黒色土動物を5%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

3. IOPV2/2黒毛鹿：粒径1~2mmの大黒色ローム粒を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

4. IOPV2/2黒毛鹿：粒径2~5mmの大黒色ローム粒を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

5. IOPV3/1黒毛鹿：粒径1~3mmの大黒色ローム粒を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

6. IOPV3/2~3黒毛鹿：粒径1~3mmの大黒色ローム粒を1%未満含む。1~2mmの赤褐色スコア1%未満含む。3~5mmの現物を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

7. IOPV3/2~4黒毛鹿：粒径2~3mmの大黒色ローム粒を1%未満含む。1~3mmの赤褐色土動物を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

8. IOPV3/2~3黒毛鹿：粒径1~2mmの大黒色ローム粒を1%未満含む。3~5mmの現物を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

9. IOPV3/2~3/3黒毛鹿：粒径1~5mmのハーフローム粒を2%, 5~20mmの大ソリフロームを2%, 1~2mmの赤褐色スコア1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

10. IOPV3/2~3/3 黄褐色土：粒径1~5mmの大ローム粒を1%未満含む。1~2mmの赤褐色スコア1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

11. IOPV3/3 黄褐色土：粒径1~3mmの大ローム粒を2%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

12. IOPV3/3 黄褐色土：粒径1~3mmの大ローム粒を2%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

13. IOPV3/3 黄褐色土：粒径2~3mmの大ローム粒を2%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

14. IOPV4/2~4/3 黄褐色土：粒径1~10mmの大ロームロードマットを1%未満含む。締まり非常に強く、粘性やや強め、硬面化。

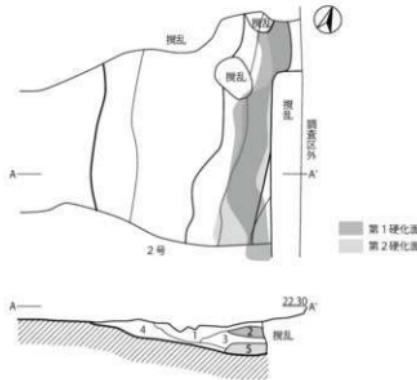
15. IOPV4/2~4/3 黄褐色土：粒径1~10mmの大ロームロードマットを1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや強め。

16. IOPV4/3~3/2~3 黄褐色土：粒径1~10mmの大ロームロードマットを40%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

37D-D*

- 1.IORYE/2/黒土色・粒径1~2mmの黄褐色スコリ/を1%未満、1~3mmの黑色土(10YR2/2)を2%未満、3mm以上の腐化物を1%未満含む。練まりや弱く、粘性やや弱い。
2.IORYE/2/黒土色・粒径1~3mmのローム/を1%未満、1~2mmの黄褐色スコリを1%未満、3mmの黑色土(10YR2/1)を1%未満含む。練まりや弱く、粘性やや弱い。
3.IORYE/2/黒土色・粒径1~3mmのローム/を1%未満、3~5mmの腐化物を1%未満含む。練まりや強く、粘性やや弱い。
4.IORYE/2/黒土色・粒径1~3mmのローム/を1%未満、3~5mmの腐化物を1%未満含む。練まりや強く、粘性やや弱い。
5.IORYE/3/黒褐色・粒径3~7mmのローム/を1%未満含む。練まりや強く、粘性やや弱い。
6.IORYE/3/ 黑褐色・粒径2~10mmの大粒のローム/を1%未満、5~10mmの成粒化物を1%未満含む。練まりや強く、粘性やや弱い。
7.IORYE/3/2~3/ 黑褐色・粒径55~300mmの大粒のローム/を2%未満、7mmの赤色スコリ/を1%未満含む。練まりや強く、粘性やや弱い。
8.IORYE/3/3~4/ 黑褐色・粒径55~200mmのローム/を2%未満、5~15mmの成粒化物を1%未満含む。練まり非常に強く、粘性やや弱く、硬化面。
9.FORYE/3/ 黑褐色・粒径2~10mmの大粒のローム/を2%未満含む。練まりや強く、粘性やや弱い。
10.FORYE/3/ 黑褐色・粒径2~10mmの大粒のローム/を2%未満含む。練まりや強く、粘性やや弱い。
11.IORYE/3/3~4/ 黑褐色・粒径2~20mmの大粒のローム/を2%未満含む。練まりや強く、粘性やや弱い。
12.IORYE/3/4~5/ 黑褐色・粒径2~30mmの大粒のローム/を2%未満含む。練まりや強く、粘性やや弱い。

10号遗模



10号遗稿

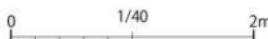
1. 10YK2/2-1 黑褐色土。前1cm 6-8mmのロームを1%、5-10mmの黒褐色土(10YR2/2-1)で構成。表面に薄い風化層を有する。粒度はやや偏重。粘性や強度が低い。

2. 10YR2/2-2-1 黑褐色土。粒径1-2mmの砂を1%、5-10mmの風化層を1%で構成。5-10mmの土色は5-10mmの風化層と同様である。表面に薄い風化層を有する。粒度はやや偏重。粘性や強度が低い。

3. 10YR2/2-2 黑褐色土。粒径1-2mmの砂を1%、5-10mmの風化層を1%で構成。5-10mmの土色は5-10mmの風化層と同様である。表面に薄い風化層を有する。粒度はやや偏重。粘性や強度が低い。

4. 10YR4/3-4/2-2 黄褐色土。和田谷1-3cmのロームを1%、3-6mmの大粒のロームを2%を含む。粒度はやや偏重。

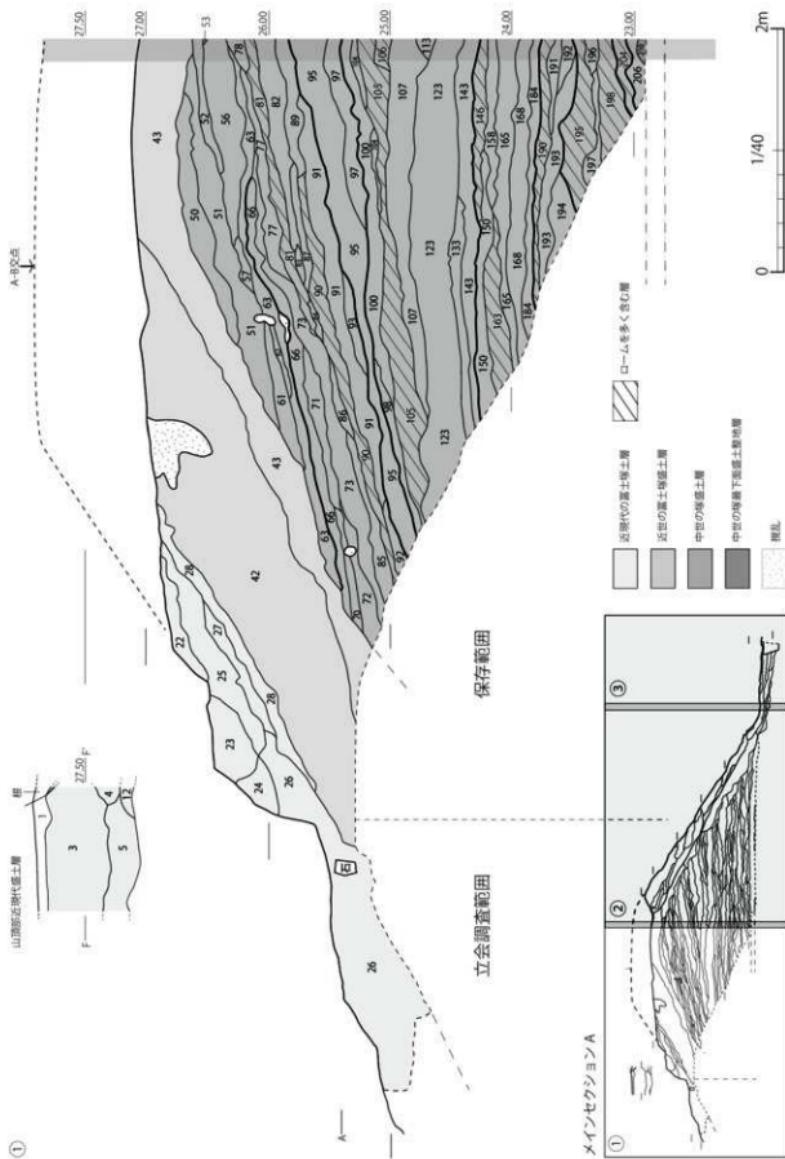
5. 10YR4/3-4/2 黑褐色土。和田谷1-3cmのロームを1%、3-6mmの大粒のロームを2%を含む。粒度はやや偏重。



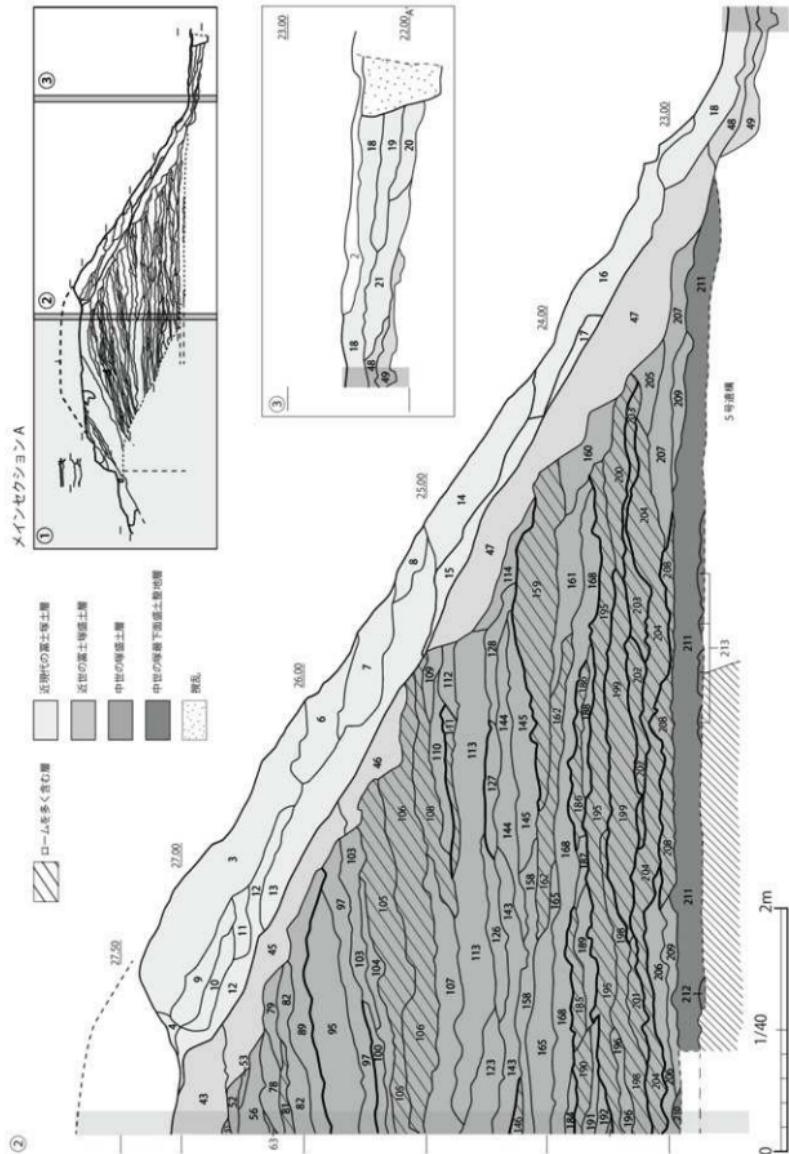
第32図 土条富士塚地区 古代～中世の遺構（3）（1/40）



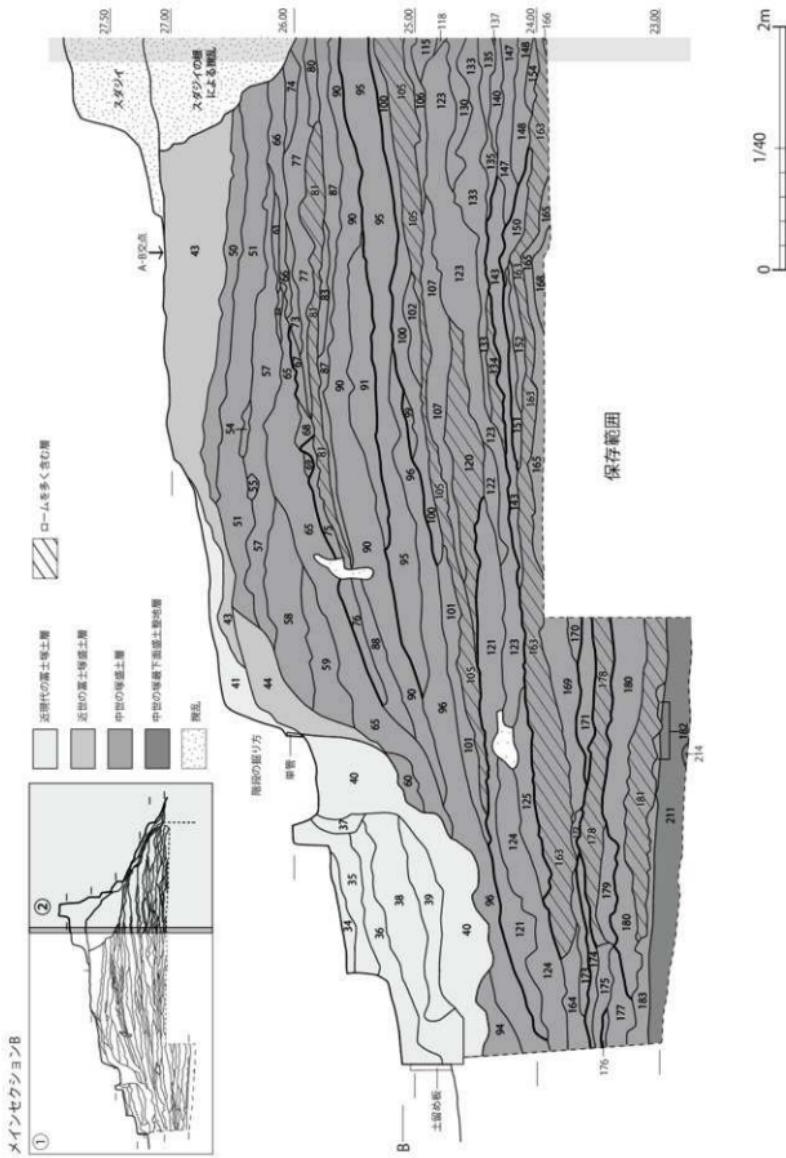
第33図 十条富士塚地区 中世以降の遺構（1）(1/100)



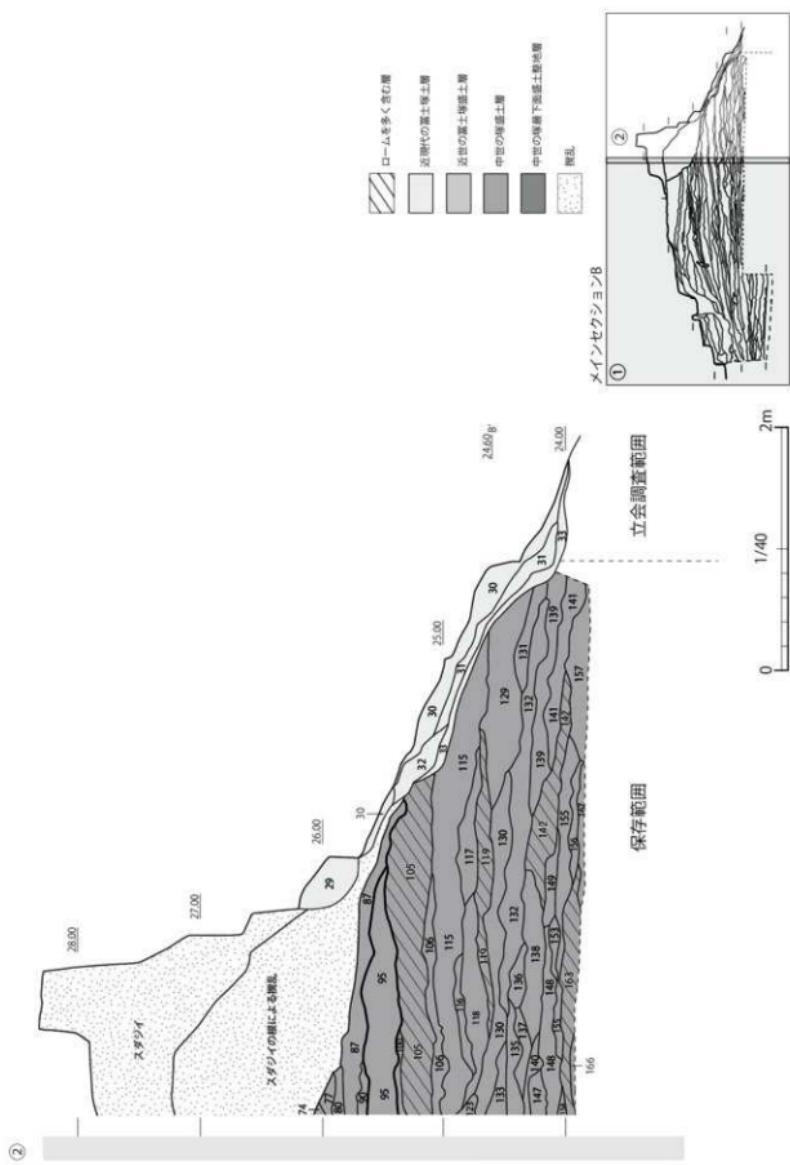
第34図 十条富士塚地区 中世以降の遺構（2）（1/40）



第35図 十条富士塚地区 中世以降の遺構（3）(1/40)



第36図 十条富士塚地区 中世以降の遺構（4）（1/40）



第37図 十条富士塚地区 中世以降の遺構（5）（1/40）

十条富士塚ヘンゼクショウ&A、B-B'共通

近現代の十条富士塚上野地帯

1.10YR5/1-4/1 黒褐色土 粒径1~3mmの大ロームブロックを1%含む。縋まり強く、粘性弱い。

2.土塚上部 鮎粒による地盤の舗装層

3.10YR4/2/灰黒褐色土 粒径1~3mmの大ロームブロックを1%含む。縋まり強く、粘性弱い。

4.10YR4/3/灰 黃褐色土 ロームと砂の混成層。縋まり強く、粘性弱い。

5.10YR4/2-3/2灰黒褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを1%含む。縋まり強く、粘性弱い。

6.10YR4/1 黑褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを10%含む。縋まり強く、粘性弱い。

7.10YR4/2-3/2灰黒褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを1%含む。縋まり強く、粘性弱い。

8.10YR4/2 黑褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを1%含む。縋まり強く、粘性弱い。

9.10YR4/2-3/2灰黒褐色土 粒径1~20mmの大ロームブロックを2%含む。縋まり強く、粘性弱い。

10.10YR4/2/灰黒褐色土 粒径1~5mmの大ロームブロックを1%含む。縋まり強く、粘性弱い。

11.10YR5/1 黑褐色土 粒径2~8mmの大ロームブロックを10%含む。1~3mmの大粒を含む。縋まり強く、粘性弱い。

12.10YR5/1 黑褐色土 粒径1~2mmの大ロームブロックを1%未満含む。縋まりやや弱く、粘性やや弱い。

13.10YK3/2 黑褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを7%含む。縋まりやや弱く、粘性やや弱い。

14.10YK4/1 黑褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを10%含む。コンクリート片等を含む。縋まり弱く、粘性弱い。

15.10YK3/1 黑褐色土 粒径1~3mmの大ロームブロックを1%含む。縋まり弱く、粘性弱い。

16.10YK3/1 黑褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを2%含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

17.10YK3/1 黑褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを1%含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

18.10YK3/1-3/1 黑褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを2%含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

19.10YK3/1-4/1 黑褐色土 粒径3~10mmの大ロームブロックを1%未満含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

縋まり強く、粘性やや弱い。

20.10YK3/1 黑褐色土 粒径1~10mmの大ロームブロックを1%未満含む。縋まりやや弱く、粘性やや弱い。

21.10YK3/1 黑褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを1%未満含む。縋まりやや弱く、粘性やや弱い。

22.10YK3/2-3/2灰黒褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを2%未満含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

23.10YK4/1 黑褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを1%未満含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

24.10YK4/1 黑褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを2%未満含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

25.10YK4/1 黑褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを2%未満含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

26.10YK4/1-4/2 黑褐色土 粒径2~40mmの大ロームブロックを3%未満含む。大谷石、砂岩、ガラス片等を含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

27.10YK3/2 黑褐色土 粒径1~10mmの大ロームブロックを3%未満含む。大谷石(10YR3/1)を10%含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

28.10YK3/1 黑褐色土 粒径2~8mmの大ロームブロックを3%未満含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

29.10YK3/1 黑褐色土 粒径1~10mmの大ロームブロックを3%未満含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

30.10YK4/1 黑褐色土 粒径1~15mmの大ロームブロックを5%~30%未満含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

31.10YK3/1 黑褐色土 粒径1~15mmの大ロームブロックを5%未満含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

32.10YK3/1 黑褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを2%未満含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

33.10YK3/1 黑褐色土 粒径1~10mmの大ロームブロックを2%未満含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

34.10YK3/1 黑褐色土 粒径1~20mmの大ロームブロックを1%未満含む。コンクリート片、砂岩等を含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

35.10YK3/1 黑褐色土 粒径2~5mmの大ロームブロックを1%未満含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

36.10YK3/1 黑褐色土 粒径2~5mmの大ロームブロックを1%未満含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

37.10YK3/1 黑褐色土 粒径2~5mmの大ロームブロックを1%未満含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

38.10YK3/1 黑褐色土 粒径2~5mmの大ロームブロックを2%未満含む。

39.10YK3/1-2/1 黑褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを1%未満含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

40.10YK3/1 黑褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを1%未満含む。縁ガラス片等を含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

41.10YK3/2 黑褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを7%未満含む。レンガ片等を含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

近現代の十条富士塚上野地帯

42.10YK3/1 黑褐色土 粒径1~2mmの大ロームブロックを1%未満含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

43.10YK3/1 黑褐色土 粒径1~7mmの大ロームブロックを1%未満含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

44.10YK3/2 黑褐色土 粒径1~5mmの大ロームブロックを1%未満含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

45.10YK3/1 黑褐色土 粒径1~5mmの大ロームブロックを1%未満含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

46.10YK3/2 黑褐色土 粒径1~5mmの大ロームブロックを1%未満含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

47.10YK3/2 黑褐色土 粒径1~5mmの大ロームブロックを1%未満含む。1~30mmの大黒褐色土(10YR3/1)の硬化ブロックを1%未満含む。

縋まり弱く、粘性なし。

48.10YK3/1-3/2 黑褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを1%未満含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

49.10YK3/1 黄褐色土 粒径2~30mmの大ロームブロックを1%未満含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

中世の埋蔵土層

50.10YK3/4 黑褐色土 ロームと暗褐色土の合層。粒径1~3mmの大ロームの黒褐色の硬化ブロックを5%含む。縋まり強く、粘性やや弱い。

51.10YK3/2 黑褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒を1%未満含む。1mmの大粒を1%未満含む。縋まりやや弱く、粘性やや弱い。粒子細かい。

52.10YK3/2 黑褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを10%含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

53.10YK3/2 黑褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒を1%未満含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

54.10YK3/2 黑褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒を1%未満含む。縋まりやや弱く、粘性やや弱い。

55.10YK3/2 黑褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを1%未満含む。縋まりやや弱く、粘性やや弱い。

56.10YK3/2 黑褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを3%未満含む。1mmの大黒褐色土(10YR2/1)を1%未満含む。縋まりやや弱く、粘性やや弱い。

57.10YK3/1 黑褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒を1%未満含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

58.10YK3/2 黑褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒を1%未満含む。5~20mmの大黒褐色土(10YR2/3)黒色セメント(10YR2/1)を1%未満含む。縋まりやや弱く、粘性やや弱い。

59.10YK3/2 黑褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を1%未満含む。1~2mmの大砂利を多く含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

60.10YK3/2 黑褐色土 粒径10~30mmの大ローム粒を1%未満含む。縋まりやや弱く、粘性やや弱い。

61.10YK3/4-3/2 黑褐色土 粒径2~5mmの大ローム粒を2%含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

62.10YK3/2 黑褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒を2%含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

63.10YK3/2 黑褐色土 粒径1~10mmの大ローム粒を1%未満含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

64.10YK3/2 黑褐色土 粒径1~10mmの大ローム粒を1%未満含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

65.10YK3/1 黑褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒を1%未満含む。1~3mmの砂利を含む。縋まりやや弱く、粘性やや弱い。粒子細かい。

66.10YK3/2 黑褐色土 ロームと暗褐色土の合層。粒径2~30mmの大ロームブロックを2%未満含む。縋まりやや弱く、粘性やや弱い。

67.10YK3/2-4/2 黑褐色土 粒径2~40mmの大ロームブロックを10%含む。縋まりやや弱く、粘性やや弱い。

68.10YK3/1-2/1 黑褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を1%未満含む。1~3mmの大砂利を含む。縋まり弱く、粘性なし。

69.10YK3/1-2/1 黑褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を1%未満含む。1~3mmの大砂利を含む。縋まりやや弱く、粘性なし。

70.10YK3/2 黑褐色土 粒径1~10mmの大ローム粒を2%含む。縋まりやや弱く、粘性やや弱い。粒子やや粗い。

71.10YK3/2 黑褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを15%未満含む。縋まりやや弱く、粘性やや弱い。

72.10YK3/2 黑褐色土 粒径2~50mmの大ローム粒を1%未満含む。1~10mmの砂利を含む。縋まりやや弱く、粘性やや弱い。

73.10YK3/2 黑褐色土 粒径2~30mmの大ローム粒を1%未満含む。1~10mmの砂利を含む。縋まりやや弱く、粘性やや弱い。

74.10YK3/2 黑褐色土 粒径2~30mmの大ロームブロックを10%含む。縋まりやや弱く、粘性やや弱い。

75.10YK3/2-4/2 黑褐色土 粒径2~30mmの大ローム粒を1%未満含む。1~2mmの砂利を1%未満含む。縋まりやや弱く、粘性やや弱い。

76.10YK3/2 黑褐色土 粒径2~10mmの大ローム粒を2%含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

77.10YK3/2 黑褐色土 粒径2~10mmの大ローム粒を2%含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

78.10YK3/2-4/2 黑褐色土 粒径2~30mmの大ローム粒を2%含む。10mmの砂利を1%未満含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

79.10YK3/2 黑褐色土 粒径2~20mmの大ローム粒を2%含む。縁ガラス片等を含む。縋まりやや弱く、粘性弱い。

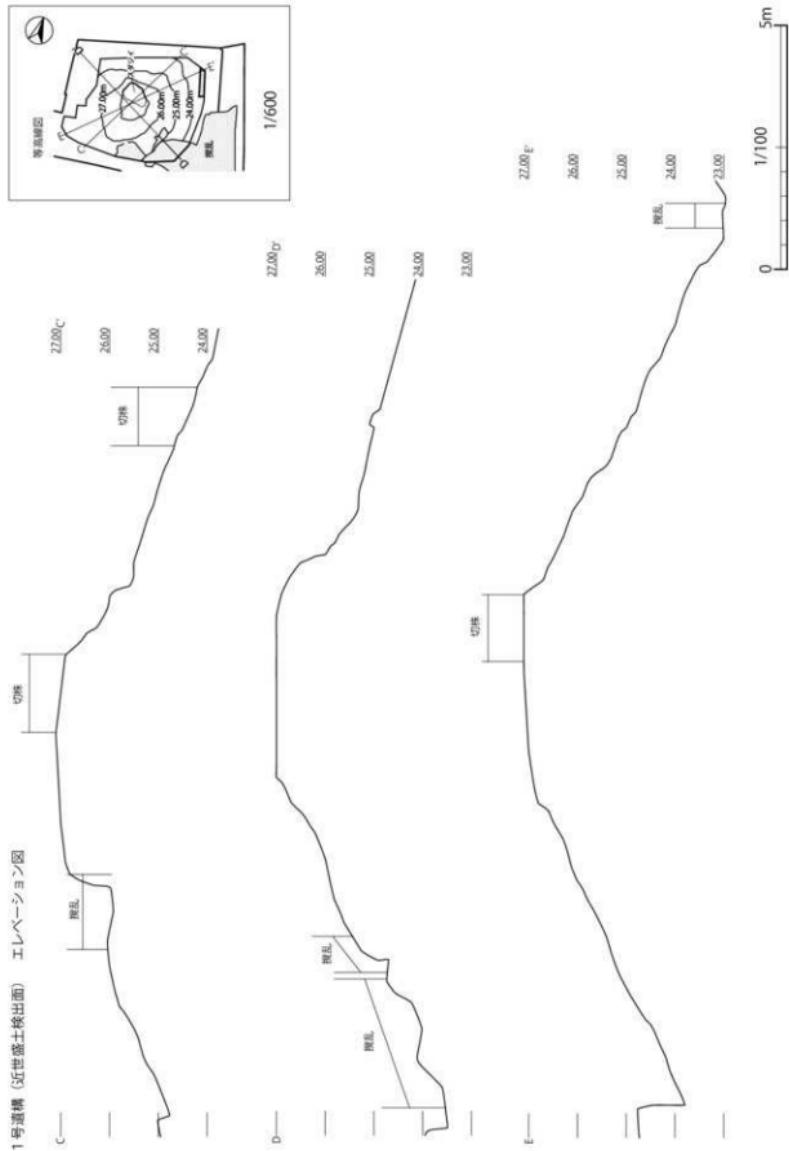
80.10YK3/2 黑褐色土 粒径2~20mmの大ローム粒を3%含む。5~10mmの砂利を2%含む。縋まりやや弱く、粘性やや弱い。

81.10YK3/2 黑褐色土 粒径2~20mmの大ローム粒を20%含む。縁ガラス片を含む。縋まり強く、粘性弱い。肩上部は鉛直を受ける。

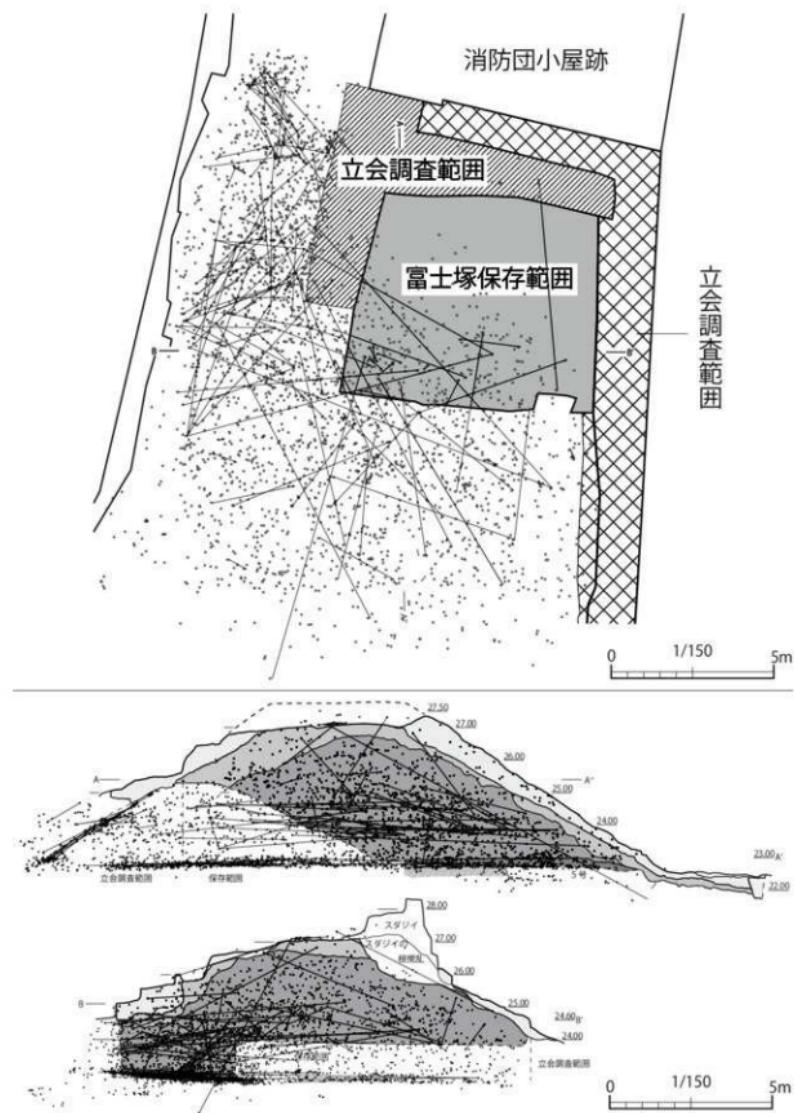
82.10YK3/2 黑褐色土 粒径10~40mmの大ローム粒を20%含む。1~3mmの砂利を含む。縋まり弱く、粘性弱い。

- 170.10YR3/1黒褐色土 粒径3~5mmの大ローム粒を5%含む。縮まりやや強く、粘性やや強い。
- 171.10YR3/2黒褐色土 粒径5~60mmの大ロームブロックを3%, 5~10mmの大ロームブロックを20%, 10~30mmの大黄褐色土(10YR4/2)の硬化ブロックを3%, 1~3mmの大土粒子を1%未満含む。2~5mmの炭化物を1%未満含む。縮まりやや強く、粘性やや強い。
- 172.10YR2/1黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を1%未満含む。1mm大土粒子の赤色スコアを1%未満含む。縮まりやや強く、粘性やや強い。粒子やや細かい。
- 173.10YR2/1黒褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を1%未満含む。1mm大土粒子の赤色スコアを1%未満含む。縮まりやや強く、粘性やや強い。
- 174.10YR3/1黒褐色土 粒径3~25mmの大ロームブロックを5%, 1~3mmの大土粒子を1%未満含む。縮まりやや強く、粘性やや強い。下層(2/11層)の黒褐色土(10YR2/1)の硬度が弱い。
- 175.10YR3/1~2/1黒褐色土 粒径1~15mmの大ローム粒を1%未満含む。1mm大土粒子の赤色スコアを1%未満含む。縮まりやや強く、粘性やや強い。下層(2/11層)の黒褐色土(10YR2/1)の硬度が弱い。
- 176.10YR2/1~2/3黒褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒を1%未満含む。1mm大土粒子の赤色スコアを1%未満含む。縮まりやや強く、粘性やや強い。
- 177.10YR3/2~3/3黒褐色土 粒径5~20mmの大ロームブロックを1%, 5~15mmの大土粒子ブロックを1%未満含む。縮まりやや強く、粘性やや強い。小動物による堆肥。
- 178.10YR4/3L^c~3L^d黒褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを3%, 5~50mm大以上の灰黃褐色土(10YR4/2)の硬化ブロックを5%, 2~3mmの大土粒子を1%未満含む。2~5mmの炭化物を1%未満含む。縮まりやや強く、粘性やや強い。
- 179.10YR3/2黒褐色土 粒径3~30mmの大ソフトロームブロックを15%, 5~20mmの大黄褐色土(10YR4/2)の硬度ブロックを2%, 砂粒を含む。縮まりやや強く、粘性やや強い。
- 180.10YR3/2~3/1黒褐色土 粒径3~20mmの大ロームブロックを2%, ソフトローム(10YR4/3)を10%, 2mmの大土粒子を1%未満含む。縮まりやや強く、粘性やや強い。
- 181.10YR5/3L^c~3L^d黒褐色土 ソフトローム土 粒径5~50mm大以上のハードロームブロックを15%, 1mm大の黒褐色土(10YR2/1)を1%未満含む。縮まりやや強く、粘性やや強い。
- 182.10YR3/1~2/1黒褐色土 粒径10~30mmの大黒褐色土(10YR4/2)を1%未満含む。縮まりやや強く、粘性やや強い。下層(2/11層)の黒褐色土(10YR2/1)の硬度が弱い。
- 183.10YR3/1~2/1黒褐色土 粒径7~60mmの大ローム粒を1%未満含む。縮まりやや強く、粘性やや強い。
- 184.10YR3/1~2/1黒褐色土 粒径1~5mmの大土粒子を1%未満含む。縮まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 185.10YR4/4灰褐色土 粒径5~50mmの大ハードロームブロック土。黒褐色土(10YR3/2)を15%, 黑褐色土(10YR2/1)を1%未満含む。縮まりやや強く、粘性やや弱い。
- 186.10YR6/6黒褐色土 粒径3~30mmの大ロームブロック15%, 1mmの大赤褐色スクリュー1%未満含む。縮まりやや強く、粘性やや弱い。
- 187.10YR3/1黒褐色土 粒径3~30mmの大ロームブロックを15%, 1mmの大赤褐色スクリュー1%未満含む。縮まりやや強く、粘性やや弱い。
- 188.10YR3/2黒褐色土 粒径3~3mmの大ローム粒を1%未満含む。砂粒を少量含む。縮まりやや強く、粘性やや弱い。
- 189.10YR3/2黒褐色土 粒径3~3mmの大ローム粒を1%未満含む。黑褐色土(10YR2/1)を15%, 1mmの大赤褐色スクリュー1%未満含む。縮まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 190.10YR3/2黒褐色土 粒径3~30mmの大ロームブロックを1%未満含む。縮まりやや強く、粘性やや弱い。
- 191.10YR3/2黒褐色土 粒径3~3mmの大ローム粒を1%未満含む。1mm大の赤褐色スクリュー1%未満含む。縮まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 192.10YR3/2黒褐色土 粒径3~3mmの大ローム粒を1%未満含む。1mm大の赤褐色スクリュー1%未満含む。縮まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 193.10YR3/2黒褐色土 粒径3~10mmの大ロームブロック3%含む。縮まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 194.10YR2/2黒褐色土 粒径3~40mmの大ハードロームブロック5%にぶ。黄褐色土(10YR4/3)を20%含む。縮まりやや強く、粘性やや弱い。
- 195.10YR5/6黒褐色土 粒径5~70mmの大ロームブロック土。黒褐色土(10YR3/1)を2%含む。縮まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 196.10YR5/4L^c~4L^d黒褐色土 粒径3~50mmの大ソフトロームブロック7%, 黑褐色土(10YR3/2)を10%未満含む。縮まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 197.10YR3/1~2/1黒褐色土 粒径1~7mmの大ローム粒を3%, 1~2mmの大土粒子を1%未満含む。縮まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 198.10YR5/6黒褐色土 粒径3~50mm以上のハードロームブロック土。黒褐色土(10YR3/1)を2%含む。縮まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 199.10YR5/6黒褐色土 粒径2~70mmの大ロームブロック土。黒褐色土(10YR2/1)を5%含む。縮まりやや強く、粘性やや弱い。
- 200.10YR3/2~2/1黒褐色土 粒径3~30mmの大ロームブロック7%, 黑褐色土(10YR3/2)を15%含む。縮まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 201.10YR3/2~2/1黒褐色土 粒径2~40mmの大ハードロームブロックを30%, 1mm大の赤褐色スクリュー1%未満含む。縮まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 202.10YR4/3~4/4L^c~4L^d黒褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロック土。黒褐色土(10YR3/1)を10%未満含む。縮まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 203.10YR4/6~5/6黒褐色土 粒径2~70mmの大ロームブロック土。黒褐色土(10YR2/1)を5%含む。縮まりやや強く、粘性やや弱い。
- 204.10YR5/6黒褐色土 粒径2~70mmの大ハードロームブロック土。黒褐色土(10YR3/2)を2%含む。黒褐色土(10YR3/1)の硬化ブロックを2%, 黑褐色土(10YR3/1)を2%含む。縮まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 205.10YR3/1黒褐色土 粒径3~3mmの大ローム粒を1%含む。縮まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 206.10YR4/3~4/4L^c~4L^d黒褐色土 粒径5~30mmの大ソフトロームブロック土。粒径2~40mm以上のハードロームブロックを10%, 黑褐色土(10YR3/1)を15%, 黑褐色土(10YR2/4)を20%含む。縮まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 207.10YR3/1~2/1黒褐色土 粒径3~3mmの大ローム粒を2%含む。縮まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 208.10YR4/3~4/4L^c~4L^d黒褐色土 粒径3~30mmの大ロームブロックを5%含む。黒褐色土(10YR3/2)を40%, 1mmを少量含む。縮まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 209.10YR3/3~4/4L^c~4L^d黒褐色土 粒径2~30mmの大ロームブロックを5%, 黑褐色土(10YR3/2)を30%, 砂粒を少量含む。縮まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 210.10YR3/1~2/1黒褐色土 粒径5~10mmの大黒褐色土(10YR3/3)を1%含む。縮まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 中段の塗面の盛土地盤
- 211.10YR2/1~3/1黒褐色土 粒径1mmの大ローム粒を極微量、1~3mmの大土粒子を1%未満含む。1~3mmの炭化物を1%未満含む。縮まりやや強く、粘性やや強い。
- 212.10YR3/2黒褐色土 粒径3mmの大ローム粒を3%含む。縮まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 213.10YR3/2黒褐色土 粒径2~5mmの大ローム粒を5%含む。縮まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 214.10YR3/2黒褐色土 粒径30mm以上のソフトロームブロックを10%含む。縮まりやや弱く、粘性やや弱い。

1号遺構(近世盛土塚出面) エレベーション図

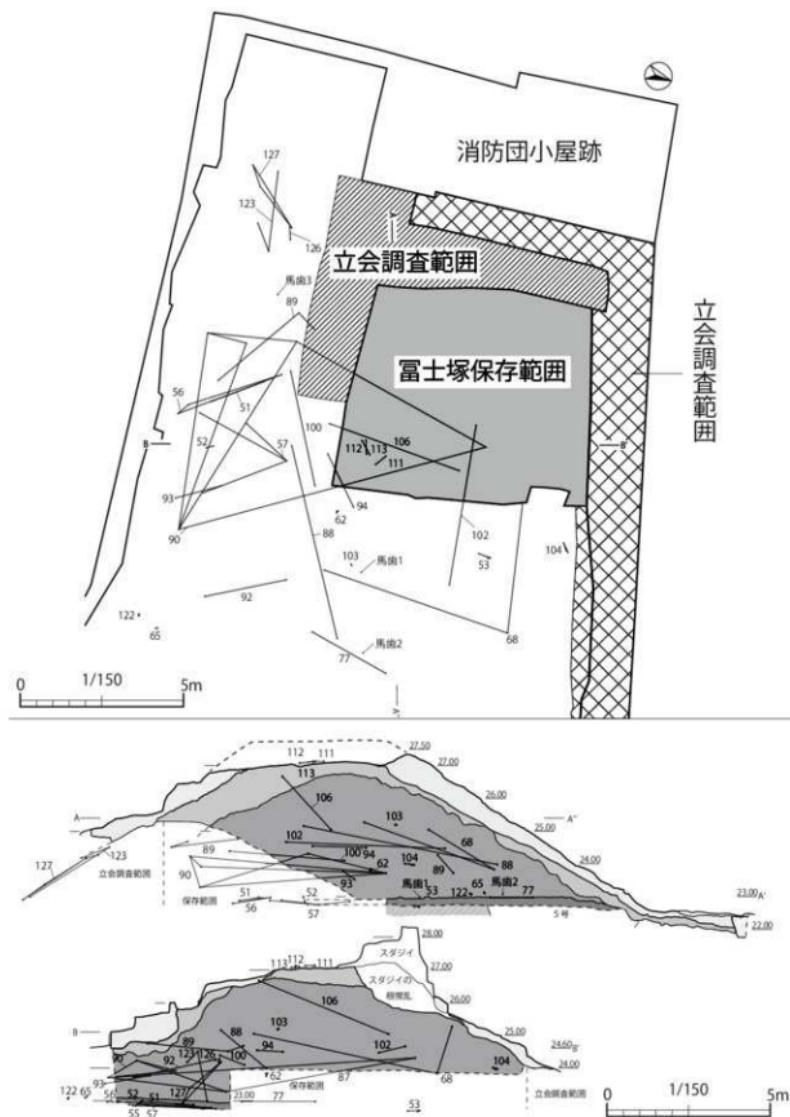


第38図 十条富士塚地区 中世以降の遺構（6）(1/100)



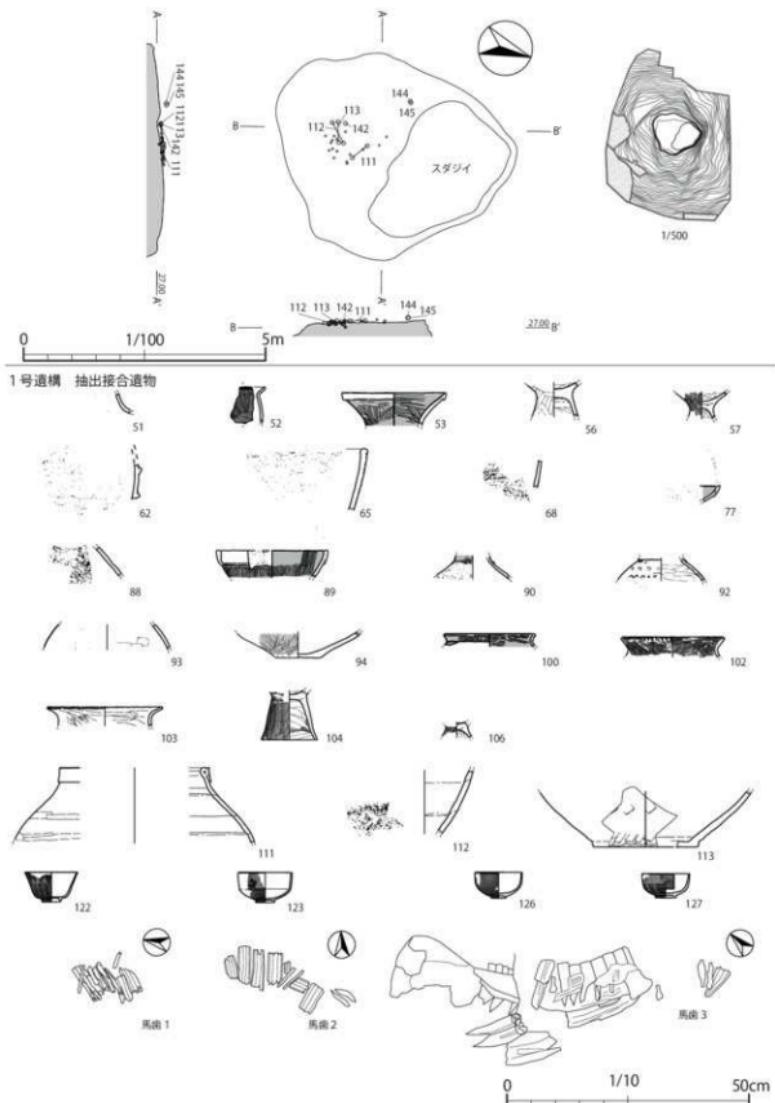
第39図 十条富士塚地区 中世以降の遺構（7）

1号遺構 抽出接合遺物分布②



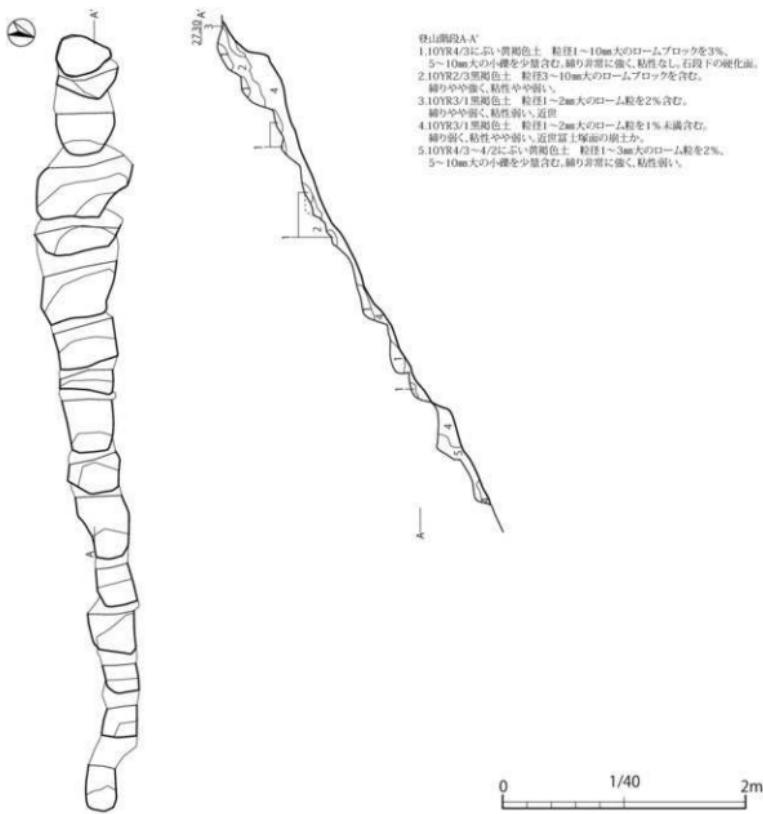
第40図 十条富士塚地区 中世以降の遺構（8）(1/150)

1号遺構 近世の十条富士塚山頂部遺物分布



第41図 十条富士塚地区 中世以降の遺構（9）(1/10・1/100)

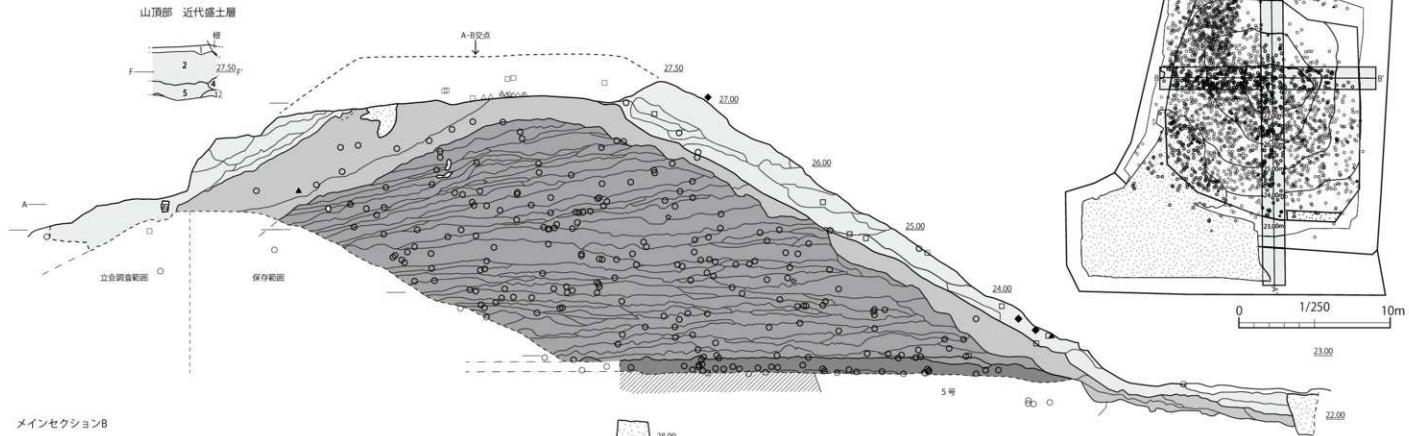
1号遺構 登山階段



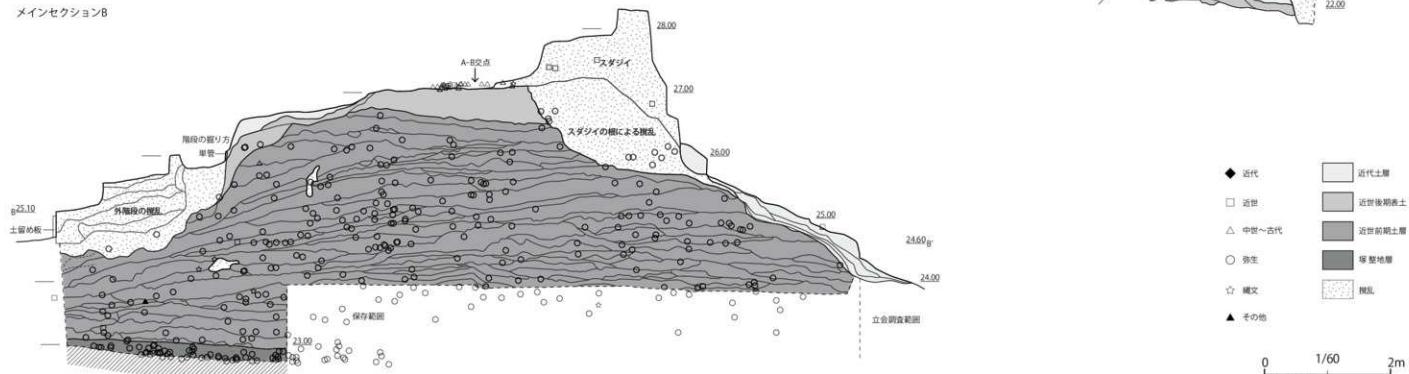
第42図 十条富士塚地区 中世以降の遺構（10）(1/40)

1号遺構 遺物出土分布

メインセクションA

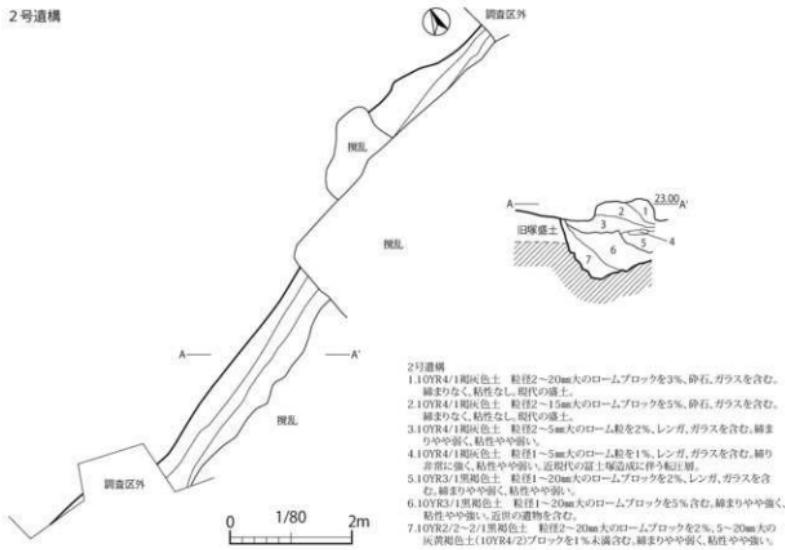


メインセクションB

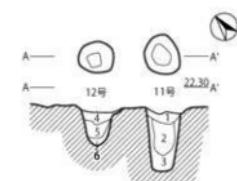


第43図 十条富士塚地区 中世以降の遺構 (11) (1/60)

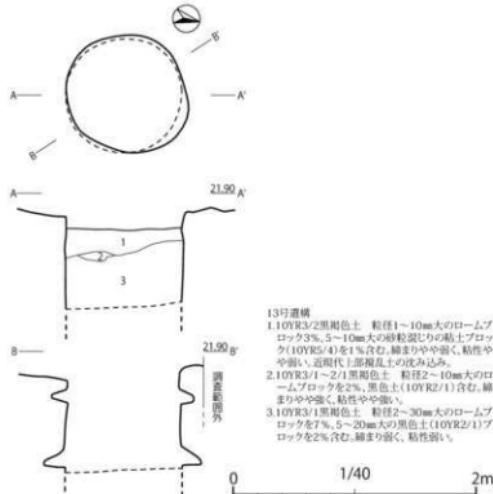
2号遺構



11号・12号遺構



13号遺構

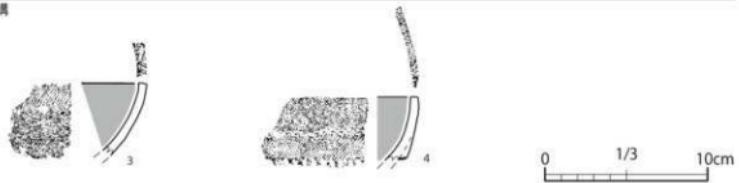


第44図 十条富士塚地区 近世の遺構（1）(1/40・1/80)

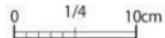
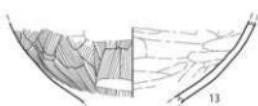
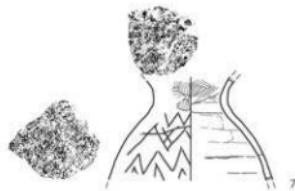
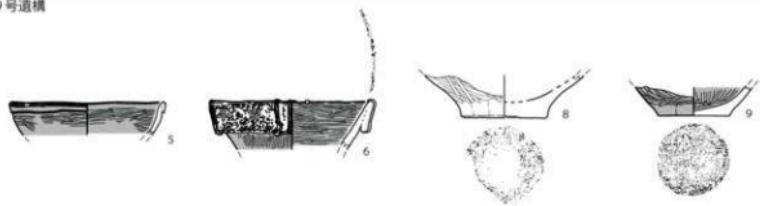
4号遗構



9号遗構

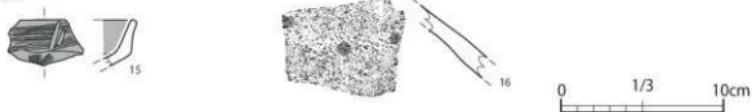


9号遗構

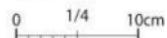
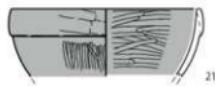
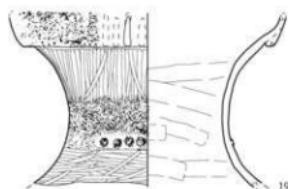
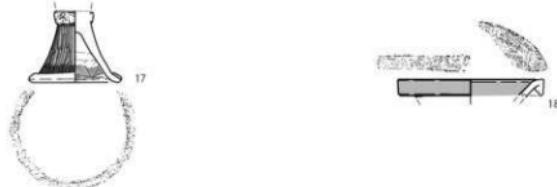


第45図 十条富士塚地区 出土遺物 (1) (1/3・1/4)

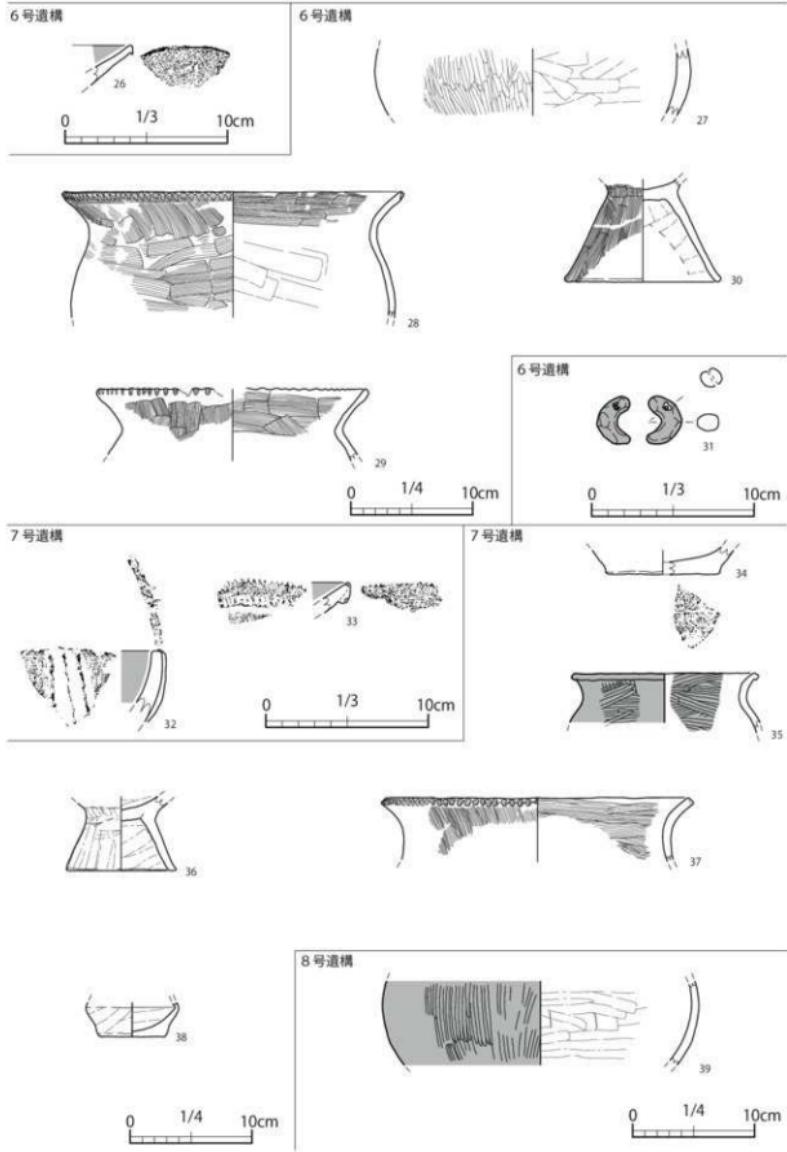
5号遺構



5号遺構



第46図 十条富士塚地区 出土遺物（2）(1/3・1/4)



第47図 十条富士塚地区 出土遺物（3）(1/3・1/4)

3号遺構



40



41



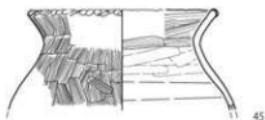
42



43



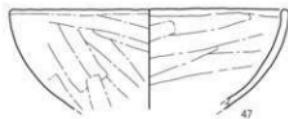
44



45



46



47



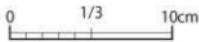
48



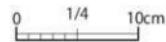
50

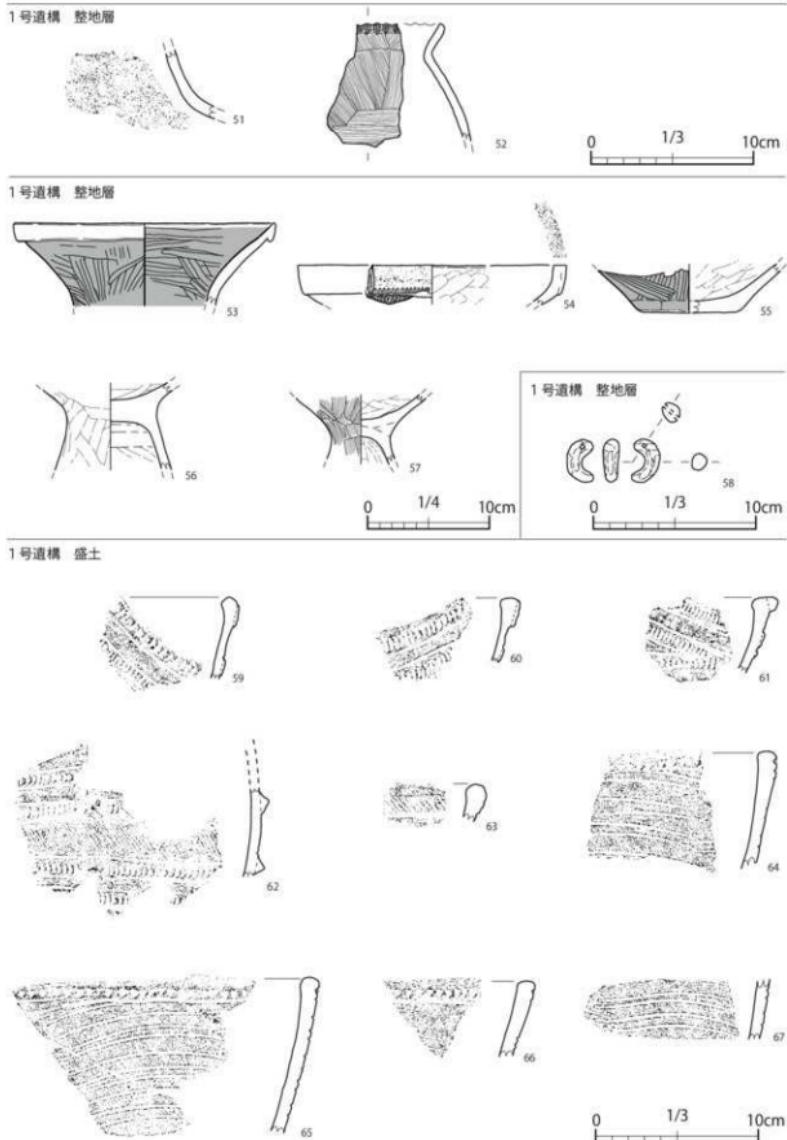


3号遺構



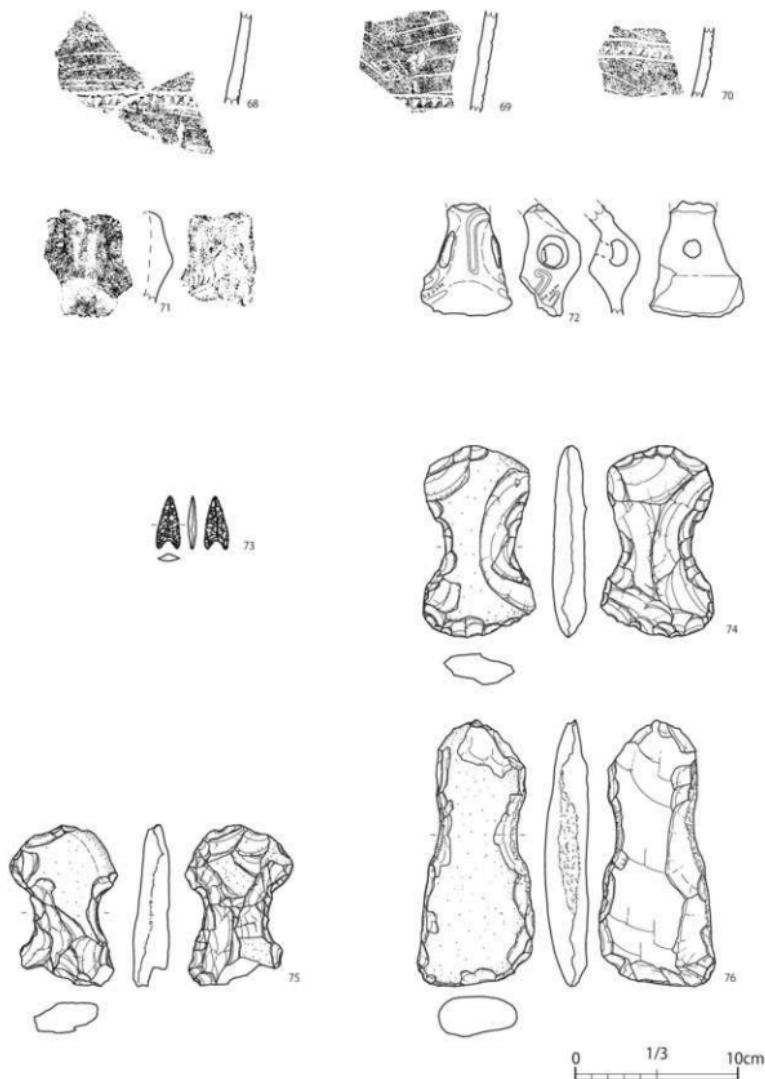
第48図 十条富士塚地区 出土遺物(4)(1/3・1/4)





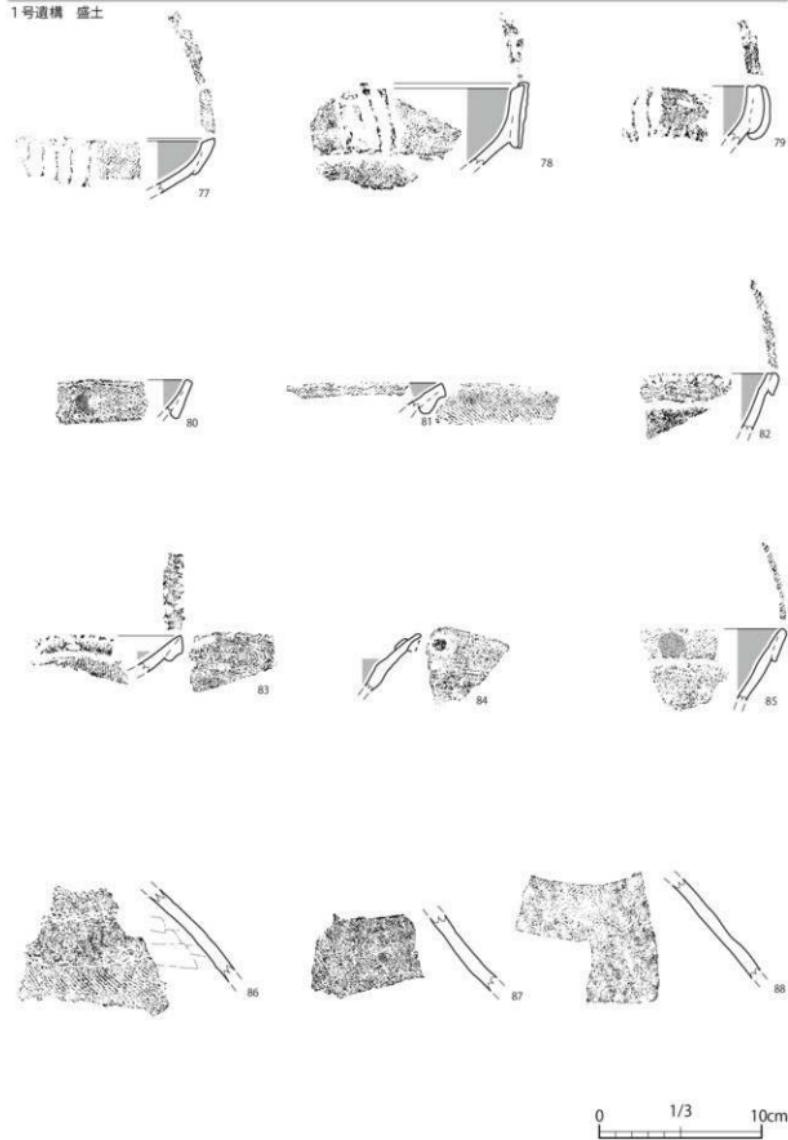
第49図 十条富士塚地区 出土遺物（5）(1/3・1/4)

1号造模 盛土



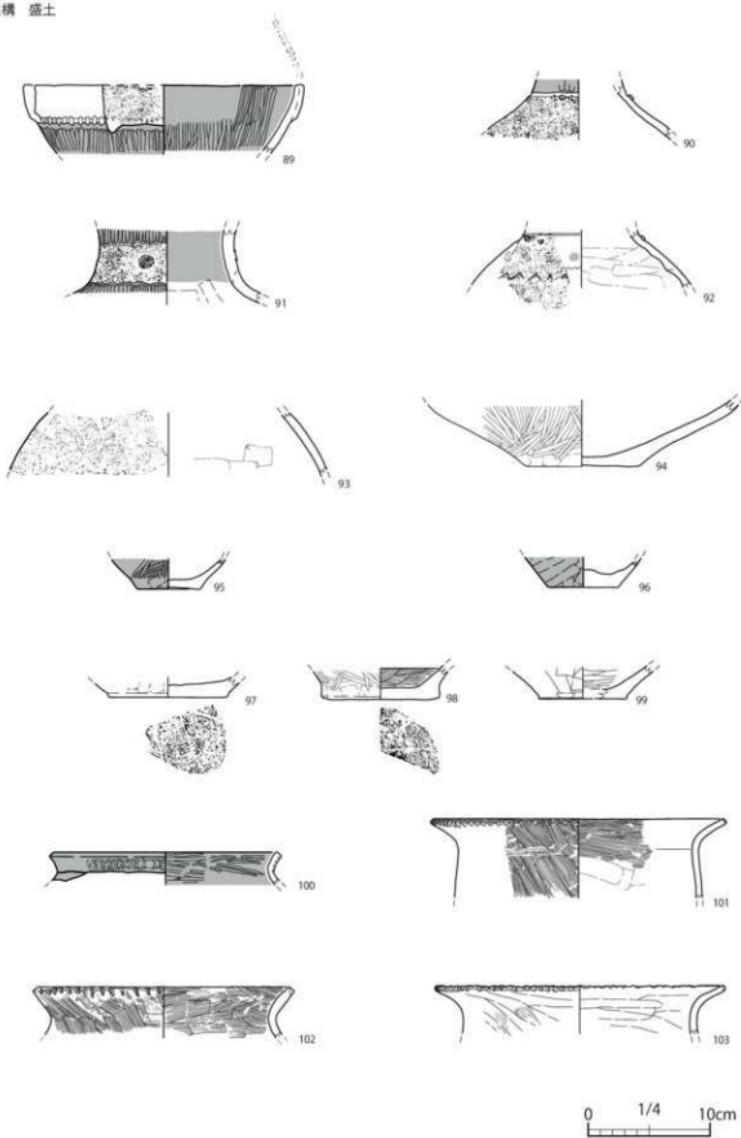
第50図 十条富士塚地区 出土遺物（6）(1/3)

1号道構 盛土



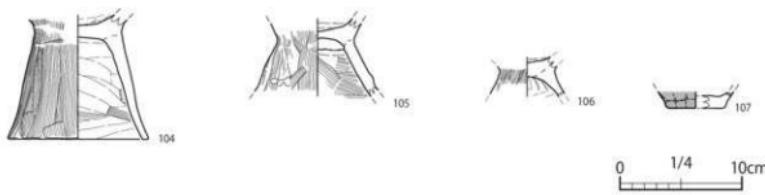
第51図 十条富士塚地区 出土遺物（7）(1/3)

1号遺構 盛土

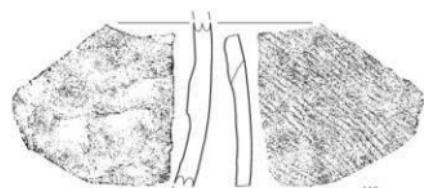
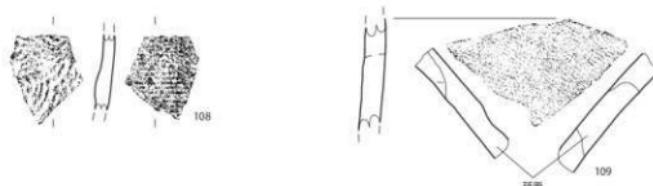


第52図 十条富士塚地区 出土遺物（8）(1/4)

1号遺構 盛土



1号遺構 盛土

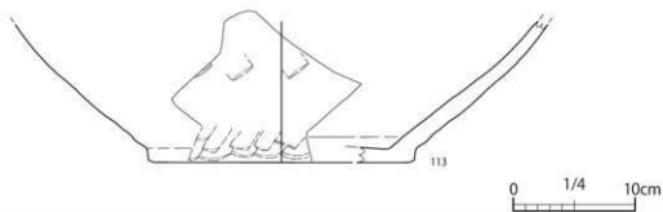
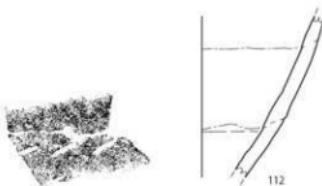


1号遺構 盛土

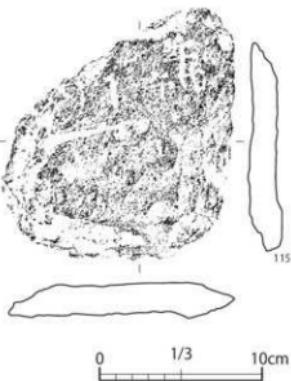
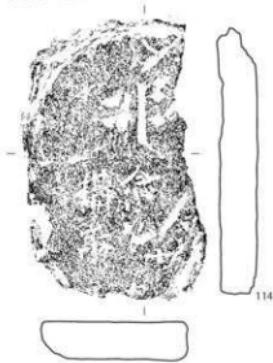


第 53 図 十条富士塚地区 出土遺物 (9) (1/3・1/4)

1号造構 盛土

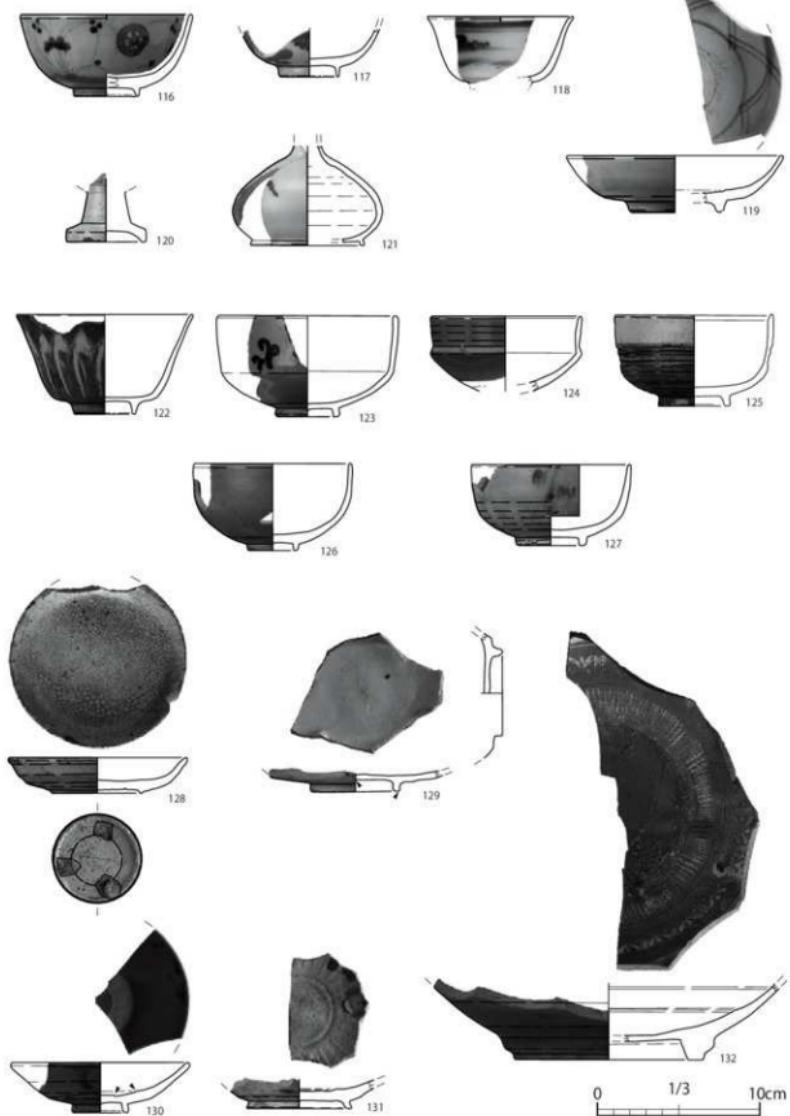


1号造構 盛土



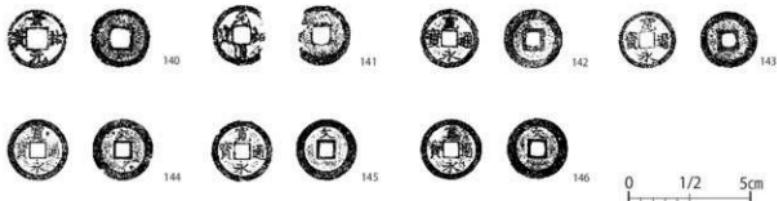
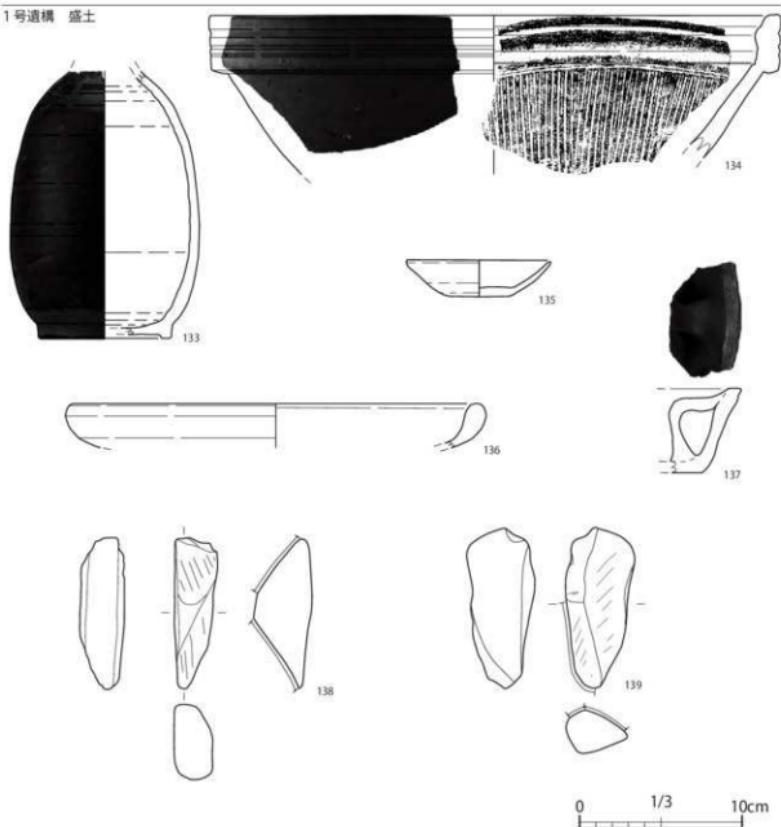
第 54 図 十条富士塚地区 出土遺物 (10) (1/3・1/4)

1号遺構 盛土



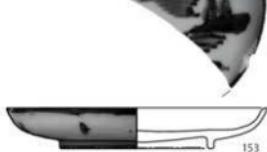
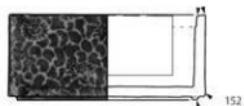
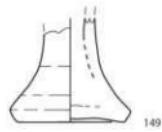
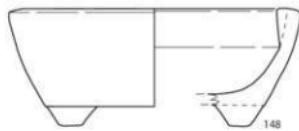
第55図 十条富士塚地区 出土遺物 (11) (1/3)

1号遺構 盛土



第 56 図 十条富士塚地区 出土遺物 (12) (1/3・1/2)

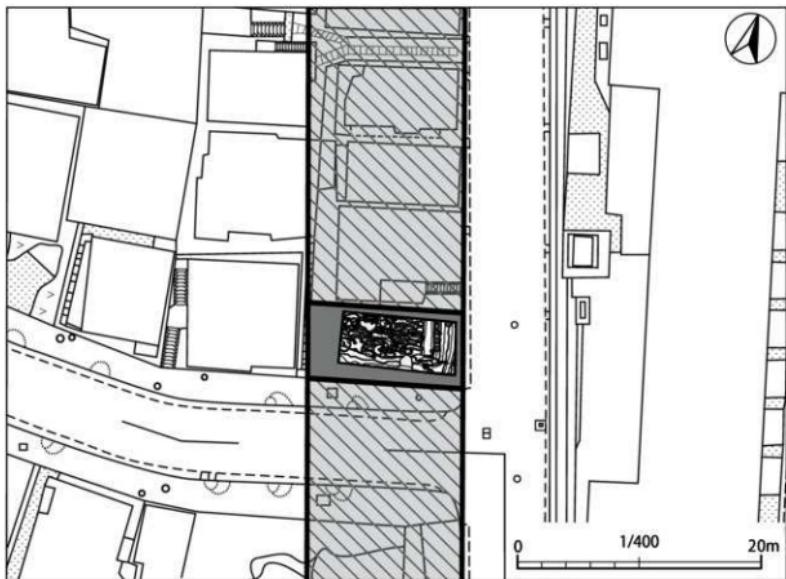
1号遺構 近現代の盛土



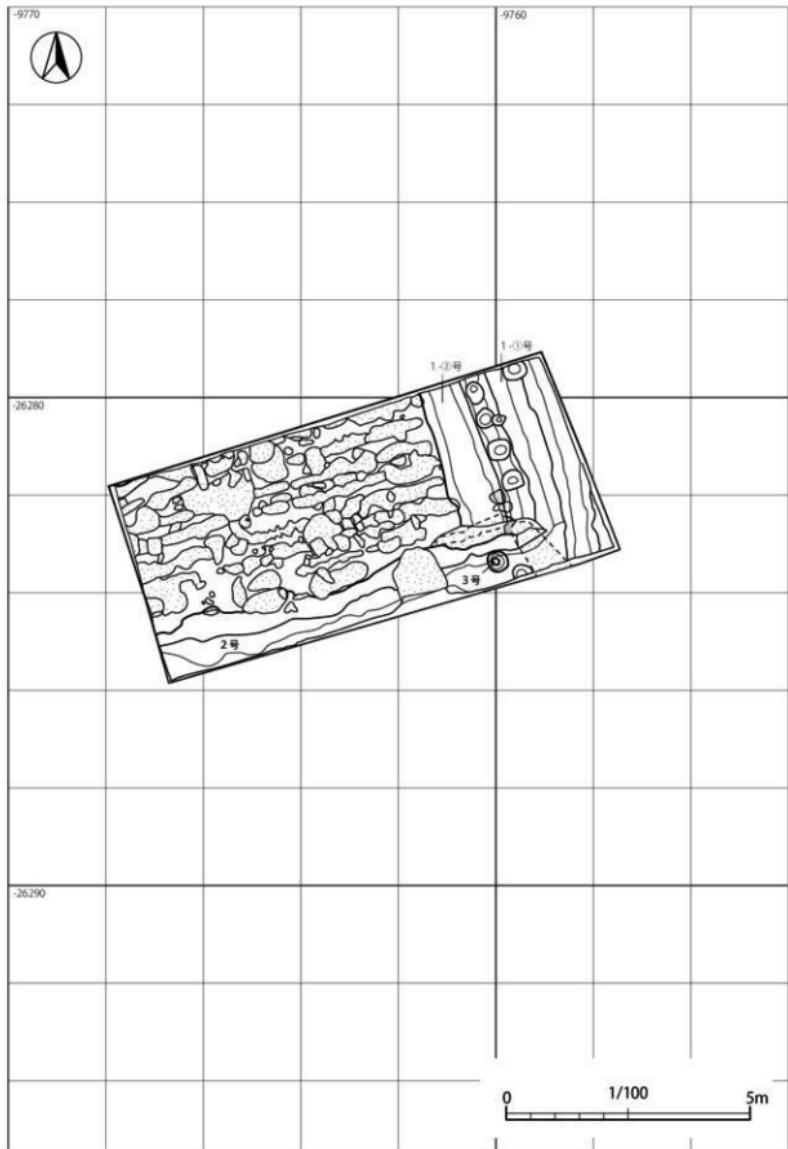
0 1/3 10cm

第57図 十条富士塚地区 出土遺物（13）（1/3）

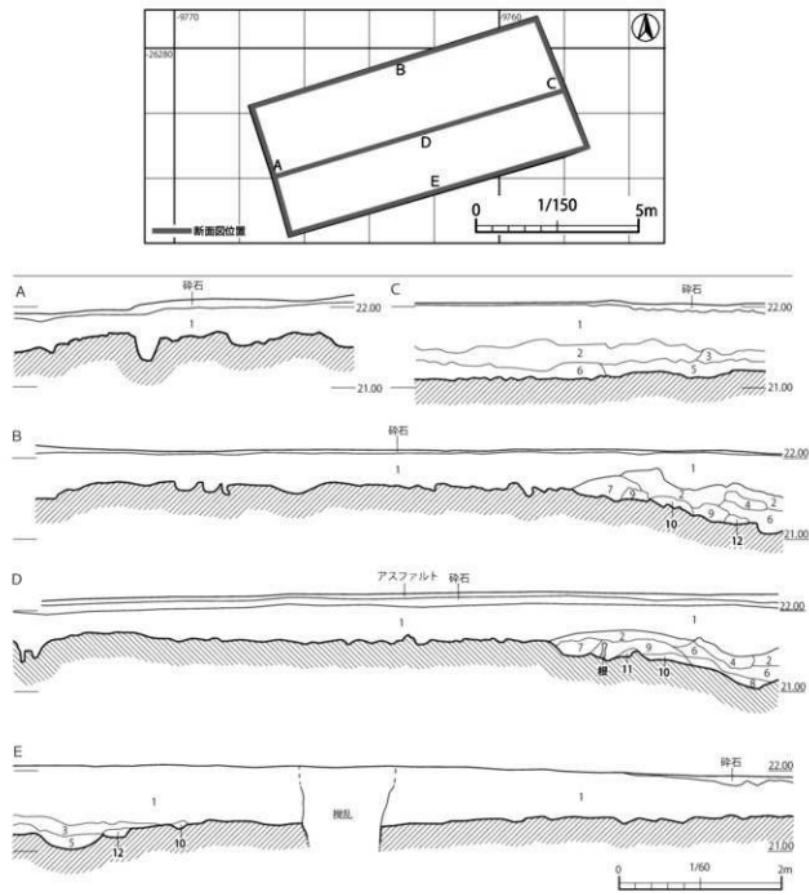
5-3 区



第 58 図 5-3 区 調査区位置 (1/400)



第 59 図 5-3 区 遺構全体図 (1/100)



A • B • C • D • E

- 1.近現代構成の土壌地帯

2.0V3/R3/黒褐色土
粒径3~10mmの大さのロームブロックを3%、3~10mm長の炭化物を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや強い。

3.0V3/R3/黒褐色土
粒径3~10mmの大さのローム粒を3~5%、5~20mmの炭化物を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや強い。直近(18世紀末~19世紀)の遺物を含む。

4.0Y3/R3/暗褐色土
粒径5~10mmの大さのロームを10~15%含む。締まりやや強く、粘性やや強い。

5.0Y3/R3/黒褐色土
粒径3~20mmの大さのロームブロックを5%含む。締まりやや強く、粘性やや強い。

6.0Y3/R3/暗褐色土
粒径3~20mmの大さのローム粒を5%含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。

7.0Y3/R3/黒褐色土
粒径2~5mmの大さのローム粒を2~5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

8.0Y3/R3/暗褐色土
粒径2~5mmの大さのローム粒を1~2%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

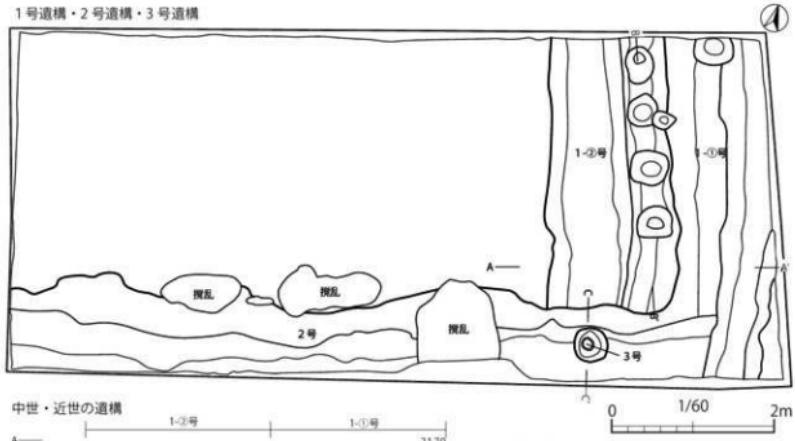
9.0Y3/R2/黒褐色土
粒径10~15mmの大さのローム粒を2~3%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

10.0Y2/R/3/暗褐色土
粒径5~10mmの大さのロームを7~10%含む。締まりやや強く、粘性やや強い。

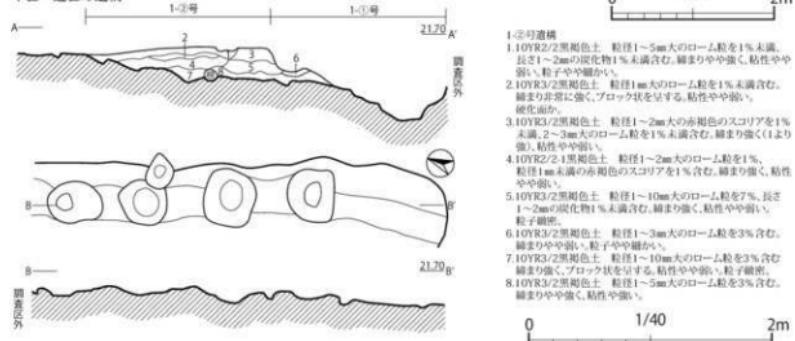
11.0Y3/R/3/暗褐色土
粒径10~15mmの大さのロームブロックを1~2%含む。締まり非常に強く、粘性やや強い。

12.0Y3/R/1~2/1黒褐色土
粒径3~20mmの大さのロームブロックを20%含む。締まり非常に強く、粘性やや強い。

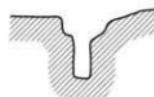
1号遺構・2号遺構・3号遺構



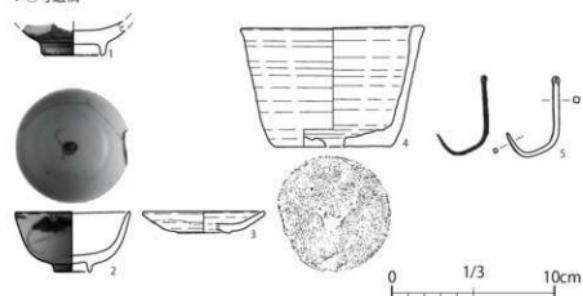
中世・近世の遺構



近世の遺構

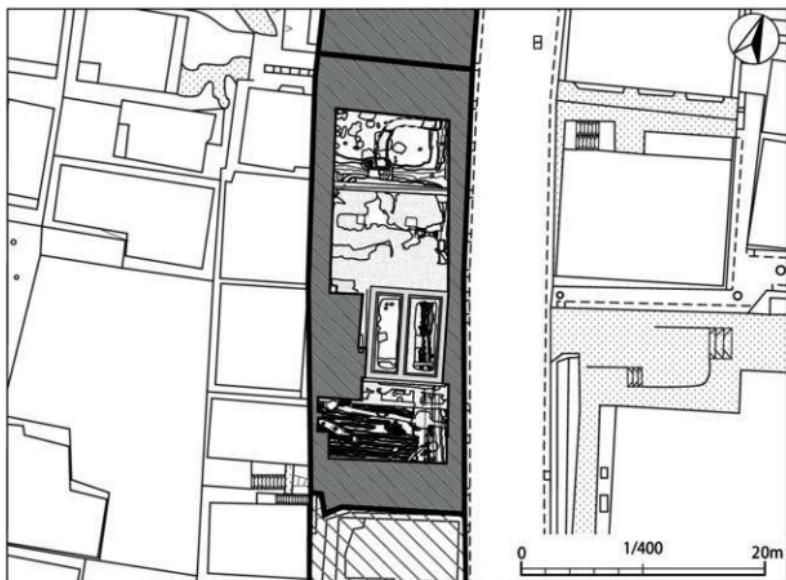


1-①号遺構

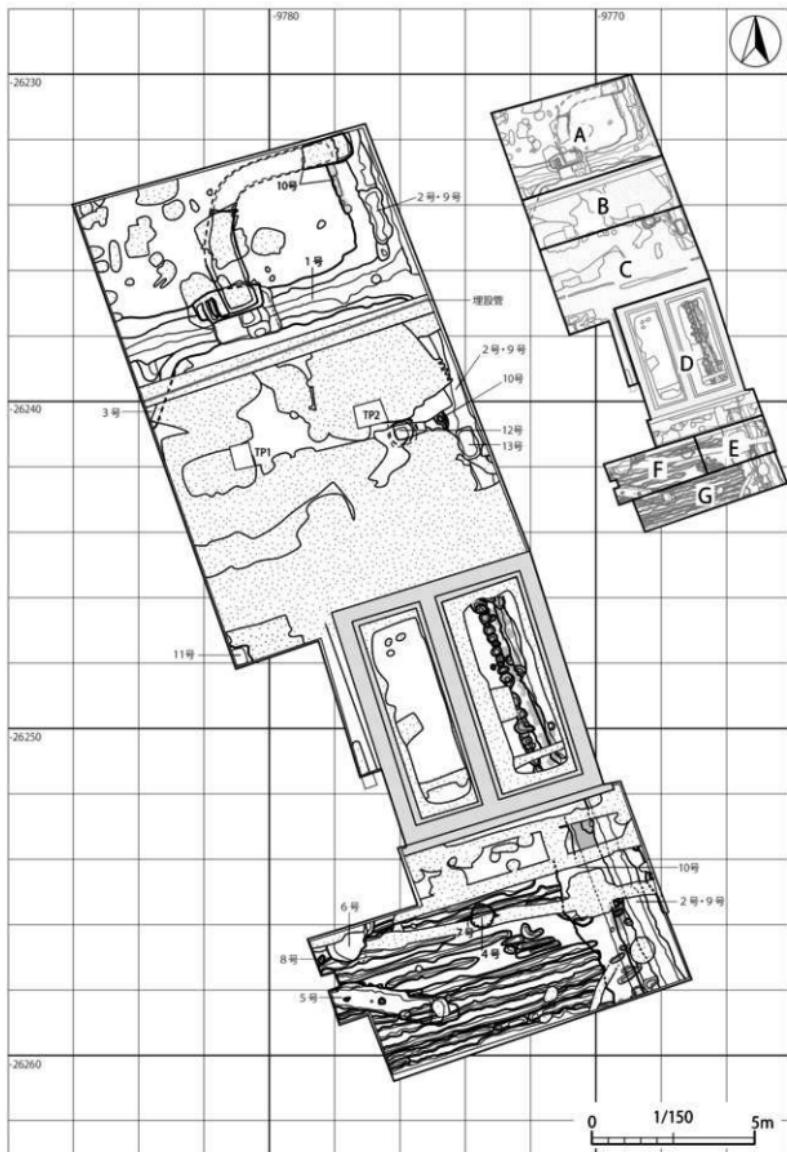


第 61 図 5-3 区 中世・近世の遺構 (1/40・1/60)・出土遺物 (1/3)

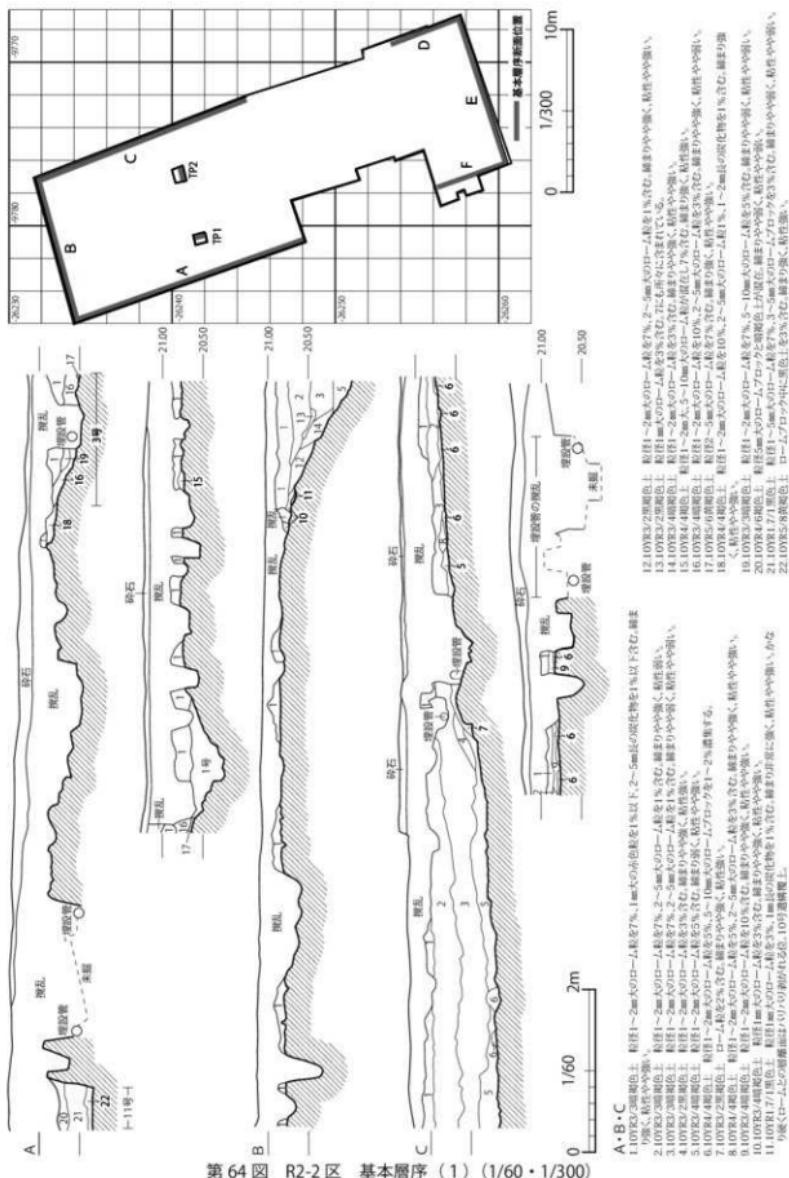
R2-2 区



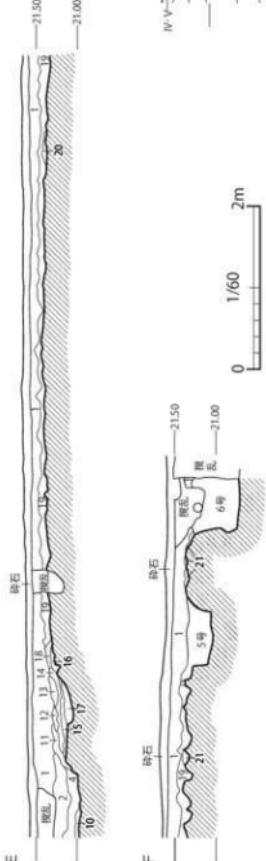
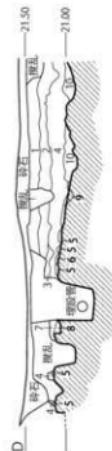
第 62 図 R2-2 区 調査区位置 (1/400)



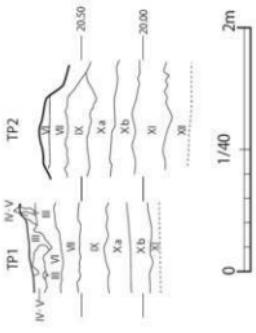
第 63 図 R2-2 区 遺構全体図 (1/150)



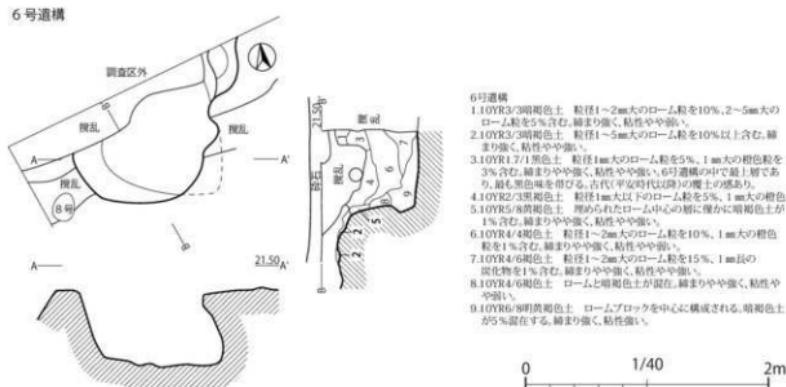
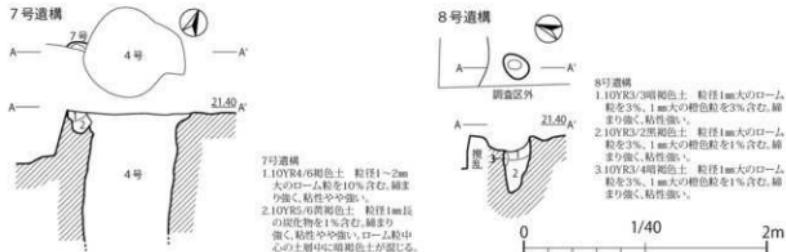
第64図 R2-2区 基本層序(1)(1/60・1/300)



第65図 R2-2区 基本層序(2) (1/60・1/40)

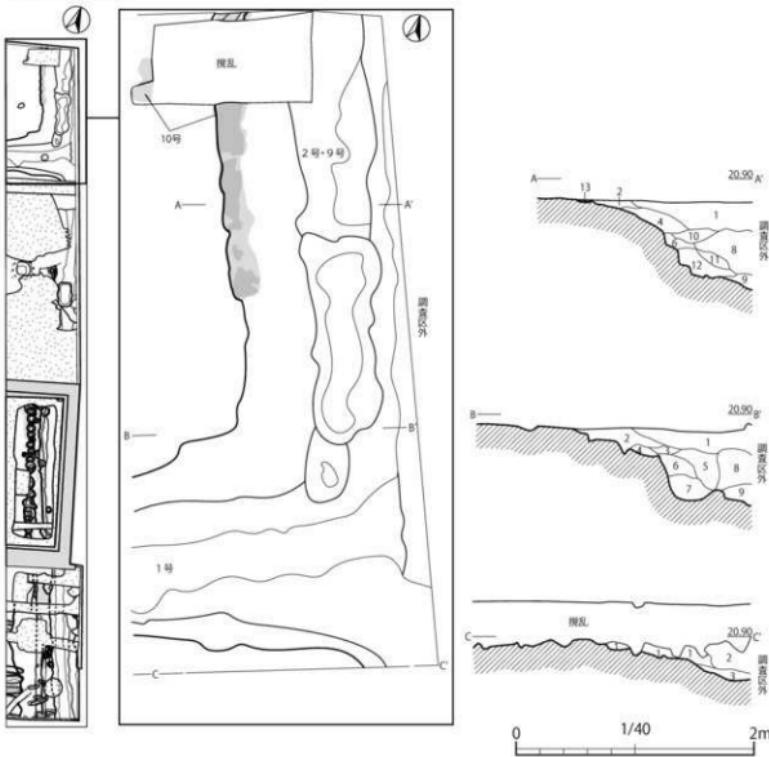


TPI-1・2	K-1075S-800R上、H11mmの初期形状2~3%合たる。繊維のやわらかさ、 K-1075S-800Rの柔軟性。
K-1075S-800R上、H11mmの初期形状2~3%合たる。繊維のやわらかさ、 K-1075S-800Rの柔軟性。	繊維を2~3%合たる。繊維が伸び、柔軟性。 K-1075S-800R上、H11mmの初期形状2~3%合たる。繊維のやわらかさ、 K-1075S-800Rの柔軟性。



第 66 図 R2-2 区 縄文時代以降・弥生時代・古代から中世の遺構 (1/40)

2号・9号、10号遺構



2号・9号、10号遺構 A-A' B-B'

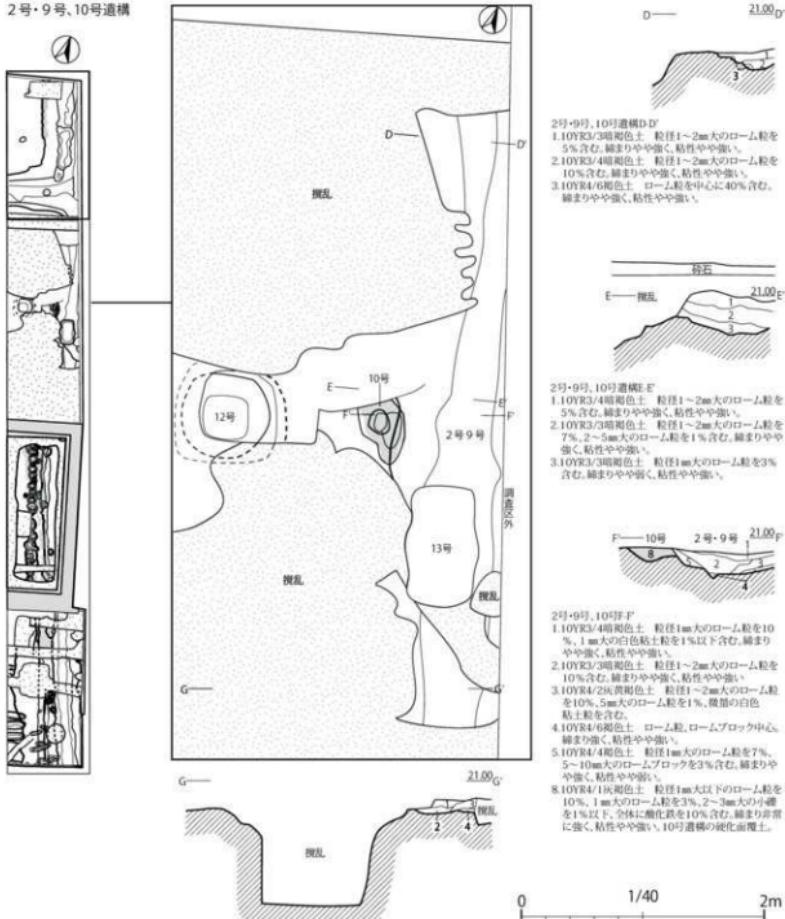
- 1.10VR3/3暗褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を7%含む。縫まりやや強く、粘性弱い。
 - 2.10VR2/2褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を10%含む。縫まりやや強く、粘性弱い。
 - 3.10VR2/6褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を7%含む。縫まりやや強く、粘性弱い。
 - 4.10VR2/4暗褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を7%含む。縫まりやや強く、粘性弱い。
 - 5.10VR2/4暗褐色土 粒径2~5mmの大ローム粒を7%含む。縫まりやや強く、粘性弱い。
 - 6.10VR3/4暗褐色土 粒径2~10mmの大ローム粒を7%含む。縫まりやや強く、粘性弱い。
 - 7.10VR5/8黄褐色土 粒径10mmの大ロームブロックを含む褐色土が混在。縫まりやや強く、粘性弱い。
 - 8.10VR3/3暗褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を7%含む。縫まりやや強く、粘性弱い。
 - 9.10VR3/4暗褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を7%含む。縫まりやや強く、粘性弱い。
 - 10.10VR3/2褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を7%含む。縫まりやや強く、粘性弱い。
 - 11.10VR3/2褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を7%含む。縫まりやや強く、粘性弱い。
 - 12.10VR4/4褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を7%含む。縫まりやや強く、粘性弱い。
 - 13.10VR1.7/6黑色土 粒径1mmの大ローム粒を3%、1mm長の炭化物を1%含む。縫まりが非常に強く、粘性やや弱い。かなり硬くローム上の基層面はハリハリ剥がれる位。
- 10号遺構底土。

2号・9号、10号遺構 C-C'

- 1.10VR3/3暗褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を5%含む。縫まりやや強く、粘性やや強いため、R2-2区②東壁セクション4に相当。
- 2.10VR3/4暗褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を10%含む。縫まりやや強く、粘性やや弱いため、R2-2区②東壁セクション6に相当。
- 3.10VR6/6褐色土 ローム粒を中心40%含む。縫まりやや強く、粘性やや強いため、R2-2区③東壁セクション3に相当。

第67図 R2-2区 中世から近世の遺構（1）(1/40)

2号・9号、10号遺構

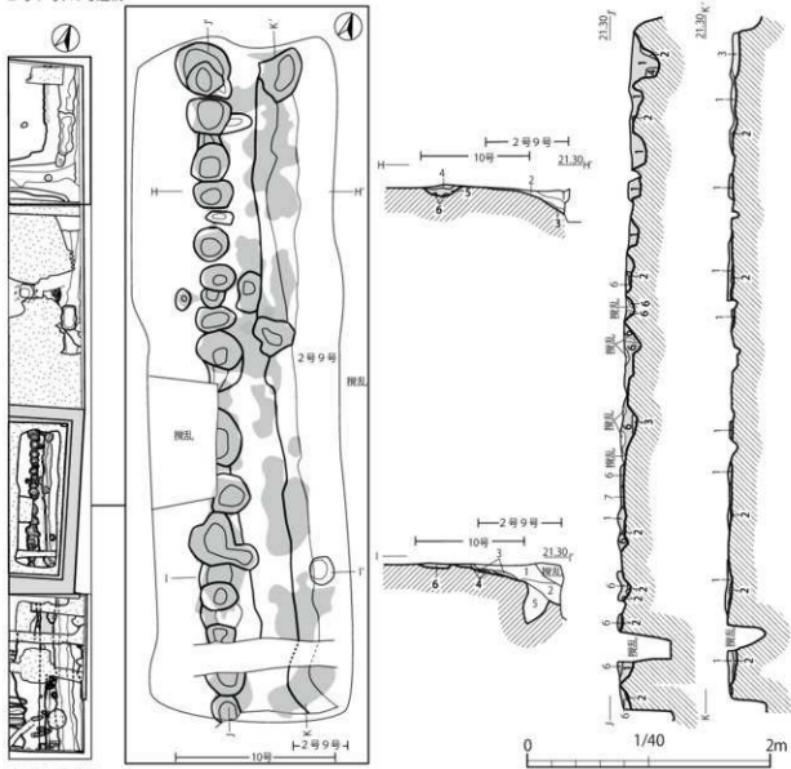


2号・9号、10号遺構 G-G'

1.10YR3/3暗褐色土。粒径1~2mmの大ローム粘を10%含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2.10YR3/3暗褐色土。粒径1~2mmの大ローム粘を10%含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
3.10YR3/2黒褐色土。粒径1~5mmの大ローム粘を10%含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
4.10YR4/4褐色土。ローム中心、締まりやや強く、粘性やや強い。

第 68 図 R2-2 区 中世から近世の遺構 (2) (1/40)

2号9号、10号遺構



2号・9号、10号

1. 10YR3/4暗褐色土
 2. 10YR3/2黒褐色土
 3. 10YR3/3暗褐色土
 4. 10YR2/2黒褐色土
 5. 10YR2/4暗褐色土
 6. 10YR5/8褐色土土
- 粒径1～2mmの大さのローム粒を10%，1mm長以下の褐化物を1%以下含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。2号・9号遺構覆土。
- 粒径1～3mmの大さのローム粒を10%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。2号・9号遺構覆土。
- 粒径1～3mmの大さのローム粒を5%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。2号・9号遺構覆土。
- 粒径1mm以上以下ローム粒を2～3%含む。締まり非常に強く、粘性やや弱い。硬化面。10号遺構覆土。
- 粒径1mm以上のローム粒。複数の赤色を含む。締まり非常に強く、粘性やや弱い。硬化面。10号遺構覆土。
- ロームプロック、締まり強く、粘性やや弱い。10号遺構覆土。

2号・9号、10号

1. 10YR3/4暗褐色土
 2. 10YR3/2黒褐色土
 3. 10YR3/1黒褐色土
 4. 10YR3/3暗褐色土
 5. 10YR4/4褐色土
 6. 10YR4/4暗褐色土
- 粒径1～2mmの大さのローム粒を10%含む。締まり非常に強く、粘性やや弱い。ローム粒。
- ロームセクション層に相当。ただし上部は、建築基礎の転落も影響で締まり非常に強い。
- 北壁セクション層に相当。
- 粒径1mm以上以下ローム粒を1%含む。締まり非常に強く、粘性弱い。硬く締まっている。
- 粒径1mm以上以下ローム粒を1%含む。締まり強く、粘性やや弱い。
- 粒径2～5mmの大さのローム粒を7%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。褐色土とローム粒が混在する。
- 粒径1mm以上のローム粒を含む。締まり非常に強く、粘性やや弱い。硬化面。

10号

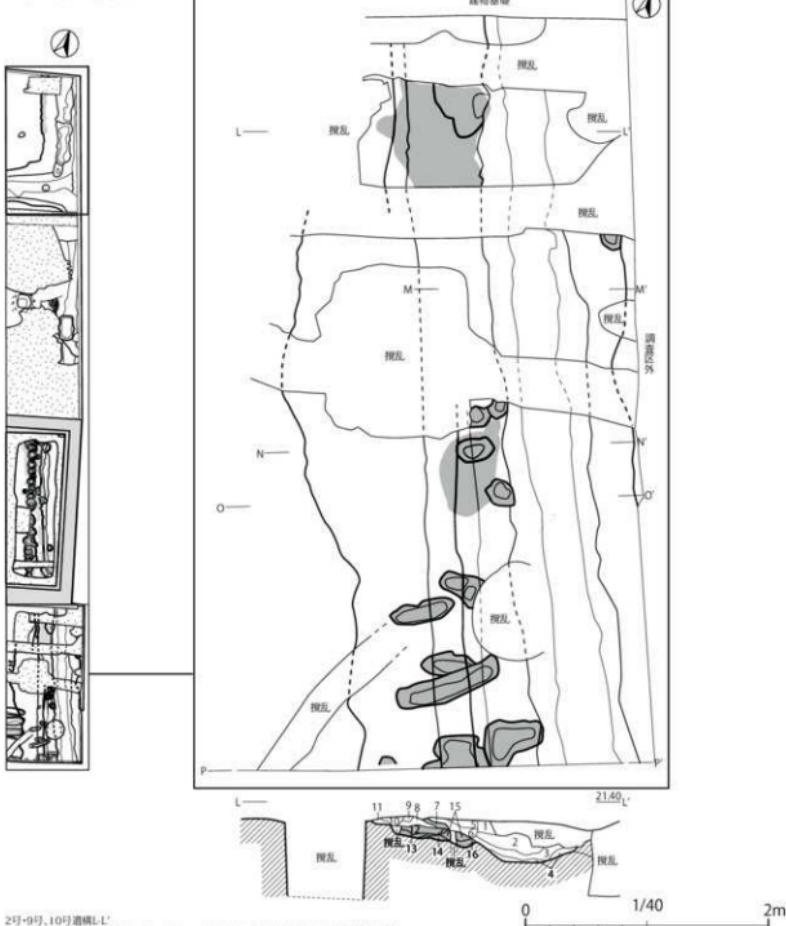
1. 10YR3/1黒褐色土
 2. 10YR4/6褐色土
 3. 10YR3/3暗褐色土
 4. 10YR3/3暗褐色土
 5. 10YR2/1黒褐色土
 6. 10YR2/2黒褐色土
- 粒径1～2mmの大さのローム粒を10%，1mm大さの褐色土を1%以下。褐化鉄の集積を2～3%、極少量の礫を含む。締まり非常に強く、粘性やや弱い。ローム粒。
- ロームプロックは均一ではなく、各々に集積する。硬い面。
- ローム中心、プロック状であったり、ローム粒の集積で構成される。締まりやや強く、粘性やや弱い。
- ローム中心と褐色土が混在。締まり強く、粘性やや弱い。硬化面。
- 粒径1～3mmの大さのローム粒を7%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 粒径1～3mmの大さのローム粒を7%含む。1～2mm大さの褐色土を1%含む。締まり非常に強く、粘性やや弱い。硬化面。
- 粒径1～2mmの大さのローム粒を10%含む。締まり非常に強く、粘性やや弱い。硬化面。

10号K

1. 10YR3/3暗褐色土
 2. 10YR4/6褐色土
 3. 10YR4/6褐色土
 4. 10YR2/2黒褐色土
- 粒径1～2mmの大さのローム粒を5%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。硬化面。
- ローム中心、プロック状であったり、ローム粒の集積で構成される。締まり強く、粘性やや弱い。
- 粒径1mm以上のローム粒を7%、5～7mmの大さのロームプロックを3%含む。締まり非常に強く、粘性やや弱い。硬化面。

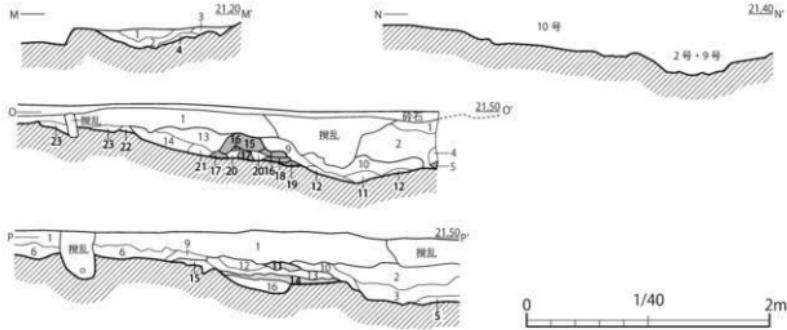
第69図 R2-2区 中世から近世の遺構（3）(1/40)

2号・9号、10号遺構



- 2号・9号、10号遺構L-L'
- 1.10YK3/3褐色土 粒径1~2mmの大ローム粘土を3%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 - 2.10YR2/1褐色土 粒径1~2mmの大ローム粘土を10%、1mm以下の大粒粘土を1%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 - 3.10VR3/2褐色土 粒径1mmの大ローム粘土を7%、1~2mmの大白色粘土を2%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 - 4.10YR4/3c-5a/黄褐色土 ローム粘土と褐色土が混在。締まりやや弱く、粘性やや強い。
 - 5.7.5VR3/4褐色土 粒径1mmの大ローム粘土を5%、1mm以下の大粒化鉱物を2%含む。上の層間に褐色鉱物の集落、沈着。
 - 6.5VR2/3褐色系褐色土 粒径1~2mmの大ローム粘土を5%含む。全体的に褐色化鉱物(赤色)が広がる。
 - 7.10YR2/2黒褐色土 粒径1mmの大ローム粘土を2~3%含む。締まり非常に強く、粘性やや強いく、土の端間に褐色鉱物(赤色)粒子濃集。
 - 8.10YK3/2褐色土 粒径1mm以下の大ローム粘土を1%含む。締まり強く、粘性やや強い。
 - 9.10YR3/1黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粘土を3%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 - 10.7.5YR2/2黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粘土を10%、1mmの大白色粘土を1%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 - 11.10YR2/1褐色土 粒径1mm以上の大ローム粘土を5%含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。
 - 12.10YR2/2黑褐色土 粒径1mm以上の大ローム粘土を5%含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。
 - 13.10VR3/3褐色土 ロームと褐色土が混在。締まりやや弱く、粘性やや強い。
 - 14.10YR2/4褐色土 粒径1mm以上の大ローム粘土を3%含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。
 - 15.10YR2/2黒褐色土 ロームと褐色土が混在。締まり非常に強く、粘性やや強い。
 - 16.10YR4/4褐色土 ロームと褐色土が混在。締まり非常に強く、粘性やや強い。

第70図 R2-2区 中世から近世の遺構（4）(1/40)



2号・9号、10号連續M-M'

- 1.1) 3YRS/3/1黒褐色土
粒径1~3mmのローム・ブロックを1/3未溝合。細まりやや粗く、粘性やや強め。粒子やや粗い。

2.1) 3YRS/1/1黒褐色土
粒径1~15mmのローム・ブロックを3%未溝合。細まりやや粗く、粘性やや弱め。粒子やや粗い。

3.1) 3YRS/2/2黒褐色土
粒径1~10mmのローム・ブロックを3%未溝合。細まりやや粗く、粘性やや弱め。粒子やや粗い。

4.1) 3YRS/3/2~2/2黒褐色土
粒径1~10mmのローム・ブロックを2%未溝合。細まりやや粗く、粘性やや強め。粒子やや粗い。

2号・9号、10号遺構O-O'

- 10.YR9/3^a暗褐色土
特征: 1-2mmのルームを10%含む。繊毛や少く、粘性や高い。
 - 10.YR9/4暗褐色土
特征: ロームと暗褐色土質が混じる。粘性やや高い。
 - 10.YR9/5暗褐色土
特征: 1-2mmのルームを7%含む。繊毛や少く、粘性やや高い。
 - 10.YR9/6暗褐色土
特征: 1-2mmのルームを5%含む。繊毛や少く、粘性やや高い。
 - 10.YR9/3^b暗褐色土
特征: 1-2mmのルームを5%含む。3-5mmのルーム1%含む。繊毛や少く、粘性やや高い。2-9月過渡腐土。
 - 10.YR9/3^c暗褐色土
特征: 1-2mmのルームを5%含む。3-5mmのルーム1%含む。繊毛や少く、粘性やや高い。2-9月過渡腐土。
 - 11.YR9/2^a黑色土
特征: 1-2mmのルームを2%含む。粘性やや高く、粘性やや高い。含む少々含む。
 - 11.YR9/2^b黑色土
特征: 1-2mmのルームを2%含む。粘性やや高く、粘性やや高い。2-9月过渡腐土。

12.10YR3/4暗褐色土

- 13.10YR1.7/1暗褐色土 粒径1mmの大ローム粒を1%、1mmの大細粒を1%以下含む。締まりやや強く、粘性やや強い。10号直構面土。
14.10YR3/1暗褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を1%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。10号直構面土。

15.10YR2/2黑褐色土
16.10YR3/3黑褐色土

- 16.IYRZ/25赤褐色土 粒径1mmの大のローム粒を3%含む。締まり非常に強、粘性やや弱い。純化田、10月造耕覆土。
17.IYRZ/2/1黒色土 粒径1~2mmの大のローム粒を7%含む。締まり非常に強く、粘性やや弱い。10月造耕覆土。
18.IYRZ/3/3褐色細土 粒径1mmの大のローム粒を1%以下含む。締まり非常に強く、粘性やや弱い。10月造耕覆土。

18.10YR3/3兩面土
29.10YR3/1黑褐土

- 粒径1mm以上のローム粒を7%含む。締まり強く、粘性やや強い。10号道構覆土。
粒径1~2mmのローム粒を10%に含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。10号道構覆土。

23.10YR3/2黑褐色土

- 2月-3月：10月播种的作物开始生长，需要灌溉。

2号・9号、10号遺構P.P
1.10mR3の壁脚部分

- 1) OVRA-3/3階級土 压密圧1~3mmのロードムーブを10%含む。繊維より強く、粘性強さも。
2) OVRA-4/4階級土 ロードムーブは20%以上を含む。繊維より弱く、粘性が弱い。

210YR4/4褐色土 日-
110YR3/7黑褐色土 耕

- 輪径2~30mmのローラー ブロックを15~5~20mmの明色土ブロックを3~5mmの間隔で

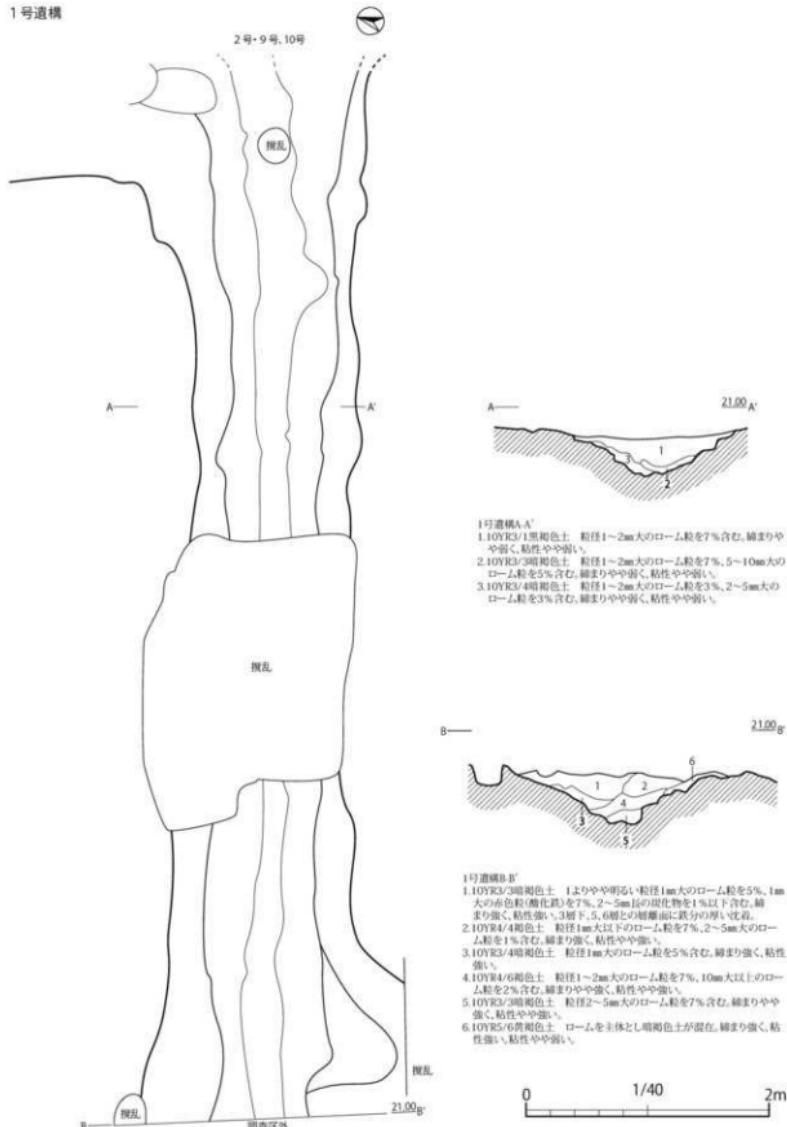
5.10YRL2/2黑褐色土
6.10YRL7/1褐色土

- 9.10YR3/1～3/2黒褐色土 軽鉢3～7mmの大コーム粒を2%，3～10mmの大黒色土ブロックを2%，3～10mm長の

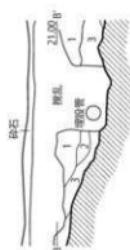
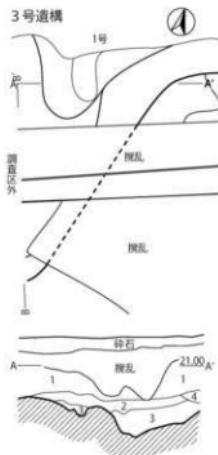
10.10YR3/2黑褐色土 粒

第71図 R2-2区 中世から近世の遺構（5）（1/40）

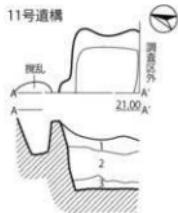
1号遺構



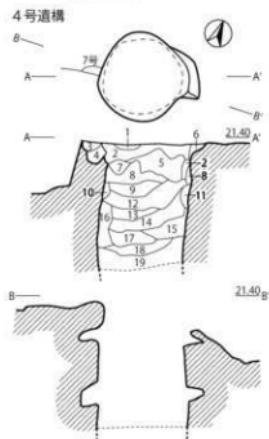
第72図 R2-2区 近世の遺構（1）（1/40）



- 3号遺構
1.10YR3/1黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を7%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
2.10YR4/1暗褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を7%, 5~10mmの大ローム粒を5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
3.10YR3/4暗褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を3%, 2~5mmの大ローム粒を3%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。



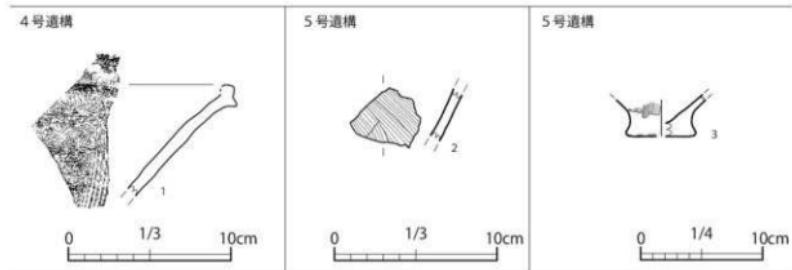
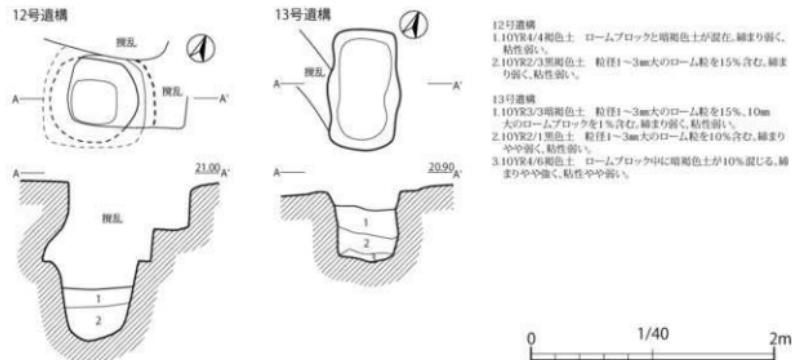
- 3号遺構A'层
1.10YR6/4暗褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を2%, 1mmの大赤色粒を1%以下、2~5mmの炭化物を1%以下含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
2.10YR4/6黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を7%, 10mm以上のローム粒を2%含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
3.10YR5/6黄褐色土 ロームを主体とし暗褐色土が混在する。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
4.10YR3/4暗褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を7%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。



- 4号遺構
1.10YR3/3暗褐色土 粒径1mmの大ローム粒を10%含む。締まり強く、粘性やや弱い。
2.10YR3/4暗褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を10%, 5~10mmの大ローム粒を3%, 1mmの炭化物を1%含む。締まり強く、粘性やや弱い。
3.10YR4/6黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を10%含む。締まり強く、粘性やや弱い。7号遺構覆土。
4.10YR4/6黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を10%含む。締まり強く、粘性やや弱く、ローム中心の土。
5.10YR2/2黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を10%, 5~10mmの大ローム粒を1%含む。締まり強く、粘性やや弱い。
6.10YR2/2黒褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒を10%含む。締まり強く、粘性やや弱い。
7.10YR3/2黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を10%, 10mmの大ローム粒を1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
8.10YR3/2黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を10%, 5~10mmの大ローム粒を3%, 5~10mmの大砂粒を5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。黒褐色土と同色で、1号層。
9.10YR2/2黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
10.10YR3/3暗褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を5%含む。締まり弱く、粘性やや弱い。
11.10YR3/3暗褐色土 粒径1mmの大ローム粒を5%含む。締まり弱く、粘性やや弱い。
12.10YR2/1黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を10%, 2~3mmの大ローム粒を3%, 5~10mmの大ローム粒を1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
13.10YR3/3暗褐色土 粒径1mmの大ローム粒を5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
14.10YR2/3暗褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を10%, 5~10mmの大ローム粒を1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
15.10YR2/2黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を10%, 5~10mmの大ローム粒を3%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
16.10YR2/2黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を5%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
17.10YR3/3暗褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を10%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
18.10YR2/2黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を10%, 5mmの大ローム粒を1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
19.10YR2/3黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を10%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

0 1/40 2m

第73図 R2-2区 近世の遺構（2）(1/40)

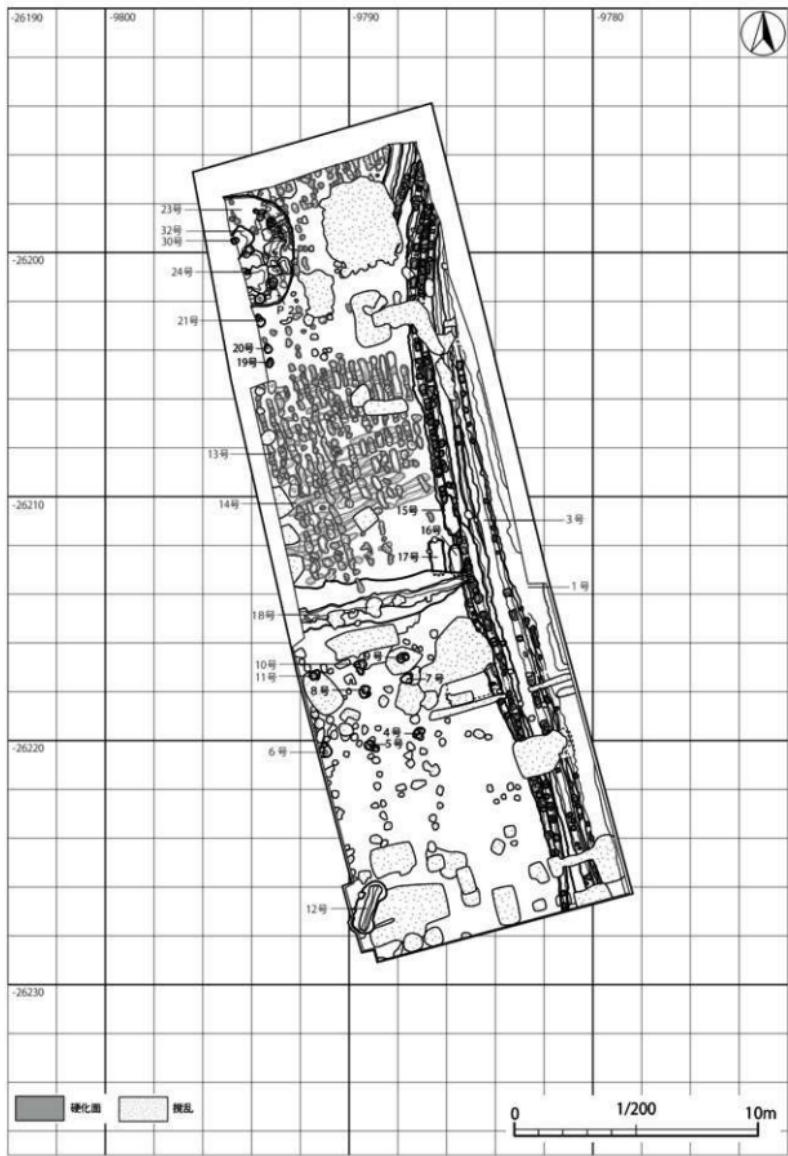


第74図 R2-2区 近世の遺構（3）(1/40)・出土遺物（1/3・1/4）

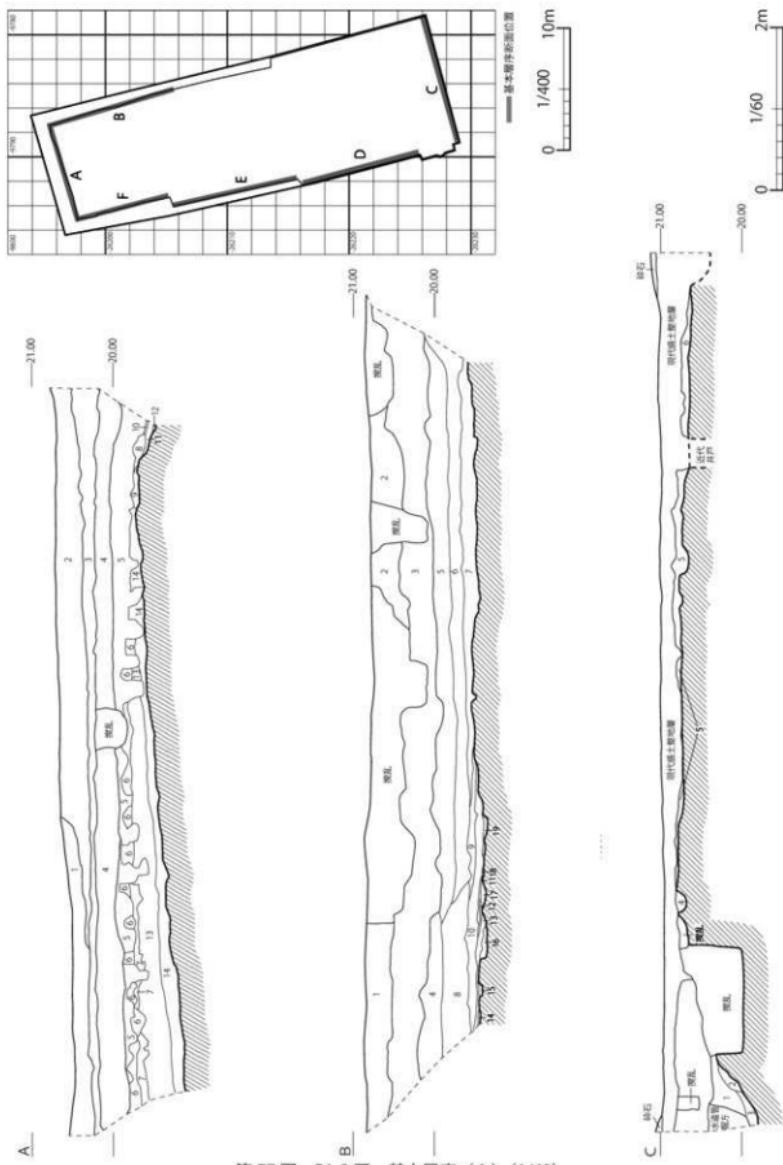
R1-2 区



第 75 図 R1-2 区 調査区位置 (1/400)



第 76 図 R1-2 区 遺構全体図 (1/200)



第77図 R1-2区 基本層序(1) (1/60)



第78図 R1-2区 基本層序(2)(1/60)

A 北岸

- 1.7.5YR4/2BK褐色土 粒径1~50mmの大ロームブロックを30%,コンクリートガラ等含む。現代土壌地帯。
- 2.10YR3/1黒褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒を1%,砂石等含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。現代盛土整地帯。
- 3.2.5Y3/2黒褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を1%未満。砂石等含む。現代盛土整地帯。
- 4.10YR3/2黒褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒を1%未満。砂石等含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。近代。
- 5.10YR3/2黒褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒を1%未満。砂石等含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。近代。
- 6.10YR3/2黒褐色土 粒径2~3mmの大ローム粒を1%、黒褐色土(10YR3/1)を5%。3~10mmの大ローム粒を1%未満。3~20mmの大粒化物を1%未満。3~20mmの大粒化物を1%未満。3~20mmの大粒化物を1%未満。3~20mmの大粒化物を1%未満。
- 7.10YR2/1黒褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を1%未満。黒褐色土(10YR3/2)を5%。3~10mmの大ローム粒を1%未満。3~20mmの大粒化物を1%未満。
- 8.10YR3/1黒褐色土(砂質より黒い) 粒径1~2mmの大ローム粒を1%未満。2~20mmの大粒化物を1%未満。締まりやや弱く、粘性やや弱い。締め度より弱く、粘性弱い。
- 9.10YR3/2黒褐色土 粒径2~5mmの大ローム粒を2%、3~10mmの大粒化物を1%未満。黒褐色土(10YR3/1)の硬化ブロックを1%未満。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 10.10YR3/2黒褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を1%未満。3~5mmの大粒化物を少額含む。締まり非常に強く、粘性やや弱い。
- 11.10YR3/2黒褐色土 粒径1~10mm以下の大ローム粒を1%未満。黒褐色土(10YR3/1)を1%未満。3~5mmの大粒化物を少額含む。締まり非常に強く、粘性やや弱い。
- 12.10YR4/2黒褐色土 粒径3~30mmの大ローム粒を1%未満。砂石等含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 13.10YR3/3/暗褐色土 粒径1~2mmの赤色スコリアを1%未満含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 14.10YR4/3/3/黄褐色土 粒径1~2mmの黄褐色スコリアを1%未満含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。

B

- 1.10YR3/1黒褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒を1%、砂石等含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。現代盛土整地帯。
- 2.10YR3/2黒褐色土 粒径5~40mmの大ロームブロックを5%、レンガ片、土質石を含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。現代盛土整地帯。
- 3.2.5Y3/2黒褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を1%以下。砂石等含む。現代盛土整地帯。
- 4.10YR3/2黒褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒を1%未満。黒褐色土(10YR3/2)を5%。3~10mmの大粒化物を1%未満。3~20mmの大粒化物を1%未満。3~20mmの大粒化物を1%未満。
- 5.10YR3/2黒褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒を2%、黒褐色土(10YR3/1)を5%未満。3~5mmの大粒化物を少額含む。締まり非常に強く、粘性やや弱い。
- 6.10YR3/2黒褐色土 粒径3~30mmの大ローム粒を1%未満。砂石等含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 7.10YR3/2黒褐色土 粒径1~10mm以下の大ローム粒を3%未満。3~30mmの大黒褐色土(10YR3/2)の硬化ブロックを1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。1号道積塵土。
- 8.10YR3/2黒褐色土 粒径3~20mmの大ロームブロックを1%未満。3~50mmの大黒褐色土(10YR3/3)の1号道積塵土。
- 9.10YR3/2黒褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を1%未満。3~5mmの大粒化物を少額含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 10.10YR3/2黒褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を1%未満。3~5mmの大粒化物を少額含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 11.10YR4/1灰褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を1%以下。1~2mmの大粒の凝集粒を5%含む。締まり非常に強く堅緻、粘性無し。
- 12.10YR3/2黒褐色土 粒径5~40mmの大ロームブロックを5%、レンガ片、土質石を含む。締まりやや弱く、粘性強い。
- 13.10YR3/2黒褐色土 粒径1~10mm以下の大ローム粒を1%未満。砂石等含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 14.10YR4/2灰褐色土 粒径3~10mmの大ロームブロックを5%、3~5mmの大粒化物を少額含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 15.10YR4/2灰褐色土 粒径3~10mmの大ロームブロックを5%、3~5mmの大粒化物を少額含む。3~10mmの大粒の凝集粒を一部削除して5%含む。締まり非常に強く堅緻、粘性無し。
- 16.10YR4/1灰褐色土 粒径1~10mm以下の大ローム粒を1%未満。3~5mmの大粒化物を少額含む。締まり非常に強く堅緻、粘性無し。
- 17.10YR4/2灰褐色土 粒径3~10mmの大ロームブロックを5%、3~5mmの大粒化物を少額含む。締まり非常に強く堅緻、粘性無し。
- 18.10YR4/2灰褐色土 粒径3~10mmの大ロームブロックを5%、3~5mmの大粒化物を少額含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 19.10YR4/1灰褐色土 粒径1~10mm未満の大ローム粒を5%、3~5mmの大粒の凝集粒を一部削除して10%含む。締まり非常に強く堅緻、粘性無し。

C

- 1.10YR3/1黒褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを2%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 2.10YR3/2黒褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを5%含む。締まりやや弱く、粘性強い。
- 3.10YR3/2黒褐色土 粒径1~20mmの大ロームブロックを2%、砂石等含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 4.2.5Y3/2黒褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒を1%以下。砂石等含む。現の(盛)土整地帯。
- 5.10YR4/1灰褐色土 粒径3~15mmの大ロームブロックを3%含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 6.10YR3/1灰褐色土 粒径3~25mmの大ロームブロックを5%含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 7.10YR3/1灰褐色土 粒径2~15mmの大ロームブロックを5%含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 8.10YR3/1灰褐色土 粒径2~50mmの大ロームブロックを5%含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。(6解とはほぼ同じ)
- 9.10YR3/1灰褐色土 粒径2~15mmの大ロームブロックを5%含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 10.10YR3/1黒褐色土 粒径2~50mmの大ロームブロックを15%未満。3~10mmの大粒化物を1%含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 11.10YR2/1黒褐色土 粒径2~20mmの大ローム粒を1%未満。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 12.10YR4/25mmの大ロームブロックを5%含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 13.10YR3/2黒褐色土 粒径3~20mmの大ロームブロックを5%含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 14.10YR4/1灰褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを5%含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 15.10YR3/2黒褐色土 粒径3~15mmの大ロームブロックを5%含む。締め度よりやや弱く、粘性やや弱い。(3解とはほぼ同じ)
- 16.10YR3/2黒褐色土 粒径3~30mmの大ロームブロックを5%含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 17.10YR4/1灰褐色土 粒径3~10mmの大ローム粒を1%未満。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 18.10YR3/1黑褐色土 粒径2~30mmの大ロームブロックを5%含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 19.10YR3/1黒褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを15%未満。締め度よりやや弱く、粘性やや弱い。
- 20.10YR4/1灰褐色土 粒径2~30mmの大ロームブロックを5%含む。3~5mmの大粒化物を1%未満。5~20mmの大粒化物を1%未満。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 21.10YR3/1黒褐色土 粒径3~40mmの大ロームブロックを3%含む。締め度よりやや弱く、粘性強い。

D

- 1.10YR3/1黒褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒を1%、砂石等含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。現代の盛土整地帯。
- 2.10YR3/2黒褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを5%、砂石を、土質、コンクリート等含む。現代の盛土整地帯。
- 3.10YR3/2黒褐色土 粒径1~20mmの大ロームブロックを2%、砂石等含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。現代の盛土整地帯。
- 4.2.5Y3/2黒褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒を1%以下。砂石等含む。現の(盛)土整地帯。
- 5.10YR4/1灰褐色土 粒径3~15mmの大ロームブロックを3%含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 6.10YR3/1灰褐色土 粒径3~25mmの大ロームブロックを5%含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 7.10YR3/1灰褐色土 粒径2~15mmの大ロームブロックを5%含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 8.10YR3/1灰褐色土 粒径2~50mmの大ロームブロックを5%含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 9.10YR3/1灰褐色土 粒径2~15mmの大ロームブロックを5%含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 10.10YR3/1黒褐色土 粒径2~50mmの大ロームブロックを15%未満。3~10mmの大粒化物を1%含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 11.10YR2/1黒褐色土 粒径2~20mmの大ローム粒を1%未満。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 12.10YR4/25mmの大ロームブロックを5%含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 13.10YR3/2黒褐色土 粒径3~20mmの大ロームブロックを5%含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 14.10YR4/1灰褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを5%含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 15.10YR3/2黒褐色土 粒径3~15mmの大ロームブロックを5%含む。締め度よりやや弱く、粘性やや弱い。
- 16.10YR3/2黒褐色土 粒径3~30mmの大ロームブロックを5%含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 17.10YR4/1灰褐色土 粒径3~10mmの大ローム粒を1%未満。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 18.10YR3/1黑褐色土 粒径2~30mmの大ロームブロックを5%含む。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 19.10YR3/1黒褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを15%未満。締め度よりやや弱く、粘性やや弱い。
- 20.10YR4/1灰褐色土 粒径2~30mmの大ロームブロックを5%含む。3~5mmの大粒化物を1%未満。5~20mmの大粒化物を1%未満。締め度より弱く、粘性やや弱い。
- 21.10YR3/1黒褐色土 粒径3~40mmの大ロームブロックを3%含む。締め度よりやや弱く、粘性強い。

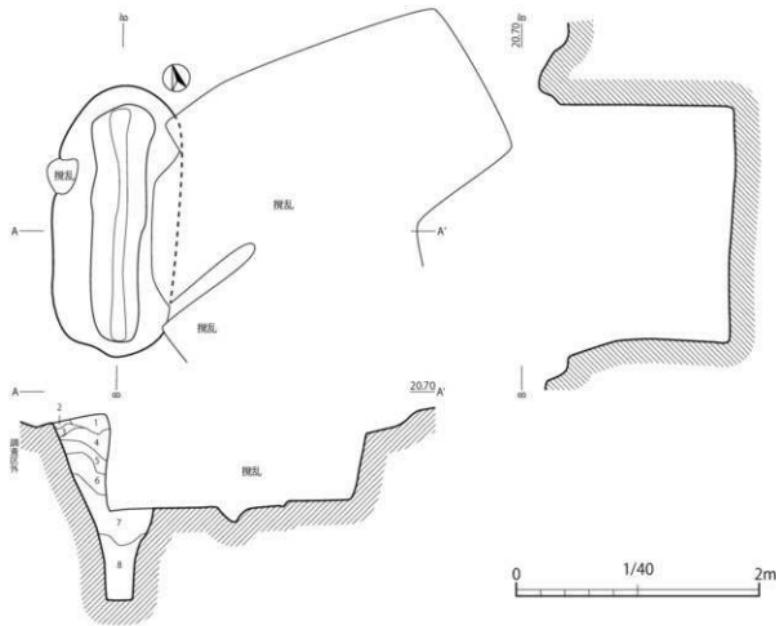
E

- 1.10YR3/2黒褐色土 粒径1~20mmの大ロームブロックを2%、3~10mmの大粒化物を1%未満。レンガ片等少額含む。締め度よりやや弱く、粘性やや弱い。
- 2.10YR3/2黒褐色土 粒径5~20mmの大ロームブロックを1%、5~30mmの大粒化物を1%未満含む。締め度よりやや弱く、粘性やや弱い。近世以前の耕作土。
- 3.10YR3/2黒褐色土 粒径3~40mmの大ロームブロックを3%含む。締め度よりやや弱く、粘性強い。
- 4.10YR3/2黒褐色土 粒径1~15mmの大ロームブロックを7%含む。締め度よりやや弱く、粘性強い。
- 5.10YR3/2黒褐色土 粒径1~40mmの大ロームブロックを30%含む。締め度よりやや弱く、粘性強い。
- 6.10YR3/2黒褐色土 粒径1~50mmの大ロームブロックを5%含む。締め度よりやや弱く、粘性強い。
- 7.10YR3/2黒褐色土 粒径1~10mmの大ロームブロックを5%含む。締め度よりやや弱く、粘性やや弱い。
- 8.10YR3/2黒褐色土 粒径3~50mmの大ロームブロックを5%含む。締め度よりやや弱く、粘性やや弱い。
- 9.10YR2/3黒褐色土 粒径1mmの赤色スコリアを1%未満。1mmの黄色スコリアを1%未満含む。締め度よりやや弱く、粘性やや弱い。自然堆積地。

F 西壁 G-C'

- 1.7.3Y4/2灰褐色土。粒径1~5mmの大ロームブロックを30%,コンクリートガラ等含む。現代盛土整地層。
- 2.2.5Y3/2黒褐色土。粒径1~3mmの大ローム粒を1%未満。黒褐色土(10YR3/1)を3%、1~20mm長の炭化物を1%未満含む。綿まりやや弱く、粘性やや弱い。近代。
- 3.10YR3/2灰褐色土。粒径1~5mmの大ローム粒を1%未満。黒褐色土(10YR2/1)を15%、3mm長の炭化物を1%未満含む。綿まり弱く、粘性弱い。細の耕作土。
- 4.10YR3/2灰褐色土。粒径1~3mmの大ローム粒を1%未満。黒褐色土(10YR2/1)を15%、3mm長の炭化物を1%未満含む。綿まり弱く、粘性弱い。細の耕作土。
- 5.10YR3/2灰褐色土。粒径1~3mmの大ローム粒を1%未満。黒褐色土(10YR3/2)を25%、1mm粒の赤色スコリアを1%未満含む。綿まり弱く、粘性やや弱い。細の耕作土。
- 6.30Y過構剖面
- 7.30Y過構剖面
- 8.10YR2/2黒褐色土。粒径1mm未満の赤色スコリアを1%未満含む。綿まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 9.10YR2/1黒褐色土。粒径1mm以下の大ローム粒を1%未満。1mm未満の赤色スコリアを1%未満含む。綿まり弱く、粘性やや弱い。
- 10.10YR3/1黒褐色土。粒径1~3mmの大ローム粒を1%未満。1mm未満の赤色スコリアを1%未満含む。綿まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 11.10YR3/2黒褐色土。粒径1~20mmの大ロームブロックを5%、1~5mmの大粒土粒を1%未満含む。1~2~5mm長の炭化物を1%未満含む。綿まりやや強く、粘性やや弱い。
- 12.10YR3/1黑褐色土。粒径1~20mmの大ロームブロックを10%、1~3mmの大粒土粒を1%未満含む。2~5mm長の炭化物を1%未満含む。綿まりやや強く、粘性やや弱い。
- 13.10YR3/1黒褐色土。粒径1~20mmの大ロームブロックを7%、1~3mmの大粒土粒を1%未満含む。2~5mm長の炭化物を1%未満含む。綿まりやや強く、粘性やや弱い。
- 14.10YR3/1黒褐色土。粒径1~20mmの大ロームブロックを10%、1~3mmの大粒土粒を1%未満含む。2~5mm長の炭化物を1%未満含む。綿まりやや強く、粘性やや弱い。
- 15.10YR3/1黒褐色土。粒径1~20mmの大ロームブロックを10%、1~3mmの大粒土粒を1%未満含む。綿まりやや強く、粘性やや強い。
- 16.10YR3/6黄褐色土。粒径5~30mmの大ロームブロックを3体。黒褐色土(10YR3/1)を15%含む。綿まり強く、粘性やや強く。
- 17.10YR2/2黒褐色土。粒径2~10mmの大ロームブロックを3体、1~5mmの大粒土粒を1%未満。1mm粒の赤色スコリアを1%未満含む。綿まりやや弱く、粘性やや弱い。23号過構壠土。
- 18.10YR4/3L₁灰褐色土。ローム土主体。黒褐色土(10YR3/2)を30%、1mm粒の赤色スコリアを1%未満含む。綿まりやや強く、粘性やや弱い。23号過構壠土。
- 19.10YR3/2黒褐色土。粒径5~30mmの大ロームブロックを5%、1~2mmの大粒土粒を1%未満。2~5mm長の炭化物を1%含む。綿まりやや弱く、粘性やや強い。23号過構壠土。
- 20.10YR2/1黒褐色土。粒径2~20mmの大ロームブロックを3%、1~2mmの大粒土粒を1%未満。1mm粒の赤色スコリアを1%未満含む。綿まりやや弱く、粘性やや強い。23号過構壠土。
- 21.10YR4/2灰黃褐色土。粒径5~30mmの大ロームブロックを20%含む。綿まりやや弱く、粘性やや弱い。23号過構壠土。
- 22.10YR4/3L₁灰褐色土。ローム土主体。黒褐色土(10YR3/1)を1%未満含む。綿まりやや強く、粘性やや弱い。23号過構壠土。
- 23.10YR4/3L₁灰褐色土。ロームブロック主体。粒径3~10mm的大粒土粒を(10YR3/1)1%、1~2mm長の炭化物を1%未満含む。綿まり強く、粘性やや弱い。23号過構壠土。
- 24.10YR2/2黒褐色土。粒径5~30mmの大ロームブロックを10%、2~5mm長の炭化物を1%未満含む。綿まりやや弱く、粘性やや強く。23号過構壠土。
- 25.10YR4/2灰黃褐色土。粒径5~40mmの大ロームブロックを40%含む。綿まりやや弱く、粘性やや弱い。23号過構壠土。
- 26.10YR3/3明褐色土。粒径1mm未満の赤褐色スコリア1%未満含む。綿まり弱く、粘性やや強く。自然地盤層。
- 27.10YR4/3L₁灰褐色土。粒径1~2mmの赤褐色スコリア1%未満含む。綿まり強く、粘性強い。ソフトローム。

12号遺構



12号遺構 A-A'

1.10VR2/1黒色土 粒径2~5mmのローム粒を1%, 1mmの大赤褐色スコリアを1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや強い。

2.10VR2/1黒色土 粒径2~10mmの大ローム・ブロック1%含む。締まりやや強く、粘性やや強い。

3.2.5Y3/2黒褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒3%含む。締まり強く、粘性強い。

4.10VR3/2黒褐色土 粒径2~10mmの大ローム・ブロックを1%, 1mm未満の大赤褐色スコリアを1%未満含む。締まり強く、粘性やや強い。

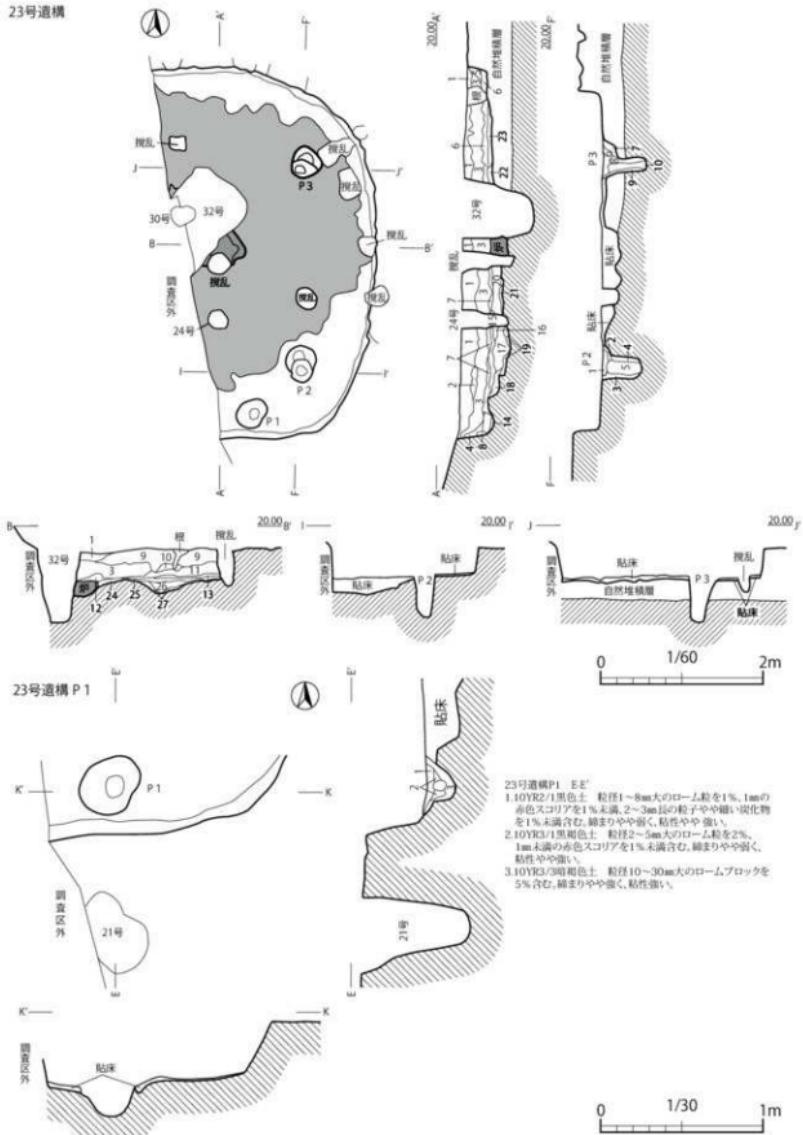
5.2.5Y4/2暗灰黄色土 粒径5~10mmの大ローム・ブロックを3%含む。締まり強く、粘性強い。

6.2.5Y5/3黄褐色土 粒径3~30mmの大ローム・ブロック主体。暗灰黄色(2.5Y4/2)10%, 1mmの大赤褐色スコリア1%未満含む。締まり強く、粘性強い。

7.2.5Y5/3黄褐色土 粒径2~40mmの大ローム・ブロック主体。黒褐色土(2.5Y3/1)9%, 1mmの大赤褐色スコリア1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや強い。

8.2.5Y5/4黄褐色土 粒径2~30mmの大ローム・ブロック主体。黒褐色土(2.5Y3/1)7%, 1mmの大赤褐色スコリア1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。

第79図 R1-2区 縄文時代の遺構 (1/40)



第80図 R1-2区 弥生時代の遺構（1）（1/30・1/60）

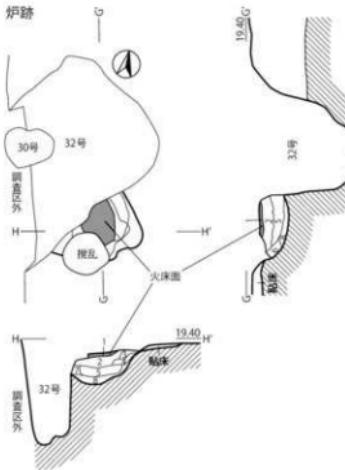
23号遺構 A-A'・B-B'と共に

- 1.10YR2/1黒褐色土 粒径2~5mmの大ローム粒を1%以下、1mm大以下の赤色スコリアを1%、1mm未満の黄色スコリアを1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い、遺物少。
- 2.10YR3/2黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を1%以下、暗褐色土(10YR3/3)を10%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
- 3.10YR2/2黒褐色土 粒径2~10mmの大ローム粒を1%、1~2mmの赤色スコリアを1%、1mm未満の化石化物を1%、1mm未満含む。締まり強く、粘性やや強い、多量に遺物含む。
- 4.10YR2/1黒褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を1%以下、1mm未満の化石化物を1%、1mm未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
- 5.10YR2/2黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を1%未満、1mm未満の赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 6.10YR3/3黒褐色土 粒径1~20mmの大ローム粒を2%含む。締まり弱く、粘性やや弱い。
- 7.10YR3/3黒褐色土 粒径5~30mmの大ローム・ブロックを5%含む。締まり弱く、粘性やや弱い。
- 8.2.5YR5/4 黄褐色土 ソフローム土体、黒褐色土(10YR2/2)を30%含む。締まり弱く、粘性やや弱い、相穴。
- 9.10YR2/2黒褐色土 粒径1~20mmの大ローム・ブロックを1%未満含む。1mmの大赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 11.10YR3/2暗褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒を1%、1mmの大赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
- 12.10YR2/3暗褐色土 粒径1~20mmの大ローム粒を1%以下、1mm未満の化石化物を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
- 13.10YR2/2暗褐色土 粒径1~20mmの大ローム粒を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
- 14.10YR2/4 黄褐色土 粒径5~20mmの大ローム・ブロックを20%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い、相穴。
- 15.10YR2/2 黑褐色土 粒径2~40mmの大ローム・ブロックを20%~10mmの化石化物を1%未満含む。締まり強く、粘性弱い、床面硬化面。
- 16.10YR4/3にぶら 黄褐色土 ローム・ブロックを5%、1~10mmの大黒褐色土(10YR3/1)を1%、1~2mmの化石化物を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
- 17.10YR2/2 黑褐色土 粒径5~30mmの大ローム・ブロックを10%、2~5mmの化石化物を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い、相穴。
- 18.10YR4/2 黑褐色土 粒径5~40mmの大ローム・ブロックを40%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い、相穴。
- 19.10YR4/3にぶら 黄褐色土 ローム土体、黒褐色土(10YR3/1)を15%含む。締まり強く、粘性やや弱い、相穴。
- 20.10YR2/3 黑褐色土 粒径3~40mmの大ローム・ブロックを20%~3~5mmの化石化物を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い、相穴。
- 21.10YR2/3にぶら 黄褐色土 ローム土体、黒褐色土(10YR3/1)を15%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い、相穴。
- 23.10YR2/2 黑褐色土 粒径3~10mmの大ローム・ブロックを1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い、相穴。
- 24.10YR2/2 黑褐色土 粒径5~30mmの大ローム・ブロックを15%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い、相穴。
- 25.10YR2/2 黑褐色土 粒径5~30mmの大ローム・ブロックを10%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い、相穴。
- 26.10YR2/2 黑褐色土 粒径5~40mmの大ローム・ブロックを20%、5~30mmの大黒褐色土(10YR2/1)ブロックを3%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 27.10YR4/3にぶら 黄褐色土 ローム土体、黒褐色土(10YR3/1)を20%、黒褐色土(10YR2/1)を5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

23号遺構 F-F' P-P'

- 1.10YR2/2黒褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を1%、1mm大以下の赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 2.10YR4/3にぶら 黄褐色土 粒径3~20mmの大ローム・ブロックを10%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
- 3.10YR2/2 黑褐色土 粒径3~10mmの大ローム・ブロックを5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 4.10YR2/2 黑褐色土 粒径5~20mmの大ローム・ブロックを5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 5.10YR2/2 黑褐色土 粒径3~10mmの大ローム・ブロックを5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 6.10YR2/3 黑褐色土 ローム・ブロックを5%含む。1mm未満の赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 7.10YR4/3にぶら 黄褐色土 ローム・ブロックを5%含む。1mm未満の赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 8.10YR3/1 黑褐色土 粒径5~15mmの大ローム・ブロックを5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 9.10YR3/1 黑褐色土 粒径5~20mmの大ローム・ブロックを5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 10.10YR2/2 黑褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒を2%以下含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

炉跡



23号遺構 斧跡

- 1.5YR5/3にぶら 黄褐色土 砂粒を含む。被熱により硬質化、粘性無し、火床面。
- 2.2.5YR3/4 黄褐色土 炉土土体、黒褐色土(10YR3/1)を20%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 3.2.5YR3/4 暗褐色土 粒径1~5mmの大土塊を5%、赤褐色(2.5YR4/1)の灰を少額含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。
- 4.5YR3/1 黑褐色土 粒径1~3mmの大粒を3%、赤褐色(2.5YR4/1)の灰を3%含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。
- 5.10YR3/2にぶら 黄褐色土 砂質粘土土体。粒径2~15mmの大土塊を5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 6.10YR2/2 黑褐色土 黑褐色土(10YR3/1)を20%、粒径1~5mmの大粒を5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 7.10YR2/2 黑褐色土 5層の砂質粘土と黒褐色土(10YR3/1)の混土。1~3mmの大粒を5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 8.10YR5/3にぶら 黄褐色土 砂質粘土土体。粒径3~10mmの大土塊を2%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

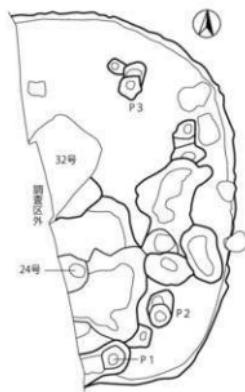
炉跡 振り方平面図



0 1/30 1m

第 81 図 R1-2 区 弥生時代の遺構（2）(1/30)

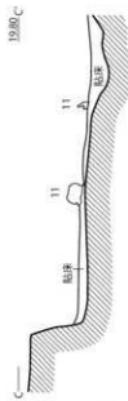
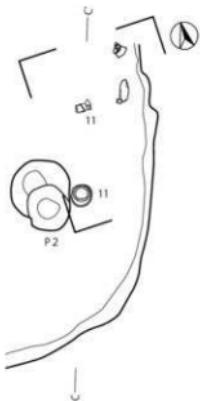
23号遺構 振り方



23号遺構 遺物出土分布

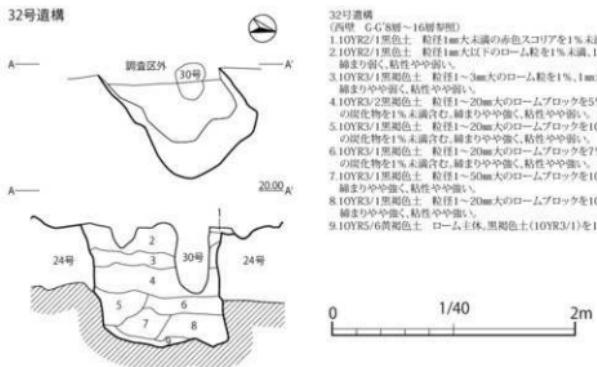


23号遺構 遺物微細図



第 82 図 R1-2 区 弥生時代の遺構（3）（1/30・1/60）

32号遺構



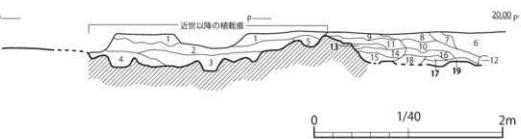
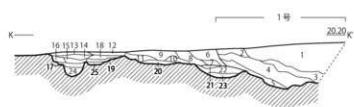
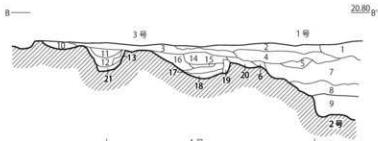
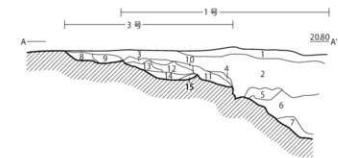
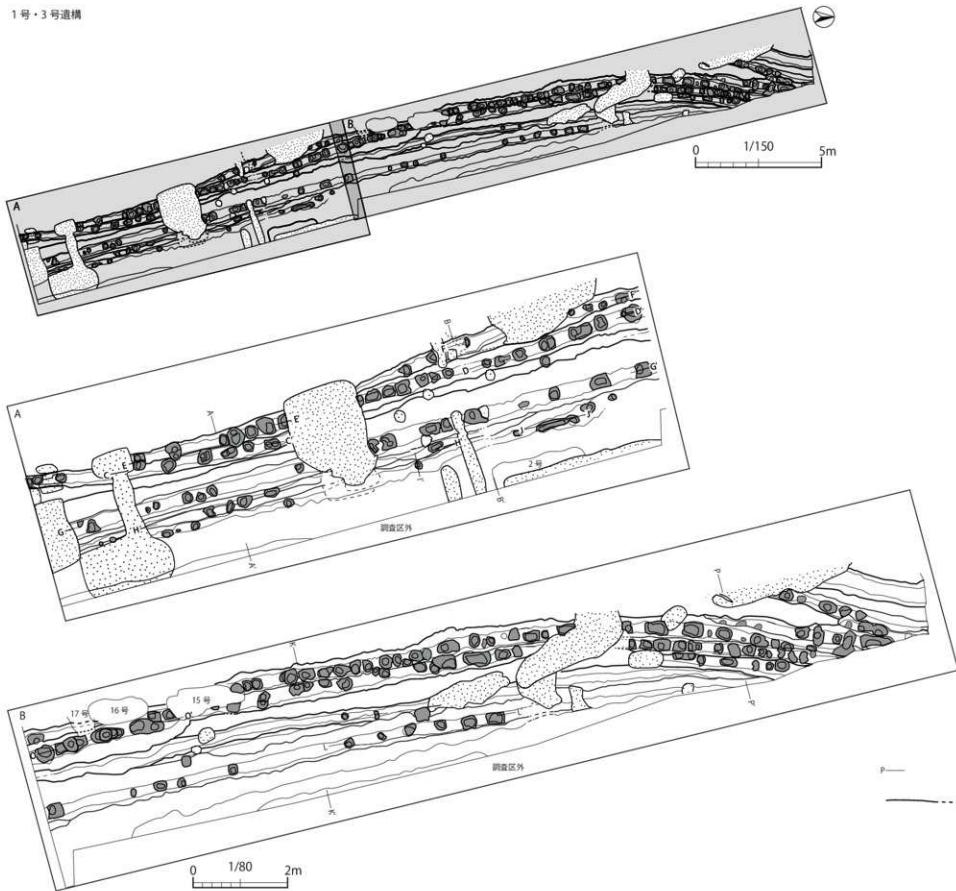
32号遺構

(西壁 G-C'8列～16列断面)

- 1.10YR2/1黒褐色土 粒径1mm未満の赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 2.10YR2/1黒褐色土 粒径1mm未満以下の大ローム粒を1%未満、1mm未満の赤色スコリアを1%未満含む。締まり弱く、粘性やや弱い。
- 3.10YR2/1黒褐色土 粒径1～3mmの大ローム粒を1%、1mm未満の赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 4.10YR3/2黒褐色土 粒径1～20mmの大ロームブロックを5%、1～5mmの大堆土粒を1%，2～5mm長の炭化物を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
- 5.10YR3/1黒褐色土 粒径1～20mmの大ロームブロックを10%，1～3mmの大堆土粒を1%，2～5mm長の炭化物を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
- 6.10YR3/1黒褐色土 粒径1～20mmの大ロームブロックを7%，1～3mmの大堆土粒を1%，2～5mm長の炭化物を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
- 7.10YR3/1黒褐色土 粒径1～50mmの大ロームブロックを10%，1～10mmの大堆土粒を2%未満含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
- 8.10YR3/1黒褐色土 粒径1～20mmの大ロームブロックを10%，1～3mmの大堆土粒を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
- 9.10YR5/6黄褐色土 ローム主体。黒褐色土(10YR3/1)を15%含む。締まり強く、粘性やや強い。

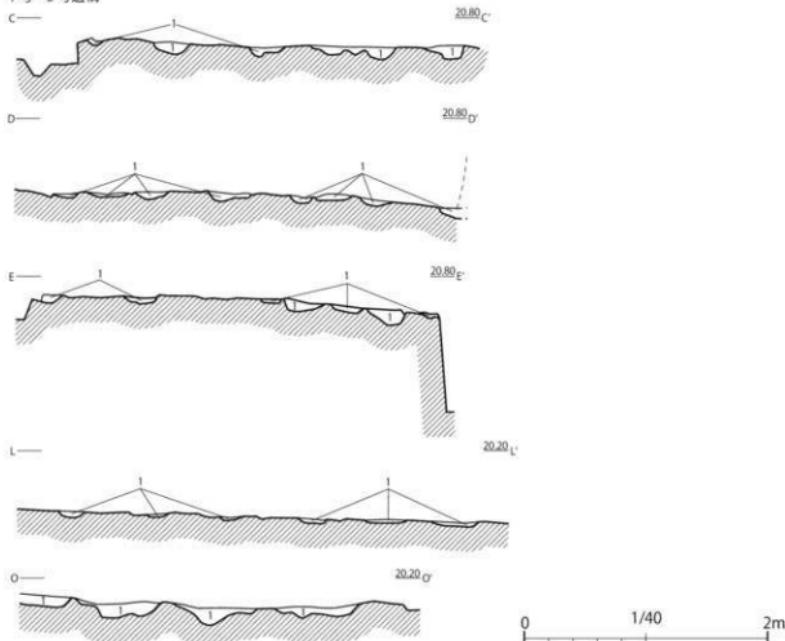
第 83 図 R1-2 区 古墳時代以降の遺構 (1/40)

1号・3号遺構



第84図 R1-2区 中世から近世の遺構（1）（1/40・1/80・1/150）

1号・3号遺構



1号・3号遺構 A-A'

1.IORY3/1 黒褐色土 粒径 1～2 mmの大ローム粒を 3%、3～5 mm長の炭化物を 1%未満含む。締まり強く、粘性弱い。近代以降の転圧により硬化か。

2.IORY3/1 黒褐色土 粒径 1～4 mmの大ローム粒を 3%、3～5 mm長の炭化物を 1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

3.IORY3/1 黒褐色土 粒径 5～15 mmの大ロームブロックを 2%、5～20 mmの大黒色土 (10YR2/1) ブロックを 10%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

4.IORY3/1 黒褐色土 粒径 5～20 mmの大ロームブロックを 10%含む。締まりやや弱く（粒より弱く）、粘性やや弱い。

5.IORY2/1 黒褐色土 粒径 1 mmの大ローム粒を 1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

6.IORY2/1 黒褐色土 粒径 1～2 mmの大ローム粒を 3%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

7.IORY2/2 深黄褐色土 粒径 1～2 mmの大ローム粒を 3%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

8.IORY2/2 深黄褐色土 粒径 1～2 mmの大ローム粒を 3%未満含む。締まり非常に強く、堅密。粘性無し。硬化か。

9.IORY2/2 黑褐色土 粒径 1～2 mmの大ローム粒を 1%未満含む。締まり非常に強く、堅密。粘性無し。硬化か。

10.IORY4/2 深黄褐色土 粒径 1～2 mmの大ローム粒を 1%未満、5～10 mm未満の小羅粒 1%未満含む。締まり強く、粘性無し。

11.IORY3/1 黑褐色土 粒径 1～2 mmの大ローム粒を 1%未満、5～10 mm未満の小羅粒 1%未満含む。締まり強く、粘性無し。

12.IORY3/1 黑褐色土 粒径 1～5 mmの大ローム粒を 1%未満含む。締まり非常に強く、粘性やや弱い。硬化か。

13.IORY3/2 黑褐色土 粒径 1～5 mmの大ローム粒を 10%含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。サクサクした感じ。

14.IORY4/7 にぶい黄褐色土 ローム土体 黑褐色土 (10YR3/2) を 30%との互層含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

15.IORY4/3 にぶい黄褐色土 ローム土体 黑褐色土 (10YR3/2) を 5%含む。締まりやや強く、粘性やや強い。

1号・3号遺構 B-B'

1.IORY3/1 黑褐色土 粒径 3～30 mmの大ロームブロックを 10%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。近代の発見。

2.IORY3/1 黑褐色土 粒径 2～3 mmの大ローム粒、2～5 mm長の炭化物を 1%未満含む。締まり強く、粘性弱い。(A-A' 1層相当)。

3.IORY3/1 黑褐色土 粒径 2～5 mmの大ローム粒、5～20 mmの大黒色土 (10YR2/1) ブロックを 2%程含む。締まりやや強く。粘性やや弱い。(A-A' 3層相当)。

4.IORY3/1 黑褐色土 粒径 1～7 mmの大ローム粒を 3%～5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。(A-A' 2層相当)。

5.IORY2/1 黑褐色土 粒径 1～2 mmの大ローム粒を 1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。(A-A' 5層相当)。

6.IORY3/1 黑褐色土 粒径 3～15 mmの大ロームブロックを 7%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。(A-A' 4層相当)。

7.IORY3/1 黑褐色土 粒径 1～5 mmの大ローム粒を 5%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

8.IORY2/2 黑褐色土 粒径 1～5 mmの大ローム粒を 5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。(A-A' 6層相当)。

9.IORY3/2 深黄褐色土 粒径 3～30 mmの大ロームブロックを 30%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。(土杭覆土)。

10.IORY3/1 黑褐色土 粒径 1～5 mmの大ローム粒を 5%含む。締まり非常に強く、堅密。粘性無し。硬化か。

11.IORY4/2 深黄褐色土 粒径 1～3 mmの大ローム粒を 2%含む。締まり非常に強く、粘性無し。硬化か。

12.IORY3/1 黑褐色土 粒径 1～5 mmの大ローム粒を 1%含む。締まり非常に強く、堅密。粘性無し。硬化か。

13.IORY3/1 黑褐色土 粒径 1～10 mmの大ロームブロックを 10%含む。締まり非常に強く、堅密。粘性無し。

14.IORY4/2 深黄褐色土 粒径 1～2 mmの大ローム粒を 1%未満含む。締まり非常に強く、堅密。粘性弱い。

15.IORY3/1 黑褐色土 粒径 1 mmの大ローム粒を 2%含む。締まり非常に強く、堅密。粘性弱い。

16.IORY3/1 黑褐色土 ローム土体 黑褐色土 (10YR3/2) の互層含む。締まりやや弱く、サクサク。粘性弱い。

17.IORY3/2 黑褐色土 粒径 1～2 mmの大ローム粒を 10%含む。締まりやや弱く、粘性弱い。

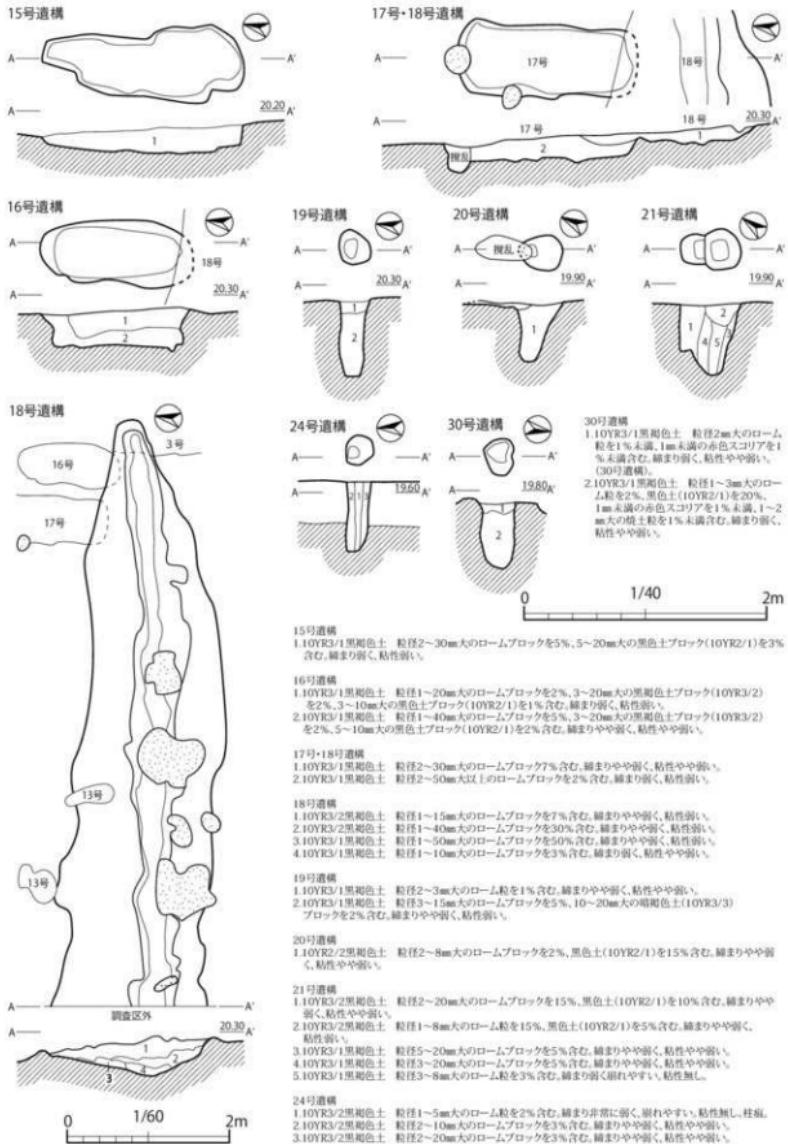
18.IORY4/3 にぶい黄褐色土 ローム土体 黑褐色土 (10YR3/2) を 15%含む。締まり非常に強く、粘性弱い。

19.IORY3/1 黑褐色土 ローム土体 粒径 1～5 mmの大ローム粒を 1%未満含む。締まりやや弱く、粘性弱い。

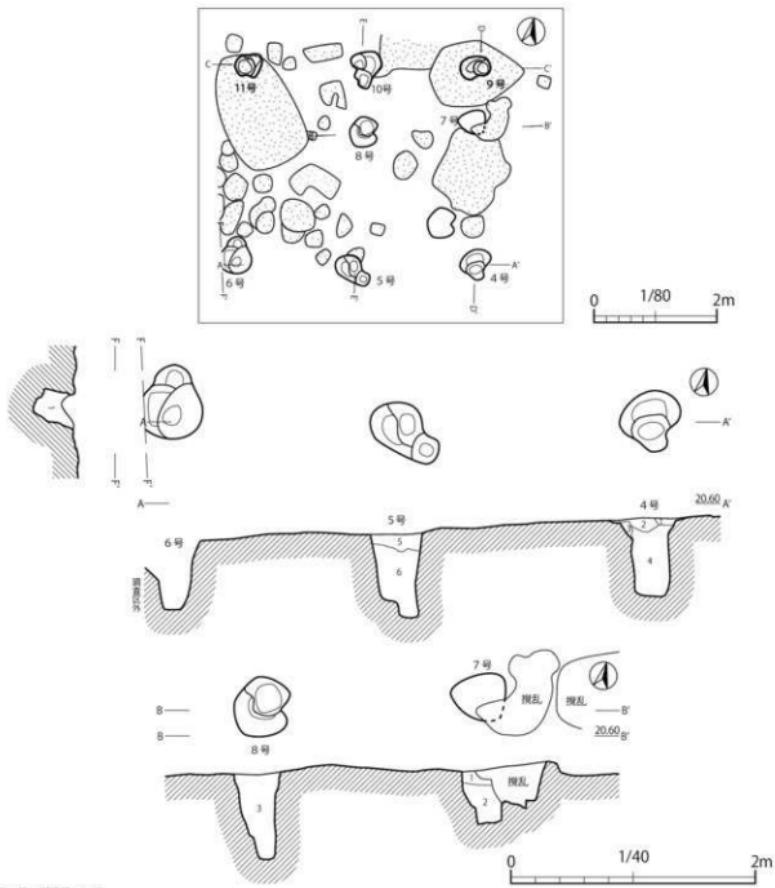
20.IORY3/1 黑褐色土 粒径 2～5 mmの大ローム粒を 1%未満含む。締まり非常に強く、堅密。粘性やや弱い。溝底面のビット。

第85図 R1-2区 中世から近世の遺構（2）(1/40)

- 3号道構 C-C ピット
1.10YR4/2灰黒褐色土 粒径1～5mmの大ローム粒を1%含む。締まり非常に強く堅緻、粘性やや弱い。
- 3号道構 D-D' ピット
1.10YR4/2灰黒褐色土 粒径1～3mmの大ローム粒を1%未満、1～5mmの大粒分の凝集粒を2%、3～5mmの大粒分の小礫を含む。締まり極めて強く堅緻、粘性やや弱い。
- 3号道構 E-E' ピット
1.10YR4/2灰黒褐色土 粒径1～10mmの大ローム粒を2%以下、3～10mmの大粒分の凝集粒を1%含む。締まり極めて強く堅緻、粘性やや弱い。
- 3号道構 F-F' ピット
1.10YR4/2灰黒褐色土 粒径1～8mmの大ローム粒を2%以下、2～10mmの大粒分の凝集粒を3%、5～8mmの大粒分の小礫を少量含む。締まり極めて強く堅緻、粘性やや弱い。
- 3号道構 G-G' ピット
1.10YR4/2灰黒褐色土 粒径5～30mmの大ロームブロックを20%含む。締まり非常に強く、粘性やや弱い。
- 3号道構 H-H' ピット
1.10YR4/2灰黒褐色土 粒径3～15mmの大ロームブロックを3%，3～10mmの大粒分の凝集粒を3%含む。締まり非常に強く、粘性やや弱い。
- 3号道構 I-I' ピット
1.10YR4/2灰黒褐色土 粒径2～15mmの大ロームブロックを2%，5～20mmの大粒分の凝集粒を3%含む。締まり極めて強く、粘性やや弱い。
- 3号道構 J-J' ピット
1.10YR4/2灰黒褐色土 粒径2～15mmの大ロームブロックを3%，5～20mmの大粒分の凝集粒を3%含む。締まり非常に強く、粘性やや弱い。
- 1・3号道構 K-K'
1.10YR3/1黒褐色土 粒径1～20mmの大ロームブロックを3%、3～5mm長の粗化物を1%未満。近世の遺物(19C以前)少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
粒径1～10mmの大ロームブロックを2%，3～10mmの粗化物を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
3.10YR3/2黒褐色土 粒径1～7mmの大ローム粒を3%、3～10mmの黒褐色土(10YR3/1)ブロックを1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
4.10YR2/2黒褐色土 粒径1～7mmの大ローム粒を1%、3～30mmの大黒褐色土(10YR3/1)ブロックを15%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
5.10YR2/2黒褐色土 粒径1～20mmの大ロームブロックを5%、3～20mmの大黒褐色土(10YR3/1)ブロックを10%含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
6.10YR3/2黒褐色土 粒径1～10mmの大ロームブロックを2%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
7.10YR2/2黒褐色土 粒径1～10mmの大ロームブロックを1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
8.10YR2/2黒褐色土 粒径1～20mmの大ロームブロックを2%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
9.10YR3/1黒褐色土 粒径1～10mmの大ローム粒を3%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
10.10YR2/2黒褐色土 粒径1～5mmの大ローム粒を1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
11.10YR2/2黒褐色土 粒径1～2～15mmの大ロームブロックを2%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
12.10YR2/1黒褐色土 粒径1～10mmの大ローム粒を5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
13.10YR2/2黒褐色土 粒径1～3mmの大ローム粒を1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
14.10YR4/2灰黒褐色土 粒径2～5mmの大ローム粒を1%未満含む。締まり非常に強く、粘性弱い。
15.10YR4/2灰黒褐色土 粒径5～10mmの大ローム粒を1%未満含む。締まり非常に強く、粘性弱い。
16.10YR4/2灰黒褐色土 粒径5～10mmの大ローム粒を1%未満含む。締まり非常に強く、粘性弱い。
17.10YR4/2灰黒褐色土 粒径2～3mmの大ローム粒を1%未満含む。2～5mmの粗化物を2%含む。5～10mmの大粒分を少量含む。締まり非常に強く堅緻、粘性弱い。
18.10YR2/1黒褐色土 粒径1～2～5mmの大ローム粒を1%未満含む。締まり非常に強く、粘性弱い。
19.10YR4/2灰黒褐色土 粒径2～3mmの大ローム粒を1%未満含む。締まり非常に強く堅緻、粘性弱い。
20.10YR2/1黒褐色土 粒径1～2～15mmの大ロームブロックを5%含む。締まり非常に強く、粘性弱い。
21.10YR2/1黒褐色土 粒径1～3mmの大ローム粒を1%含む。締まり非常に強く、粘性弱い。
22.10YR5/2灰黒褐色土 粒径2～7mmの大ローム粒を25%含む。締まり強く、粘性弱い。
23.10YR3/2灰黒褐色土 粒径1～20mmの大ロームブロックを2%含む。締まり非常に強く堅緻、粘性弱い。
24.10YR4/2灰黒褐色土 粒径3～10mmの大ロームブロックを1%、5～10mmの大粒分を少量含む。締まり非常に強く堅緻、粘性弱い。
25.10YR4/2灰黒褐色土 粒径2～5mmの大ローム粒を3%、2～7mmの大粒分を少量含む。締まり非常に強く堅緻、粘性弱い。
- 3号道構 O-O' ピット
1.10YR4/2灰黒褐色土 粒径1～7mmの大ローム粒を7%，2～5mmの大粒分の凝集粒を2%、3～5mmの大粒分の小礫を少量含む。締まり極めて強く堅緻、粘性無し。
- 1・3号道構 P-P'
1.10YR3/1黒褐色土 粒径2～5mmの大ローム粒を1%未満、黒褐色土(10YR2/1)を2%含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。
2.10YR3/2黒褐色土 粒径3～30mmの大ロームブロックを7%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
3.10YR3/1黒褐色土 粒径1～30mmの大ロームブロックを10%、3～30mmの大黒褐色土(10YR3/2)の硬化ブロックを2%含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
4.10YR2/2黒褐色土 粒径2～7mmの大ローム粒を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
5.10YR3/1黒褐色土 粒径1～10mmの大ローム粒を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
6.10YR3/2黒褐色土 粒径2～30mmの大ロームブロックを3%，3～5mm長の粗化物を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
7.10YR3/1黒褐色土 粒径2～20mmの大ロームブロックを2%、黒褐色土(10YR4/1)を1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
8.10YR3/2黒褐色土 粒径1～3mmの大ローム粒を2%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
9.10YR3/1黒褐色土 粒径3～40mmの大ロームブロックを2%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
10.10YR3/2黒褐色土 粒径1～10mmの大ロームブロックを1%，3～30mmの大黒褐色土(10YR3/1)の硬化ブロックを2%，5～20mmの大黒褐色土(10YR2/1)の硬化ブロックを1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
11.10YR2/1黒褐色土 粒径2～5mmの大ローム粒を1%未満含む。5～20mmの大黒褐色土(10YR3/2)の硬化ブロックを1%含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
12.10YR2/2黒褐色土 粒径1～15mmの大ローム粒を1%未満含む。黒褐色土(10YR2/2)の硬化ブロックを30%以上含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
13.10YR2/2黒褐色土 粒径1～1mmの大ローム粒を1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
14.10YR4/2灰黒褐色土 粒径1～3mmの大ローム粒を1%，3～20mmの大黒褐色土(10YR3/1)ブロックを2%含む。締まり強く(13番より強く),粘性弱い。硬化面。
15.10YR2/2黒褐色土 粒径1～3mmの大ローム粒を2%，1～30mmの大黒褐色土(10YR3/1)ブロックを5%，1～5mmの大粒分の凝集粒を2%，2～5mmの大粒分を1%未満含む。締まり非常に強く堅緻、粘性弱い。硬化面。
16.10YR2/2黒褐色土 粒径1～5mmの大ローム粒を1%未満含む。締まり強く、粘性やや弱い。硬化面。
17.10YR3/2黒褐色土 粒径1～2mmの大ローム粒を1%未満、2～5mmの大粒分を少量含む。締まり強く、粘性やや弱い。砂粒多い。硬化面。
18.10YR4/2灰黒褐色土 粒径1～2mmの大粒分の凝集粒を1%，3～5mmの大粒分の小礫を1%未満含む。締まり非常に強く、粘性弱い。硬化面。
19.10YR3/2黒褐色土 粒径1～3mmの大ローム粒を1%，2～5mmの大粒分の凝集粒を1%，2～5mmの大粒分を1%未満含む。締まり非常に強く、粘性弱い。



第86図 R1-2区 近世の遺構（1）（1/40）



4号,5号,6号遺構 A-A'

1.10YR3/1黒褐色土 粒径2~30mm大的ロームブロックを30%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

2.10YR3/1黒褐色土 粒径1~20mm大的ロームブロックを15%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

3.10YR4/3にぶつ青褐色土 ローム土様で、土壌構造悪く、締まりやや弱い。

4.10YR4/2にぶつ青褐色土 粒径2~30mm大的ロームブロックを25%含む。締まり弱く崩れやすい。

5.10YR4/2にぶつ青褐色土 粒径2~20mm大的ロームブロックを25%含む。締まりやや弱い。

6.10YR3/2黒褐色土 粒径2~10mm大的ロームブロック15%, 2~10mm大的炭化物1%を含む。締まり弱く崩れやすい。粘性弱い。

6号遺構 F-F'

1.10YRA/2K黄褐色土 粒径1~3mm大的ローム粉を1%, 1~5mm大的粉分の凝集粒を1%, 3~10mm大的小礫含む。締まり極めて強い。粘性やや弱い。

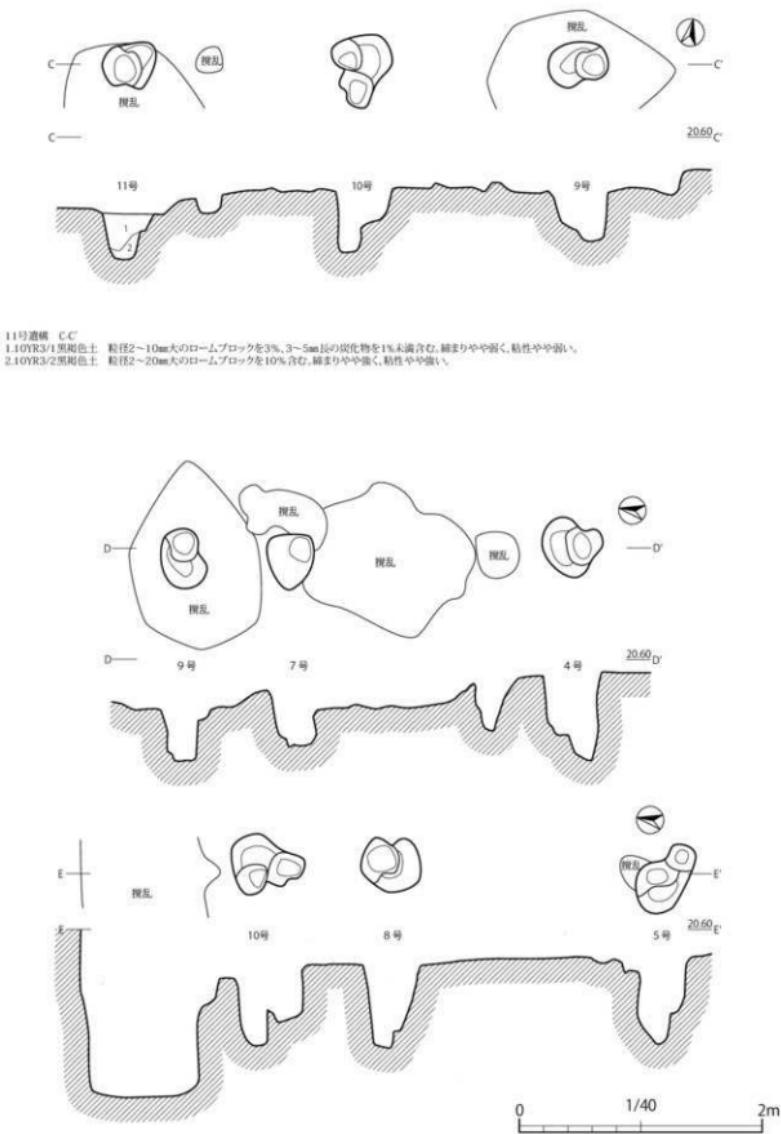
7号,8号遺構 B-B'

1.10YRA/2K黄褐色土 粒径2~10mm大的ロームブロック5%を含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

2.10YR3/1黒褐色土 粒径1~5mm大的ローム粉を1%, 3~5mm長の炭化物を1%を含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

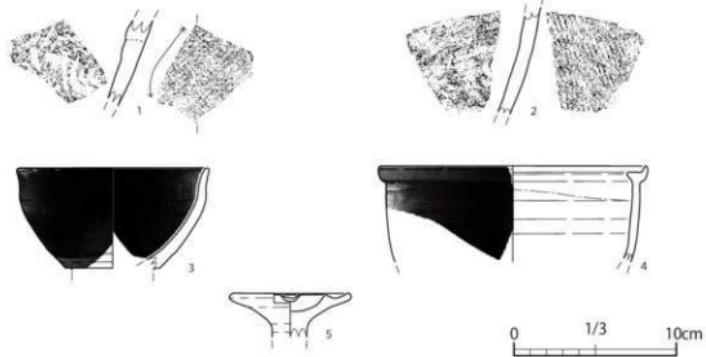
3.10YR3/1黒褐色土 粒径1~15mm大的ロームブロックを3%, 2mm以上の礫土粉を1%未満, 5mm長の炭化物を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

第87図 R1-2区 近世の遺構（2）(1/40)

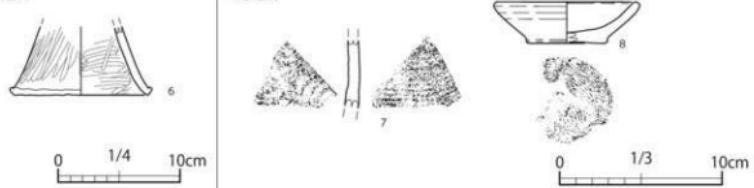


第88図 R1-2区 近世の遺構（3）(1/40)

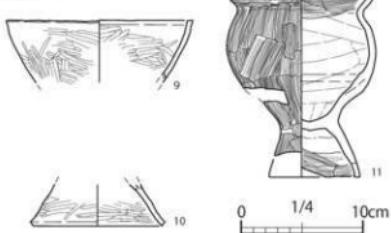
1号遺構



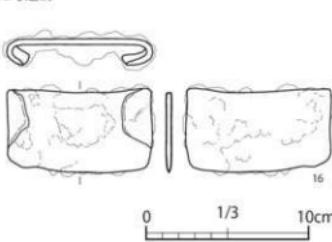
3号遺構



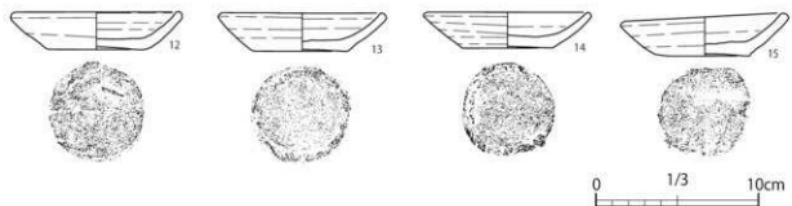
23号遺構



32号遺構

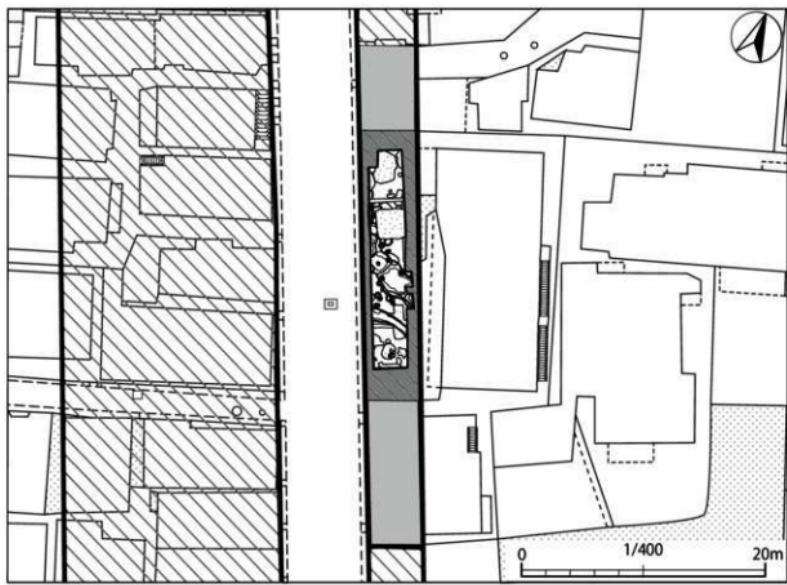


30号遺構

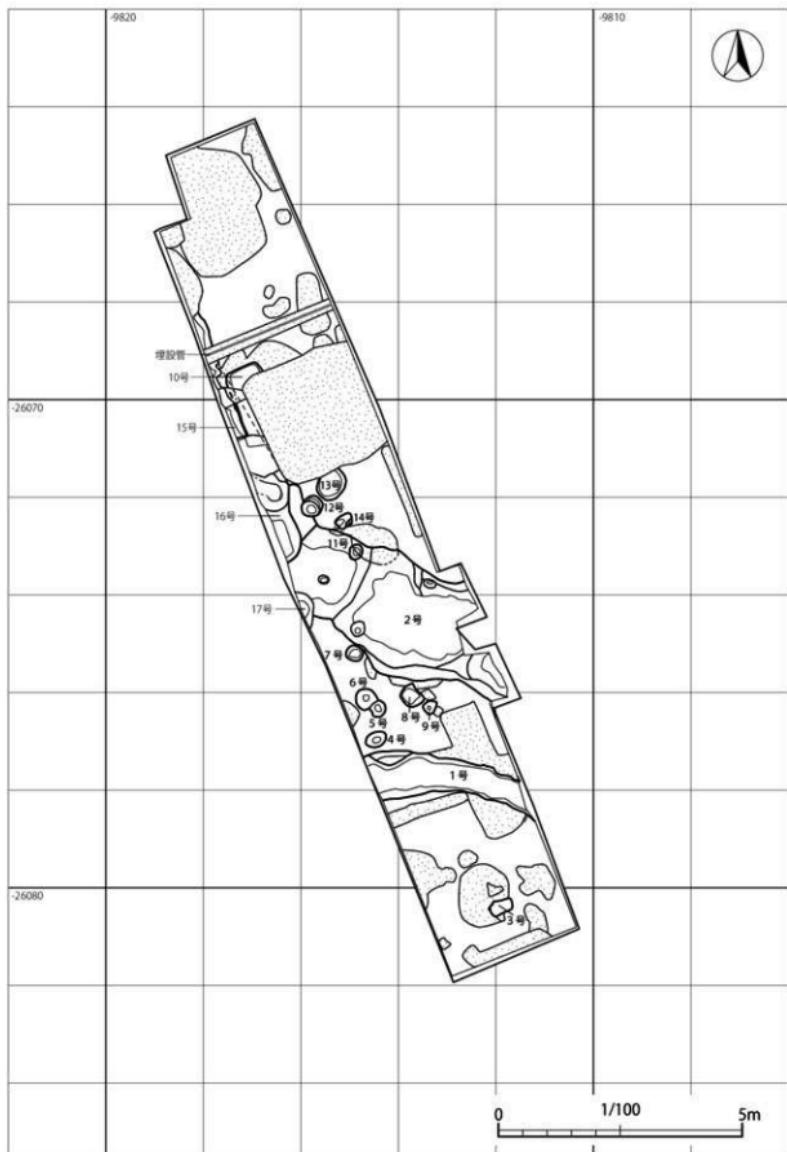


第89図 R1-2区 出土遺物 (1/3・1/4)

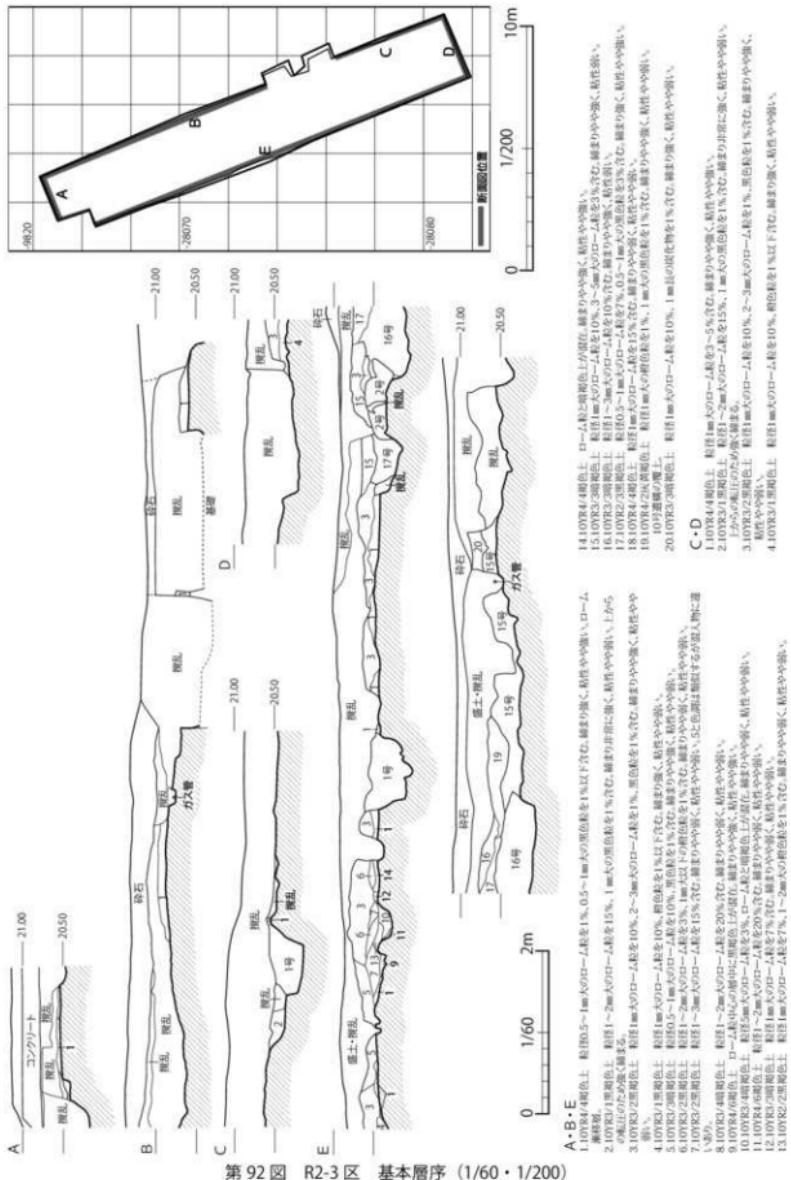
R2-3 区



第 90 図 R2-3 区 調査区位置 (1/400)



第 91 図 R2-3 区 遺構全体図 (1/100)



第92図 R2-3区 基本層序 (1/60・1/200)

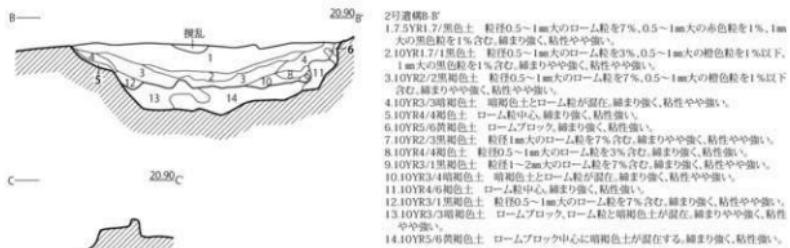
1号遺構



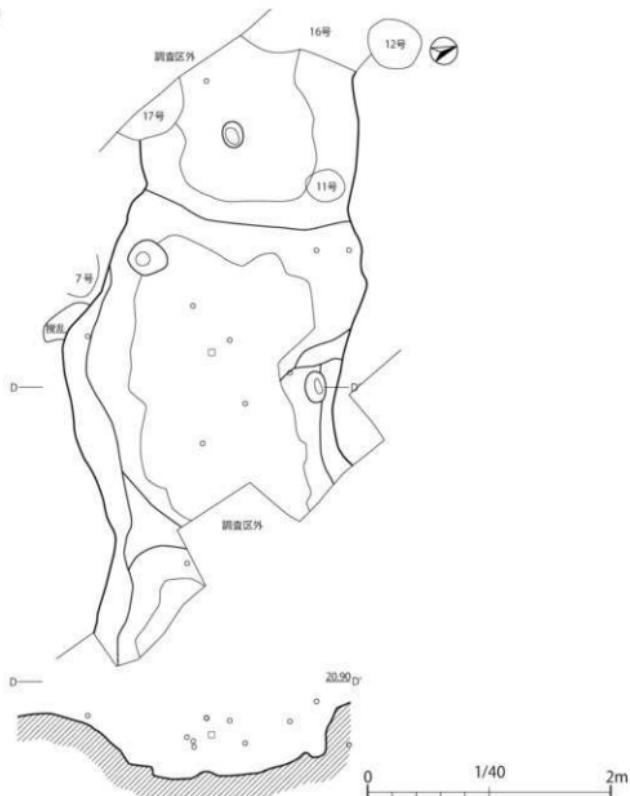
2号遺構



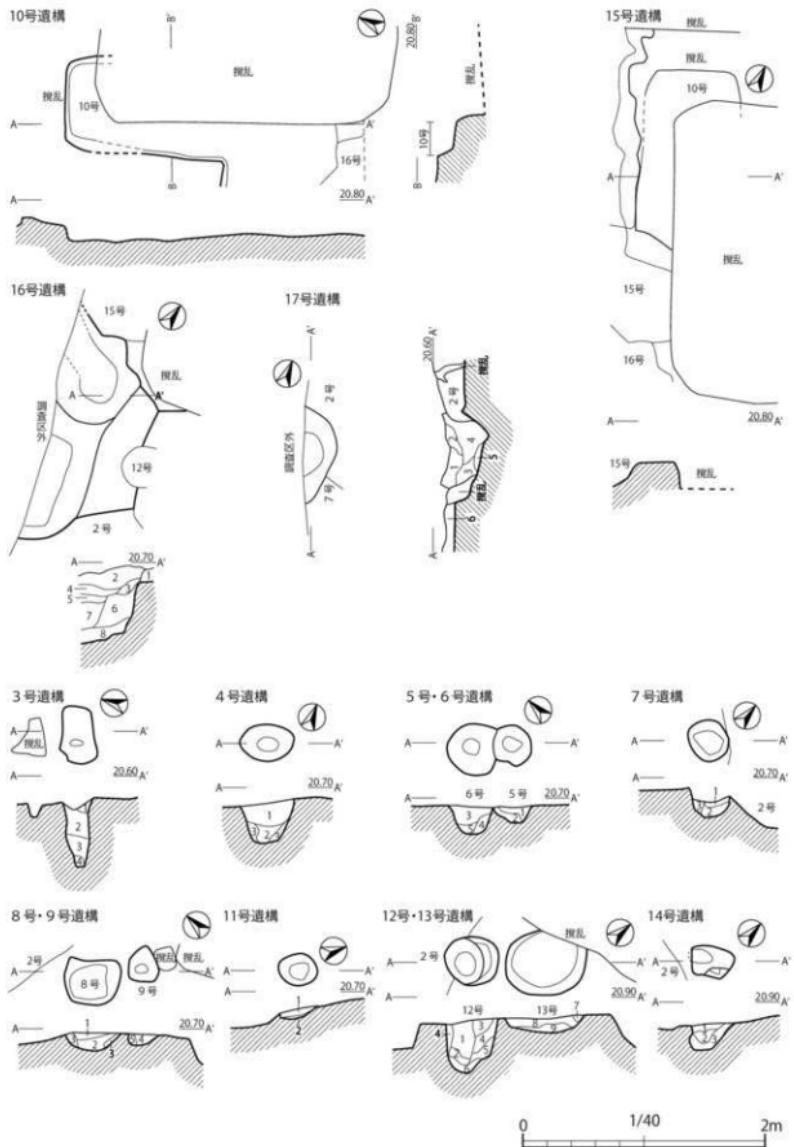
第93図 R2-3区 弥生時代の遺構（1）(1/40)



2号遺構 遺物出土分布



第94図 R2-3区 弥生時代の遺構（2）(1/40)



第95図 R2-3区 近世の遺構 (1/40)

16号遺構

- 1.10YR4/4褐色土 粒径0.5~1mmの大ローム粒を1%以下含む。締まり強く、粘性やや弱い。ローム層移接。
 2.10YR2/3黒褐色土 粒径0.5~1mmの大ローム粒を7%、0.5~1mmの大黒色粒を3%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 3.10YR3/3黒褐色土 粒径0.5~1mmの大ローム粒を10%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 4.10YR4/4褐色土 粒径2~5mmの大ローム粒を15%含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
 5.10YR3/3黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を10%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 6.10YR2/2黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を7%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 7.10YR3/3黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を10%含む。締まりやや弱い、粘性やや弱い。
 8.10YR4/4褐色土 黑褐色土とローム粒が混在。

17号遺構

- 1.10YR4/6黄褐色土 粒径1mmの大黒色粒を1%含む。締まり強く、粘性やや強い。
 2.10YR4/4褐色土 粒径1mmの大黒色粒を1%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 3.10YR3/3黒褐色土 粒径1mmの大ローム粒を3%、1mmの大黒色粒を1%含む。締まり強く、粘性やや弱い。
 4.10YR3/4黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を5%、1mmの大黒色粒を1%含む。締まり強く、粘性やや弱い。
 5.10YR4/6褐色土 粒径1mmの大ローム粒を3%含む。締まり強く、粘性やや弱い。
 6.10YR4/4褐色土 粒径0.5~1mmの大ローム粒を1%、0.5~1mmの大黒色粒を1%以下含む。締まり強く、粘性やや弱い。ローム層移接。

3号遺構A-A'線

- 1.10YR3/2黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を12%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 2.10YR2/2黒褐色土 粒径1~4mmの大ローム粒を7%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 3.10YR3/3黒褐色土 粒径3~10mmのかなり多量のローム粒と黒色土が混在。締まり弱く、粘性やや弱い。
 4.10YR4/4褐色土 ローム層。

4号遺構A-A'線

- 1.10YR3/3黒褐色土 粒径1mmの大ローム粒を3%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 2.10YR2/2黒褐色土 粒径1mmの大ローム粒を3%含む。締まり弱く、粘性弱い。
 3.10YR4/4褐色土 ローム層中心。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

4号遺構

- 1.10YR3/3黒褐色土 粒径1mmの大ローム粒を3%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 2.10YR2/3黒褐色土 粒径1mmの大ローム粒を3%含む。締まり弱く、粘性弱い。
 3.10YR4/4褐色土 ローム層中心。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

5号・6号遺構

- 1.10YR3/1黒褐色土 粒径1mmの大ローム粒を3%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 2.10YR2/2黒褐色土 粒径1mmの大ローム粒を3~5%含む。締まり弱く、粘性やや弱い。
 3.10YR3/3黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を7%、1mmの大黒色粒を1%含む。締まり強く、粘性やや弱い。
 4.10YR2/1黒褐色土 粒径1mmの大ローム粒を3%含む。締まり弱く、粘性やや弱い。
 5.10YR2/2黒褐色土 粒径1mmの大ローム粒を3~5%含む。締まり強く、粘性強い。

7号遺構

- 1.10YR2/1黒色土 粒径1mmの大ローム粒を10%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 2.10YR2/1/1黒色土 粒径1mmの大ローム粒を7%、2mmの大ローム粒を1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 3.10YR3/3黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を15%、1mmの炭化物を1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

8号・9号遺構

- 1.10YR2/1黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を10%含む。締まり非常に強く、粘性やや弱い。
 2.10YR2/2黒褐色土 ローム粒と黒褐色土が混在。締まり強く、粘性やや弱い。
 3.10YR4/6褐色土 ローム層で構成される。締まり強く、粘性やや弱い。
 4.10YR3/4黒褐色土 ローム粒と黒褐色土が混在。締まり強く、粘性やや弱い。
 5.10YR3/3黒褐色土 ローム粒と黒褐色土が混在。締まり強く、粘性やや弱い。4より明るい。

11号遺構

- 1.10YR1/7/1黒色土 粒径0.5~1mmの大ローム粒を1%、1mmの大黒色粒を1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 2.10YR3/4暗褐色土 粒径1mmの大ローム粒を3%含む。締まり強く、粘性強い。

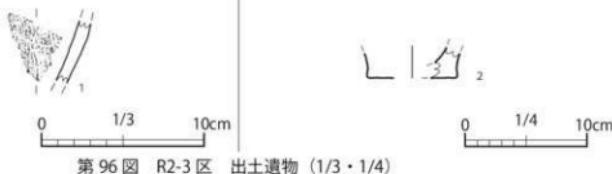
12号・13号遺構

- 1.10YR2/1黒褐色土 粒径2~3mmの大ローム粒を7%、3~4mmの大炭化物を1%以下含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 2.10YR3/2黒褐色土 粒径1mmの大ローム粒を10%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 3.10YR3/3黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を10%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 4.10YR2/1/1黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を10%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 5.10YR1/7/1黒色土 粒径1mmの大ローム粒を10%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 6.10YR2/2黒褐色土 粒径1mmの大ローム粒を7%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 7.10YR4/4褐色土 ローム層の堆積土層。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 8.10YR3/1黒褐色土 粒径1mmの大ローム粒を5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 9.10YR3/2黒褐色土 粒径1mmの大ローム粒を3%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

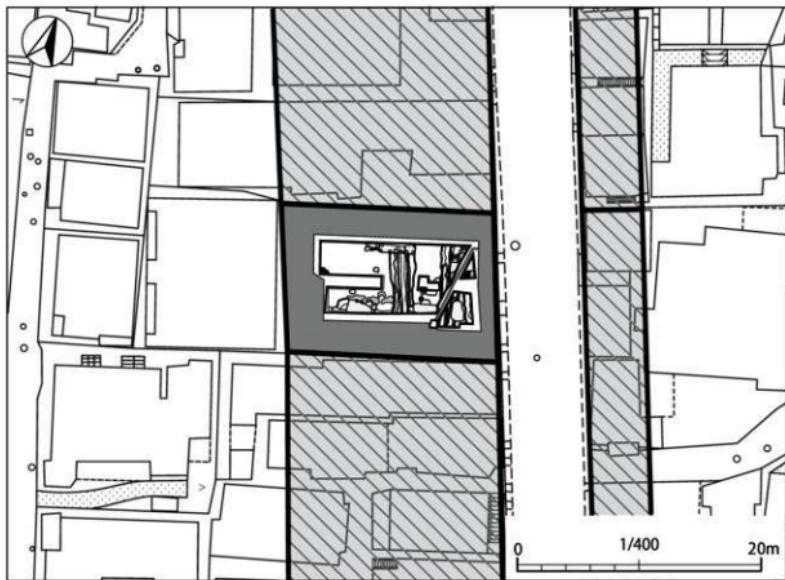
14号遺構

- 1.10YR3/1黒褐色土 粒径1mmの大ローム粒を3%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 2.10YR3/3黒褐色土 粒径1mmの大ローム粒を3%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 3.10YR4/4褐色土 粒径1mmの大ローム粒を1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

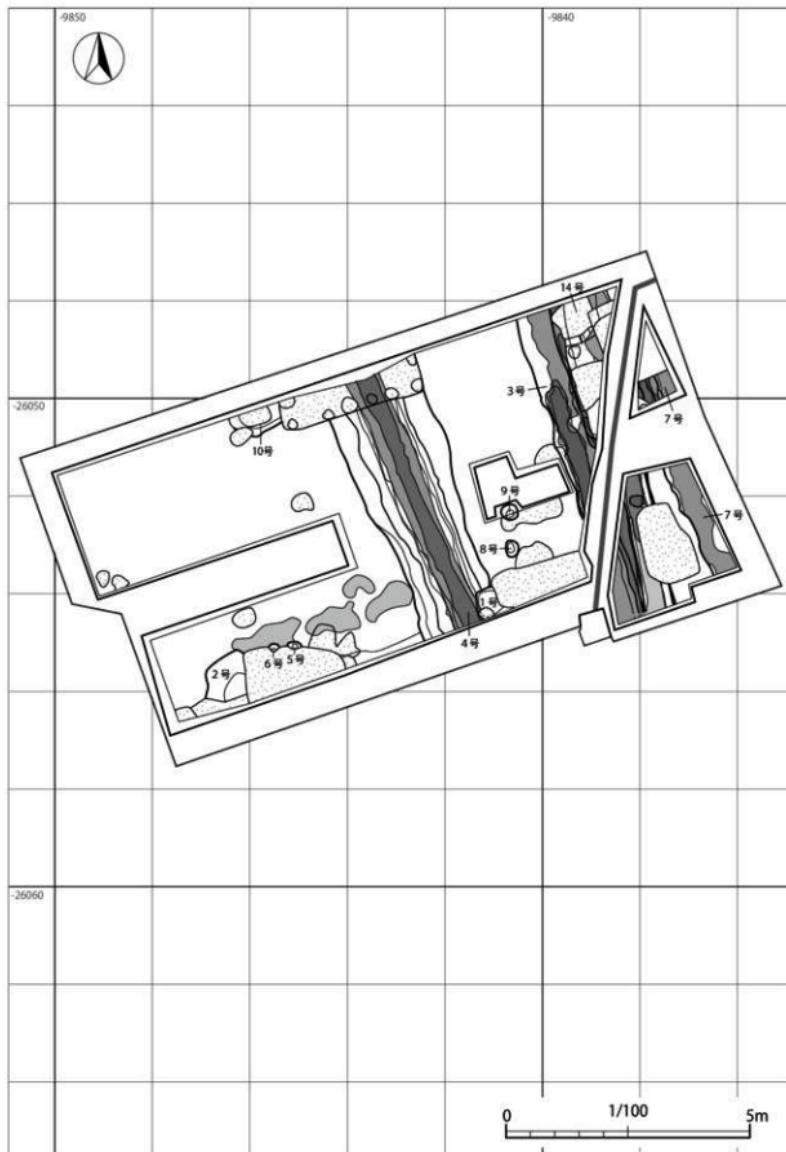
2号遺構



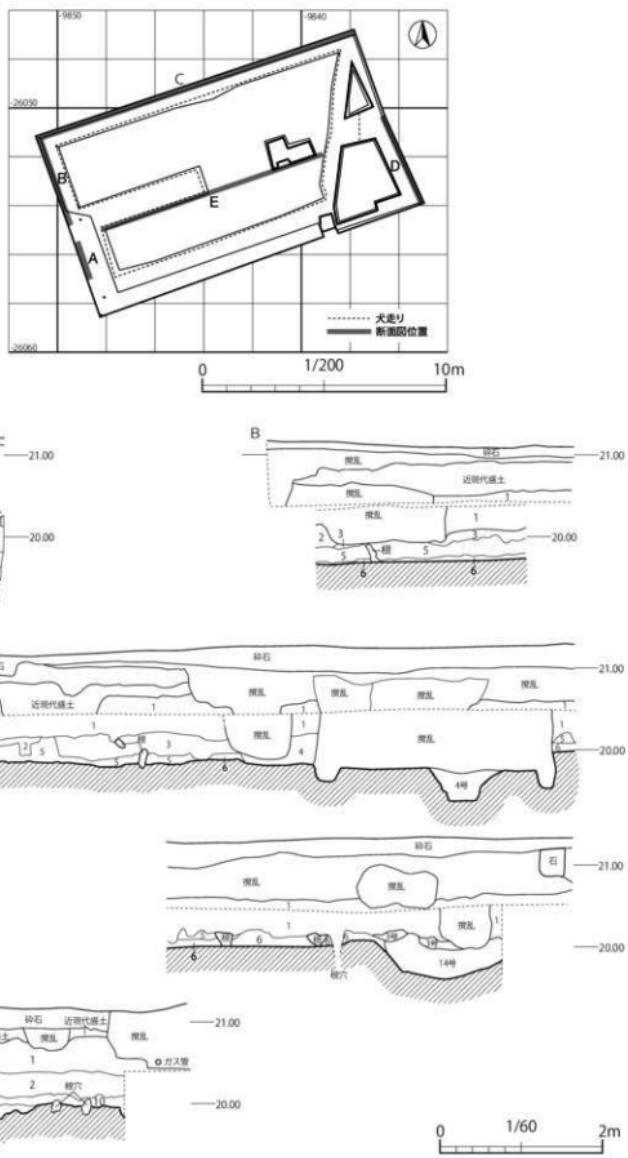
20-10・11・14・15 区



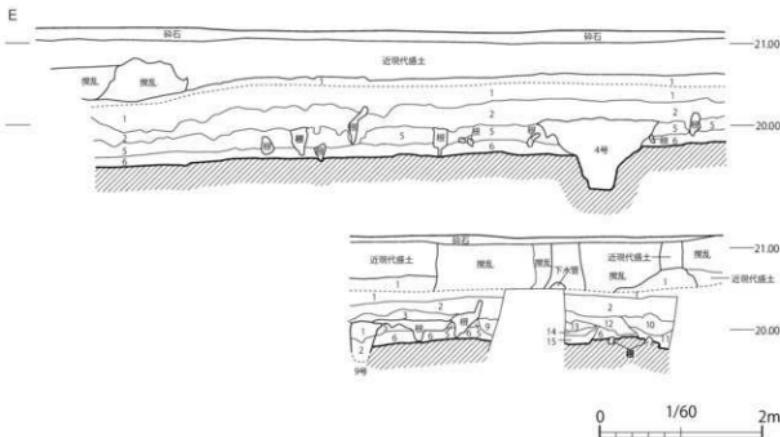
第97図 20-10・11・14・15 区 調査区位置 (1/400)



第 98 図 20-10・11・14・15 区 遺構全体図 (1/100)

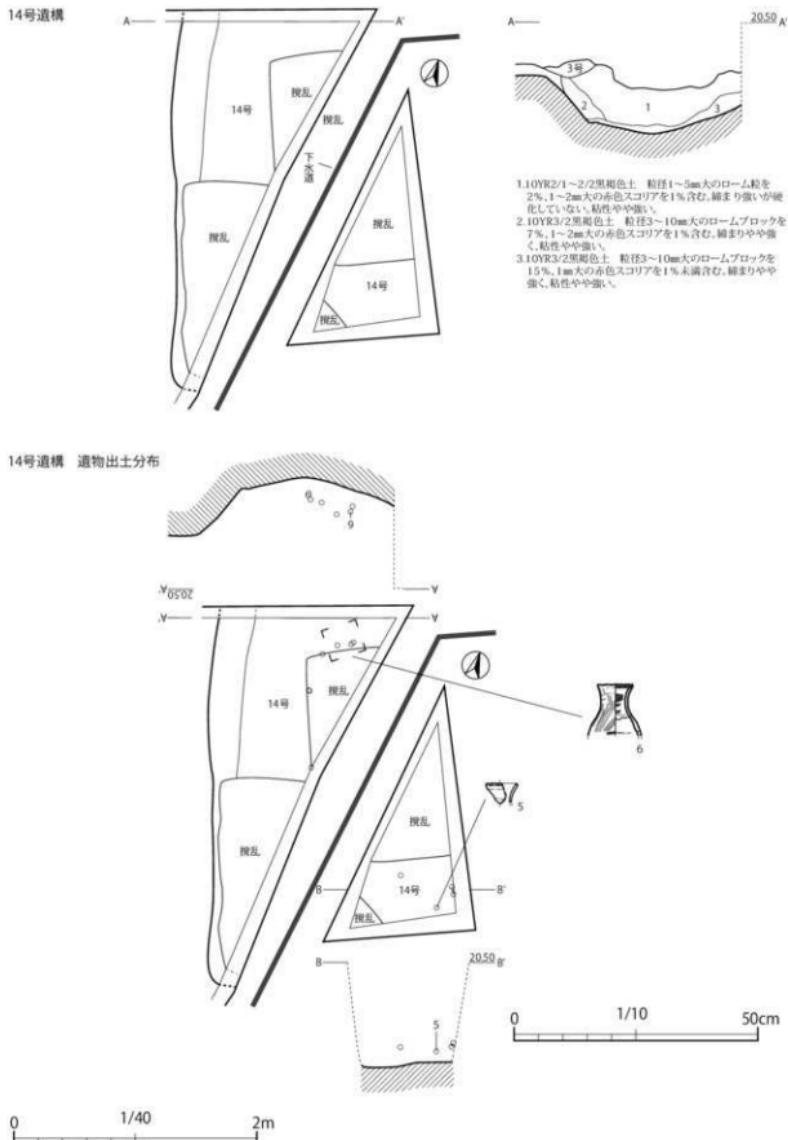


第99図 20-10・11・14・15区 基本層序 (1) (1/60・1/200)

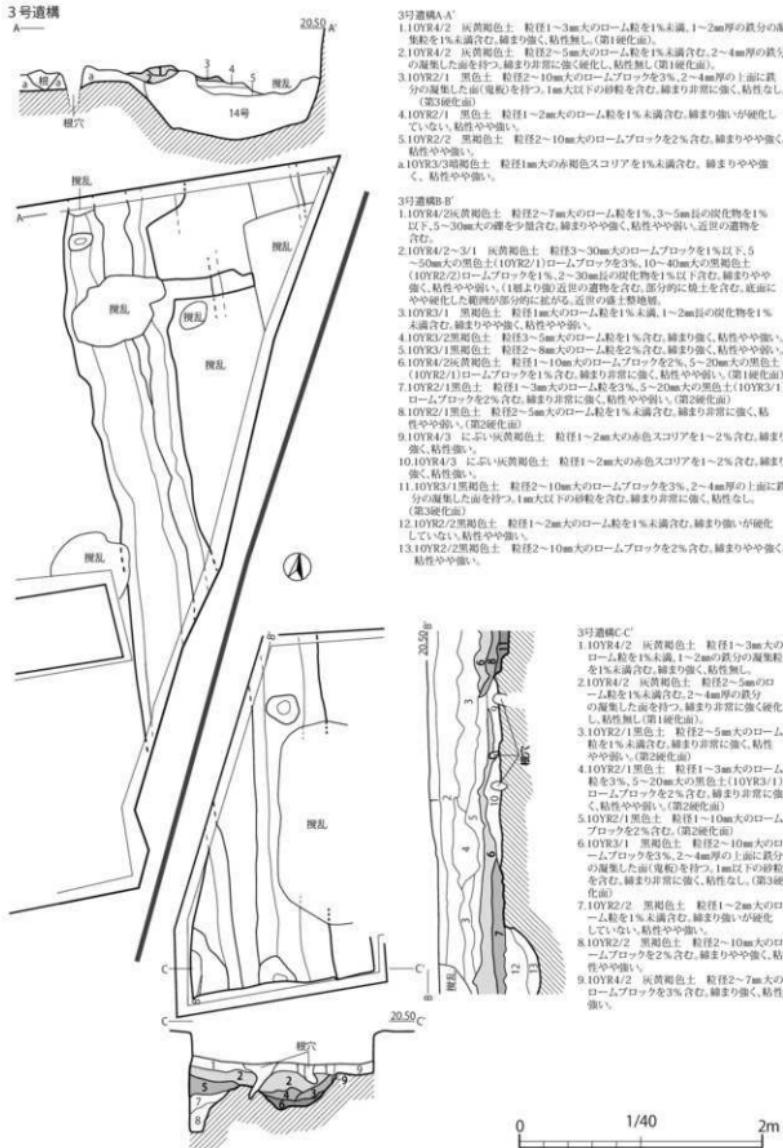


- A・B・C・D・E
- 1.I0YR4/1褐色土。粒径3~5mmの大ローム粒1%、2~3mmの大礫粒1%未満、3~10mm長の炭化物1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 - 2.I0YR3/1黒褐色土。粒径2~15mmの大ロームブロック1%未満、2~5mm長の炭化物1%未満含む。
 - 3.I0YR2/1 黒色土。粒径3~30mmの大4層暗褐色土ブロック5%、1mmの大赤褐色スコリアを1%未満含む。締まり強く、粘性やや強い。
 - 4.I0YR2/1 黒色土。粒径1~10mmの大ロームブロック2%、2~20mmの暗褐色土ブロック2%、1mmの大赤褐色スコリアを1%未満含む。締まり強く、粘性やや強い。
 - 5.I0YR3/3暗褐色土。粒径1mmの大赤褐色スコリアを1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 - 6.I0YR3/2 黒色土。粒径2~15mmの大ロームブロックを1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 - 7.I0YR3/1黒褐色土。粒径2~15mmの大ロームブロックを1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 - 8.I0YR2/1黒褐色土。粒径5~20mmの大ロームブロックを2%、2~15mmの大暗褐色土ブロックを3%含む。締まり弱く、粘性やや弱い。
 - 9.I0YR2/1黒色土。粒径1~2mmの大ローム粒を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 - 10.I0YR3/1~3/2黒褐色土。粒径2~8mmの大ローム粒を1%、3~10mm長の炭化物、3~20mm大(I0YR2/1)の硬化ブロックを2%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 - 11.I0YR2/1 黑色土。ロームブロック粒径3~10mmの大ロームブロックを2%，3~20mm大の黒色土(I0YR2/1)の硬化ブロックを3%含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
 - 12.3号遺構B-B' と同一層
 - 13.3号遺構B-B' 6と同一層
 - 14.3号遺構B-B' 8と同一層
 - 15.3号遺構B-B' 1と同一層

第100図 20-10・11・14・15区 基本層序(2)(1/60)

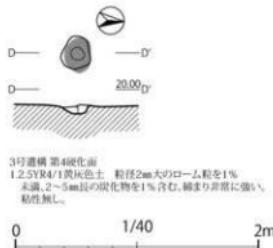
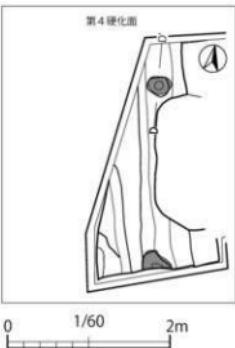
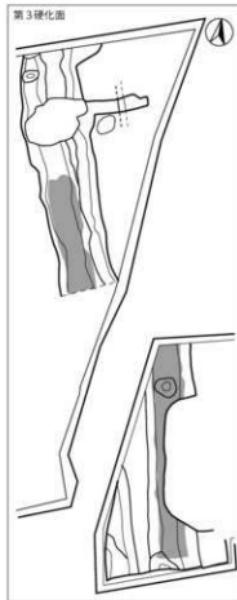
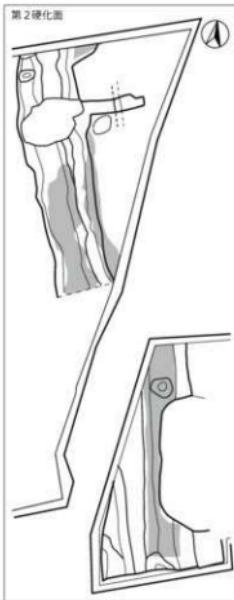
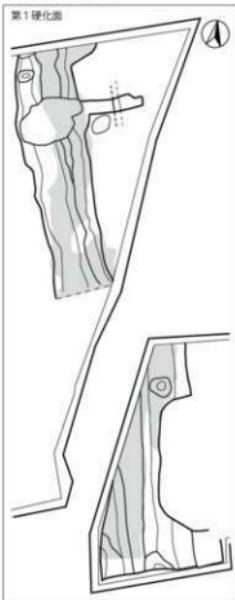


第 101 図 20-10・11・14・15 区 弥生時代の遺構 (1/40)



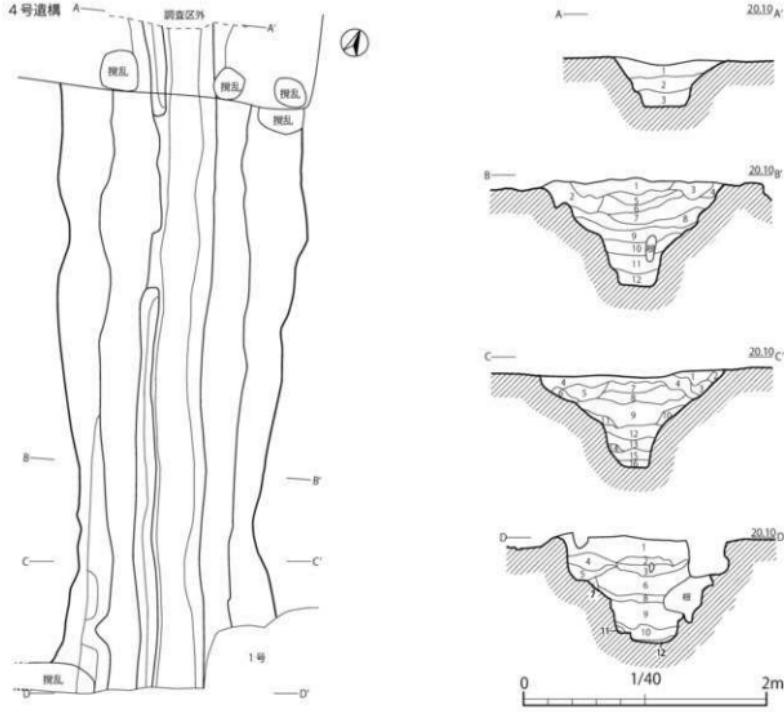
第102図 20-10・11・14・15区 中世の遺構 (1) (1/40)

3号遺構 硬化面



3号遺構 第4硬化面
1.2.5YR4/1黄灰色土、粒径2mm以上のローム粒を1%
4.薄、2~3mm長の炭化物を1%含む。緻密性非常に強い。
粘性無。

第103図 20-10・11・14・15区 中世の遺構（2）(1/40・1/60)



4号遺構 A-A'
1.10YR4/1 灰黃褐色土。粒径2~20mmの大ロームブロックを10%、黒褐色土(10YR2/1)を5%含む。締まり強く、粘性やや強い。

2.10YR4/2-4/3 灰黃褐色土。粒径5~40mmの大ロームブロックを5%含む。締まりやや強く、粘性やや強い。

3.10YR3/2 黒褐色土。粒径1~3mmの大ロームブロックを5%含む。締まりやや強く、粘性やや強い。

4.10YR4/4 黑褐色土。粒径2~3mmの大ロームブロックを10%含む。締まりやや強く、粘性やや強い。

5.10YR2/1 黑褐色土。粒径1~3mmの大ロームブロックを1%未満含む。締まり非常に強く、粘性やや強い。(第1硬化面上層) 中段の遺物含む層。

6.10YR3/1 黑褐色土。粒径1~3mmの大ロームブロックを2%、2~3mmの大黒色土(10YR2/1)ロームブロックを1%含む。締まり非常に強く。(7層より弱く、9層より強い)

粘性やや強く、中段の遺物含む層。(第1硬化面下層)。

7.10YR3/2 黑褐色土。粒径1~10mmの大ロームブロックを1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや強い。

8.10YR3/1 黑褐色土。10YR2/2を3%含む。締まりやや強く、粘性やや強い。

9.10YR3/1 黑褐色土。粒径2~5mmの大ロームブロックを1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや強い。(第2硬化面)

10.10YR3/1 黑褐色土。粒径2~15mmの大ロームブロックを1%未満含む。黒褐色土(10YR2/1)ブロックを1%未満含む。締まり強く、粘性強い。(第3硬化面)

11.10YR2/2 黑褐色土。粒径5~50mmの大ロームブロックを20%含む。締まり強く、粘性やや強い。

12.10YR3/2 黑褐色土。粒径2~15mmの大ロームブロックを15%含む。締まり強く、粘性強い。

4号遺構 C-C'

1.10YR3/2 黑褐色土。粒径1~3mmの大黒色土(10YR2/1)、ローム粒を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。

2.10YR3/2 黑褐色土。粒径2~7mmの大ローム粒を3%含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。

3.10YR3/2 黑褐色土。粒径2~3mmの大ローム粒を1%含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。

4.10YR3/1 黑褐色土。粒径1~3mmの大ローム粒を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。

5.10YR3/2 黑褐色土。粒径2~15mmの大ローム粒を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。

6.10YR3/2 黑褐色土。粒径2~50mmの大ローム粒を20%含む。締まり強く、粘性やや強い。

7.10YR3/1 黑褐色土。粒径1~3mmの大ローム粒を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。(第1硬化面上層) 中段の遺物含む層。

8.10YR3/2 黑褐色土。粒径1~3mmの大ローム粒を2%、2~3mmの大黒色土(10YR2/1)を1%未満含む。締まり非常に強く。(7層より弱く、9層より強い) 粘性やや強い。中段の遺物含む層。(第1硬化面下層)。

9.10YR3/2 黑褐色土。粒径1~10mmの大ロームブロックを1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや強い。

10.10YR3/2 黑褐色土。粒径1~7mmの大ローム粒を3%含む。締まりやや弱く、粘性強い。

11.10YR3/2 黑褐色土。粒径1~5mmの大ローム粒を2%含む。締まりやや弱く、粘性強い。

12.10YR3/2 黑褐色土。粒径1~3mmの大ローム粒を7%、2mの大黒色土ブロック(10YR2/1)を1%未満含む。締まり強く、粘性やや強い。(第2硬化面)

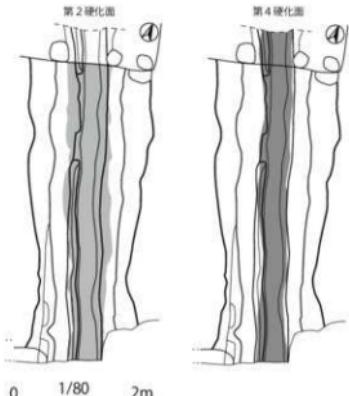
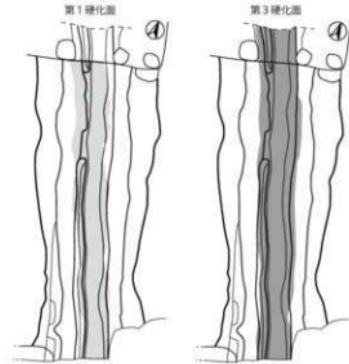
第104図 20-10・11・14・15区 中世の遺構(3) (1/40)

- 13.10YR3/1 黒褐色土 粒径2~15mmの大ロームブロックを5%、2mmの大黒色土(10YR2/1)ブロックを1%未満含む。締まり強く、粘性強い。(第3硬化面)
 14.10YK3/1 黒褐色土 粒径5~30mmの大ロームブロックを5%、締まりやや弱く、粘性弱い。粗穴が。
 15.10YR2/2 黒褐色土 粒径5~50mmの大ロームブロックを20%含む。締まり強く、粘性やや強い。(第4硬化面)
 16.10YR2/2 黒褐色土 粒径2~15mmの大ロームブロックを15%含む。締まり強く、粘性強い。

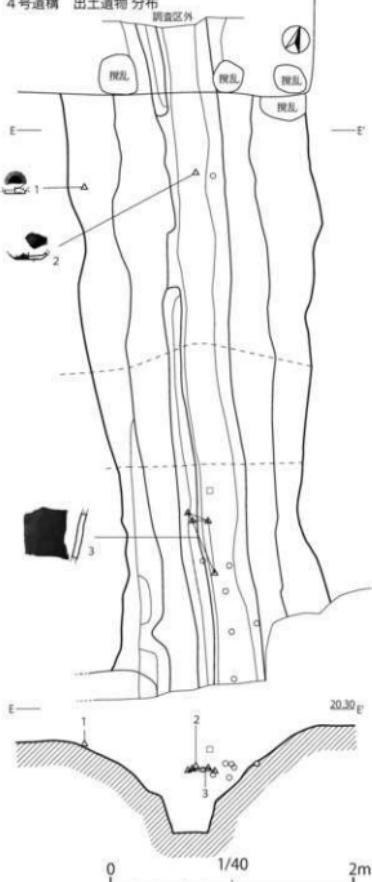
4号遺構 ④

- 1.10YR2/1 黒褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを5%、1mm未満の赤褐色スコリアを1%未満含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
 2.10YR3/1 黑褐色土 粒径2~3mmの大ロームブロックを1%、2mmの大黒色土の凝集粒を1%含む。締まり非常に強く、粘性弱い。
 3.10YR3/2 黑褐色土 粒径2~3mmの大ロームブロックを1%含む。締まり非常に強く(2倍より強い)、粘性弱い。
 4.10YR2/2 黑褐色土 粒径1mm未満の赤褐色スコリアを1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 5.10YR2/2 黑褐色土 粒径1mm未満の赤褐色スコリアを1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 6.10YR3/2 黑褐色土 粒径1~2mmの大ロームブロックを1%、暗褐色土(10YR3/3)を5%含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
 7.10YR4/3 にぶく黄褐色土 粒径1~3mmの大ロームブロックを1%未満、2mmの大黒色土の凝集粒を1%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 8.10YR3/2 黑褐色土 粒径1~5mmの大ロームブロックを1%未満、1mm未満の赤褐色スコリアを含む。締まり強く、粘性やや弱い。
 9.10YR3/2 黑褐色土 粒径1~2mmの大ロームブロックを5%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 10.10YR2/3 黑褐色土 粒径1~30mmの大ロームブロックを5%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 11.10YR4/3 にぶく黄褐色土 ロームブロック主体。黒色土(10YR2/1)を20%を含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 12.10YR4/2 にぶく黄褐色土 粒径1~20mmの大ロームブロックを20%含む。締まり強く、粘性やや弱い。

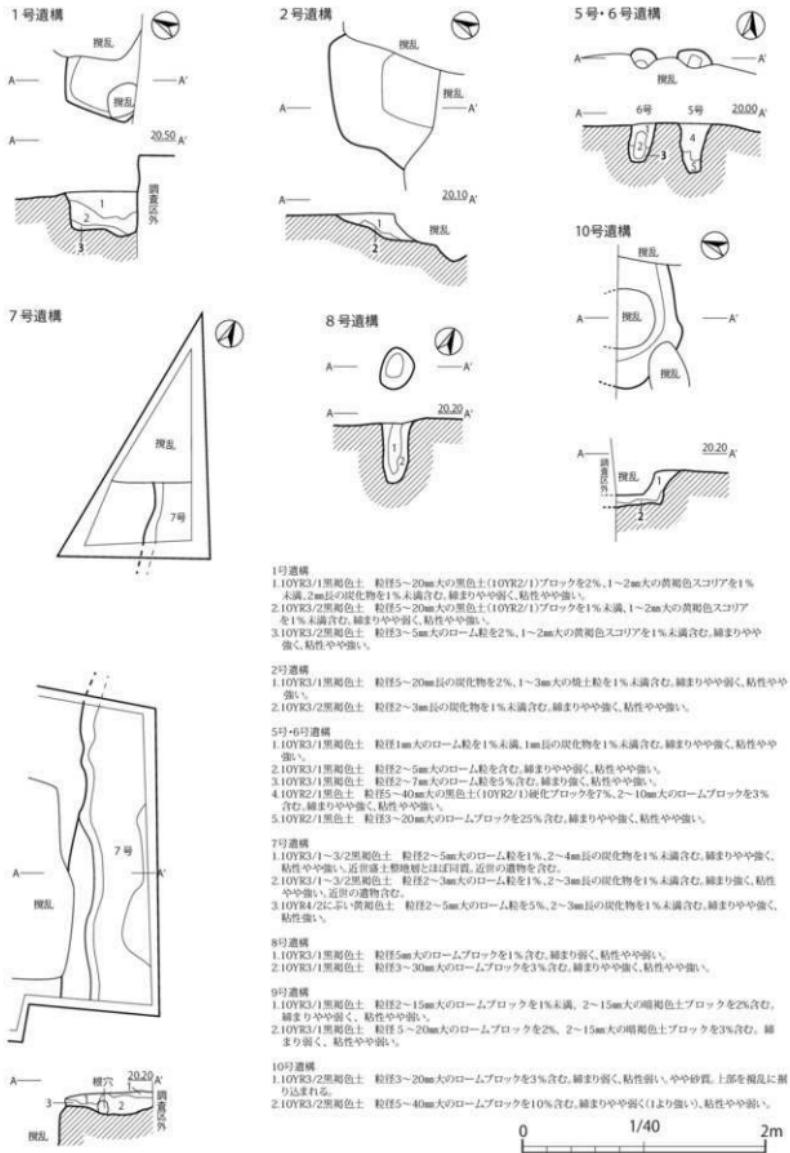
4号遺構 硬化面



4号遺構 出土遺物 分布



第105図 20-10・11・14・15区 中世の遺構 (4) (1/80・1/40)



第106図 20-10・11・14・15区 近世の遺構 (1/40)

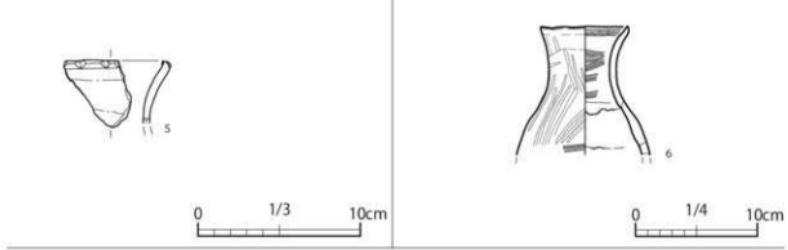
4号遺構



7号遺構



14号遺構

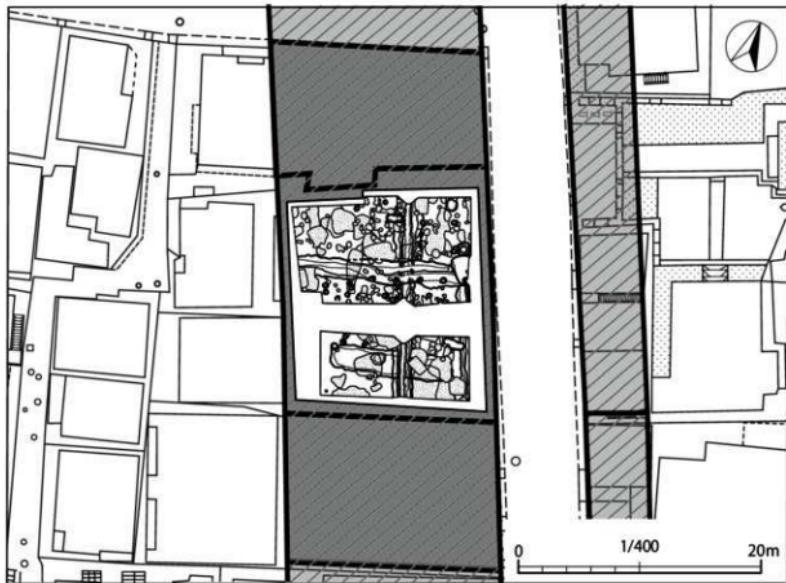


近世以降の盛土層

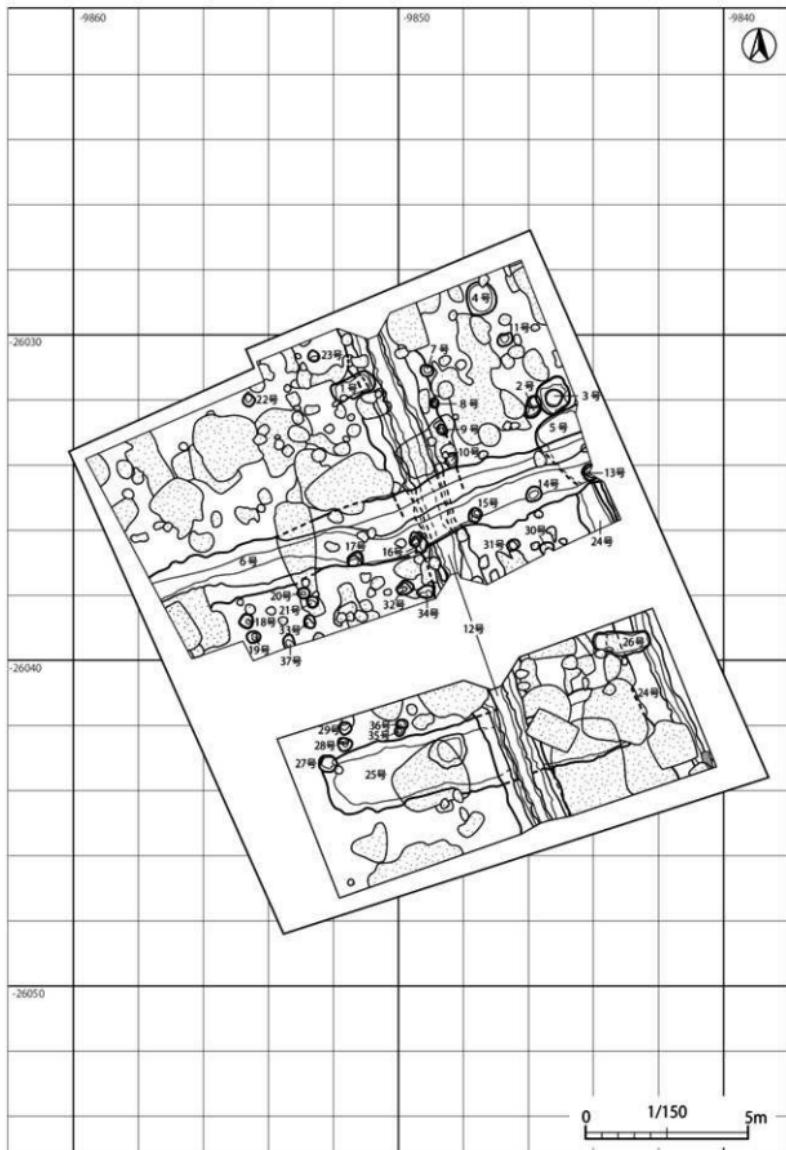


第107図 20-10・11・14・15区 出土遺物 (1/3・1/4)

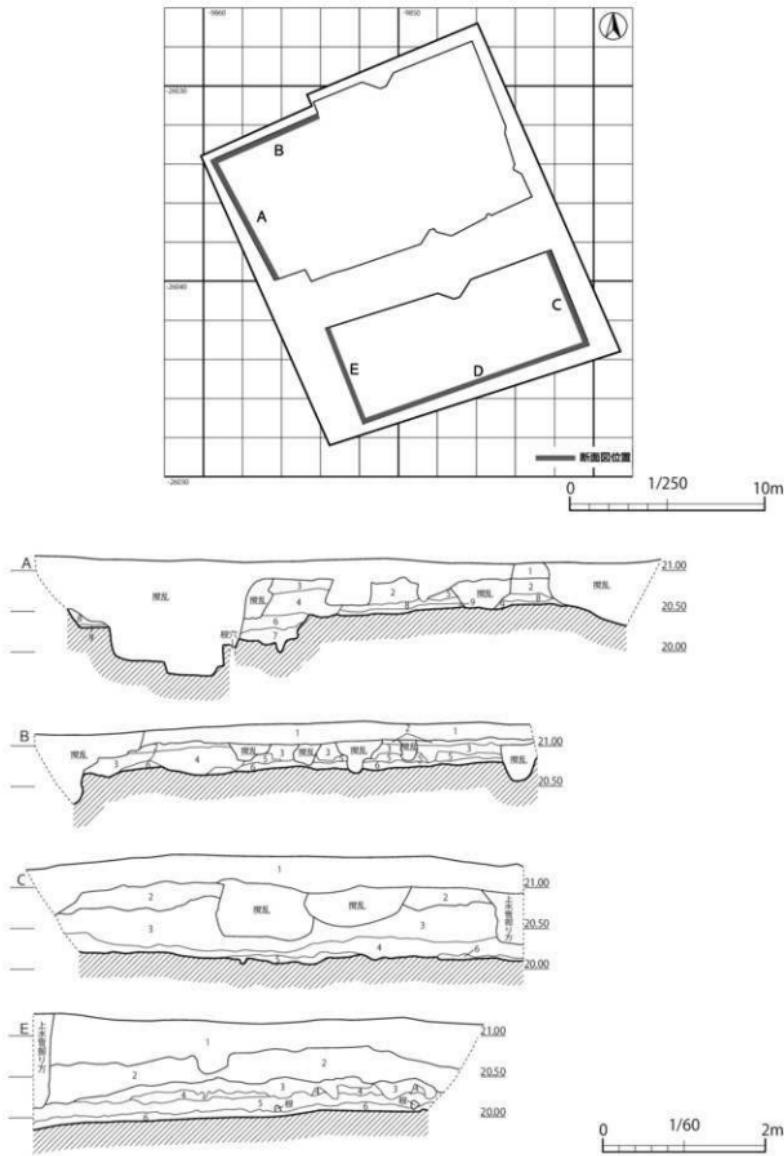
20-3～5・8 区



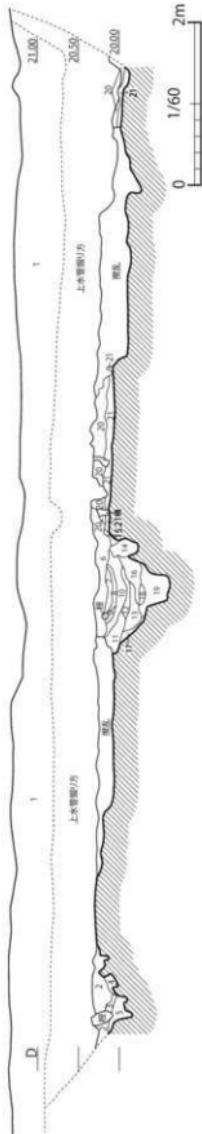
第 108 図 20-3～5・8 区 調査区位置 (1/400)



第 109 図 20-3 ~ 5・8 区 遺構全体図 (1/150)



第 110 図 20-3 ~ 5・8 区 基本層序 (1) (1/60・1/250)



第111図 20-3~5・8区 基本層序(2) (1/60)

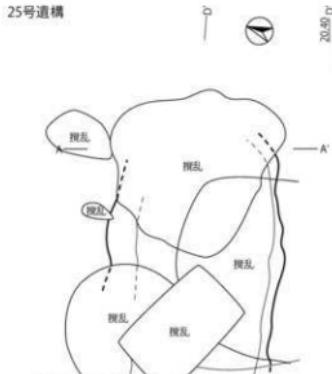
基本層序 (2) (1/60)

12. 10YR 4/8-4/10 地面色 地面色 地面色 地面色 地面色 地面色 地面色 地面色 地面色
13. 10YR 4/8-4/10 地面色 地面色 地面色 地面色 地面色 地面色 地面色 地面色 地面色
14. 10YR 4/8-4/10 地面色 地面色 地面色 地面色 地面色 地面色 地面色 地面色 地面色
15. 10YR 4/8-4/10 地面色 地面色 地面色 地面色 地面色 地面色 地面色 地面色 地面色
16. 10YR 4/8-4/10 地面色 地面色 地面色 地面色 地面色 地面色 地面色 地面色 地面色

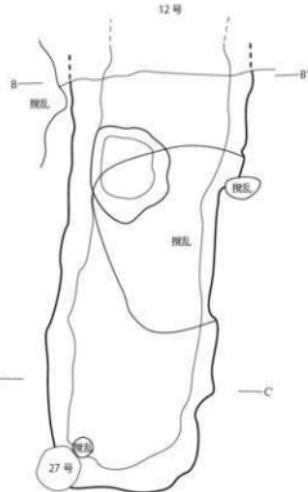
(1/60)

107/41 黄色地、黒色斑
黒斑-5-15mmのヨロコブテを1%添加。レンガ・ガラス等で作られ、解かりやかで、軽やか。
107/31 黄色地、黒色斑
黒斑-2-10mmのヨロコブテを3%、3-10mmの斑状物を1%未満添加。解かりやかで、
13.3.107/31-47 黄色地、黒色斑
ヨロコブテを3%、3-20mmの黒色斑を1%未満添加。解かりやかで、
14.107/31 黄色地、黒色斑
ヨロコブテを3%、3-20mmの黒色斑を1%未満添加。解かりやかで、
15.3.107/31 黄色地、黒色斑
ヨロコブテを3%、3-30mmの黒色斑を1%未満添加。解かりやかで、
107/41 黄色地、黒色斑
黒斑-5-15mmのヨロコブテを1%添加。レンガ・ガラス等で作られ、解かりやかで、軽やか。
107/31 黄色地、黒色斑
黒斑-2-10mmのヨロコブテを3%、3-10mmの斑状物を1%未満添加。解かりやかで、軽やか。
107/31 黄色地、黒色斑
黒斑-2-10mmのヨロコブテを3%、3-20mmの黒色斑を1%未満添加。解かりやかで、軽やか。
107/31 黄色地、黒色斑
ヨロコブテを3%、3-20mmの黒色斑を1%未満添加。解かりやかで、軽やか。
107/31 黄色地、黒色斑
ヨロコブテを3%、3-30mmの黒色斑を1%未満添加。解かりやかで、軽やか。
107/41 黄色地、黒色斑
黒斑-5-15mmのヨロコブテを1%添加。レンガ・ガラス等で作られ、解かりやかで、軽やか。
107/31 黄色地、黒色斑
黒斑-2-10mmのヨロコブテを3%、3-10mmの斑状物を1%未満添加。解かりやかで、軽やか。
107/31 黄色地、黒色斑
ヨロコブテを3%、3-20mmの黒色斑を1%未満添加。解かりやかで、軽やか。
107/31 黄色地、黒色斑
ヨロコブテを3%、3-30mmの黒色斑を1%未満添加。解かりやかで、軽やか。

25号遺構



25号遺構 A-A'
 1.10YR3/1 黒褐色土。粒径3~5mmの大ローム粒を3%, 1~3mm長の炭化物を1%含む。縛まり弱く、粘性やや強い。
 2.10R3/1 黒褐色土。粒径1~3mmの大ローム粒を5%含む。縛まり強く、粘性の中強い。
 3.10YR3/2 黒褐色土。粒径約2~3mmの大ロームブロックを10%, 1~5mm長の炭化物を1%含む。縛まりやや弱く、粘性やや強い。
 4.10YR3/2 黒褐色土。粒径約1~3mmの大ローム粒を2%含む。縛まりやや強く、粘性やや強い。
 5.10YR3/2 黒褐色土。粒径1~10mm未満の大ローム粒を5%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満含む。縛まりやや強く、粘性やや強い。
 6.2.5YR4/2 明灰黄色土。ローム土体、5~30mm大の暗褐色土プローブクリ(10YR3/3)を2%含む。縛まりやや弱く、粘性やや強い。
 7.2.5YR5/2 黄褐色土。ローム土体、5~20mm大の暗褐色土プローブクリ(10YR3/3)を2%含む。縛まりやや強く、粘性やや強い。



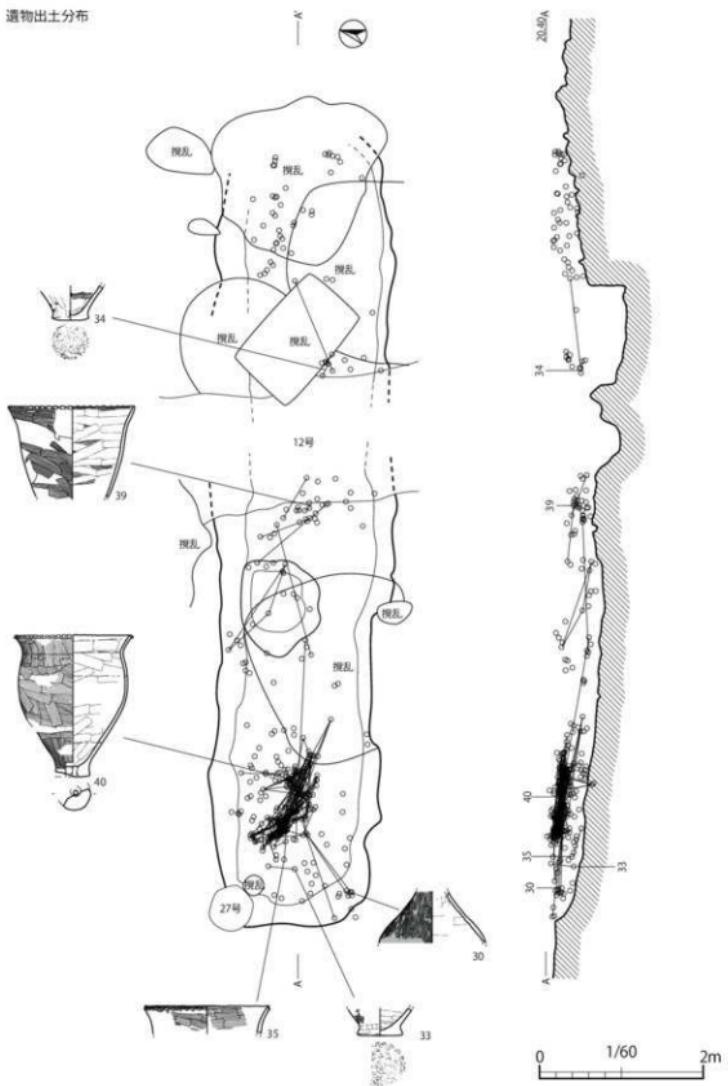
B-B'
 1.10YR2/1~3/1 黒褐色土。粒径1mmの赤色スコリアを1%未満、1~2mm長の炭化物を1%未満、1~2mm大の黄色スコリアを1%含む。縛まりやや弱く、粘性やや強い。
 2.10R3/1 黑褐色土。粒径1~2mm大のローム粒を1%, 1mmの赤色スコリアを1%未満含む。縛まりやや弱く、粘性やや強い。
 3.7.5YR2/2 黑褐色土。粒径1mmの大赤色スコリアを1%, 1~2mm長の炭化物を1%未満、1~2mm大の黄色スコリアを1%未満含む。縛まりやや強く、粘性やや強い。
 4.7.5YR2/2 黑褐色土。粒径1mmの大赤色スコリアを1%未満、1~2mm長の炭化物を1%未満、1~2mm大の黄色スコリアを1%未満含む。縛まりやや強く、粘性やや強い。
 5.10YR4/3~5/1 黑褐色土。粒径1~10mm未満の大ロームブロックを10%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満含む。縛まりやや強く、粘性やや強い。
 6.10YR4/2~5/2 黄褐色土。粒径2~5mmの大ローム粒を5%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満含む。縛まりやや強く、粘性やや強い。
 7.10YR4/3~5/2 黄褐色土。粒径1~8mmの大ローム粒を3%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満含む。縛まりやや強く、粘性やや強い。
 8.10YR4/3~5/2 黄褐色土。粒径5~10mm未満の大ロームブロックを2%, 1~2mm長の炭化物を1%未満含む。縛まりやや強く、粘性やや強い。
 9.10YR4/2~5/2 黄褐色土。粒径1~10mm未満の大ロームブロックを5%, 1~2mm大の赤色スコリアを1%未満含む。縛まり強く(7.0倍より強く)、粘性強い。

C-C'

C-C'
 1.10YR2/1 黑褐色土。粒径1mmの赤色スコリアを1%, 1~2mm大の黄色スコリアを1%未満、2~4mm長の炭化物を1%未満含む。縛まりやや弱く、粘性やや強い。
 2.7.5YR2/2 黑褐色土。粒径1mmの赤色スコリアを1%, 1~2mm大の黄色スコリアを1%未満、1~3mm長の炭化物を1%未満含む。縛まりやや強く、粘性やや強い。
 3.7.5YR2/2 黑褐色土。粒径2~5mmの大ローム粒を1%未満、1mmの大赤色スコリアを1%未満含む。縛まりやや強く、粘性やや強い。
 4.10YR4/3~5/1 黄褐色土。粒径1~3mmの大ローム粒を2%, 1mmの大赤色スコリアを1%, 1~2mm大の黄色スコリアを1%未満含む。縛まりやや強く、粘性やや強い。
 5.10YR3/2 黑褐色土。粒径2~5mmの大ローム粒を2%, 1mmの大赤色スコリアを1%, 1~2mm大の黄色スコリアを1%未満含む。縛まりやや弱く、粘性やや強い。
 6.10YR3/2 黑褐色土。粒径1mmの大赤色スコリアを1%未満、1~2mm大の黄色スコリアを1%未満含む。縛まりやや強く、粘性やや強い。
 7.10YR3/2 黑褐色土。粒径2~3mmの大ローム粒を1%未満、1mmの大赤色スコリアを1%未満含む。縛まりやや弱く、粘性やや強い。
 8.10YR3/2 黑褐色土。粒径2~8mmの大ローム粒を2%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満、1~2mm大の黄色スコリアを1%未満含む。縛まりやや弱く、粘性やや強い。
 9.10YR3/3 黑褐色土。粒径2~10mm未満の大ロームブロックを2%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満含む。縛まりやや弱く、粘性やや強い。
 10.10YR4/3~5/1 黄褐色土。粒径1~20mm未満の大ロームブロックを15%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満含む。縛まりやや強く、粘性やや強い。
 11.10YR4/3~5/1 黄褐色土。粒径1~20mm未満の大ロームブロックを10%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満含む。縛まりやや強く、粘性やや強い。
 12.10YR4/3~5/1 黄褐色土。粒径1~20mm未満の大ロームブロックを20%, 1~2mm大の赤色スコリアを1%含む。縛まり強く、粘性強い。

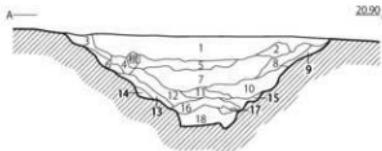
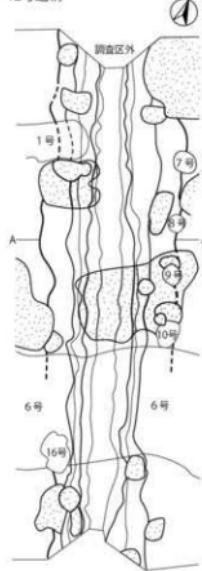
第112図 20-3~5・8区 弥生時代の遺構 (1) (1/60)

25号遺構 遺物出土分布



第113図 20-3～5・8区 弥生時代の遺構（2）(1/60・1/10)

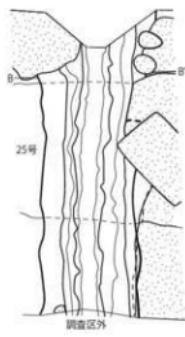
12号遺構



A-A'

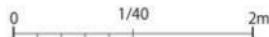
- 1.10YR3/1 黒褐色土、粒径1~2mmの大ローム粒を1%、1mm大未満の赤色スコリアを1%未満、1~2mmの大黒色土粒(10YR4/1)を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや強く。
- 2.10YR3/2 黒褐色土、粒径1~2mmの大ローム粒を1%、1mm大未満の赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや強く。
- 3.10YR4/3/1 黃褐色土、粒径1~3mmの大ローム粒を10%、1mm大未満の赤色スコリアを1%未満含む。締まり非常に強く、粘性やや強く。
- 4.10YR3/2 黑褐色土、粒径1mmの大ローム粒を1%未満、1mm大未満の赤色スコリアを1%未満含む。締まり非常に強く、粘性やや強く。
- 5.10YR3/2 黑褐色土、粒径1mmの大ローム粒を1%未満、1mm大未満の赤色スコリアを1%未満含む。締まり非常に強く、粘性やや強く。
- 6.10YR3/2 黑褐色土、粒径1~10mmの大ロームブロックを40%以上、黒褐色土(10YR3/2)を20%含む。締まりやや強く、粘性やや強く。
- 7.10YR3/2/6 黃褐色土～黒褐色土、粒径1~3mmの大ローム粒を1~2%、1mm大未満の赤色スコリアを1%未満含む。締まり非常に強く、粘性やや強く、中世以前の遺物を含む。
- 8.10YR3/3 黄褐色土、粒径1~5mmの大ローム粒を2%，1mm大未満の赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや強く。
- 9.10YR3/3 黄褐色土、粒径1~10mmの大ロームブロックを10%，1mm大未満の赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや強く。
- 10.10YR3/4 黑褐色土、粒径5~20mmの大ロームブロック主体、暗褐色土(10YR3/3)を15%，1mm大未満の赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや強く。
- 11.10YR4/2 黄褐色土、粒径1~7mmの大ローム粒を10%，1mm大未満の赤色スコリアを1%未満含む。締まり強く、粘性強く。
- 12.10YR4/3 黄褐色土、粒径1~7mmの大ローム粒を3%，1mm大未満の赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや強く、粘性強く。
- 13.10YR3/4 黄褐色土、粒径1~10mmの大ローム粒を5%，1mm大未満の赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや強く、粘性強く。
- 14.10YR4/4 黑褐色土、粒径5~20mmの大ロームブロック主体、暗褐色土(10YR3/4)を15%含む。締まりやや強く、粘性強く。
- 15.10YR3/3 黄褐色土、粒径1~7mmの大ローム粒を20%，1mm大未満の赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや強く、粘性強く。
- 16.10YR4/3/3 黄褐色土、粒径1~3mmの大ローム粒を40%以上、暗褐色土(10YR3/3)を30%含む。締まりやや強く、粘性やや強く。
- 17.10YR3/4 黄褐色土、粒径1~5mmの大ローム粒を10%，砂粒やや多く含む。1mm大未満の赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや弱く、粘性弱く。
- 18.10YR5/4/2 黄褐色土、ロームブロック主体、粒径30~100mm以上のロームブロックを含む。締まり強く、粘性強く。

未調査区



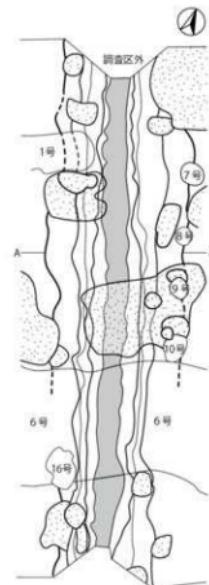
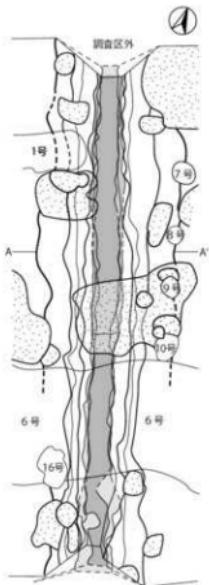
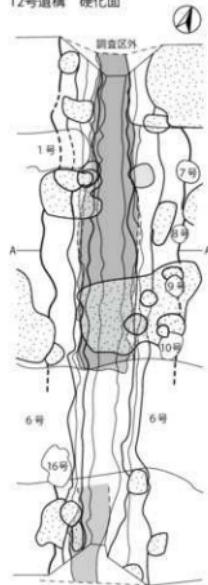
B-B'

- 1.10YR3/2 黑褐色土、粒径2~5mmの大ローム粒を1%、5~30mmの大黄褐色土ブロック(10YR4/1)を2%、2~5mm長の炭化物を1%含む。締まり強く、粘性やや強く、粘性弱い。
- 2.10YR3/2 大ローム土、粒径1~10mmの大ローム粒を1%未満、1mmの赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや強く、粒子細かい。
- 3.10YR4/2 黄褐色土、粒径1mm大未満の赤色スコリアを1%未満含む。鉱の凝聚物微細含む。締まり非常に強く、粘性やや強く。
- 4.10YR3/4 黑褐色土、粒径1mmの大ローム粒を1%未満、1mmの赤色スコリアを1%未満含む。厚さ1~2mmの鉱の凝聚物が複数あり、締まり非常に強く、粘性やや強く。
- 5.10YR3/3 黑褐色土、粒径1mmの大ローム粒を1%未満、5~10mmの大黄褐色土(10YR4/1)の硬化ブロック2%，1mmの赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
- 6.10YR3/3 黄褐色土、粒径1~3mmの大ローム粒を1%，1mmの赤色スコリアを1%未満、1~2mm長の炭化物を1%未満含む。締まりやや弱く。
- 7.10YR3/3 黑褐色土、粒径1~2mmの大ローム粒を1%，1mmの大赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや強く。
- 8.10YR3/3 黄褐色土、粒径1~15mmの大ローム粒を30%，1mmの大赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや強く、粘性強く。
- 9.10YR3/3 黄褐色土、粒径1~7mmの大ローム粒を15%，1mmの大赤色スコリアを1%未満含む。締まり非常に強く、粘性やや弱い。
- 10.10YR4/4/2 黄褐色土、粒径1~15mmの大ローム粒を30%，1mmの大赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや強く、粘性強く。
- 11.10YR4/3/3 黄褐色土、粒径1~3mmの大ローム粒を3%，3~10mmの大黄褐色土(10YR3/3)ブロック1%，1mmの赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
- 12.10YR3/2 黄褐色土、粒径1~5mmの大ローム粒を2%，1mmの大赤色スコリアを1%未満含む。締まり強く、粘性やや強く。
- 13.10YR3/3 黄褐色土、粒径2~20mmの大ロームブロックを30%，1mmの大赤色スコリアを1%未満含む。締まり非常に強く、粘性強く。
- 14.10YR4/3/2 黄褐色土、粒径2~30mmの大ロームブロックを40%以上、1mmの大赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 15.10YR4/3/3 黄褐色土、粒径1~20mmの大ロームブロックを1%，1mmの大赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。



第114図 20-3～5・8区 中世の遺構（1）(1/40・1/80)

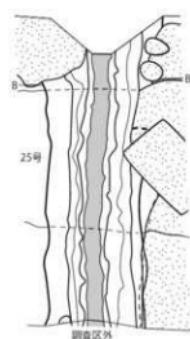
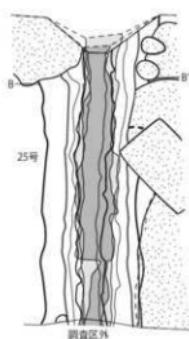
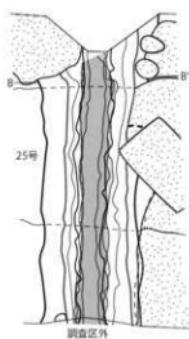
12号遺構 硬化面



未調査区

未調査区

未調査区

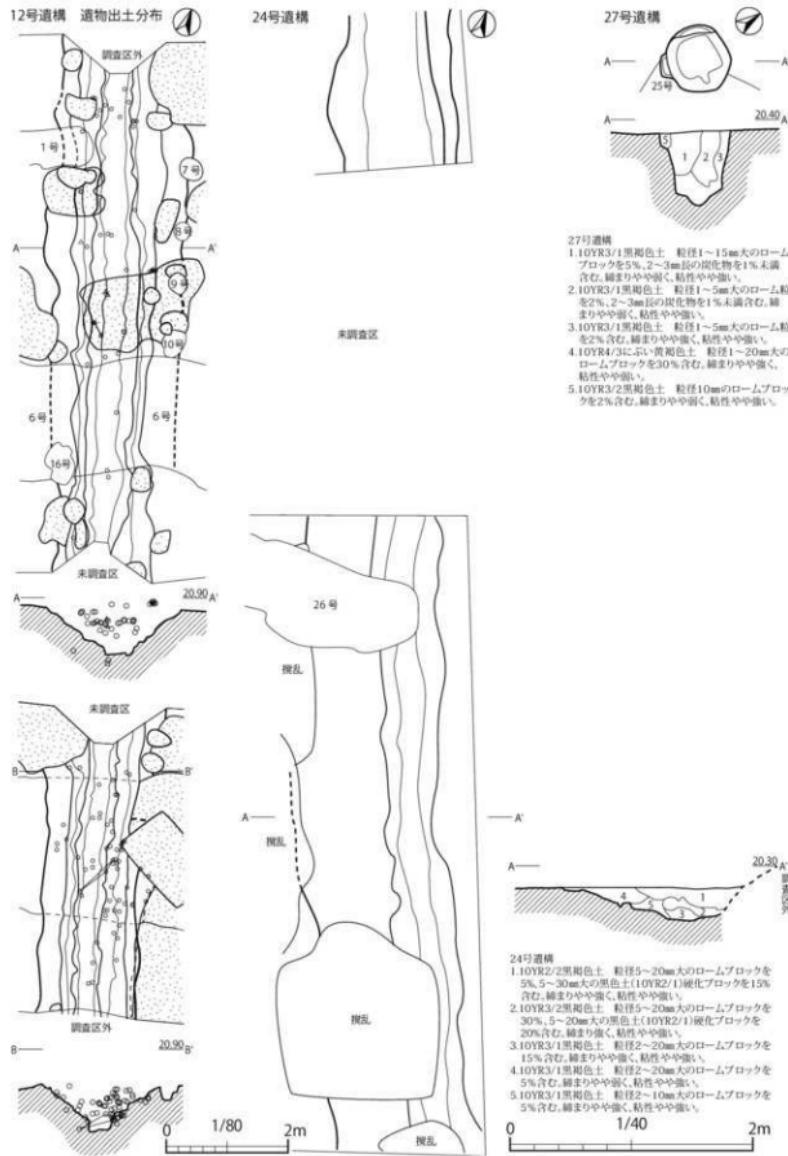


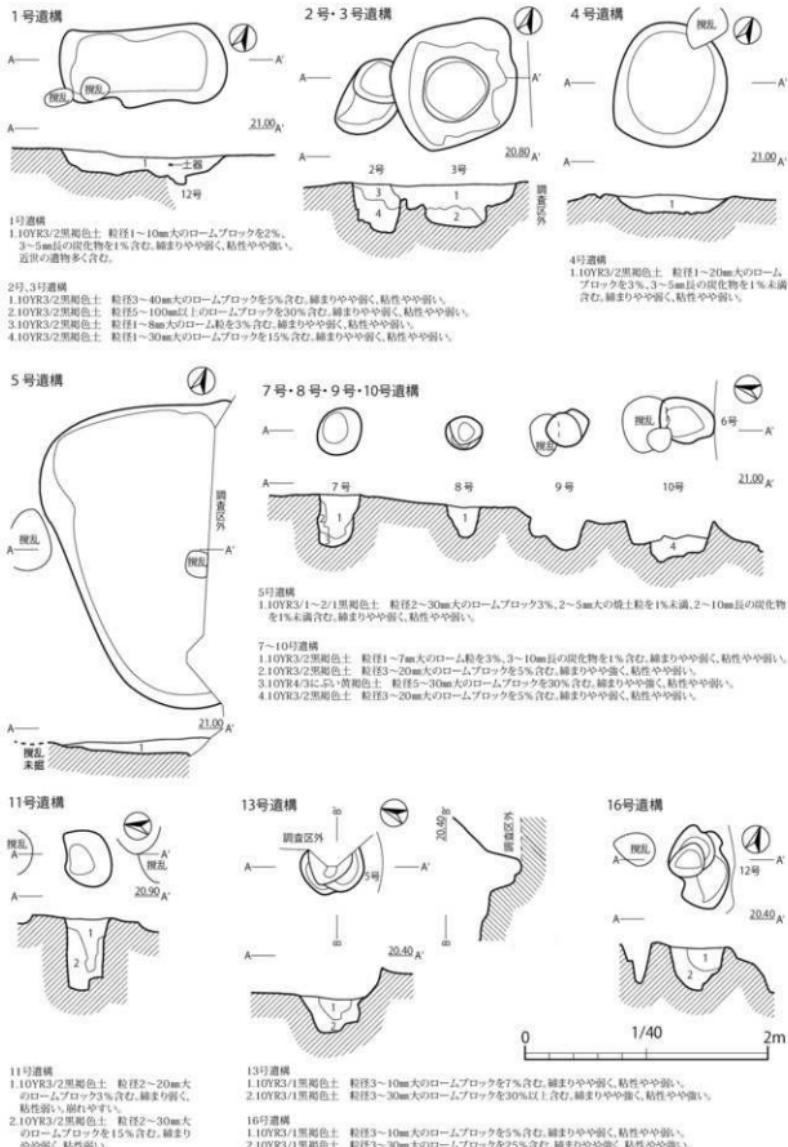
■ 第1硬化面
■ 第2硬化面

■ 第3硬化面
■ 第4硬化面

■ 第5硬化面
0 1/80 2m

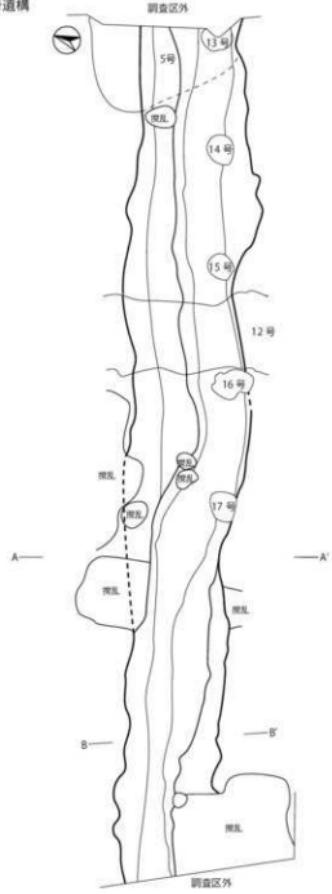
第115図 20-3～5・8区 中世の遺構（2）(1/80)





第117図 20-3~5・8区 近世の遺構(2) (1/40)

6号遺構



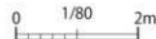
6号遺構 A-A'

- 1.OYR3/2黒褐色土。粒径2~30mmの大ロームブロックを7%, 3~20mmの大灰褐色粘土(OYR5/1)を1%, 5~20mm長の炭化物を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。
- 2.OYR3/2黒褐色土。粒径2~30mmの大ロームブロックを5%, 5~20mmの大灰褐色粘土(OYR5/1)を1%, 5~10mm長の炭化物を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。
- 3.OYR3/1黒褐色土。粒径2~30mmの大ロームブロックを2%, 5~40mmの大灰褐色土(OYR3/2)の硬なブロックを1%, 5~20mmの炭化物を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
- 4.OYR3/2暗褐色土。粒径2~60mmの大ロームブロックを30%含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
- 5.OYR3/3暗褐色土。粒径2~50mmの大ロームブロックを40%含む。締まりやや強く、粘性やや強い。



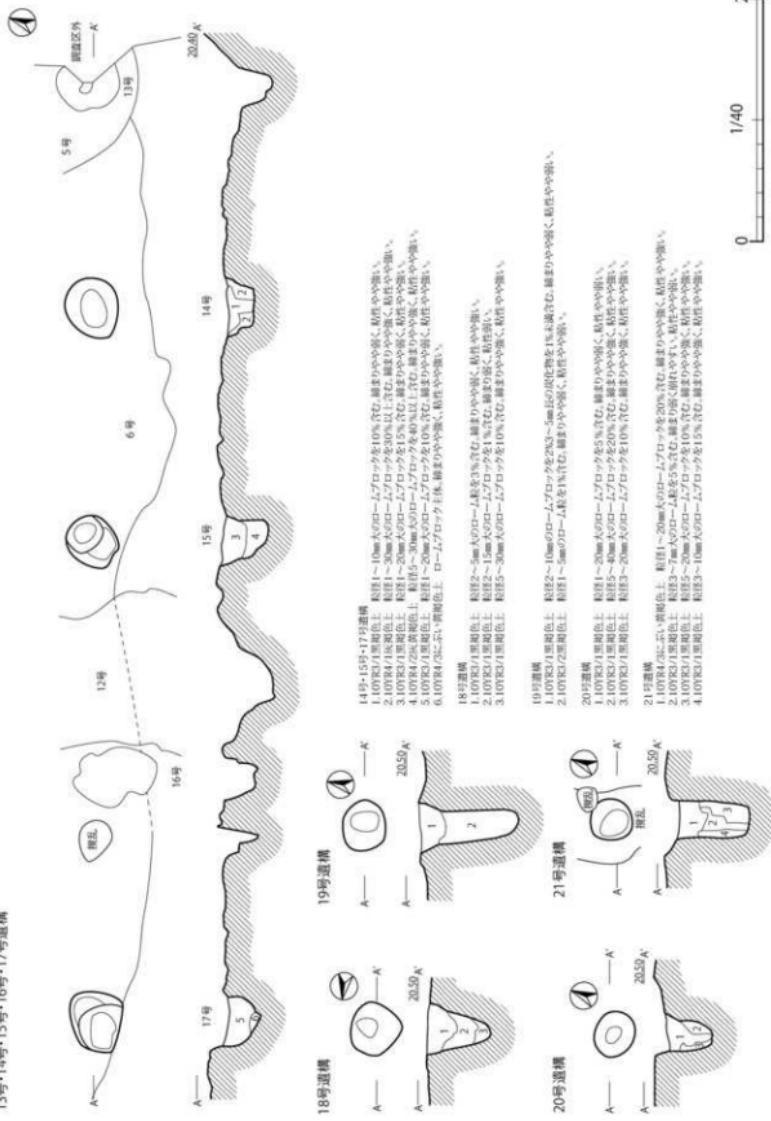
6号遺構 B-B'

- 1.OYR3/2黒褐色土。粒径2~7mmの大ローム粒を2%, 5~20mmの大灰褐色(OYR5/1)粘性ブロックを1%, 5~10mm長の炭化物を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。
- 2.OYR3/1黒褐色土。粒径3~20mmの大ロームブロックを30%, 5~10mm長の炭化物を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや強い。近世の埋土。

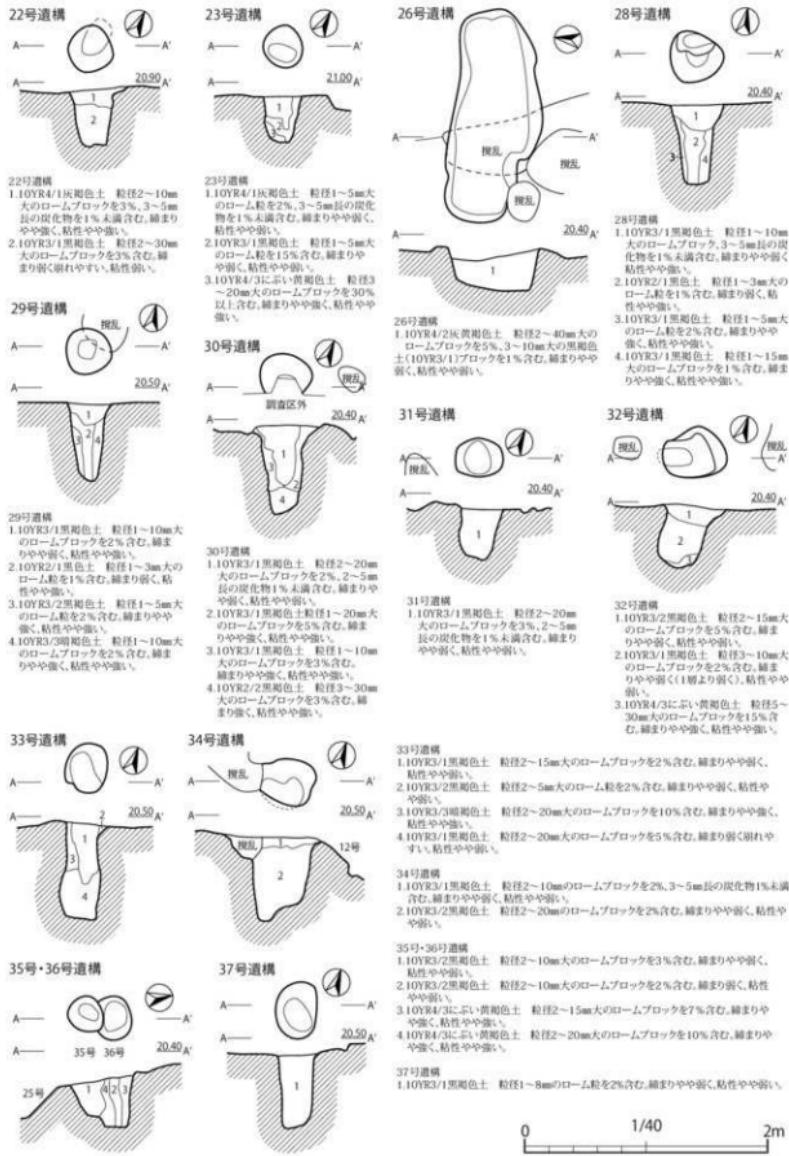


第118図 20-3～5・8区 近世の遺構（3）(1/40)

13号·14号·15号·16号·17号通欄



第119図 20-3~5・8区 近世の遺構(4) (1/40)

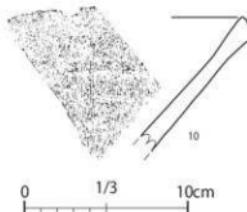
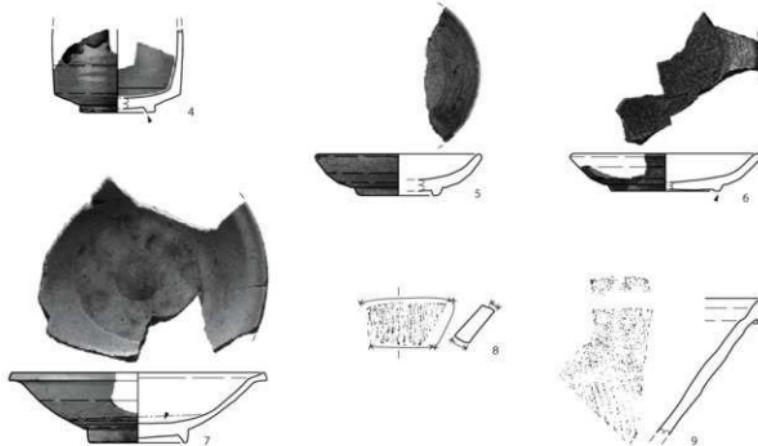


第120図 20-3～5・8区 近世の遺構（5）（1/40）

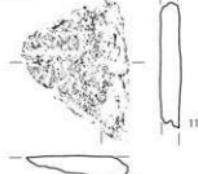
5号遗構



6号遗構

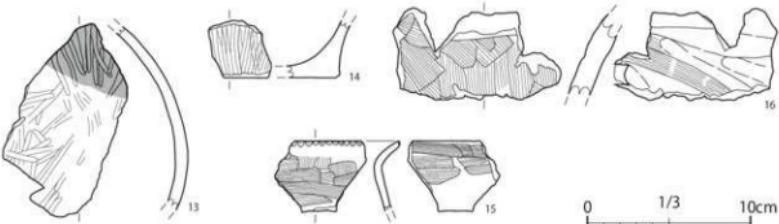


6号遗構



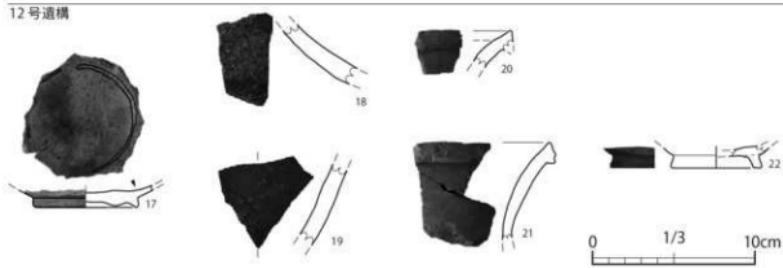
0 1/2 5cm

12号遗構

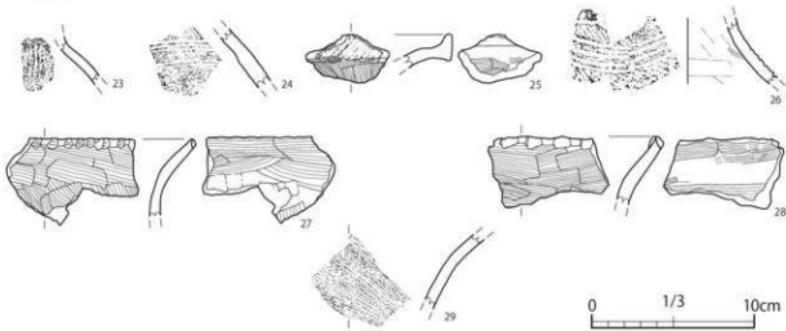


第121図 20-3～5・8区 出土遺物(1) (1/2・1/3)

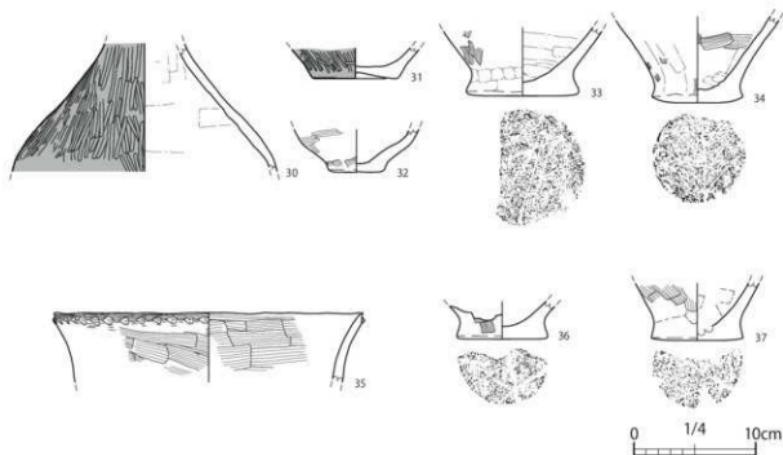
12号遺構



25号遺構

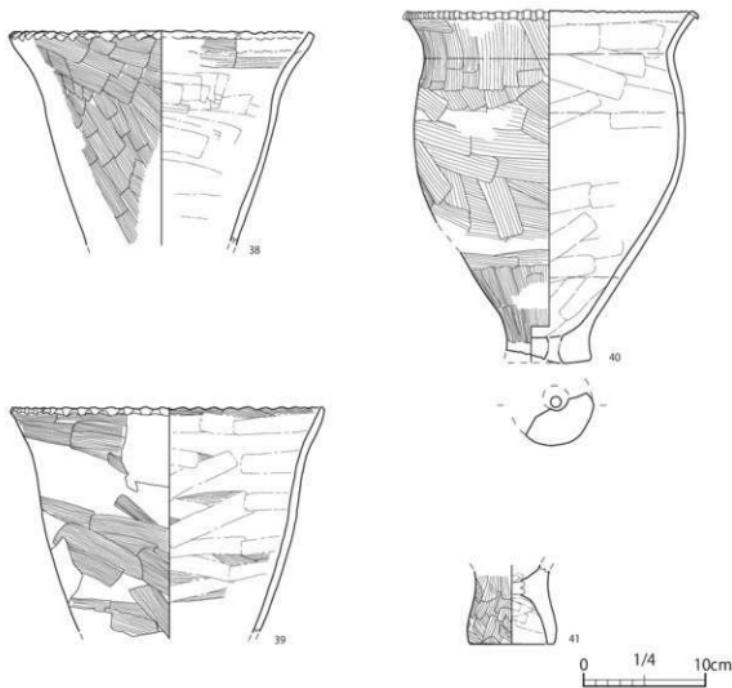


25号遺構

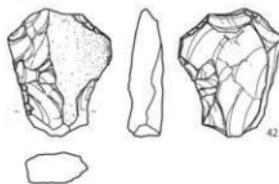


第122図 20-3～5・8区 出土遺物(2) (1/3・1/4)

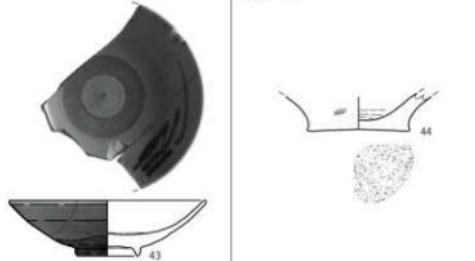
25号遺構



表土一括



擾乱一括

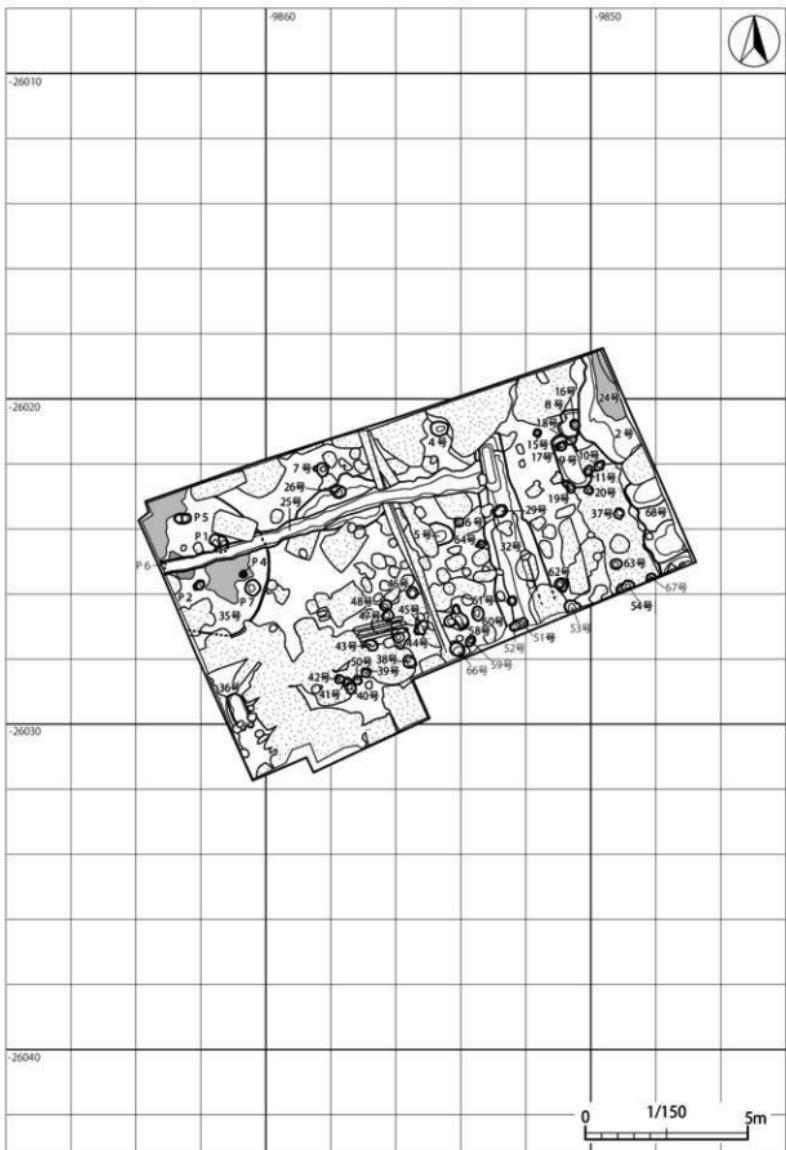


第123図 20-3～5・8区 出土遺物(3) (1/3・1/4)

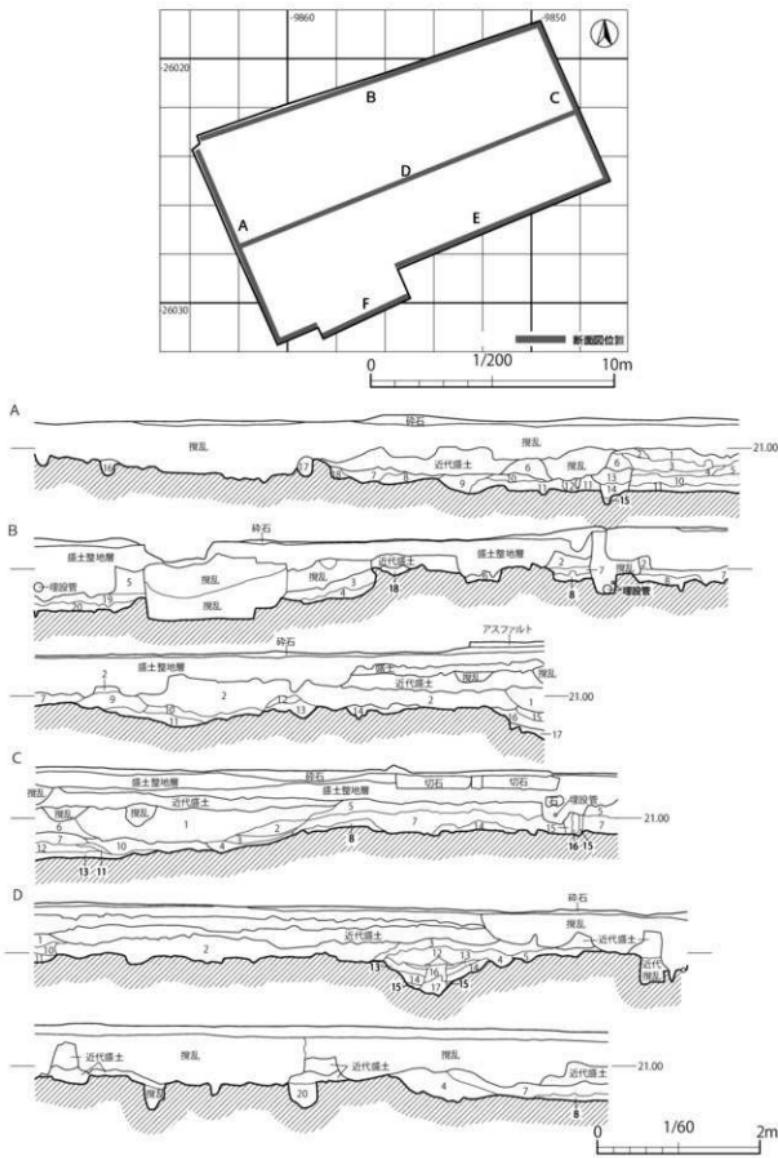
20-2・13 区



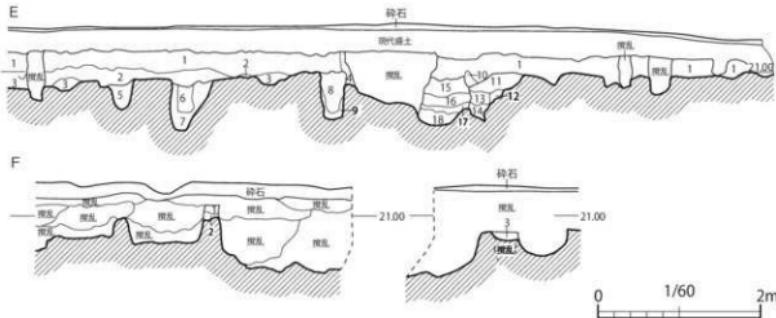
第 124 図 20-2・13 区 調査区位置 (1/400)



第 125 図 20-2・13 区 遺構全体図 (1/150)



第126図 20-2・13区 基本層序(1) (1/60・1/200)



- A
 1.10YR3/2黑褐色土 粒径1~10mmのロームブロックを2%、2~5mmの炭化物を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。近世の遺物を含む。
 2.10YR3/2黑褐色土 粒径1~5mmのローム粒を1%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 3.10YR3/2黑褐色土 粒径1~15mmのロームブロックを40%、1~2mmの赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや強く、粘性強い。
 4.10YR4/2(3)黄褐色土 粒径1~50mmのロームブロックを30%、1mmの赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや強く、粘性強い。
 5.10YR4/2(3)黄褐色土 粒径1~70mmのロームブロックを30%、1mmの赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや強く、粘性強い。調査区北西側で現代の下水管に切られた。
 6.10YR3/2黑褐色土 粒径1~3mmのローム粒を含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 7.10YR3/2黑褐色土 粒径1~10mmのロームブロックを2%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 8.10YR3/1黑褐色土 粒径1~30mmのロームブロックを3%、1~2mmの赤色スコリアを1%未満含む。締まり強く、粘性やや強い。
 9.10YR3/2黑褐色土 粒径1~4mmのローム粒を3%、2~3mm長の炭化物を1%未満含む。締まり弱く、粘性やや弱い。近世の瓦片土。
 10.10YR4/2(3)黑褐色土 粒径2~40mmのロームブロックを25%、3mmの炭化物を1%未満。1~2mmの赤色スコリアを1%未満含む。締まり強く、粘性やや弱い。
 (35号) 黑褐色土 粒径1~50mmのロームブロックを10%、黒褐色土 (10YR3/1) 10%、2~3mm長の炭化物を1%未満、2mmの赤色スコリアを1%未満
 鮫ひだり帶(粘性やや弱い)。
 11.10YR4/2(3)黑褐色土 粒径1~50mmのロームブロックを10%、黒褐色土 (10YR3/1) 10%、2~3mm長の炭化物を1%未満、2mmの赤色スコリアを1%未満
 鮫ひだり帶(粘性やや弱い)。
 12.10YR3/1黑褐色土 粒径1~3mmのローム粒を1%未満含む。締まり弱く、粘性やや弱い。
 13.10YR3/1黑褐色土 粒径1~7mmの大ローム粒を2%、2~5mmの炭化物を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや強い。(25号遺構)
 14.10YR2/1黑色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを10%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。(35号遺構)
 15.10YR2/1黑色土 粒径2~7mmの大ロームブロックを10%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。(35号遺構)
 16.25YR3/4(3)オーバー地盤 地盤3~4mmの大ローム粒を40%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。(近代の穴か)
 17.10YR3/2黑褐色土 粒径2~5mmの大ローム粒を3%、炭化物を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 18.10YR3/2黑褐色土 粒径5~10mmの大ロームブロックを2%、1~2mmの赤色スコリア1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

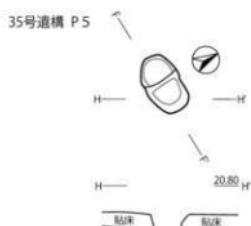
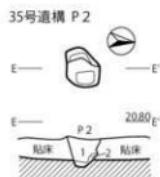
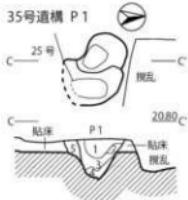
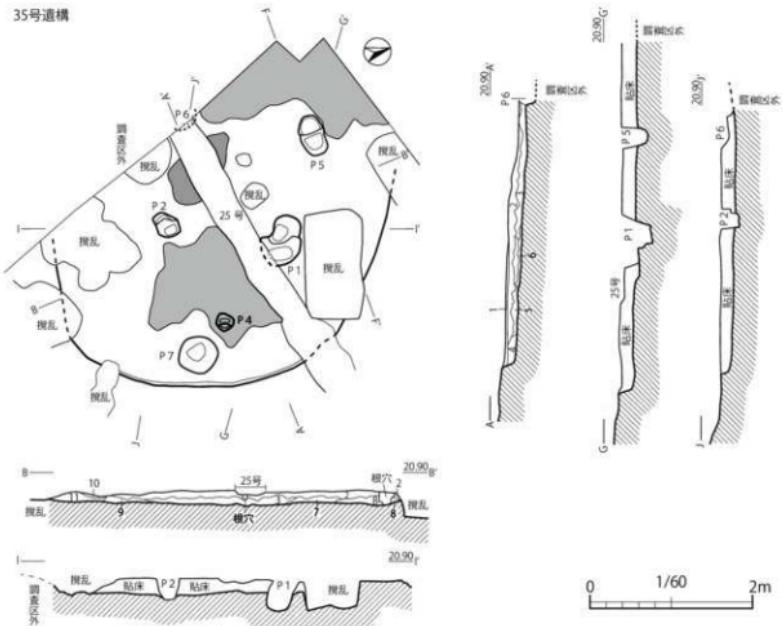
- B
 1.10YR3/2黑褐色土 粒径1~15mmのロームブロックを2%、3~15mmの大ローム粒を3%、5~15mmの大黒褐色土 (10YR3/1) 硬化ブロックを1%未満含む。
 締まりやや弱く、粘性弱い。
 2.10YR3/2黑褐色土 粒径2~5mmの大ローム粒を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。近世の遺物を含む。
 3.10YR3/2黑褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを20%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 4.10YR4/2(3)黄褐色土 粒径1~7mmの大ロームブロックを40%含む。締まり弱く、粘性やや弱い。
 5.10YR3/1~2(3)黑褐色土 粒径1~7mmの大ローム粒を3%、3~5mm長の炭化物を1%未満。2~3mmの炭化物を1%未満含む。締まり弱く、粘性やや弱い。
 6.10YR3/6黒褐色土 ローム2~3mmの粒を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 7.10YR3/2黑褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 8.10YR4/2(3)黄褐色土 粒径1~30mmの大ロームブロックを30%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 9.10YR3/2(3)黄褐色土 粒径1~30mmの大ロームブロックを25%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 10.10YR3/2(3)黄褐色土 粒径2~40mmの大ローム粒を10%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。(東壁12層)
 11.10YR3/2(3)黄褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 12.10YR3/2(3)黑褐色土 ロームブロック大粒を1%未満含む。締まり弱く、粘性やや弱い。
 13.10YR3/1黑褐色土 粒径1~10mmの大ロームブロックを2%、3~5mm長の炭化物を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 14.10YR3/1黑褐色土 粒径1~15mmの大ロームブロックを2%、1mmの赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 15.10YR3/1黑褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を1%未満含む。1mm長の炭化物を1%未満含む。締まり非常に強く、粘性やや弱い。
 硬化面。(東壁13層)
 16.10YR3/2(3)黑褐色土 黑褐色土 (10YR3/1) 15%、粒径1~3mmの大ローム粒を1%未満含む。締まり強く、粘性やや弱い。(東壁12層)
 17.10YR3/2(3)黑褐色土 粒径2~5mmの大ローム粒を10%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。(東壁13層)
 18.10YR3/2(3)黑褐色土 粒径2~5mmの大ローム粒を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 19.10YR3/2(3)黑褐色土 粒径2~40mmの大ロームブロックを25%、3mm長の炭化物を1%未満。1~2mmの赤色スコリアを1%未満含む。締まり強く、
 粘性やや弱い。鮫ひだり帶(35号遺構)。
 20.10YR4/2(3)黄褐色土 粒径3~50mmの大ロームブロックを10%、黒褐色土 (10YR3/1) 10%、2~3mm長の炭化物を1%未満、2mmの赤色スコリアを
 1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。(35号遺構)

- C
 1.2号遺構覆土。
 2.10YR3/1黑褐色土 粒径1~15mmのロームブロックを15%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。2号遺構覆土。
 3.10YR3/1黑褐色土 粒径1~30mmの大ロームブロックを40%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。2号遺構覆土。
 4.10YR3/1黑褐色土 粒径1~30mmの大ロームブロックを30%、5~15mmの大黒褐色土 (10YR3/1) 硬化ブロックを3%、1mmの赤色スコリアを1%未満含む。締
 まりやや弱く、粘性やや弱い。
 5.10YR3/2黑褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを2%、3~10mmの大ローム粒を2%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 6.10YR3/2(3)黑褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを2%、3~15mmの大ローム粒を3%、5~15mmの大黒褐色土 (10YR3/1) 硬化ブロックを1%含む。
 締まりやや弱く、粘性やや弱い。2号遺構覆土。
 7.10YR3/1黑褐色土 粒径1~10mmの大ロームブロックを15%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 8.10YR3/1黑褐色土 粒径1~10mmの大ロームブロックを2%、1mmの赤色スコリア1%未満含む。締まり強く、粘性やや弱い。
 9.10YR3/1黑褐色土 粒径1~3mmの大ロームブロックを1%未満含む。1~2mmの赤色スコリアを1%未満含む。締まり非常に強く、
 粘性やや弱い。硬面化。
 10.10YR3/1黑褐色土 粒径1~70mmの大ロームブロックを30%、1mm長の炭化物を1%未満。1mmの赤色スコリアを1%未満含む。締まり強く、粘性やや弱い。
 硬面化。(24号遺構)
 11.10YR3/2黑褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を1%未満。赤色スコリアを1%未満含む。締まり強く、粘性やや弱い。

第127図 20-2・13区 基本層序 (2) (1/60)

- 12.10YR3/1黒褐色土 黒褐色土 (10YR3/1) を15%, 粒径1~3mmの大ローム粒を1%含む。締まり強く、粘性やや弱い。
 13.10YR3/3黒褐色土 黒褐色土 (10YR3/1) を10%, 粒径1~5mmの大ローム粒を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 14.10YR3/1黒褐色土 粒径1~4mmの大ロームブロックを5%, 5~30mmの大黒褐色土 (10YR3/2) 硬化ブロックを2%, 5mm長の炭化物を1%未満含む。
 15.10YR3/1黒褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを3%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。(近代の柱根)
 16.10YR3/1黒褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを2%含む。締まり弱く崩れやすい。粘性なし。(近代の柱根)
- D
- 1.10YR3/2黒褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを2%, 3~10mmの大の小礫2%含む。締まりやや弱く、粘性弱い。(東壁5層)
 2.10YR3/2黒褐色土 粒径2~30mmの大ロームブロックを5%, 2~5mmの炭化物を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。近世の遺物含む。
 3.10YR3/2黒褐色土 粒径1~20mmの大ロームブロックを3%, 5~30mmの大黒褐色土 (10YR3/2) 硬化ブロックを2%, 5mm長の炭化物を1%未満含む。
 4.10YR3/1黒褐色土 粒径1~10mmの大ロームブロックを2%, 5~20mmの大黒褐色土(硬化ブロック) (10YR3/2) を3%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 5.10YR3/2黒褐色土 粒径2~40mmの大ロームブロックを10%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。(柱根粗)
- E
- 1.10YR3/1黒褐色土 粒径1~10mmの大ロームブロックを10%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 2.10YR3/1黒褐色土 粒径2~30mmの大ロームブロックを5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。(西壁7層)
 3.10YR3/1黒褐色土 粒径1~30mmの大ロームブロックを3%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。(西壁8層)
 4.10YR3/2黒褐色土 粒径2~35mmの大ロームブロックを5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。近世の遺物を含む。
 10.10YK3/1黒褐色土 粒径1~10mmの大ロームブロックを15%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。(東壁7層)
 11.10YK3/1黒褐色土 粒径1~10mmの大ロームブロックを1%未満含む。1mmの大赤色スコリアを1%未満含む。締まり強く、粘性やや弱い。(東壁8層)
 12.10YK3/2黒褐色土 粒径2~5mmの大ローム粒を1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。(硬化面)(32号遺構5層)
 13.10YK3/2黒褐色土 粒径2~7mmの大ローム粒を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。(32号遺構5層)
 14.10YK3/3~5黒褐色土 粒径3~30mmの大ロームブロックを20%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。(32号遺構7層)
 15.10YK3/2黒褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを20%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。(32号遺構8層)
 16.10YK3/1黒褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを1%未満含む。締まりやや弱く、粘性弱い。(30号遺構)
 17.10YK3/1黒褐色土 粒径1~7mmの大ロームブロックを5%含む。締まり弱く、粘性やや弱い。(30号遺構)
 18.10YK3/2黒褐色土 粒径2~15mmの大ロームブロックを5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。(22号遺構)
 19.10YK3/2黒褐色土 粒径2~30mmの大ロームブロックを15%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。(22号遺構)
 20.10YK3/2黒褐色土 粒径1~30mmの大ロームブロックを20%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。(23号遺構)
- F
- 1.10YR3/2黒褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを2%, 3~10mmの大の小礫2%含む。締まりやや弱く、粘性弱い。(東壁5層)
 2.10YR3/1黒褐色土 粒径1~20mmの大ロームブロックを5%, 2~5mmの炭化物を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 3.10YR3/1黒褐色土 粒径1~10mmの大ロームブロックを15%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。(東壁7層)
 4.10YR3/2黒褐色土 粒径1~10mmの大ロームブロックを5%含む。締まり強く、粘性弱い。
 5.675号遺構覆土
 6.575号遺構覆土
 7.547号遺構2層
 8.535号遺構1層
 9.535号遺構2層
 10.10YK3/1黒褐色土 粒径10mmの大ロームブロックを1%含む。締まり弱く、粘性弱い。
 11.10YK3/1黒褐色土 粒径1~10mmの大ロームブロックを2%含む。締まり強く、粘性やや弱い。
 12.52号遺構覆土
 13.52号遺構覆土
 14.52号遺構覆土
 15.10YK3/2黒褐色土 粒径2~5mmの大ローム粒を1%含む。締まり非常に強く、粘性やや弱い。硬化面(32号遺構5層)
 16.10YK3/2黒褐色土 粒径2~7mmの大ロームブロックを5%含む。締まり弱く、粘性やや弱い。(32号遺構6層)
 17.10YK4/2(ふくら)灰黃褐色土 粒径2~30mmの大ロームブロックを20%含む。締まり強く、粘性やや弱い。(32号遺構覆土)
 18.10YK4/2(ふくら)灰黃褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを20%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。(32号遺構覆土)

35号遺構



0 1/40 2m

第128図 20-2・13区 弥生時代の遺構 (1) (1/60・1/40)

35号遺構

- 1.10YR4/2黒褐色土 粒径3~10mmの大ロームブロックを2%, 1~3mm長の炭化物を1%未満, 1~2mm長の炭化物を1%未満含む。縋まりやや強く、粘性やや強い。遺物含む。
 1.10YR2上層風化土
 2.10YR4/2黒褐色土 粒径2~40mmの大ロームブロックを25%, 3mm長の炭化物を1%未満, 1~2mm長の赤色スコリアを1%未満含む。縋まり強く、粘性やや強い。(駆除)
 2.10YR3/2黒褐色土 粒径3~20mmの大ロームブロックを2%, 2~3mm長の炭化物を1%未満, 2mm大の赤色スコリアを1%未満含む。縋まりやや強く、粘性やや強い。
 3.2.5YR4/2黒褐色土 粒径3~50mmの大ロームブロックを15%, 2~3mm長の炭化物を1%未満, 2mm大の赤色スコリアを1%未満含む。縋まりやや強く、粘性やや強い。
 5.10YR4/2黒褐色土 粒径3~50mmの大ロームブロックを15%, 2~3mm長の炭化物を1%未満, 2mm大の赤色スコリアを1%未満含む。縋まりやや強く、粘性やや強い。
 6.10YR4/2² 黒褐色土 粒径3~30mmの大ロームブロックを15%, 2mm大の赤色スコリアを1%未満含む。縋まりやや強く、粘性やや強い。
 7.10YR4/3² 黒褐色土 粒径3~30mmの大ロームブロックを15%, 2~3mm長の炭化物を1%未満, 2~2mmの赤色スコリアを1%未満含む。縋まり強く、粘性やや強い。
 8.10YR4/2² 黒褐色土 粒径3~50mmの大ロームブロックを10%, 黑褐色土(10YR3/1)を10%, 2~3mm長の炭化物を1%未満, 2mm大の赤色スコリアを1%未満含む。縋まりやや強く、粘性やや強い。
 9.10YR3/2黒褐色土 粒径2~5mmの大ロームブロックを3%, 3~5mm長の炭化物を1%未満含む。縋まりやや強く、粘性やや強い。
 10.7.5YR3/2黒褐色土 粒径2~30mmの大ロームブロックを15%, 2~5mm長の炭化物を1%未満, 1~2mm大の炭化物を1%未満含む。縋まりやや強く、粘性やや強い。
 11.10YR3/1黒褐色土 粒径2~30mmの大ロームブロックを3%, 3mm長の炭化物を1%未満含む。縋まり強く、粘性やや強い。

35号P1

- 1.10YR3/1黒褐色土 粒径2~30mmの大ロームブロックを20%含む。縋まりやや強く、粘性やや強い。
 2.10YR2/1黒褐色土 粒径3~5mmの大ロームブロックを2%含む。縋まりやや強く(崩れあり)、粘性やや強い。
 3.10YR3/1黒褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを10%含む。縋まりやや強く、粘性やや強い。(遺物含む)
 4.10YR2/1黒褐色土 粒径2~7mmの大ローム粒を2%含む。縋まりやや弱く、粘性やや弱い。
 5.10YR3/2黒褐色土 粒径5~10mmの大ロームブロックを5%含む。縋まり強く、粘性やや弱い。(駆除)

35号P2

- 1.10YR2/2黒褐色土 粒径1~7mmの大ローム粒を3%含む。縋まりやや強く、粘性やや強い。
 2.10YR4/3² 黑褐色土 粒径10~30mmの大ロームブロックを30%含む。縋まりやや強く、粘性やや強い。

35号P4

- 1.10YR2/2黒褐色土 粒径1~3mmの大ロームブロックを1%未満含む。黒褐色土(10YR3/1)を5%含む。縋まりやや弱く、粘性やや強い。
 2.10YR2/1黒褐色土 粒径5~10mmの大ロームブロックを5%, 2~5mm長の炭化物を1%未満含む。縋まりやや弱く、粘性やや弱い。
 3.10YR3/1黒褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒を2%含む。縋まりやや弱く、粘性やや弱い。

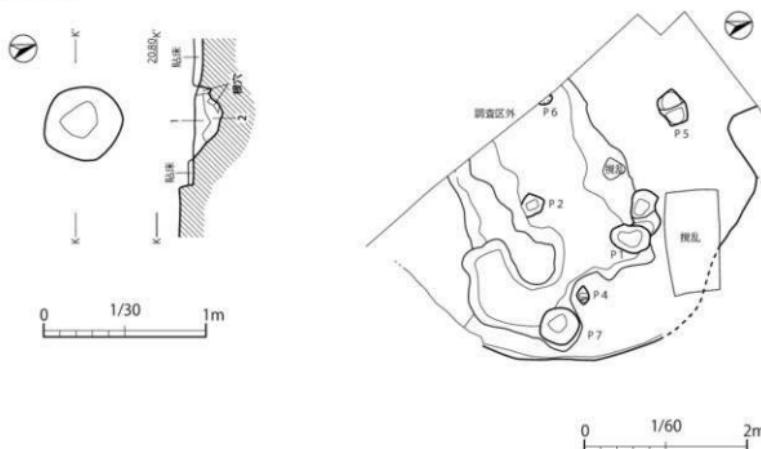
35号P5

- 1.10YR2/2黒褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを2%, 2~5mm長の炭化物を1%未満含む。縋まりやや弱く、粘性やや弱い。
 2.10YR3/1黒褐色土 粒径3~20mmの大ロームブロックを3%含む。縋まりやや弱く、粘性やや弱い。
 3.10YR3/1黒褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒を2%含む。縋まりやや弱く、粘性やや弱い。

35号P7

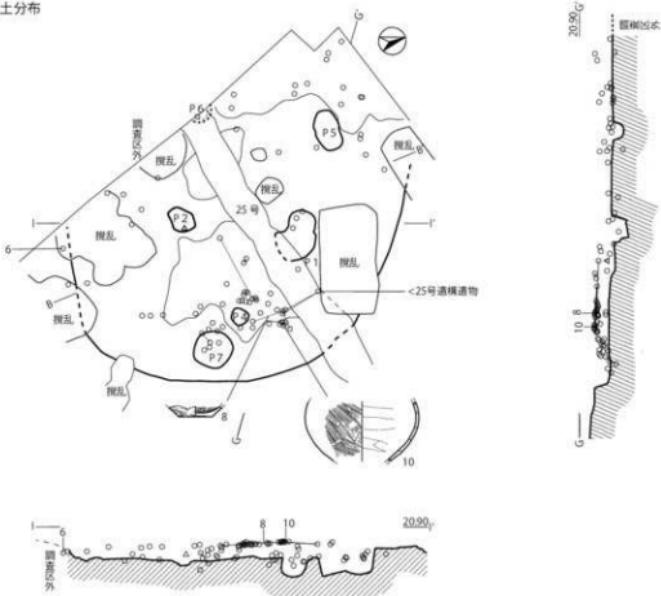
- 1.10YR3/1黒褐色土 粒径3~7mmの大ローム粒を2%含む。縋まりやや強く、粘性やや弱い。
 2.10YR2/1黒褐色土 粒径2~15mmの大ロームブロックを1%未満含む。縋まり強く、粘性やや弱い。

35号遺構 挖り方

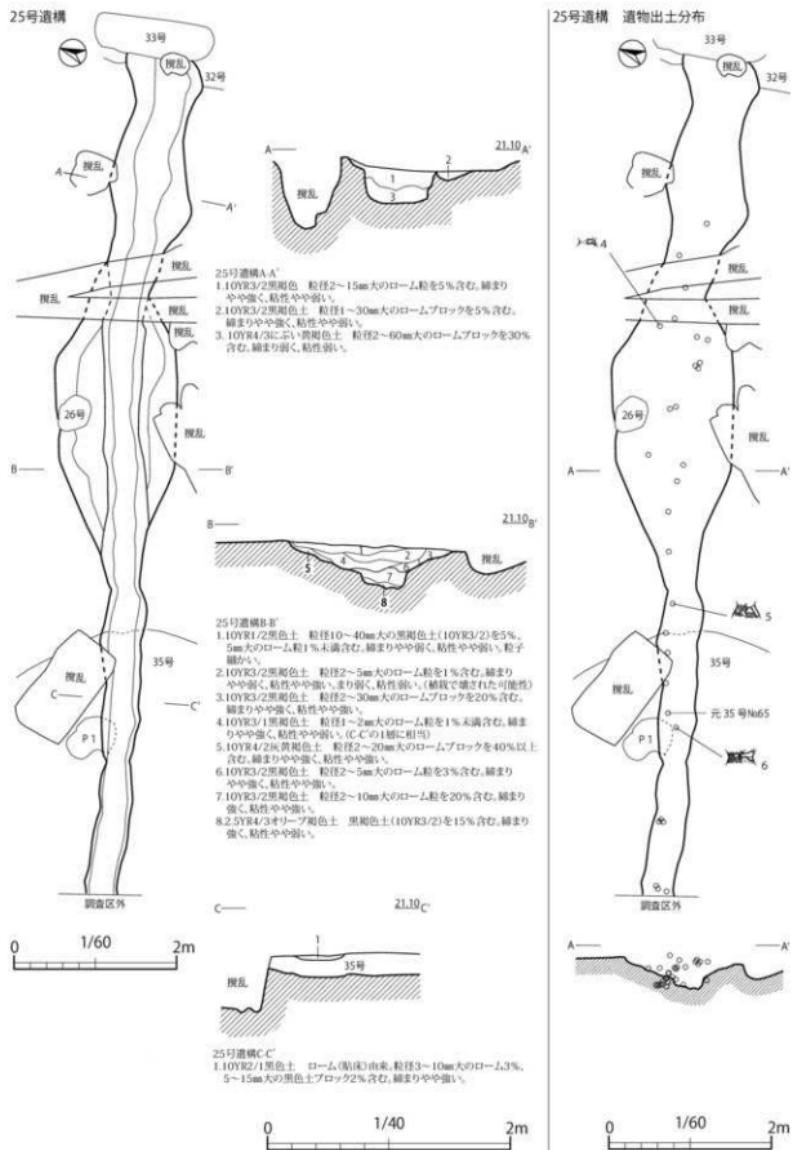


第129図 20-2・13区 弥生時代の遺構（2）（1/30・1/60）

35号遺構 遺物出土分布

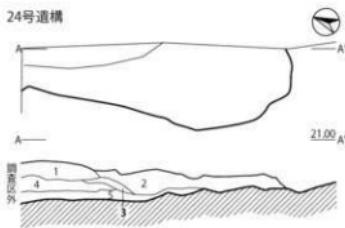


第130図 20-2・13区 弥生時代の遺構 (3) (1/60)



第131図 20-2・13区 弥生時代から古代の遺構 (1/60・1/40)

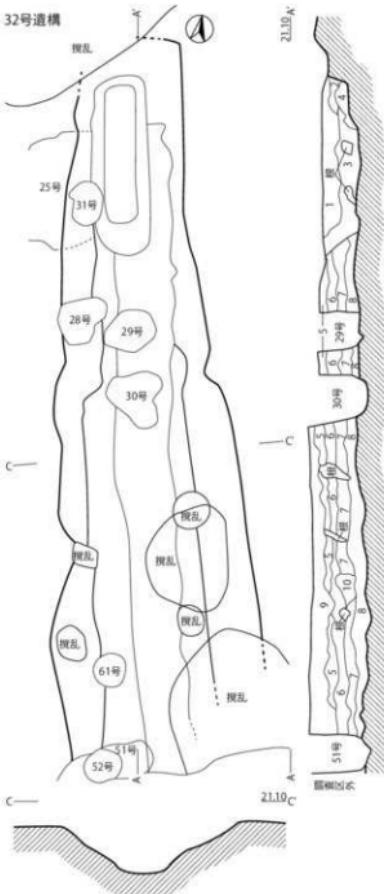
24号遺構



24号遺構

- 1.I0YR3/1 黒褐色土 粒径1~3mmの大ロームブロックを1%未満、1m長の炭化物を1%未満、1~2mmの大赤色スコリアを1%未満含む。締まり非常に強く、粘性やや弱い、硬化面。
- 2.I0YR3/1 黒褐色土 粒径1~7mmの大ロームブロックを20%、1m長の炭化物を1%未満含む、1mmの大赤色スコリアを1%未満含む。締まり強く、粘性やや弱い。
- 3.I0YR3/2 黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を1%未満、赤色スコリアを1%未満含む。締まり強く、粘性やや弱い。
- 4.I0YR3/1 黒褐色土 黒褐色土(I0YR3/1)を10%、粒径1~3mmの大ローム粒を1%未満含む。締まり強く、粘性やや弱い。
- 5.I0YR3/2 黒褐色土 黒褐色土(I0YR3/1)を10%、粒径1~5mmの大ローム粒を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

32号遺構



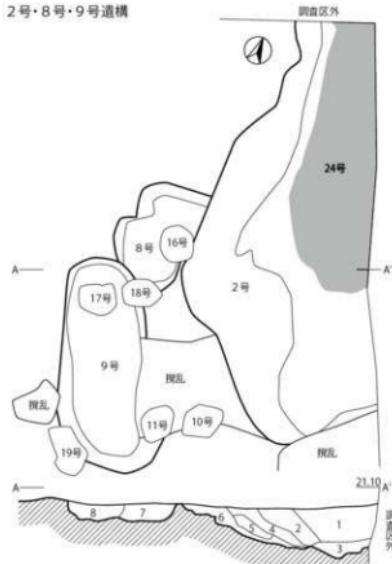
32号遺構

- 1.I0YR3/1 黒褐色土 粒径1~30mmの大ロームブロックを5%含む。締まり強く、粘性やや弱い。
- 2.I0YR3/1 黒褐色土 粒径5~20mmの大ロームブロックを10%含む。締まり強く、粘性やや弱い。
- 3.I0YR3/2 黒褐色土 粒径5~40mmの大ロームブロックを15%含む。締まり強く、粘性やや弱い。
- 4.I0YR3/2 黒褐色土 粒径2~5mmの大ローム粒を2%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
- 5.I0YR3/2 黒褐色土 粒径2~5mmの大ローム粒を1%含む。締まり極めて強く、粘性やや弱い。
- 6.I0YR3/2 黒褐色土 粒径2~7mmの大ローム粒を3%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
- 7.I0YR4/2 にぶい黄褐色土 粒径3~30mmの大ロームブロックを20%含む。締まり強く、粘性やや弱い。
- 8.I0YR4/2 にぶい黄褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを20%含む。締まり強く、粘性やや弱い。
- 9.I0YR3/1 黒褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを1%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。近世の遺物含む。
- 10.I0YR3/1 黒褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を1%含む。締まり弱く、粘性やや弱い。

0 1/40 2m

第132図 20-2・13区 中世の遺構 (1/40)

2号・8号・9号遺構



2号・8号・9号遺構

- 1.IORYR3/2黒褐色土 粒径1~20mmの大ロームブロックを3%, 5~25mmの大ロームブロック(10YR2/1)を2%, 5~20mmの小礫を2%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
2.IORYR3/2黒褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを1%, 2~5mmの砂状化物を1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
3.IORYR3/2/2/1黒褐色土 粒径3~20mmの大ロームブロックを15%, 5~10mmの大ロームブロックを20%含む。締まり弱く、組れやすい。粘性無し。
4.IORYR3/2/2黒褐色土 粒径1~30mmの大ロームブロックを5%含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
5.IORYR3/2黒褐色土 粒径1~50mmの大ロームブロックを5%以上含む。締まり弱く、粘性無し。
6.IORYR3/2黒褐色土 粒径1~8mmの大ロームブロックを2%含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
7.IORYR3/1黒褐色土 粒径3~15mmの大ロームブロックを5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。8号遺構。
8.IORYR3/1黒褐色土 粒径1~20mmの大ロームブロックを5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。9号遺構。

6号遺構



6号遺構

- 1.IORYR3/1黒褐色土 粒径3~10mmの大ロームブロックを5%含む。締まり弱く、粘性無し。
2.IORYR4/3に近い灰黃褐色土 粒径1~30mmの大ロームブロック40%以上含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
3.IORYR4/3に近い灰黃褐色土 粒径1~10mmの大ロームブロック40%以上含む。締まりやや弱く、粘性弱い。

7号遺構

- 1.IORYR3/2黒褐色土 粒径2~15mmの大ロームブロックを3%含む。締まり弱く、粘性弱い。
2.IORYR3/2黒褐色土 粒径2~30mmの大ロームブロック15%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
3.IORYR3/2黒褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロック20%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
4.IORYR4/3に近い灰黃褐色土 粒径3~30mmの大ロームブロック30%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

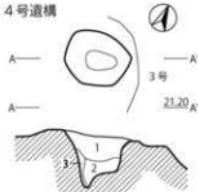
10号・11号遺構

- 1.IORYR3/1黒褐色土 粒径2~15mmの大ロームブロックを5%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
2.IORYR3/1黒褐色土 粒径3~10mmの大ロームブロック5%含む。締まりやや弱く、粘性弱い。

15号遺構

- 1.IORYR3/2黒褐色土 粒径1~5mmの大ローム粘を3%, 2mmの炭化物を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
2.IORYR4/3に近い灰黃褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを25%含む。締まり強く、粘性やや弱い。

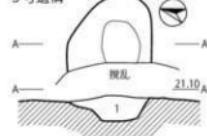
4号遺構



4号遺構

- 1.IORYR3/2黒褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを7%, 7~15mmの炭化物を1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
2.IORYR3/2黒褐色土 粒径1~7mmの大ロームブロックを20%含む。締まり弱く、組れやすい。粘性無し。
3.IORYR3/1黒褐色土 粒径3~10mmの大ロームブロックを10%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

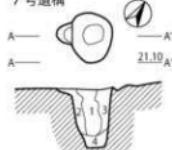
5号遺構



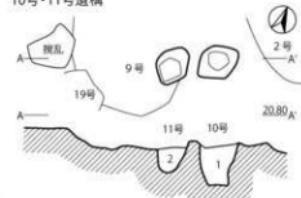
5号遺構

- 1.IORYR3/2黒褐色土 粒径3~30mmの大ロームブロックを15%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

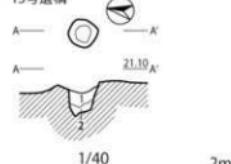
7号遺構



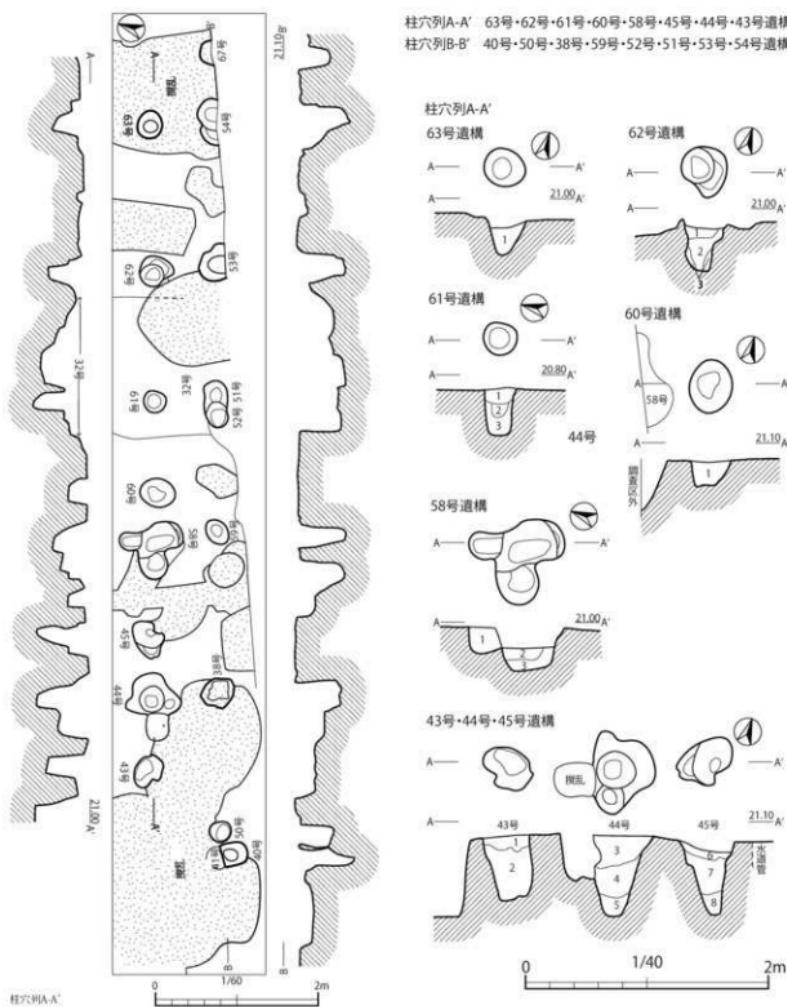
10号・11号遺構



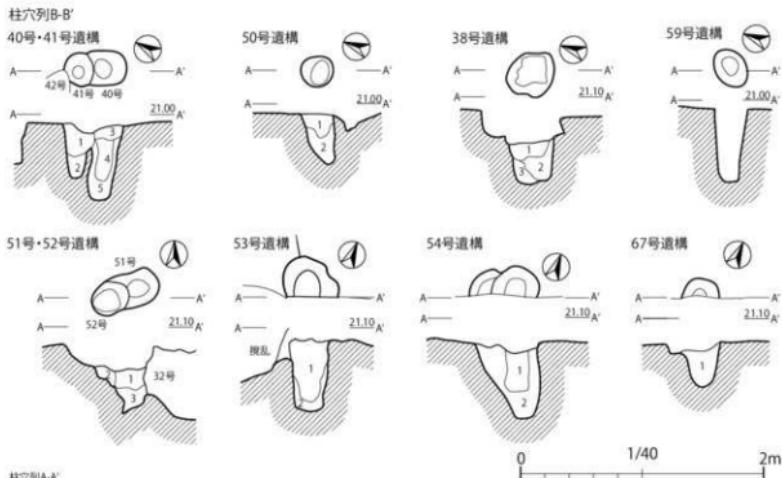
15号遺構



第133図 20-2・13区 近世の遺構（1）（1/40）



第134図 20-2・13区 近世の遺構(2) (1/40・1/60)



柱穴例A-A'

60号遺構

- 1.10YR3/2黒褐色土、粒径2~10mmの大ロームブロックを5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
2.10YR3/2暗褐色土、粒径3~5mmの大ローム粒を2%含む。締まりやや弱く(1層より弱い)、粘性やや強いくらい。

3.10YR4/2赤ぶち黄褐色土、粒径3~20mmの大ロームブロックを20%含む。締まりやや強く、粘性やや強い。

58号遺構

- 1.10YR3/1黒褐色土、粒径1~30mmの大ロームブロックを10%含む。締まりやや弱く、粘性やや強いくらい。(1層相当)
2.10YR3/1黒褐色土、粒径1~3mmの大ローム粒を2%含む。締まりやや弱く(7層より弱い)、粘性弱く。(1層相当)

3.10YR3/1黒褐色土

粒径1~15mmの大ロームブロックを10%含む。締まりやや強く、粘性やや強いくらい。

43号・44号・45号遺構

- 1.10YR3/1黒褐色土、粒径1~30mmの大ロームブロックを5%含む。締まりやや弱く、粘性やや強いくらい。
2.10YR3/1黒褐色土、粒径1~30mmの大ロームブロックを20%、1mm大の赤色スクリューを1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
3.10YR3/1黒褐色土、粒径1~3mmの大ローム粒を2%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱く。
4.10YR2/1黒褐色土、粒径1~10mmの大ロームブロックを5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱く。
5.10YR2/2暗褐色土、粒径1~10mmの大ロームブロックを15%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱く。
6.10YR3/1黒褐色土、粒径1~7mmの大ローム粒を2%含む。3~5mm長の炭化物を1%未満含む。締まり強く、粘性弱い。
7.10YR3/1黒褐色土、粒径1~10mmの大ロームブロックを5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
8.10YR3/1黒褐色土、粒径3~20mmの大ロームブロックを20%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

柱穴例B-B'

40号・41号遺構

- 1.10YR3/1黒褐色土、粒径2~15mmの大ロームブロックを55%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
2.10YR4/2暗褐色土、粒径1~20mmの大ロームブロックを30%含む。締まりやや弱く(1層より弱い)、粘性やや弱く。
3.10YR3/1黒褐色土、粒径1~15mmの大ローム粒を5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱く。

4.10YR3/1黒褐色土、粒径1~3mmの大ローム粒を2%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱く。

5.10YR3/1黒褐色土、粒径1~15mmの大ロームブロックを5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱く。

50号遺構

- 1.10YR3/2黒褐色土、粒径1~15mmの大ロームブロックを20%含む。締まり強く、粘性やや弱い。
2.10YR4/2黒褐色土、粒径1~30mmの大ロームブロックを40%含む。締まり弱く、耐水性なし。

38号遺構

- 1.2.5YR3/2黒褐色土、粒径3~5mmの大ローム粒を2%含む。締まり3~5mm長の炭化物を1%未満含む。2~3mmの大燒土粒を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
2.2.5YR3/2黒褐色土、粒径2~10mmの大ロームブロックを5%含む。締まり弱く、粘性弱く。

3.2.5YR4/2暗黄褐色土、粒径1~20mmの大ロームブロックを20%含む。締まり弱く、粘性やや弱く。

51号・52号遺構

- 1.10YR4/3c-5赤い黄褐色土、粒径1~30mmの大ロームブロックを30%以上含む。締まり強く、粘性強いくらい。
2.10YR2/2暗褐色土、粒径1~40mmの大ロームブロックを25%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱く。
3.10YR2/2黒褐色土、粒径1~100mmの大ロームブロックを50%以上含む。締まり強く、粘性強いくらい。

53号遺構

- 1.10YR3/1黒褐色土、粒径1~20mmの大ロームブロックを7%、3~5mm長の炭化物を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
2.10YR3/1黒褐色土、粒径5~30mmの大ロームブロックを20%含む。締まり強く、粘性やや弱い。

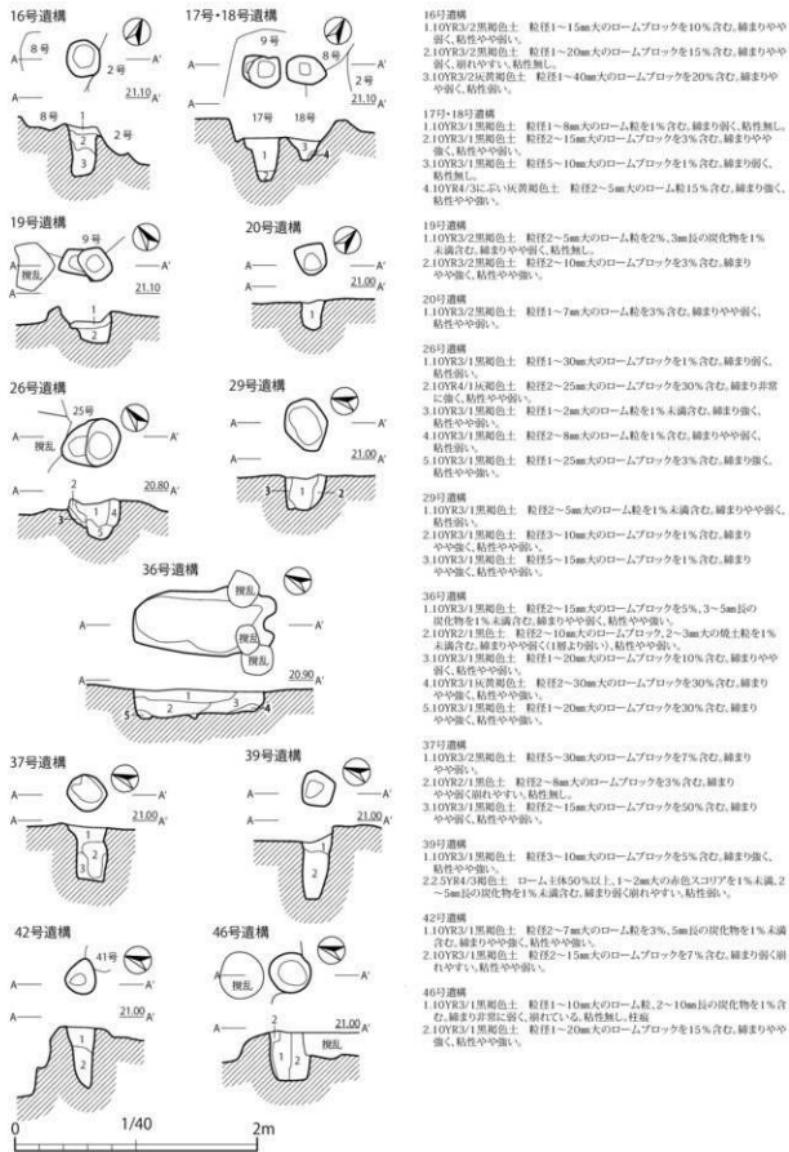
54号遺構

- 1.10YR3/1黒褐色土、粒径3~8mmの大ロームブロックを2%含む。締まり弱く崩れやすい。粘性弱い。
2.10YR3/1黒褐色土、粒径1~30mmの大ロームブロックを10%含む。締まり強く、粘性やや強いくらい。

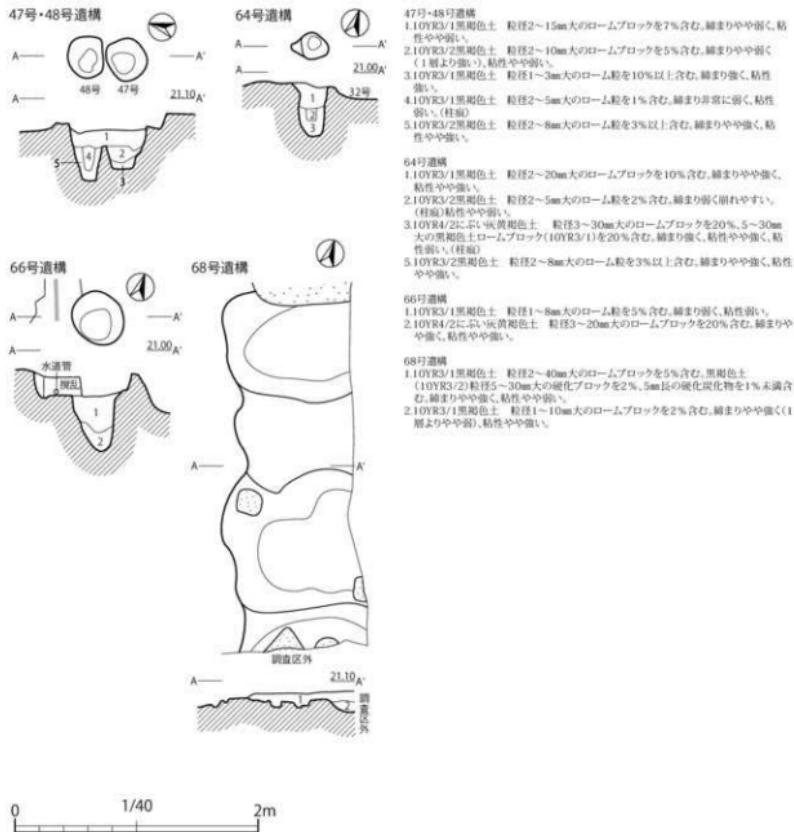
67号遺構

- 1.10YR3/1黒褐色土、粒径1~20mmの大ロームブロックを30%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

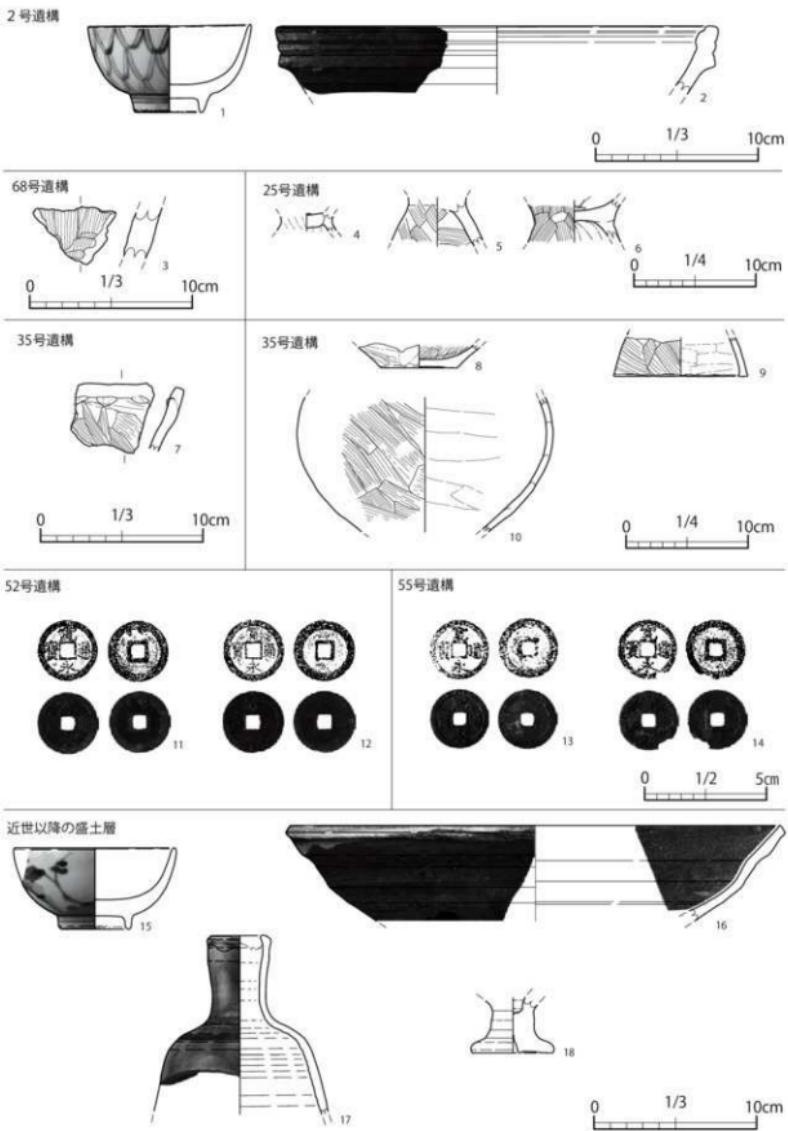
第135図 20-2・13区 近世の遺構（3）(1/40・1/60)



第136図 20-2・13区 近世の遺構 (4) (1/40)



第137図 20-2・13区 近世の遺構（5）（1/40）

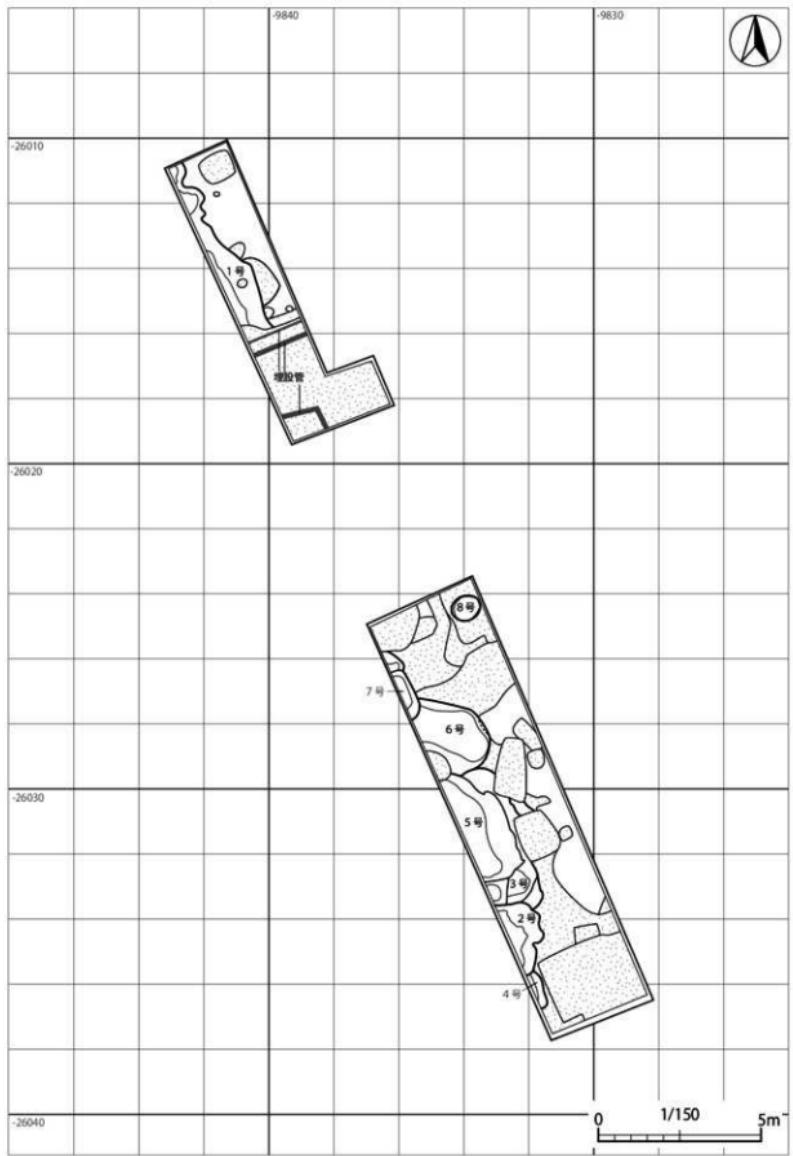


第138図 20-2・13区 出土遺物 (1/2・1/3・1/4)

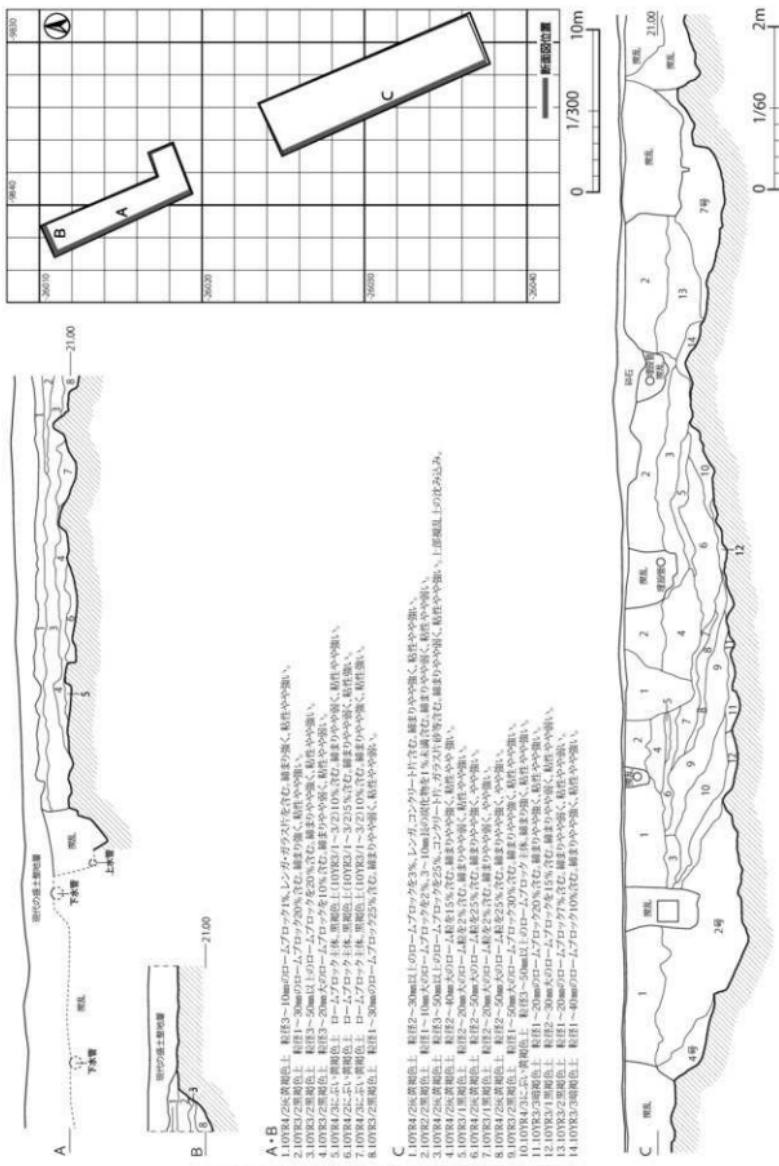
R2-1 区



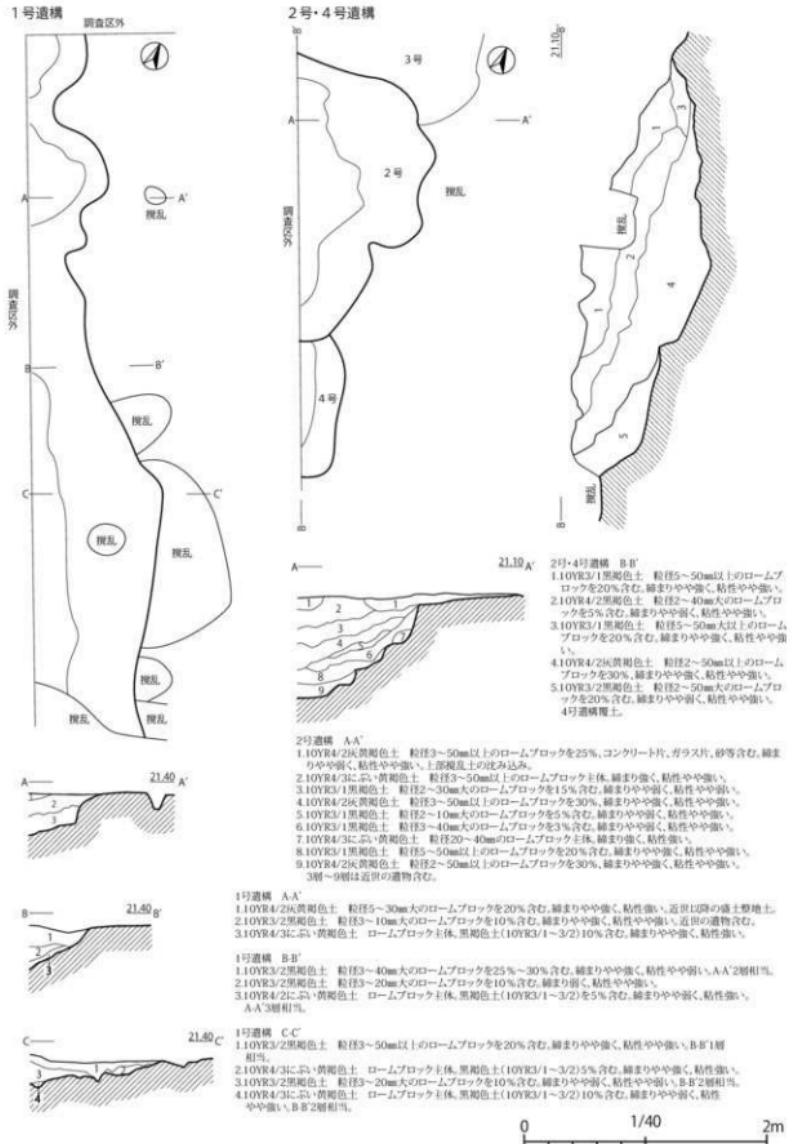
第 139 図 R2-1 区 調査区位置 (1/400)



第 140 図 R2-1 区 遺構全体図 (1/150)

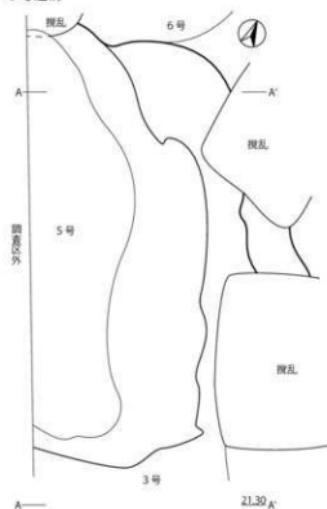


第141図 R2-1区 基本層序 (1/60・1/300)

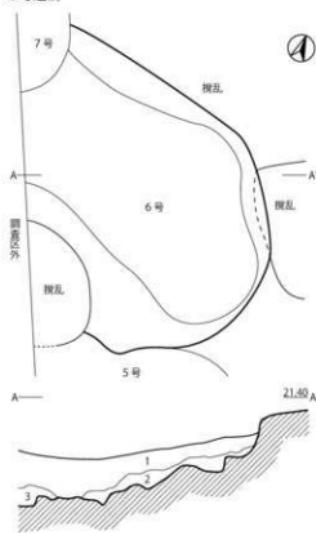


第142図 R2-1区 近世以降の遺構（1）(1/40)

5号遺構



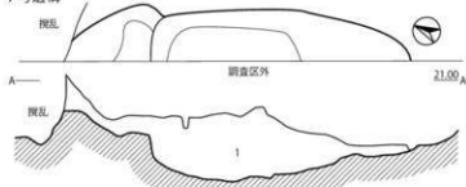
6号遺構



5号遺構

- 1.OYR4/2灰黃褐色土 粒径3~40mm大以上のロームブロックを7%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 2.OYR3/2黒褐色土 粒径5~40mm大以上のロームブロックを40%含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。
- 3.OYR3/1黒褐色土 粒径2~20mmのロームブロックを5%含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。
- 4.OYR4/1黒褐色土 粒径3~50mm大以上のロームブロックを20%含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。
- 5.OYR3/2黒褐色土 粒径2~10mm大のロームブロックを2%含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。
- 6.OYR3/2黒褐色土 粒径2~40mm大のロームブロックを40%含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
- 7.OYR4/3(下) 黄褐色土 粒径2~30mm大のロームブロック1体。締まり強く、粘性やや強い。

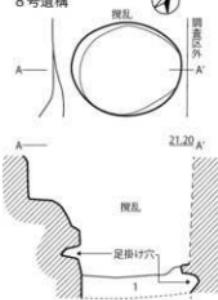
7号遺構



7号遺構

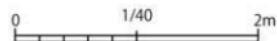
- 1.OYR4/3(上) 黄褐色土 ロームブロック1体。灰黃褐色土(10YR4/3)15%含む。締まりやや強く、粘性強い。近世の遺物のみ含む。

8号遺構



8号遺構

- 1.OYR4/1黒褐色土 粒径2~10mm大のロームブロックを1%以下、5~15mmのロームブロックを1%以下含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。近世の遺物含む。近世の柱跡。



第143図 R2-1区 近世以降の遺構（2）（1/40）

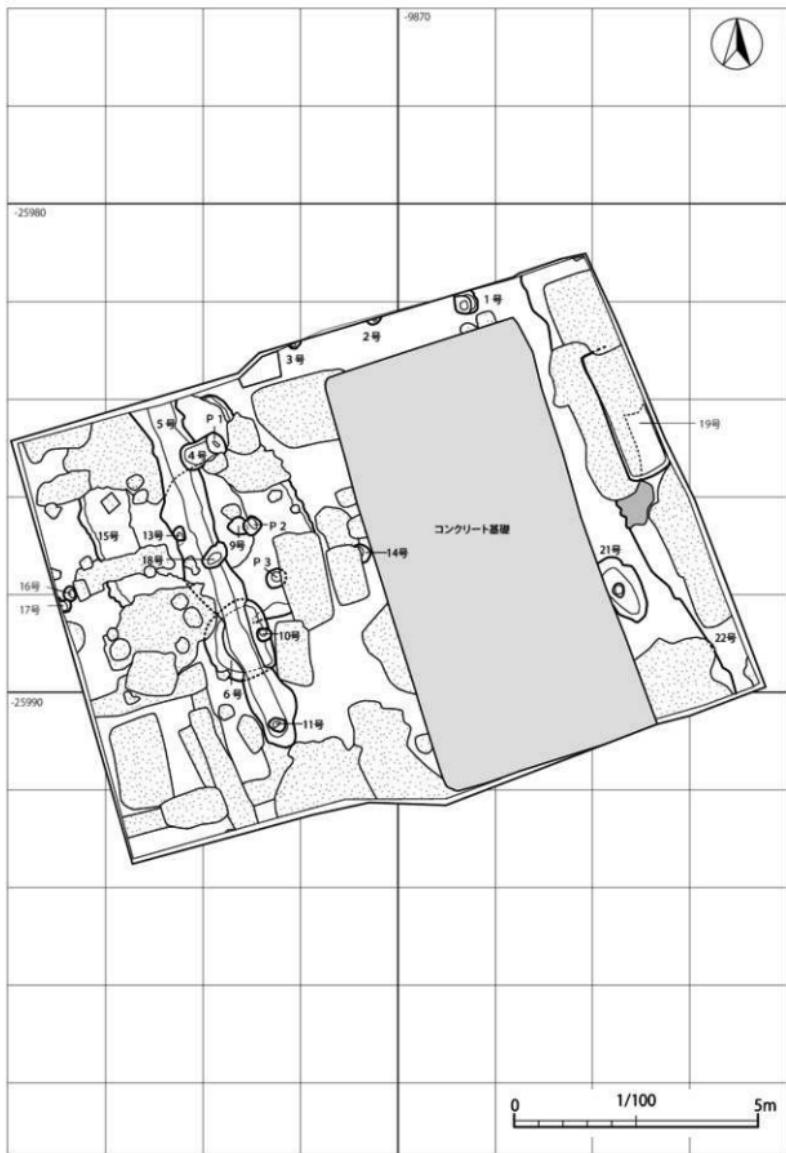


第144図 R2-1区 出土遺物 (1/3)

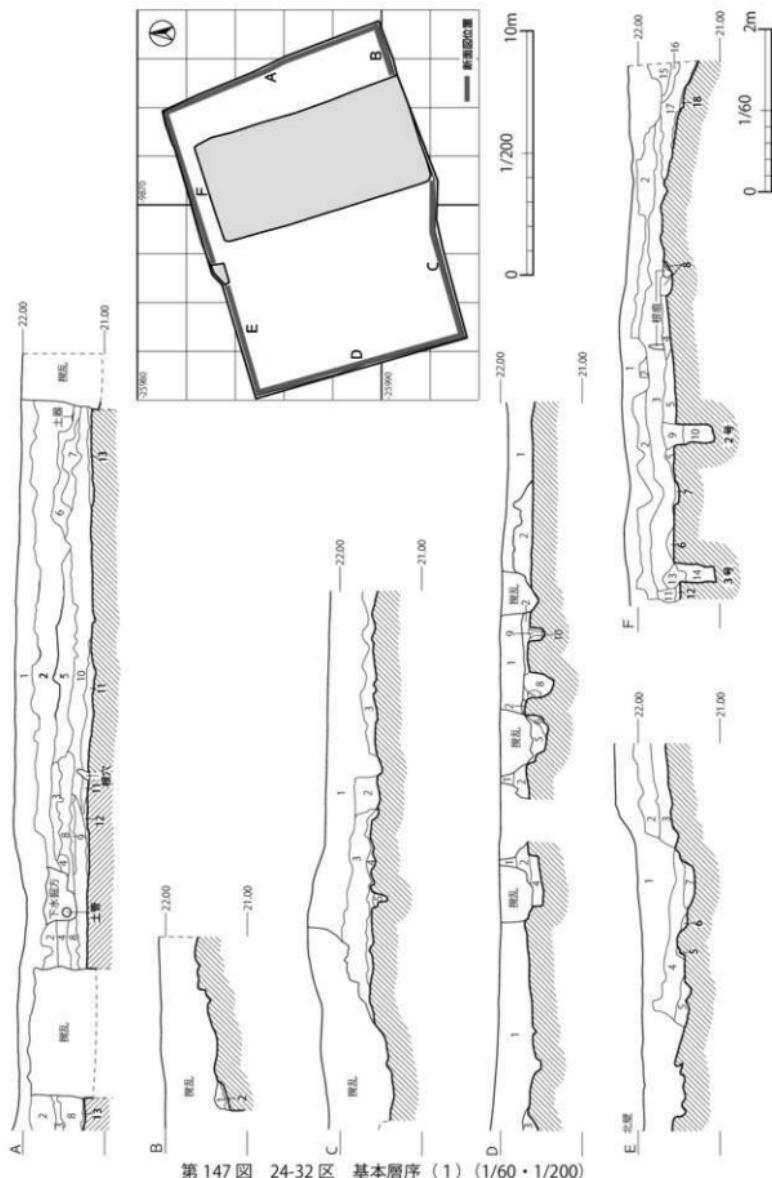
24-32 区



第145図 24-32区 調査区位置 (1/400)



第 146 図 24-32 区 遺構全体図 (1/100)



A

- 1.現代の盛土整地地
2.10YR4/2_c黄褐色土 粒径2~15mmの大ロームブロックを2%。2~10mm長の炭化物を1%。2~10mm大的灰褐色粘土（10YRS/1~4/1）1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
3.10YR4/2灰褐色粘土 粒径2~20mm大のロームブロックを3%。3~10mm大的灰褐色粘土（10YRS/1~4/1）1%，レンガ片含む。締まりやや弱く（2層より強い）。粘性やや弱い。
4.10YR4/2_c黄褐色土 粒径2~10mm大的ロームブロックを1%。2~5mm長の炭化物を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
5.10YR4/2_c黄褐色土 粒径2~15mmの大ロームブロックを2%。5~20mm大的黒褐色土（10YR3/1）ブロックを2%。2~5mm長の炭化物を1%未満含む。
6.10YR4/2_c黄褐色土 粒径2~10mm大的ロームブロックを2%。2~5mm長の炭化物を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
7.10YR3/1黒褐色土 粒径2~5mm大的ローム粘土を2%。1~2mm長の炭化物を1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
8.10YR3/1黒褐色土 粒径2~5mm大的ローム粘土を1%。1mm太溝の赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
9.10YR3/2黒褐色土 粒径2~10mm大的ロームブロックを2%。1mm太溝の赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
10.10YR2/1黒褐色土 粒径1~5mm大的ローム粘土を2%。5~10mm大的黒褐色土（10YR3/3）ブロックを1%。1mm未満の赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや強く、粘性強い。
11.10YR2/1黒褐色土 粒径1~5mm大的ローム粘土を2%。5~10mm大的黒褐色土（10YR3/3）ブロックを1%。1mm未満の赤色スコリアを1%未満含む。締まり非常に強く、粘性強い。硬化面。
12.10YR2/1_cふじ黄褐色土 ローム主体、黒褐色土（10YR2/1）を30%含む。締まり強く、粘性やや弱い。

B

- 1.10YR2/1~3/1黒褐色土 粒径1~10mm大のロームブロックを5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
2.10YR4/3_cふじ黄褐色土 ローム主体、黒褐色土（10YR2/1）を30%含む。締まり強く、粘性やや弱い。

C

- 1.10YR4/2_c黄褐色土 現代の盛土整地土。
2.10YR2/1黒褐色土 粒径2~15mmの大ロームブロックを3%。3~10mm長の炭化物を1%未満、鉄石、レンガ片、ガラス片含む。締まり強く、粘性やや弱い。近代の盛土整地用材め。
3.10YR3/2黒褐色土 粒径3~20mm大のロームブロックを2%。5~20mm長の炭化物を1%未満、レンガ片、ガラス片含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。近代の盛土整地用材。
4.10YR3/2黒褐色土 粒径2~30mm大のロームブロックを15%。3~10mm長の炭化物を1%未満、締まり弱く、粘性やや弱い。（1~3層に比べソボソボ。耕作土か？）
5.10YR3/1黒褐色土 粒径3~5mmの大ローム粘土を2%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。根付。

D

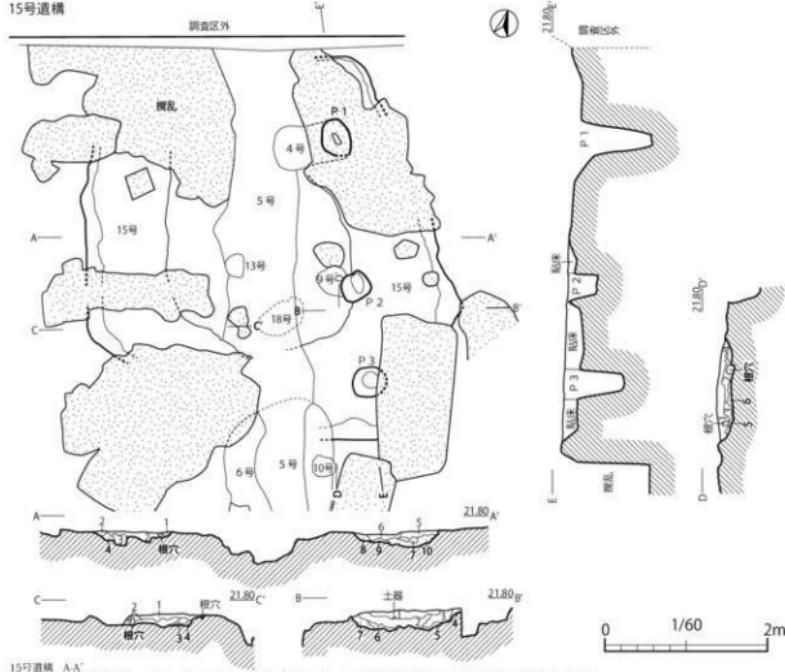
- 1.現代の盛土整地地
2.10YR2/2_c黒褐色土 粒径2~20mm大のロームブロックを2%。3~20mm長の炭化物を1%未満、レンガ片、土質、近代瓦含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。近代の盛土整地地。
3.10YR2/2_c黒褐色土 粒径2~20mm大のロームブロックを2%。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
4.10YR2/2_c黒褐色土 粒径3~5mmの大ロームブロックを2%。レンガ片、ガラス片含む。豆材基礎脚部。
5.10YR4/2_c黄褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを20%。レンガ片等含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
6.10YR4/3_cふじ 黄褐色土 ロームブロック主体、黄褐色土（10YR3/1）を20%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
7.10YR4/2_c黄褐色土 粒径2~10mm大的ローム粘土を10%含む。幅3~4cmの木杭盛り。近代の柱穴式柵庭。
8.10YR3/1黒褐色土 粒径3~10mm大的ロームブロックを2%。3~30mm大的黒褐色土（10YR2/1）を3%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。（柱頭）
9.10YR3/2黒褐色土 粒径1~5mm大的ローム粘土を1%。2~5mm長の炭化物を1%未満、締まりやや弱く、粘性やや弱い。
10.10YR4/2_c黄褐色土 粒径3~10mm大的ロームブロックを2%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

E

- 1.現代の盛土整地地
2.10YR3/2黒褐色土 粒径2~5mmの大ローム粘土を1%含む。締まり弱く、粘性やや弱い。
3.10YR3/2_c黒褐色土 粒径2~20mm大的ロームブロック3%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
4.10YR2/2_c黒褐色土 粒径2~5mmの大ローム粘土を1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
5.10YR4/3_cふじ 黄褐色土 粒径3~30mmの大ロームブロックを25%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
6.10YR3/1黒褐色土 粒径1~3mmの大ローム粘土を1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
7.10YR3/2黒褐色土 粒径1~30mm的大のロームブロック5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

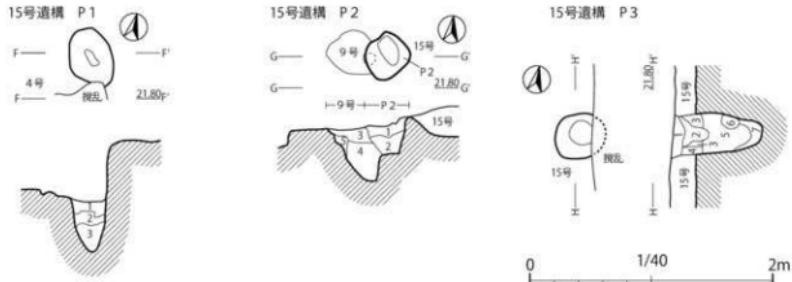
F

- 1.現代の整地層 砂利、瓦礫、プラスチック等を多量に含む。
2.10YR4/3_cふじ 黄褐色土 粒径5~30mm大的ロームブロックを10%。3~10mm長の炭化物を3%。5~50mm大的砂利を5%含む。締まり極めて強く、粘性弱い。
やや砂利。 近現代の整地層
3.10YR3/4_c黒褐色土 粒径1~50mmの大ロームブロックを7%。黒褐色土ブロック（10YR2/3）を2%含む。締まりやや強く、1号道構より東では強い。粘性やや強い。
近現代の柱穴式柵庭
4.10YR2/2_c黒褐色土 粒径1~30mm大的ロームブロックを10%。黒褐色土（10YR2/3）を複数に20%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。3層と5層の混凝による層と思われる。
5.10YR2/3_c黒褐色土 粒径1~5mmの大ローム粘土を1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
6.10YR2/3_c黒褐色土 粒径1~50mmの大ロームブロックを15%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
7.10YR3/3_c黒褐色土 粒径1~40mmの大ロームブロックを20%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
8.10YR3/4_c黒褐色土 粒径1~10mmの大ローム粘土を10%。3mm大に広い黄褐色土（10YR4/3）を1%含む。締まりやや強く、粘性強い。1号道構の最上部。
9.10YR3/3_c黒褐色土 粒径2~50mmの大ロームブロックを20%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。（下部にやや集中）。
10.10YR3/4_c黒褐色土 粒径1~10mmの大ローム粘土を7%含む。締まり弱くない。粘性やや弱い。9、10層は3層の整地に先立ってほぼ同時に2号道構を人為的に埋め廻したことによってできだと考えられる。
11.10YR4/3_cふじ 黄褐色土 粒径1~5mmの大ローム粘土を10%。小碎を含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。近代以降の人の為的な埋め廻し土壁。
12.10YR3/8_c黒褐色土 不規則な粒度の黄褐色土（10YR4/3）複数に10%含む。締まり強く、粘性やや弱い。埋め廻しによるロームブロック土体解。近代以降の人の為的な埋め廻し土壁。
13.10YR4/4_cふじ 黄褐色土 粒径2~70mm大的ロームブロックを25%。陶器陶瓦を含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
14.10YR3/3_c黒褐色土 粒径2~20mm大のロームブロックを10%。10~20mm大的黄褐色土（10YR3/4）ブロックを10%（東京駅前に集中）含む。締まりやや弱く、粘性強い。12、14層は、3号道構をば回時に埋め廻した人為的、14層に含まれる黒褐色土（10YR3/4）のブロックは、本来柱穴として機能していた場に突き固められていた層に由来する可能性あり。
15.10YR4/2_c黒褐色土 粒径2~15mmの大ロームブロックを2%。2~10mm長の炭化物を1%。2~10mm大的灰褐色粘土（10YRS/1~4/1）1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
16.10YR2/2_c黒褐色土 粒径2~20mm大のロームブロックを3%。3~10mm大的灰褐色粘土（10YR5/1~4/1）1%，レンガ片含む。締まりやや弱く（15層より強い）。粘性やや弱い。
17.10YR3/1黒褐色土 粒径2~5mmの大ローム粘土を1%。1mm未満の赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
18.10YR4/3_cふじ 黄褐色土 ローム主体、黒褐色土（10YR2/1）を30%含む。締まり強く、粘性やや弱い。



- 15号遺構 A-A'
- 1.10YR4/3C-3E-5E 黄褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを5%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満含む。締まり強く、粘性やや強い。
 - 2.10YR3/3E-3W 黄褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを5%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満、1~2mmの大黒色粒を2%含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
 - 3.10YR3/2E 黄褐色土 粒径2~30mmの大ロームブロックを15%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満、1~2mmの大黒色粒を2%含む。締まりやや弱く(2割り弱い)、粘性やや弱い。
 - 4.10YR4/3C-3E-5E 黄褐色土 粒径5~40mmの大ロームブロックを40%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満、1~2mmの大黒色粒を1%含む。締まり強く、粘性やや強い。
 - 5.10YR4/3C-3E-5E 黄褐色土 粒径5~30mmの大ロームブロックを5%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満、1~2mmの大黒色粒を1%含む。締まり非常に強く、粘性やや強い。
 - 6.10YR3/2E 黄褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを5%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満、1~2mmの大黒色粒を2%含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
 - 7.10YR3/2E 黄褐色土 粒径2~10mmの大ロームブロックを5%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満、1~2mmの大黒色粒を2%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。筋のビード感で弱くなっている。
 - 8.10YR4/3C-3E-5E 黄褐色土 粒径5~10mmの大ロームブロックを5%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満、1mmの大黒色粒を1%含む。締まり非常に強く、粘性やや強い。
 - 9.10YR4/3C-3E-5E 黄褐色土 粒径20~40mmの大ロームブロック主体、1mmの大赤色スコリアを1%未満、1~2mmの大黒色粒を1%含む。締まり非常に強く、粘性やや弱い。
 - 10.10Y3/4E 黄褐色土 粒径2~20mmの大ロームブロックを15%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満、1~3mmの大黒色粒を2%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
- 15号遺構 B-B'
- 1.10YR4/3C-3E-5E 黄褐色土 粒径2~15mmの大ロームブロックを5%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満、1~3mmの大黒色粒を1%含む。締まり非常に強く、粘性やや強い。
 - 2.10YR3/3E 黄褐色土 粒径2~40mmの大ロームブロックを10%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満、1~3mmの大黒色粒を2%、黒色土(10YR2/1)を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 - 3.10YR3/3E 黄褐色土 粒径2~30mmの大ロームブロックを10%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満、1~2mmの大黒色粒を2%, 1~2mmの大赤褐色粒(鉛分の凝集粒)を1%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 - 4.10YR4/3C-3E-5E 黄褐色土 粒径5~30mmの大ロームブロック主体、1mmの大赤色スコリアを1%未満、1~2mmの大黒色粒を1%含む。締まり非常に強く、粘性やや強い。
 - 5.10YR4/3C-3E-5E 黄褐色土 粒径5~20mmの大ロームブロック主体、1mmの大赤色スコリアを1%未満、1~3mmの大黒色粒を1%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 - 6.10YR4/3C-3E-5E 黄褐色土 粒径5~20mmの大ロームブロックを40%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満、1~2mmの大黒色粒を1%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 - 7.10YR4/3C-3E-5E 黄褐色土 粒径5~40mmの大ロームブロック主体、1mmの大赤色スコリアを1%未満含む。締まり強く、粘性やや弱い。
- 15号遺構 C-C'
- 1.10YR4/3C-3E-5E 黄褐色土 粒径3~20mmの大ロームブロックを5%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満、1~2mmの大黒色粒を1%含む。締まり非常に強く、粘性やや強い。
 - 2.10YR3/3E 黄褐色土 粒径2~30mmの大ロームブロックを15%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満、1~2mmの大黒色粒を3%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 - 3.10YR4/3C-3E-5E 黄褐色土 粒径5~20mmの大ロームブロックを20%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満、1~3mmの大黒色粒を2%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 - 4.10YR4/3C-3E-5E 黄褐色土 ローム主体、暗褐色土(10YR3/3)を15%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満、1~2mmの大黒色粒を1%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
- 15号遺構 D-D'
- 1.10YR4/3C-3E-5E 黄褐色土 粒径5~20mmの大ロームブロックを5%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満、1mmの大黒色粒を1%含む。締まり非常に強く、粘性やや強い。
 - 2.10YR3/3E 黄褐色土 粒径2~40mmの大ロームブロックを10%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満、1~3mmの大黒色粒を2%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 - 3.10YR4/3C-3E-5E 黄褐色土 粒径5~20mmの大ロームブロックを40%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満、1~2mmの大黒色粒を1%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 - 4.10YR4/3C-3E-5E 黄褐色土 粒径5~30mmの大ロームブロックを40%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満、1mmの大黒色粒を1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 - 5.10YR4/3C-3E-5E 黄褐色土 粒径5~20mmの大ロームブロックを40%, 1mmの大赤色スコリアを1%未満、1~2mmの大黒色粒を1%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 - 6.10YR4/3C-3E-5E 黄褐色土 粒径5~30mmの大ローム主体、1mmの大赤色スコリアを1%未満、1mmの大黒色粒を1%未満含む。締まり強く、粘性強い。

第148図 24-32区 弥生時代の遺構（1）(1/60)



15号遺構 P 1 F-F'

1. 10YR3/2黒褐色土 粒径5～50mm大のロームブロックを40%含む。締まり強く、粘性やや弱い。

2. 10YR3/2黒褐色土 粒径5～50mm大のロームブロックを40%含む。締まりやや弱く、ブロック間に崩れる。粘性強い。

3. 10YR3/2黒褐色土 粒径5～50mm大のロームブロックを40%以上含む。締まり弱く、崩れやすい。粘性強い。

15号遺構 P 2 G-G'

1. 10YR3/2黒褐色土 粒径2～20mm大のロームブロックを5%、5～30mm大の砂質褐色土 (10YR4/2) ブロックを2%含む。締まり弱く、粘性やや弱い。

2. 10YR3/2黒褐色土 粒径1～5mm大のローム土を3%、3～20mm大の砂質褐色土 (10YR4/2) ブロックを1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

3. 10YR3/2黒褐色土 粒径2～10mm大のローム土ブロックを3%、3～20mm大の砂質褐色土 (10YR4/2) ブロックを2%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

4. 10YR3/2黒褐色土 粒径1～20mm大のロームブロックを2%、3～20mm大の砂質褐色土 (10YR4/2) ブロックを2%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

5. 10YR3/2黒褐色土 粒径1～5mm大のローム粒を3%含む。締まり弱く崩れやすい。粘性弱い。

15号遺構 P 3 H-H'

1. 10YR4/2黒褐色土 粒径1～10mm大のロームブロックを5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。表土染み込み。

2. 10YR3/2黒褐色土 粒径1～3mm大のロームブロックを5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。柱状。

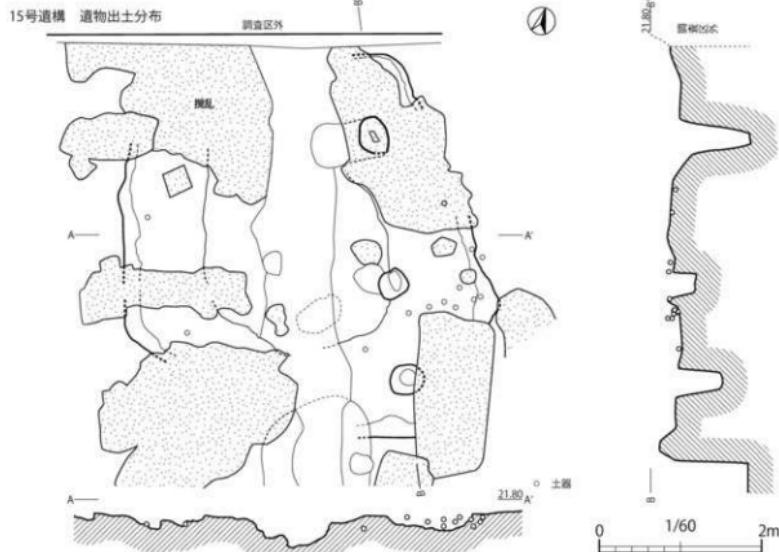
3. 10YR3/2黒褐色土 粒径1～3mm大のロームブロックを5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。柱状。

4. 10YR3/2黒褐色土 粒径2～20mm大のロームブロックを20%含む。締まりやや強く、下部は軟化している。粘性やや弱い。裏込め。

5. 10YR3/2黒褐色土 粒径2～30mm大のロームブロックを40%以上含む。締まりやや強く、下部は弱い。粘性やや弱い。

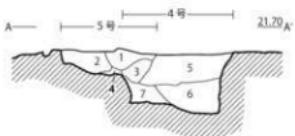
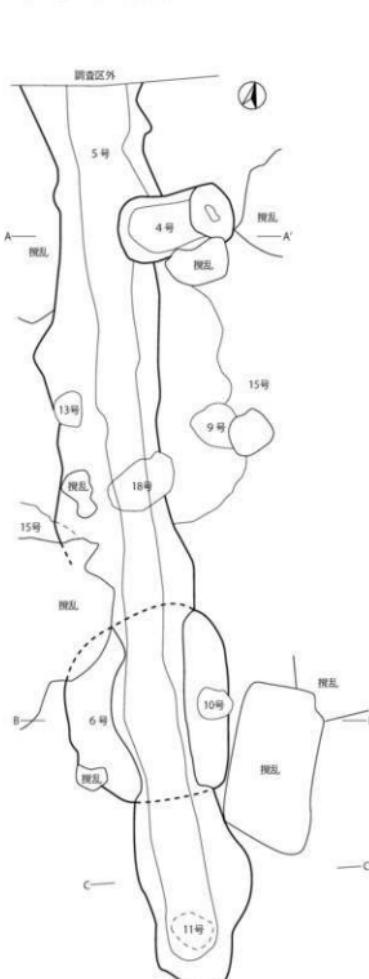
6. 10YR3/2黒褐色土 粒径2～5mm大のロームブロックを10%含む。締まりやや強く、下部は弱い。粘性やや弱い。

7. 10YR3/2黒褐色土 粒径2～20mm大のロームブロックを20%含む。締まり極めて強く、粘性強い。

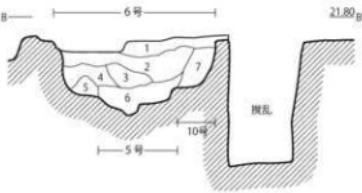


第149図 24-32区 弥生時代の遺構（2）(1/40・1/60)

4号・5号・6号・10号遺構



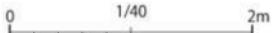
4号・5号遺構 A-A'
1.10YR4/1(黒褐色土 粒径1~50mm大的ロームブロックを40%含む。縮まりやや強く、粘性やや強い)。
2.10YR4/2(黒褐色土 粒径1~20mm大的ロームブロックを7%含む。縮まりやや弱く、粘性やや弱い)。
3.10YR4/3(黒褐色土 粒径1~10mm大的ロームブロックを5%含む。縮まりやや弱く、粘性やや弱い)。
4.10YR4/4(黒褐色土 粒径5~30mm大的ロームブロックを40%含む。縮まりやや強く、粘性やや強い)。
5.10YR4/5(黒褐色土 粒径2~20mm大的ロームブロックを3%、2~5mm長の炭化物を1%未満。20~40mm大的黄褐色土(10YR4/2)ブロックを1%含む)。
6.10YR3/1(黒褐色土 粒径1~10mm大的ロームブロックを3%、2~3mm長の炭化物を1%未満含む。縮まりやや強く、粘性やや強い)。
7.10YR3/2(黒褐色土 粒径1~20mm大的ロームブロックを5%、2~3mm長の炭化物を1%未満含む。縮まりやや弱く、粘性やや強い)。



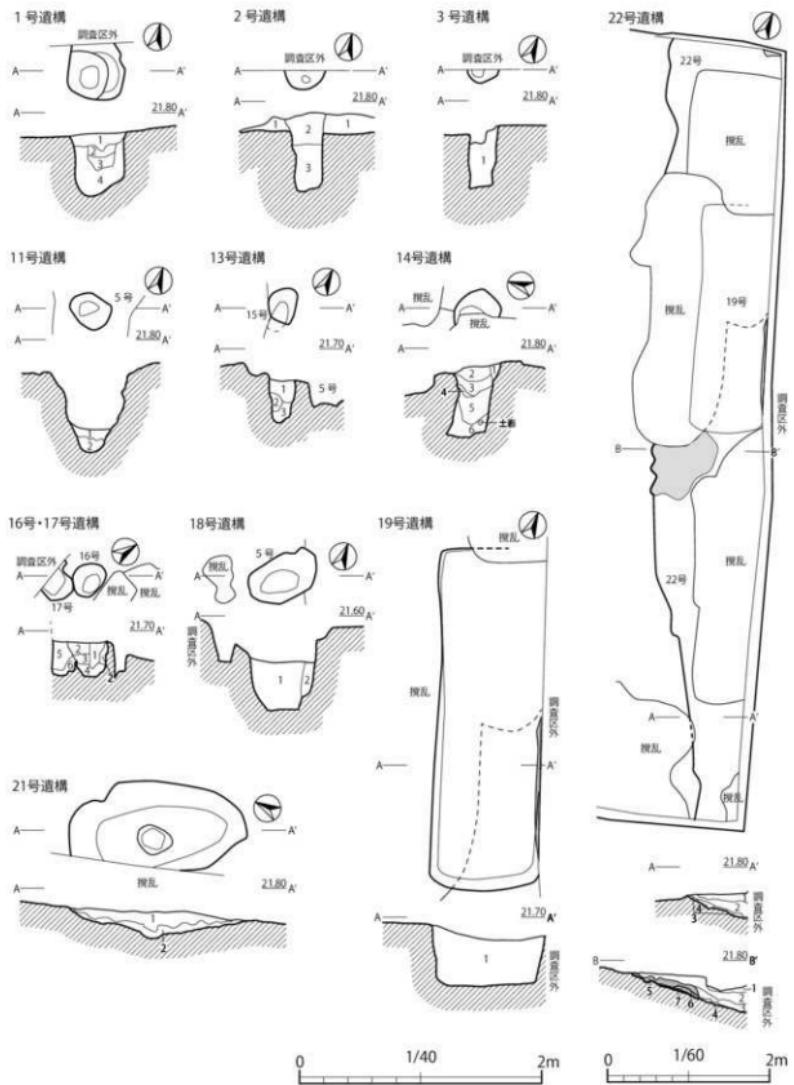
5号・6号・10号遺構 B-B'
1.10YR3/1(黒褐色土 粒径1~20mm大的ロームブロックを2%含む。5~10mm大的炭化物土(10YR5/1)ブロックを1%未満含む。縮まり弱く、粘性やや強い)。
近現代埴地土。
2.10YR3/2(黒褐色土 粒径1~15mm大的ロームブロックを3%、5~10mm長の炭化物を1%未満含む。縮まりやや強く、粘性やや強い)。
3.10YR2/2(黒褐色土 粒径2~10mm大的ロームブロックを2%含む。縮まり弱く、粘性やや強い)。
4.10YR2/3(黒褐色土 粒径1~15mm大的ロームブロックを5%含む。縮まりやや弱く、粘性やや強い)。
5.10YR4/2(黄褐色土 ロームブロック主体。黒褐色土(10YR3/1)を30%含む。縮まりやや弱く、粘性強い)。
6.10YR3/3(黒褐色土 粒径1~30mm大的ロームブロックを15%含む。縮まりやや弱く、粘性強い)。
7.10YR2/2(黒褐色土 粒径2~10mm大的ロームブロックを2%含む。縮まりやや弱く、粘性やや弱い)。



5号遺構 C-C'
1.10YR3/1(黒褐色土 粒径1~30mm大的ロームブロックを3%、3~5mm長の炭化物を1%未満。5~10mm大的炭化物土ブロック(10YR5/1)を1%含む)。
縮まりやや弱く、粘性やや強い。近現代埴土。
2.10YR3/2(黒褐色土 粒径1~30mm大的ロームブロックを5%、2~5mm長の炭化物を1%未満含む。縮まりやや弱く、粘性やや強い)。
3.10YR3/3(黒褐色土 粒径1~15mm大的ロームブロックを3%、5mm長の炭化物を1%未満含む。縮まりやや弱く、粘性やや強い)。
4.10YR3/2(黒褐色土 粒径1~30mm大的ロームブロックを5%含む。縮まりやや弱く、粘性強い)。



第150図 24-32区 近世の遺構 (1) (1/40)



第151図 24-32区 近世の遺構(2) (1/40・1/60)

1号遺構

- 1.10YR4/2灰黄褐色土、粒径1~10mmの大ロームブロックを5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱く、表土染み込み。
 2.10YR4/3; 黄褐色土、粒径5~20mmの大ロームブロックを40%以上含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
 3.10YR3/1黒褐色土、粒径2~10mmの大ロームブロックを3%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 4.10YR4/3にぶい黄褐色土、ロームブロック主。締まり強く、粘性やや強い。

2号遺構

- 1.10YR4/3にぶい黄褐色土、粒径3~30mmの大ロームブロックを25%含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
 2.10YR3/3暗褐色土、粒径2~50mmの大ロームブロックを20%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 3.10YR3/3暗褐色土、粒径1~10mmの大ローム粒子を7%含む。締まり弱く弱い、粘性やや弱い。

3号遺構

- 1.10YR3/3暗褐色土、粒径2~20mmの大ロームブロックを10%、10~50mmの大暗褐色土ブロック(10YR3/4)を10%含む。締まりやや強く、粘性強い。

4号遺構

- 1.10YR4/2灰黄褐色土、粒径2~50mmの大ロームブロックを20%含む。下部にやや集中。締まり強く、粘性弱い。
 2.10YR3/3暗褐色土、粒径2~50mmの大ロームブロックを30%含む。締まりやや弱く、ブロック状に崩れやすい。粘性弱い。

5号遺構

- 1.10YR3/3暗褐色土、粒径2~50mmの大ロームブロックを5%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 2.10YR2/2暗褐色土、粒径2~30mmの大ロームブロックを5%含む。締まりやや弱く、崩れやすい。粘性やや弱い。
 3.10YR3/3暗褐色土、粒径1~5mmの大ローム粒子を30%含む。締まりやや強く、粘性強い。

6号遺構

- 1.10YR3/2灰褐色土、粒径1~10mmの大ローム粒子を30%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 2.10YR2/2暗褐色土、粒径1~10mmの大ローム粒子を10%~10~20mmの炭化物を含む。締め合ひ。セメント用白色土を2%含む。締まり強く、粘性弱い。
 3.10YR2/2暗褐色土、粒径1~5mmの大ローム粒子を5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 4.10YR2/2暗褐色土、粒径1~5mmの大ローム粒子を5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 5.10YR3/3暗褐色土、粒径2~50mmの大ロームブロックを25%含む。締まり極めて強く、粘性やや弱い。
 6.10YR3/3暗褐色土、粒径2~50mmの大ロームブロックを25%含む。締まり弱く崩れやすい。粘性やや弱い。

16号・17号遺構

- 1.10YR3/2灰褐色土、粒径1~3mmの大ローム粒子を30%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。柱状か。
 2.10YR2/2暗褐色土、粒径2~20mmの大ロームブロックを30%含む。締め合ひ。粘性やや弱い。
 3.10YR2/2暗褐色土、粒径1~5mmの大ローム粒子を5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 4.10YR2/2暗褐色土、粒径1~5mmの大ローム粒子を40%以上含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 5.10YR3/2暗褐色土、粒径1~3mmの大ローム粒子を5%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 6.10YR3/2黒褐色土、粒径1~10mmの大ロームブロックを15%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

18号・19号遺構

- 1.10YR4/2灰褐色土、粒径2~50mmの大ロームブロックを40%以上含む。締まり強いが、部分的に崩れやすい。粘性やや弱い。
 2.10YR2/2黒褐色土、粒径2~30mmの大ロームブロックを30%含む。締まり弱く崩れやすい。粘性弱い。

19号遺構

- 1.10YR3/2黒褐色土、粒径1~30mmの大ロームブロックを7~10%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

21号遺構

- 1.10YR2/2黒褐色土、粒径3~15mmの大ロームブロックを3%、1mm未満の赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 2.10YR3/3暗褐色土、粒径3~20mmの大ロームブロックを15~20%、1mm未満の赤色スコリアを1%未満含む。締まり強く、粘性やや弱い。

22号遺構 A-A'

- 1.10YR3/1黒褐色土、粒径1~5mmの大ローム粒子を1%、灰黄褐色土(10YR4/3)を5%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 2.10YR2/1~3/1黒褐色土、粒径2~10mmの大ロームブロックを5%含む。締まり弱く、粘性やや弱い。

- 3.10YR4/3にぶい黄褐色土、ローム主体、黑色土(10YR2/1)を10%含む。締まり強く、粘性弱い。

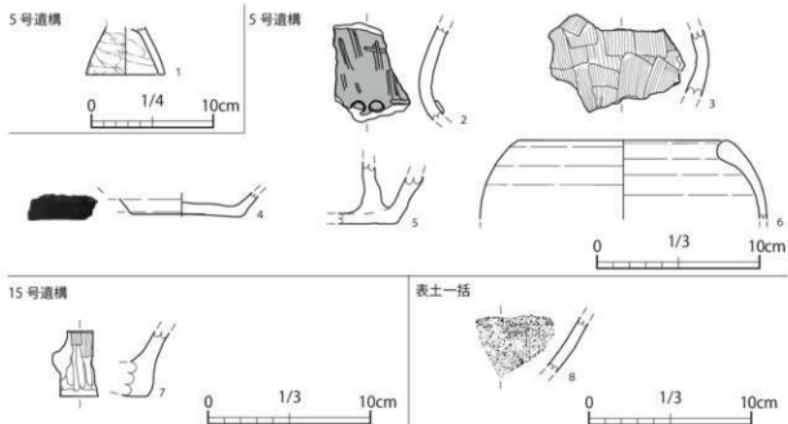
- 4.10YR3/2暗褐色土、粒径2~5mmの大ローム粒子を20%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

- 4.10YR2/1~3/1黒褐色土、ローム主体、黑色土(10YR2/1)を30%含む。締まり強く、粘性やや弱い。

- 5.10YR2/1~3/1黒褐色土、粒径1~7mmの大ローム粒子を1%、1mm未満の赤色スコリアを1%未満含む。締まり非常に強く、粘性やや弱い。硬化面。

- 6.10YR2/1黒褐色土、粒径1~3mmの大ローム粒子を1%未満、1mm未満の赤色スコリアを1%未満含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

- 7.10YR4/3にぶい黄褐色土、ローム主体、黑色土(10YR2/1)を25%含む。締まり強く、粘性やや弱い。

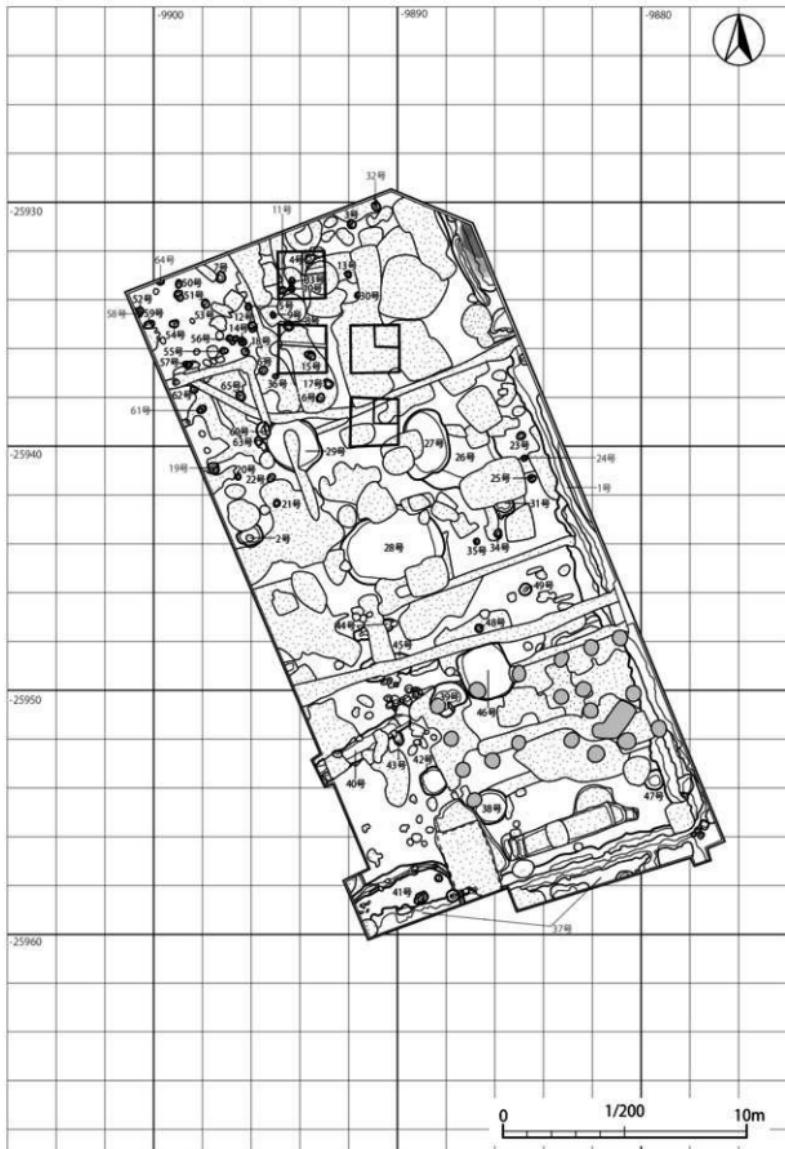


第152図 24-32区 出土遺物 (1/3・1/4)

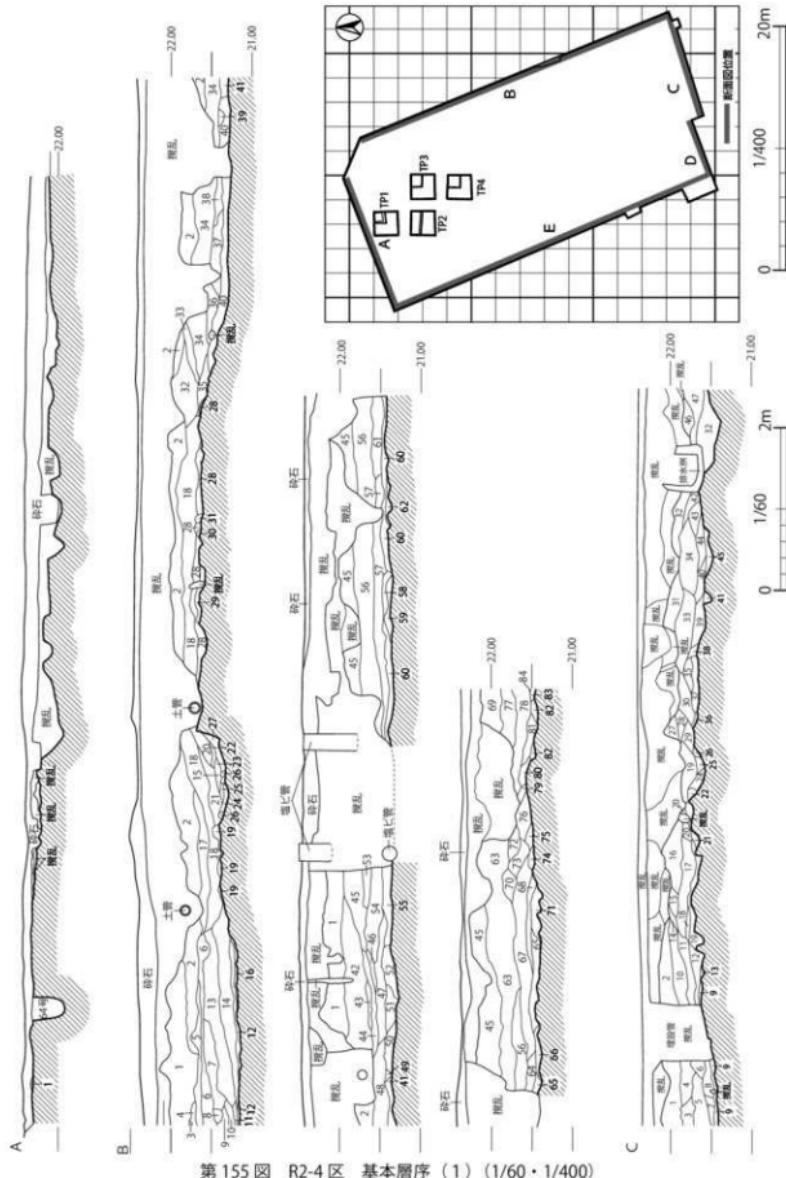
R2-4 区



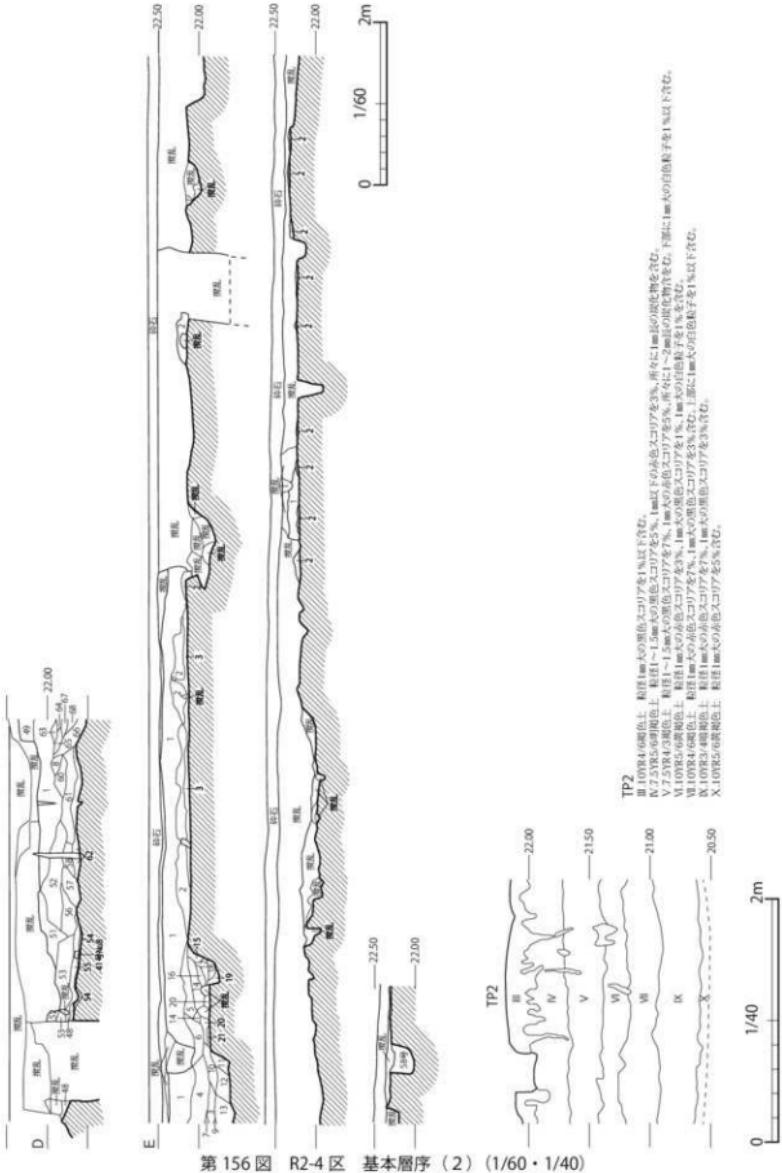
第 153 図 R2-4 区 調査区位置 (1/400)



第154図 R2-4区 遺構全体図 (1/200)



第155図 R2-4区 基本層序(1) (1/60・1/400)



第 156 図 R2-4 区 基本層序 (2) (1/60・1/40)

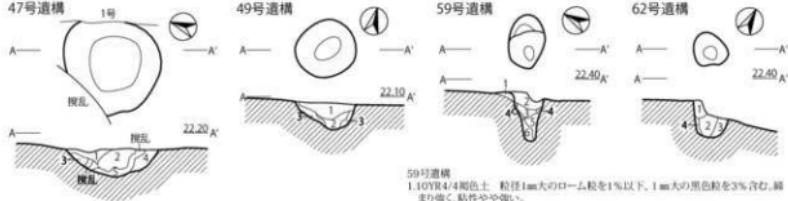
A

- 粒径1mmの大のローム粒を1%、1mmの大の赤色粒を1%含む。縮まりあり、粘性ややあり、漸移域。

B

60

縄文時代の遺構



47号遺構

- 1.10YR2/3黒褐色土 粒径1mmの大ローム粒を5%、1mmの大黒色粒を1%以下含む。
締まりやや強く、粘性やや強い。
2.10YR3/4褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を7%、1mm長の褐化物を1%以下含む。
締まりやや強く、粘性やや強い。
3.10YR3/3褐色土 粒径1mmの大ローム粒を5%、1mmの大赤色粒を1%以下含む。
締まりやや強く、粘性やや強い。
4.10YR4/4褐色土 粒径1mmの大ローム粒を5%含む、締まりやや弱く、粘性やや強い。
5.10YR4/4褐色土 粒径1mmの大ローム粒を5%、1mmの大赤色粒を1%含む、締まりやや強く、粘性やや強い。

49号遺構

- 1.10YR3/2黒褐色土 粒径1mmの大ローム粒を7%、1mmの大赤色粒を1%以下含む。
締まりやや強く、粘性やや強い。
2.10YR3/3褐色土 粒径1mmの大ローム粒を3%、1mmの大赤色粒を1%以下含む。
締まりやや強く、粘性やや強い。

59号遺構

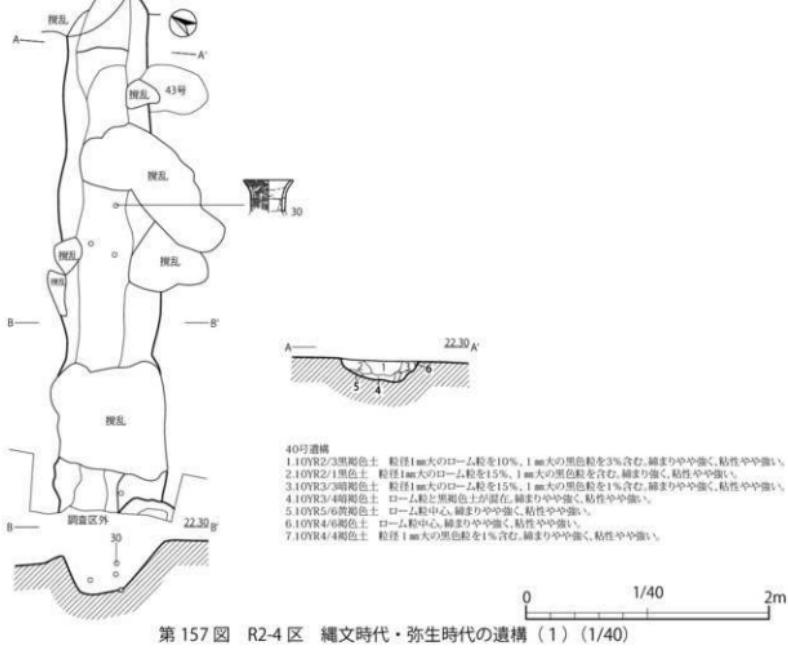
- 1.10YR4/4褐色土 粒径1mmの大ローム粒を1%以下、1mmの大黒色粒を3%含む。
締まりやや強く、粘性やや強い。
2.10YR3/3褐色土 粒径1mmの大ローム粒を5%、1mmの大黒色粒を1%以下含む。
締まりやや強く、粘性やや強い。
3.10YR3/3褐色土 粒径1mmの大ローム粒を3%、1mmの大黒色粒を1%以下含む。
締まりやや強く、粘性やや強い。
4.10YR4/4褐色土 粒径1mmの大ローム粒を5%、1mmの大黒色粒を1%以下含む。
締まりやや強く、粘性やや強い。
5.10YR3/4褐色土 粒径1mmの大ローム粒を3%含む、締まりやや強く、粘性やや強い。
6.10YR4/4褐色土 粒径1mmの大ローム粒を5%含む、締まり強く、粘性やや強い。

62号遺構

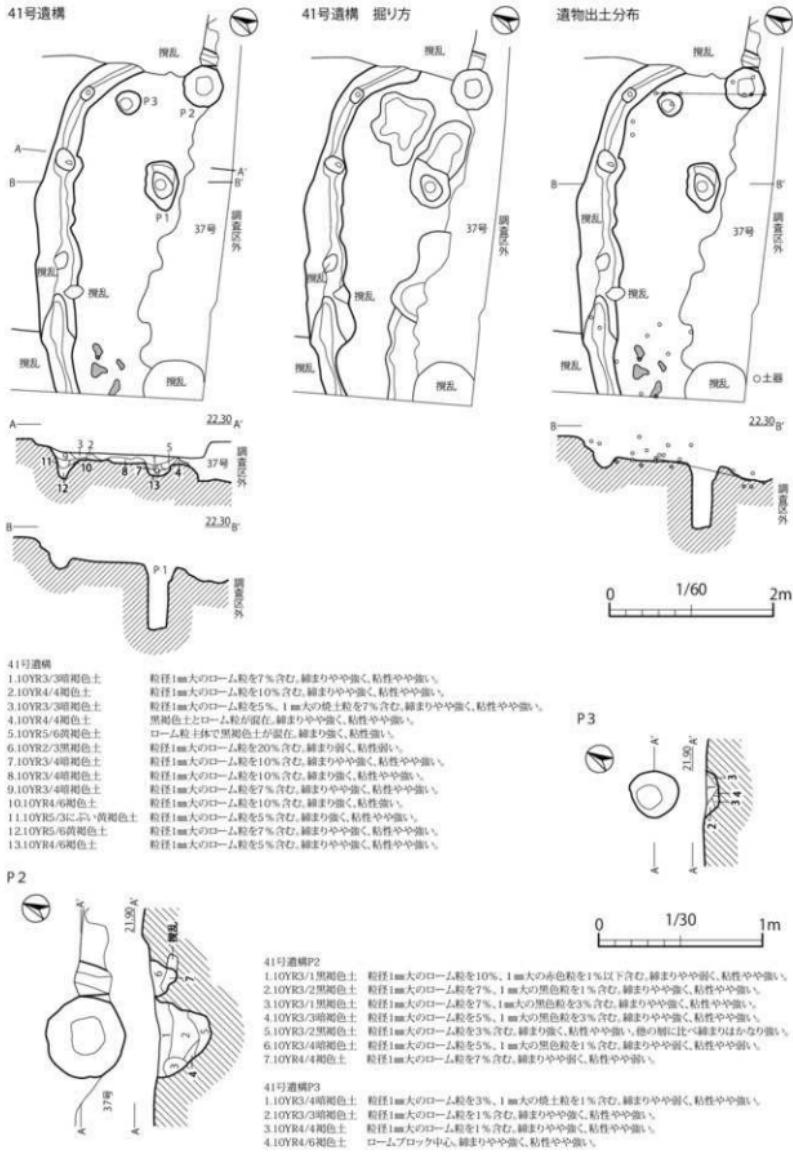
- 1.10YR4/4褐色土 粒径1mmの大ローム粒を7%含む、締まりやや強く、粘性やや強い。
2.10YR3/3褐色土 粒径1mmの大ローム粒を7%、1mmの大黒色粒を1%含む。
締まりやや強く、粘性やや強い。
3.10YR3/3褐色土 粒径1mmの大ローム粒を3%含む、締まりやや強く、粘性やや強い。
4.10YR4/4褐色土 粒径1mmの大黒色粒を3%含む、締まりやや強く、粘性やや強い。
5.10YR4/4褐色土 粒径1mmの大ローム粒を5%含む、締まり強く、粘性やや強い。

弥生時代の遺構

40号遺構 出土遺物分布

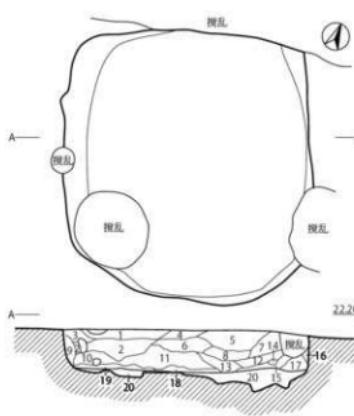


第157図 R2-4区 縄文時代・弥生時代の遺構(1)(1/40)



第158図 R2-4区 弥生時代の遺構（2）(1/60・1/40)

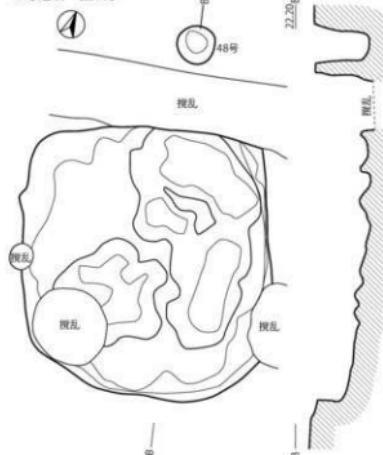
46号遺構



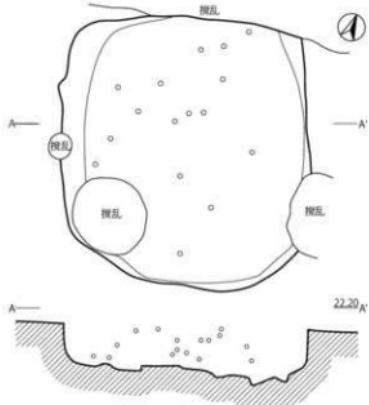
46号遺構

- 1.10YR1/7 黒色土 粒径1mmの大ローム粒を10%, 1mmの大赤色粒を3%含む。締まり強く、粘性やや強い。
- 2.10YR2/1 黒色土 粒径1~3mmの大ローム粒を15%, 1mmの大赤色粒を1%以下、1mmの大黒色粒を1%以下含む。締まり強く、粘性やや強い。
- 3.10YR2/1 黒色土 粒径1mmの大ローム粒を1%以下含む。締まり強く、粘性やや強い。
- 4.10YR2/1 黑色土 粒径1~2mmの大ローム粒を10%含む。締まり強く、粘性やや強い。
- 5.10YR3/3 喀斯特土 粒径1~2mmの大ローム粒を15%, 1mm~3mmの大黒色粒を3%含む。締まり強く、粘性やや強い。
- 6.10YR3/3 喀斯特土 粒径1~2mmの大ローム粒を15%, 1mm長の炭化物を5%, 1mmの大赤色粒を1%含む。締まり強く、粘性やや強い。
- 7.10YR3/3 喀斯特土 粒径1~2mmの大ローム粒を15%, 1mmの大黒色粒を1%含む。締まり強く、粘性やや強い。
- 8.10YR3/3 喀斯特土 粒径1~8mmの大ローム粒を20%, 1mm長の炭化物を1%, 1mmの大赤色粒を1%含む。締まり強く、粘性やや強い。
- 9.10YR2/2 黒褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒を15%含む。締まり強く、粘性やや強い。
- 10.10YR2/3 黒褐色土 粒径1~8mmの大ローム粒を15%, 1mmの炭化物を3%, 1mmの大黒色粒を1%含む。締まり強く、粘性やや強い。
- 11.10YR3/3 黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を10%, 1mm長の炭化物を3%, 1mmの大赤色粒を1%含む。締まり強く、粘性やや強い。
- 12.10YR3/3 黒褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を15%, 1~3mm長の炭化物を1%, 1mmの大黒色粒を1%含む。締まり強く、粘性やや強い。
- 13.10YR2/3 黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を15%, 1mm長の炭化物を1%以下含む。締まり強く、粘性やや強い。
- 14.10YR3/2 黒褐色土 粒径1mmの大ローム粒を3%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- 15.10YR3/2 黒褐色土 粒径1mmの大ローム粒を10%含む。締まり強く、粘性やや強く。
- 16.10YR4/4 黑褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を30%含む。締まり強く、粘性やや強く。
- 17.10YR4/4 黑褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を20%, 1mmの炭化物を1%以下含む。締まり強く、粘性やや強く。
- 18.10YR2/3 黑褐色土 粒径1mmの大ローム粒を10%, 1mmの大赤色粒を1%含む。締まり強く、粘性やや強く。
- 19.10YR3/3 黑褐色土 粒径1~10mmの大ローム粒を25%含む。締まり強く、粘性やや強く。
- 20.10YR5/6 黄褐色土 粒径10~30mmの大ロームブロック中に5~10mmの大黒色土ブロックが10%混在。締まり強く、粘性強く。

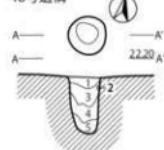
46号遺構 掘り方



46号遺構 遺物出土分布

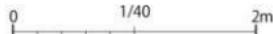


48号遺構



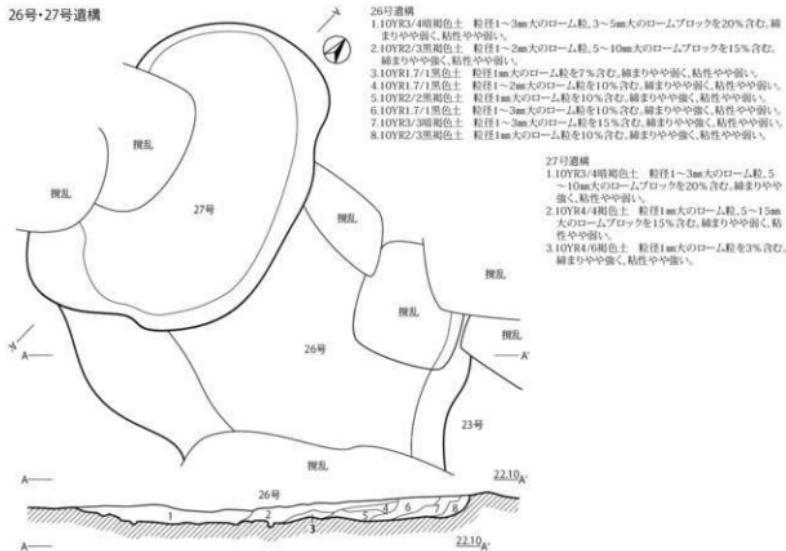
48号遺構

- 1.10YR3/4 喀斯特土 粒径1mmの大ローム粒を1%, 1mmの大黒色粒を3%含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
- 2.10YR4/4 黒褐色土 ローム中心 締まりやや弱く、粘性やや強く。
- 3.10YR3/3 黑褐色土 粒径1mmの大ローム粒を15%, 1mmの大赤色粒を5%含む。締まり強く、粘性強く。
- 4.10YR3/3 黑褐色土 粒径1mmの大ローム粒を3%含む。1mmの大黒色粒を3%含む。締まりやや弱く、粘性やや強く。
- 5.10YR3/4 喀斯特土 粒径1mmの大ローム粒を3%含む。締まりやや弱く、粘性やや強く。5の埋入物はすべて詳細に観察できず。

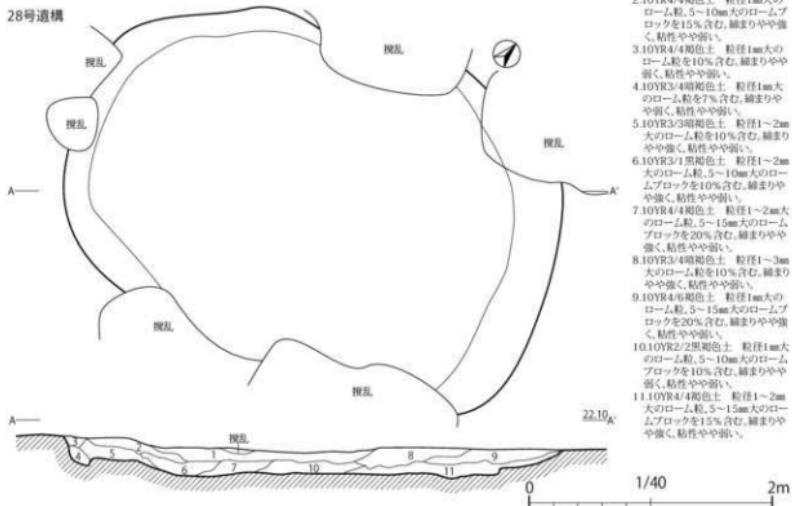


第159図 R2-4区 弥生時代の遺構（3）（1/40）

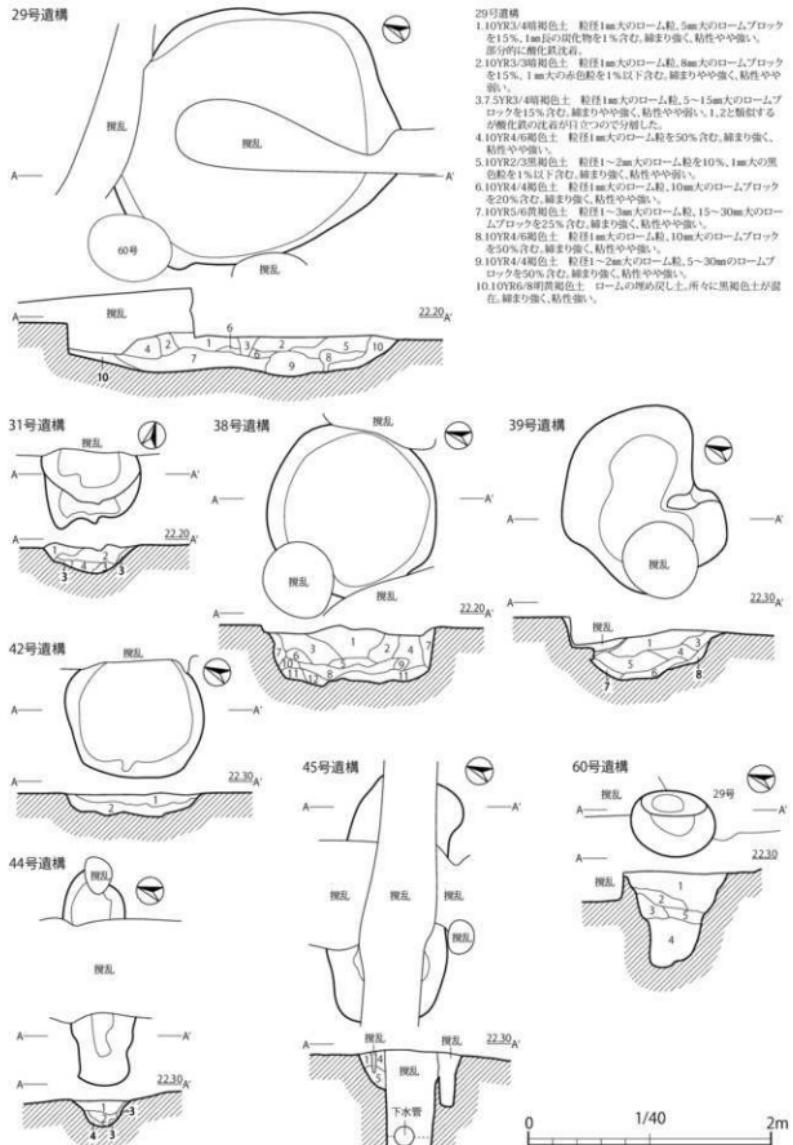
26号・27号遺構



28号遺構

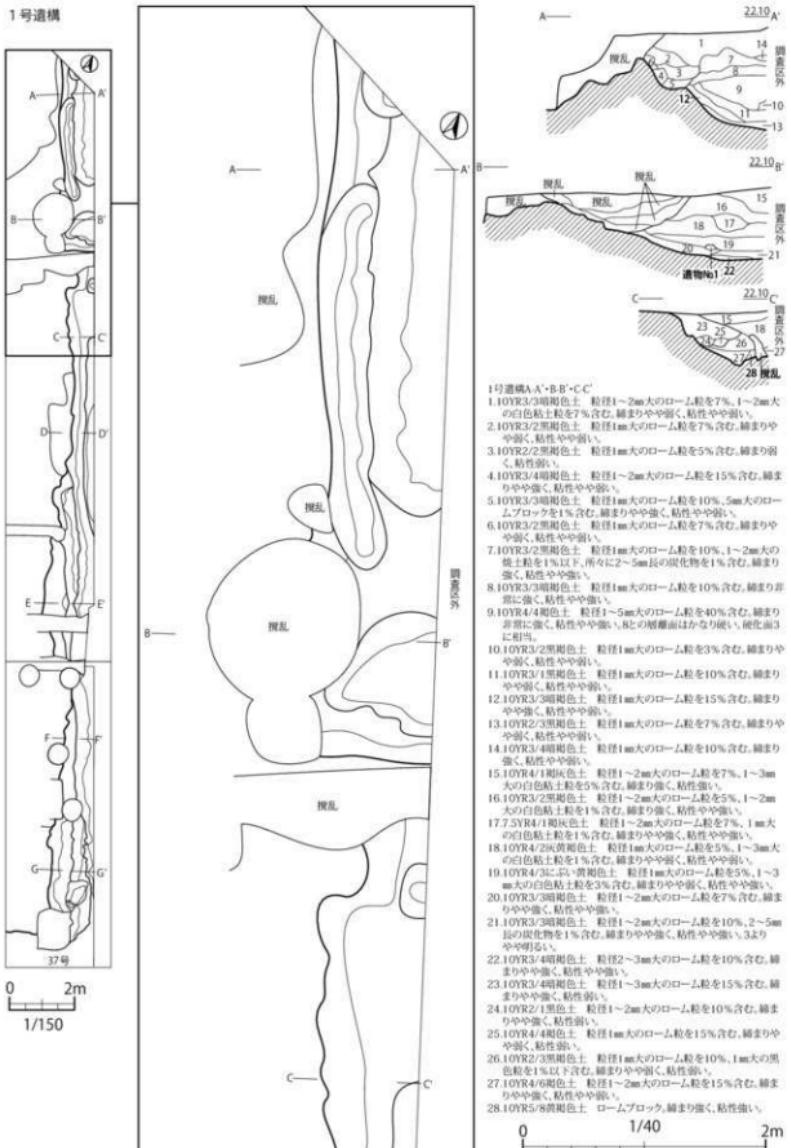


第160図 R2-4区 近世の遺構（1）(1/40)



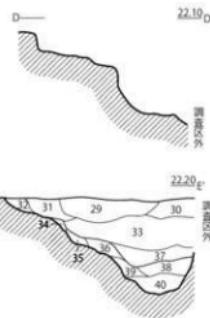
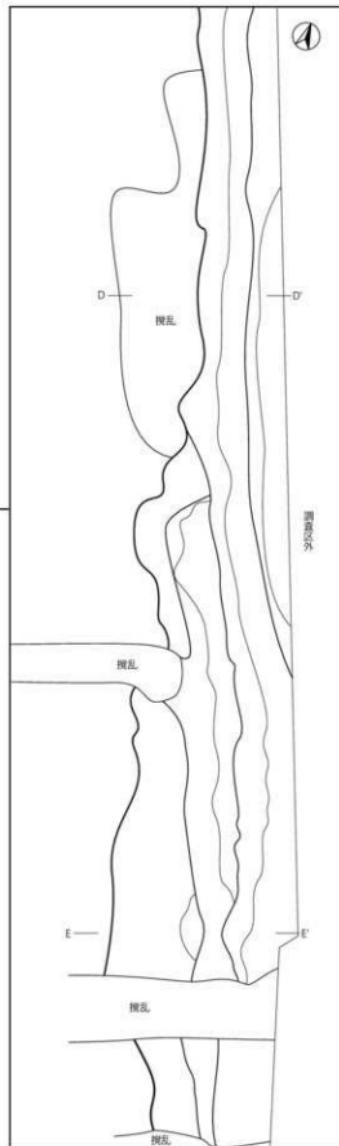
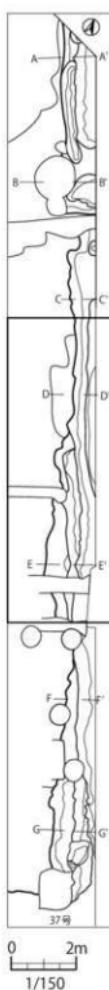
第161図 R2-4区 近世の遺構（2）（1/40）

1号遺構



第162図 R2-4区 近世の遺構 (3) (1/40・1/150)

1号遺構

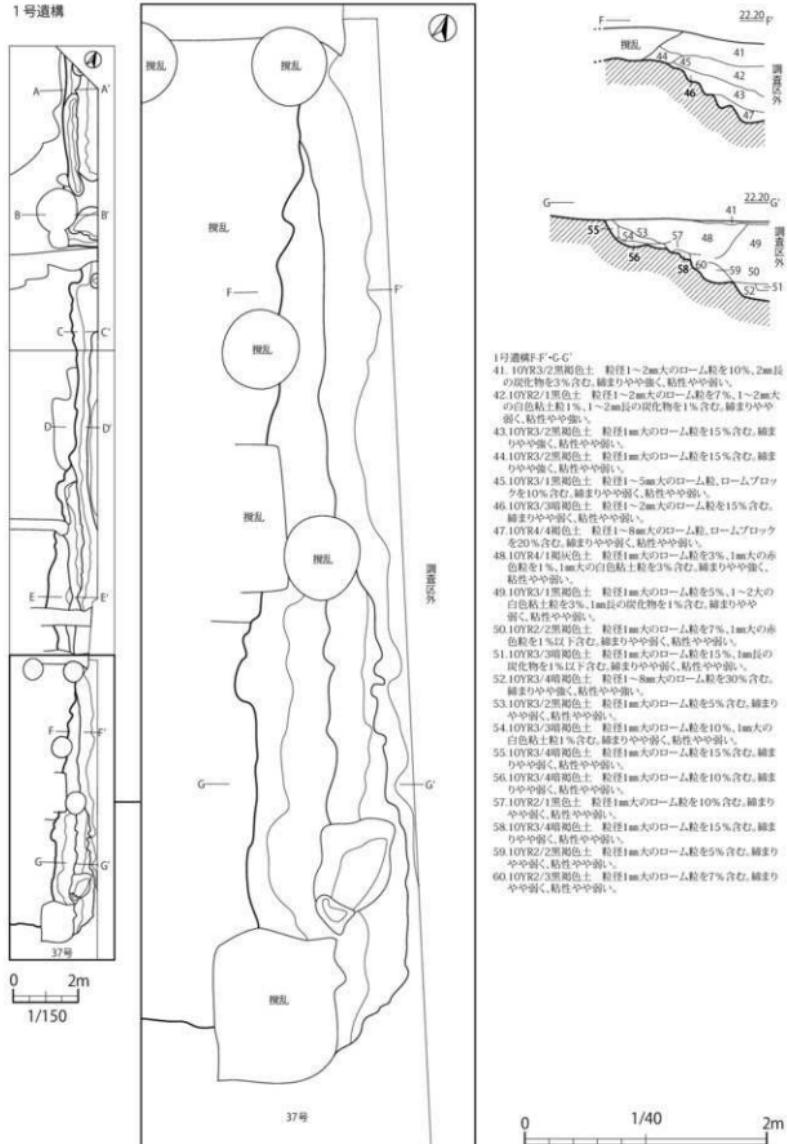


1号遺構D-D'・E-E'

- 29.10YR4/1褐色粘土 粒径1~2mmの大ローム粒を3%, 1~3mmの大白色粘土粒を10%, 2~5mm長の炭化物を1%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 30.10YR3/1黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を5%, 1~3mmの大白色粘土粒を5%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 31.10YR3/1黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を20%, 1mmの大白色粘土粒を1%以下含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 32.10YR3/2黒褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を25%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 33.10YR3/2黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を15%, 1mmの大白色粘土粒を1%以下含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 34.10YR2/3黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を20%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 35.10YR2/3黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を15%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 36.10YR2/3黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を15%, 1mmの大白色粘土粒を1%, 1mmの大赤色粘土粒を1%以下含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 37.10YR3/2黒褐色土 粒径1mmの大ローム粒を7%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 38.10YR3/2黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を10%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 39.10YR3/2黒褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を15%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 40.10YR3/2黒褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒、ロームプロックを20%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

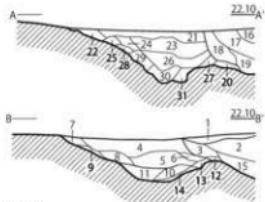
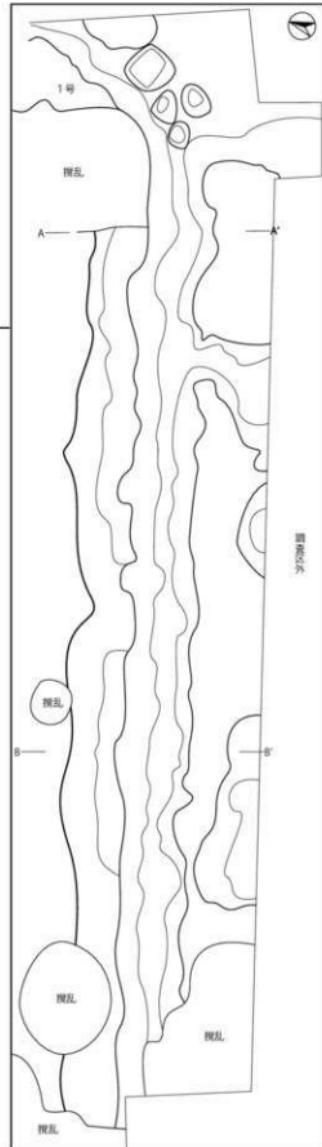
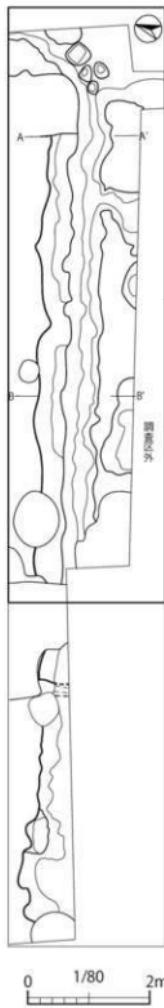
第163図 R2-4区 近世の遺構 (4) (1/40・1/150)

1号遺構



第164図 R2-4区 近世の遺構（5）(1/40・1/150)

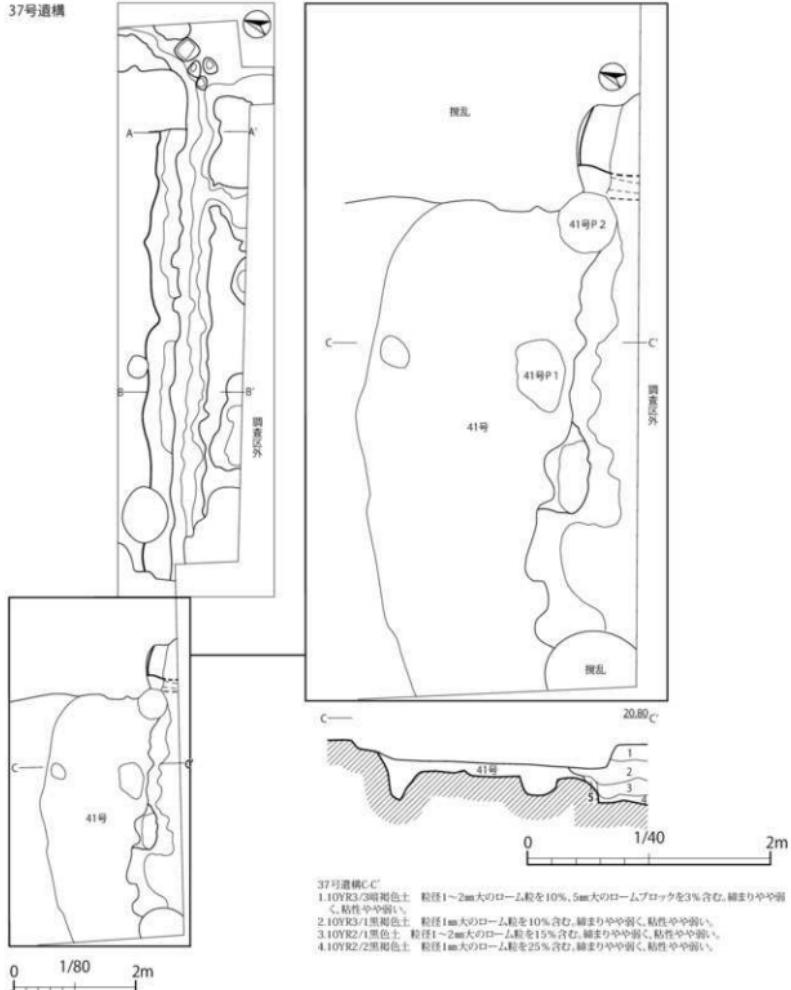
37号遺構



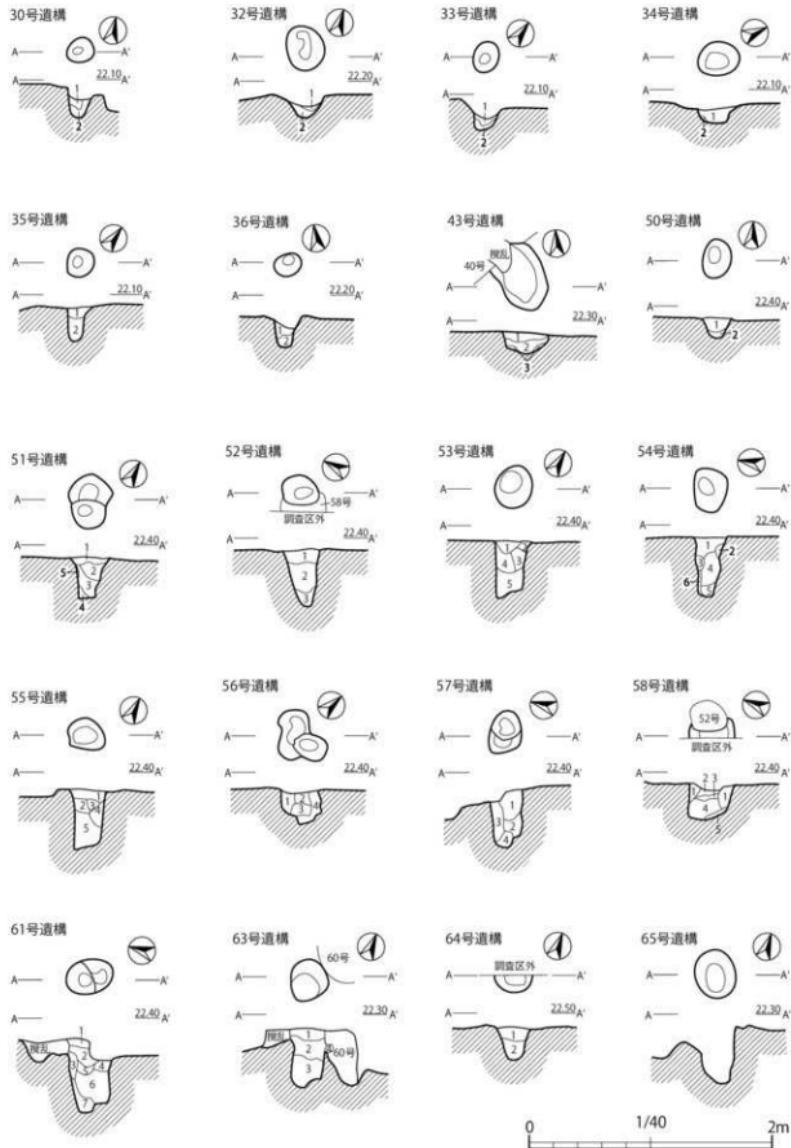
- 37号遺構
- 1.10YR2/3黒褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を10%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 - 2.10YR2/3黒褐色土 粒径1~2mmの大ロームブロックを30%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 - 3.10YR2/2黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を7%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 - 4.10YR3/4暗褐色土 粒径1mmの大ローム粒を7%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 - 5.10YR2/3黒褐色土 粒径1mmの大ローム粒を5%、1mm粒の沈化物を1%以上含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 - 6.10YR4/1褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を15%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 - 7.10YR4/4褐色土 粒径1mmの大ローム粒を15%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 - 8.10YR3/3暗褐色土 粒径1mmの大ローム粒を7%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 - 9.10YR4/6褐色土 ローム粒を中心。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 - 10.10YR2/3黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を10%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 - 11.10YR3/1黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を15%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 - 12.10YR4/4褐色土 粒径1mmの大ローム粒を7%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 - 13.10YR3/2黒褐色土 粒径1mmの大ローム粒を5%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 - 14.10YR4/4褐色土 ローム粒を中心。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 - 15.10YR2/1黒色土 粒径1~2mmの大ロームブロックを7%含む。粘性の沈化物を1%以上含む。締まりやや弱く。
 - 16.10YR3/3黒褐色土 粒径1mmの大ローム粒を1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 - 17.10YR4/4褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒、10mmの大ロームブロックを25%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 - 18.10YR2/1黒色土 粒径1~2mmの大ローム粒、10mmの大ロームブロックを15%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 - 19.10YR3/4暗褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を15%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 - 20.10YR4/6褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を25%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 - 21.10YR3/2黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒、5mmの大ロームブロックを15%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 - 22.10YR3/4暗褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を15%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 - 23.10YR3/1黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒、5mmの大ロームブロックを20%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 - 24.10YR3/3黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒、5~10mmの大ロームブロックを20%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 - 25.10YR3/4暗褐色土 粒径1mmの大ローム粒を10%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 - 26.10YR3/2黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を15%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 - 27.10YR3/1黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を7%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 - 28.10YR3/4暗褐色土 粒径1mmの大ローム粒を7%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 - 29.10YR2/1黒色土 粒径1~2mmの大ローム粒を15%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 - 30.10YR3/1黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を3%含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
 - 31.10YR3/3黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
 - 32.10YR4/4褐色土 粒径1mmの大ローム粒を25%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

第165図 R2-4区 近世の遺構 (6) (1/40・1/80)

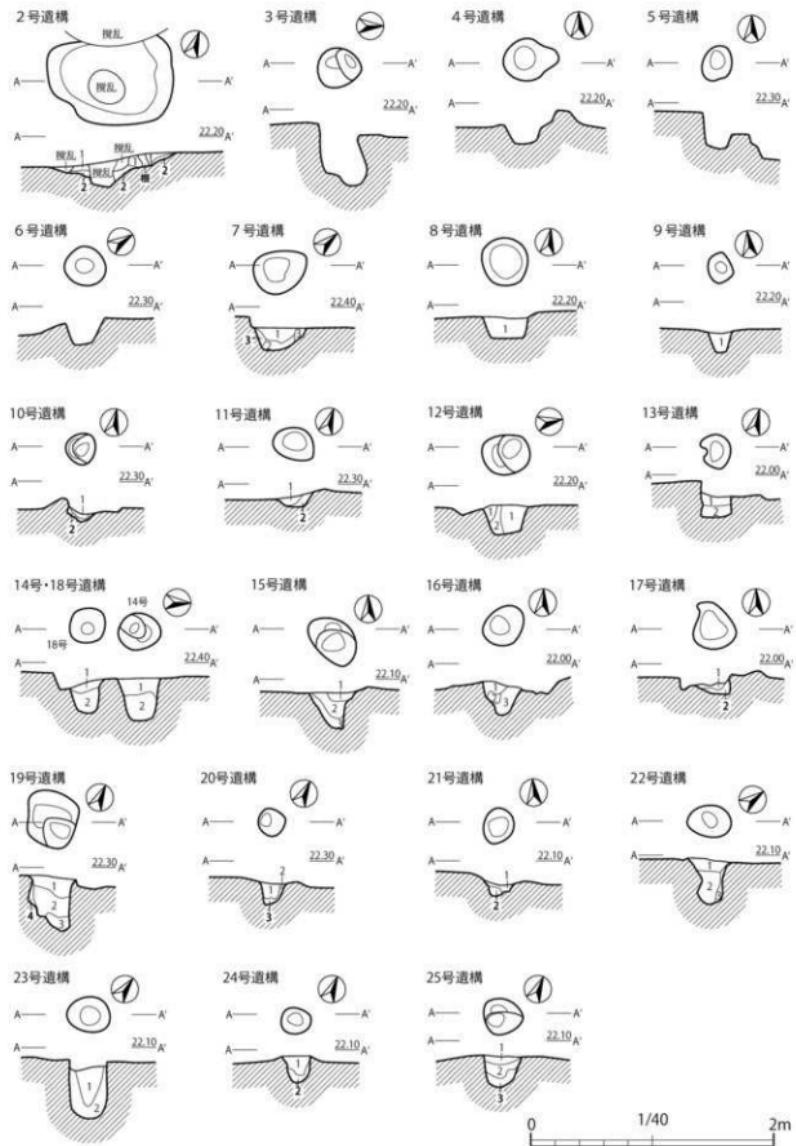
37号遺構



第166図 R2-4区 近世の遺構（7）(1/40・1/80)



第167図 R2-4区 近世の遺構(8)(1/40)



第168図 R2-4区 近世以降の遺構（1）(1/40)

31号遺構

- 1.I.YVR3/1暗褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を10%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 2.I.YVR3/1黒色土 粒径1~2mmの大ローム粒を10%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 3.I.YVR3/2暗褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を20%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 4.I.YVR3/3暗褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を15%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 2号遺構
 1.I.YVR1/7/1黒色土 粒径0.5~1mmの大ローム粒を10%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 2.I.YVR1/6黄褐色土 ロームと暗褐色土が混在。締まり強く、粘性やや強い。

38号遺構

- 1.I.YVR2/3暗褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を10%、5~8mmの大ロームブロックを3%、1~2mm長の炭化物を1%。1mmの大赤色土を1%以下含む。締まり強く、粘性強く。
 2.I.YVR2/3黒色土 粒径1~2mmの大ローム粒を10%、1mm長の炭化物を1%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 3.I.YVR4/4暗褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を15%、5~12mm長の大ロームブロックを5%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 4.I.YVR3/4暗褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を20%、3~5mm長の大ロームブロックを7%、1mm長の炭化物を1%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 5.I.YVR3/4暗褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を15%、10~20mmの大ロームブロックを3%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 6.I.YVR3/4暗褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を7%、1mm長の炭化物を1%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 7.I.YVR4/6暗褐色土 粒径1~3~10mmの大ローム粒を30%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 8.I.YVR4/2暗褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を10%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 9.I.YVR5/6黄褐色土 ロームと黒色土。締まりやや強く、粘性強く。
 10.I.YVR4/6褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を15%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 11.I.YVR5/6褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を30%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 12.I.YVR4/4褐色土 ローム中心。締まりやや強く、粘性やや弱い。

39号遺構

- 1.I.YVR3/2黒褐色土 粒径1mmの大ローム粒を7%含む。締まり強く、粘性強く。
 2.2.I.YVR3/4暗褐色土 酸化鉄の沈着。

42号遺構

- 1.I.YVR3/1暗褐色土 粒径1mmの大ローム粒を7%、1mmの大赤色土を3%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 2.I.YVR3/3暗褐色土 粒径1mmの大ローム粒を3%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

44号遺構

- 1.I.YVR4/4褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を20%、2mmの大礫土粒を1%以下含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 2.I.YVR4/3/2/3 黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を25%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 3.I.YVR5/6黄褐色土 ロームと黒色土。

- 4.I.YVR4/2褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を30%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

45号遺構

- 1.I.YVR4/4褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を25%、1mm長の炭化物を1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 2.I.YVR4/4暗褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を20%、1mm長の炭化物を1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 3.I.YVR4/4暗褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を20%、1mm長の炭化物を1%以下含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 4.I.YVR3/2暗褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を15%、1mm長の炭化物を1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 5.I.YVR4/6褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を20%含む。1mm長の炭化物を1%以下含む。締まり強く、粘性やや弱い。

60号遺構

- 1.I.YVR3/2黒褐色土 粒径1~15mmの大ローム粒、ロームブロックを15%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 2.I.YVR3/2黒褐色土 粒径1~25mmの大ローム粒、ロームブロックを20%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 3.I.YVR3/2黒褐色土 粒径1~10mmの大ローム粒を15%含む。締まり弱く、粘性やや弱い。
 4.I.YVR3/6褐色土 粒径10~20mmの大ローム粒を50%含む。締まり弱く、粘性やや弱い。
 5.I.YVR3/1暗褐色土 粒径1~15mmの大ローム粒を7%、1mmの大礫土粒を1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 6.I.YVR3/2暗褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を15%、1~2mmの大礫土粒を3%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 7.I.YVR3/3暗褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を15%、1~2mmの大礫土粒を3%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 8.I.YVR4/4褐色土 ローム中心。炭化物を1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

30号遺構

- 1.I.YVR2/1黒褐色土 粒径1mmの大ローム粒を10%含む。締まり弱く、粘性弱い。
 2.I.YVR3/2黒褐色土 粒径1mmの大ローム粒を10%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

32号遺構

- 1.I.YVR3/3暗褐色土 粒径1mmの大ローム粒を1%、1mmの大赤色土を1%以下含む。締まり強く、粘性弱い。
 2.I.YVR3/4暗褐色土 粒径1mmの大ローム粒を1%含む。締まり強く、粘性やや弱い。

33号遺構

- 1.I.YVR3/3暗褐色土 粒径1mmの大ローム粒を1%、1mmの大赤色土を1%以下含む。締まり強く、粘性弱い。
 2.I.YVR4/6褐色土 ローム中心。締まりやや強く、粘性やや弱い。

34号遺構

- 1.I.YVR2/3黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を15%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 2.I.YVR4/6褐色土 ローム中心。締まりやや強く、粘性やや弱い。

35号遺構

- 1.I.YVR2/1黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を15%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 2.I.YVR2/2黒褐色土 粒径1mmの大ローム粒を10%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

36号遺構

- 1.I.YVR3/4暗褐色土 粒径1mmの大ローム粒を7%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 2.I.YVR4/4褐色土 粒径1mmの大ローム粒を1%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。

43号遺構

- 1.I.YVR2/1黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を15%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 2.I.YVR3/1暗褐色土 ロームを25%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 3.I.YVR3/8暗褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒を25%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

50号遺構

- 1.I.YVR2/3黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を7%、1~2mmの大黒色土を3%、1mmの大赤色土粒を1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 2.I.YVR3/1暗褐色土 粒径1mmの大ローム粒を5%、1mm長の炭化物を1%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

51号遺構

- 1.I.YVR3/3暗褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を10%、1mmの大黒色土を1%以下含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 2.I.YVR3/4暗褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を10%、1mmの大黒色土を1%、1mmの大赤色土粒を1%以下含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 3.I.YVR4/4褐色土 粒径1mmの大ローム粒を15%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 4.I.YVR4/6褐色土 ローム中心。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 5.I.YVR4/4褐色土 ローム中心。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

52号遺構

- 1.I.YVR2/3黒褐色土 粒径2mmの大ローム粒を7%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 2.I.YVR3/3暗褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒、ロームブロックを20%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

3.3.I.YVR3/4暗褐色土

- 粒径1~5mmの大ローム粒を10%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

53号遺構

- 1.I.YVR3/3暗褐色土 粒径1mmの大ローム粒を5%含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
 2.I.YVR3/1黒褐色土 粒径3~5mmの大ロームブロックを10%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 3.I.YVR3/4暗褐色土 粒径2~8mmの大ローム粒、ロームブロックを20%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

54号遺構

- 1.I.YVR1/1黒褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒、ロームブロックを25%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 2.I.YVR3/1黒褐色土 粒径1mmの大ローム粒を7%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 3.I.YVR2/3暗褐色土 粒径1mmの大ローム粒を10%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 4.I.YVR3/2黒褐色土 粒径1mmの大ローム粒を10%含む。締まり弱く、粘性弱い。
 5.I.YVR3/3暗褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を15%含む。締まり弱く、粘性弱い。
 6.I.YVR3/4暗褐色土 粒径1~3mmの大ローム粒を10%含む。締まり弱く、粘性弱い。

55号遺構

- 1.I.YVR3/3暗褐色土 粒径1mmの大ローム粒を10%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
 2.I.YVR3/3暗褐色土 粒径1mmの大ローム粒を1%以下含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

3.3.I.YVR3/4暗褐色土

- 粒径1~3mmの大ローム粒を20%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

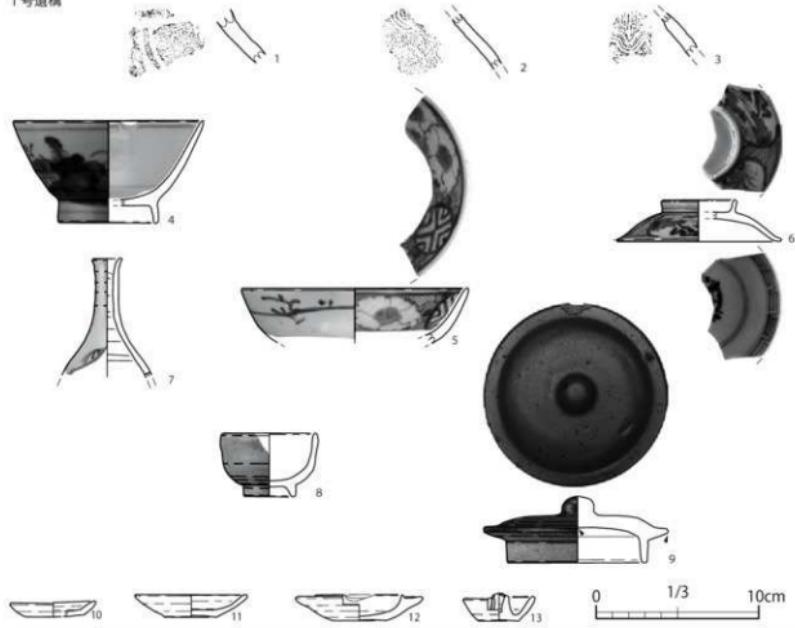
4.I.YVR3/2黒褐色土

- 粒径1~2mmの大ローム粒を15%含む。締まり弱く、粘性弱い。

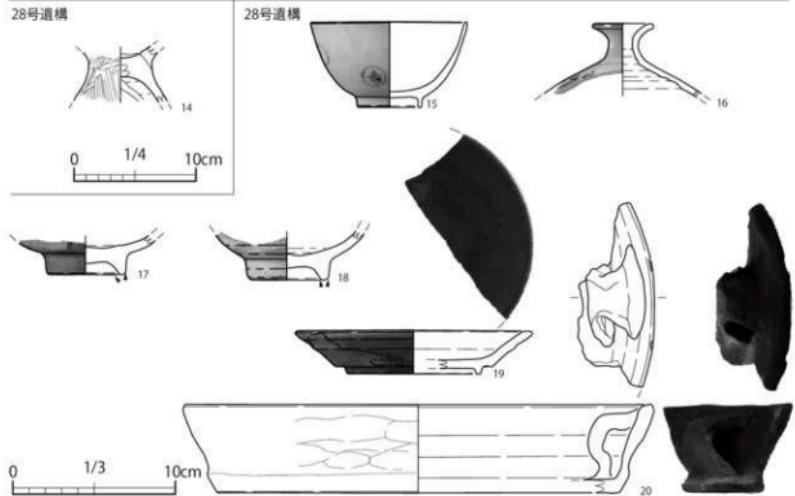
5.I.YVR3/3暗褐色土

- 粒径1~2mmの大ローム粒を10%含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

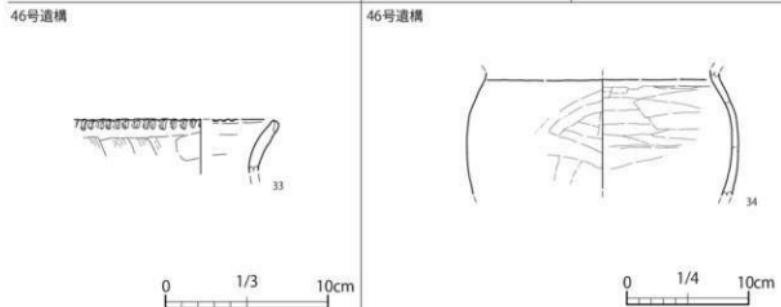
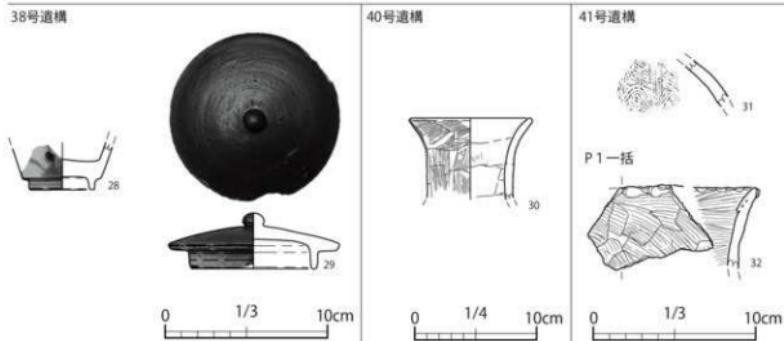
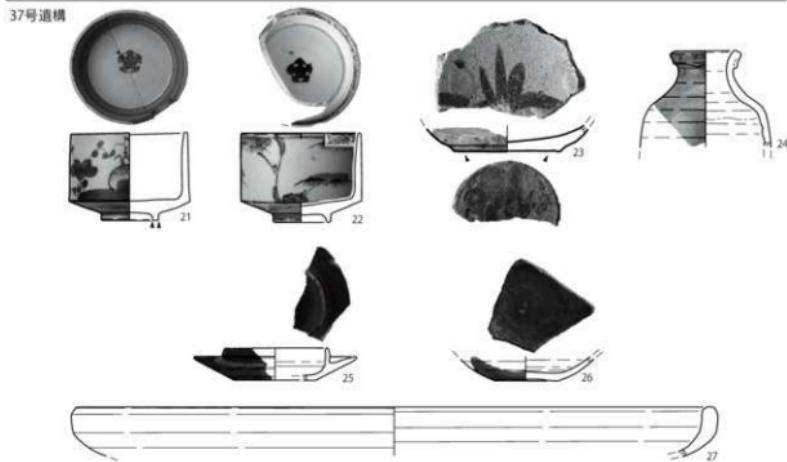
1号遺構



28号遺構

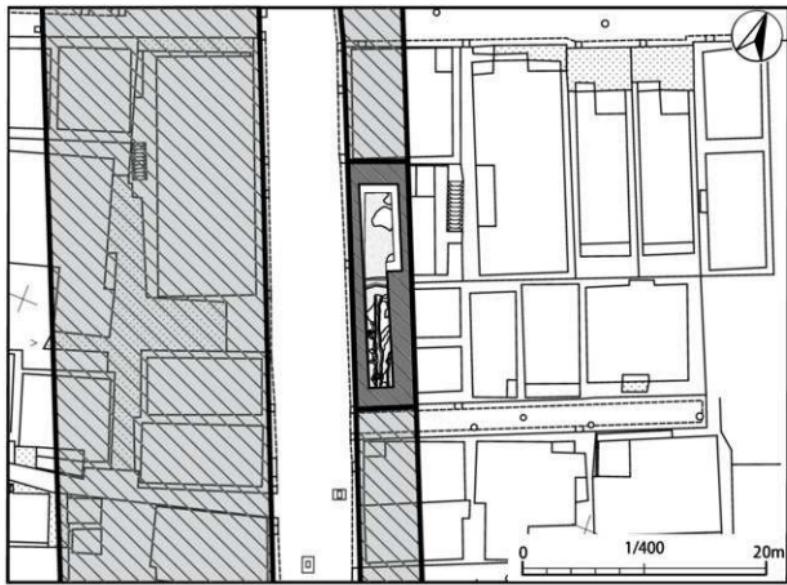


第169図 R2-4区 出土遺物（1）(1/3)

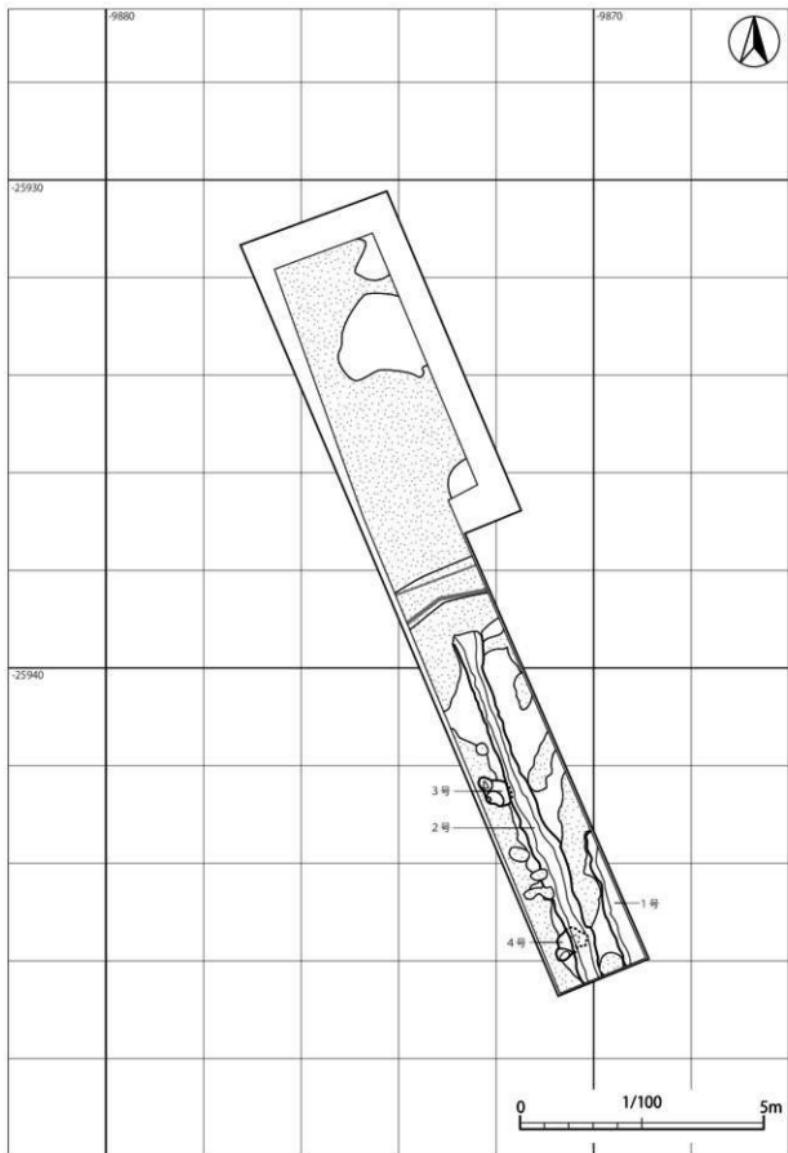


第 170 図 R2-4 区 出土遺物 (2) (1/3・1/4)

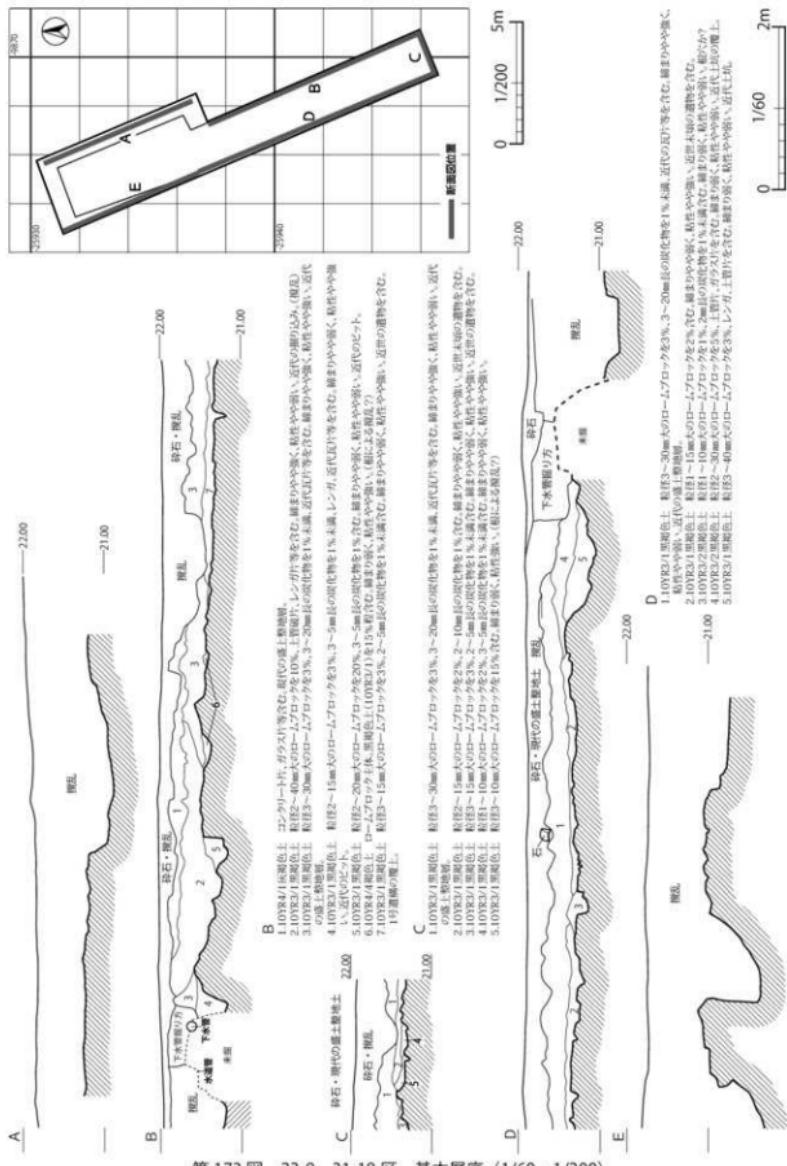
23-9、31-18 区



第 171 図 23-9、31-18 区 調査区位置 (1/400)

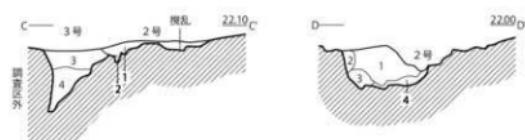
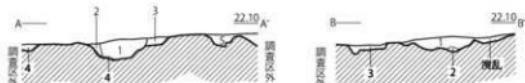
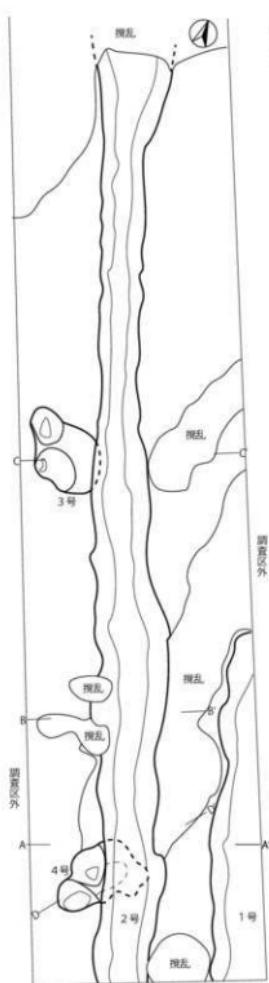


第 172 図 23-9、31-18 区 遺構全体図 (1/100)



第173図 23-9、31-18区 基本層序 (1/60・1/200)

1号・2号・3号・4号遺構



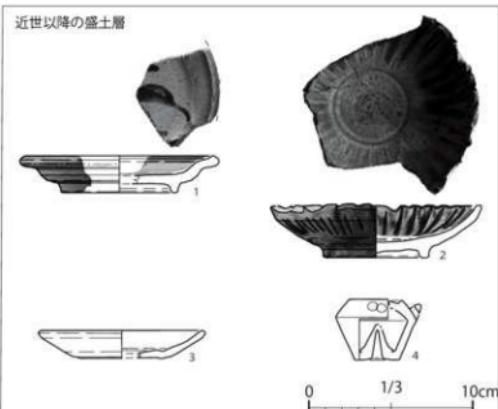
1号・2号遺構A'-
1.10YR2/1黒褐色土 粒径1~5mmのローム粒を2%含む。練まりやや弱く、粘性やや強い。
2.10YR2/1黒褐色土 粒径1~10mmの大ロームブロックを5%含む。練まりやや強く、粘性やや強い。
3.10YR2/1黒褐色土 粒径1~20mmの大ロームブロックを5%含む。練まりやや弱く、粘性やや強い。
4.10YR4/4黒褐色土 粒径3~10mmの大ロームブロックを2%含む。練まり強く、粘性やや強い。
5.10YR2/2黒褐色土 粒径3~10mmの大ロームブロックを2%含む。練まりやや弱く、粘性やや強い。

2号・3号遺構B-B'
1.10YR2/1黒褐色土 粒径1~5mm大のローム粒を3%, 2~3mm長の炭化物を1%未満含む。練まりやや弱く、粘性やや弱い。
2.10YR4/3にぶ 黃褐色土 ローム主体、黒褐色土(10YR3/1)を20%含む。練まり弱く、粘性やや強い。
3.10YR2/1黒褐色土 粒径1~20mm大のロームブロックを3%含む。練まりやや弱く、粘性やや強い。

2号・3号遺構C-C'
1.10YR2/1黒褐色土 粒径1~8mm大のローム粒を2%, 3~5mm長の炭化物を1%未満含む。練まりやや弱く、粘性やや弱い。
2.10YR4/3にぶ 黄褐色土 ローム主体、黒褐色土(10YR3/1)を30%含む。練まり弱く、粘性やや強い。
3.10YR2/2黒褐色土 粒径2~40mm大のロームブロックを5%含む。練まりやや弱く、粘性強い。
4.10YR4/3にぶ 黄褐色土 粒径1~30mm大のロームブロックを充填、黒褐色土(10YR3/1)を20%含む。練まり弱く弱めやや強い、粘性弱い。(根穴)

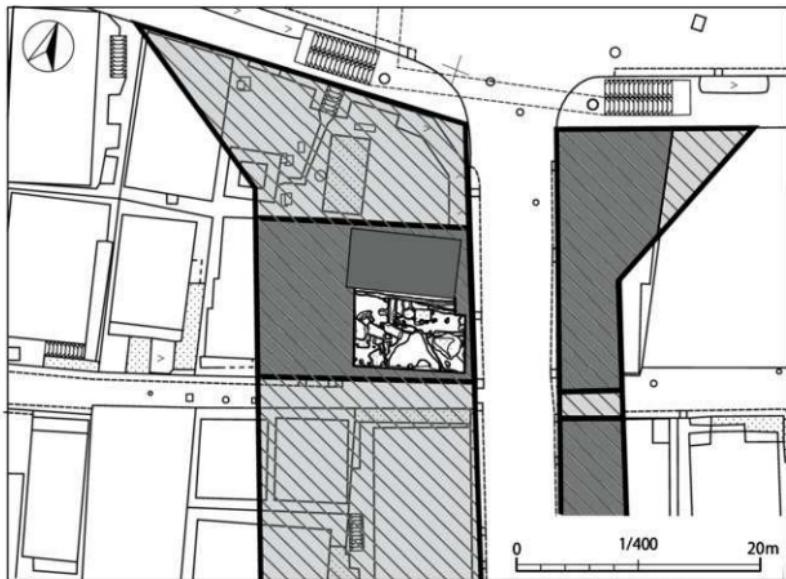
4号遺構D-D'
1.10YR2/1黒褐色土 粒径3~10mm大のロームブロックを2%, 3~5mm長の炭化物を1%未満含む。練まりやや弱く、粘性やや弱い。
2.10YR2/4にぶ 黄褐色土 ローム主体、黒褐色土(10YR3/1)を15%含む。練まり強く、粘性やや弱い。
3.10YR2/1黒褐色土 粒径1~30mm大のローム粒を1%未満含む。練まり弱く、粘性やや弱い。
4.10YR5/4C-5 黄褐色土 ローム主体、黒褐色土(10YR3/1)を20%含む。練まり強く、粘性やや強い。

0 1/40 2m

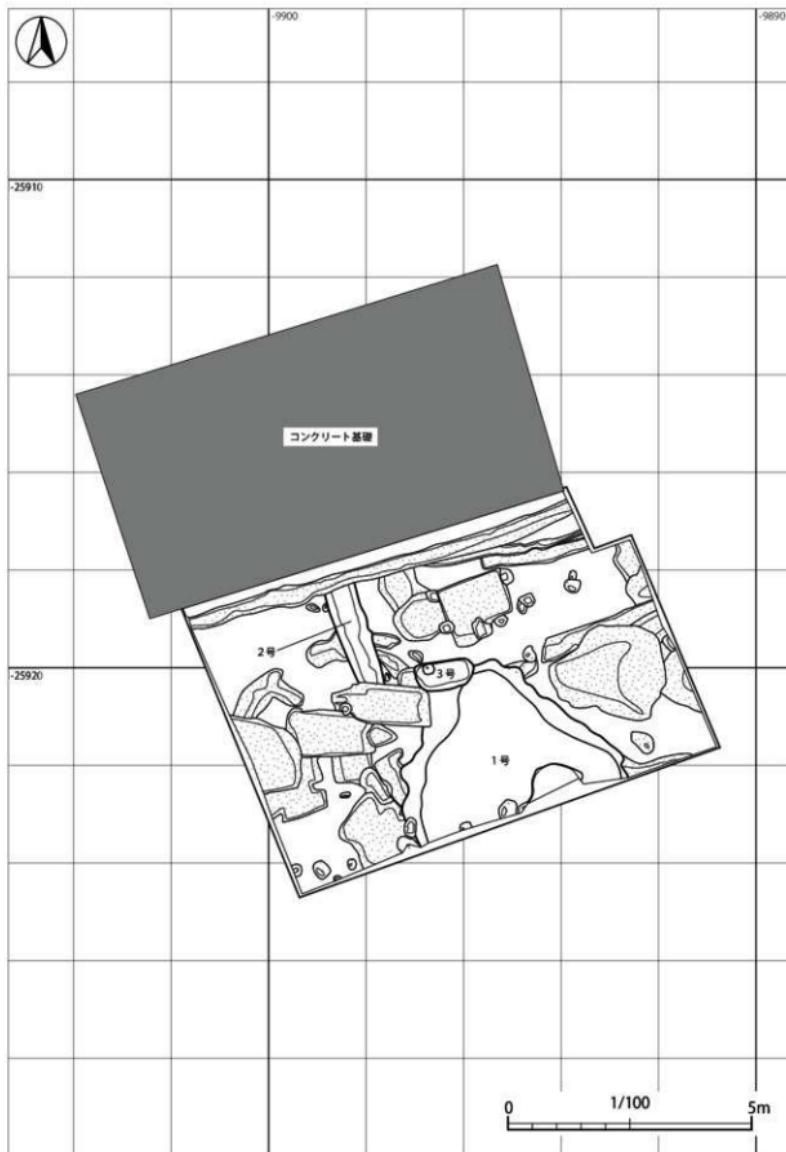


第174図 23-9、31-18区 近世の遺構 (1/40)・出土遺物 (1/3)

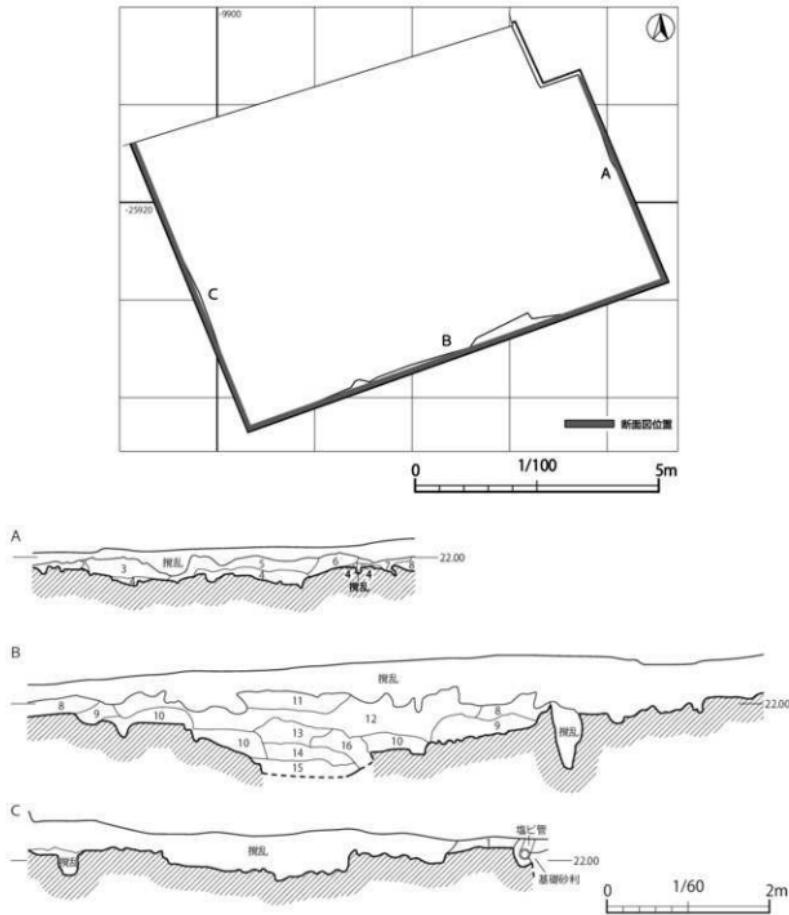
30-18・19 区



第 175 図 30-18・19 区 調査区位置 (1/400)



第 176 図 30-18・19 区 遺構全体図 (1/100)



A・B・C
1.IORYR2/3黒褐色土 粒径5~10mmの大ローム粒を5~7%含む。縮まり微く、粘性やや強い。

2.IORYR3/4黒褐色土 粒径5~10mmの大ローム粒を1~2%含む。粘性やや強い。

3.IORYR2/2黒褐色土 粒径10mm以上のロームブロックを2~3%含む。縮まりやや強く。

4.IORYR3/4黒褐色土 粒径2~5mmの大ローム粒を2~3%含む。縮まりやや強く。

5.IORYR2/3黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を5~7%含む。縮まりやや強く。

6.IORYR2/2黒褐色土 粒径1~5mmの大ローム粒を5~7%含む。縮まりやや強く。

7.IORYR2/3黒褐色土 粒径2~5mmの大ローム粒を7~10%含む。縮まりやや強く。

8.IORYR2/2黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を2~3%含む。縮まり弱い。

9.IORYR2/2黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を2~3%含む。縮まり弱い。

10.IORYR1.7/1黒褐色土 粒径10mm以下のロームブロックを5~7%含む。縮まり弱く、粘性やや強い。

11.IORYR2/2黒褐色土 粒径1mm以下のローム粒を2~3%含む。縮まりやや弱く、粘性やや強い。1号遺構5層に相当。

12.IORYR1.7/1黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を3~5%含む。粘性をやや強い。1号遺構6層に相当。

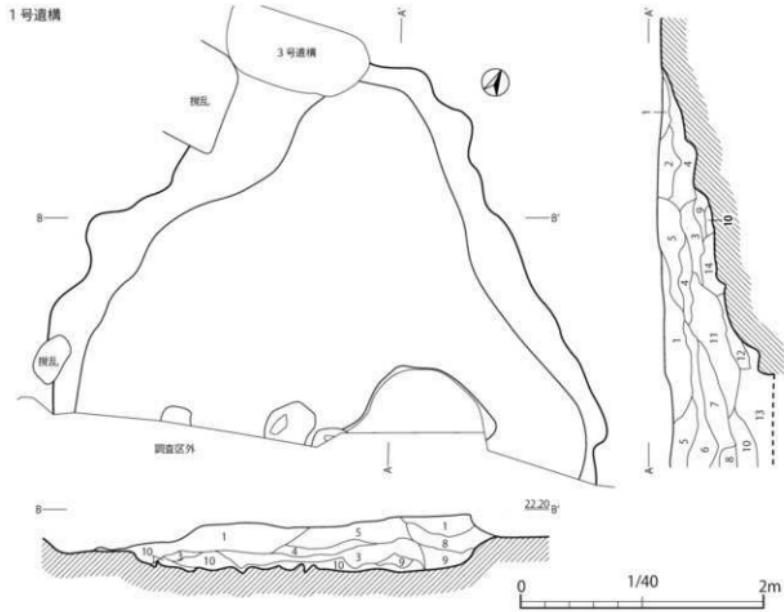
13.IORYR1.7/1黒褐色土 粒径1~2mmの大ローム粒を5~7%含む。縮まりやや弱い。1号遺構7層に相当。

14.IORYR2/2黒褐色土 粒径2~5mmの大ローム粒を5~7%含む。縮まりやや弱い。1号遺構8層に相当。

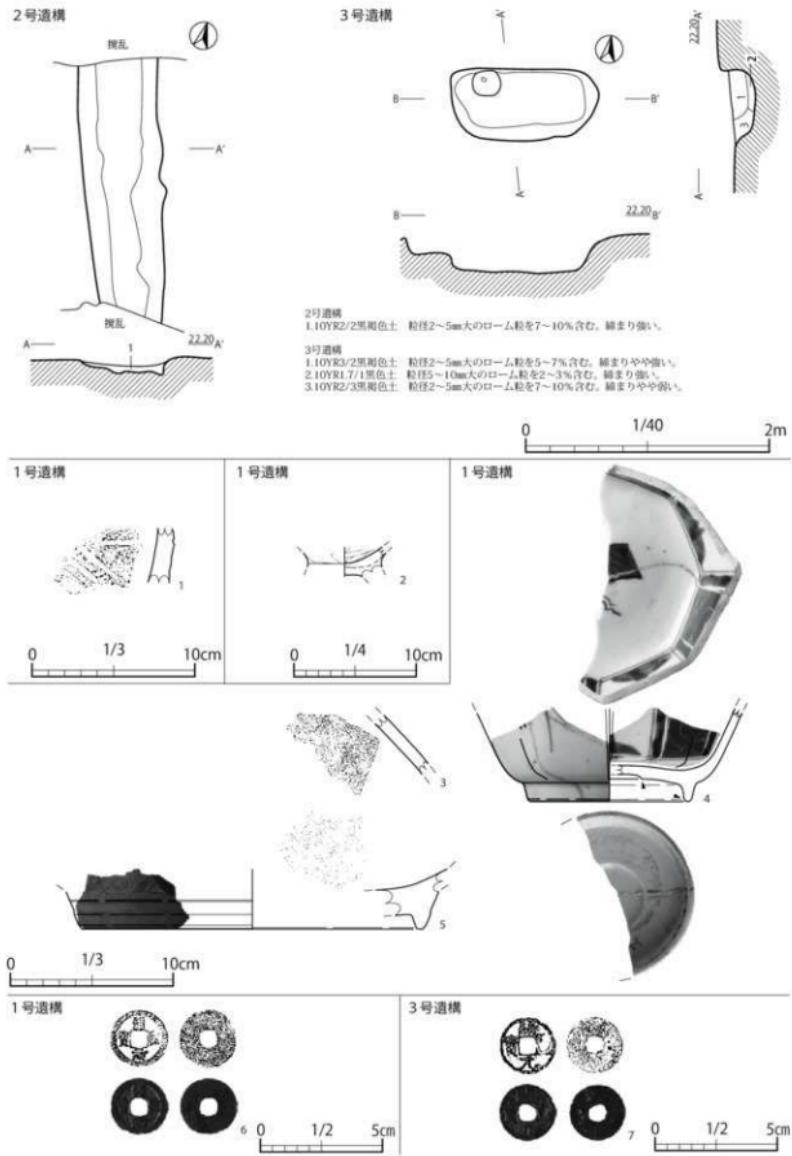
15.IORYR2/2黒褐色土 粒径5~10mmの大ローム粒を7~10%含む。縮まりやや弱い。1号遺構9層に相当。

16.IORYR2/3黒褐色土 粒径5~10mmの大ローム粒を10~15%含む。粘性をやや強い。

第 177 図 30-18・19 区 基本層序 (1/60・1/100)

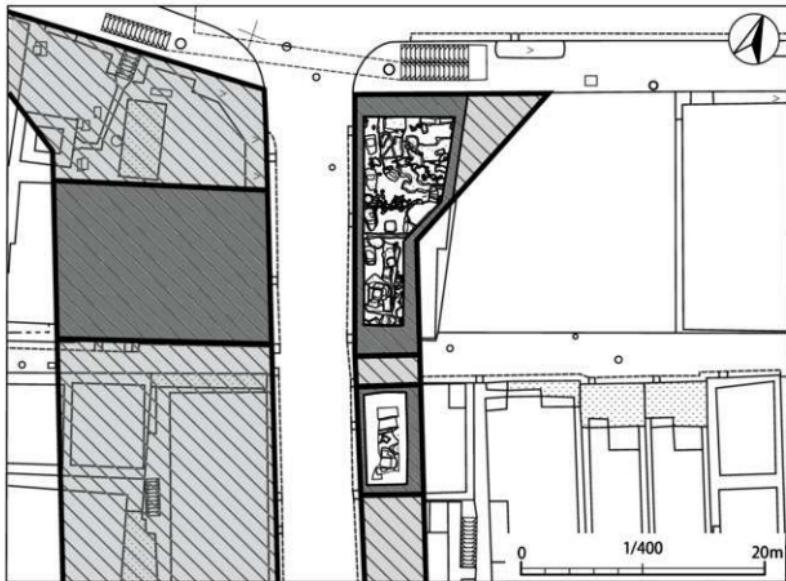


第178図 30-18・19区 近世の遺構(1) (1/40・1/60)

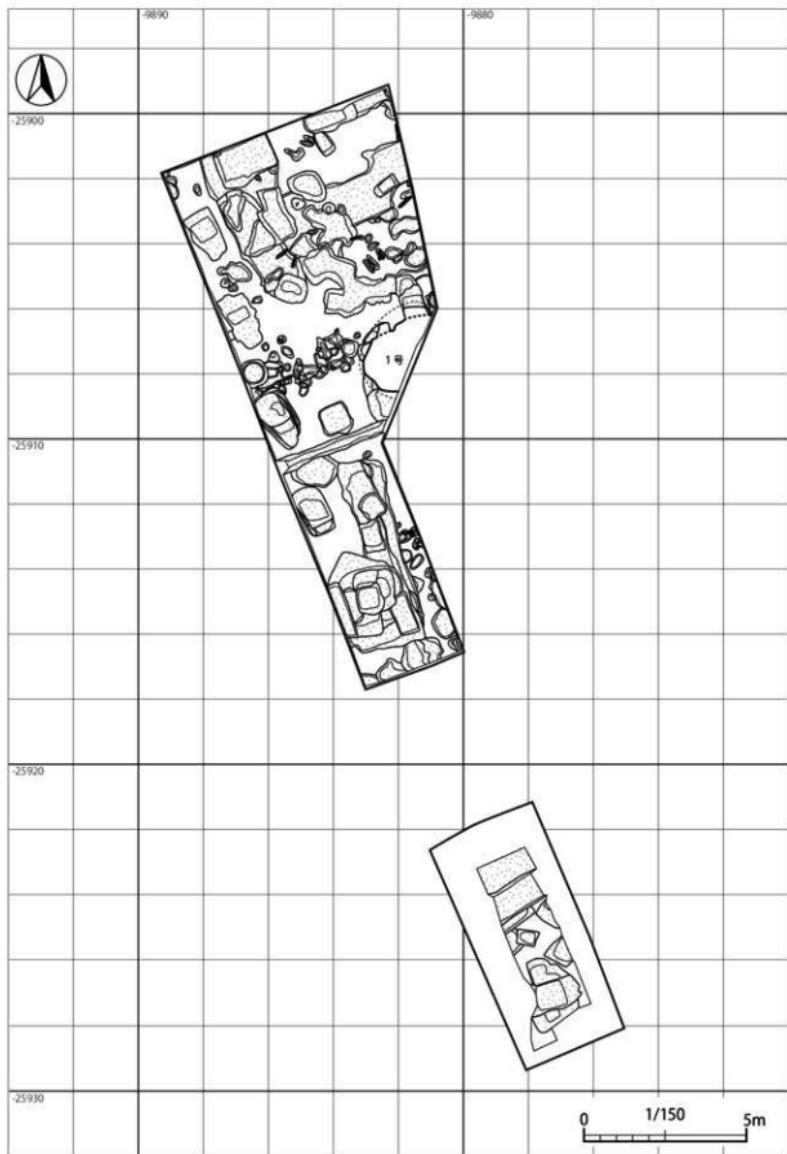


第179図 30-18・19区 近世の遺構(2)(1/40)・出土遺物(1/2・1/3・1/4)

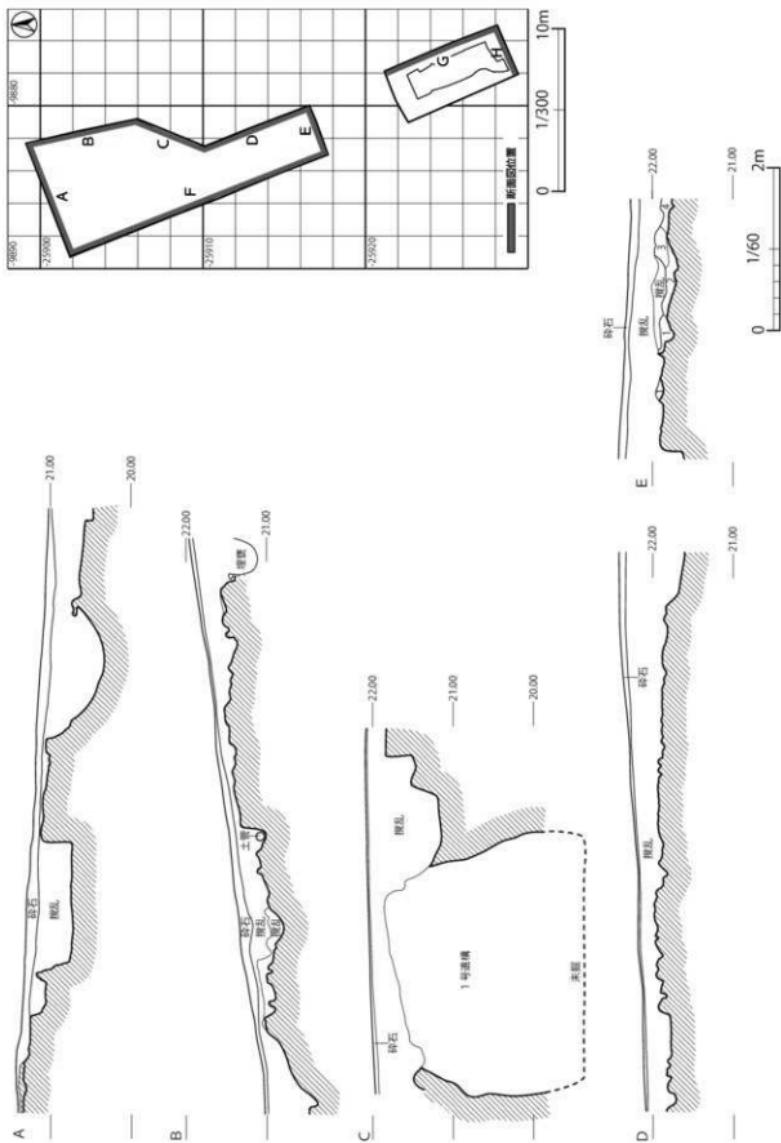
31-15・16・17 区



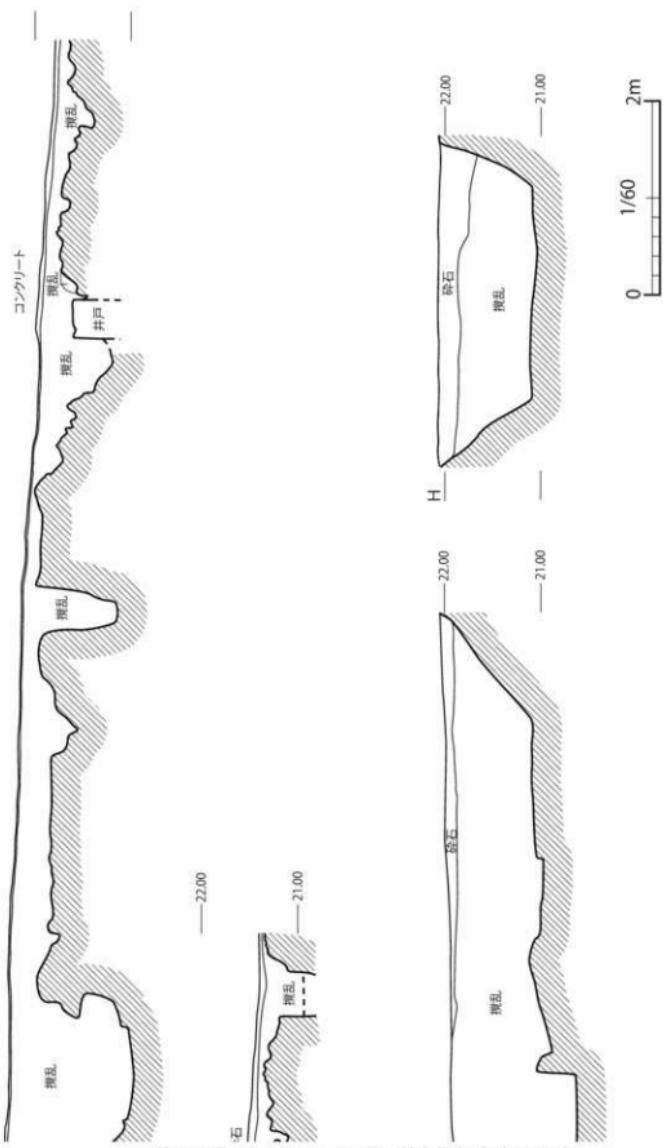
第 180 図 31-15・16・17 区 調査区位置 (1/400)



第 181 図 31-15・16・17 区 遺構全体図 (1/150)



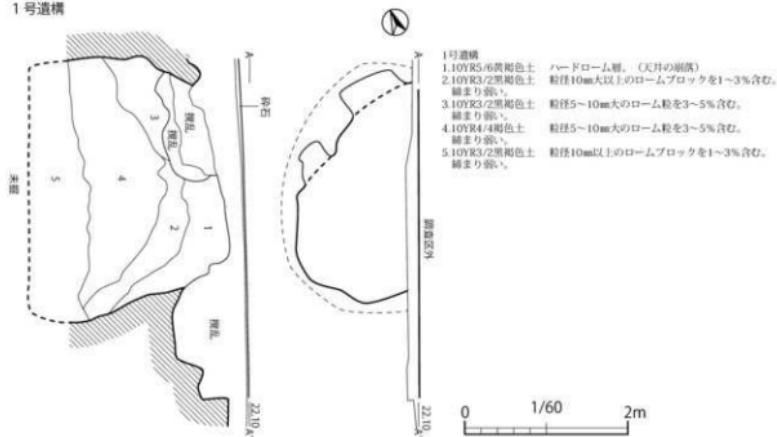
第182図 31-15・16・17区 基本層序(1) (1/60・1/300)



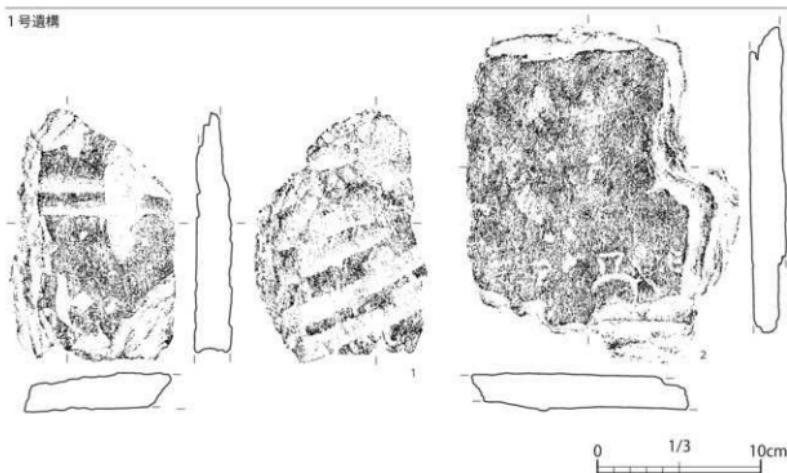
第183図 31-15・16・17区 基本層序（2）(1/60)

1のローム鉱を2～3%含む。網走リム鉱を2～3%含む。網走リム鉱を2～3%含む。
1のローム鉱を7～10%含む。網走リム鉱を7～10%含む。網走リム鉱を7～10%含む。
1のローム鉱を3～5%含む。網走リム鉱を3～5%含む。網走リム鉱を3～5%含む。
1のローム鉱を3～5%含む。網走リム鉱を3～5%含む。網走リム鉱を3～5%含む。

1号遺構

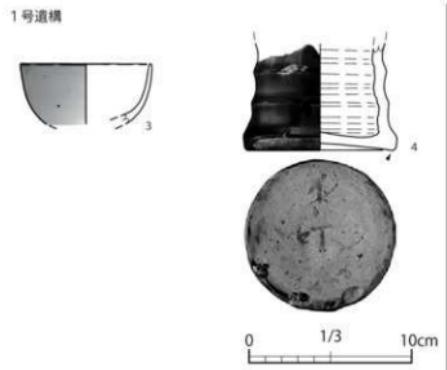


1号遺構



第184図 31-15・16・17区 近世の遺構 (1/60)・出土遺物 (1) (1/3)

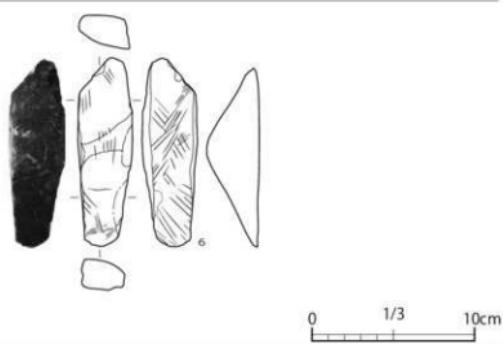
1号遺構



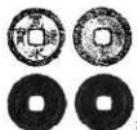
1号遺構



1号遺構



1号遺構



第185図 31-15・16・17区 出土遺物（2）（1/2・1/3・1/4）

第2表 遺構観察表 (1)

2 G 区

遺構	種別	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	時期	備考
1号	ピット	不整形	0.41	0.35	0.50	近世	
3号	溝	—	東西: (4.03) 南北: (7.83)	—	0.9	0.58	近世
4号	ピット	楕円形	—	0.53	0.41	0.29	近世
5号	ピット	不整形	—	0.54	0.41	0.53	近世
6号	ピット	円形	—	0.28	0.27	0.36	近世
7号	ピット	不整形	—	0.54	0.35	0.46	近世
8号	土坑	椭丸方形	1.32	(0.75)	—	0.29	近世

十一条富士塚地区

1号	塹	不整円形	—	—	—	中世以前	丁度現代の高止塙 標高: 27.93m 古世の高止塙 標高: 27.14m 中世の塙 標高: 26.77m
2号	溝	—	(8.72)	下端 (0.8) 下端 0.22	0.90	近世	9号を切る
3号	溝	—	(17.38)	床面 2.68 床面 1.15	床面 0.54 床面 0.94	古代～中世	9号を切る、9号に切られる
4号	溝	椭丸方形	(4.23)	—	3.83	0.48	9号を切る、9号に切られる
5号	溝	椭丸方形	6.28	—	4.55	0.51	9号
6号	溝	椭丸方形	(4.96)	(2.01)	—	0.61	近代の防空壕に切られる 内側は保存範囲に残る
7号	溝	椭丸方形	(3.26)	(3.04)	—	0.45	近代の防空壕に切られる 内側は保存範囲に残る
8号	溝	椭丸方形	(2.65)	(0.51)	—	0.47	近代の防空壕に切られる 内側は保存範囲に残る
9号	溝	椭丸方形	(3.86)	(3.72)	—	0.47	3号に切られる、北側・西側は保存範囲に残る
10号	道路遺構	—	(1.90)	(1.56)	—	0.27	中世
11号	柱穴	円形	0.32	0.30	—	0.46	古世
12号	柱穴	円形	0.29	0.27	—	0.32	古世
13号	柱穴	不整円形	1.03	0.96	—	0.74	古世
14号	溝	椭丸方形	(1.35)	(1.32)	—	0.23	9号を切る

5.3 区

1・1号	溝	—	(3.97)	(1.43)	0.59	近世	日光御城街道跡
1・2号	道路遺構	—	(3.97)	(1.85)	0.22	中世	日光御城街道跡
2号	溝	—	(9.62)	(1.21)	0.41	近世以前	3号を切る
3号	柱穴	円形	0.42	0.39	0.49	古世	3号に切られる

R-2 区

1号	溝	—	0.95	1.43	0.42	近世	日号を切る
2・9号	溝	—	26.8	(1.44)	0.81	近世	日光御城街道跡 10号を切る
3号	溝?	不明	—	—	0.39	近世	3号に切られる
4号	井戸	円形	0.84	0.74	(1.07)	近世	7号を切る 素掘り 足掛けあり 柄枠無し
5号	溝	—	(3.80)	0.86	0.31	近世	6号から山田
6号	柱穴	不整形	1.71	0.86	0.64	古代から山田	
7号	柱穴	円形	0.23	0.05	0.21	楕円形	4号に切られる
8号	柱穴	円形	0.22	0.19	0.48	楕円形	
10号	道路遺構	—	(26.8)	(2.18)	0.28	中世	2号に切られる 蓼科街道路
11号	土坑	不明	(0.64)	(0.53)	0.60	古世	
12号	土坑	椭丸方形	1.21	0.80	1.31	古世	
13号	土坑	椭丸方形	0.98	0.61	0.75	古世	

R-1.2 区

1号	溝	—	—	28.68	(3.11) 1	0.91	近世	日光御城街道の剥削 3号を切る
2号	溝	—	—	—	—	—	—	穴垂 窓丸
3号	道路遺構	—	—	32.23	2.45	0.38	中世	蓼科街道路 壁残する全遺構に切られる
4号	柱穴	不整形	0.49	0.41	0.72	古世		
5号	柱穴	不整形	0.58	0.34	0.73	古世		
6号	柱穴	不整形	0.61	0.44	0.56	古世		
7号	柱穴	不整形	0.39	0.38	0.45	古世		
8号	柱穴	不整形	0.48	0.44	0.76	古世		
10号	柱穴	不整形	0.46	0.31	0.45	古世		
11号	柱穴	不整形	0.54	0.40	0.66	古世		
12号	柱穴	不整形	0.41	0.33	0.44	古世		
13号	柱穴	不整形	0.22	(0.94)	1.52	縫文		
14号	柱穴	不整形	9.72	6.35	0.18	近世以前	南北方向 16条 18号を切る	
15号	柱穴	不整形	6.42	5.84	0.13	近世以前	南北方向 12条	
16号	柱穴	不整形	1.72	0.61	0.27	近世	3号を切る	
17号	柱穴	椭円形	1.35	0.55	0.34	古世	3号を切る 13・18号に切られる	
18号	柱穴	椭丸方形	1.48	0.60	0.18	古世	18号に切られる	
19号	柱穴	椭丸方形	(7.24)	1.80	0.53	古世	3号・16号・17号を切る	
20号	柱穴	椭丸方形	0.33	0.29	0.67	古世		
21号	柱穴	椭丸方形	0.37	0.29	0.63	古世		
22号	柱穴	椭丸方形	0.48	0.29	0.65	古世		
23号	柱穴	椭丸方形	4.63	(2.51)	0.63	第1	24号・32号に切られる	
24号	柱穴	椭丸方形	0.23	0.23	0.62	古世	25号を切る	
25号	—	—	—	—	—	—	穴垂 窓丸	
26号	—	—	—	—	—	—	穴垂 窓丸	
27号	—	—	—	—	—	—	穴垂 窓丸	
28号	—	—	—	—	—	—	穴垂 窓丸	
29号	—	—	—	—	—	—	穴垂 窓丸	
30号	柱穴	不整円形	0.30	0.21	0.36	古世	32号を切る	
31号	柱穴	不整円形	1.24	0.88	1.02	古墳以前	23号を切る 30号に切られる	

第2表 遺構観察表（2）

R2-3区

遺構	種別	平面形	長径 [m]	短径 [m]	深さ [m]	時期	備考
1号	溝	—	3.38	0.65	0.53	弥生	溝軸に曲がる・直進かり
2号	溝	—	3.45	2.15	0.82	弥生	11号・16号・17号に切られる・直進かり
3号	ピット	不整形	0.49	0.35	0.59	近世	
4号	ピット	楕円形	0.43	0.21	0.39	近世	
5号	ピット	円形	0.32	0.30	0.11	近世	
6号	ピット	不整形	0.42	0.39	0.31	近世	
7号	ピット	圓丸方形	0.35	0.32	0.33	近世	
8号	ピット	圓丸方形	0.45	0.35	0.29	近世	
9号	ピット	不整形	0.38	0.20	0.05	近世	
10号	土坑	圓丸方形	(0.42)	(0.78)	0.15	近世	15号・16号を切る
11号	ピット	楕円形	0.37	0.24	0.05	近世	2号を切る
12号	ピット	円形	0.44	0.38	0.45	近世	
13号	土坑	円形	0.73	0.47	0.07	近世	
14号	ピット	圓丸方形	0.35	0.25	0.20	近世	
15号	土坑	—	(1.63)	(0.22)	0.51	近世	10号に切られる・16号との切り合ひ不規則
16号	土坑	不規	(1.17)	(0.47)	0.53	近世	10号に切られる・15号との切り合ひ不規則
17号	土坑	不明	(0.79)	(0.27)	0.39	近世	2号を切る

20-10・11・14・15区

遺構	種別	平面形	長径 [m]	短径 [m]	深さ [m]	時期	備考
1号	土坑	不明	0.57	0.55	0.38	近世	4号を切る
2号	土坑	不明	1.06	0.83	0.33	近世	
3号	直路遺構	—	6.5	1.53	0.54	中世	諫賀街道跡 14号を切る
4号	溝	—	5.52	2.11	0.94	中世	1号に切られる
5号	柱穴	不明	0.28	0.21	0.12	近世	
6号	柱穴	不明	0.27	0.21	0.12	近世	
7号	溝	—	4.25	0.86	0.28	近世	1光脚街路跡構 14号を切る
8号	柱穴	楕円形	0.33	0.26	0.43	近世	
9号	柱穴	楕円形	0.31	0.30	0.35	近世	
10号	土坑	不明	1.04	0.58	0.36	近世	
11号	—	—	—	—	—	次轟	
12号	—	—	—	—	—	次轟	
13号	—	—	—	—	—	次轟	
14号	[傾斜六方柱]	圓丸方形	(0.97)	(1.96)	0.51	弥生	3号、7号に切られる

20-3・4・5・8区

遺構	種別	平面形	長径 [m]	短径 [m]	深さ [m]	時期	備考
1号	土坑	圓丸方形	1.35	0.61	0.23	近世	
2号	ピット	楕円形	0.64	0.42	0.38	近世	3号遺構に切られる
3号	土坑	圓丸方形	0.98	0.95	0.33	近世	2号を切る 線か壙の抜き取り後の埋り方
4号	土坑	楕円形	0.99	0.83	0.15	近世	
5号	土坑	不明	(2.46)	(1.24)	0.55	近世	6号、13号に切られる 24号との切り合ひ とは不明瞭
6号	溝	—	12.84	1.88	0.47	近世	重複する遺構をすべて切る
7号	柱穴	円形	0.38	0.32	0.48	近世	
8号	柱穴	円形	0.27	0.25	0.29	近世	
9号	柱穴	不明	0.35	0.26	0.28	近世	
10号	柱穴	不整形	0.44	0.36	0.37	近世	
11号	柱穴	不整形	0.45	0.34	0.67	近世	
12号	溝	—	16.52	2.26	0.85	中世	25号を切る 1号・6号・7号・8号・9号・ 10号・16号に切られる
13号	柱穴	不明	0.53	0.29	0.33	近世	
14号	柱穴	楕円形	0.48	0.38	0.36	近世	
15号	柱穴	楕円形	0.41	0.34	0.49	近世	
16号	柱穴	不明	0.29	0.25	0.22	近世	
17号	溝	—	0.46	0.30	0.43	近世	
18号	ピット	圓丸方形	0.44	0.41	0.62	近世	
19号	ピット	圓丸方形	0.35	0.18	0.76	近世	
20号	柱穴	円形	0.34	0.3	0.57	近世	
21号	柱穴	円形	0.32	0.29	0.72	近世	
22号	ピット	圓丸方形	0.42	0.33	0.64	近世	
23号	柱穴	圓丸方形	0.34	0.29	0.69	近世	
24号	溝	—	(19.12)	(0.79)	0.79	近世	1光脚街路跡構
25号	—	—	8.37	2.23	0.67	次轟	12号・27号に切られる
26号	土坑	不整形	1.67	0.73	0.36	近世	
27号	柱穴	円形	0.52	0.51	0.68	近世	25号を切る
28号	柱穴	不整形	0.43	0.38	0.78	近世	
29号	柱穴	円形	0.36	0.28	0.88	近世	
30号	柱穴	不明	0.41	0.35	0.70	近世	
31号	ピット	楕円形	0.36	0.3	0.47	近世	
32号	ピット	不整形	0.51	0.39	0.52	近世	
33号	柱穴	不明	0.39	0.31	0.81	近世	
34号	ピット	不明	0.5	0.35	0.65	近世	
35号	ピット	圓丸方形	0.28	0.21	0.37	近世	36号を切る
36号	柱穴	円形	0.35	0.29	0.54	近世	35号に切られる
37号	ピット	楕円形	0.48	0.32	0.62	近世	

20-2・13区

遺構	種別	平面形	長径 [m]	短径 [m]	深さ [m]	時期	備考
1号	—	—	—	—	—	次轟	
2号	溝	—	(3.34)	(1.42)	0.36	近世	8号・24号を切る 16号に切られる 6号 時に同一遺構か
3号	—	—	—	—	—	次轟	
4号	柱穴	楕円形	0.53	0.48	0.45	近世	
5号	土坑	不整形	0.70	(0.54)	0.18	近世	
6号	柱穴	圓丸方形	0.26	0.25	0.47	近世	
7号	柱穴	不整形	0.40	0.34	0.50	近世	
8号	土坑	不整形	0.61	0.55	0.15	近世	2号、9号に切られる
9号	土坑	楕円形	1.78	0.67	0.21	近世	8号を切る
10号	柱穴	圓丸方形	0.57	0.25	0.41	近世	
11号	柱穴	圓丸方形	0.32	0.21	0.25	近世	8号底面で補出
12号	—	—	—	—	—	次轟	
13号	—	—	—	—	—	次轟	
14号	—	—	—	—	—	次轟	
15号	柱穴	圓丸方形	0.22	0.21	0.25	近世	

第2表 遺構観察表(3)

20-2・13区

遺構	種別	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	時期	参考
16号	柱穴	円形	0.28	0.26	0.39	近世	柱穴底面で横出
17号	柱穴	不整形	0.29	0.25	0.35	近世	柱穴底面で横出
18号	柱穴	椭円形	0.31	0.21	0.35	近世	8号、9号底面で横出
19号	柱穴	圓丸方形	0.4	0.26	0.34	近世	9号に切られる
20号	柱穴	圓丸方形	0.23	0.21	0.29	近世	
21号	—	—	—	—	—	次番	
22号	—	—	—	—	—	次番	
23号	—	—	—	—	—	次番	
24号	—	—	2.22 (0.61)	—	0.27	中世	礎化粧 2号に切られる
25号	溝	—	(9.9) (1.45)	—	0.39	発生～古代	35号を切る 26号、32号に切られる
26号	柱穴	椭円形	0.47	0.36	0.54	近世	25号を切る
27号	—	—	—	—	—	次番	
28号	—	—	—	—	—	次番	
29号	柱穴	椭円形	0.4	0.33	0.38	近世	25号を切る
30号	—	—	—	—	—	次番	
31号	—	—	—	—	—	次番	
32号	溝	—	(6.03)	1.65	0.48	中世	25号を切る 29号、51号、52号、61号に切られる
33号	—	—	—	—	—	次番	
34号	—	—	—	—	—	次番	
35号	柱穴底面	圓丸方形	(3.85) (0.6)	—	0.28	発生	25号に切られる
36号	柱穴	不整形	0.6	0.51	0.19	近世	
37号	柱穴	圓丸方形	0.32	0.24	0.43	近世	
38号	柱穴	不整形	0.41	0.35	0.56	近世	柱穴列B
39号	柱穴	圓丸方形	0.26	0.26	0.61	近世	
40号	柱穴	椭円形	0.31	0.27	0.61	近世	柱穴列B
41号	柱穴	圓丸方形	0.27	0.18	0.47	近世	柱穴列B
42号	柱穴	不整形	0.24	0.24	0.48	近世	
43号	柱穴	不整形	0.39	0.27	0.52	近世	柱穴列A
44号	柱穴	不整形	0.39	0.29	0.59	近世	柱穴列A
45号	柱穴	不整形	0.46	0.24	0.62	近世	柱穴列A
46号	柱穴	円形	0.33	0.31	0.41	近世	
47号	柱穴	圓丸方形	0.31	0.3	0.61	近世	
48号	柱穴	圓丸方形	0.38	0.28	0.48	近世	
49号	—	—	—	—	—	次番	
50号	柱穴	円形	0.26	0.24	0.46	近世	柱穴列B
51号	柱穴	不整形	0.26	0.26	0.50	近世	柱穴列B 32号を切る
52号	柱穴	不整形	0.31	0.29	0.57	近世	柱穴列B 32号を切る
53号	柱穴	不整形	0.42	0.34	0.53	近世	柱穴列B 32号を切る
54号	柱穴	不整形	0.58 (0.19)	—	0.65	近世	柱穴列B
55号	—	—	—	—	—	次番	
56号	—	—	—	—	—	次番	
57号	—	—	—	—	—	次番	
58号	柱穴	不整形	0.72	0.6	0.43	近世	柱穴列A
59号	柱穴	椭円形	0.43	0.37	0.58	近世	柱穴列B
60号	柱穴	圓形	0.43	0.27	0.54	近世	柱穴列A
61号	柱穴	円形	0.72	0.55	0.42	近世	柱穴列A 32号を切る
62号	柱穴	円形	0.41	0.32	0.40	近世	柱穴列A
63号	柱穴	円形	0.35	0.29	0.31	近世	柱穴列A
64号	柱穴	椭円形	0.31	0.19	0.40	近世	
65号	—	—	—	—	—	次番	
66号	柱穴	円形	0.44	0.35	0.69	近世	
67号	柱穴	不明	0.26 (0.13)	—	0.40	近世	柱穴列B
68号	溝	—	(2.89) (1.12)	—	0.17	近世	1号と同じ遺構か

R2-1区

1号	溝	—	(5.73)	(1.00)	0.42	近世	
2号	土坑	不整形	2.29 (1.08)	—	0.95	近世	3号、4号を切る
3号	土坑	不整形	0.66	0.67	0.94	近世	2号と同一の形
4号	土坑	不整形	1.11 (0.57)	—	0.52	近世	3号に切られる
5号	土坑	不整形	2.99 (1.54)	—	1.04	近世	5号、6号を切る
6号	土坑	不整形	2.54 (0.35)	2.11	0.88	近世	5、7号に切られる
7号	土坑	不整形	2.23 (0.35)	—	0.63	近世	6号を切る
8号	井戸	円形	0.89	0.73	0.68	近世	

24-32区

1号	ピット	不明	(0.46)	0.45	0.56	近世以前	
2号	ピット	不明	0.27 (0.13)	0.64	0.64	古世1時	
3号	ピット	不明	0.23 (0.15)	—	0.56	古世以前	
4号	土坑	圓丸方形	0.94	0.48	0.51	近世	15号を切る 5号に切られる
5号	溝	—	(7.22)	1.03	0.56	古世以前	6号以外の周囲にある遺構を切る
6号	土坑	不整形	1.42	1.21	0.47	近世以前	3号、15号を切る 10号に切られる
7号	—	—	—	—	—	次番	
8号	—	—	—	—	—	次番	
9号	ピット	不明	(0.39)	0.3	0.44	発生	15号P2に切られる 旧柱穴か
10号	ピット	椭円形	0.27	0.24	0.42	近世以前	6号を切る
11号	ピット	不整形	0.34	0.27	0.26	近世	5号に切られる
12号	—	—	—	—	—	次番	
13号	ピット	不整形	0.38	0.23	0.32	近世	15号を切る 5号に切られる
14号	ピット	不整形	0.38	0.37	0.66	近世以前	
15号	柱穴底面	圓丸方形	5.0	4.09	0.49	発生	4号、5号、6号、13号、18号に切られる
16号	柱穴	不整形	0.31	0.75	0.53	近世以前	17号を切る
17号	ピット	不明	0.35 (0.24)	—	0.34	近世以前	16号に切られる
18号	ピット	椭円形	0.61	0.37	0.37	近世	15号を切る 5号切られる
19号	土坑	長方形	2.72 (0.91)	—	0.48	近世以前	22号を切る
20号	—	—	—	—	—	次番	
21号	土坑	不整形	1.45	0.73	0.23	近世	
22号	溝	—	(9.15) (1.35)	—	0.42	近世	日光城或街道側溝 19号に切られる

第2表 遺構観察表 (4)

R2-4 [区]

遺構	種別	平面形	長径 (m)	幅員 (m)	深さ (m)	時期	備考
1号	溝	—	(27.64)	1.67	0.96	近世	37号との切り合いで切断
2号	ピット	圓丸方形	1.04	0.94	0.17	近世以降	
3号	ピット	円形	0.35	0.29	0.53	近世以降	
4号	ピット	不規則形	0.43	0.34	0.24	近世以降	
5号	ピット	円形	0.30	0.24	0.29	近世以降	
6号	ピット	円形	0.31	0.30	0.36	近世以降	
7号	ピット	不規則形	0.42	0.35	0.27	近世以降	
8号	ピット	円形	0.39	0.36	0.19	近世以降	
9号	ピット	圓丸方形	0.23	0.19	0.21	近世以降	
10号	ピット	円形	0.22	0.22	0.26	近世以降	
11号	ピット	椭円形	0.34	0.26	0.21	近世以降	
12号	ピット	椭円形	0.38	0.30	0.36	近世以降	
13号	ピット	椭円形	0.26	0.24	0.21	近世以降	
14号	ピット	椭円形	0.35	0.31	0.40	近世以降	
15号	ピット	椭円形	0.45	0.32	0.32	近世以降	
16号	ピット	椭円形	0.35	0.28	0.36	近世以降	
17号	ピット	不規則形	0.38	0.32	0.24	近世以降	
18号	ピット	円形	0.27	0.26	0.30	近世以降	
19号	ピット	圓丸方形	0.47	0.41	0.46	近世以降	
20号	ピット	圓丸方形	0.23	0.21	0.19	近世以降	
21号	ピット	椭円形	0.25	0.25	0.15	近世以降	
22号	ピット	椭円形	0.33	0.31	0.49	近世以降	
23号	ピット	椭円形	0.34	0.27	0.52	近世以降	
24号	ピット	椭円形	0.23	0.18	0.21	近世以降	
25号	ピット	椭円形	0.30	0.30	0.27	近世以降	
26号	土坑	不明	3.40	(1.93)	0.34	近世	27号に切られる
27号	土坑	椭円形	2.95	(1.84)	0.24	近世	26号を切る
28号	土坑	椭円形	4.19	(3.35)	0.36	近世	
29号	土坑	円形	2.53	2.06	0.31	近世	60号に切られる
30号	ピット	椭円形	0.37	0.37	0.34	近世	
31号	土坑	不明	0.91	(0.83)	0.20	近世	
32号	ピット	椭円形	0.35	0.30	0.18	近世	
33号	ピット	椭円形	0.25	0.21	0.17	近世	
34号	ピット	椭円形	0.34	0.27	0.15	近世	
35号	ピット	円形	0.24	0.21	0.36	近世	
36号	ピット	椭円形	0.22	0.17	0.32	近世	
37号	溝	—	(14.57)	0.57	0.57	近世	1号との切り合いで切断、41号を切る
38号	ピット	円形	1.44	1.36	0.47	近世	
39号	土坑	不規則形	1.52	1.33	0.59	近世	
40号	溝	—	(4.31)	0.90	0.49	発生	43号に切られる
41号	壁穴付坑跡	椭円形	(4.03)	(1.74)	0.35	発生	37号に切られる
42号	土坑	圓丸方形	1.25	1.15	0.40	近世	
43号	ピット	不明	0.55	0.42	0.20	近世	40号を切る
44号	土坑	不明	1.75	0.54	0.30	近世	
45号	土坑	不明	1.25	1.25	0.39	近世	
46号	壁穴付遺構	圓丸方形	(2.25)	2.03	0.51	発生	
47号	土坑	円形	0.82	0.78	0.24	発生	
48号	ピット	円形	0.32	0.31	0.51	発生	
49号	土坑	円形	0.49	0.44	0.24	発生	
50号	ピット	椭円形	0.30	0.23	0.18	近世	
51号	ピット	不規則形	0.44	0.36	0.36	近世	
52号	ピット	不規則形	0.29	0.18	0.48	近世	
53号	ピット	不明	0.35	0.28	0.37	近世	
54号	ピット	圓丸方形	0.34	0.21	0.50	近世	
55号	ピット	不規則形	0.31	0.28	0.51	近世	
56号	ピット	不規則形	0.47	0.36	0.33	近世	
57号	ピット	椭円形	0.36	0.27	0.50	近世	
58号	ピット	不明	0.37	(0.18)	0.33	近世	
59号	ピット	椭円形	0.44	0.30	0.42	発生	
60号	土坑	椭円形	0.69	0.55	0.77	近世	29号・63号を切る
61号	ピット	不明	0.41	0.28	0.59	発生	
62号	ピット	円形	0.29	0.27	0.52	発生	
63号	ピット	圓丸方形	0.34	0.31	0.45	近世	60号に切られる
64号	ピット	不明	0.30	(0.11)	0.40	近世	
65号	ピット	椭円形	0.39	0.34	0.46	近世	

23-9・31-18 [区]

1号	溝	—	(2.79)	(0.41)	0.11	近世	
2号	溝	—	(7.54)	0.65	0.28	近世	3号、4号を切る
3号	土坑	不規則形	0.77	0.5	0.55	近世	2号に切られる
4号	土坑	不規則形	0.76	0.49	0.41	近世	3号に切られる

30-18・19 [区]

1号	土坑	不規則形	4.56	(3.27)	0.96	近世	3号に切られる。未完掘
2号	溝	—	(2.16)	0.69	0.30	近世	
3号	土坑	椭円形	1.22	0.61	0.32	近世	3号を切る

31-15・16・17 [区]

1号	土坑	不規則形	3.04	1.53	1.80	近世	未完掘 地下式坑の可能性あり
----	----	------	------	------	------	----	----------------

第3表 中世以前の遺物観察表（1）

十条富塚地区

国宝 番号	遺物 番号	器種	法量	胎土	焼成	色調	成形・調整・赤彩・施	残存率	備考
4号遺構									
45	1	弥生土器 壺	a:— b:— d:9.8 f:18.0	砂粒少 赤褐色粒子含む	非常に良 好	7.5YR6/6 粗	外面：ヨコヘラミガキ 赤彩 内面：ナデ調整	表示の 20%	内面剥離多い
	2	弥生土器 台付壺	a:— b:11.3 d:8.4	砂粒少 白色粒子含む	非常に良 好	2.5Y6/3 にぶい黄	外面：脚部 タテハケ後、胴部一部ヨコハケ 内面：脚部 ナデ調整 内面：腹部 ナデ調整 脚部 ナデ調整後ヨコハケ	表示の 90%	
9号遺構									
45	3	弥生土器 壺	a:13.2 b:— d:4.1	細砂粒少 量含む	非常に良 好	10YR6/3 にぶい黄	外面：口輪部 黒付け後 LR 織文施文 口輪部 RL + LR 織文施文 棒状浮文(2本1 組) 黒付けと円筒状文が確認できた 内面：ヨコミガキ 赤彩		
	4	弥生土器 壺	—	細砂粒少 量含む	良好	10YR7/4 にぶい黄	外面：口輪部 LR 織文施文 口輪部 黒付け後 RL + LR 織文施文 下部に別み 細筋文 上に円筒文 内面：ヨコミガキ 赤彩		鏡片
	5	弥生土器 広口壺	a:12.4	砂粒少 量含む	良好	SYR4/6 赤系	外面：口輪部 黒付け後 LR 織文施文 口輪部 LR 織文施文 内面：ヨコミガキ 赤彩		
	6	弥生土器 壺	a:13.2 b:— d:4.1	細砂粒少 量含む	非常に良 好	10YR6/3 にぶい黄	外面：口輪部 黒付け後 LR 織文施文 口輪部 RL + LR 織文施文 棒状浮文(2本1 組) 黑付けと朱文 内面：ヨコミガキ 赤彩	表示の 40%	
	7	弥生土器 壺	a:— b:— c:8.5 d:6.0	砂粒や多 赤褐色粒子含む	やや不良	10YR4/2 灰黄褐	外面：脚部 タテハケ 脚部 4段以上の旋線によ る副削痕文 内面：脚部 ヘラミガキ 脚部 ヨコナデ調整	表示の 40%	
	8	弥生土器 壺	a:— b:6.8 d:3.5	砂粒少 量含む	やや不良	10YR7/4 にぶい黄	外面：ナデ調整後 上部ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	表示の 60%	内面の剥離著しい 底面や下部
	9	弥生土器 広口壺	a:— b:5.8 d:2.4	細砂粒少 量含む	良好	7.5YR6/6 粗	外面：ナデ調整後 上部ヘラミガキ 赤彩 内面：ヘラミガキ 赤彩している	表示の 70%	
	10	弥生土器 広口壺	a:17.8 b:— d:6.8	細砂粒少 量含む	良好	10YR4/3 にぶい黄	外面：ヘラミガキ後、口縁に別み 内面：口輪部 ヨコハケ 脚部 ナデ調整後ヘラミ ガキ	表示の 40%	
	11	弥生土器 壺	a:30.5 b:— d:3.2	砂粒少 赤褐色粒子含む	良好	10YR5/4 にぶい黄	外面：口輪部 タテハケ後、口縁に別み 内面：口輪部 ヨコハケ 脚部 ナデ調整	表示の 25%	
	12	弥生土器 壺	a:— b:6.2 d:3.3	細砂粒少 量含む	良好	10YR4/2 灰黄褐	外面：タテハケ 内面：ナデ調整	表示の 25%	
	13	弥生土器 台付壺	a:— b:— d:5.7 e:6.5	砂粒少 量含む	良好	7.5YR4/4 粗	外面：タテハケ後、一部ヨコナデ 内面：ナデ調整	表示の 40%	
	14	弥生土器 台付壺	a:— b:— d:6.2 e:7.4	砂粒やや多く含 む	良好	SYR4/6 赤系	外面：腹部 タテハケ 内面：腹部 ヨコハケ	表示の 30%	外面部熱
5号遺構									
46	15	弥生土器 高环	—	砂粒少 赤褐色粒子含む	良好	7.5YR6/6 粗	外面：口輪部 ヘラミガキ 赤彩 内面：ヘラミガキ 赤彩		鏡片
	16	弥生土器 壺	—	砂粒少 赤褐色粒子含む	良好	10YR6/4 にぶい黄	外面：脚部 細筋文で上下間にく画し 細筋文上に円 筒状文 内面：ナデ調整		鏡片
	17	弥生土器 高环	a:— b:7.6 d:5.8	砂粒少 赤褐色粒子含む	良好	10YR5/3 にぶい黄	外面：脚部 黒付けを貼り後、脚部状態が文 脚部 ハケ状工具と表面を加工後、粘土 貼付し、脚部状態が文を施し、上端に細か い刻みを造る。 ヘラミガキ 赤彩 内面：ナデ調整	表示の 100%	脚部を打ち欠き、 支脚軸用
	18	弥生土器 壺	a:11.8 b:— d:1.5	砂粒少 赤褐色粒子含む	非常に良 好	10YR7/6 明黄褐	外面：口輪部 棒状浮文(4本1組中3本欠損) 下端に別み 脚部 細筋文で区画し、RL + LR 細筋文で 脚部 円形浮文(4個1組) 黒付け 区画外へ ラミガキ 内面：ナデ調整	表示の 20%	
	19	弥生土器 壺	a:— b:— d:138.0 e:131.0	砂粒少 白色粒子含む	良好	2.5Y6/3 にぶい黄	外面：口輪部 棒状浮文(4本1組中3本欠損) 下端に別み 脚部 細筋文で区画し、RL + LR 細筋文で 脚部 円形浮文(4個1組) 黒付け 区画外へ ラミガキ 内面：ナデ調整	表示の 40%	口輪部から脚部上方の 内外面には黒付けと 内面には又付着 跡への転用
	20	弥生土器 壺	a:— b:7.3 d:3.0	砂粒少 赤褐色粒子含む	やや不良	10YR7/4 にぶい黄	外面：ヘラミガキ 赤彩 内面：ナデ調整	表示の 70%	内面の剥離著しい

第3表 中世以前の遺物観察表（2）

十条富士塚地区										
団体番号	遺物番号	器種	法量	断土	焼成	色調	成形・調整・赤彩・他		現存率	備考
5号遺構										
46	21	陶生土器 直口瓶	a:15.5 b:— d:5.6	砂粒少量 赤褐色粒子含む	良好	10YR5/4 に似、黄褐	外面：口輪部、肩付後、ナデ調整 ハラミガキ 赤彩 内面：ヘラミガキ 赤彩	開示の 15%		
	22	陶生土器 瓶	a:— b:8.4 d:4.6	砂粒を多く含む 白色粒子含む	良好	10YR6/6 明黄褐	外面：底部、ナデ調整 内面：ナデ調整		被熱 外面部	
	23	陶生土器 台付甕	a:— b:9.9 d:7.8	砂粒少量含む	良好	10YR4/3 に似、黄褐	外面：脚部 タテハケ 内面：腹部 ナデ調整 脚部 斜めハケ	開示の 100%	腹部内面にスス付着	
	24	陶生土器 台付甕	a:— b:— d:8.5 e:5.5	砂粒や多い 赤褐色粒子含む	良好	10YR4/2 灰黄褐	外面：脚と甕の接合部に補強帯 内面：腹部 ナデ調整	開示の 100%	腹部内面にスス付着	
	25	陶生土器 台付甕	a:— b:6.7 d:5.3	砂粒や多い 赤褐色粒子含む	良好	10YR4/2 灰黄褐	外面：脚部 ナデ調整 内面：脚部 表面摩滅、脚部 ナデ調整	開示の 70%		
6号遺構										
47	26	陶生土器 瓶	a:— b:— d:5.5 f:25.8	砂粒少量含む	良好	10YR7/6 明黄褐	外面：ハラミガキ 口例部や下方に描み出字 赤彩 内面：口輪部 RL 鑽文施文 脚部 赤彩	開示の 30%		
	27	陶生土器 瓶	—	砂粒少量 赤褐色粒子含む	良好	10YR4/2 灰黄褐	外面：ヘラミガキ 内面：ナデ調整		織片	
	28	陶生土器 台付甕	a:27.4 b:— d:10.3	砂粒多く含む 赤褐色粒子含む	良好	10YR4/3 に似、黄褐	外面：口例部 ヨコハケ後削み 口輪部 タテハケ 肩部ヨコハケ 内面：口輪部ヨコハケ、ナデ調整	開示の 30%		
	29	陶生土器 台付甕	a:22.0 b:— d:5.9	砂粒多く含む 赤褐色粒子含む	良好	10YR5/3 に似、黄褐	外面：口輪部 ヨコハケ後削み 口輪部摩滅 タ ハケ 内面：口輪部 ヨコハケ	開示の 20%		
	30	陶生土器 台付甕	a:— b:12.5 d:8.4 e:5.7	細砂少量含む	良好	2.5Y6/2 灰黄	外面：タテハケ 内面：腹部 ナデ調整 脚部 ナデ調整	開示の 70%		
	31	土製勾玉	長:2.0 厚:1.3 幅:3.0	赤褐色粒子含む	良好	7.5YR4/2 灰	全面丁寧なミガキ 赤彩	完形	孔径:1.8mm	
	7号遺構									
47	32	陶生土器 瓶	—	細砂少量 赤褐色粒子含む	良好	2.5Y6/4 に似、黄	外面：口例部 RL 鑽文施文 口輪部LR RL 鈎状彫文 施文 横削り文字(日本1號) 円形未施文す 内面：ヘラミガキ 赤彩	織片		
	33	陶生土器 瓶	—	砂粒や多い、 赤褐色粒子含む	良好	7.5YR4/3 周	外面：口輪部、肩付後、RL 鑽文施文 上下端に削み、 内面：口輪部 RL 鑽文施文 赤彩	織片	表面摩滅	
	34	陶生土器 台付甕	a:— b:9.0 d:2.2	細砂少量含む	良好	2.5Y6/4 に似、黄	外面：表面摩滅 底面に木葉痕	開示の 20%		
	35	陶生土器 直口瓶	a:15.0 d:4.5	細砂少量含む	良好	2.5Y6/3 に似、黄	外面：口輪部下方に描み出字 脚部～脚部ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ 赤彩	開示の 15%		
	36	陶生土器 台付甕	a:24.8 b:— d:5.3	砂粒や多い、 赤褐色粒子含む	良好	7.5YR5/4 に似、黄	外面：脚部 ナデ調整 脚部 ナデ調整 内面：腹部 ナデ調整 脚部 ナデ調整	開示の 90%	腹底部底面にスス付着	
	37	陶生土器 台付甕	a:— b:8.9 d:6.1	砂粒少量含む	良好	10YR5/4 に似、黄褐	外面：口輪部 タテハケ後、口輪部に削み 内面：ヨコハケ	開示の 20%	3号遺構と遺構間接合	
	38	陶生土器 瓶	a:— b:5.4 d:2.3	細砂少量含む	良好	2.5Y6/2 灰黄	外面：表面摩滅 内底部に僅かに赤彩残存	開示の 30%	ミニチュア	
	8号遺構									
47	39	陶生土器 瓶	a:— b:— d:6.9 f:20.0	細砂少量含む	非常に良好	10YR6/3 に似、黄	外面：ヘラミガキ 赤彩 内面：ナデ調整	開示の 20%	表面摩滅	

第3表 中世以前の遺物観察表（3）

十条富士塚地区											
団版番号	遺物番号	器種	法量	断土	焼成	色調	成形・調整・赤彩・他	残存率	備考		
3号遺構											
40	40	弥生土器 高环	a:- b:- c: d:2.9 e:4.0	砂粒少 白色粒子含む	非常に良好	10YR5/4 に似い黄褐	外縁：接合部・1条の粘土層貼付 ヘラミガキ 赤彩 内縁：环部 ヘラミガキ 赤彩 頭部 ナデ調整	表示の90%			
	41	弥生土器 高环	a:- b:- c: d:3.0 e:6.2	砂粒少 赤褐色粒子含む	良好	10YR5/2 灰黄褐	外縁：ヘラミガキ 内縁：环部 ヘラミガキ 頭部 ナデ調整	表示の40%			
	42	弥生土器 壺	a:18.7 b:- c: d:6.2	砂粒少 赤褐色粒子含む	良好	10YR6/4 に似い黄褐	外縁：口縁部 貼付後 LR・RL 線状浮文施文 條状浮文 （日本1組）貼付 頭部ヘラミガキ 赤彩 内縁：ヘラミガキ 赤彩	表示の20%			
	43	弥生土器 壺	a:15.2 b:- c: d:4.2	砂粒少 白色粒子含む	良好	10YR7/6 明黄褐	外縁：口縁部 貼付後ナデ調整 頭部 ナデ調整	表示の40%			
	44	弥生土器 壺	a:- b:4.4 c: d:2.3	砂粒や多い 白色粒子含む	やや不良	2.5Y5/3 黄褐	外縁：ヘラミガキ 内縁：ナデ調整	表示の20%			
	45	弥生土器 台付壺	a:15.0 b:- c: d:6.4	砂粒少 赤褐色粒子含む	良好	10YR6/4 に似い黄褐	外縁：口縁部 タテハケ後削み 口縁～脚部 タテハケ 内縁：口縁部 ヨコハケ 脚部 ナデ調整	表示の20%			
	46	弥生土器 台付壺	a:- b:- c: d:3.7	砂粒や多い 赤褐色粒子含む	良好	10YR5/4 に似い黄褐	外縁：軽いタテハケ 内縁：ナデ調整	表示の40%			
	47	弥生土器 直口壺	a:22.3 b:- c: d:8.2	砂粒や多い 赤褐色粒子含む	良好	7.5YR6/4 に似い黄褐	外縁：口縁部 ヨコナデ調整 脚部 細めナデ調整 内縁：ナデ調整	表示の25%			
	48	弥生土器 壺	a:- b:4.0 c: d:2.0	細砂粒少 量含む	良好	2.5Y5/3 黄褐	外縁：ナデ調整 赤彩 内縁：ナデ調整 赤彩	表示の80%	ミニチュア		
	49	土製瓦 玉	長:(2.1) 幅:0.9 厚:0.5	細砂粒少 量含む	非常に良好	10YR5/2 に似い黄褐	全面を丁寧なミガキ		頭部欠損		
49	50	土師器 壺	a:- b:5.6 c: d:2.0	細砂粒少 量含む	良好	7.5YR6/6 赤	全面表面ヘラ削り 回転向右 体部 手打ちヘラ調整	表示の80%	8c末～9c前半		
	1号遺構										
	坂下派土器類										
	51	弥生土器 壺	-	砂粒少 量含む	良好	7.5YR5/4 に似い黄褐	外縁：5字状結節文5条で上・下区間に上段LR 鑄文 下段ヘラミガキ後、赤彩 内縁：ヘラミガキ 赤彩		破片		
	52	弥生土器 台付壺	-	砂粒少 赤褐色粒子含む	良好	10YR5/2 灰黄褐	外縁：口縁部 タテハケ後削み 口縁～脚部 タテハケ後ヨコハケ 内縁：ナデ調整		破片		
	53	弥生土器 壺	a:21.3 b:- c: d:7.8	砂粒少 量含む	良好	10YR4/2 に似い黄褐	外縁：口縁部 貼付後ナデ調整 頭部 ヘラミガキ 赤彩 内縁：ヘラミガキ 赤彩	表示の25%			
	54	弥生土器 壺	a:22.0 b:- c: d:3.2	砂粒少 量含む	良好	2.5Y5/2 暗灰褐	外縁：口縁部 上・下脚部貼付後、網目状燃灰文 口縁部 貼付後網目状燃灰文 條状浮文（日本以 上）貼付後、條状浮文状に削み 剥離（下部）下端に削み 頭部 赤彩 内縁：ヘラミガキ	表示の15%			
	55	弥生土器 壺	a:- b:8.4 c: d:5.0	砂粒や多い 赤褐色粒子含む	良好	10YR7/3 に似い黄褐	外縁：ヘラミガキ後底部ナデ調整 赤彩 内縁：ナデ調整	表示の30%			
	56	弥生土器 台付壺	a:- b:- c: d:7.2 e:7.4	砂粒多 赤褐色粒子含む	良好	10YR5/4 に似い黄褐	外縁：ナデ調整 内縁：腰部ナデ調整 頭部 ナデ調整	表示の70%	腰部 スス付着		
	57	弥生土器 台付壺	a:- b:- c: d:5.7 e:4.8	砂粒多 赤褐色粒子含む	良好	10YR5/4 に似い黄褐	外縁：接合部ナデ調整後タテハケ 内縁：腰部 ナデ調整 頭部 ナデ調整	表示の40%	腰部 スス付着		
	58	土製瓦 玉	長:2.6 幅:1.0 厚:0.9	細砂粒少 量含む	良好	2.5Y4/2 暗灰褐	全面ミガキ		完形 孔径:2.0mm		

第3表 中世以前の遺物観察表（4）

十条富士塚地区									
回収番号	遺物番号	器種	法量	出土	地成	色調	成形・調整・赤彩・施	残存率	備考
1号遺構出土									
49	59	縄文土器 深鉢	—	砂粒やや多く含む	良好	7.5YR7/6 相	口縁部 陰帯貼付後、連続する刻み目を施文	破片	安行2式
	60	縄文土器 深鉢	—	砂粒やや多く含む	良好	7.5YR6/6 相	口縁部 陰帯貼付後、連続する刻み目を施文	破片	安行2式
	61	縄文土器 深鉢	—	砂粒やや多く含む	良好	7.5YR5/3 に似い黄褐	口縁部 陰帯貼付後、連続する刻み目を施文	破片	安行2式
	62	縄文土器 深鉢	—	砂粒やや多く含む	良好	10YR5/3 に似い黄褐	側部 陰帯貼付後、連続する刻み目を施文 側面に突出部 腹帶間に所用部分を斜行沈線で充填	破片	安行2式
	63	縄文土器 深鉢	—	砂粒やや多く含む	良好	10YR4/2 灰黄褐	口縁部 沈線を造らした後に、RLの單脚彫文を施文	破片	安行1式
	64	縄文土器 深鉢	—	砂粒やや多く含む	良好	10YR6/3 に似い黄褐	口縁部 連続する刺突文を造らず 細い弧状の沈線を施文	破片	安行1式
	65	縄文土器 深鉢	—	砂粒やや多く含む	良好	10YR7/4 に似い黄褐	口縁部 連続する刺突文を造らず 細い弧状の沈線を施文	破片	安行1式
	66	縄文土器 深鉢	—	砂粒やや多く含む	良好	10YR7/3 に似い黄褐	口縁部 連続する刺突文を造らず 細い弧状の沈線を施文	破片	安行1式
	67	縄文土器 深鉢	—	砂粒やや多く含む	良好	10YR6/4 に似い黄褐	口縁部 細い弧状の沈線を施文	破片	安行1式
	68	縄文土器 深鉢	—	砂粒やや多く含む	良好	10YR7/2 に似い黄褐	側部 沈線間に連続する刺突文を造らず 細い弧状の沈線を施文	破片	安行1式
50	69	縄文土器 深鉢	—	砂粒やや多く含む	良好	10YR5/3 に似い黄褐	側部 沈線間に連続する刺突文を造らず 細い弧状の沈線を施文	破片	安行1式
	70	縄文土器 深鉢	—	砂粒やや多く含む	良好	10YR6/3 に似い黄褐	側部 沈線間に連続する刺突文を造らず 細い弧状の沈線を施文	破片	安行1式
	71	縄文土器 不明	—	砂粒やや多く含む	良好	7.5YR6/6 相	把手部	破片	時期不明
	72	縄文土器 直口	—	細砂粒少留含む	良好	10YR6/4 に似い黄褐	把手部 沈線。刺突文	破片	加賀利B1式
	73	石器	長さ：3.3 幅：1.4 厚さ：0.5	—	—	—		完形	チャート 1.7g
	74	打製石斧	長さ：11.8 幅：6.0 厚さ：2.0	—	—	—		完形	砂岩 181.5g
	75	打製石斧	長さ：10.2 幅：6.6 厚さ：2.2	—	—	—		ほぼ完形	ホルンフェルス 132.5g
	76	打製石斧	長さ：16.1 幅：6.6 厚さ：2.4	—	—	—		完形	未製品 ホルンフェルス 378.5g

第3表 中世以前の遺物観察表（5）

十条富士塚地区

団体番号	遺物番号	器種	法量	断土	構成	色調	成形・調整・赤彩・他	残存率	備考
1号遺構添土									
	77	弥生土器 壺	-	砂粒多量 赤褐色粒子含む	良好	10YR4/2 灰黄褐色	外面：口押部、模文部、口縁部、貼付部、内面：ヘラミガキ赤彩	破片	
	78	弥生土器 壺	-	砂粒少量化	良好	10YR7/4 にぶい黄褐色	外面：口縫部直後と正丸部に模文を粘接文で内面し、模文修理部（4本1単位）貼付、内面：ヘラミガキ赤彩、内面：ヘラミガキ赤彩	破片	
	79	弥生土器 壺	-	砂粒少量化 赤褐色粒子含む	良好	2.5Y6/4 にぶい黄褐色	外面：口縫部、LR 織文施文、口縫部、貼付部 LR、RL 織文施文、模文部（4本1単位）貼付、下端に貼み修理、内面：ヘラミガキ赤彩	破片	
	80	弥生土器 壺	-	細砂少量化	良好	2.5Y5/3 黄褐色	外面：口縫部、貼付部 LR、RL 細織文施文 内面朱文、内面：ヘラミガキ赤彩	破片	
	81	弥生土器 壺	-	砂粒少量化	良好	10YR4/2 灰黄褐色	外面：口縫部、RL 織文施文、口縫部、貼付部 LR、模文部、模文部（4本1単位）貼付、内面：ヘラミガキ赤彩	破片	
51	82	弥生土器 壺	-	細砂少量化	良好	2.5Y5/3 黄褐色	外面：口縫部、RL 織文施文、口縫部、貼付部上端に細砂、内面：ヘラミガキ赤彩	破片	
	83	弥生土器 壺	-	砂粒少量化	良好	2.5Y6/3 にぶい黄褐色	外面：口縫部、貼付部後、RL 織文施文し、下端に貼み修理、内面：ヘラミガキ赤彩	破片	
	84	弥生土器 壺	-	砂粒少量化 赤褐色粒子含む	良好	10YR5/4 にぶい黄褐色	外面：口縫部、貼付部後、RL 織文施文、口縫部、貼付部後上端に細砂、内面朱文、内面：ヘラミガキ赤彩	破片	
	85	弥生土器 壺	-	砂粒少量化 赤褐色粒子含む	良好	10YR6/3 にぶい黄褐色	外面：口縫部、貼付部後、RL 織文施文、内面朱文、内面：ヘラミガキ赤彩	破片	
	86	弥生土器 壺	-	砂粒少量化 赤褐色粒子含む	良好	10YR6/4 にぶい黄褐色	外面：肩部 粘接部で3段に区画、上・下段はヘラミガキ後赤彩、内面：ナデ調整	破片	
	87	弥生土器 壺	-	細砂少量化	良好	10YR6/4 にぶい黄褐色	外面：肩部 粘接部で3段に区画、上段は内面朱文、内面：ナデ調整	破片	
	88	弥生土器 壺	-	砂粒少量化 赤褐色粒子含む	良好	10YR5/4 にぶい黄褐色	外面：肩部 LR 織文施文後、開闊をあけて模文の複数と模文、区画外側を模文で埋め替り後へヘラミガキ 赤彩、内面：ナデ調整	破片	
	89	弥生土器 壺	a:22.7 b:- d:4.12	砂粒少量化	良好	10YR5/3 にぶい黄褐色	外面：口縫部、LR 織文施文で口縫部、貼付部 LR、RL 羽状織文施文下端に細砂、内面：ヘラミガキ赤彩 （表示の25%）	破片	
	90	弥生土器 壺	a:- b:- d:4.9	砂粒や少量化 赤褐色粒子含む	良好	10YR5/4 にぶい黄褐色	外面：肩部 ヘラミガキ赤彩、肩部 S字状粘接部で2段に区画上・下段は RL 織文施文、上段上部に内面朱文、下部に内面朱文、内面：ナデ調整 （表示の40%）	破片	
	91	弥生土器 壺	a:- b:- d:6.1	砂粒や少量化 赤褐色粒子含む	良好	10YR4/2 灰黄褐色	外面：肩部 S字状粘接部で2段に区画、LR、RL 羽状織文施文、貼付部、内面朱文を赤彩、区画外側へナデ 及び、内面：ナデ調整、肩部上部を内面 （表示の30%）	破片	
52	92	弥生土器 壺	a:- b:- d:4.8	細砂少量化 精緻	良好	2.5Y6/3 にぶい黄褐色	外面：肩部 LR 織文施文後、S字状粘接部で上・下段に区画、内面朱文の内縫部引抜き、その下下部厚突起部、上端にナデ及ぼす、下端は開闊化部で区画内側の模文は埋め替り後へヘラミガキ 赤彩、内面：ナデ調整 （表示の30%）	破片	
	93	弥生土器 壺	a:- b:- d:5.0	砂粒少量化	良好	2.5Y6/4 にぶい黄褐色	外面：肩部 S字状粘接部で3段に区画、上段から LR・RL・LRの順に模文を施文、内面：ナデ調整 （表示の20%）	破片	
	94	弥生土器 壺	a:- b:9.7 d:5.5	砂粒少量化 赤褐色粒子含む	非常に良好	10YR6/4 にぶい黄褐色	外面：ヘラミガキ 赤彩、内面：ナデ調整、剥離著しい （表示の80%）	破片	
	95	弥生土器 壺	a:- b:5.6 d:2.4	砂粒少量化 赤褐色粒子含む	良好	10YR4/2 灰黄褐色	外面：ナデ調整後 ヘラミガキ 赤彩、内面：ナデ調整 （表示の70%）	破片	
	96	弥生土器 壺	a:- b:6.6 d:2.5	砂粒少量化 赤褐色粒子含む	良好	10YR6/4 にぶい黄褐色	外面：ナデ調整 赤彩、内面：ナデ調整 （表示の60%）	破片	
	97	弥生土器 壺	a:- b:6.6 d:1.5	砂粒少量化	良好	2.5Y5/3 黄褐色	外面：ナデ調整 黄面 木葉痕、内面：ナデ調整 （表示の40%）	破片	
	98	弥生土器 壺	a:- b:9.6 d:2.8	細砂少量化	良好	10YR6/6 明黄褐色	外面：ナデ調整後 ヘラミガキ 黄面 木葉痕、内面：ヨコ・斜めハケ （表示の30%）	破片	

第3表 中世以前の遺物観察表（6）

十条富士塚地区									
団版番号	遺物番号	器種	法量	断土	構成	色調	成形・調整・赤彩・他	残存率	備考
1号遺構添土									
52	99	弥生土器 直	a:— b:7.2 d:2.7	砂粒やや多い 赤褐色粒子含む	良好	2.5Y5/3 黄褐	外面:ナデ調整 内面:ナデ調整	図示の20%	内曲ス付直
	100	弥生土器 直口直	a:18.2 b:— d:2.8	細砂粒少量含む	良好	10YR5/4 にぶい黄褐	外面:口縁部 街道土着後、弱くナデ調整 赤彩 内面:ヘミガキ 赤彩	図示の25%	
	101	弥生土器 台付直	a:23.8 b:— d:6.6	細砂粒少量含む	非常に良好	10YR6/4 にぶい黄褐	外面:口縁部 斜めハケ後削み 制部 斜めハケ 内面:口縁部 ヨコハケ 制部 ナデ調整	図示の25%	
	102	弥生土器 台付直	a:20.7 b:— d:4.2	砂粒少借 赤褐色粒子含む	良好	2.5Y5/3 にぶい黄	外面:口縁部 刈み 口縁部 タテハケ 内面:ヨコハケ	図示の25%	
	103	弥生土器 台付直	a:23.5 b:— d:4.1	砂粒少借 赤褐色粒子含む	良好	7.5YR5/4 にぶい褐	外面:口縁部 刈み 口縁部 ナデ調整 内面:ナデ調整	図示の25%	
53	104	弥生土器 台付直	a:— b:11.5 d:10.2	砂粒少量含む	良好	10YR4/2 灰黄褐	外面:接合部 ナデ後、全面タテハケ 内面:腹部 ナデ調整 腹部 ヨコハケ後ナデ調整	図示の40%	
	105	弥生土器 台付直	a:— b:— d:6.4	砂粒少借含む	良好	10YR5/4 にぶい黄褐	外面:接合部 ナデ後、全面タテハケ 内面:腹部 ナデ調整 腹部 ヨコ・斜めハケ	図示の80%	
	106	弥生土器 台付直	a:— b:13 d:4.5	砂粒少借含む	良好	10YR6/3 にぶい黄褐	外面:タテハケ 内面:腹部 ナデ調整 腹部 ナデ調整	図示の60%	外曲摩滅著しい
	107	弥生土器 直	a:— b:4.4 d:4.4	細砂粒少借含む	良好	10YR6/4 にぶい黄褐	外面:ナデ調整 赤彩 底面 赤彩 内面:ナデ調整		ミニチュア?
	108	陶器直	—	砂粒少借含む	非常に良好	2.5Y5/2 暗灰黄	外面:平行叩き目 内面:同心円状當て具痕	破片	常滑
54	109	陶器直	—	砂粒少借含む	非常に良好	2.5Y5/1 黄灰	外面:平行叩き目	破片	常滑
	110	陶器直	—	砂粒少借含む	非常に良好	2.5Y4/1 黄灰	外面:平行叩き目	破片	常滑 転用瓶 瓶断面2辺に研削痕
	111	陶器直	a:40.4 b:— d:20.9	砂粒やや多く含む 赤褐色粒子含む	非常に良好	7.5YR3/4 暗褐	外面:輪縁み部にヘラ状工具によるナデ痕	図示の20%	
	112	陶器直	—	砂粒やや多く含む	非常に良好	7.5YR4/4 褐	外面:輪縁み部にヘラ状工具によるナデ痕	破片	常滑
	113	陶器直	a:— b:21.8 d:11.5	砂粒やや多く含む 赤	非常に良好	7.5YR3/3 暗褐	外面:輪縁み部にヘラ状工具によるナデ痕	図示の20%	
74	114	石製品 板碑	長:(16.4) 幅:(9.0) 厚:2.3	—	—	—	表面:「キーリー」、「念仏 構カ?正」、「十カ?」 裏面:鉄鑄	破片	疑泥片岩
	115	石製品 板碑	長:(13.8) 幅:(12.8) 厚:1.8	—	—	—	表面:「一年 丙午 / ~門」 裏面:鉄鑄	破片	疑泥片岩

R2-2区

5号遺構

団版番号	2	遺物番号	器種	法量	砂粒やや多く含む	良好	10YR4/4 にぶい黄褐	外面:タテハケ 内面:ナデ調整	破片
74	3	弥生土器直	a:— b:7.6 c:2.1	砂粒やや多く含む	良好	7.5YR5/4 にぶい褐	外面:タテハケ 内面:ナデ調整	図示の20%	

第3表 中世以前の遺物観察表（7）

R1-2区

団版番号	遺物番号	器種	法量	断土	構成	色調	成形・調整・赤彩・他	残存率	備考
1号遺構									
89	1	須彌器 裏	—	やや軽い砂粒 少量含む	非常に良好	7.5YR3/1 黒斑	内面：同心円状当て具痕	破片	和用紙 糊断面 I 近研磨痕
	2	須彌器 裏	—	やや軽い砂粒 少量含む	非常に良好	10YR4/1 黒斑	外面：平行印き目 内面：同心円状当て具痕	破片	1・7と同一個体か
3号遺構									
89	6	弥生土器 高环	a:— b:11.0 d:5.6	砂粒少量 赤褐色粒子含む	良好	10YR6/4 にぶい黒斑	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	揭示の 20%	
	7	須彌器 裏	—	やや軽い砂粒 少量含む	非常に良好	7.5YR3/2 黒斑	外面：平行印き目 内面：同心円状当て具痕	破片	1・2と同じ個体か
	8	中型 カワラケ	a:8.6 b:4.6 c:2.6	細砂粒少量含む	良好	7.5YR5/4 にぶい黒	ロクロ成形 右回転形切り離し	揭示の 60%	
23号遺構									
89	9	弥生土器 高环	a:15.2 b:— d:5.1	細砂粒少量 赤褐色粒子含む	やや不良	10YR5/2 灰黄褐	外面：斜めヘラミガキ後継ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	揭示の 30%	10と同一個体か
	10	弥生土器 高环	a:— b:10.5 d:3.4	細砂粒少量 赤褐色粒子含む	やや不良	10YR5/2 灰黄褐	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	揭示の 70%	9と同じ個体か
	11	弥生土器 台付環	a:11.3 b:— d:15.0 e:4.9	砂粒少量 赤褐色粒子含む	良好	10YR4/2 灰黄褐	外面：口脚部 ヨコハケ後継 内面：口脚部 斜めハケ 外面：口脚部 ヨコハケ 脚部 ナデ調整 内面：口脚部 ヨコハケ 脚部 ナデ調整 外面：台部 斜めハケ後ヨコハケ	揭示の 90%	底面と台部分離して出土 中心軸にズレ
32号遺構									
89	16	金属 板状跡先	幅:900 高:510 厚:3.5				馬蹄折り返し部の外幅16mm、内幅(最大)10.5mm 跡先端部のは両端や丸くなる(使用による摩耗か)		鉄製

R2-3区

2号遺構									
96	1	弥生土器 裏	—	細砂粒少量含む	良好	7.5YR6/6 相	外面：口脚部 刈み 口縁部 ナデ調整 内面：口脚部 ナデ調整	破片	スス付着
	2	弥生土器 裏	a:7.1 b:— d:10.3	細砂粒少量含む	良好	7.5YR6/4 にぶい相	外面：口脚部 ヘラミガキ 内面：口脚部 ヨコハケ 脚部 ヨコハケ後 ナデ調整	揭示 70%	

20-10・11・14・15区

4号遺構									
107	3	陶器 質	—	軽い砂粒を 少量含む	非常に良好	7.5YR4/2 灰斑	外面：縱方向のヘラナデ調整 内面：縦方向のヘラナデ調整	破片	滑溜 制脚碎片
14号遺構									
107	5	弥生土器 裏	—	細砂粒少量含む	良好	7.5YR6/6 相	外面：口脚部 刈み 口縁部 ナデ調整 内面：口縁部 ナデ調整	破片	スス付着
	6	弥生土器 裏	a:7.1 b:— d:10.3	細砂粒少量含む	良好	7.5YR6/4 にぶい相	外面：口脚部 ヘラミガキ 内面：口脚部 ヨコハケ 脚部 ヨコハケ後 ナデ調整	揭示 70%	

20-3～5・8区

6号遺構									
121	11	石製品 板碑	長:6(2) 幅:4(6) 厚:1(6)	—	—	—	表面：区画線 1条 裏面：剥離	破片	
12号遺構									
121	13	弥生土器 裏	—	細砂粒少量含む	良好	2.5Y5/3 灰斑	外面：ヘラミガキ 赤彩 内面：ナデ調整	破片	
	14	弥生土器 裏	a:— b:— d:3.5	細砂粒少量含む	やや不良	10YR5/2 灰黄褐	外面：タガハケ 内面：ナデ調整	破片	
	15	弥生土器 裏	—	砂粒や多く 含む	やや不良	5YR4/4 にぶい赤斑	外面：タガハケ後、斜めハケ 内面：斜めハケ	破片	
	16	弥生土器 裏	—	砂粒少量含む	良好	10YR6/3 にぶい黒斑	外面：口脚部 刈み 口縁部 タハケ 脚部 ヨコハケ 内面：口脚部 ヨコハケ 脚部 ナデ調整	破片	古付裏か？

第8表 中世以前の遺物観察表（8）

20-3～5・8区

団版番号	遺物番号	器種	法量	胎土	焼成	色調	成形・調整・赤彩・他	残存率	備考
12号遺構									
12Z	17	陶器皿	a:— b:6.5 d:1.4	砂粒少量含む	非常に良好	2.5Y6/2 灰黄	ロクロ成形 灰化(自然釉?) 内面:見込み無釉 重ね焼跡あり	図示の100%	中世～近世初期?
	18	陶器甕	—	砂粒少量含む	非常に良好	10YR5/2 灰黄褐	外面:自然釉	破片	常滑
	19	陶器甕	—	砂粒少量含む	非常に良好	10YR3/3 暗褐	無釉	破片	常滑?
	20	須恵器長颈瓶	—	砂粒少量含む	良好	2.5Y5/2 暗灰黄	ロクロ成形 口割部	破片	21と同一個体か
	21	須恵器長颈瓶	—	砂粒少量含む	良好	2.5Y5/2 暗灰黄	ロクロ成形 口割部	破片	20と同一個体か
	22	須恵器环	a:— b:5.7 d:1.4	砂粒少量含む	非常に良好	10YR4/1 灰灰	ロクロ成形 高台附付	図示の20%	高台付环
	25号遺構								
12Z	23	弥生土器壺	—	砂粒少量含む	良好	2.5Y4/2 暗灰黄	外面:タテハケ後、櫛状工具で横方向に 波状文(4条1単位)を施す 内面:ナデ調整	破片	
	24	弥生土器皿	—	砂粒少量含む	やや不良	2.5Y4/2 暗灰黄	外面:櫛状工具による横方向の波状文(3条以上1単位) 2段で区画し、その間に横方向に平行沈線(3条 1単位)を2段。間に衝突する凹点を造らず 内面:剥離	破片	
	25	弥生土器壺	—	砂粒やや多く含む	良好	7.5YR5/6 明褐	外面:口縁部 RL 圖文施文 斜面 タテハケ 内面:口縁部 ナデ調整 斜面 ヨコハケ	破片	
	26	弥生土器壺	a:— b:7.0 d:2.5	細砂粒少量含む	良好	5YR5/4 にぶい赤褐	外面:ヘラミガキ 赤彩 内面:ナデ調整	図示の40%	
	27	弥生土器壺	—	砂粒やや多く含む	良好	2.5Y5/4 黄褐	外面:口縁部ヨコハケ後、口部に棒状工具で削み 削除 タテハケ 内面:口縁部 ヨコハケ 制部 ナデ調整	破片	
	28	弥生土器壺	—	砂粒やや多く含む	良好	10YR6/6 明黄褐	外面部:口縁部 ヨコハケ後、指道押捺による 波状口縁	破片	
	29	弥生土器甕?	—	砂粒やや多く含む	良好	7.5YR4/4 にぶい赤褐	外面:ヨコハケ後、櫛状工具による平行沈線 (4本1単位)を斜めに施す 内面:ヨコハケ	破片	破壊
	30	弥生土器皿	a:— b:4.2 d:3.5	砂粒やや多く含む	やや不良	7.5YR5/2 灰褐	外面:大部分剥離 一部ヘラミガキとタテハケの 痕跡 内面:剥離 一部ナデ調整の痕跡存	図示の70%	破壊により表面の大半が剥離
	31	弥生土器壺	a:— b:— d:10.5	細砂粒少量含む	良好	10YR6/4 にぶい黄褐	外面:ヘラミガキ 赤彩 内面:ナデ調整	図示の40%	
	32	弥生土器壺	—	砂粒やや多く含む	良好	5YR5/4 にぶい赤褐	外面:縁部 RL 圖文施文後櫛状工具による 平行沈線(4条1単位)を斜めに施す 温らせ焼(画面下段)に沈線、下段に剥突による 凹点を造らず。 内面:ナデ調整	破片	
	33	弥生土器壺	a:— b:9.2 d:5.6	細砂粒少量含む	良好	7.5YR5/6 明褐	外面:タテハケ後、ナデ調整 斜面 木葉模 内面:ナデ調整	図示の60%	
	34	弥生土器壺	a:— b:7.4 d:7.1	細砂粒少量含む	良好	2.5Y5/3 黄褐	外面:タテハケ後、ナデ調整 斜面 木葉模 内面:ナデ調整	図示の70%	
	35	弥生土器壺	a:25.2 b:— d:5.7	砂粒やや多く含む	良好	10YR7/4 にぶい黄褐	外面:口縁部 ヨコハケ後、口部にヨコハケを施す。 内面:ヨコハケ	図示の15%	

第3表 中世以前の遺物観察表（9）

20-3-5・8区

国版番号	遺物番号	器種	法量	胎土	焼成	色調	成形・調整・赤彩・他	残存率	備考
25号遺構									
122	36	弥生土器 甕	a:— b:3.2 d:3.1	砂粒や少く含む	良好	SYR4/4 に赤い赤	外面:タテハケ 底面 木葉痕 内面:ナデ調整	表示の50%	被熱
	37	弥生土器 甕	a:— b:7.5 d:4.7	砂粒や少く含む	良好	SYR4/4 に赤い赤	外面:斜めハケ 底面 木葉痕 内面:ナデ調整	表示の40%	被熱 外面スス付着
123	38	弥生土器 甕	a:24.2 b:— d:17.5	砂粒や少く含む	良好	7.5YR6/6 相	外面:口縁部 内外面ヨコハケ後、指頭押捺による 波状凹線 制部 斜めハケ 内面:制部ナデ調整	表示の20%	被熱
	39	弥生土器 甕	a:25.4 b:— d:18.5	砂粒や少く含む	良好	7.5YR5/3 に赤い赤	外面:口縁部 内外面ヨコハケ後、指頭押捺による 波状凹線 制部 斜めハケ 内面:ヨコハケ後、ナデ調整	表示の40%	外面被熱により 一部剥離 外面スス付着
	40	弥生土器 甕	a:23.3 b:(7.0) d:28.8	砂粒や少く含む	良好	10YR6/6 明黄褐	外面:口縁部 口縁部タテハケ後、口縁部に矧み 制部 ヨコハケ 底部 タテハケ 内面:ナデ調整 底面:焼成後に両面から穿孔	表示の70%	制部中央上にスス付着 窓に転用か
	41	弥生土器 台付甕	a:— b:6.8 d:6.5	砂粒や少く含む	良好	10YR6/6 明黄褐	外面:タテハケ 内面:甕部 ナデ調整 制部ナデ調整	表示の40%	重壓 ホルンフェルス
	損耗一括								
123	42	繩文 打製石斧	長:(7.8) 幅:6.4 厚:3.4	—	—	—		—	100.5g
	44	弥生土器 甕	a:— b:8.4 d:3.1	砂粒少且含む	良好	10YR6/4 に赤い赤	外面:タテハケ後、ナデ調整 底面 木葉痕 内面:ナデ調整	表示の25%	

20-2-13区

国版番号	遺物番号	器種	法量	繩状粒 や少く含む	焼成	SYR4/3 に赤い赤	外面:タテハケ 内面:ナデ調整	鏡片
25号遺構								
138	4	弥生土器 台付甕	a:— b:— d:1.5	細砂粒や少く含む	良好	7.5YR5/4 に赤い赤	外面:ナデ調整 内面:ナデ調整	表示60%
	5	弥生土器 台付甕	a:— b:— d:4.0	細砂粒少且含む	非常に良好	10YR7/4 に赤い黄	外面:斜めハケ 内面:斜部・ヨコハケ	表示の20%
	6	弥生土器 台付甕	a:— b:— d:3.6	少且細い砂粒 少且含む	良好	7.5Y5/6 相	外面:接合部 タテハケ 台部 斜めハケ 内面:接部 ナデ調整 台部 ナデ調整	表示の50% 甕部 内面スス付着
35号遺構								
138	7	弥生土器 甕	a:— b:6.3 d:1.9	細砂粒少且含む	良好	7.5YR5/4 に赤い赤	外面:ヘラミガキ 内面:环部 ヘラミガキ 制部 ナデ調整	表示の60%
	8	弥生土器 甕	—	細砂粒少且含む	良好	10YR5/3 に赤い黄	外面:口縁部 ナデ調整後棒状の工具で押圧 制部斜めハケ 内面:ナデ調整	鏡片
	9	弥生土器 台付甕	a:— b:10.8 d:3.2	少且細い砂粒 赤褐色粒子含む	良好	10YR5/6 黄	外面:台部 斜めハケ 内面:制部 ナデ調整	表示の25%
	10	弥生土器 台付甕	a:— b:— d:41.1 f:21.0	少且細い砂粒 多く含む	良好	SYR4/4 に赤い赤	外面:斜めハケ 内面:ナデ調整	表示の25%

第3表 中世以前の遺物観察表（10）

団体番号	遺物番号	器種	法量	胎土	焼成	色調	成形・調整・赤彩・他	残存率	備考
24-32区									
5号遺構									
152	1	弥生土器 台付壺	a: - b: 8.4 d: 5.2	細砂粒少量含む	良好	SYR5/4 にぶい赤	外面: ナデ調整 内面: ナデ調整	表示の 25%	
	2	弥生土器 壺	-	砂粒少量含む	良好	7.5YR5/6 明暗	外面: 脈部ヘラミガキ 瓶部円形浮文駆付 (2個残存) 全面赤彩 内面: 脈部以上赤彩	破片	
	3	弥生土器 台付壺	-	砂粒や多く 含む	やや不良	10YR5/4 にぶい黄	外面: ナデハケ 内面: ナデ調整	破片	内面剥離著しい
	4	須走器 环	a: - b: 7.2 d: 1.5	織物転少量 黒色粒子微量 含む	非常に良 好	10YR5/1 褐灰	ロココ成形 右回転糸切り離し	表示の 40%	
15号遺構									
152	7	弥生土器 壺	-	細砂粒少量含む	良好	2.5Y0/3 にぶい黄	外面: ナデ調査後、タテハケ 内面: ナデ調整	破片	
							表土一括		
152	8	陶器 盤	-	砂粒や多く 含む	非常に良 好	7.5YR4/4 明	透明釉 盤口 8本以上	破片	円底
R-2-4区									
1号遺構									
169	1	縄文土器 匂口	-	砂粒少量含む	良好	2.5Y6/3 にぶい黄	口縁部 沈線	破片	輪之内式
	2	弥生土器 壺	-	砂粒少量含む	良好	2.5Y6/4 にぶい黄	外面: タテハケ後、織状工具による 波状文(4条1単位)を横方向に施す。 内面: ナデ調整	破片	
	3	弥生土器 壺	-	砂粒少量含む	良好	2.5Y6/4 にぶい黄	外面: 織工で覆方に平行沈線(4条1単位)を 施す。織方向に波状文(4条1単位)を施す。 その上に3本以上の横縞 内面: ナデ調整	破片	
28号遺構									
169	14	弥生土器 高环	a: - b: - d: 4.6	砂粒少量 赤褐色粒子含む	良好	10YR5/4 にぶい黄	外面: ヘラミガキ 内面: 环部 ヘラミガキ 瓶部 ナデ調整	表示の 50%	
40号遺構									
170	30	弥生土器 壺	a: 9.7 b: - d: 6.7	砂粒少量含む	良好	10YR6/4 にぶい黄	外面: 口縁部 ヨコハケ 瓶部 タテハケ 内面: ナデ調整	表示の 80%	
41号遺構									
170	31	弥生土器 壺	-	細砂粒少量含む	良好	2.5Y6/4 にぶい黄	外面: 斜めハケ後、織状工具による 波状文(4条1単位)を横方向に施し、 同工具で縱方向に平行沈線(4条1単位) 内面: ナデ調整	破片	
	32	弥生土器 壺	-	砂粒少量含む	良好	2.5Y3/1 黒褐色	外面: 口縁部 刻み 口縁部 斜めハケ 内面: 口縁部 ヨコハケ	破片	
46号遺構									
170	33	弥生土器 台付壺	-	砂粒少量含む	良好	7.5YR5/6 明暗	外面: 口縁部 刻み 口縁部 刻みタテハケ 内面: ナデ調整	破片	
	34	弥生土器 台付壺	a: - b: - d: 10.4	砂粒や多い 赤褐色粒子含む	良好	7.5YR4/2 灰	外面: ナデ調整 内面: ナデ調整	表示の 20%	

第3表 中世以前の遺物観察表（11）

30-18・19区

固版 番号	遺物 番号	器種	法相	胎土	焼成	色調	成形・調整・赤彩・他	残存率	備考
1号遺構									
179	1	織文土器 深鉢	—	空空相い砂粒含む	良好	7.5YR5/4 に赤い斑	脚部 RL 横文施文後、沈継で施文	破片	壇之内1式
	2	舟形土器 台付甌	a:— b:— d:2.4 e:6.0	細砂粒少量 赤褐色粒子含む	良好	7.5YR6/6 相	外面：接合部 ナデ調整 内面：环部 ナデ調整 脚部ナデ調整	同示の 30%	
	3	舟形土器 甌	a:— b:— d:1.5 e:4.2	細砂粒少量 赤褐色粒子含む	良好	7.5YR6/3 に赤い斑	外面：肩部 LR 横文 ハラミガキ 布彩 内面：ナデ調整	破片	

31-15・16・17区

1号遺構									
184	1	石製品 板碑	長:(11.6) 幅:(3.4) 厚さ:2.2	—	—	—	表面:「キリーグ」 裏面:タガネ瓶	破片	縁泥片岩
	2	石製品 板碑	長:(20.5) 幅:(10.4) 厚さ:2.3	—	—	—	表面:「～□ / (中央に草瓶) / ～□」 裏面:鉋顎	破片	縁泥片岩

第4表 近世の遺物観察表（1）

2G区

回数	施設番号	遺構等	種別	器種	法量(cm)		技法・文様	備考
					口径	底径		
1	8号遺構	磁器	瓶	9.0	—	(3.0)	ロクロ成形 透明釉 窯付 外削:山水文	廻戸・美濃 端反側
2	8号遺構	磁器	瓶	10.2	—	(5.1)	ロクロ成形 透明釉 窯付 外削:山水文	肥前 広島燒 焼臘瓶
10	3号遺構	磁器	瓶	—	3.8	(2.6)	ロクロ成形 透明釉 窯付 外削:菊の水紋文見足:實徳文?	肥前 平岡焼
4	8号遺構	陶器	瓶	14.3	6.6	3.0	ロクロ成形 透明釉 窯付 外削:菊の水紋文見足:實徳文?	廻戸・美濃 高白内削青
5	8号遺構	陶器	瓶	—	—	—	ロクロ成形 透明釉 窯付 1本以上	廻戸・美濃

十条富士塚地区

55	1号遺構盛土	磁器	瓶	10.4	3.8	5.0	ロクロ成形 透明釉 窯付 外削:草花文	肥前
	1号遺構盛土	磁器	瓶	—	3.7	2.8	ロクロ成形 透明釉 窯付 外削:コニャック型割菊文	肥前
	1号遺構盛土	磁器	瓶	9.0	—	4.2	ロクロ成形 透明釉 窯付 外削:山水文	廻戸・美濃 端反側
	1号遺構盛土	磁器	瓶	13.4	7.2	3.5	ロクロ成形 透明釉 窯付 外削:菊のみ 菓の日ifikari	肥前
	1号遺構盛土	磁器	瓶	—	4.8	(3.8)	ロクロ成形 透明釉 窯付 外削:草花文	肥前
	1号遺構盛土	磁器	髪油壺	—	5.6	6.1	ロクロ成形 透明釉 窯付 外削:草花文	肥前
	12号遺構盛土	陶器	瓶	10.8	3.9	6.1	ロクロ成形 透明釉 白泥 外削:白泥	肥前・美濃 端反側
	12号遺構盛土	陶器	瓶	10.8	3.6	6.2	ロクロ成形 透明釉 白泥 外削:白泥	肥前・美濃 端反側
	12号遺構盛土	陶器	瓶	9.1	—	(4.6)	ロクロ成形 透明釉 白泥 外削:白泥	肥前・美濃 端反側
	12号遺構盛土	陶器	瓶	9.8	4.2	5.6	ロクロ成形 透明釉 窯付 分け分け 外削:白泥	廻戸・美濃
	12号遺構盛土	陶器	瓶	10.0	3.0	5.5	ロクロ成形 透明釉 窯付 外削:白泥	肥前・美濃 端反側
	12号遺構盛土	陶器	瓶	9.8	4.2	5.2	ロクロ成形 透明釉 窯付 外削:白泥	廻戸・美濃
	12号遺構盛土	陶器	瓶	11.0	5.3	2.2	ロクロ成形 透明釉 外削:白泥	廻戸・美濃
	12号遺構盛土	陶器	瓶	—	5.5	(1.3)	ロクロ成形 反転 外削:白泥	伝来 变形(弧形)瓶
56	1号遺構盛土	陶器	瓶	11.0	3.4	3.1	ロクロ成形 反転 外削:白泥 内面縦縞 外削:白泥	伝来
	131 1号遺構盛土	陶器	瓶	—	6.4	(1.8)	ロクロ成形 反転 緑繪 外削:白泥	廻戸・美濃 菊花瓶
	132 1号遺構盛土	陶器	瓶	—	11.6	(4.7)	ロクロ成形 反転 印花 白泥 外削:白泥	肥前 二鳥手
	133 1号遺構盛土	陶器	瓶	—	8.0	(16.4)	ロクロ成形 反転 外削:白泥	廻戸・美濃
	134 1号遺構盛土	陶器	瓶	35.0	—	8.7	ロクロ成形 窯付 (8本 1巻脚)	明石
	135 1号遺構盛土	土器	カララケ	9.0	4.0	2.2	ロクロ成形 無釉 左回転糸切り離し 外削:白泥	江戸在地系 内面久又付着 打明細用
	136 1号遺構盛土	陶器	カララケ	25.4	—	(2.7)	内削:白泥	廻戸・美濃
	137 1号遺構盛土	瓦片	瓦片	—	—	—	内削:白泥 瓦片付合 (1万枚程度)	江戸在地系
	138 1号遺構盛土	瓦片	瓦片	9.4	2.7	1.34	内削:白泥 瓦片付合	江戸在地系
	139 1号遺構盛土	瓦片	瓦片	10.8	3.8	厚一	内削:白泥 瓦片付合	江戸在地系
	140 1号遺構盛土	瓦片	瓦片	10.8	3.8	厚一	内削:白泥 瓦片付合	天保 初期 1034年 萬喜体
	141 1号遺構盛土	瓦片	瓦片	10.8	4.0	4.7	内削:白泥 瓦片付合	天保 初期 1086年 萬喜体
	142 1号遺構盛土	瓦片	瓦片	10.8	4.0	4.7	内削:白泥 瓦片付合	新宿水 文政
	143 1号遺構盛土	瓦片	瓦片	10.8	4.0	4.7	内削:白泥 瓦片付合	新宿水 文政
	144 1号遺構盛土	瓦片	瓦片	10.8	4.0	4.7	内削:白泥 瓦片付合	新宿水 文政
	145 1号遺構盛土	瓦片	瓦片	10.8	4.0	4.7	内削:白泥 瓦片付合	新宿水 文政
	146 1号遺構盛土	瓦片	瓦片	10.8	4.0	4.7	内削:白泥 瓦片付合	新宿水 文政
	147 1号遺構盛土	瓦片	瓦片	—	5.2	厚一	内削:白泥 瓦片付合	一次削:片
	148 1号遺構盛土	土器	火鉢	18.0	13.0	7.6	ロクロ成形 二見點付合	江戸在地系
	149 1号遺構盛土	土器	櫛香港	—	6.6	6.4	ロクロ成形 無釉 左回転糸切り離し 外削:白泥	江戸在地系
	150 1号遺構盛土	陶器	瓶	—	4.0	4.0	ロクロ成形 亂刷模 剥刷模写	廻戸・美濃 近代
	151 1号遺構盛土	陶器	瓶	11.4	4.0	6.0	ロクロ成形 亂刷模 剥刷模写	廻戸・美濃 近代
	152 1号遺構盛土	陶器	瓶	16.0	11.0	2.5	ロクロ成形 亂刷模 手描き	廻戸・美濃 近代
	153 1号遺構盛土	陶器	段差	12.0	11.0	5.2	施作成り 透明釉 剥刷模写	廻戸・美濃 近代

5-3区

61	1	1-1号遺構	磁器	瓶	—	3.7	(2.1)	ロクロ成形 透明釉 窯付	廻戸
	2	1-1号遺構	磁器	瓶	7.0	2.2	3.7	ロクロ成形 透明釉 窯付 冠込み:草花文	肥前
	3	1-1号遺構	土器	不明組	7.4	3.2	1.3	ロクロ成形 透明釉	江戸材換系
	4	1-1号遺構	瓦片	硝子体	11.2	7.1	7.5	ロクロ成形 亂刷模 剥刷模写	江戸在地系
	5	1-1号遺構	硝子片	硝子片	—	—	49.45	—	—

R 2-2区

74	1	4号遺構	陶器	瓶	—	—	—	ロクロ成形 亂刷模 窯付 (6本以下)	廻戸・美濃
----	---	------	----	---	---	---	---	---------------------	-------

R 1-2区

89	3	1号遺構	陶器	瓶	—	11.6	—	(6.3) ロクロ成形 亂刷模	廻戸・美濃 天日焼
	4	1号遺構	陶器	瓶	—	16.4	—	(5.9) ロクロ成形 亂刷模 亂刷模	廻戸・美濃
	5	1号遺構	土器	不明組	7.1	—	—	(2.7) ロクロ成形 亂刷模 亂刷模	江戸在地系
	12	30号遺構	土器	カララケ	10.0	6.1	—	2.0 ロクロ成形 左回転糸切り離し 亂刷模	江戸在地系
	13	30号遺構	土器	カララケ	9.8	5.8	—	2.0 ロクロ成形 左回転糸切り離し 亂刷模	江戸在地系
	14	30号遺構	土器	カララケ	9.9	5.6	—	2.2 ロクロ成形 左回転糸切り離し 亂刷模	江戸在地系
	15	30号遺構	土器	カララケ	9.7	5.8	—	2.6 ロクロ成形 左回転糸切り離し 亂刷模	江戸在地系

20-10・11・14・15区

107	1	4号遺構	陶器	瓶	—	4.1	(1.3)	ロクロ成形 亂刷模	廻戸・美濃 天日焼
	2	4号遺構	陶器	瓶	—	5.2	(1.4)	ロクロ成形 亂刷模	廻戸・美濃
	3	4号遺構	陶器	瓶	—	12.5	—	(2.4) ロクロ成形 亂刷模	廻戸・美濃
	4	4号遺構	陶器	瓶	—	—	—	ロクロ成形 亂刷模 窯付	肥前
	7	近世の土器	磁器	瓶	—	7.8	(1.5)	ロクロ成形 亂刷模 窯付 窓の凹凸台 冠被模	廻戸・美濃
	8	近世の窓の透子窓	陶器	瓶	—	1.3	6.8	1.9 ロクロ成形 外面透子 窓付	廻戸・美濃
	9	近世の窓の透子窓	土器	不明組	8.5	4.2	2.0	ロクロ成形 亂刷模 窓付又付着	江戸在地系
	10	近世の窓の透子窓	土器	不明組	7.1	3.5	1.5	ロクロ成形 亂刷模	江戸在地系

第4表 近世の遺物観察表（2）

20-3・5~8区

図版/番号	遺構等	種別	周長	法面 (cm)		鉄法・文様	参考	
				上段	底段			
121	1	5号遺構	磁器	瓶	—	4.3 4.6	ロクロ成形 透明釉 染付	肥前
	2	5号遺構	土器	カワラケ	7.0	3.9 1.7	ロクロ成形 底付	戸戸石地名
	3	6号遺構	磁器	瓶	—	4.4 2.5	ロクロ成形 透明釉 染付	肥前
	4	6号遺構	陶器	瓶	—	4.5 5.1	ロクロ成形 底付 透明釉	肥前・美濃
	5	6号遺構	陶器	瓶	9.8	4.8 2.5	ロクロ成形 底付 透明釉	肥前・美濃
	6	6号遺構	陶器	瓶	11.2	6.6 2.3	ロクロ成形 底付 透明釉	肥前
	7	6号遺構	陶器	瓶	15.4	5.7 4.3	ロクロ成形 底付 織込み:瓶の口付有	肥前・美濃
	8	6号遺構	内器	瓶詰	—	—	瓶小底: 磁器 3号: 銅製瓶	肥前・市石名
	9	6号遺構	内器	瓶詰	—	—	ロクロ成形 底付 瓶目 7本	肥前・美濃
	10	6号遺構	内器	瓶詰	—	—	ロクロ成形 空瓶 瓶目 8本	肥前
	12	6号遺構	鉄鋤	實木造實	径2.69	孔6.5 高4.2cm	11枚	四文銘
	13	43	表土一括	磁器	瓶	12.0	3.7 3.4	ロクロ成形 透明釉 染付 織込み: 瓶の口付有

20-2~3・13区

図版/番号	遺構等	種別	周長	法面 (cm)		鉄法・文様	参考	
				上段	底段			
138	1	2号遺構	磁器	瓶	9.9	4.1 5.4	ロクロ成形 透明釉 染付	肥前
	2	2号遺構	陶器	瓶詰	26.8	— (4.2)	ロクロ成形 瓶目 10本堆積	肥前・市石名
	11	52号遺構	鉄鋤	實木造實	径2.40	孔4.9 高3.3cm	新潟水	
	12	52号遺構	鉄鋤	實木造實	径2.39	孔5.5 高3.3cm	新潟水	
	13	55号遺構	鉄鋤	實木造實	径2.45	孔4.5 高3.3cm	新潟水	
	14	55号遺構	鉄鋤	實木造實	径2.30	孔4.5 高3.4cm	新潟水	
	15	近世以降の遺土	磁器	瓶	9.9	4.2 5.0	ロクロ成形 透明釉 染付	肥前
	16	古世以降の遺土	陶器	瓶	30.0	— (5.9)	ロクロ成形 底付 瓶目 11個	肥前・二島手
	17	古世以降の遺土	陶器	瓶	3.3	— (11.0)	ロクロ成形 底付 空瓶	肥前・美濃 西田利恵 五合
	18	古世以降の遺土	土器	瓶詰	—	— (3.6)	ロクロ成形 空瓶	戸戸石地名

R 2~1区

図版/番号	遺構等	種別	周長	法面 (cm)		鉄法・文様	参考	
				上段	底段			
144	1	1号遺構	磁器	瓶	—	4.8 (9.3)	ロクロ成形 透明釉 染付	肥前
	2	2号遺構	陶器	瓶	12.4	7.4 3.2	ロクロ成形 底付	肥前・美濃
	3	5号遺構	陶器	瓶詰	—	—	ロクロ成形 底付	肥前・美濃
	4	6号遺構	石製品	實底?	—	—	—	石器類の尖端の實底か
	5	7号遺構	磁器	瓶	9.0	4.0 4.7	ロクロ成形 透明釉 染付	肥前・美濃 稲垣義

24-32区

図版/番号	遺構等	種別	周長	法面 (cm)		鉄法・文様	参考	
				上段	底段			
152	5	5号遺構	瓦底土器	瓦底	—	(3.8) 井筒・内側斜切付 (1ヶ所残存)	戸戸石地名	
153	6	5号遺構	瓦底土器	瓦底	17.0	— 6.5	ロクロ成形 外面: 斜面	戸戸石地名

R 2~4区

図版/番号	遺構等	種別	周長	法面 (cm)		鉄法・文様	参考	
				上段	底段			
169	4	1号遺構	磁器	瓶	11.6	6.0 3.0	ロクロ成形 透明釉 染付 外面: 山水文	肥前 広東窯
	5	1号遺構	磁器	瓶	13.8	— (3.4)	ロクロ成形 透明釉 染付 外面: 案文 文字: 社外	肥前
	6	1号遺構	磁器	蓋	10.0	描み 4.5 2.6	ロクロ成形 透明釉 染付 外面: 瓦底: 瓦底斜面 内面: 工程 描み: 瓦底	肥前
	7	1号遺構	磁器	瓶	1.7	— (7.3)	ロクロ成形 透明釉 染付 外面: 案文	肥前 佐原屋
	8	1号遺構	陶器	小鉢	5.7	3.0 3.9	ロクロ成形 底付	肥前・美濃
	9	1号遺構	陶器	瓶	8.5	描み 1.9 4.1	ロクロ成形 船付付 底付	肥前・美濃 大延天 11.3
	10	1号遺構	土器	カワラケ	5.2	3.6 1.0	ロクロ成形 空瓶	井筒
	11	1号遺構	土器	灯明皿	6.7	3.3 1.4	ロクロ成形 透明釉 左回転斜切り顕し	井筒
	12	1号遺構	土器	灯明皿	7.5	3.2 1.6	ロクロ成形 透明釉 左回転斜切り顕し	井筒
	13	1号遺構	土器	灯明皿	4.2	2.5 1.7	ロクロ成形 透明釉 左回転斜切り顕し	井筒
	15	28号遺構	磁器	瓶	9.6	3.5 5.3	ロクロ成形 透明釉 染付 外面: 花文	肥前
	16	28号遺構	磁器	複数瓶	3.5	— (4.5)	ロクロ成形 透明釉 染付 外面: 花文	肥前
	17	28号遺構	陶器	瓶	—	4.5 (2.4)	ロクロ成形 底付	肥前
	18	28号遺構	陶器	瓶	—	4.5 (3.0)	ロクロ成形 底付	肥前
	19	28号遺構	陶器	瓶	—	2.7	ロクロ成形 底付	肥前・美濃
	20	28号遺構	瓦質土器	切袋	28.6	24.7 5.4	平底 内部貼付 (1ヶ所残存)	戸戸石地名
	21	37号遺構	磁器	瓶	7.0	3.4 5.4	ロクロ成形 透明釉 染付 外面: 線文	肥前 平岡窯
	22	37号遺構	磁器	瓶	7.2	3.4 5.5	ロクロ成形 透明釉 染付 外面: 竹林	肥前 平岡窯
	23	37号遺構	陶器	瓶	—	6.5 (1.6)	ロクロ成形 底付 距離 対応: 線文: 竹林: 高岡内削書「〇方」	肥前・美濃
	24	37号遺構	陶器	瓶	3.9	— (5.9)	ロクロ成形 底付	肥前・美濃 高岡利恵 二合半
	25	37号遺構	陶器	灯明皿	6.4	2.0 2.0	ロクロ成形 灯明皿	井筒
	26	37号遺構	土器	灯明皿	—	1.5 (1.5)	ロクロ成形 透明釉 左回転斜切り顕し	井筒
	27	37号遺構	土器	灯明皿	38.5	(3.2) 2.8	ロクロ成形 透明釉	戸戸石地名
	28	38号遺構	磁器	瓶	—	3.9 (2.9)	ロクロ成形 透明釉 染付 外面: 花文	肥前
	29	38号遺構	陶器	瓶	9.6	描み 1.3 3.4	ロクロ成形 船付付 底付	肥前・美濃 木戸昌

第4表 近世の遺物観察表（3）

23-9、31-18区

団体 番号	施設名	遺構等	種別	周囲	法面 (cm)			找法・文様	備考
					上段	底段	基部		
174	1 近世以前の埴土層	陶器	瓶	—	11.3	6.7	2.3	口クロ成形 外側：無輪、内側：灰釉 印文：武田氏 変形口型切妻輪	瀬戸・美濃
	2. 近世以前の埴土層	陶器	瓶	—	12.8	6.2	3.2	口クロ型切妻輪 輪	瀬戸・美濃、菊花紋
	3. 近世以前の埴土層	土器	カララケ	—	10	5.9	1.7	口クロ成形 左側輪を切り離し	江戸内地名
	4. 近世以前の埴土層	土製品	—	3.2	2.7	3.7	—	最大径 5.3 cm	

30-18・19区

4	1号遺構	磁器	鉢	—	9.7	(5.7)	口クロ型打成形 変形口門形窓	透明釉 窓付	肥前 姶良窯 高台内燒窯印「十一」
179	5	1号遺構	陶器	標記	—	20.8	(3.7)	口クロ成形 窓	高台 窓
	6	1号遺構	瓦類	粘土瓦質	15.235	孔 6.5	孔 2.1g	—	明石
	7	1号遺構	瓦類	陶瓦	17.223	孔 6.5	孔 2.1g	—	宋窯 初跡 1094年 瓦質体

31-15・16・17区

3	1号遺構	磁器	碗	8.2	—	(3.7)	口クロ型打成形 白磁?	肥前	
4	1号遺構	陶器	瓶	—	8.9	(6.6)	口クロ成形 鐵輪	瀬戸・美濃 底面墨書き「イ丁セ」 「武力式」文	
5	1号遺構	瓦質土器	切焼	35.5	29.7	4.8	平底 内臼輪付口 (2方所残存)	抄写	
6	1号遺構	石製品	研石	15.11.2	幅 3.3	厚 3.1	頭面 3面 重 300g	新直木	
7	1号遺構	瓦類	瓦木造質	12.238	孔 5.5	—	—	—	

V 調査の成果と課題

1. 弥生時代中期後半（第186図）

II期区間では竪穴住居跡11軒、竪穴状遺構2基、溝5条、ピット2基の弥生時代の遺構が検出された。内、溝1条（20-3・5・8区の25号遺構）、竪穴状遺構1基（20-10・11・14・15区の14号遺構）が弥生時代中期後半頃の遺構である。これまで東京都埋蔵文化財センターが実施した十条台遺跡群の調査ではI期区間の南端、南橋遺跡の北部で弥生時代中期後半の住居が検出されているが、十条台遺跡群の北側での検出は初の成果となる。第186図はII期区間の本報告で扱った調査区配置図と対象地区内で検出された弥生時代の遺構の検出位置である。中期後半の遺構が検出された調査区は、II期区間中央西側に拡がる谷地形の低地部に位置する。他の調査区で検出される遺構は時代の新旧を問わず近代以降の土地変更によって大きく削平を受けており、弥生時代中期の遺構も削平によつて失われた可能性もあるが、弥生時代後期以降の竪穴住居をはじめとする遺構は各所で検出されていいるため、弥生時代中期の遺構が谷の低地部に集中して分布している可能性が高い。

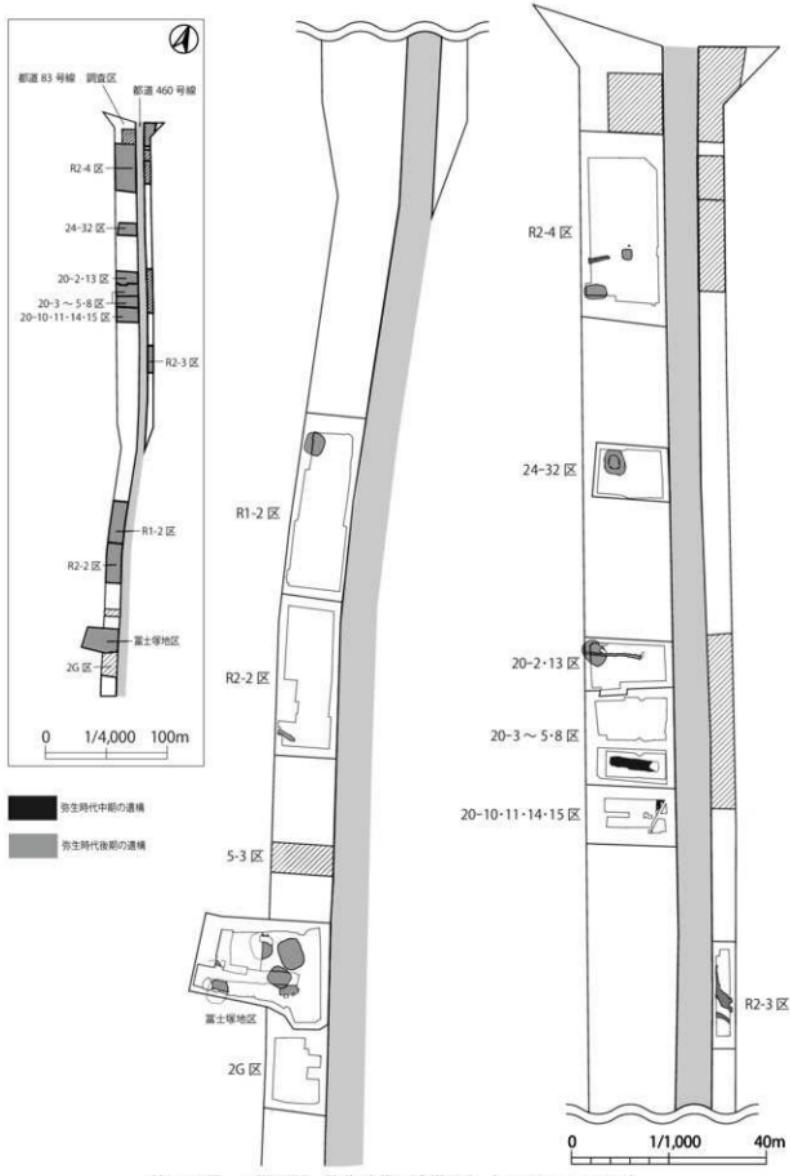
25号遺構（第112図）は長軸9.4m以上、幅2.2m、深さ0.67mを測り、平面形は隅丸長方形を呈する溝である。調査区内では並行或いは直交する同時代の遺構は検出されていないが、南側に隣接する20-10・11・14・15区で14号遺構が検出されている。14号遺構は後代の擾乱を強く受けており、遺構の正確な形状は不明である。本報告では竪穴状遺構と認定したが、幅の広い溝の可能性も考えられる。仮に溝とした場合、20-3・5～8区の25号遺構に直交する位置にあたり、四隅切れの方形周溝墓の一部とも考えられるが、残りの2辺に対応する溝は調査で確認出来なかった。

これらの遺構は覆土中に弥生時代中期後半の遺物を含む。25号遺構出土の壺破片（第122図-23・24）は肩部に櫛状工具による波状沈線の区画文が認められる。周辺の遺跡では飛鳥山遺跡のSI229号住居や方形周溝墓のSH12で同様の遺物が出土している。14号遺構出土の壺口縁（第107図-6）についても中期後半の特徴を有する。周辺では両地区的都道を挟んで南東側に位置するR2-3区で弥生時代頃の周溝と思われる遺構が検出されているが、今回の調査では同時期と断定可能な竪穴住居は検出されておらず、現段階で全体の様相は把握できないが、谷低地部にあたる範囲は今後の調査予定の地区にあたるため、今後の調査の進展に期待したい。

2. 弥生時代後期（第186図）

弥生時代後期の遺構は竪穴住居11軒、竪穴状遺構1基、溝4条、ピット2基が検出された。遺構の分布状況は十条富士塚地区を除き、II期区間全体に散在的に分布する様相を呈している。今回の調査で同時期の遺構が検出されなかった地区は、近世以降の土地変更による削平を大きく受けており、当該期の遺構が存在していた可能性は高い。

十条富士塚地区では竪穴住居跡が7軒検出された。同地区は中世以降に築造された塚が調査区全体を覆っており、遺構の遺存状況が良好に保たれていた。検出された7軒の内、5号遺構と6号遺構では住居南西隅で赤色を呈する砂粒の堆積が検出された。いわゆる「赤砂」と呼ばれるもので、十条台遺跡群北側での検出は、I期区間に含め初の確認例となる。また、6号遺構で検出された赤砂は、赤色が強く粒子の細かいものと、発色がやや鈍く、長石粒等を含み、やや粗い砂粒主体のものの二種



類が検出された。この二種類の赤砂は集中部が分かれて検出されており、何らかの使い分けがあったと考えられる。これらの赤砂は住居の周溝覆土上にまで範囲が広がっており、住居の廃絶後に行われた祭祀行為に関わるものと考えられる。

3. 中世・近世（第187図）

鎌倉街道中ツ道跡

II期区間内、都道西側の6地点で検出された。中世の鎌倉街道中ツ道に比定される道路遺構で、検出総延長は73.93mを測る。II期区間内では近世以降の削平や後代の日光御成街道の側溝により壊されている例が多く、道路構築から廃絶までの堆積状況や道幅の規模を特定することは出来なかった。道の構造については『十条台遺跡群II』の、「調査の成果と課題」で構造について触れているが、II期区間内でも改修に伴う硬化面の累重や、掘り方に浅い掘り込みを連続して設ける点などの共通点が認められる。II期区間内の道の延伸方向は、現在の都道とほぼ同一で並行して延びるが、R1-2区北側で東側へ緩やかに屈曲している。同地区はII期区間中央西側の埋没谷へ向かって北側に下る斜面地で、地形に沿って谷を巻くように道を曲げている可能性がある。これは地形に沿って道を曲げることで、道の勾配を緩く抑えようとしたことによるものと思われる。

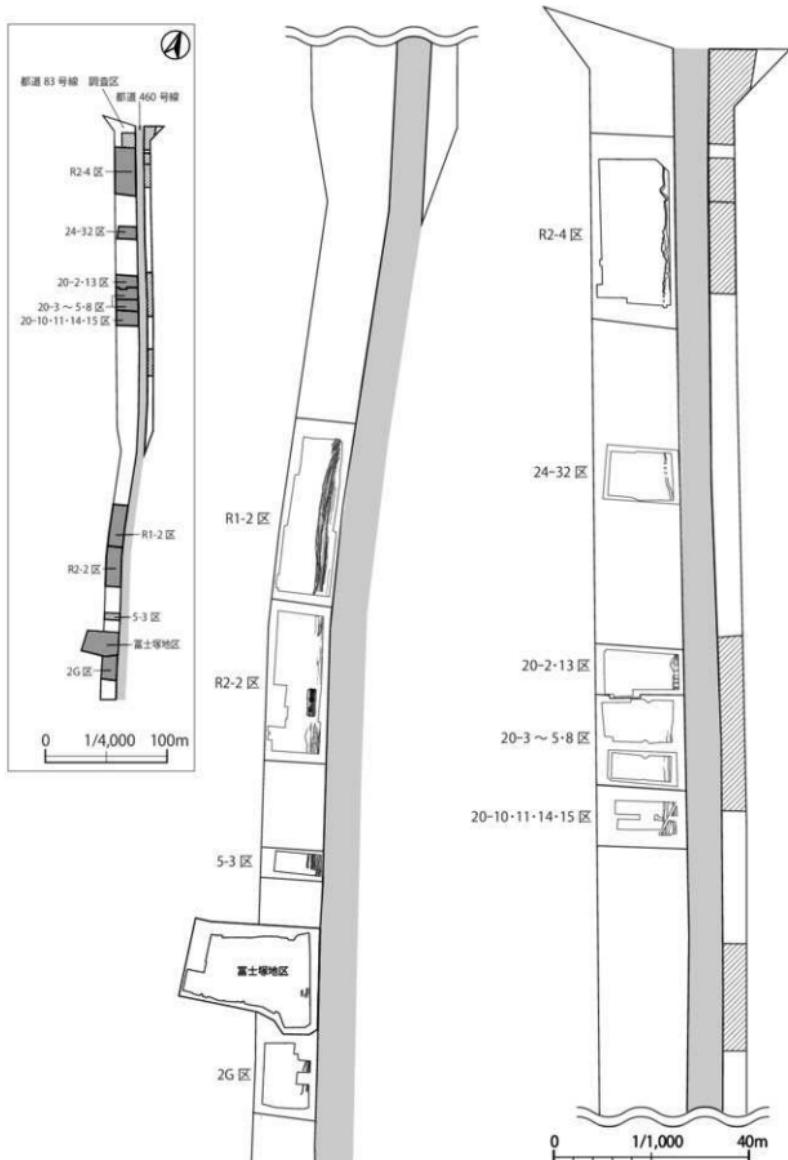
日光御成街道西側溝

II期区間内、都道西側に位置する調査区9地点で検出された。検出総延長は125.02mを測る。検出位置はいずれの調査区でも調査区東壁際で、溝の上端東側は都道下へ延びる。延伸方向はほぼ都道に並行するが、前述のR1-2区では鎌倉街道跡と同様に屈曲する様相が見られ、前時代の鎌倉街道の道筋をそのまま踏襲したと考えられる。また、この溝に直交する溝や柱穴列が複数検出されている。溝は御成街道側溝と比べ、掘り方の形状は不整形でやや浅く、並行する溝は検出されていない。御成街道側溝との重複関係は不明瞭で、概ね同時期に廃絶したものと考え得られる。これらの溝や柱穴列は御成街道脇の土地区画に伴うものと考えられ、当時の街道周辺の土地区画が街道に則して行われた様相を窺うことが出来る。

4. 十条富士塚と旧塚の来歴

十条富士塚はこれまで「古い塚を近世に富士塚として改変した」とされており、付近に存在する十条台古墳群の存在から、十条富士塚の前身である古い塚（旧塚）は古墳と推定してきた。今回の調査の結果、旧塚に関して、①埋葬施設が検出されない、②塚周囲に周溝等が検出されない、③塚の盛土構造に版築などの古墳築造の技法が認められない、④盛土及び周辺から古墳時代の遺物が検出されない、⑤塚下から古代以降廃絶の遺構（3号遺構）が検出されている、ことが明らかになった。このことから、今回調査を実施した範囲で見る限り旧塚は古墳ではないと考えられる。旧塚の築造時期は、盛土中に旧塚脇を通る鎌倉街道中ツ道の道路硬化面の硬化ブロックを含む点や、盛土中に中世の遺物を含むことから、中世以降の築造と考えられる。また、最下部の盛土整地層上で検出された馬齒の放射性炭素¹⁴C年代測定の結果では13世紀後半から14世紀末頃の結果が出ており、中世期築造の年代観を補強する成果が得られた。

中世以降に築造される塚には上人塚や経塚、一里塚、境塚、富士塚などが挙げられる。塚の築造目的として、『西東京市 南入経塚発掘調査報告書』（東京都埋蔵文化財センター 2008）中で小菜一夫は塚を築造する目的別に、①「埋める塚」、②「盛る塚」、③「両者を兼ね備えた塚」の三つに分類し



第 187 図 II期区間 中世から近世の道路関連遺構 (1/4,000・1/1,000)

ている。①は経文や鐘等を「埋納」することを目的とし、それらを埋めた位置を示す為の塚で経塚等が該当する。②は築山をつくることを目的とし、その形状や規模をモニュメント的に目立たせることに意味付けされる塚で、一里塚や境塚が該当する。③は埋葬・埋納することと、塚の象徴性の两者を兼ね備えた塚で、古墳などが該当する。今回の調査では旧塚盛土中からは、祭祀関連遺物や埋納遺構など祭祀等に関連する遺構・遺物は検出されておらず、「盛る塚」に分類されるものと考えられる。

近世期に日光御成街道を描いた絵図が複数遺されているが、その内、將軍の日光社参に用いられたと推察される『日光山道中國絵』(日光東照宮宝物館所蔵)の第一帖(安永～天保年間(1772～1843年制作))に、当時の十条周辺が描かれている(写真1)。絵図には「地福寺」「真光寺」「西音寺」といった現在まで残る寺院が描かれており、これらの建物と日光御成街道の配置から比定される現在の十条富士塚の位置に「第六天塚」と書かれた塚が描かれている。「第六天(大六天)」は第六天魔王(他化自在天)を祀る信仰で、近世期に関東を中心に東日本に多く神社が存在した。「十条富士講調査報告書」(北区1991)中では、十条富士講関係者により、十条富士塚の場所には第六天と稻荷明神が祀られており、その後の富士信仰の隆盛に伴い富士神社(富士塚)と合祀されたと記されている。現在の十条富士塚で毎年催される十条富士講の際に掲げられる大幟にも「第六天」「稻荷明神」の表記が見られる。以上のことから、日光山道中國絵に描かれた「第六天塚」が十条富士塚の前身とみて間違いないと考えられる。「第六天」を冠する塚には世田谷区所在の「第六天塚古墳」や、神奈川県川崎市にあった第六天古墳(現在滅失)があるが、これらは古墳を基にしたもので、第六天を祀る場として築造した塚は管見の限り見当たらず、第六天を祀る場として旧塚が築造されたとは断定し難い。

「十條(条)」地名の由来は、『新編武藏風土記稿』による、中世期に豊島氏が紀州から熊野権現を勧請した際に、熊野権現の周辺の地名をあてたという説と、『新修北区史』による古代の条里制に基づく説の二つがある。本稿では両説の真偽を問わないが、両説から「十條」の地名は中世以前に遡るものと考えられる。文化3年(1806)完成の「五海道其外分間絵図並見取絵図」の内、「日光御成道分間延絵図」には「十條村」の表記が見られる(同絵図には旧塚あるいは十条富士塚に比定出来る構造物は描かれていません)。十条周辺は明治22年の市制町村制度に施行に伴い、当時の王子村、豊島村、堀の内村、船方村、上十條村、下十條村、が合併して王子村として成立後、明治41年に王子町となった。この上十條と下十條の地名は大字としてしばらくの間残り、大正14年発行の『王子町全図』には上十條と下十條の大字の境界線が描かれている。写真2は上十條と下十條の大字境界部分を明示し、十条富士塚の位置を示したもので、十条富士塚が上十條の南端、下十條との境界付近に位置することが分かる。近世期には一つの村だったものが二つに別れたのか、或いは上十條村と下十條村の村域を縦めて「十條村」と称したかについては本稿では調査が及ばなかったが、二つの村域を縦貫する街道(中世の鎌倉街道中ツ道と近世の日光御成街道)脇の村境界に塚が立地している点は興味深い。先にあつた塚を境界として村域を分けたとも考えられ、塚の築造時期と村域の境界認識のどちらが先に成立したかについても現段階において不明で今後の課題としたいが、ある時期においては街道上で村の境界を示す「境塚」としての役割もあったのではないかと思われる。

十条富士塚改修の歴史

旧塚を十条富士塚に改修した年代についての記録は遺されていないが、「十条富士講調査報告書」では、かつて十条富士塚に据えられていた「石猿」(現在亡失)の紀年銘から文化十一年(1814)、



写真1 近世の十条富士塚とその周辺 『日光山道中図繪 第一帖』より抜粋、日光東照宮宝物館所蔵



写真2 上十条と下十条の境界位置



写真3 昭和8年以前の十条富士塚（北区教育委員会提供）



写真4 昭和37年頃の十条富士塚（北区教育委員会提供）



写真5 工事前の十条富士塚（北区教育委員会提供）

あるいは十条富士講関係者に関わる供養塔の紀年銘から天保十一年（1840）に築造されたものと推察している。今回の調査では、旧塚上に盛られた近世期の盛土層が検出されており、同層中からは18世紀後葉から19世紀前半を中心とする遺物が出土した（第55・56図）。出土した遺物は陶磁器の碗や皿などの生活雑器が主体で、富士塚上で使用されたものとみるより、富士塚への改修に伴って採取した土中に含まれていたものと考えるのが妥当と思われる。遺物の年代から、旧塚を十条富士塚に改変した時期は19世紀前葉以降と推定することが出来、上記の説を補強する成果となった。

近代以降の十条富士塚についても、IV章中に挙げた通り、複数回にわたって塚の改修が行われていることが分かる。第188図は再建工事前の十条富士塚の状況図で、山頂部を囲う大谷石とコンクリートによる擁壁や、石碑を据えるためのコンクリートタタキ等、後代の改修の様子を見て取れる。塚に据えられていた石碑の紀年銘では全31点中16点が明治十四年（1881）銘のもの（近世期のものは4点）で、その中に「富士山遙拝所再建記念碑」も含まれており、この時期に大規模な修復が行われたものと考えられる。近世の富士塚盛土直上で検出された近代の登山階段跡（第42図）については、この時期につくられた可能性がある。また、昭和8年以前に撮影された十条富士塚の写真（写真3）には塚頂部の石廻りが見られないが、昭和37年頃に撮影された写真には頂上の石廻りが写っている。このため塚頂部に石廻りを施し、再度盛土を行う改修はこの間に行われたものであろう。また、調査では頂上の石廻りに取り付く下山階段の登り口で防空壕が検出されている（第12図）。この防空壕は「コ」の字形を呈し、出入口は都道方向へ延びていた。掘り方では天井が開放されており、上に板材を渡す形状のものである。階段の登り口直下に防空壕を構築するとは考えづらく、山頂の石廻りと下山階段については戦後に増改築されたものと考えられる。

引用・参考文献

遠藤邦彦・千葉達朗・杉中佑輔・須貝俊彦・鈴木毅彦・上杉陽・石綿しげ子・中山俊雄・舟津太郎・大里重人・鈴木正章・野口真利江・佐藤明夫・近藤玲介・堀伸三郎

2019 「武藏野台地の新たな地形区分」『第四紀研究』第58卷第6号 p353～375
貝塚爽平 1979 『東京の自然史〈増補第二版〉』紀伊國屋書店

久保純子・小山善雅 2010 「多摩川左岸における立川段丘面区分の再検討」

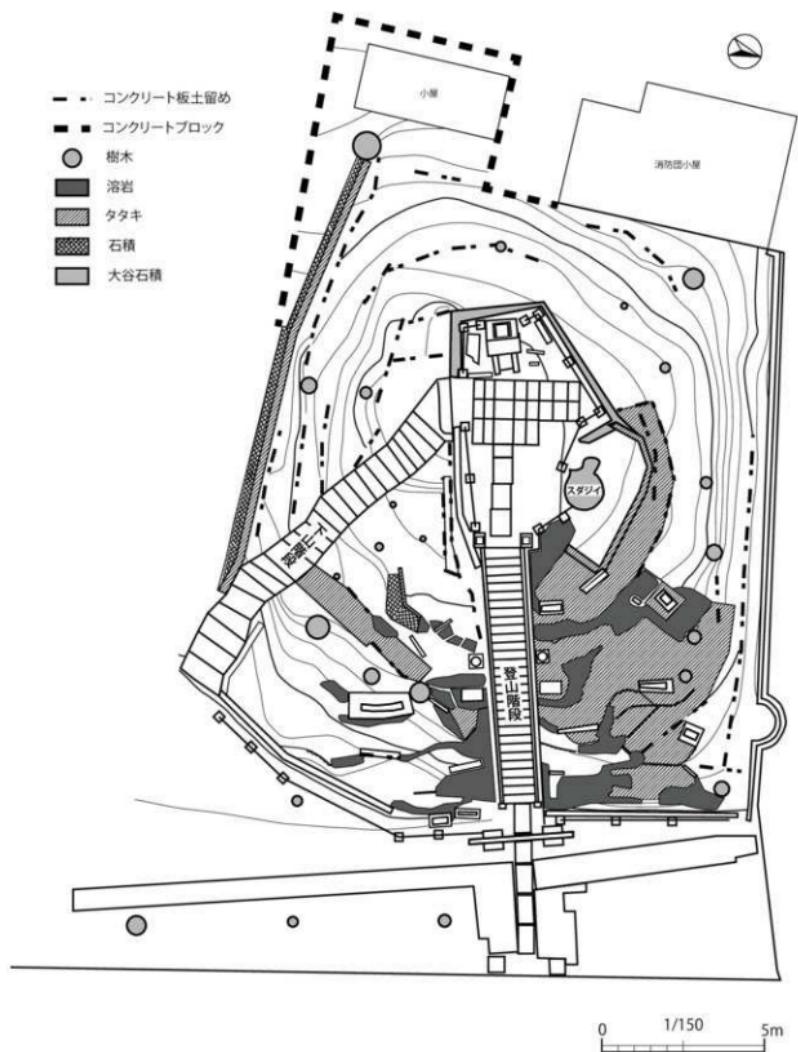
『学術研究（地理学・歴史学・社会科学編）』第58号 早稲田大学教育学部
杉中佑輔・石綿しげ子・鈴木正章・堀伸三郎・中山俊雄・遠藤邦彦

2018 「赤羽台から本郷台における地形・地質層序の新しい見方：MIS4期の化石谷を中心に」
『日本地球惑星科学連合 2018年大会』HQR04-P05
杉中佑輔 2021 「武藏野の地盤—多摩川による多摩丘陵の大規模侵食—」

『武藏野樹林』vol.6 角川書店
久保純子・小山善雅 2010 「多摩川左岸における立川段丘面区分の再検討」

『学術研究（地理学・歴史学・社会科学編）』第58号 早稲田大学教育学部
羽鳥謙三 2004 『武藏野扇状地の地形発達—地形・地質と水理・遺跡環境—』

地図研ブックレットシリーズ11
合田芳正・関森八重美 2019 「砂（赤い砂）と小石」『青山考古第35号』 青山考古学会



第188図 再建工事前の十条富士塚の構造

- 竹谷鞠負 2009 「富士塚考 江戸高田富士築造の謎を解く」 岩田書院
- 十条久保遺跡調査会 1999 『十条久保遺跡』
- 2001 『十条久保遺跡Ⅱ』
- 東京都北区教育委員会 1987 『南橋遺跡』
- 1991 『十条富士講調査報告書』
- 2004 『南橋遺跡Ⅳ』
- 2007 『飛鳥山遺跡Ⅲ』
- 2018 『北区埋蔵文化財調査年報－平成27年度－』
- 2019 『北区埋蔵文化財調査年報－平成28年度－』
- 2020 『北区埋蔵文化財調査年報－平成29年度－』
- 2021 『北区埋蔵文化財調査年報－平成30年度－』
- 東京都北区・東京都北区教育委員会 2017 『稻付公園遺跡－平成28年度 稲付公園再整備工事に伴う発掘調査報告－』
- 東京都北区・株式会社武藏文化財研究所 2017 『十条台遺跡群北区役所遺跡 新別館用地地点－仮称北区役所新別館新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』
- 世田谷区教育委員会 森巣寺富士塚遺跡調査会 2007
『森巣寺富士塚（世田谷区代沢3丁目27番の発掘調査記録）』
- 東京都埋蔵文化財センター 2008 『西東京市 南入経塚遺跡－第3次調査－』
- 2010 『北区 道合遺跡』
- 2018 『北区 十条台遺跡群Ⅰ』
- 2019 『北区 十条台遺跡群Ⅱ』
- 扶桑レクセル株式会社・協和開発株式会社 2006 『十条台遺跡群 南橋遺跡－十条台一丁目3番20号地点－』
- 世田谷区教育委員会 森巣寺富士塚遺跡調査会 2007 『森巣寺富士塚（世田谷区代沢3丁目27番の発掘調査記録）』
- 日野自動車株式会社 2014 『日野市指定史跡 上人塚の調査』
- 清瀬市郷土資料館 2018 『清瀬の富士講－清瀬から富士を目指した人々－』
- 田子山富士塚保存会 2018 『埼玉県指定有形民俗文化財「田子山富士塚」保存修理事業報告書』
- 白井市教育委員会 2020 『白井市埋蔵文化財調査概報－平成29・30年度－』
- 中央産業株式会社・財団法人君津市文化財センター 1987 『一千葉県君津市－箕輪富士塚群』
- 住宅・都市整備公団 黒川地区遺跡調査団 1992 『川崎市麻生区 黒川地区遺跡群報告書Ⅳ No.3遺跡・No.16遺跡・No.29遺跡』
- 横浜市教育委員会 公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団 2021 『権田原遺跡V 補遺編・自然科学分析編 附：新古田十三塚遺跡 近世編・補遺編』
- 相模原市教育委員会 2020 『溝口桂巖屋敷跡 根小屋の富士塚 相生の塚 一相模原市内遺跡の市民協働調査報告書－』

VI 自然科学分析

放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

三谷智広・伊藤 茂・加藤和浩・廣田正史・佐藤正教・山形秀樹・Zaur Lomtadze

1. はじめに

東京都北区十条台遺跡群の十条富士塚地区から出土したウマの歯の放射性炭素年代測定を行った。

2. 試料と方法

試料は、十条富士塚地区から出土したウマの臼歯 3 点である。試料 No.1（遺物 No.1772 : PLD-47284）は、右下顎臼歯と思われる破片である。歯列を比較的保った状態で、同一個体と考えられる切歯や臼歯がほかに 8 本出土しており、咬合面には摩滅がみられないため、かなり若い個体と考えられる。試料 No.2（遺物 No.1779 : PLD-47285）は、左右不明の下顎臼歯破片である。試料 No.3（遺物 No.1947 ③ : PLD-47286）は、右下顎第 1 後臼歯である。この試料は、歯冠高 28.8mm で、およそ 13~14 才の個体と推定される（松井, 2008）。これらの試料は、出土地点が離れている点からみて、3 個体分のウマに由来する試料と考えられる。いずれの試料も、塚下面の黒色土層直上から出土しており、試料 No.1 と No.2 は整地層直上から出土している。

測定を実施するにあたり、試料の超音波洗浄およびアセトン洗浄を施して表面に付着した汚れを除去した後、試料からコラーゲンを抽出した。コラーゲンは EA（ガス化前処理装置）である Flash EA1112（Thermo Fisher Scientific 社製）を用いて炭素含有量と窒素含有量の測定を行い、得られた炭素含有量と窒素含有量に基づいて C/N 比（モル比）を算出した。

放射性炭素年代測定では、抽出したコラーゲンを石英管に封じて燃焼し、CO₂ ガス化した後、CO₂ ガスの精製、グラファイト化を行った。グラファイトを、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンバクト AMS : NEC 製 1.5SDH）を用いて測定し、得られた ¹⁴C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C 年代、暦年代を算出した。

別表1 測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-47284	試料No. 1 調査区：FJD 位置：Jホ83 遺物No. 1772	種類：ウマ (<i>Equus caballus</i>) 部位：右？下顎臼歯 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン コラーゲン抽出
PLD-47285	試料No. 2 調査区：FJD 位置：Jホ83 遺物No. 1779	種類：ウマ (<i>Equus caballus</i>) 部位：下顎臼歯？（左右不明） 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン コラーゲン抽出
PLD-47286	試料No. 3 調査区：FJD 位置：Jホ83 遺物No. 1947③	種類：ウマ (<i>Equus caballus</i>) 部位：右下顎第1後臼歯 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン コラーゲン抽出

1. 結果

表2に、処理前重量(mg)、抽出コラーゲン重量(mg)、コラーゲン収率(%)、炭素含有量(%)、窒素含有量(%)、C/N比(モル比)を示す。いずれもコラーゲン収率が1%を超えており、C/N比(モル比)は、正常値とされる2.9~3.6(De Niro, 1985)の範囲内である。したがって、コラーゲンの変質や外部由来の炭素混入の可能性は考慮しなくてよいと考えられる。

別表2 コラーゲン抽出の結果一覧表

No.	処理前重量 (mg)	抽出コラーゲン重量 (mg)	コラーゲン収率 (%)	炭素含有量 (%)	窒素含有量 (%)	C/N比 (モル比)
PLD-47284	794.35	9.28	1.17	39.8	14.2	3.26
PLD-47285	799.12	9.99	1.25	40.1	13.9	3.36
PLD-47286	319.32	14.09	14.09	40.5	14.5	3.26

表3に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って曆年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、図1に曆年較正結果をそれぞれ示す。曆年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後曆年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて曆年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代(yrBP)の算出には、 ^{14}C の半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差($\pm 1\sigma$)は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が68.27%であることを示す。

なお、曆年較正の詳細は以下のとおりである。

曆年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5568年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い(^{14}C の半減期5730±40年)を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の曆年較正にはOxCal4.4(較正曲線データ:IntCal20)を使用した。なお、 1σ 曆年年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する68.27%信頼限界の曆年年代範囲であり、同様に 2σ 曆年年代範囲は95.45%信頼限界の曆年年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に曆年年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は曆年較正曲線を示す。

別表3 放射線炭素年代測定および曆年較正の結果

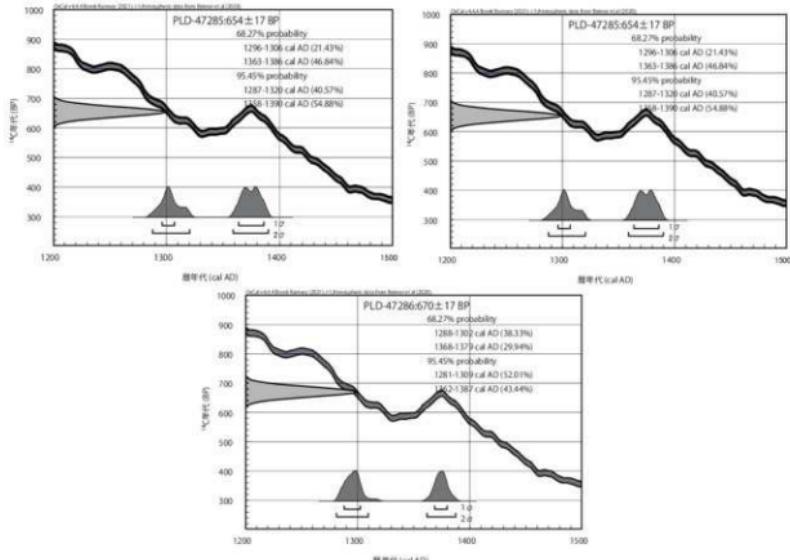
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	曆年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を曆年年代に較正した年代範囲	
				1σ 曆年年代範囲	2σ 曆年年代範囲
PLD-47284 試料No. 1 遺物No. 1772	-14.95 \pm 0.50	619 \pm 19	620 \pm 20	1304-1325 cal AD (32.96%) 1354-1366 cal AD (18.15%) 1382-1393 cal AD (17.16%)	1300-1371 cal AD (73.19%) 1377-1397 cal AD (22.26%)
PLD-47285 試料No. 2 遺物No. 1779	-16.82 \pm 0.15	654 \pm 17	655 \pm 15	1296-1306 cal AD (21.43%) 1363-1386 cal AD (46.84%)	1287-1320 cal AD (40.57%) 1358-1390 cal AD (54.88%)
PLD-47286 試料No. 3 遺物No. 1947③	-18.75 \pm 0.12	670 \pm 17	670 \pm 15	1288-1302 cal AD (38.33%) 1368-1379 cal AD (29.94%)	1281-1309 cal AD (52.01%) 1362-1387 cal AD (43.44%)

1. 考察

放射性炭素年代測定の結果について、 2σ 暦年代範囲（確率 95.45%）に着目して整理する。

試料 No.1（遺物 No.1772 : PLD-47284）は、1300-1371 cal AD (73.19%) および 1377-1397 cal AD (22.26%) で、13世紀末～14世紀末の暦年代を示した。試料 No.2（遺物 No.1779 : PLD-47285）は、1287-1320 cal AD (40.57%) および 1358-1390 cal AD (54.88%) で、13世紀後半～14世紀後半の暦年代を示した。試料 No.3（遺物 No.1947 ③ : PLD-47286）は、1281-1309 cal AD (52.01%) および 1362-1387 cal AD (43.44%) で、13世紀後半～14世紀後半の暦年代を示した。いずれも鎌倉時代～室町時代に相当する。

今回の試料は、ほぼ同じ高さから出土している。いずれも塚下面に広がる黒色土層直上から出土し、試料 No.1 と No.2 は塚の整地層直上から出土した。したがって、塚の築造は、13世紀後半～14世紀末に遡る可能性が高いと考えられる。



別図 I 暦年較正結果

引用・参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.
- DeNiro, M. J. (1985) Postmortem Preservation and Alteration of *in vivo* Bone Collagen Isotope ratios in Relation to Palaeodietary Reconstruction. *Nature*, 317, 806-809.
- Hua, Q., Barbetti, M. Rakowski, A.Z. (2013) Atmospheric Radiocarbon for the Period 1950–2010. *Radiocarbon*, 55(4), 1-14.
- 松井 章 (2008) 動物考古学. 312p. 京都大学学術出版会.
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の¹⁴C年代編集委員会編「日本先史時代の¹⁴C年代」: 3-20. 日本第四紀学会.
- Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Sounthor, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capra, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). *Radiocarbon*, 62(4), 725-757, doi:10.1017/RDC.2020.41. <https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41> (cited 12 August 2020)

十条富士塚地区出土のウマ遺体

植月 学（帝京大学文化財研究所）・櫻庭陸央（公財・山梨文化財研究所）

1. 資料と方法

富士塚以前につくられた旧塚盛土層下面の整地層上3地点よりウマ下顎歯と下顎骨の一部が出土した。調査時には3個体分と認識されていたが、分析の結果、そのうち2地点は同一個体に由来すると判断された。馬歯自体による放射性炭素年代測定では3点とも13世紀末～14世紀末の年代が得られている。遺存状況は全般に不良で、特に骨は脆くなっているため大部分は消失してしまったと推測される。同定は現生標本との比較によりおこない、同定可能なすべての部位を対象とした。臼歯計測位置はDriesch(1976)に準じて歯冠長、歯冠幅を計測し、加えて全歯高も計測した。全歯高は咬合面中心から歯根の中心(HC)、頬側の叉部(HB)、舌側の叉部(HL、下顎のみ)までの高さを計測した。

2. 分析結果

馬骨1 主に右側の下顎歯が出土した。骨は遺存しない。出土状況写真では切歯(I23)から臼歯(P234M123)までがほぼ解剖学的位置で並ぶが、P2は逆位(検出時に浮いてしまった可能性もある)、P3は横転する。また、P3上部に下顎臼歯破片とみられる細長い破片が2点乗っているが、右臼歯はほぼ揃っていて該当部位は存在しないので、左臼歯の一部の可能性がある。右側は舌側を上にして出土しているので、当初は左右が揃っていたとすれば、左側を上にして埋まっていたと考えられる。

破損により全歯高が計測できないため、年齢推定式を適用することができないが、P4とM3が未咬耗の若い個体である。Schmid(1972)によればP4は3歳頃、M3は3.5歳頃の萌出なので本標本は約3.5歳以前となる。また、Hoppe et al.(2004)の下顎歯萌出状況のX線写真と比較しても、2歳7ヶ月ではP2、P3が未萌出で、4歳半ではP4、M3の咬耗が始まっているので、3歳半前後の状況に最も近い。

馬骨2 左下顎歯の一部である。骨は遺存しない。出土状況写真を見ると固まって出土しているが、馬骨(1)と異なり解剖学的位置は留めておらず、破碎も進む。切歯の一部(I2)と臼歯の一部(P4M12)が同定できた。残っている臼歯の形状を馬骨(1)と比較した結果、酷似していたので同一個体と判断した。P4も未咬耗であり、年齢的にも矛盾はない。

馬骨3 左右の切歯から臼歯までがほぼ揃っている。出土状況写真では右M2、M3が崩れ落ちているのを除けば、ほぼ解剖学的位置で並ぶ。右P234付近、および左M3付近では顎骨も残存しているが、現状では細片化してしまっている。西中川・松元(1991)の推定式により全歯高(中心)から推定された年齢は12.7～19.0歳と幅があった(平均:15.0歳、標準偏差:2.29)。

なお、2個体ともに犬歯は確認できなかったが、遺存不良のため性別の判断は難しい。また、セメント質が遺存していないので、衝痕の有無は不明である。P2近心の磨耗(bevel)は確認できなかった。

3.まとめ

本遺構からはウマ2個体分の下顎が出土した。推定年齢は約3.5歳の若齢（馬骨1,2）と、15歳前後の老齢（馬骨3）で、年齢には開きがあった。2個体とも遺存状態は不良で、特に1・2では骨の多くが消失したと推測されたが、歯は比較的よく残っていた。したがって、上顎骨（あるいは頭蓋骨）が存在したが消失したという可能性はない。馬骨1の右臼歯列には左臼歯の一部が乗っていたので、骨が風化し、臼歯が遊離可能になった後に一部が動いた可能性がある。その場合、残りの悪い左側＝馬骨2の方が原位置を動いているとみるのが妥当であろう。一方で、自然に分離、移動したとみるには左臼歯破片が不自然にまとまっている、左側もある時点で人為的に集められたのかもしれない。なお、右側臼歯列後部が解剖学的位置を保っていたことから、歯のみがこの場に安置（ないし遺棄、廃棄）されたとは考えられず、当初は下顎骨が存在したことは確実である。したがって、2個体ともに下顎骨のみが存在したことになる。

以上により、ウマ下顎骨はこの場所に安置されてからすぐに埋没した訳ではなく、骨が風化するまで一定期間露出していた時期があり、その後に旧塚（中世以降とされる）の盛土がおこなわれたと推測される。通常、馬骨を儀礼的に扱う場合には頭蓋骨を用いる例が多い（松井1995など）。本例では下顎骨を意図的に用いたのか、あるいは当初は頭蓋骨を作っていたが、何らかの理由で頭蓋骨のみが持ち去られたのか、明らかでない。富士塚に関連する馬骨出土例は菅見の限り存在しないので、その評価については今後の類例の追加を待ちたい。

本報告はJSPS科研費JP22H00722の助成を受けたものである。

別表4 同定結果

	部位	左右	歯種	残存状況	数	備考	歯計測値 (mm)						資料No. (1)	資料No. (2)	その他 注記
							歯種	L	B	HL	HC	HB			
馬骨1	下顎歯	右	I2	-	1	I3 咬耗未完	-	-	-	-	-	-	1775	⑧	-
			P2	-	1	-	P2	26.9 ±	12.7 ±	-	-	-	1774	⑦	-
			P3	-	1	-	P3	17.3 ±	13.4 ±	-	-	-	1773	⑥	-
			P4	-	1	未咬耗	P4	27.9 ±	12.3 ±	-	-	-	1771	④	-
			M1	-	1	-	P5	27.6 ±	11.9 ±	-	-	-	1770	③	-
			M2	-	1	-	P6	26.9 ±	10.8 ±	-	-	-	1769	②	-
			(M3)	-	1	未咬耗	P7	22.1 ±	9.3	-	-	-	1768	①	-
		?	P/M?	破片	+ C14 残欠 + 齒根不明	右側に は残存しない	-	-	-	-	-	-	1772	⑤	-
			I2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1780	⑩	-
馬骨2	下顎歯	左	P4	-	1	舌側	-	-	-	-	-	-	1776	⑨	-
			M1	-	1	舌側遠位	-	-	-	-	-	-	1777	⑩	-
			M1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1778	⑪	-
			M2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1779	⑫	-
			?	I	-	?	4本分程度	-	-	-	-	-	1947	⑤	(馬歯)
馬骨3	下顎歯	右	[P2]	-	1	歯痕不明	P2	28.4	13.1	11.0	15.0	15.0	1947	④-①	骨+歯
			P3	-	1	-	P3	24.9	14.4	17.0	20.0	21.0	1947	④-①	歯
			P4	-	1	-	P4	24.6	15.7	18.0	31.0	31.0	1947	④-①	歯
			M1	-	1	C14	M1	23.2	14.7	26.0	29.0	27.0	1947	③	(馬歯) 21.05.31
		?	M2	-	1	-	M2	22.6	13.2	29.0	34.0	35.0	1947	①	(馬歯)
			M3	-	1	-	M3	28.8	13.6	34.0	39.0	36.0	1947	②	(馬歯)
			?	?	?	+	-	-	-	-	-	-	1947	④	骨
	下顎骨	左右	?	?	?	+	-	-	-	-	-	-	1947	④-②	骨
			[P2]	-	1	歯痕不明	P2	28.2	13.2	17.0	20.0	20.0	1947	④-③	歯+骨
		左	[P34M1]	-	1	-	P3	29.0 ±	30.0	29.0	15.5	22.9	1947	④-③	歯+骨
			P4	-	1	-	P4	30.0	33.0	31.0	16.4	24.3	1947	④-③	歯+骨
			M1	-	1	-	M1	16.0	22.0	16.0	16.4	24.9	1947	④-③	歯+骨
		?	[M23]	-	1	-	M2	24.2	14.2	27.0	30.0	29.0	1947	⑥	歯-2
			破片	?	?	?	+	-	-	-	-	-	1947	⑥	歯-1

B: 衛冠幅、L: 切歯幅、HL: 全歯高(舌側)、HC: 全歯高(中心)、HB: 全歯高(頬側)、I: 衛冠長、M: 後臼歯、P: 前臼歯、C: 齒根残存範囲、(): 未萌出

引用文献

- 西中川 駿・松元光春 1991 「遺跡出土骨同定のための基礎的研究—とくに在来種および現代種の骨、歯の計測値の比較」『古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究』科学研究費成果報告書 pp.164-188
- 松井 章 1995「古代・中世の村落における動物祭祀」『国立歴史民俗博物館研究報告』61 pp.55-71
- Dreisch, A. von den. 1976 A guide to the measurement of animal bones from archaeological sites. Bulletin No.1. Peabody Museum, Harvard University, Massachusetts.
- Hoppe, K.A., Stover, S.M., Pascoe, J.R., Amundson, R., 2004. Tooth enamel biomineralization in extant horses: implications for isotopic microsampling. Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology, 206, 355-365.
- Schmid, E., 1972. Atlas of animal bones. For prehistorians, archaeologists and Quaternary geologists. Amsterdam, New York: Elsevier.



1. 馬骨 1 (右・頬側) : M321P432,12 2. 馬骨 2 (左・舌側) : M21P4,123 ※歯種はいづれも写真左侧より順に記載

写真6 馬骨 1・2写真



馬骨 3 出土状況

3. 馬骨 3 (右・舌側) : P234M123 4. 馬骨 3 (左・頬側) : P234M123 5. 馬骨 3 (右 / 左) : 切歯破片、歯種未同定 ※歯種はいずれも写真左側より順に記載。頭尾方向は出土状況写真とは逆。

写真 7 馬骨 3 写真

写 真 図 版



1. 調査区北側完掘全景（南東から）



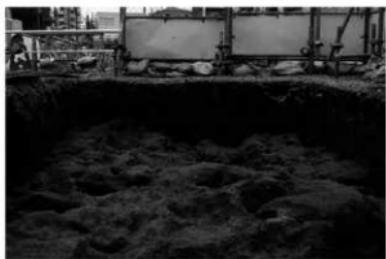
2. 調査区南東側完掘全景（北西から）



1. 調査区南西側完掘全景（北西から）



2. 北壁土層断面A（北側）（南から）



3. 南壁土層断面E（南西側）（北から）



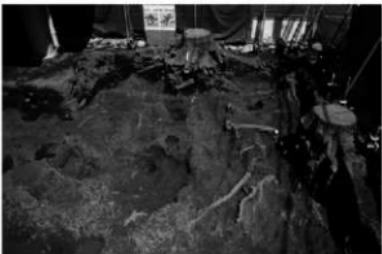
4. 西壁土層断面F（南西側）（北東から）



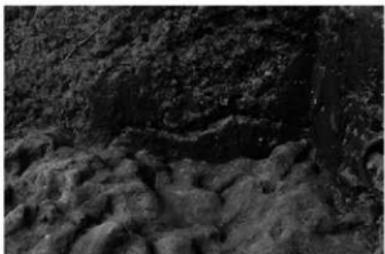
5. 北壁土層断面G（南西側）（南から）



1. 3号遺構完掘 (南から)



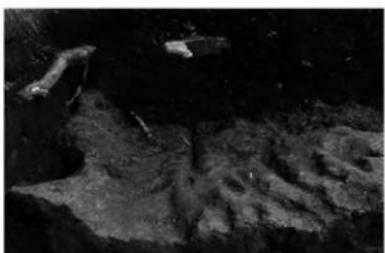
2. 3号遺構完掘 (西から)



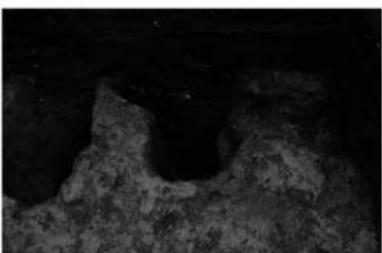
3. 3号遺構土層断面A-A' (南から)



4. 3号遺構土層断面B-B' (南から)



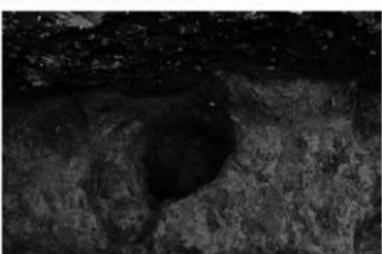
5. 3号遺構土層断面C-C' (北から)



6. 1号遺構完掘 (西から)



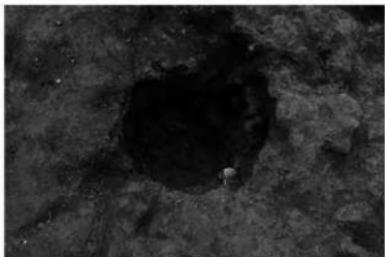
7. 4号遺構土層断面 (東から)



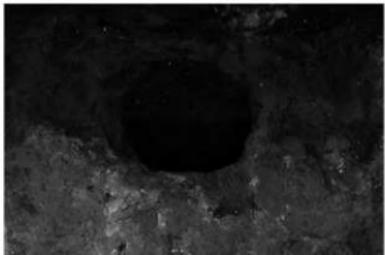
8. 4号遺構完掘 (西から)



1. 5号遺構土層断面（北から）



2. 5号遺構完掘（北から）



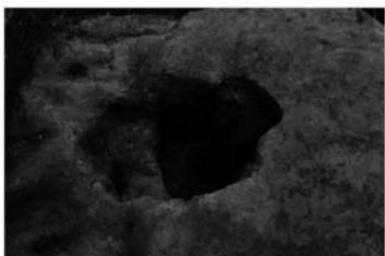
3. 6号遺構土層断面（東から）



4. 6号遺構完掘（東から）



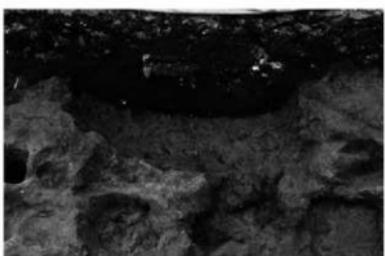
5. 7号遺構土層断面（北から）



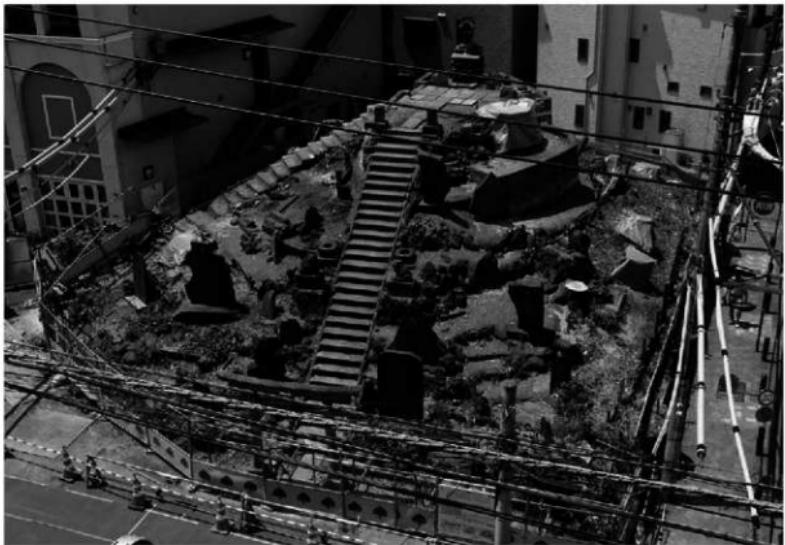
6. 7号遺構完掘（北から）



7. 8号遺構土層断面（南から）



8. 8号遺構完掘（東から）



1. 石碑移設前の富士塚（樹木伐採後）（北東から）



2. 山頂部 近世盛土直上遺物出土状況 1（東から）



3. 山頂部 近世盛土直上寛永通宝（文錢）出土状況（東から）



4. 切株下 板碑出土状況（東から）



5. 富士塚西側 近代盛土層中出土の鳥居部材（南東から）



1. 山頂部盛土堆積土層断面D（南から）



2. 石碑裏込部土層断面（北西から）



3. 近代盛土層断面A 東側（南から）



4. 近代盛土層断面A 西側（南から）



5. 近代盛土層断面B 南側（東から）



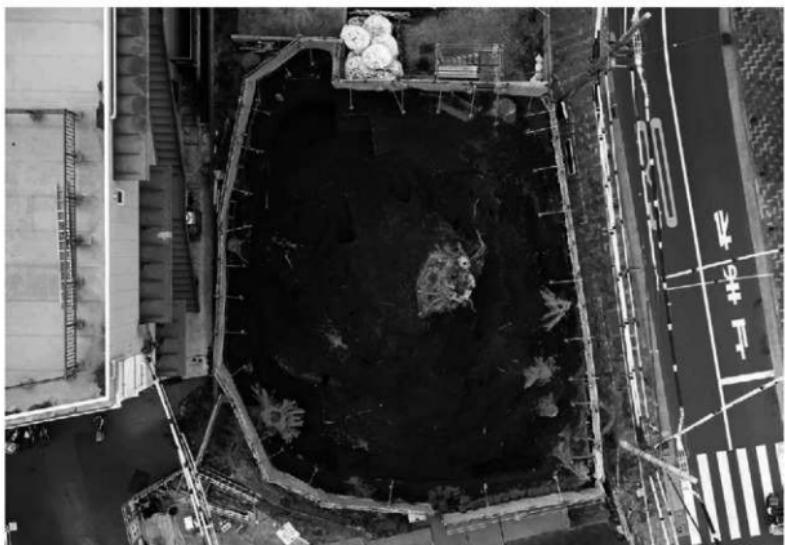
6. 近代盛土層断面B 北側（東から）



7. 近代階段跡検出（北東から）



8. 近代階段跡土層断面（北から）



1. 近世以前の塚検出状況（東から）



2. 中・近世盛土層断面A東側（1）（南から）



3. 中・近世盛土層断面A東側（2）（南から）



4. 中・近世盛土層断面A東側（3）（南から）



5. 中・近世盛土層断面A東側（4）（南から）



1. 中・近世盛土層断面A西側（1）（南から）



2. 中・近世盛土層断面A西側（2）（南から）



3. 中・近世盛土層断面B南側（1）（東から）



4. 中・近世盛土層断面B南側（2）（東から）



5. 中・近世盛土層断面B南側（3）（東から）



6. 中・近世盛土層断面B南側（4）（東から）



7. 中・近世盛土層断面B北側（1）（東から）



8. 中・近世盛土層断面B北側（2）（東から）



1. 中・近世盛土層断面B(3)(東から)(写真結合合成)



2. Aトレンチ土層断面(南から)



3. Bトレンチ土層断面(南東から)



4. 土層断面A下部分(南から)



5. 土層断面A下部分東側拡大(南から)



6. 土層断面Z-Z'全体(南東から)



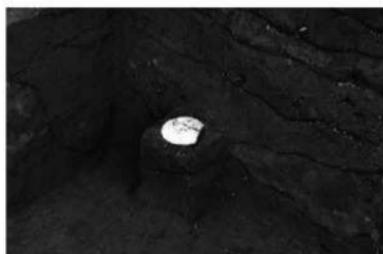
7. 土層断面Z-Z'西側(南から)



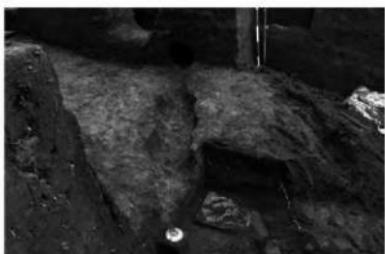
1. 富士塚下部盛土整地層面検出状況（北東から）



2. 富士塚下部盛土整地層除去状況（東から）



1. 富士塚近世盛土層下部近世遺物出土状況（北東から）



2. 小動物巣穴完掘（南から）



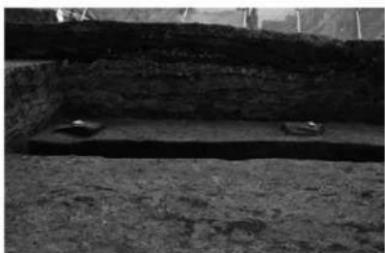
3. 盛土整地層直上馬歯 2 出土状況（南西から）



4. 盛土整地層直上馬歯 1 出土状況（東から）



5. 馬歯 1・2 出土層位状況（南東から）



6. 馬歯 1・2 出土層位状況（南から）



7. 盛土整地層直上馬歯 3 出土状況（南西から）



8. 盛土整地層土製勾玉出土状況（東から）



1. 調査区（中世以前）完掘全景（東から）



2. 調査区南西側完掘全景（南西から）



1. 都道側地点完掘全景（南から）



2. 都道側地点完掘全景（北西から）



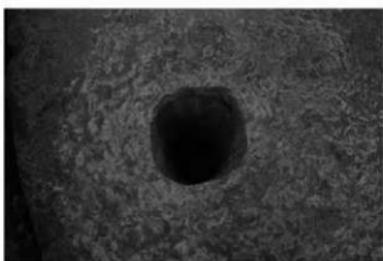
1. 5号遺構完掘 (南東から)



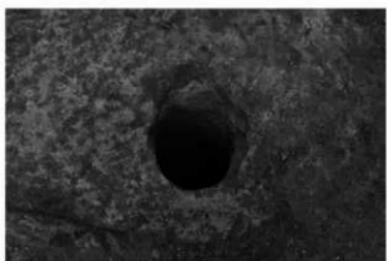
2. 5号遺構土層断面A-A' (東から)



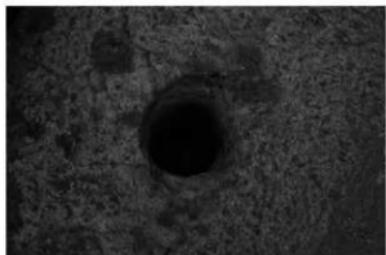
3. 5号遺構土層断面B-B' (南から)



4. 5号遺構P 1完掘 (南から)



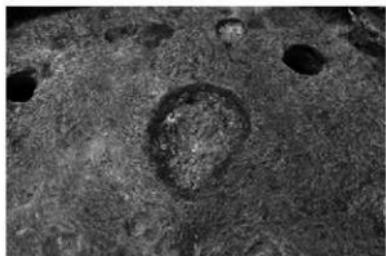
5. 5号遺構P 2完掘 (南から)



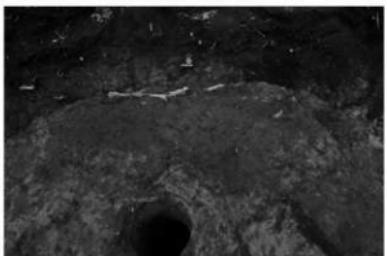
1. 5号遺構P 3完掘 (南から)



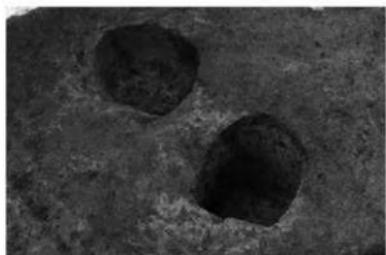
2. 5号遺構P 4完掘 (南から)



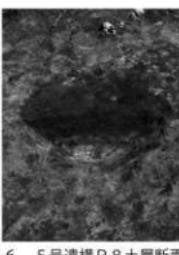
3. 5号遺構炉完掘 (南から)



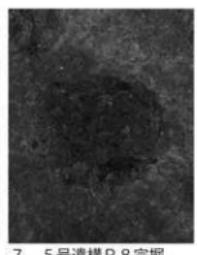
4. 5号遺構赤砂検出状況 (西から)



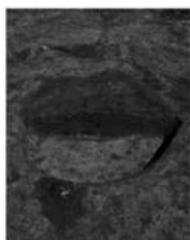
5. 5号遺構P 5・P 6完掘 (南から)



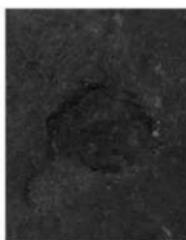
6. 5号遺構P 8土層断面 (南から)



7. 5号遺構P 8完掘 (南から)



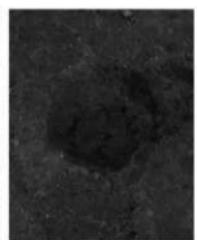
8. 5号遺構P 9土層断面 (南から)



9. 5号遺構P 9完掘 (南から)

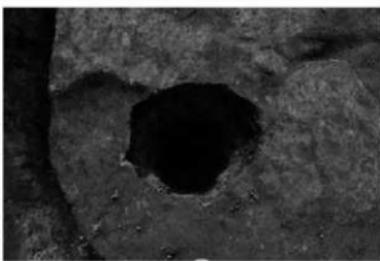


10. 5号遺構P 10土層断面 11. 5号遺構P 10完掘 (南から)

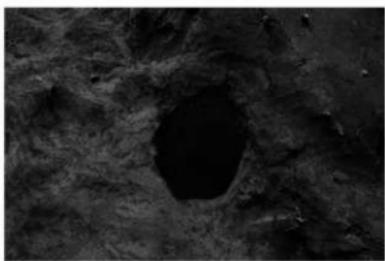




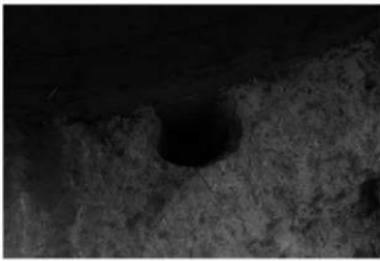
1. 4号遺構完掘南（東から）



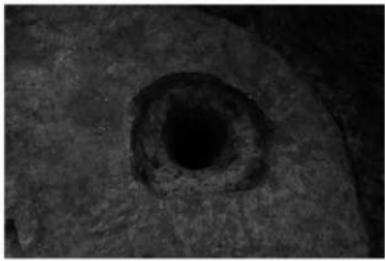
2. 4号遺構P.1完掘（東から）



3. 4号遺構P.2完掘（東から）



4. 4号遺構P.3完掘（東から）



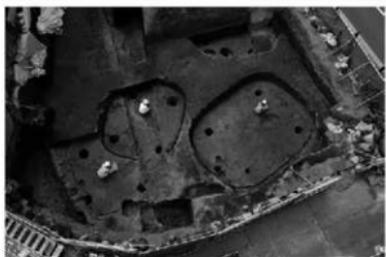
5. 4号遺構P.4完掘（東から）



1. 4号遺構土層断面A-A'（南から）



2. 4号遺構土層断面B-B'（東から）



3. 4号・5号・9号遺構完掘状況（南から）



4. 4号・9号遺構土層断面A-A'切り合い状況（南から）



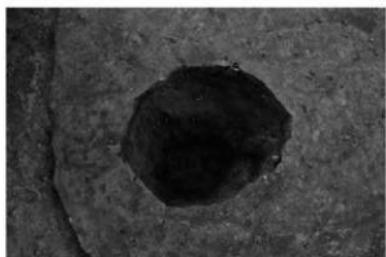
5. 9号遺構完掘（南から）



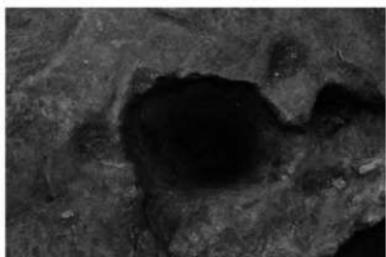
1. 9号遺構土層断面A - A' (南から)



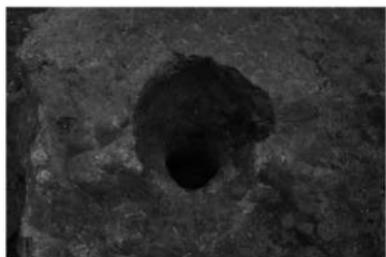
2. 9号遺構炉完掘 (南から)



3. 9号遺構P 1完掘 (南から)



4. 9号遺構P 2完掘 (南から)



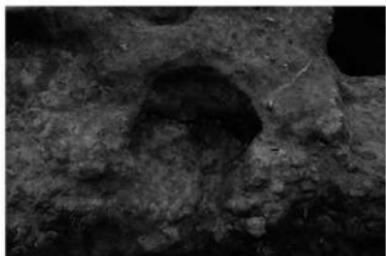
5. 9号遺構P 3完掘 (北から)



6. 9号遺構P 6完掘 (北から)



7. 9号遺構P 4完掘 (南から)



8. 9号遺構P 5完掘 (南から)



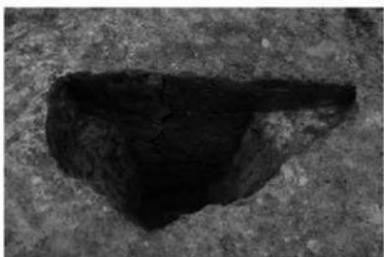
1. 6号遺構完掘（南から）



2. 6号遺構土層断面A-A'（東から）



3. 6号遺構土層断面B-B'（南から）



4. 6号遺構P1土層断面（南から）



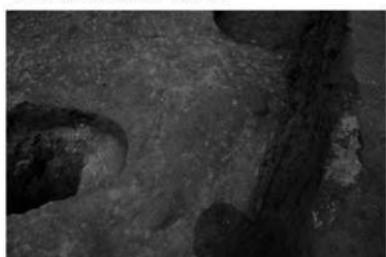
5. 6号遺構P1完掘（南から）



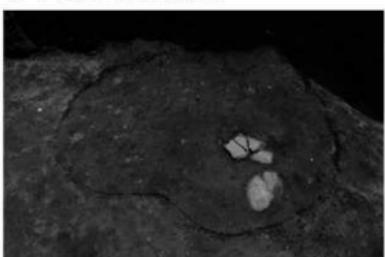
1. 6号遺構P2完掘（南から）



2. 6号遺構P3完掘（東から）



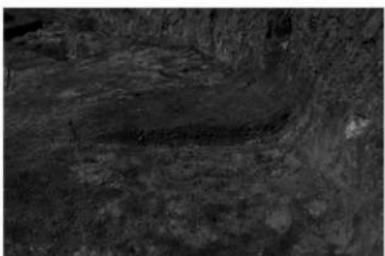
3. 6号遺構赤砂検出状況（南から）



4. 6号遺構赤砂1拡大（南から）



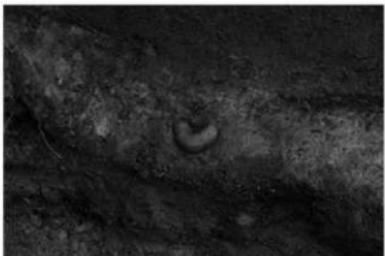
5. 6号遺構赤砂1遺物出土状況（南西から）



6. 6号遺構赤砂1土層断面（南西から）



7. 6号遺構赤砂2土層断面（南から）



8. 6号遺構土製赤彩勾玉出土状況（北から）



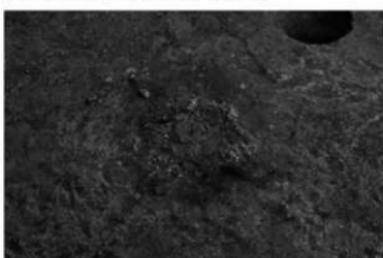
1. 7号遺構掘り方完掘（北西から）



2. 7号遺構土層断面A-A'（東から）



3. 7号遺構土層断面B-B'東側（南東から）



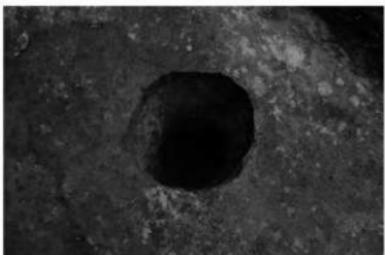
4. 7号遺構炉跡検出状況（南から）



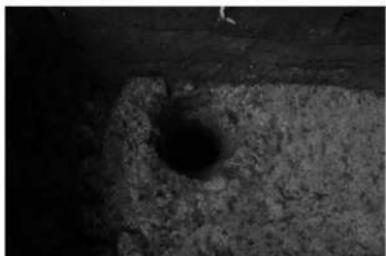
5. 7号遺構炉跡掘り方土層断面E-E'（北東から）



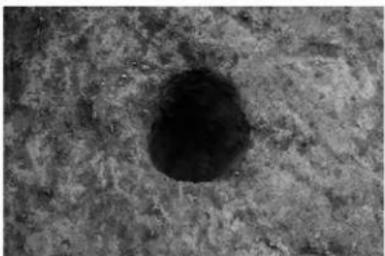
1. 7号遺構炉掘り方土層断面F-F'（南東から）



2. 7号遺構P1完掘（南東から）



3. 7号遺構P2完掘（北から）



4. 7号遺構P3完掘（南から）



5. 8号遺構土層A-A'断面（南から）



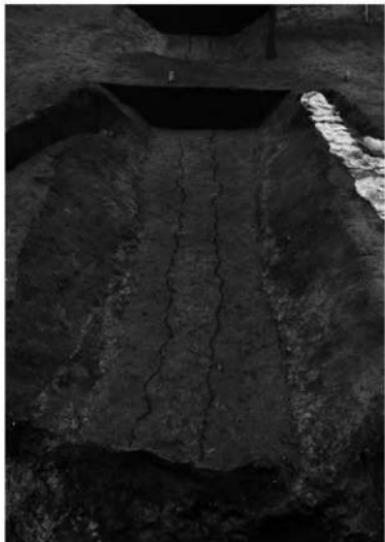
6. 8号遺構完掘（南東から）



7. 14号遺構土層断面A-A'（南から）



8. 14号遺構完掘（南東から）



1. 3号遺構硬化面検出状況（東から）



2. 3号遺構東側完掘（東から）



3. 3号遺構土層断面A-A'（硬化面上まで）（東から）



4. 3号遺構土層断面B-B'（東から）



5. 3号遺構土層断面C-C'（東から）



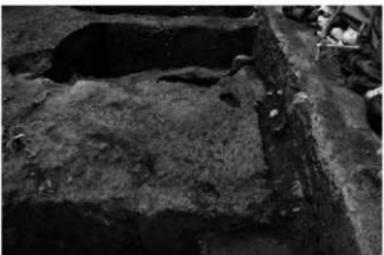
6. 10号遺構第一硬化面検出状況（南から）



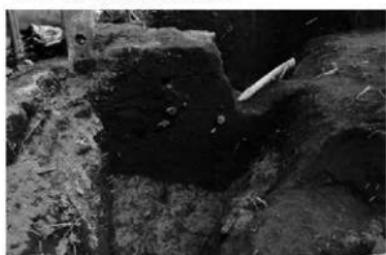
7. 10号遺構第二硬化面検出状況（南から）



1. 10号遺構土層断面（南から）



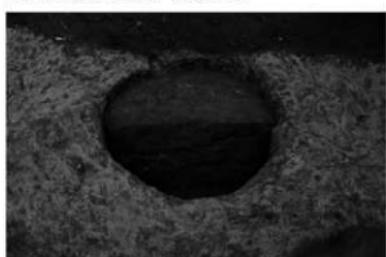
2. 10号遺構完掘（南から）



3. 2号遺構土層断面（北東から）



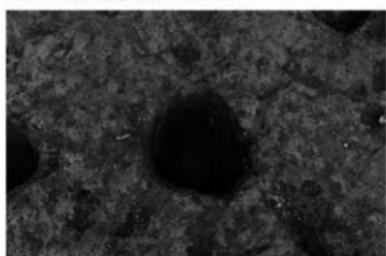
4. 2号遺構完掘（北東から）



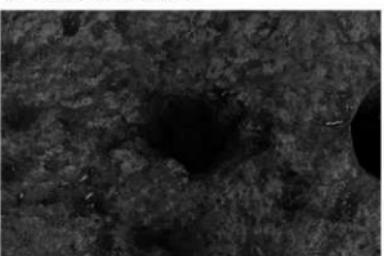
5. 13号遺構土層断面（東から）



6. 13号遺構完掘（東から）



7. 11号遺構完掘（南西から）



8. 12号遺構完掘（西から）



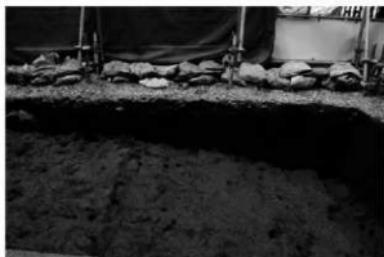
1. 調査区北側全景（西から）



2. 調査区南側全景（北東から）



1. 西壁土層断面A（西側）（東から）



2. 北壁土層断面B（西側）（南から）



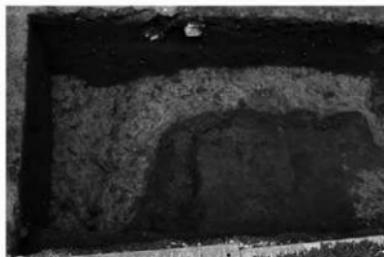
3. 南壁土層断面E（西側）（北から）



4. 1号・2号土層断面A - A'（南から）



5. 1-①号遺構完掘（南から）



6. 1-②号遺構完掘（北西から）



7. 1-②号遺構横土層断面（南から）



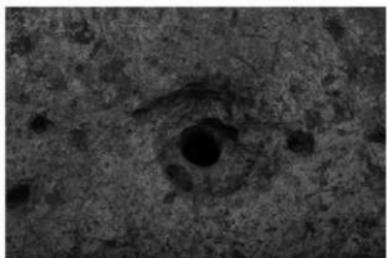
8. 1-②号遺構完掘（北東から）



1. 2号遺構完掘（西から）



2. 3号遺構土層断面（西から）



3. 3号遺構完掘（南から）



1. A 地点全景 (南東から)



2. C 地点全景 (北東から)



3. G 地点全景 (南東から)



4. D 地点全景 (北から)



5. E 地点全景 (北から)



1. 試掘坑2 ローム層断面（西から）



2. 北壁土層断面B（南から）



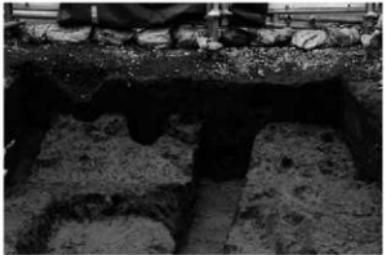
3. 東壁土層断面C（北側）(西から)



4. 東壁土層断面C（中央部）(西から)



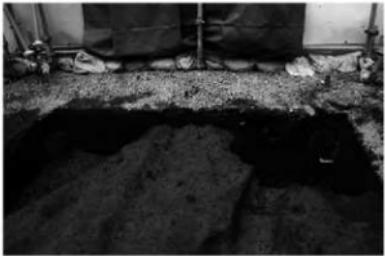
5. 東壁土層断面C（南側）(西から)



6. 東壁土層断面D（北側）(西から)



7. 東壁土層断面D（南側）(西から)



8. 西壁土層断面F（北側）(東から)



1. 5号遺構完掘 (F地点) (東から)



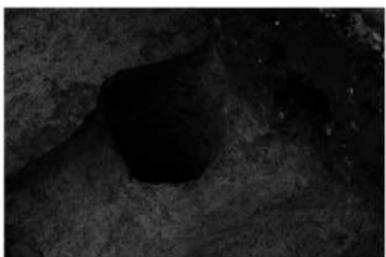
2. 5号遺構完掘 (G地点) (南東から)



3. 5号遺構土層断面 (東から)



4. 5号遺構遺物出土状況 (南東から)



5. 8号遺構完掘 (北東から) (南から)



6. 6号遺構完掘 (北から)



7. 6号遺構土層断面 (東から)



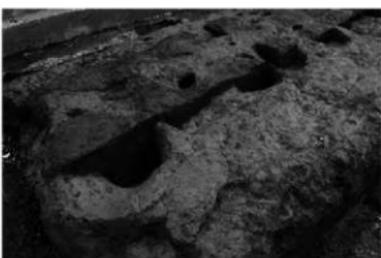
1. 10号遺構完掘(D地点)(北から)



2. 10号遺構硬化面検出状況(D地点)(北から)



3. 10号遺構土層断面(D地点)(北東から)



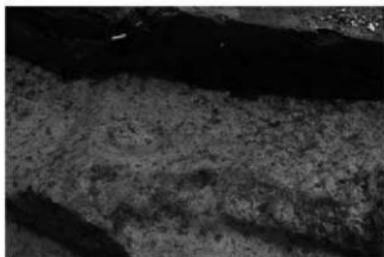
4. 10号遺構土層断面(D地点)(南東から)



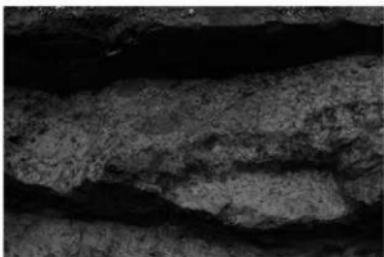
1. 10号遺構硬化面検出状況 1(F地点)(北から)



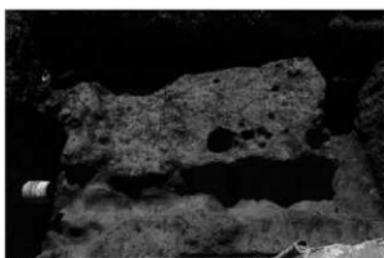
2. 10号遺構硬化面検出状況 2(F地点)(北から)



3. 10号遺構完掘(E地点)(北西から)



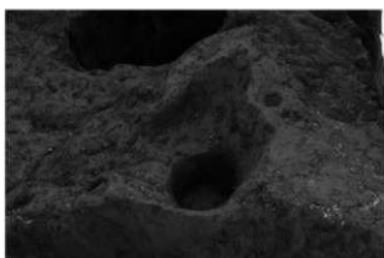
4. 10号遺構硬化面検出状況(E地点)(北から)



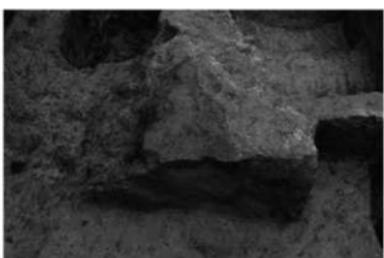
5. 10号遺構完掘(D地点)(北から)



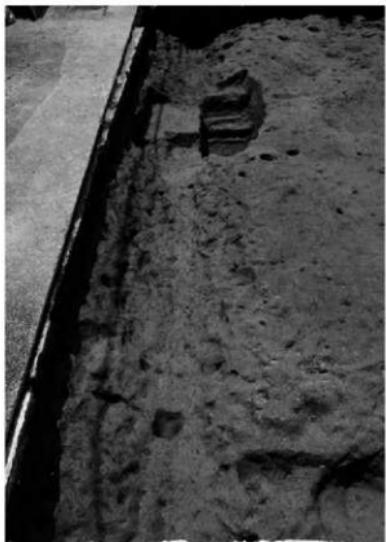
6. 10号遺構硬化面検出状況(D地点)(北から)



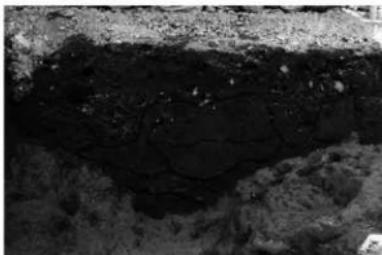
7. 10号遺構完掘(C地点)(北から)



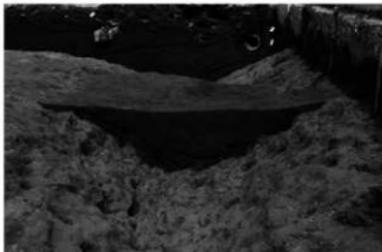
8. 10号遺構硬化面検出状況(C地点)(北から)



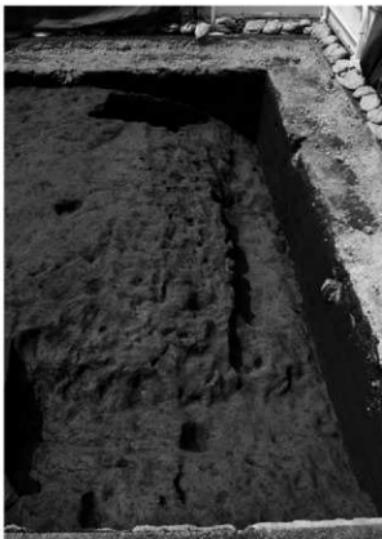
1. 1号遺構完掘（東から）



2. 1号遺構土層断面B-B'（東から）



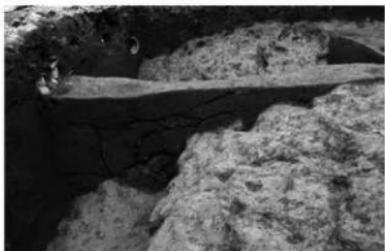
3. 1号遺構土層断面A-A'（西から）

4. 2号・9号遺構完掘、10号遺構硬化面検出状況
（A地点）（北から）

5. 2号・9号、10号遺構完掘（A地点）（南から）



1. 2号・9号・10号遺構土層断面A-A'(A地点)(南から)



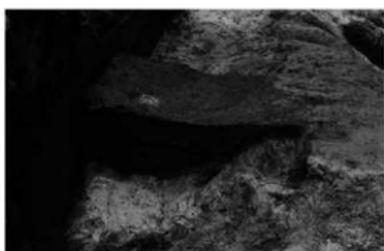
2. 2号・9号遺構土層断面(A地点)(北から)



3. 2号・9号遺構完掘(B地点)(北から)



4. 2号・9号、10号遺構完掘(C地点)(北から)



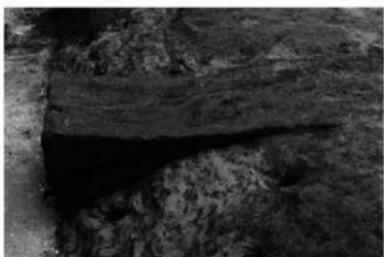
5. 2号・9号遺構土層断面D-D'(B地点)(北から)



6. 2号・9号遺構土層断面F-F'(B地点)(北から)



1. 2号・9号遺構完掘 (D地点) (北東から)



2. 2号・9号遺構土層断面 H-H' (D地点) (北から)



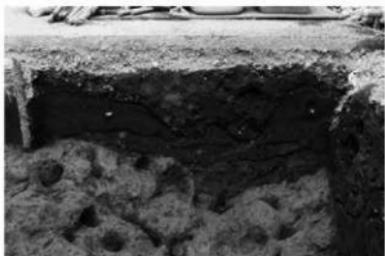
3. 2号・9号遺構完掘 (G地点) (南から)



4. 2号・9号・10号遺構土層断面 基本層序 E (G地点) (北から)



1. 3号遺構完掘（東から）



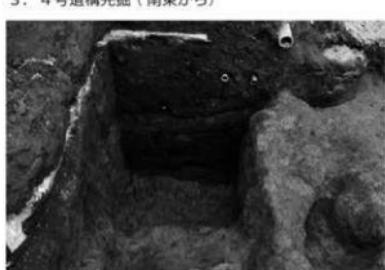
2. 3号遺構土層断面（北から）



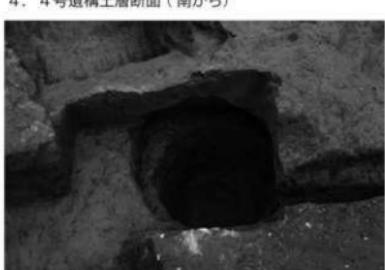
3. 4号遺構完掘（南東から）



4. 4号遺構土層断面（南から）



5. 11号遺構完掘（東から）



6. 12号遺構完掘（北から）



7. 13号遺構完掘（東から）



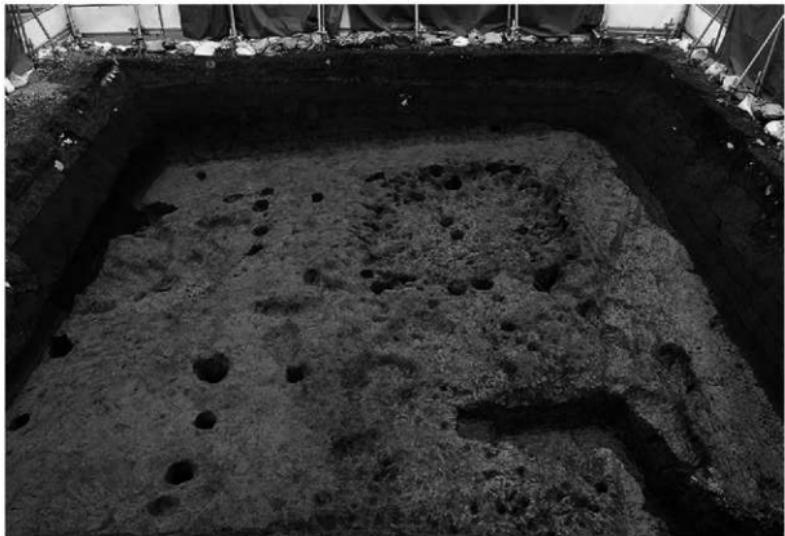
8. 13号遺構土層断面（北から）



1. 南側 1 回目全景（北から）



2. 1号造構完掘（南から）



1. 北側調査区全景（南から）



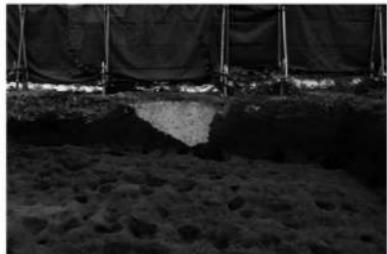
2. 南壁土層断面 A-A'（北から）



3. 西壁土層断面 A-A'（南側）（東から）



4. 北壁土層断面 C-C'（東側）（南から）



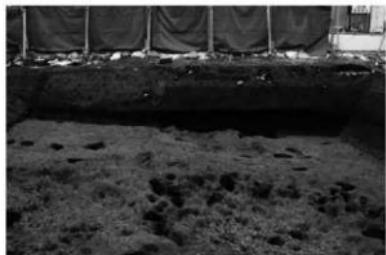
5. 西壁土層断面（北側）（東から）



1. 北壁土層断面（南から）



2. 東壁土層断面（西から）



3. 西壁土層断面（東から）



4. 北壁土層断面（南から）



5. 東壁土層断面（西から）



6. 12号造構土層断面（北東から）



7. 12号造構完掘（北東から）



8. 12号造構完掘（南西から）



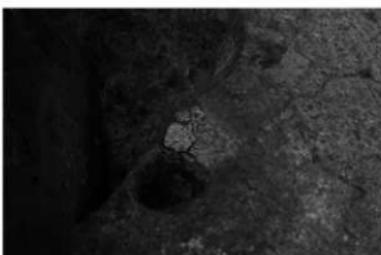
1. 23号遺構完掘（南から）



2. 23号遺構土層断面A-A'（東から）



3. 23号遺構土層断面B-B'（南から）



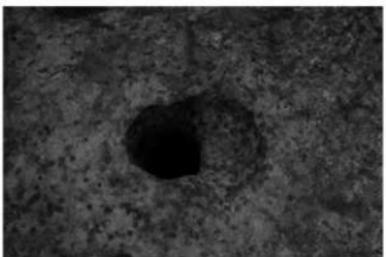
4. 23号遺構炉跡検出状況（南東から）



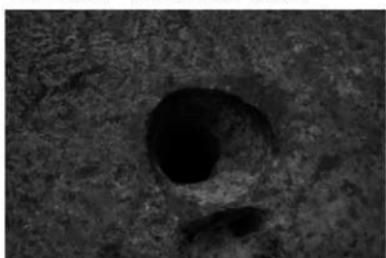
5. 23号遺構炉跡掘り方完掘（南から）



1. 23号遺構P-1土層断面E-E'（東から）



2. 23号遺構P-2完掘（東から）



3. 23号遺構P-3完掘（東から）



4. 23号遺構遺物出土状況（西から）



5. 23号遺構掘り方完掘（南から）



1. 32号遺構完掘（北東から）



2. 23号遺構遺物（金属）出土状況（南東から）



3. 1号遺構完掘（南から）



4. 3号遺構土層断面A-A'（南から）



5. 3号遺構土層断面K-K'（南から）



1. 3号遺構最終硬化面（南から）



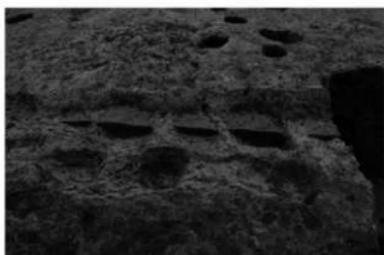
2. 3号遺構完掘（北から）



1. 3号遺構完掘（南から）



2. 3号遺構土層断面C-C' (東から)



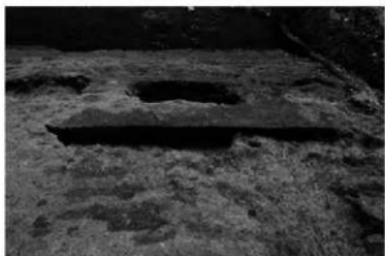
3. 3号遺構土層断面E-E' (東から)



4. 3号遺構土層断面P-P'付け足し (南から)



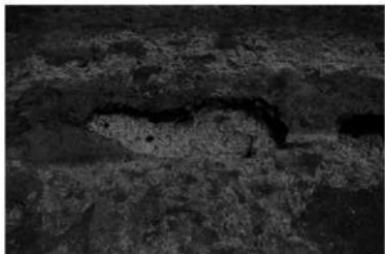
5. 3号遺構土層断面Q-Q' (東から)



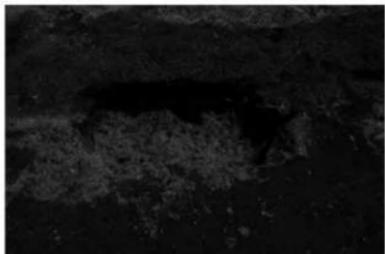
1. 17号・18号遺構土層断面（西から）



2. 17号遺構完掘（東から）



3. 15号遺構完掘（西から）



4. 16号遺構完掘（西から）



5. 4号～11号遺構完掘集合（北から）



1. 調査区南側全景（北から）



2. 調査区北側全景（北から）



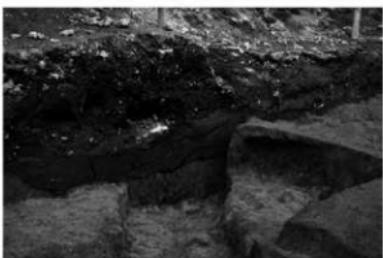
3. 調査区中央部全景（南から）



1. 1号遺構(右)、2号遺構(左)完掘(西から)



2. 1号遺構完掘(東から)



3. 1号遺構土層断面(西から)



4. 1号遺構土層断面(東から)



5. 2号遺構確認状況(調査区南側)(西から)



1. 2号遺構完掘（調査区南側）（西から）



2. 2号遺構完掘（調査区南側）（南から）



3. 2号遺構遺物出土状況（調査区南側）（西から）



4. 2号遺構土層断面B-B'（調査区南側）（西から）



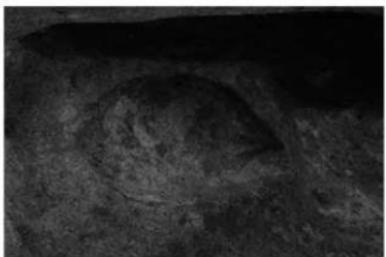
1. 2号遺構完掘(調査区中央部)(南から)



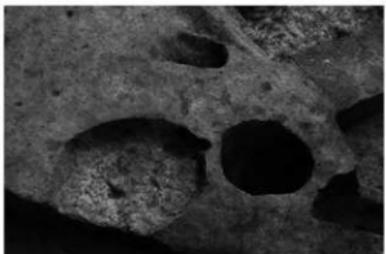
2. 2号遺構土層断面 A-A'(調査区中央部)(南東から)



1. 10号遺構完掘（南から）



2. 11号遺構完掘（北西から）



3. 12~14号遺構完掘（北から）



4. 2号・16号・17号遺構完掘（北から）



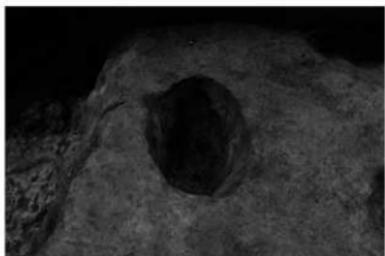
5. 16号遺構土層断面（北から）



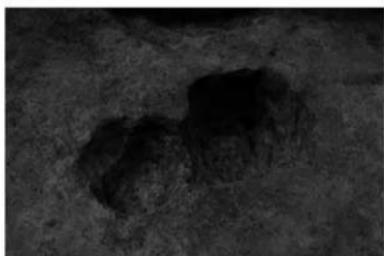
6. 16号・17号遺構完掘（北東から）



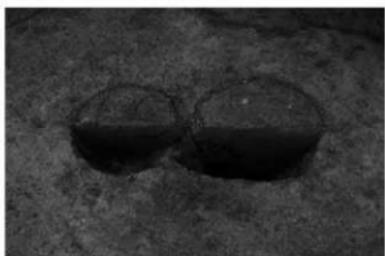
1. 3号遺構完掘（西から）



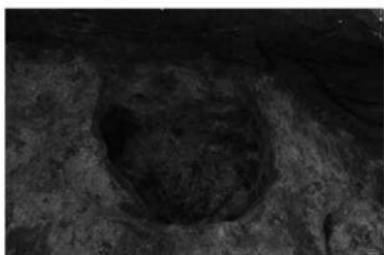
2. 4号遺構完掘（東から）



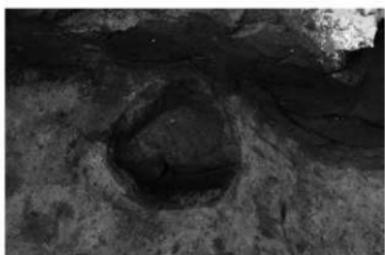
3. 5号遺構（左）、6号遺構（右）完掘（東から）



4. 5号遺構（左）、6号遺構（右）土層断面（東から）



5. 7号遺構完掘（南から）



6. 7号遺構土層断面（南から）



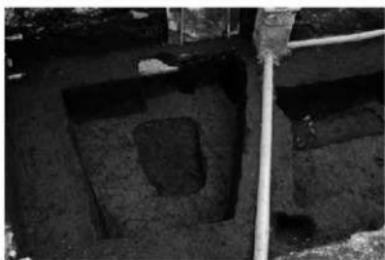
7. 8号遺構（左）、9号遺構（右）遺構完掘（西から）



8. 8号遺構（左）、9号遺構（右）土層断面（西から）



1. 南側調査区完掘全景（東から）



2. 南側北側調査区完掘（東から）



3. 北側調査区完掘（西から）



4. 北側調査区完掘（東から）



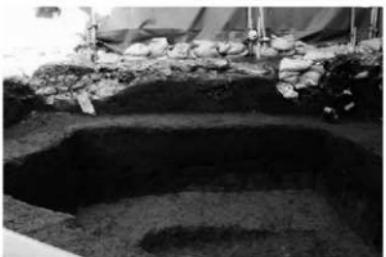
1. 南側調査区 西壁土層断面A（東から）



2. 北側調査区 西壁土層断面B（東から）



3. 北側調査区 北壁土層断面C（南から）



4. 南側調査区 東壁土層断面D（西から）



5. 南側調査区 北壁土層断面E 西側（南から）



6. 14号遺構検出状況（南西から）



7. 14号遺構完掘（南から）



8. 14号遺構遺物出土状況（南西から）



1. 4号遺構第1硬化面検出状況（南から）



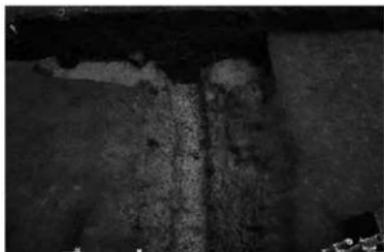
2. 4号遺構第2硬化面検出状況（南から）



3. 4号遺構第3硬化面検出状況（南から）



4. 4号遺構第4硬化面検出状況（南から）



5. 4号遺構完掘（南から）



6. 4号遺構土層断面C-C'（北から）



7. 3号遺構第1硬化面検出状況（北から）



8. 3号遺構第2硬化面検出状況（北から）



1. 3号遺構第3硬化面検出状況（北から）



2. 3号遺構第4硬化面検出状況（北から）



3. 3号遺構完掘（北から）



4. 3号遺構土層断面A - A'（北から）



5. 1号遺構土層断面（東から）



6. 1号遺構完掘（東から）



7. 2号遺構土層断面（東から）



8. 2号遺構完掘（南から）



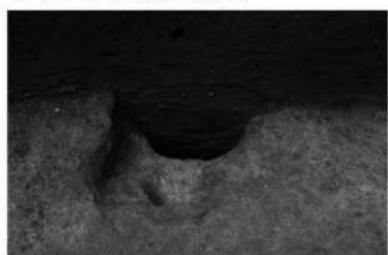
1. 5号・6号遺構土層断面（南から）



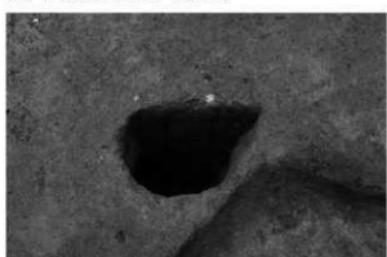
2. 5号・6号遺構完掘（南から）



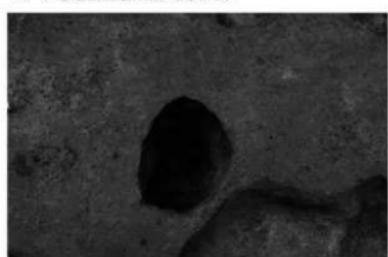
3. 7号遺構土層断面（南から）



4. 9号遺構完掘（南から）



5. 8号遺構土層断面（南から）



6. 8号遺構完掘（南から）



7. 10号遺構土層断面（東から）



8. 10号遺構完掘（北から）



1. 調査区北側全景（南から）



2. 調査区南側全景（北から）



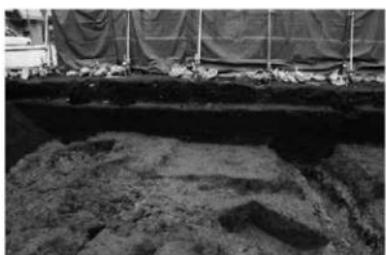
1. 調査区南側全景（東から）



2. 西壁土層断面 A（東から）



3. 北壁土層断面 B（南から）



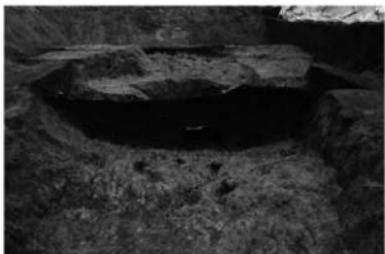
4. 南壁土層断面 D 東側（西から）



5. 西壁土層断面 E（北から）



1. 25号遺構完掘（西から）



2. 25号遺構土層断面B-B'（西から）



3. 25号遺構土層断面C-C'（西から）



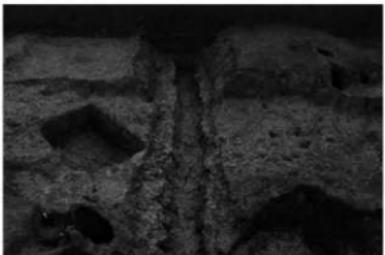
4. 25号遺構遺物出土状況2（南から）



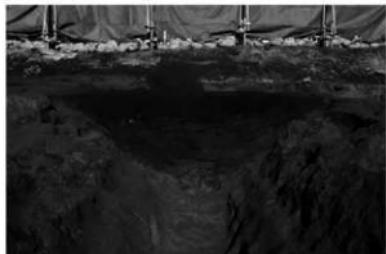
5. 25号遺構遺物出土状況1（西から）



1. 12号遺構完掘（北から）



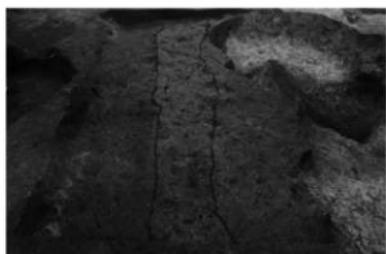
2. 12号遺構完掘〔南側〕（北から）



3. 12号遺構土層断面A-A'（南から）



4. 12号遺構土層断面B-B'（南から）



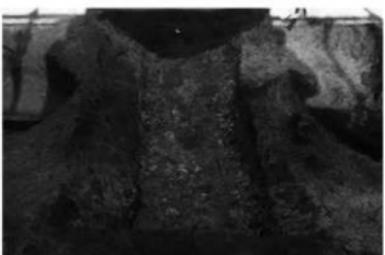
5. 12号遺構第1硬化面（南から）



6. 12号遺構第2硬化面（南から）



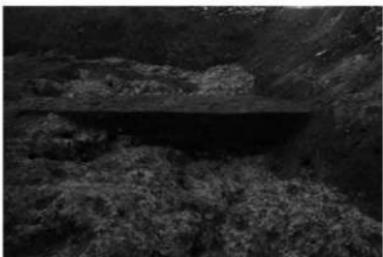
7. 12号遺構第3硬化面（南から）



8. 12号遺構第4硬化面（南から）



1. 24号遺構完掘（北から）



2. 24号遺構土層断面（北から）



3. 27号遺構土層断面（南東から）



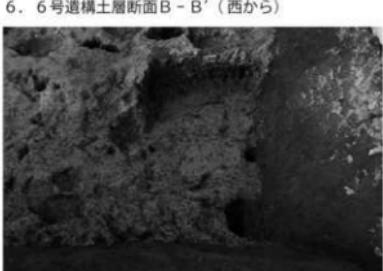
4. 27号遺構完掘（南東から）



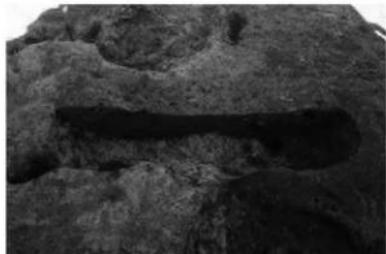
6. 6号遺構土層断面B-B'（西から）



5. 6号遺構完掘（西から）



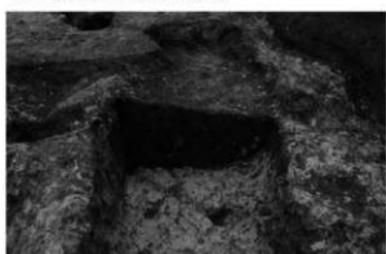
7. 5号遺構完掘（南から）



1. 1号遺構土層断面（南から）



2. 1号遺構完掘（南から）



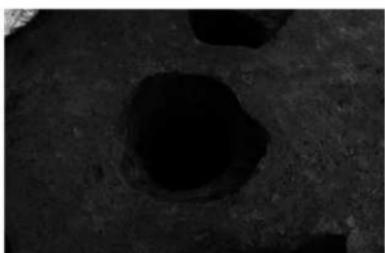
3. 26号遺構土層断面（西から）



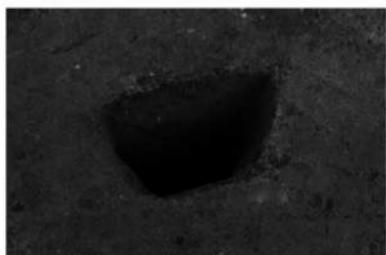
4. 26号遺構完掘（西から）



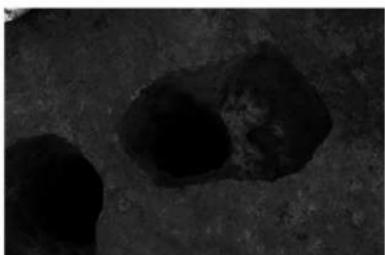
5. 28号遺構土層断面（南から）



6. 28号遺構完掘（南から）



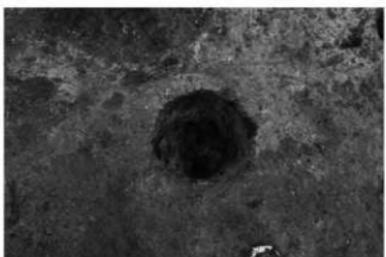
7. 29号遺構土層断面（南から）



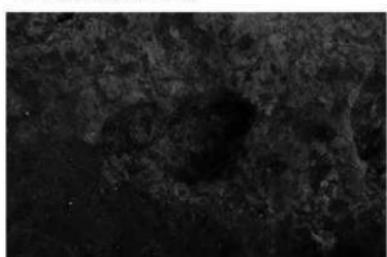
8. 29号遺構完掘（南から）



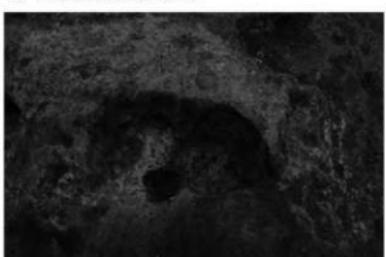
1. 7号遺構完掘（西から）



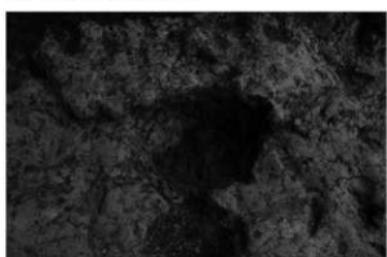
2. 8号遺構完掘（西から）



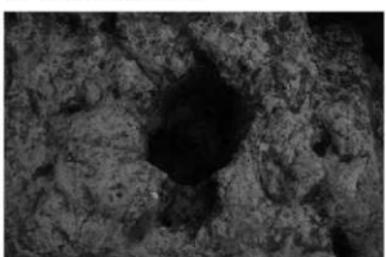
3. 9号遺構完掘（西から）



4. 10号遺構完掘（西から）



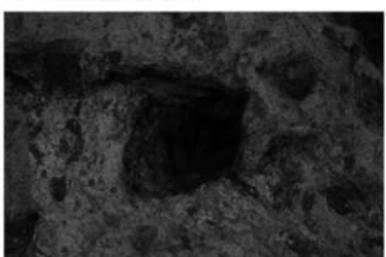
5. 14号遺構完掘（北から）



6. 15号遺構完掘（北から）



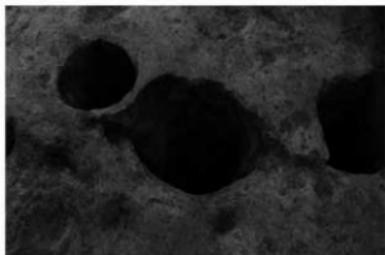
7. 16号遺構完掘（北から）



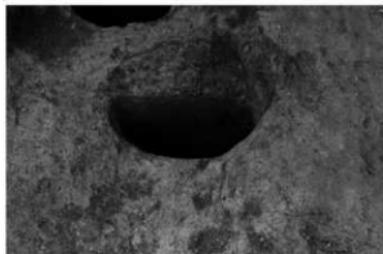
8. 17号遺構完掘（北から）



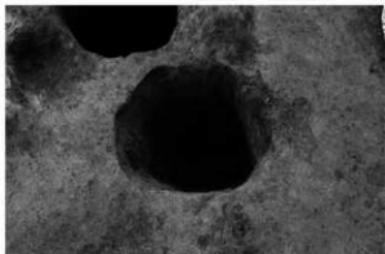
1. 18号遺構土層断面（西から）



2. 18号遺構完掘（西から）



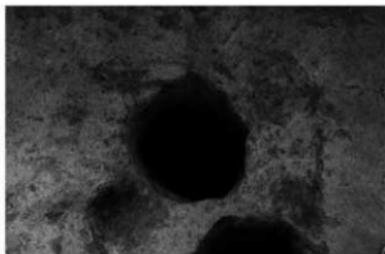
3. 20号遺構土層断面（北から）



4. 20号遺構完掘（南から）



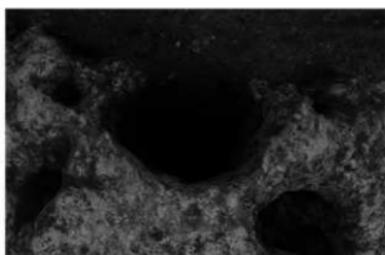
5. 21号遺構土層断面（北から）



6. 21号遺構完掘（北から）



7. 30号遺構土層断面（北から）



8. 30号遺構完掘（北から）



1. 北側調査区全景（東から）



2. 北側調査区西側全景（東から）



3. 北側調査区東側全景（西から）



4. 南側調査区全景（東から）



1. 西壁土層断面A北側（東から）



2. 北壁土層断面B東側（南から）



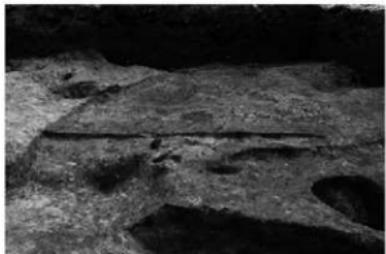
3. 北側調査区南壁土層断面D（北から）



4. 南壁土層断面E中央部（北から）



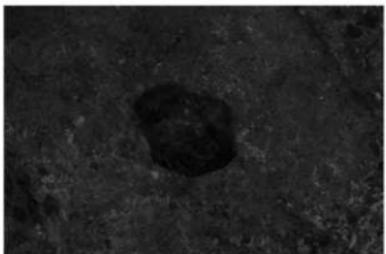
5. 35号造構完掘南（東から）



1. 35号遺構ベルト土層断面（北から）



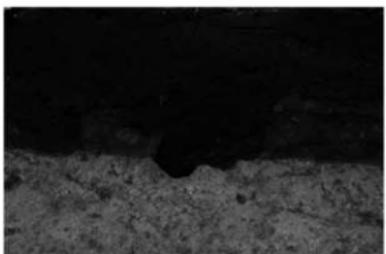
2. 35号遺構P 1 完掘（東から）



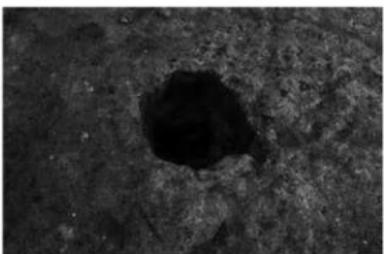
3. 35号遺構P 2 完掘（東から）



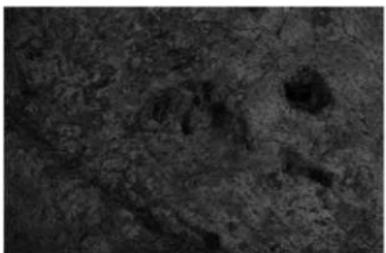
4. 35号遺構P 5 完掘（東から）



5. 35号遺構P 6 土層断面（東から）



6. 35号遺構P 4 完掘（東から）



7. 35号遺構P 7 完掘（東から）



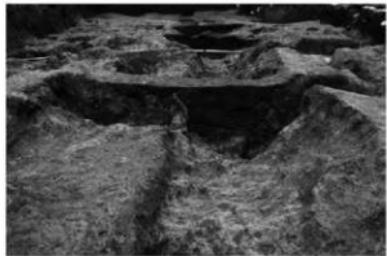
8. 35号遺構遺物出土状況（南から）



1. 25号遺構完掘（西から）



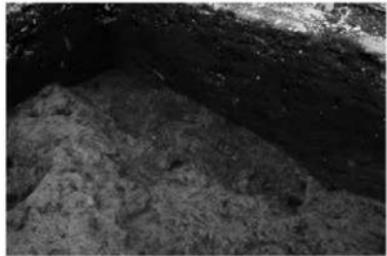
2. 25号遺構完掘（東から）



3. 25号遺構土層断面A-A'（東から）



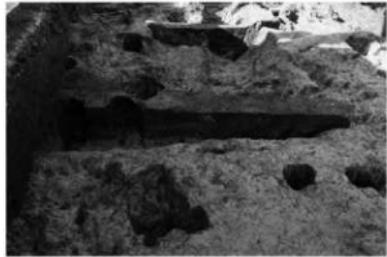
4. 25号遺構土層断面B-B'（東から）



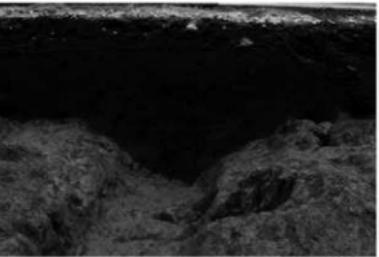
5. 24号遺構硬化面（南西から）



6. 32号遺構完掘（北から）



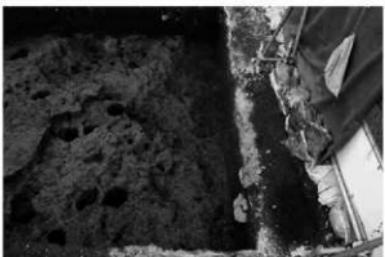
7. 32号遺構土層断面（東から）



8. 30号・32号遺構土層断面（北から）



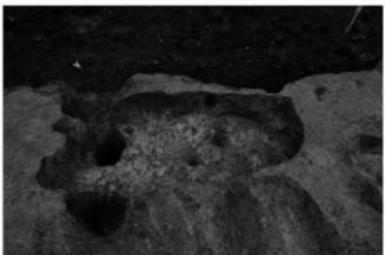
1. 2号遺構完掘 (南から)



2. 2号遺構完掘 (南から)



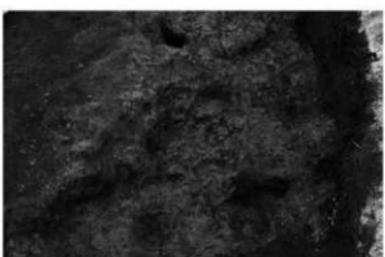
3. 36号遺構土層断面 (東から)



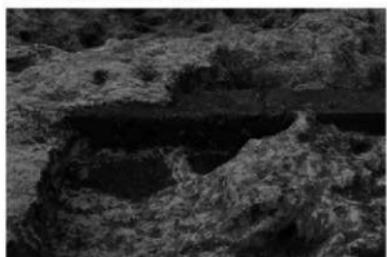
4. 36号遺構完掘 (東から)



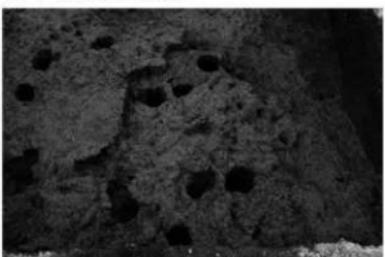
5. 5号遺構土層断面 (東から)



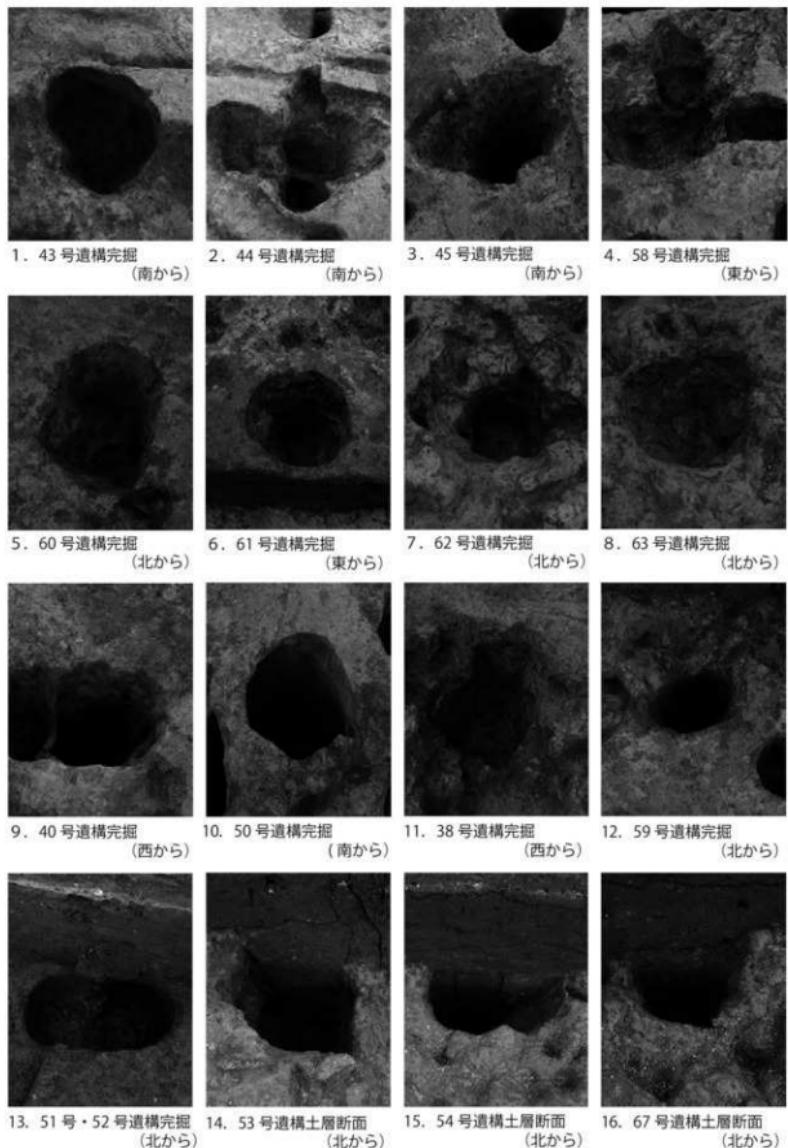
6. 5号遺構完掘 (東から)



7. 8号・9号遺構土層断面 (東から)



8. 8号・9号遺構完掘 (東から)





1. 調査区北側全景（南東から）



2. 調査区南側全景（北から）



1. 調査区中央部全景（北から）



2. 西壁土層断面A（北側）（南東から）



3. 北壁土層断面B（北側）（南から）



4. 西壁土層断面C（南側）（北東から）



5. 西壁土層断面C（中央部）（東から）



1. 1号遺構完掘（北から）



2. 1号遺構土層断面A - A'（南から）



3. 1号遺構土層断面B - B'（南から）



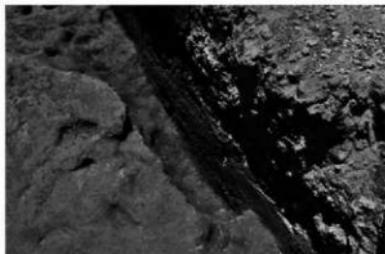
4. 1号遺構土層断面C - C'（南から）



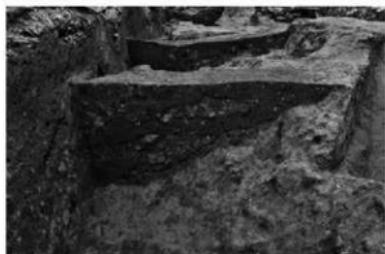
5. 2号・3号・4号遺構完掘（北から）



1. 2号遺構土層断面（南から）



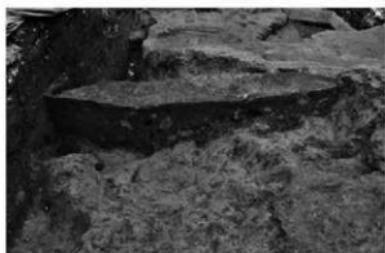
2. 7号遺構完掘（北東から）



3. 5号遺構土層断面（南から）



4. 5号遺構完掘（南東から）



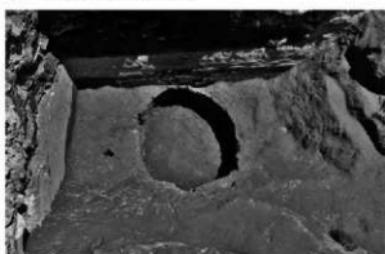
5. 6号遺構土層断面（南から）



6. 6号遺構完掘（南から）



7. 8号遺構土層断面（南から）



8. 8号遺構完掘（西から）



1. 調査区西側全景（南から）



2. 調査区北東側全景（東から）



1. 調査区東側全景（北から）



2. 西壁土層断面D（西側）（北東から）



3. 北壁土層断面E（西側）（南から）



4. 北壁土層断面F（北東側）（南東から）



5. 南壁土層断面B（東側）（北から）



1. 15 号遺構検出状況（南から）



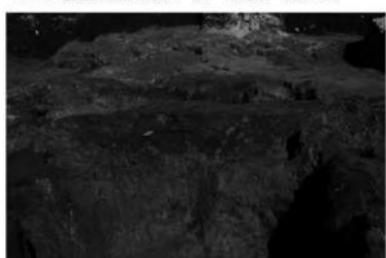
2. 15 号遺構検出状況（南から）



1. 15号遺構土層断面A - A' (西側) (南から)



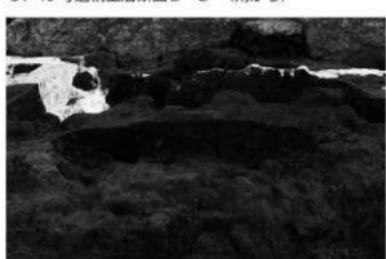
2. 15号遺構土層断面A - A' (東側) (南から)



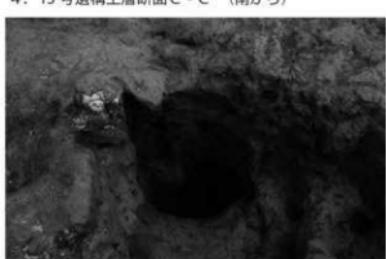
3. 15号遺構土層断面B - B' (南から)



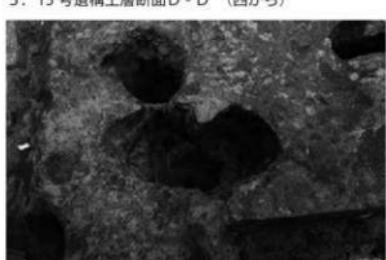
4. 15号遺構土層断面C - C' (南から)



5. 15号遺構土層断面D - D' (西から)



6. 15号遺構P 1完掘 (東から)



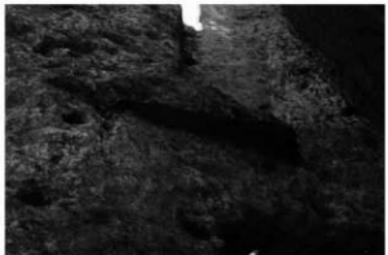
7. 15号遺構P 2・9号遺構完掘 (南から)



8. 15号遺構P 3完掘 (東から)



1. 22号造構硬化面（鎌倉街道跡）検出状況（南から）



2. 22号造構硬化面（鎌倉街道跡）土層断面B - B'（南から）



3. 22号造構（日光御成街道側溝）土層断面A - A'（南から）



4. 22号造構（日光御成街道側溝）完掘（北から）



1. 調査区北側全景（南から）



2. 調査区南側全景（北から）



1. 調査区北側北西部全景（北東から）



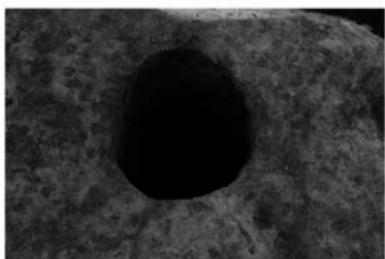
2. 試掘坑 2 ローム層断面（南から）



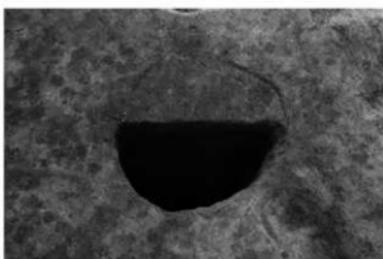
3. 47号遺構完掘（西から）



4. 47号遺構土層断面（西から）



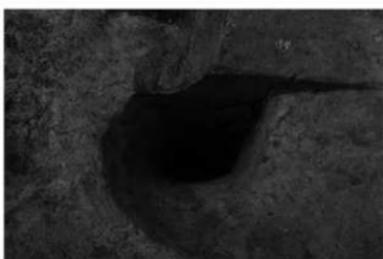
5. 48号遺構完掘（北から）



6. 48号遺構土層断面（北から）



7. 59号遺構完掘（東から）



8. 59号遺構土層断面（東から）



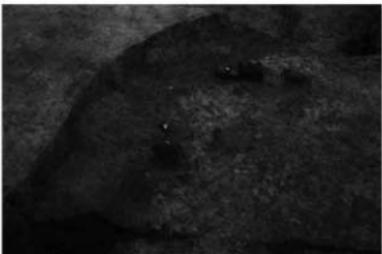
1. 41号遺構完掘（北から）



2. 41号遺構完掘（東から）



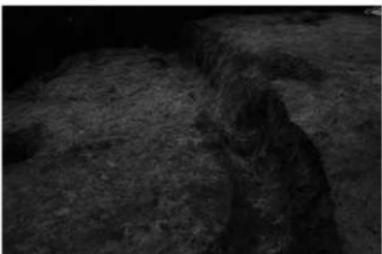
1. 41号遺構土層断面（北西から）



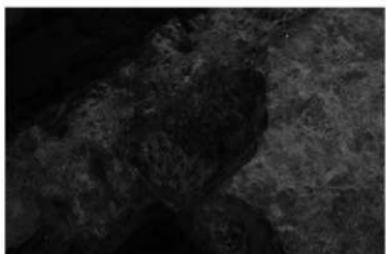
2. 41号遺構遺物出土状況（西から）



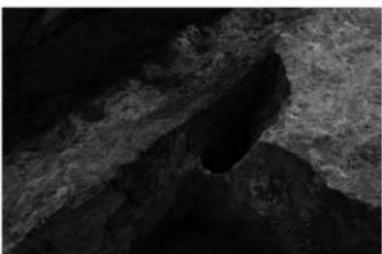
3. 41号遺構遺物出土状況（北東から）



4. 41号遺構周溝（東から）



5. 41号遺構P 2 完掘（北東から）



6. 41号遺構P 2 土層断面（北東から）



7. 41号遺構P 3 土層断面（北から）



8. 41号遺構掘り方（東から）



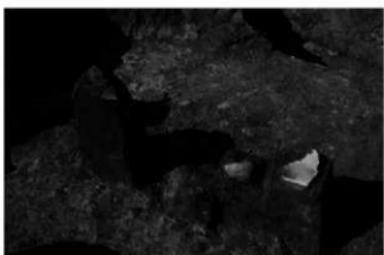
1. 46号遺構完掘（南から）



2. 46号遺構土層断面（南東から）



3. 46号遺構遺物出土状況（東から）



4. 46号遺構遺物出土状況（南から）



5. 46号遺構掘り方（南から）



1. 40号遺構完掘（西から）



2. 40号遺構土層断面（西から）



3. 40号遺構遺物出土状況（西から）



4. 40号遺構遺物出土状況（南東から）



5. 40号遺構遺物出土状況（東から）



1. 26号(右)・27号(左)遺構完掘(南西から)



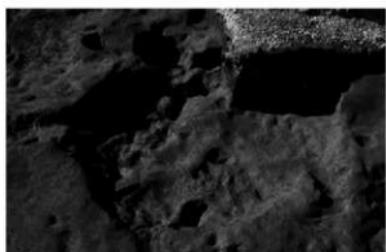
2. 26号(奥)・27号(手前)遺構土層断面(北西から)



3. 28号遺構完掘(北から)



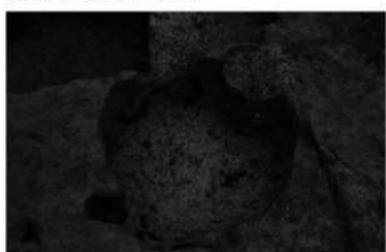
4. 28号遺構土層断面(北から)



5. 29号遺構完掘(東から)



6. 29号遺構土層断面(東から)



7. 38号遺構完掘(東から)



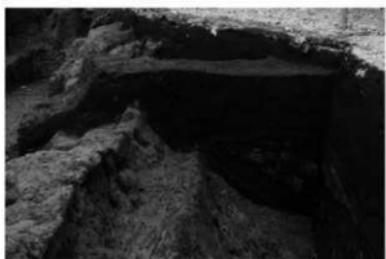
8. 38号遺構土層断面(東から)



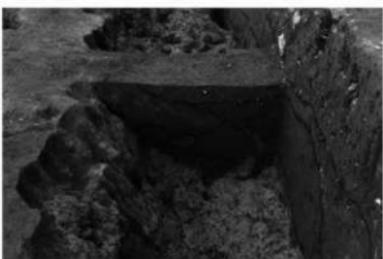
1. 1号遺構完掘（調査区北側）（南から）



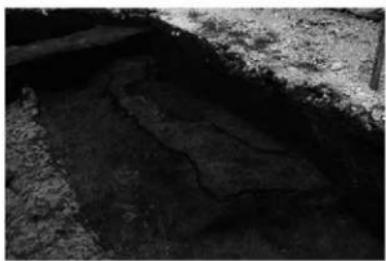
2. 1号遺構完掘（調査区北側）（北から）



3. 1号遺構土層断面A - A'（調査区北側）（南から）



4. 1号遺構土層断面C - C'（調査区北側）（南から）



5. 1号遺構硬化面検出状況（調査区北側）（南西から）



6. 1号遺構遺物出土状況（南から）



1. 1号遺構完掘（調査区南側）（北から）



2. 1号遺構完掘（調査区南側）（南から）



3. 1号遺構完掘 部分（調査区南側）（南から）



4. 1号遺構土層断面E-E'（調査区南側）（南から）



5. 1号遺構土層断面F-F'（調査区南側）（南から）



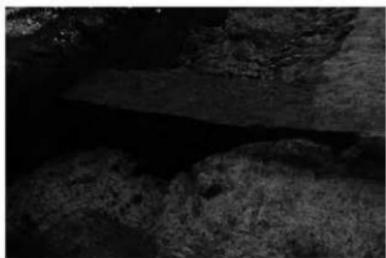
1. 37号遺構完掘（北東から）



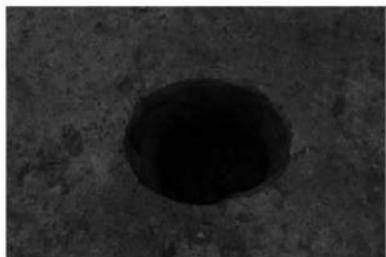
2. 37号遺構完掘（東から）



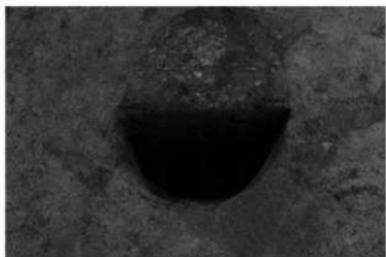
3. 37号遺構土層断面A-A'（東から）



4. 37号遺構土層断面B-B'（西から）



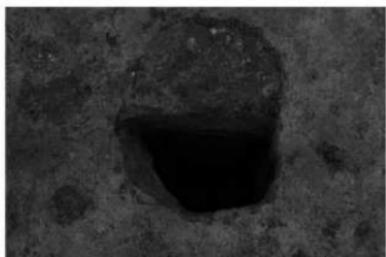
1. 53号遺構完掘（東から）



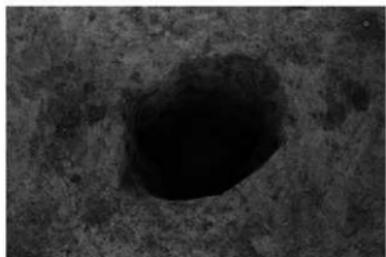
2. 53号遺構土層断面（南から）



3. 54号遺構完掘（東から）



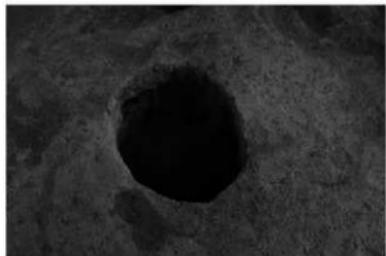
4. 54号遺構土層断面（東から）



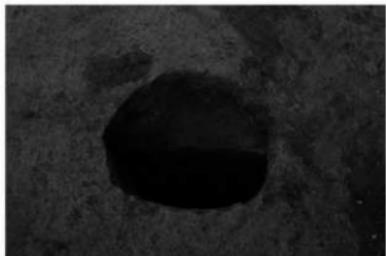
5. 22号遺構完掘（南から）



6. 22号遺構土層断面（南から）



7. 23号遺構完掘（西から）



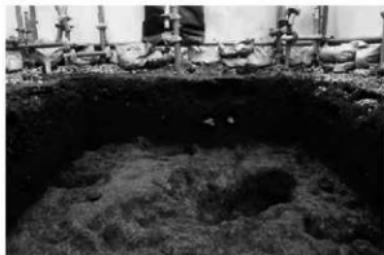
8. 23号遺構土層断面（南から）



1. 調査区南側全景 2号遺構完掘（北から）



2. 調査区北側全景（南から）



1. 南壁土層断面C（北から）



2. 西壁土層断面D（南側）(北東から)



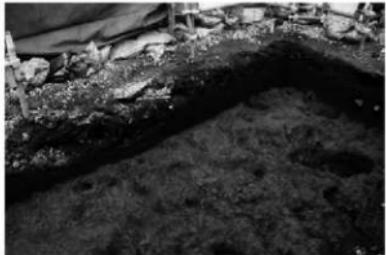
3. 1号・2号土層断面A-A'（南から）



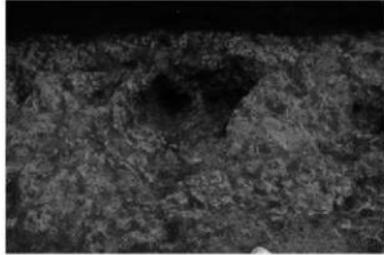
4. 2号・3号土層断面C-C'（南から）



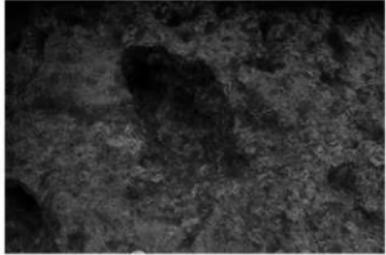
5. 4号土層断面D-D'（南から）



6. 1号遺構完掘（北西から）



7. 3号遺構完掘（東から）



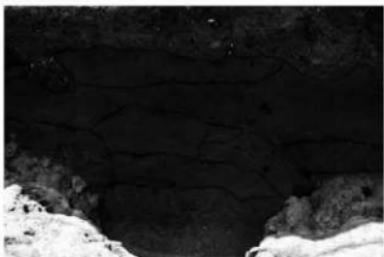
8. 4号遺構完掘（北東から）



1. 調査区完掘全景（北から）



2. 東壁土層断面A（西から）



3. 南壁土層断面B（北から）



4. 1号遺構土層断面A - A'（東から）



5. 1号遺構土層断面B - B'（南から）



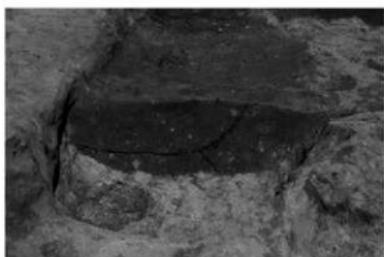
1. 1号遺構完掘（北から）



2. 2号遺構土層断面（南から）



3. 2号遺構完掘（西から）



4. 3号遺構土層断面（西から）



5. 3号遺構完掘（西から）



1. 31-15・16 区調査区北側全景（南から）



2. 31-15・16 区調査区南側全景（南から）



1. 31-17 区全景（北から）



2. 北壁土層断面A（南から）



3. 東壁土層断面B（西から）



4. 西壁土層断面F北側（東から）



5. 東壁土層断面D（西から）



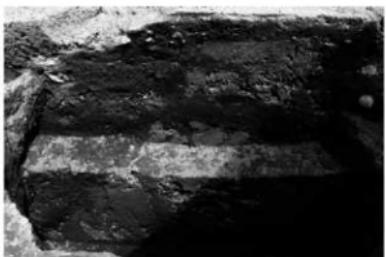
1. 西壁土層断面F南側（東から）



2. 南壁土層断面E（北から）



3. 1号造構土層断面（西から）



4. 1号造構土層断面②（西から）



5. 1号完掘全景（北西から）

图版 98

富士塚地区 4号遗構

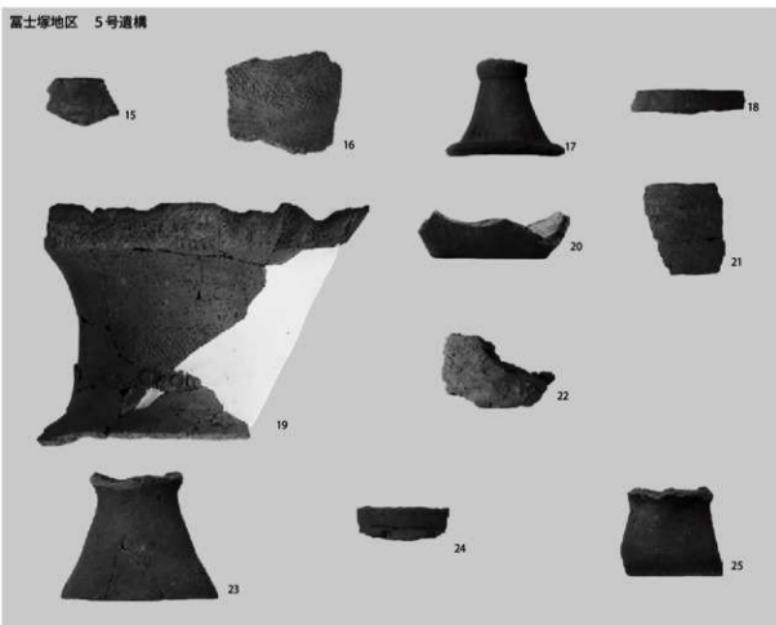


富士塚地区 9号遗構

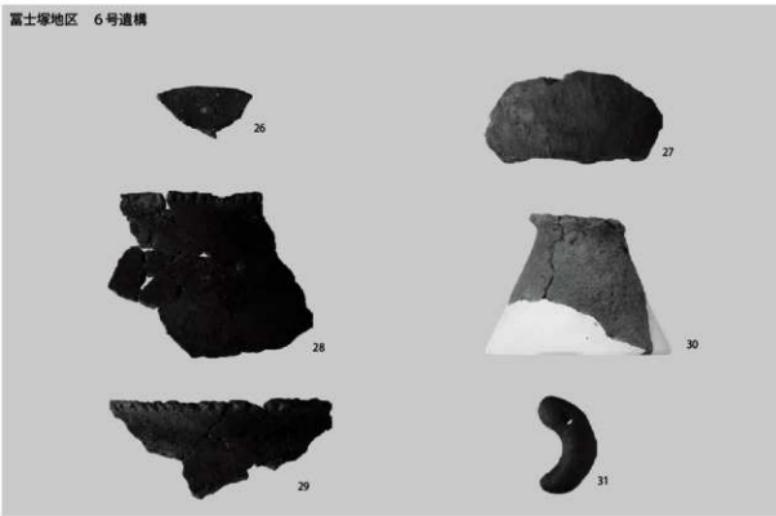


図版 99

富士塚地区 5号遺構

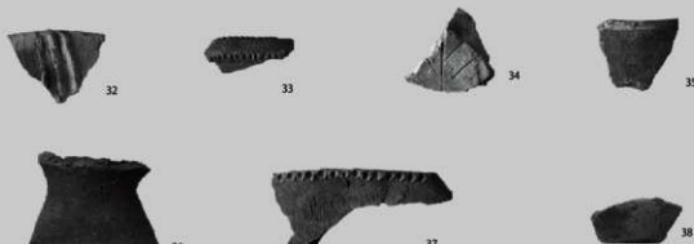


富士塚地区 6号遺構



図版 100

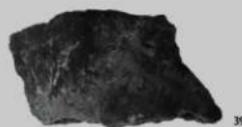
富士塚地区 7号遺構



富士塚地区 3号遺構

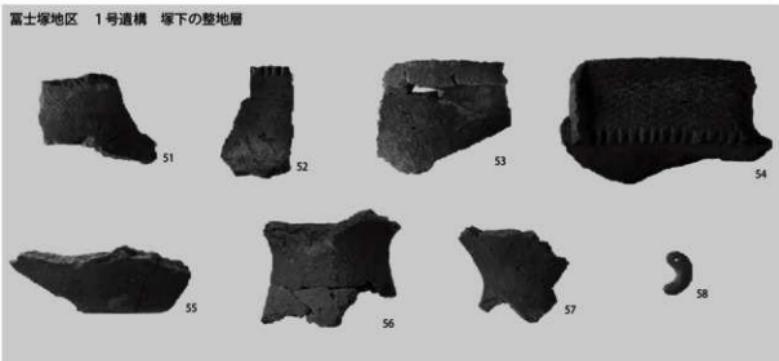


富士塚地区 8号遺構

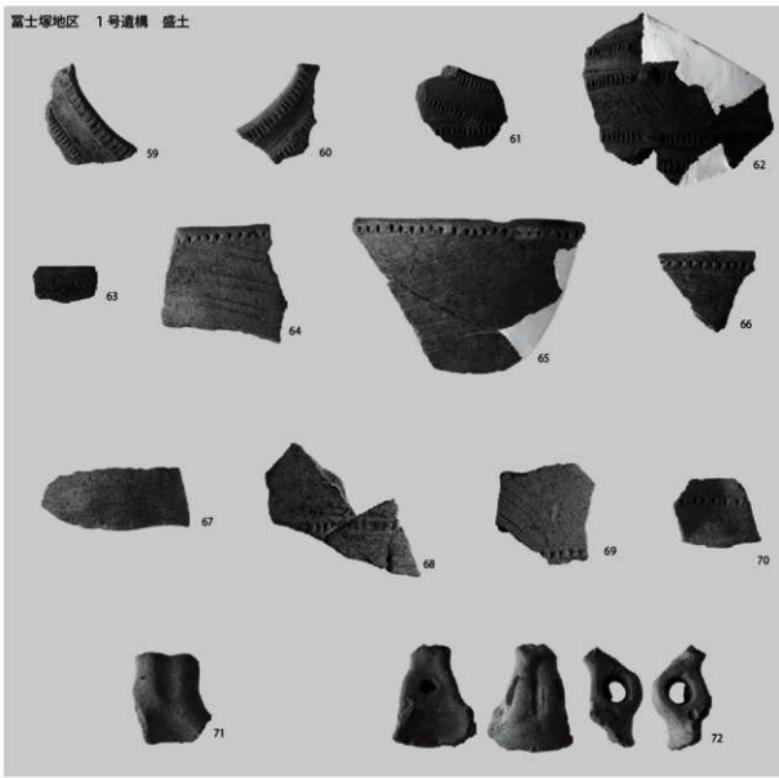


図版 101

富士塚地区 1号遺構 塚下の整地層

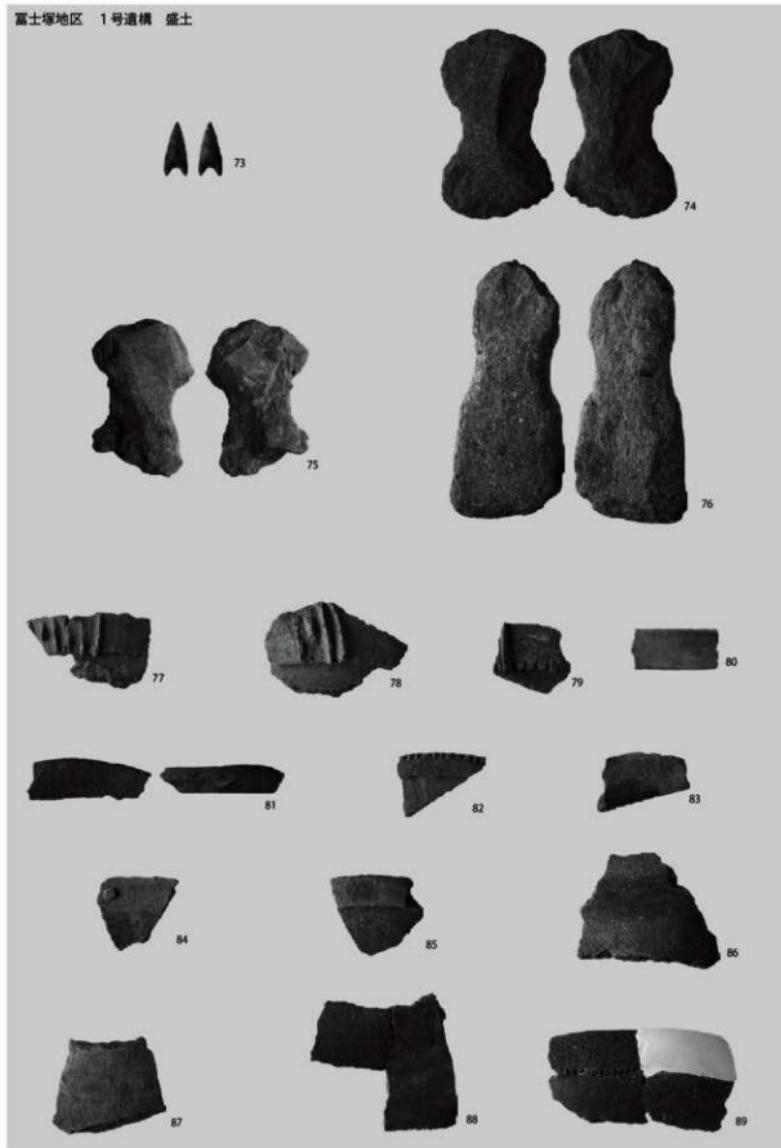


富士塚地区 1号遺構 盛土



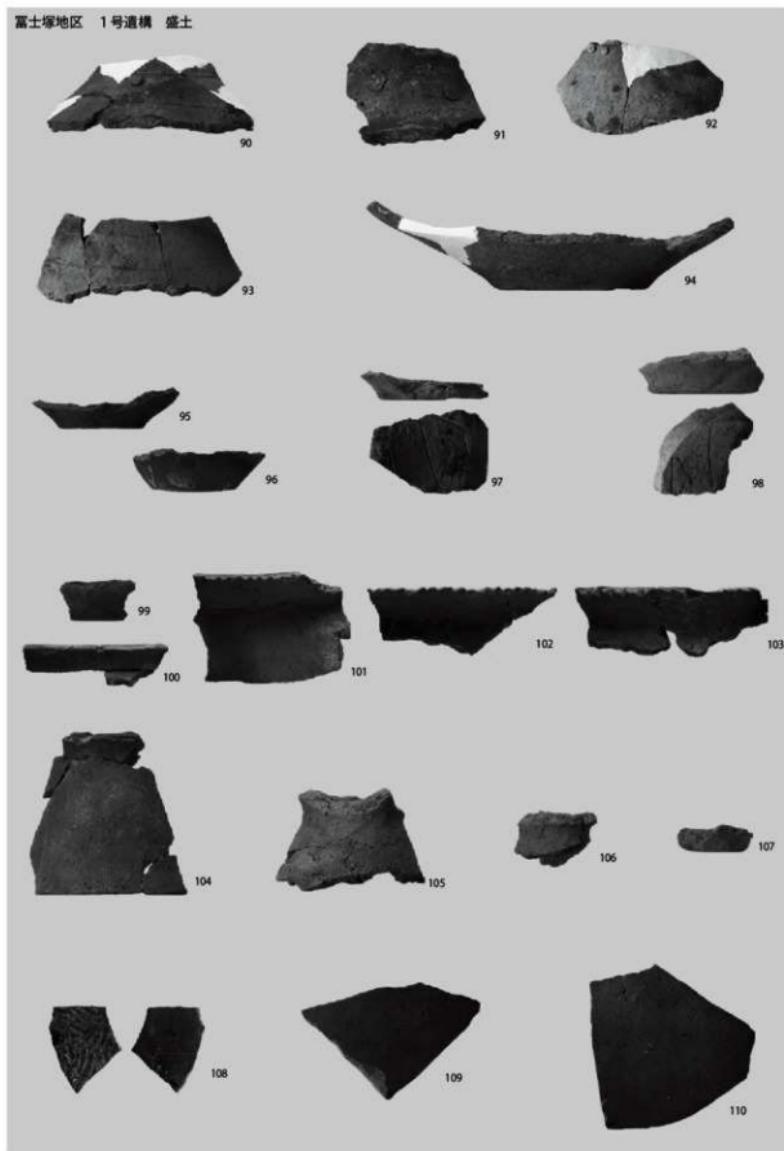
図版 102

富士塚地区 1号遺構 盛土



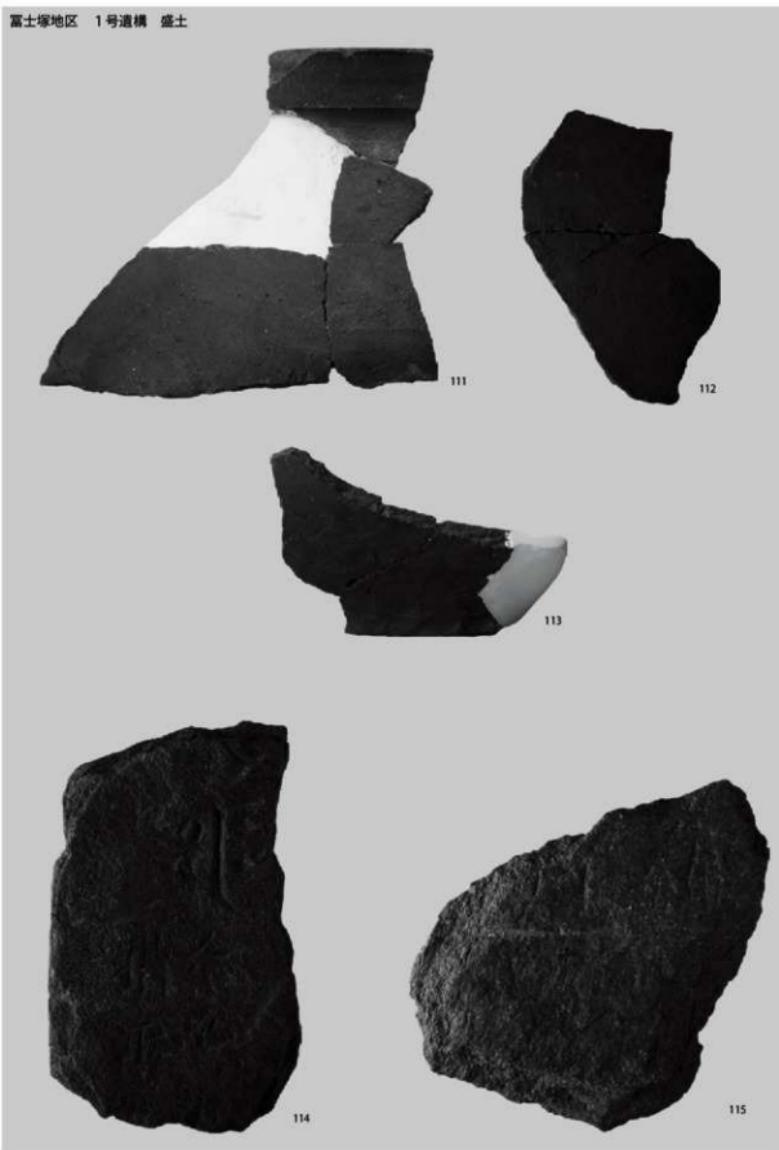
図版 103

富士塚地区 1号遺構 盛土



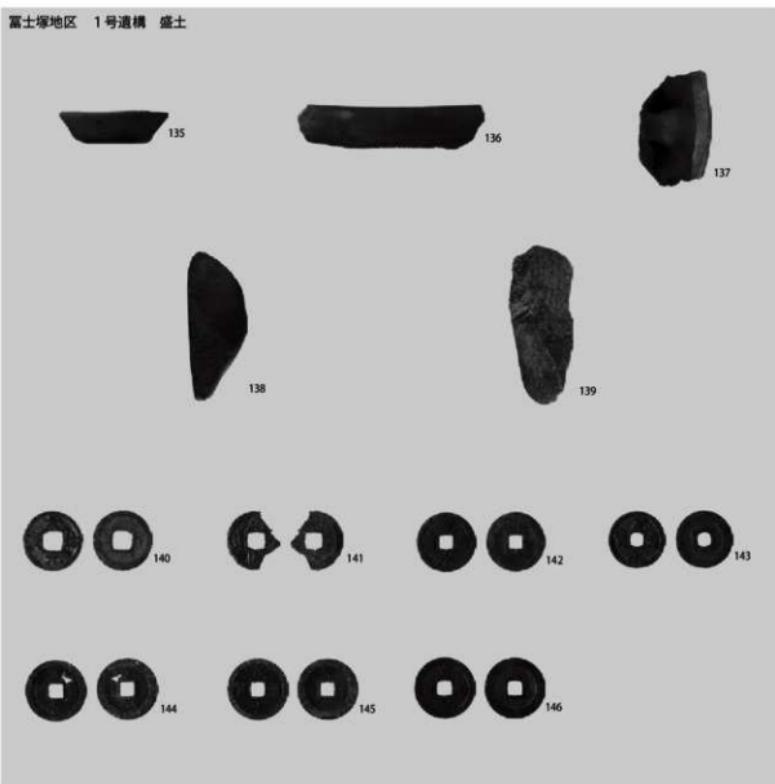
図版 104

富士塚地区 1号遺構 盛土



図版 105

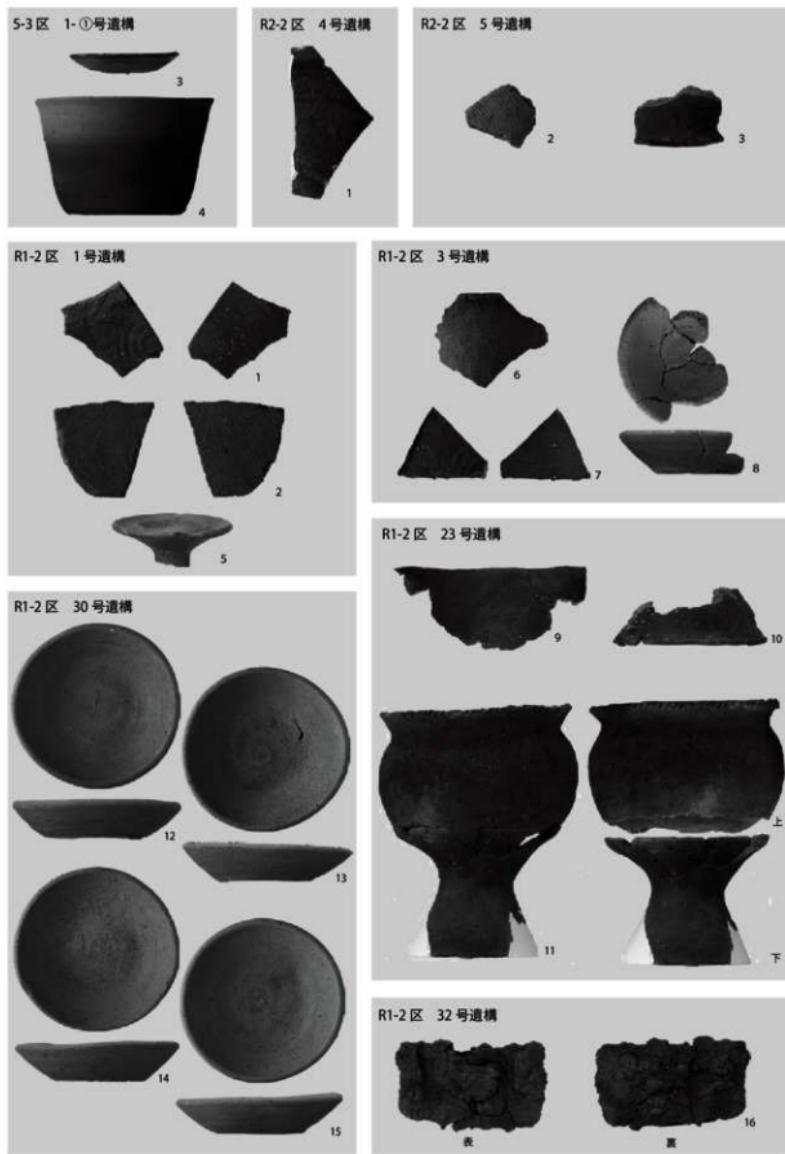
富士塚地区 1号遺構 盛土



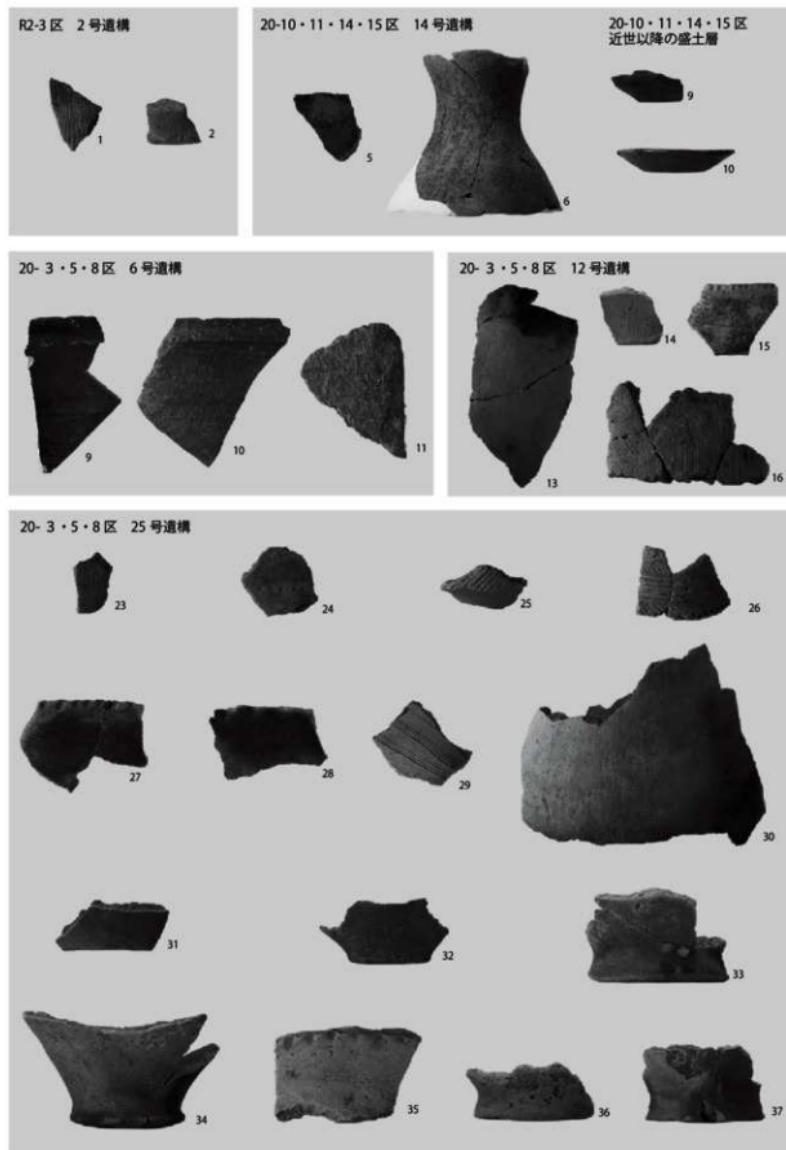
富士塚地区 1号遺構 近現代の盛土



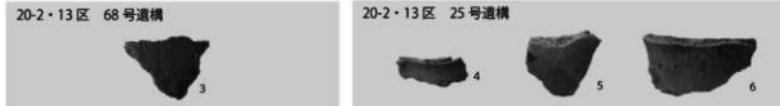
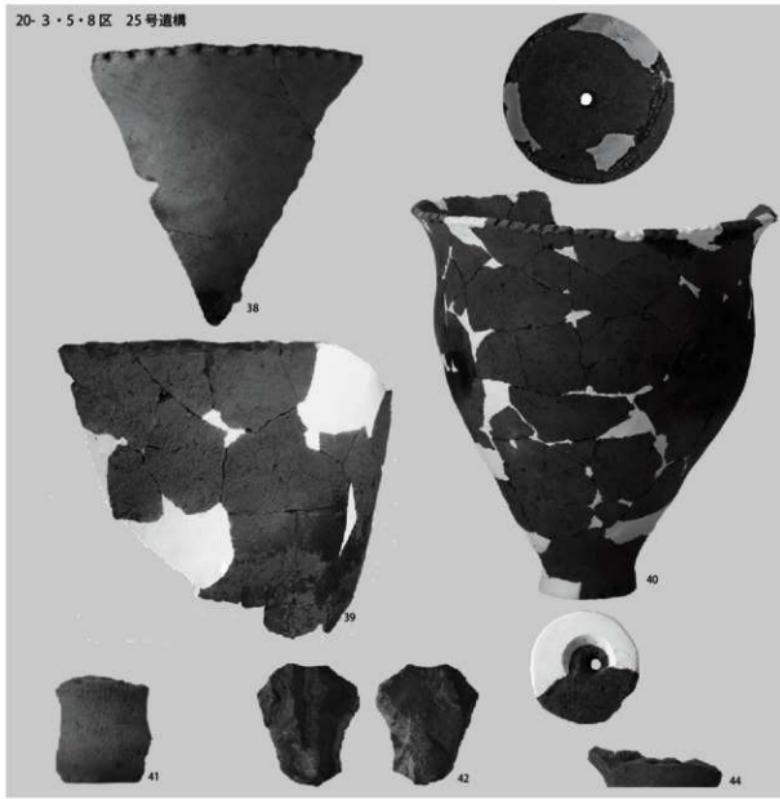
図版 106



図版 107



図版 108



図版 109



図版 110

31-15・16・17 区 1号遺構



報告書抄録

ふりがな	じゅうじょうだいいせきぐん3						
書名	十条台遺跡群Ⅲ						
副書名	十条地区沿道一体整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査						
シリーズ名	東京都埋蔵文化財センター調査報告						
シリーズ番号	第373集						
編著者名	武内 啓、加藤秀之、三谷智広（パレオ・ラボ AMS 研究グループ）、植月 学、櫻庭隆史						
編集機関	公益財団法人東京都スポーツ文化事業団 東京都埋蔵文化財センター						
所在地	〒206-0033 東京都多摩市落合一丁目14番2 TEL 042-374-8044						
発行年月日	西暦 2023年3月31日						
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
じゅうじょうだいのりせきぐん 十条台遺跡群	とうきょうとうときくなかじゅうじょう 東京都北区中十条 に・さんちゅうじょう 二・三丁目	北区 13117 No.19・ No.20	35°45'39"	139°43'40"	2018.04.01 ～ 2022.02.18	4.016.96m ²	十条地区沿道 一体整備事業
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
十条台遺跡群 富士塚古墳	集落	縄文時代	土坑3基、ピット2基	土器、石器			
	集落	縄文時代 以降	ピット2基				
	集落	弥生時代	竪穴住居跡11軒、 竪穴状遺構2基、溝5 条、ピット2基	弥生土器、土製品			
	集落	弥生から 古代	溝1条				
	集落	古墳時代 以降	土坑1基				
	集落	古墳から 中世	土坑1基、溝跡1条				
	集落	中世	道路遺構6条、 溝跡3条	須恵器、陶器、土器、板磚、銭貨	鎌倉街道の検出		
	古墳	中世以降	塚1基	縄文土器、弥生土器、板磚、中世の陶器、 馬骨、近世の陶磁器・土器、近代の陶磁器	中世以降に築造された塚を 近世以降に複数回改修した。		
	道路開達	近世	土坑48基、溝20条、 柱穴78基、ピット 46基、井戸3基	陶磁器、土器、土製品、瓦、金属製品	日光御成街道		
	道路開達	近世以降	土坑2基、溝2条、ピッ ト32基、耕作面2面				
要約	本報告書は1期区間の内、既刊の『十条台遺跡群Ⅰ・Ⅱ』で未掲載の調査区と、平成30年度から令和2年度に実施されたⅡ期区間の調査区および、十条富士塚地区の報告にあたる。縄文時代：竪穴土坑が検出された。弥生時代：中期の溝状遺構1基、後期の竪穴住居跡が11軒検出された。中世：道路遺構が6条検出され、Ⅱ期区間内では鎌倉街道中ツ道が、現在の都道と並行して南北に延びていることが確認された。中世から近世：十条富士塚の調査を行った。塚の盛土構造が、築造段階、近世の十条富士塚への改修、近代以降の改修の大きく3つの段階に分かれることが、盛土断面の堆積状況や出土遺物から判明した。また、当初の塚はこれまで考えられていた古墳ではなく、中世以降に築造された塚であることが分かった。築造時の盛土整地層上から検出された馬骨の科学分析から、築造は中世以降と考えられる。近世：日光御成街道の側溝の延長をⅡ期区間の北側まで検出・確認した。						

印刷仕様		
表紙	レザック	215kg (四六判)
見返し	上質紙	135kg (四六判)
本文	上質紙	70kg (四六判)
写真図版	コート紙	90kg (四六判)
印刷方式	オフセット印刷	
使用インク		
製版線数	150 線 (カラー 175 線)	
本書は永久保存を考慮し、すべて中性紙を使用		

北区

十条台遺跡群Ⅲ

－十条地区沿道一体整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査－

東京都埋蔵文化財センター調査報告 第373集

2023年3月31日 発行

編集・発行 公益財団法人東京都スポーツ文化事業団
東京都埋蔵文化財センター

東京都多摩市落合一丁目14番2

TEL 042 - 374 - 8044

印刷 株式会社 外為印刷
東京都台東区浅草2-28-31